

習近平

国政運営を語る


ISBN 978-7-119-09062-7
9 787119 090627 >

習近平

国政運営を語る

外文出版社

2014年初版発行

ISBN 978-7-119-09062-7

外文出版社有限責任公司出版
中国北京百万荘大街24号
〒100037
http://www.flp.com.cn
中国国際図書貿易総公司発行
中国北京車公荘西路35号
〒100044
北京P.O.Box399
中華人民共和国にて印刷

图书在版编目 (CIP) 数据

习近平谈治国理政 : 日文 / 习近平著 ; 日文翻译组译.
-- 北京 : 外文出版社, 2014

ISBN 978-7-119-09062-7

I. ①习… II. ①习… ②日… III. ①习近平－讲话
－学习参考资料－日文②中国特色社会主义－社会主义
建设模式－学习参考资料－日文 IV. ①D2-0②D616

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2014) 第 209088 号

习近平谈治国理政

外文出版社有限责任公司出版发行
（中国北京百万庄大街 24 号）
邮政编码：100037
http://www.flp.com.cn
鸿博昊天科技有限公司印刷
2014 年 10 月（小 16 开）第 1 版
2014 年 10 月第 1 版第 1 次印刷
（日文）
ISBN 978-7-119-09062-7
08000（平）

出版にあたって

中国共産党第十八回全国代表大会以来、習近平氏を総書記とする新しい中央指導グループは、全党と全国各民族人民を率いて積極的に前進途上の困難と挑戦に対処し、揺るぎなく改革開放を深化させ、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を大いに推進し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するための強大な力を結集し、中国の改革開放と現代化建設の道のりにおいて新しいスタートを切った。中国共産党の指導のもと、中国人民は中国の特色ある社会主義のさらに洋々たる未来を切り開くために全力を尽くしている。国際社会はますます中国に注目し、中国に焦点を当てつつある。現在の中国はこれからどう変化するのか。発展する中国は世界にいかなる影響を与えるのか。これらの問題に国際社会はますます広く関心を寄せるようになった。

習近平氏は中国共産党と国家の最高指導者として、国政運営について大量の談話を発表し、多くの新しい思想、観点、論断を提起し、新しい歴史的条件の下で党と国家が発展する上での重要な理論的、現実的問題について本質に触れた答えを出し、新しい中央指導グループの国政運営の理念と執政の方策を集中的に示した。国際社会の関心に応え、中国の発展理念、発展路線、対内・対外政策に対する国際社会の認識と理解をさらに深めてもらうため、中国国務院新聞弁公室は中国共産党中央文献研究室、中国外文出版発行事業局と共同で本書『習近平　国政運営を語る』を編纂することにした。

本書には、二〇一二年十一月十五日から二〇一四年六月十三日にかけての習近平氏の演説、スピーチ、談話、講演、インタビューへの回答、指示、祝賀メッセージなど七十九編の重要な内容が収められている。

国際社会の現代中国問題に対する主要注目点に応じて、本書は十八のテーマに分かれ、各テーマの中身はそれぞれ時系列で配列されている。読者の読解を助け、中国の社会制度や歴史文化に対する理解をいっそう深めていただくように、本書は各文章の末尾に必要な注釈を付した。

なお、習近平氏の仕事ぶり、生活ぶりを読者の方々により知っていただくため、本書には各時期、特に第十八回党大会以来の習近平氏の写真四十五枚を収録した。

本書編纂グループ

二〇一四年六月

目次

第一章　中国の特色ある社会主義の堅持と発展

人民の幸せな生活へのあこがれこそわれわれの奮闘目標である（二〇一二年十一月十五日）……3
中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて
　第十八回党大会の精神を学習・宣伝・貫徹しよう（二〇一二年十一月十七日）……6
中国の特色ある社会主義を揺るぎなく堅持・発展させよう（二〇一三年一月五日）……22
毛沢東思想の生きた魂を堅持し活用しよう（二〇一三年十二月二十六日）……26

第二章　中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢

中華民族の偉大な復興の実現（二〇一二年十一月二十九日）……35
第十二期全国人民代表大会第一回会議における演説（二〇一三年三月十七日）……38
着実に実践してこそ夢が実現できる（二〇一三年四月二十八日）……45
中国の夢の実現を目指す生き生きとした実践の中で青春の夢を羽ばたかせよう（二〇一三年五月四日）……51
中国の夢の実現は中国人民に幸福をもたらすだけでなく世界の人々にも幸福をもたらすものである
　（二〇一三年五月）……60

創造・革新は時宜にかなない夢の実現を図ることも時流にかなうものである（二〇一三年十月二十一日）……62
中華民族の偉大な復興の実現は国内外の中国人の共通の夢である（二〇一四年六月六日）……68

第三章　改革の全面的深化

改革開放には進行形があるのみでこれで終わりということはない（二〇一二年十二月三十一日）……73
『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定』についての説明（二〇一三年十一月九日）……76
思想を適切に党の第十八期中央委員会第三回全体会議の精神に統一する（二〇一三年十一月十二日）……99
改革はどれだけ難しくても前進しなければならない（二〇一四年二月七日）……110
中国の特色ある社会主義制度を運用して国を効果的に統治する能力を絶えず向上させよう（二〇一四年二月十七日）……114

第四章　経済の持続的で健全な発展を促進する

経済成長は水増しのない確実な成長でなければならない（二〇一二年十一月三十日）……121
開放型経済のグレードアップ（二〇一三年四月八日）……123
「見えざる手」と「見える手」のどちらも適切に運用すべきである（二〇一四年五月二十六日）……126

生産要素や投資規模による発展からイノベーションを推進力とする発展への転換を加速する（二〇一四年六月九日）…… 130
わが国のエネルギー生産・消費革命を積極的に推進しよう（二〇一四年六月十三日）…… 143

第五章　法によって国を治める

首都各界による現行憲法公布施行三十周年記念大会におけるスピーチ（二〇一二年十二月四日）…… 149
法治国家、法治政府、法治社会の一体化建設を堅持しよう（二〇一三年二月二十三日）…… 159
社会の公平と正義を促進し人々が安らかに暮らせ生業に励めるよう保障する（二〇一四年一月七日）…… 162

第六章　社会主義文化強国の建設

宣伝思想工作をよりよく行う（二〇一三年八月十九日）…… 169
中国の夢の実現に向けて大きな精神的力としっかりしたモラルの基盤を築き上げる（二〇一三年九月二十六日）…… 174
国の文化的ソフトパワーを向上させる（二〇一三年十二月三十日）…… 176
社会主義の中核的価値観の育成と発揚（二〇一四年二月二十四日）…… 179
青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである（二〇一四年五月四日）…… 183
早期から社会主義の中核的価値観を育成し実践（二〇一四年五月三十日）…… 199

第七章　社会事業と社会管理の改革発展

貧困地区における貧困脱却・富裕化を推し進め発展を加速させる（二〇一二年十二月二十九日、三十日）……209
十三億の人民に、よりよいより公平な教育を（二〇一三年九月二十五日）……211
住宅保障・供給システムの整備を加速する（二〇一三年十月二十九日）……212
常に人民大衆の生命の安全を第一に置く（二〇一三年十一月二十四日）……216
中国をネット強国にするよう努めねばならない（二〇一四年二月二十七日）……219
総体的国家安全観を堅持し中国の特色ある国家安全の道を歩もう（二〇一四年四月十五日）……223
国家の安全と社会の安定を着実に維持する（二〇一四年四月二十五日）……225

第八章　エコ文明の建設

美しい中国を建設するためにより良好な生態環境をつくり上げよう（二〇一三年四月二日）……231
社会主義のエコ文明新時代に向かって進むよう努める（二〇一三年五月二十四日）……232
青空、緑の大地、清らかな水という生活環境を子孫に残すために（二〇一三年七月十八日）……235

第九章　国防と軍隊の現代化推進

国防と軍隊の建設を絶えず前へと推し進めよう（二〇一二年十一月十六日）……239

強固な国防と強力な軍隊の建設に努めよう（二〇一二年十二月八日、十日）……242
党の指揮に従い、戦闘に勝利できる、気風の優れた「人民の軍隊」を建設しよう（二〇一三年三月十一日）……245

第十章　「一国二制度」の実践を豊かにし、祖国の統一を推進

香港、澳門と祖国大陸部の運命は終始密接につながっている（二〇一二年十二月二十日、二〇一三年十二月十八日）……249
共に中華民族の美しい未来を切り開く（二〇一三年四月八日、十月六日）……254
中華民族の全般的な利益という次元から両岸関係の大局をつかむ（二〇一三年六日十三日）……258
中華民族の偉大な復興という中国の夢を共に実現する（二〇一四年二月十八日）……261
両岸関係の前途開拓と民族の偉大な復興の実現という重任を担う（二〇一四年五月七日）……268

第十一章　平和的発展の道を歩む

国内と国際という二つの大局をよりよく統一的に企画し平和的発展の道を歩む土台を突き固める（二〇一三年一月二十八日）……273
心を合わせて協力しウインウインの新しい道を歩もう（二〇一三年六月十九日、二〇一四年五月十九日）……276
理性と協調を同時進行させる核の安全保障観を堅持（二〇一四年三月二十四日）……279

文明は相互交流によって多彩になり相互参照によって豊かになる（二〇一四年三月二十七日）…… 285
平和的発展の道を歩むことは中国人民自らの発展目標の実現に対する自信と自覚の表れ（二〇一四年三月二十八日）…… 292

第十二章　新型大国関係構築を推進

時代の流れに乗り、世界の平和と発展を促進しよう（二〇一三年三月二十三日）…… 299
中米両国の新型大国関係を構築しよう（二〇一三年六月七日）…… 308
ユーラシア大陸に友好と協力の橋を架けよう（二〇一四年四月一日）…… 311

第十三章　周辺諸国との外交関係を上手に進める

共に「シルクロード経済ベルト」を建設しよう（二〇一三年九月七日）…… 317
共に「二十一世紀海上シルクロード」を建設しよう（二〇一三年十月三日）…… 322
親密、誠実、恩恵、包容の周辺外交の理念を堅持する（二〇一三年十月二十四日）…… 327

第十四章　発展途上国との団結・協力を強化

いつまでも信頼できる友人、誠実なパートナーであり続ける（二〇一三年三月二十五日）…… 335
中国・ラテンアメリカ関係を推し進めさらに大きな発展を実現する（二〇一三年六月五日）…… 345

シルクロード精神を発揚し中国・アラブ諸国の協力を深化する（二〇一四年六月五日）……347

第十五章　多国間協力に積極的に参加

連携・協力して共に発展しよう（二〇一三年三月二十七日）……359
アジアと世界の素晴らしい未来を共に切り開こう（二〇一三年四月七日）……364
開放型世界経済を共に擁護、発展させよう（二〇一三年九月五日）……372
「上海精神」を発揚し、共同発展を促進しよう（二〇一三年九月十三日）……377
改革開放を深化し共に素晴らしいアジア太平洋地域をつくろう（二〇一三年十月七日）……381
アジア安全観を積極的に樹立し安全協力の新局面を共に創出しよう（二〇一四年五月二十一日）……393

第十六章　党と人民大衆の結び付きを密接にする

節約を励行し、浪費に反対する（二〇一三年一月十七日、二月二十二日）……403
大衆路線は党の生命線であり、根本的な活動路線である（二〇一三年六月十八日）……405
党の大衆路線教育実践活動の指導思想と目標・要請を正確に把握する（二〇一三年六月十八日）……414
「三厳三実」の作風を樹立・発揚しよう（二〇一四年三月九日）……424

第十七章　腐敗反対・廉潔提唱の推進

権力を制度のオリに閉じ込める（二〇一三年一月二十二日）……429
歴史の知恵を生かし腐敗反対・廉潔提唱の建設を推進する（二〇一三年四月十九日）……435
党風廉政建設と反腐敗闘争を深く推し進める（二〇一四年一月十四日）……439

第十八章　党の指導レベルを向上させる

素晴らしい青写真は釘を打ちこむように徹底的に（二〇一三年二月二十八日）……447
学習をよりどころに未来へ向かおう（二〇一三年三月一日）……450
「大国を治むるは小鮮を烹るが若くす」（二〇一三年三月十九日）……459
党と人民が必要とする優れた幹部の養成・選抜に力を入れよう（二〇一三年六月二十八日）……462

付　録

「人民大衆はわれわれの力の源泉である」
——習近平中国共産党総書記……477

索　引……507

第一章

中国の特色ある社会主義の堅持と発展

人民の幸せな生活へのあこがれこそわれわれの奮闘目標である

（二〇一二年十一月十五日）

第十八期中央政治局常務委員の内外記者会見での談話の主要部分

記者の皆さんは中国共産党第十八回全国代表大会（以下、第十八回党大会と略す）について多くの報道を行い、「中国の声」を次々と世界に伝えて下さった。大会事務局にかわって心からの感謝を表したい。

さきほど中国共産党第十八期中央委員会第一回全体会議（以下、一中全会と略す）が行われ、新しい中央指導機関が選出され、私が中央委員会総書記に選ばれた。新しい中央指導機関のメンバーを代表し、全党の同志の信頼に感謝し、必ずこの重い負託に応え、使命を全うする。

全党の同志の重い負託、全国各民族人民の期待はわれわれの仕事に対する大きな励ましであり、肩にかかる重要な責任でもある。

この重要な責任は民族に対する責任である。中華民族は偉大な民族である。五千年以上にわたる文明の発展史の中で、中華民族は人類文明の進歩のために不滅の貢献をしてきた。近代以後、わが民族は度重なる苦難をなめ尽くす中で、中華民族の最大の危機を迎えることになった。その時から、中華民族の偉大な復興の実現のために数え知れぬ愛国の志士が奮然と立ち上がって闘いつづけたが、一回また一回と失敗を喫した。中国共産

党は成立後、人民を団結させ、導いて、先人のしかばねを乗り越えて突き進み、粘り強く奮闘して、貧しく立ち遅れた旧中国を日増しに富み栄え強くなる新中国に変貌させた。そのため、中華民族の偉大な復興には以前にはなかった明るい展望が開かれている。われわれが負うべき責任とは、全党・全国各民族人民を団結させ、導いて、歴史のバトンを受け継いで中華民族の偉大な復興の実現に向けて引き続き奮闘努力し、中華民族が世界の諸民族の中でいっそう確固として自立できるようにし、人類のために新たな、より大きな貢献をすることにほかならない。

この大きな責任は、人民に対する責任である。わが人民は偉大な人民である。歴史の長い流れの中で、中国人民は自らの勤勉さ・勇敢さ・英知をもって、諸民族がむつまじく共存する美しい故郷をつくり出し、輝きを増し続けてやまない優れた文化を育んできた。生活を心から大事にするわが人民は、よりよい教育やより安定した雇用、より満足できる所得、より頼りになる社会保障、より高いレベルの医療衛生サービス、よりよい居住条件、より美しい環境に恵まれることを望み、子供たちがいっそうすくすくと育ち、よりよい仕事とよりよい生活を手にすることを望んでいる。こうした人民の幸せな生活へのあこがれこそわれわれの奮闘目標なのである。世の中のすべての幸福は勤勉によって築かれるものである。われわれが負うべき責任は全党・全国各民族人民を団結させ、導いて、引き続き思想を解放し、改革開放を堅持し、社会の生産力を絶えず解放し、発展させ、大衆の仕事と生活の困難の解決に努力し、「共同富裕」の道を揺るぎなく歩むことにほかならない。

この大きな責任は、党に対する責任である。わが党は誠心誠意人民に奉仕する政党である。党は人民を指導してすでに世界が嘱目する成果を収めた。われわれにはこれを誇らしく思う理由が完全にあるが、それに自己満足せず、決して過去の功績の上にあぐらをかくことはない。新たな情勢の下で、わが党は多くの厳しい挑戦に直面しており、党内には早急な解決が待たれる多くの問題が存在している。特に一部の党員幹部の中にある

汚職・腐敗、大衆からの遊離、形式主義、官僚主義などの問題は、必ずや気力をふりしぼって解決しなければならない。全党は必ず警戒しなければならない。鉄を打つには自らが強くなければならない。われわれが負うべき責任は、全党の同志と共に、党が党を管理し、党を厳しく治めることを堅持し、また自らの際立った問題を確実に解決し、活動の姿勢を確実に改め、大衆と密接につながることによって、わが党が常に中国の特色ある社会主義事業の堅固な指導的核心でありつづけることにほかならない。

人民は歴史の創造者であり、大衆は真の英雄である。人民大衆はわれわれの力の源である。一人の力には限りがあるが、みなが心を一つにし固く結束しさえすればいかなる困難も乗り越えられるし、一人の働く時間には限りがあるが、誠心誠意人民に奉仕することには限りがないことをわれわれは深く意識している。責任は泰山より重く、事業は任重く道遠しである。われわれは必ず人民と心を一つにし、人民と苦楽を共にし、人民と団結奮闘し、日夜怠りなく、勤勉に働くことで、歴史と人民に対して合格点の答案を示さなければならない。

中国は世界をもっと理解する必要があり、世界も中国をもっと理解する必要がある。記者の皆さんに今後も引き続き中国と世界各国の相互理解のため、より多くの努力と貢献をしていただくことを願っている。

中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて第十八回党大会の精神を学習・宣伝・貫徹しよう

（二〇一二年十一月十七日）

第十八期中央政治局第一回グループ学習会における談話

第十八回党大会の報告は新たな歴史的条件の下で小康社会〔一〕を全面的に築き上げ、社会主義現代化のテンポを速め、中国の特色ある社会主義の新たな勝利を勝ち取る壮大な青写真を描き出した。これはわが党が全国各民族人民を団結させ、導いて、引き続き中国の特色ある社会主義の道に沿って前進し、小康（ややゆとりのある）社会を全面的に築き上げるために奮闘する政治宣言と行動の綱領であり、われわれ今期の中央指導グループの仕事の方向を示した。中央はすでに第十八回党大会の精神を真剣に学習し、宣伝し、貫徹する通知を発布した。各級の党委員会は通知の要請に基づいて、第十八回党大会の精神の学習、宣伝、貫徹を深化させなければならない。

第十八回党大会は、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、中国の特色ある社会主義は党と人民が九十年以上にわたって奮闘し、創造し、積み上げてきた根本的な成果であり、いっそう大切にし、常に堅持し、たゆまず発展させなければならない、と強調した。また、全党が中国の特色ある社会主義の法則をたゆまず模索し、

把握し、永遠に党の生命力、国の発展の原動力を保ち、中国の特色ある社会主義の洋々たる発展の前途を切り開いていかなければならない、と呼びかけた。中国の特色ある社会主義を堅持し、発展させることは第十八回党大会の報告を貫く基調だといえる。われわれはこの基調をしっかりとつかみ、中国の特色ある社会主義の堅持と発展を第十八回党大会の精神の学習と貫徹の焦点、重点、帰着点としなければならない。そうしてこそ、第十八回党大会の精神をより掘り下げて学習し、より透徹して理解し、より自覚的に貫徹することができる。

なぜ私がこの点を強調するかというと、党と国家の長期にわたる実践が十分に立証しているように、社会主義こそが中国を救うことができ、中国の特色ある社会主義こそが中国を発展させることができるからである。中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げてこそ、われわれは全党・全国各民族人民を団結させ、導いて、中国共産党創立百周年を迎えるまでに小康社会の全面的実現を、新中国成立百年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家の建設を成し遂げ、中国人民と中華民族のより幸福で麗しい未来を勝ち取ることができるのである。

中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて第十八回党大会の精神を学習し、宣伝し、貫徹する際、私は理論と実践のつながりの面で以下の点を把握すべきだと思う。

第一に、中国の特色ある社会主義は党と人民の長期にわたる実践による根本的な成果であるということを深く理解すること。中国の特色ある社会主義は改革開放の新しい歴史的時期に創出されたものであり、わが党の長期にわたる奮闘を土台として形成されたものでもあり、わが党の数世代の中央指導グループが全党・全国人民を団結させ、導き、さまざまな苦労を経て、代償を払い、代々受け継いで手に入れたものである。わが党はあくまでも人民に依拠し、中国人民と中華民族の前途と運命を根本から変え、不可逆的に近代以降の中国の内憂外患、貧困弱体の悲惨な運命に終止符を打った。そして不可逆的に中華民族が不断に強大になり、偉大な復

興に向かう歴史的進軍をスタートさせた。五千年余りの文明史を誇る中華民族はこれによって世界の諸民族間に新たな姿でそびえ立つことになった。

われわれは党の三世代の中央指導グループと胡錦濤〔三〕同志を総書記とする党中央が中国の特色ある社会主義に対して果たした歴史的貢献を永遠に銘記しなければならない。毛沢東〔四〕同志を核心とする党の第一世代中央指導グループは、新しい歴史的時期における中国の特色ある社会主義創出のために貴重な経験、理論的準備、物的基盤をつくり出した。鄧小平〔五〕同志を核心とする党の第二世代中央指導グループは中国の特色ある社会主義を切り開くことに成功した。江沢民〔六〕同志を核心とする党の第三世代中央指導グループは中国の特色ある社会主義を二十一世紀へ向かわせることに成功した。新世紀の新たな段階では、胡錦濤同志を総書記とする党中央は新たな歴史的起点において中国の特色ある社会主義を堅持し、発展させることに成功した。以上から分かるように、中国の特色ある社会主義は何世代もの中国共産党員の理想と模索を背負い、無数の愛国の志士の願いと期待が寄せられ、億万の人民の奮闘と犠牲が凝縮されている。また、それは近代以降の中国社会が発展するための必然的な選択であり、中国を発展させ、安定させるために必ず通らなければならない道であった。

実践が十分に立証しているように、中国の特色ある社会主義は中国共産党と中国人民の団結・邁進・勝利の旗印である。小康社会を全面的に築き上げ、社会主義現代化のテンポを速め、中華民族の偉大な復興を実現するには、われわれは終始中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、揺るぐことなく中国の特色ある社会主義を堅持し、発展させていかなければならない。第十八回党大会が全党に中国の特色ある社会主義の道、理論、制度への自信を固めることを要求した根本的な理由はここにある。

第二に、中国の特色ある社会主義は、道、理論体系、制度の三位一体で成り立っていることを深く理解すること。第十八回党大会は中国の特色ある社会主義の道、中国の特色ある社会主義の理論体系、中国の特色ある

社会主義制度の科学的内包と相互関係を明らかにした。また、中国の特色ある社会主義の道は実現の道筋であり、中国の特色ある社会主義の理論体系は行動指針であり、中国の特色ある社会主義制度は根本的保障であり、この三者が中国の特色ある社会主義の偉大な実践において統一されていることを強調した。これは中国の特色ある社会主義の最も鮮明な特色である。

以上の概括から分かるのは、中国の特色ある社会主義は実践、理論、制度が密接に結びついたものであり、成功した実践を理論化する一方、正しい理論で新たな実践を指導し、さらに実践の中で効果のある方針と政策を速やかに党と国家の制度とするということである。ゆえに、中国の特色ある社会主義はその道、理論体系、制度に特色があり、実現の道筋、行動指針、根本的保障の内在的結び付きに特色があり、この三者が中国の特色ある社会主義の偉大な実践において統一されていることに特色がある。現代の中国では、中国の特色ある社会主義を堅持し発展させることこそ社会主義を堅持することなのである。

中国の特色ある社会主義の道は、わが国の社会主義現代化を実現する上でも、人民の幸せな生活をつくり出す上でも、必ず通らなければならない道である。この道は、あくまで経済建設を中心とする一方で、経済建設・政治建設・文化建設・社会建設・エコ文明建設およびその他各方面の建設も全面的に推し進めていくものである。この道は、四つの基本原則〔七〕を堅持する一方で、改革開放をも堅持していくものである。この道は、社会的生産力を絶えず解放し発展させる一方で、全人民の「共同富裕」をも徐々に実現し、人間としての全面的な発展を促していくものである。

中国の特色ある社会主義の理論体系は、マルクス主義〔八〕の中国化の最新の成果である。その中の鄧小平理論〔九〕、「三つの代表」重要思想〔一〇〕、科学的発展観〔一一〕はマルクス・レーニン主義〔一二〕、毛沢東思想〔一三〕を堅持し、発展させ、受け継ぎ、刷新したものである。マルクス・レーニン主義、毛沢東思想は絶対に捨ててはな

らない。それでは根っこを失うことになる。同時に、われわれはわが国の改革開放と現代化建設の実際問題と現在取り組んでいる事柄を中心として、マルクス主義理論の活用、実際問題に対する理論的思考、新たな実践と新たな発展に着目しなければならない。現代の中国では、中国の特色ある社会主義の理論体系を堅持することはマルクス主義を堅持することなのである。

　中国の特色ある社会主義制度は、根本的な政治制度〔一四〕、基本的な政治制度〔一五〕を基本的な経済制度〔一六〕および各方面の体制・仕組みなど具体的な制度と有機的に結び付けることを堅持し、また国レベルの民主制度を末端の民主制度と有機的に結び付けることを堅持し、党の指導、人民の主人公としての地位、法による国家統治の有機的な統一を堅持する。これはわが国の国情に合致し、中国の特色ある社会主義の特徴や優位性を集中的に具現しており、中国の発展と進歩の根本的な制度的保障である。

　中国の特色ある社会主義制度は特色が鮮明で、効率も高いとはいえ、まだ決して完ぺきで、出来上がったものではないことを見て取らなければならない。中国の特色ある社会主義事業は絶えず発展し続けており、中国の特色ある社会主義の制度も絶えず改善していく必要がある。鄧小平同志は一九九二年に南方を視察した際の談話の中で、「今後三十年もあれば、われわれは各方面で一連のより成熟した、もっと形の整った制度をつくり上げることができるだろう」〔一七〕と指摘している。第十八回党大会は、制度の構築を際立った位置に据え、わが国の社会主義政治制度の優位性を十分に発揮しなければならないと強調した。われわれは実践を踏まえた理論の刷新によって制度の刷新を促すことを堅持し、既存の制度を堅持し、改善しなければならない。また実際から出発して、速やかに新たな制度を制定することで、システムの完備した、科学的かつ規範的で、効率的に運営される制度体系を構築しなければならない。それによって、各方面の制度はより成熟し、より形の整ったものとなり、中国の特色ある社会主義の新たな勝利を勝ち取るためにより効果的な制度上の保障を提供するこ

とができる。

第三に、中国の特色ある社会主義建設の総根拠、総配置、総任務を深く理解すること。第十八回党大会は、中国の特色ある社会主義建設の総根拠は社会主義初級段階〔一八〕、総配置は五位一体〔一九〕、総任務は社会主義現代化と中華民族の偉大な復興の実現であると強調している。この「三つの総」という概括は高所に立ち、要点を把握し、短い言葉で真意を伝えている。この新たな概括を深く理解し把握することは、われわれが中国の特色ある社会主義の真髄と意義を理解し把握するのに役立つ。

総根拠を強調するのは、社会主義初級段階が現代中国の最も基本的な国情であり、最大の現実だからである。われわれはいかなる状況でもこの最も基本的な国情をしっかりと把握し、いかなる面の改革・発展を推進するにあたってもこの最大の現実に立脚して行わなければならない。経済建設において常に初級段階に立脚するだけでなく、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設においても常に初級段階にあることを忘れてはならない。経済のスケールの小さい時期に初級段階に立脚するだけでなく、経済のスケールが大きくなっても初級段階にあることを忘れてはならない。長期的な発展を図る際に初級段階に立脚するだけでなく、日常の業務の中でも初級段階にあることを忘れてはならない。社会主義初級段階期における党の基本路線は党と国家の生命線である。われわれは実践の中で「一つの中心、二つの基本点」〔二〇〕を終始堅持して揺るがず、「一つの中心」と「二つの基本点」のいずれからも離れず、中国の特色ある社会主義の共通の理想と共産主義の遠大な理想を統一させる。また、社会主義を捨てるというさまざまな誤った主張に断固として抵抗し、段階を超越する誤った考え方と政策措置を自覚的に是正する。こうしてこそ、むやみに卑下することも思い上がってに自惚れることもなく、中国の特色ある社会主義の新たな勝利を着実に勝ち取ることができるのである。

総配置を強調するのは、中国の特色ある社会主義が全面的に発展する社会主義だからである。われわれは党

の執政と国の振興における第一の重要任務をしっかりと堅持し、あくまでも中国の先進的な生産力の発展要求を代表し、経済建設を中心とすることを堅持し、経済が成長していく上で、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設やその他各方面の建設を協調的に推進する。わが国の経済・社会の発展が深化するにつれ、エコ文明建設の地位と役割が浮き彫りになってきた。第十八回党大会がエコ文明の建設を中国の特色ある社会主義事業全体の配置に組み入れたことによって、エコ文明建設の戦略的地位がより明確になり、エコ文明建設が経済建設、政治建設、文化建設、社会建設の各方面や全過程と融合するのに役立った。これはわが党が社会主義建設の法則について実践と認識の上で絶えず深化させた重要な成果である。われわれはこの総配置に基づき、現代化建設の各方面の協調、生産関係と生産力、上部構造と経済的土台の協調を促進しなければならない。

総任務を強調するのは、わが党が成立の日から中華民族の偉大な復興を実現するという歴史的使命を担ってきたからである。わが党が人民を導いて革命、建設、改革を行う理由は、中国人民が豊かになること、国が強くなること、偉大な中華民族を振興することにある。現代化建設の「三歩走」(三段階の発展戦略)の戦略的布石[二]に沿って、富強・民主・文明・調和の社会主義現代国家を築き上げることは、社会主義初級段階におけるわが党と国家の奮闘目標である。わが党の厳粛な使命、改革開放の根本目的、わが国の奮闘目標は、いずれもこの総任務に根本があり、総任務に帰結する。われわれはこの総任務をしっかりとつかんで、世代から世代へと粘り強く取り組んでいかなければならない。

わが党はそれぞれ異なる歴史的時期に、人民の願望や事業発展の必要に応じ感化力に富む奮闘目標を掲げ、人民を団結させ導いてこの目標のために奮闘してきた。第十八回党大会は国内外の情勢の変化を踏まえ、わが国の経済・社会の新たな発展と多くの人民の新たな期待に応じて、小康社会の全面的な建設という目標を充実させ、より完全なものにした。また、より明確な政策の方向性を備え、発展の難問により対応し、人民の願望

により寄り添った新しい要求を掲げた。これらの目標と要求は、第十六回党大会が提起した小康社会の全面的な建設という奮闘目標と第十七回党大会が提起した小康社会を全面的に築き上げるという奮闘目標を実現するための新たな要求を受け継いでおり、中国の特色ある社会主義事業の全体的な活動計画とも一致している。全党全国は心を一つにし、わき目もふらずに働き、鋭意革新し、開拓前進し、第十八回党大会が提起した小康社会を全面的に築き上げ、改革開放を深化させるという目標を実現するために共に奮闘しなければならない。

第四に、中国の特色ある社会主義の新たな勝利を勝ち取るための基本的要請を深く理解すること。第十八回党大会は新たな歴史的条件の下で中国の特色ある社会主義の新たな勝利を勝ち取るためにしっかりと把握しなければならない基本的要請を掲げた。これらの基本的要請は、党の基本理論、基本路線、基本綱領、基本的経験に基づき、六十年余りのわが国の社会主義建設、とりわけ中国の特色ある社会主義建設の実践を真摯に総括した上で掲げられたものである。これは最も本質的なものであり、共産党の執政に関する法則、社会主義建設の法則、人類社会の発展の法則を表すものであり、わが党の中国の特色ある社会主義の法則に対する認識が新しいレベルに達したということの表れである。

第十八回党大会が掲げた基本的要請は、新たな歴史的な奮闘の道のりでどのように中国の特色ある社会主義の新たな勝利を勝ち取るのか、という基本的な質問にさらに答えている。中国の特色ある社会主義が億万の人民の自らの事業である以上、人民の主人公としての精神を発揮し、人民の主人公としての地位をさらに守らなければならない。社会の生産力の解放と発展は中国の特色ある社会主義の根本的な任務である。従って、あくまでも経済建設を中心として、科学的発展をテーマとし、人間本位を旨として、全面的でバランスの取れた、持続可能な科学的な発展を実現しなければならない。改革開放は中国の特色ある社会主義を堅持し発展させるために必ず通らなければならない道である。それゆえに改革と革新の精神を国政運営の節々に貫き、わが国の

社会主義制度の自己改善と発展を不断に推進しなければならない。公平と正義は中国の特色ある社会主義の内在的要求であるので、全人民が共に奮闘し、経済・社会が発展するという基礎の上で、社会の公平と正義の保障に大きな役割を果たす制度の構築を急ぎ、社会の公平を保障するシステムを徐々に確立していかなければならない。共に豊かになることが中国の特色ある社会主義の根本原則である以上、発展の成果がより多く、より公平に全人民に恩恵をもたらすようにし、「共同富裕」に向けて着実に前進しなければならない。社会の調和は中国の特色ある社会主義の本質的な属性であるので、団結できるすべての力を結集させ、調和的な要素を最大限増やし、社会の創造的活力を強め、人民が安らかに暮らしながら生業に励み、社会が安定して秩序整然となって、国が長期にわたって安定するようにしなければならない。平和的発展は中国の特色ある社会主義の必然的選択である以上、開放的発展、協力的発展、ウインウイン的発展を堅持し、各方面との利益の接点を拡大し、恒久平和、共同繁栄の調和のとれた世界の構築を推し進めなければならない。中国共産党は中国の特色ある社会主義事業の指導的核心である以上、党の指導を強化し、改善し、党が全局を統轄し、各方面を協調させる指導的核心の役割を果たさなければならないのである。

第十八回党大会が掲げた基本的要請は、当面のわが国の経済・社会の発展における際立った問題、改革の難関突破と経済発展パターンの転換を加速する際の難問、幹部と大衆が広く関心を寄せている問題への積極的な対応である。また、わが国が小康社会を全面的に築き上げる決定的段階に入るにあたっての改革・発展・安定、内政・外交・国防、党・国家・軍隊の管理に対する正しい指導である。これらの基本的要請は、生産力と生産関係のみならず経済的土台と上部構造にもかかわり、また中国の特色ある社会主義の偉大な事業のみならず党建設の新たな偉大なプロジェクトにもかかわり、また同時に国内、国際二つの大局にかかわっている。第十八回党大会の各事業における計画と配置は、いずれもこれらの基本的要請に則り、それを反映したものである。

これらの基本的要請をつかんでこそ、よりよく力を結集し、難問を解決し、引き続き科学的な発展を推し進め、社会の調和を促進し、人民の生活を改善し続け、人民の福祉を増進し、時代が付与した光栄かつ困難な任務を完遂することができる。

第五に、党が終始中国の特色ある社会主義事業の強固な指導的核心となることを確保することを深く理解すること。第十八回党大会は、わが党が人民を団結させ、導いて、全面的に小康社会を築き上げ、社会主義現代化建設を推進し、中華民族の偉大な復興を実現するという大きな任務を担っていることを強調した。党が強固であり、人民大衆と血肉のつながりを保てば、国家は繁栄、安定し、人民は幸せで健康的な生活を送ることができる。情勢の発展、事業の開拓、人民の期待はいずれも、われわれが改革・革新の精神で党建設の新たな偉大なプロジェクトを全面的に推し進め、党建設の科学化レベルを全面的に高めるよう、われわれに求めている。国を治めるにはまず党を治め、党を治めるには厳しく治めなければならない。そのために、第十八回党大会は新しい情勢の下で党建設の科学化レベルを全面的に高める全般的要請と諸般の任務を掲げた。全党は深く学び、理解し、一条一条実行に移さなければならない。

第十八回党大会が掲げた党建設の全般的要請は、わが党が九十年余りの間にマルクス主義政党の先進性を維持し発展させたという根本に着目しただけではなく、新しい情勢下での世情、国情、党情の新たな変化に適応し対応することに着目したものでもある。ここ数年、党建設の新たな偉大なプロジェクトを全面的に推し進めることによって、党の執政能力はさらに向上し、党の先進性と純潔性は守られ、発展し、党の指導は強化、改善された。しかし同時に、国内外の情勢の発展・変化と比べ、また党が担っている歴史的任務と比べると、党の指導や執政のレベル、党の組織建設の状況や党員幹部の資質、能力、活動姿勢には、まだ大きな開きがある。特に新たな情勢下で党建設を強化し改善しようと「四大試練」〔二二〕、「四つの危険」〔二三〕に立ち向かっている時に

あって、党が党を管理し、党を厳しく治める任務はいつもより重く、より緊迫している。全党は緊迫感と責任感を強め、党建設の全般的要請をしっかりと把握し、党の指導と執政のレベルを絶えず高め、腐敗を拒み、変質を防ぎ、リスクを防ぎ止める能力を高めなければならない。それによって、わが党は世界情勢が大きく変化する歴史プロセスにおいて終始時代をリードし、国内外のさまざまなリスクや試練に対応する歴史プロセスにおいて終始全国人民の大黒柱となり、中国の特色ある社会主義を堅持し発展させる歴史プロセスにおいて終始力強い指導の核心となることができる。

理想と信念を固め、共産党員としての精神的追求を守るのは、一貫して共産党員の落ち着いた暮らしと心のよりどころの根本である。マルクス主義に対する信仰、社会主義と共産主義に対する信念は、共産党員の政治的魂であり、共産党員がいかなる試練にも耐える精神的な支柱である。理想と信念が共産党員の精神面での「カルシウム」だとすると、理想と信念がないかもしくは足りなければ、精神は言わば「カルシウム不足」となり、「くる病」にかかってしまう。現実生活の中であれこれ問題のある党員幹部は、結局のところ信仰があいまいになり、精神を見失うからである。全党は第十八回党大会の配置に基づいて、中国の特色ある社会主義の理論体系、特に科学的発展観を深く学習し、実践しなければならない。全党は党性と品行を重んじ、率先垂範し、中国の特色ある社会主義の共通の理想を実現するために志を固く守って奮闘しなければならない。

党と大衆との関係、幹部と大衆との関係を密接にし、人民大衆との血肉のつながりを保つことは、終始わが党が不敗の地に立つための土台である。民意に背くかどうかで政党と政権の前途と運命が決まる。われわれがもし大衆から遊離し、人民の支持を失えば、最後は失敗に終わる。われわれは新たな情勢下での大衆工作の新しい特徴と要請に応じて、大衆を組織し、大衆に働きかけ、大衆を教育し、大衆に奉仕する取り組みをきちんと行わなければならない。また、謙虚に大衆に学び、真摯に大衆の監督を受け、終始人民の中に根付き、人民

に幸せをもたらし、終始党と人民大衆との血肉のつながりを保ち、終始人民と一心同体となり、息を通わせ、運命を共にしなければならない。人民の偉大な実践の中から英知と力をくみ上げ、人民の希望に応じ、人民の悩みを解決し、人民の生活に恩恵をもたらす実のある仕事をきちんと行い、大衆の利益を損なう行為を是正しなければならない。第十八回党大会は、「人民への奉仕・実務・清廉」を主な内容とする党の大衆路線教育実践活動〔二四〕を全党で実施することを提起した。中央はこの活動のための布石を行い、各級党委員会が活動をきちんと実行し、人民大衆が強い不満を示している際立った問題を重点的に解決し、活動が実際に効果を上げるよう求めた。

腐敗に反対し、廉潔な政治を打ち立て、党の組織を健全に保つことは、わが党が一貫して堅持している明確な政治的立場である。党風刷新・廉潔政治確立は広範な幹部・大衆が終始関心を払っている大きな政治問題である。「物は腐敗してから虫がわく」〔二五〕。ここ数年、一部の国では長期間にわたって蓄積した矛盾が民衆の不満や社会不安、政権崩壊を招いているが、その中でも特に重要な原因は汚職・腐敗である。数多くの事実が物語っているように、腐敗問題がますます深刻化すれば、最終的には必ず党の滅亡、国の滅亡をもたらすことになる。われわれは警戒しなければならない。ここ数年、わが党内で発生しているひどい規律違反事件は、その性質が悪らつで、政治的影響も極めて深刻で、人の心を揺さぶるものがある。各級党委員会は態度を鮮明にして腐敗に反対し、さらに科学的、効果的に腐敗を防ぎ、幹部は公正になり、政府は清廉になり、政治は明朗になり、共産党員としての清廉公正の政治的本領を永遠に保たなければならない。各級の指導幹部、とりわけ高級幹部は廉潔な政治の準則を自覚的に守らなければならない。自分自身が厳しく守るだけでなく、親族や側近の者への教育と制約を強めなければならない。また権力で私腹を肥やすことや特権的地位を利用することは決して許されない。党の規律や法律に違反するすべての行為に対しては必ず容赦なく処罰し、手加減してはならない。

第十八回党大会は、中国の特色ある社会主義を発展させることは長期にわたる非常に困難な歴史的任務であり、多くの新たな歴史的特徴を備えた偉大な闘争を進める準備をしなければならないと強調している。全党の同志はさらに信念を固め、粘り強く奮闘し、中国の特色ある社会主義を揺るぐことなく堅持し、時代と共に発展させ、中国の特色ある社会主義の実践の特色、理論の特色、民族の特色、時代の特色を絶えず豊かにしなければならない。また、全国各民族人民を団結させ、導いて、小康社会を全面的に築き上げるそれぞれの目標を実現するために努力し、引き続き現代化建設の推進、祖国統一の達成、世界平和の擁護および共同の発展の促進という三大歴史的任務を達成していかなければならない。これはわれわれの世代の共産党員の歴史的任務であり、われわれはそのためにあらゆる英知と力を出し尽くさなければならない。

〔注〕

〔一〕中央政治局グループ学習会とは、中共中央政治局の定期的な学習制度を指す。中共中央総書記が主宰して談話を発表し、中央政治局の全メンバーが参加する。また関連部門の責任者や専門家を招き、経済、政治、歴史、文化、社会、科学技術、軍事、外交などの問題について特別講義を行う。

〔二〕第十八回党大会は、二〇二〇年までに小康社会を全面的に築き上げるという壮大な目標を掲げた。経済の持続的で健全な発展を実現すること、国内総生産（ＧＤＰ）および都市部と農村部の住民一人当たりの所得を二〇一〇年比で倍増させること、人民民主を絶えず拡大すること、文化ソフトパワーを著しく強化すること、人民の生活水準を全面的に向上させること、資源節約型で環境にやさしい社会の建設で大きな進展を遂げることがその主な内容である。

〔三〕胡錦濤、一九四二年生まれ、安徽省績渓出身。前中国共産党中央委員会総書記、前中華人民共和国主席、前中国共産党中央軍事委員会主席、前中華人民共和国中央軍事委員会主席。科学的発展観の主要創始者である。

〔四〕毛沢東（一八九三〜一九七六）、湖南省湘潭出身。マルクス主義者、中国プロレタリア階級革命家、戦略家、理論家。中国共産党、中国人民解放軍、中華人民共和国の主要創建者であり、中国各民族人民の指導者であり、毛沢東思想の主要創始者である。

〔五〕鄧小平（一九〇四〜一九九七）、四川省広安出身。マルクス主義者、中国プロレタリア階級革命家、政治家、軍略家、外交家。中国共産党、中国人民解放軍、中華人民共和国の卓越した指導者であり、中国の社会主義改革開放と現代化建設の総設計師であり、鄧小平理論の主要創始者である。

〔六〕江沢民、一九二六年生まれ、江蘇省揚州出身。元中国共産党中央委員会総書記、元中華人民共和国主席、元中国共産党中央軍事委員会主席、元中華人民共和国中央軍事委員会主席。「三つの代表」重要思想の主要創始者である。

〔七〕四つの基本原則とは、社会主義の道を堅持し、人民民主主義独裁を堅持し、中国共産党の指導を堅持し、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想を堅持することを指す。四つの基本原則は中国の立国の基礎であり、党と国家が生存し発展するための政治的基盤である。

〔八〕マルクス主義は、マルクスとエンゲルスによって創始され、科学的世界観、社会発展段階説、プロレタリア革命理論、および社会主義と共産主義建設の理論を含む科学的理論体系であり、プロレタリア階級とプロレタリア政党の理論的基礎、指導思想である。十九世紀の四十年代に誕生し、資本主義の深刻な矛盾と労働運動が発展してできた産物であった。主としてマルクス主義哲学、政治経済学、科学的社会主義の三つの構成部分からなる。十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、資本主義は独占資本主義の段階、すなわち帝国主義段階に入った。レーニンはロシアのプロレタリア革命と社会主義建設の経験を踏まえて、マルクス主義を創造的に発展させ、新たな段階——レーニン主義へと推し進めた。中国共産党は成立当初からおごそかにマルクス・レーニン主義を自らの旗印として掲げ、マルクス・レーニン主義の基本原理を中国革命闘争の実践、社会主義建設、改革の実践に創造的に運用し、マルクス・レーニン主義を豊かにし、発展させた。それによって、マルクス主義の中国化の理論成果、すなわち毛沢東思想と中国の特色ある社会主義の理論体系が生まれた。毛沢東思想と中国の特色ある社会主義の理論体系はマルクス・レーニン主義を受け継ぎ、かつ時代と共に進む理論体系である。

〔九〕鄧小平理論は、中国の特色ある社会主義の理論体系の重要な構成部分であり、中国共産党の指導思想である。鄧小平理論は中国のような経済・文化が比較的遅れた国でどのように社会主義建設を行い、どのように社会主義を固め、発展させるかという一連の基本的な問題に初めて系統的に答えた。主要創始者は鄧小平である。

〔一〇〕「三つの代表」重要思想は、中国の特色ある社会主義の理論体系の重要な構成部分であり、中国共産党の指導思想である。「三つの代表」重要思想は、中国共産党が終始中国の先進的生産力の発展の要請を代表し、中国の先進的文化の前進の方向を代表し、中国の最も広範な人民の根本的利益を代表すべきことを強調した。主要創始者は江沢民である。

〔一一〕科学的発展観は、中国の特色ある社会主義の理論体系の重要な構成部分であり、中国共産党の指導思想である。科学的発展観について、その第一義とするところは発展であり、核心は人間本位であり、基本的要請は全面的でバランスが取れ持続可能であること、根本的な方法は統一的に配慮すること。主要創始者は胡錦濤である。

〔一二〕注釈〔八〕を参照。

〔一三〕毛沢東思想は、中国共産党が長期にわたって堅持する根本的な指導思想である。これは毛沢東をはじめとする中国共産党員がマルクス主義の基本原則に基づき、中国の革命と建設の実践における独創的経験に対して行った理論的総括と締めくくりであり、実践に裏付けされた中国の革命と建設に関する正しい理論原則と科学的な思想体系であり、中国共産党全体の英知の結晶である。主要創始者は毛沢東である。

〔一四〕根本的な政治制度とは、人民代表大会制度を指す。人民代表大会は中華人民共和国の政権組織の形態である。人民に選出された代表によって成り立つ全国人民代表大会と地方各級の人民代表大会が人民の国家権力行使機関の役割を果たす。全国人民代表大会は最高の国家権力機関であり、憲法を改正し、法律を制定し、国の重要な問題を決める権限を持つ。地方各級の人民代表大会は地方における国家権力機関であり、憲法と法律に定められた権限に則って地方の重要事項を決める。

〔一五〕基本的な政治制度には、中国共産党が指導する多党合作と政治協商制度、民族区域自治制度、末端大衆自治制度などが含まれる。中国共産党が指導する多党合作・政治協商制度は中国共産党と各民主党派および無党派人士が政治問題を協商する制度を指す。民族区域自治は国の統一的指導の下で、各少数民族の集中居住の地方で区域自治を実行し、自治機関を設立して自治権を行使することを指す。末端大衆自治制度は人民が国の事務と社会事務の管理に参与する形態であり、都市部と農村部で住民の住居地区ごとに設けられている居民委員会あるいは村民委員会は末端の大衆自治組織である。

〔一六〕基本的な経済制度とは、公有制を主体とし多様な所有制経済を共に発展させる経済制度を指す。

〔一七〕鄧小平の「武昌、深圳、珠海、上海などでの談話の要点」（『鄧小平理論』第三巻、人民出版社、一九九三年版、第三七二頁）を参照。

〔一八〕社会主義初級段階は、中国社会主義社会の特定の歴史段階である。特に中国が未発達の段階から徐々に抜け出し、社会主義現代化を基本的に実現するまでの歴史段階を指す。この段階は生産手段私有制の社会主義改造が基本的に完成した一九五〇年代から、社会主義現代化が基本的に実現するまでで、少なくとも百年以上の時間が必要である。

〔一九〕五位一体とは、中国の特色ある社会主義を建設する総配置を指し、経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設が含まれる。

〔二〇〕「一つの中心、二つの基本点」は、中国共産党の社会主義初級段階における基本路線の主な内容である。一つの中心は経済建設を中心にすることを指す。二つの基本点は四つの基本原則を堅持することと改革開放を堅持することを指す。

〔二一〕「三歩走」の戦略的布石とは、中国が三段階に分けて現代化を基本的に実現するという発展戦略を指す。一九八七年の第十三回党大会は次のように提起している。第一歩は、一九八〇年代末までに国民総生産（GNP）を一九八〇年と比べて倍増させ、人民の衣食住の問題を解決する。第二歩は、二十世紀末までにGNPをさらに倍増させ、人民の生活を小康レベルに到達させる。第三歩は、二十一世紀中葉までに、一人当たりのGNPを中程度の先進国並みのレベルに到達させ、人民の生活が比較的豊かになり、現代化を基本的に実現する。

〔二二〕「四大試練」とは、執政の試練、改革開放の試練、市場経済の試練、外部環境の試練を指す。

〔二三〕「四つの危険」とは、精神的な怠慢の危険、能力不足の危険、大衆から遊離する危険、消極的腐敗の危険を指す。

〔二四〕党の大衆路線教育実践活動とは、第十八回党大会以後、党の先進性と純潔性をめぐって全党で繰り広げられた「人民への奉仕・実務・清廉」を主要内容とする教育実践活動である。県と処レベル以上の指導機関、指導層と指導幹部を中心に、党員全体に対してマルクス主義の大衆観点と大衆路線教育を強め、人民大衆が強い不満を持つ形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費の風潮などの問題の解決に力を入れる。本活動は二〇一三年下半期から始まり、トップダウンの形で二回に分けて行われた。

〔二五〕蘇軾の『範増論』を参照。蘇軾（一〇三六～一一〇一）すなわち蘇東坡は、眉州眉山（現在四川省に属する）の出身で、宋代の文学者、書家、画家。

中国の特色ある社会主義を揺るぎなく堅持・発展させよう

（二〇一三年一月五日）

中央委員会の新人委員・委員候補を対象とした第十八回党大会精神の学習・貫徹セミナーにおける談話の要旨

道の問題は中国共産党の事業の盛衰成否にかかわる第一の問題で、道はわが党の命である。中国の特色ある社会主義は科学的社会主義〔一〕の理論を貫く論理と中国の社会発展の歴史を貫く論理の弁証法的統一であり、中国の大地に根ざし、中国人民の意思を反映し、中国の発展と時代の進歩の要請にふさわしい科学的社会主義であり、それは小康社会を全面的に築き上げ、社会主義現代化のテンポを速め、中華民族の偉大な復興を実現する上で必ず通らなければならない道である。

全党の同志は鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとし、中国の特色ある社会主義を揺るぎなく堅持し、発展させ、マルクス主義の発展観を堅持し、実践が真理検証の唯一の基準であることを堅持し、歴史の能動性と創造性を生かし、世情、国情、党情の変化と不変をはっきり認識しなければならない。行く手に山があったら道を切り開き、川があったら橋を架ける精神を永遠に保ち、鋭意進取し、大胆に模索し、現実の生活の中と大衆の思想面で差し迫って解決が必要な問題にあえて取り組み、しっかり分析、回答することに長け、改革開放を絶えず深め、絶えず何らか発見、創造し、前進して、理論、実践、制度の刷新を図らなけれ

ばならない。

中国共産党第十八回全国代表大会の精神を一言で言えば、中国の特色ある社会主義の堅持と発展の一点である。今年は鄧小平同志が中国の特色ある社会主義の建設を打ち出してから三十一年目である。鄧小平同志は中国の特色ある社会主義を切り開き、経済的、文化的に比較的立ち遅れた中国で、いかに社会主義を建設し、いかに社会主義を固め、発展させるかという一連の基本的問題について初めて比較的系統的に初歩的な答えを出し、新たな思想的観点によってマルクス主義を継承し、発展させ、マルクス主義の新境地を開き、社会主義に対する認識を新たな科学的水準に高めた。

中国の特色ある社会主義は社会主義であり、他のいかなる主義でもなく、科学的社会主義の基本原則を捨てることはできない。捨てれば社会主義ではなくなる。一国がどのような主義を進めるかのカギはその主義がその国の直面している歴史的課題を解決できるか否かにある。歴史と現実がいずれもわれわれに教えているように、中国を救えるのは社会主義だけで、中国の特色ある社会主義があってはじめて中国を発展させることができる。これは歴史的結論であり、人民の選択である。中国の特色ある社会主義の発展に伴い、われわれの制度は必ずますます成熟し、わが国の社会主義制度の優位性は必ずさらに明らかに示され、われわれの道は必ずますます広くなるだろう。われわれはこうした道、理論、制度への自信を持ち、真に「千磨万撃にも堅く揺るがず、東西南北の風吹こうとも（いかなる試練にも強じんで、いかなる風にも倒れない）」[二]の境地を目指すべきである。

わが党は人民を指導して社会主義建設を進めており、改革開放の前と後の二つの歴史的時期があり、これは互いにつながり、また大きな違いのある二つの時期でもあるが、本質的には共にわが党が人民を指導して社会主義建設を進めた実践、模索である。中国の特色ある社会主義は改革開放の新たな歴史的時期に切り開いたものだが、新中国になって社会主義の基本制度が築かれた上、二十年余りの建設を踏まえて切り開いたものでも

ある。この二つの歴史的時期は社会主義建設の指導思想、方針政策、実際の活動に非常に大きな違いがあるが、二つは決して分断されているものではないし、ましてや根本的に対立するものではない。改革開放後の歴史的時期で改革開放前の歴史的時期を否定することはできないし、改革開放前の歴史的時期で改革開放後の歴史的時期を否定することもできない。実事求是（事実に基づいて真実を求めること）の思想路線を堅持し、主流と支流をはっきり分け、真理を堅持し、誤りを正し、経験を生かし、教訓をくみ取り、それを踏まえて党と人民の事業を引き続き前進させなければならない。

マルクス主義は必ず時代、実践、科学の発展に伴い発展し続けるもので、一定不変ではありえず、社会主義は従来からいつも開拓の中で前進している。中国の特色ある社会主義を堅持し発展させることは大きなテーマで、鄧小平同志はそのために基本的な考え方と基本原則を定め、江沢民同志を核心とする党の第三世代中央指導グループ、胡錦濤同志を総書記とする党中央はこの大きなテーマについて素晴らしい一章を記した。現在、われわれの世代の共産党員の任務はこの大きなテーマについて書き続けることである。マルクス主義の堅持、社会主義の堅持では必ず発展の観点がなければならない。われわれの事業が前進するほど、発展するほど、新たな状況、新たな問題が多くなり、直面するリスクと挑戦も多くなり、予測できないことが多くなるだろう。われわれは治に居て乱を忘れず、憂患意識を強めなければならない。分かることは分かるが、分からないことは分からない。分かったことは努力して条件を作って取り組み、分からないことはしっかり学び、研究して分かるようにし、あいまいにしてはならない。

共産党員、特に党員指導幹部は共産主義の遠大な理想と中国の特色ある社会主義の共通の理想をもつ堅固な信仰者、忠実な実践者でなければならない。われわれは中国の特色ある社会主義の道を断固歩むだけでなく、共産主義の崇高な理想を胸に抱き、党の社会主義初級段階における基本路線と基本綱領を揺るぎなく貫徹、実

行し、目の前の一つ一つの仕事にしっかり取り組まなければならない。革命の理想は天より高い。遠大な理想がなければ共産党員として不合格である。現実の仕事から遊離し、遠大な理想をただ語るだけなら、それも共産党員として不合格である。一人の共産党員、一人の指導幹部として、共産主義の遠大な理想を持っているか否かをはかるには、客観的基準がある。それは誠心誠意人民に奉仕する根本的宗旨を堅持できるか否か、人に先んじて苦労し人に後れて楽しむことができるか否か、勤勉に働き、清廉潔白に公務に励むことができるか否か、理想のために危険を顧みずに戦い、奮闘し、自らのすべての精力、さらに命をささげることができるか否かにかかっている。迷いためらうすべての観点、いつも享楽を求めるすべての思想、私利を図るすべての行為、無為に過ごすすべての姿勢はみな、その基準とはまったく相いれないものである。

〔注〕

〔一〕広義の科学的社会主義は、マルクス主義の思想体系全体を指すが、狭義ではマルクス主義の三つの構成部分の一部であり、プロレタリア階級による解放運動の性質、条件、一般的目的を研究する科学である。科学的共産主義ともいう。通常は、科学的社会主義は後者を指す。一八四〇年代にマルクスとエンゲルスにより創始されたものである。科学的社会主義は一つの整った理論体系であり、その基本的特徴は、私有制をなくし公有制を実行すること、生産力を大いに発展させ、極めて豊かな社会的、物質的な富を創造すること、計画経済を実行し、商品の生産と貨幣交換をなくすこと、労働に応じて分配する原則を行うこと、階級と階級対立をなくし、国家というものは自然になくなり、自由な人々の結合体になることである。

〔二〕鄭燮の『竹石』を参照。鄭燮（一六九三～一七六五）、板橋と号し、鄭板橋と呼ばれる。江蘇省興化出身。清代の書家、画家、文学者。

毛沢東思想の生きた魂を堅持し活用しよう

（二〇一三年十二月二十六日）

毛沢東同志生誕百二十周年記念座談会における談話の一部

毛沢東思想を貫く立場、観点、方法は毛沢東思想の生きた魂であり、基本点は三つあり、それは実事求是、大衆路線、独立自主である。新たな情勢の下で、われわれは毛沢東思想の生きた魂を堅持し、活用することで、わが党の建設をきちんと行い、引き続き中国の特色ある社会主義の偉大な事業を推し進めていく。

実事求是はマルクス主義の基本的な観点であり、中国共産党員が世界を理解し、世界を変えるための根本的な要請である。また、わが党の基本的な思考の方法、仕事の方法、指導の方法でもある。かつても現在も未来も、われわれはすべて実際から出発し、理論と実際を結びつけ、実践の中で真理を検証し、発展させることを堅持しなければならない。

毛沢東同志はこう述べている。『実事』とは客観的に存在するすべての事物のことであり、『是』とは客観的な事物の内部的なつながり、すなわち法則性のことであり、『求』とはわれわれがこれを研究することである」[1]。また、実事求是を「的があって矢を放つ」ことに例えた。われわれはマルクス主義という「矢」を用いて中国革命・建設・改革の「的」に放つことを堅持しなければならない。

実事求是を堅持するには事物の本来の様子を深く理解しなければならない。現象を通して本質を見極め、ばらばらの現象から事物内部の必然的なつながりを見出さなければならない。また、客観的な事物の存在と発展の法則から出発し、実践の中で客観的法則に則って事を運ばなければならない。実事求是を堅持することは一度苦労すれば後はずっと楽になるといったものではなく、ある時ある所で実事求是を堅持できたからといって、別の時や所でも堅持できるとは限らない。ある時ある所で実事求是を堅持して得た結論、経験が、別の時や所でもあてはまるとは限らない。われわれは実事求是の信念を自覚的に打ち固め、実事求是の能力を高め、いつでもどこでも実事求是を銘記し、行動に移さなければならない。

実事求是を堅持するには、わが国が現在、そして長期にわたって社会主義初級段階にあるというこの基本的国情を冷静に認識し、正しく把握しなければならない。改革・発展を推し進め、方針政策を制定するにあたっては、常に社会主義初級段階というこの最大の現実にしっかり立脚し、常にこの基本的国情の必然的要請を十分に体現し、すべてがこの基本的国情から出発することを堅持しなければならない。現実を超越し、段階を超越し、功を焦るいかなる傾向も避けなければならず、現実から遅れ、深く変化しつつある客観的事実を無視する因循固陋、旧態依然とした観念ややり方は断固として是正しなければならない。

実事求是を堅持するには、人民の利益のために真理を守り、過ちを正すことを堅持しなければならない。公明正大で、私心がなく恐れることなく、事実を根拠とし、正々堂々と事実を述べる勇気と正義感を持ち、思想認識上の偏向や意思決定上のミス、仕事上の欠点を、時を移さず発見し是正しなければならない。また、さまざまな矛盾や問題を速やかに発見し解決することによって、われわれの思想や行動はより客観的な法則、時代の要請、人民の願いに合致するようになる。

実事求是を堅持するには、絶えず実践に基づいた理論の刷新を推進しなければならない。マルクス主義の基

本原理は普遍的真理であり、永遠の思想的価値を有するが、しかしマルクス主義の原典の著者は真理を何から何まで論じたわけではなく、絶えず真理を追求し発展させるために道を切り開いたのである。今日、中国の特色ある社会主義を堅持し発展させ、改革を全面的に深化させ、前進する道において予測可能あるいは予測不可能な困難やリスクに効果的に対応しようとすれば、必ず新たな課題が出てくるが、これに理論上から新たな科学的な回答を出すことが迫られている。われわれは党が人民を導いて生み出した新鮮な経験を速やかに総括し、マルクス主義の中国化の新しい境界を絶えず切り開き、現代中国のマルクス主義がさらに明るい真理の輝きを放つようにしなければならない。

　大衆路線はわが党の生命線、根本的な活動路線であり、わが党が活力と戦闘力を永遠に保つための貴重な宝物である。これまでも現在も未来も、われわれは、すべては大衆のために、すべては大衆に依拠し、大衆の中から大衆の中へという大衆路線を堅持し、党の正しい主張を大衆の自覚的な行動に変えていき、国政運営のすべての活動の中で大衆路線を貫かなければならない。

　大衆路線が本質的に体現しているのは、人民大衆が歴史の創造者であるというマルクス主義の基本原理である。この基本原理を堅持してこそ、われわれは歴史の前進の基本法則を把握できる。歴史の法則に照らして事を行ってこそ、常に勝利を勝ち取ることができる。歴史が繰り返し立証しているように、人民大衆は歴史の発展と社会の進歩の主な力である。毛沢東同志が言ったとおりで、「中国の運命がひとたび人民自身の手ににぎられたときには、中国が東の空にさしのぼる太陽のように、自己の輝く光であまねく大地を照らす」[二]。

　大衆路線を堅持するには、人民がわれわれの前途と運命を決める根本的な力であることを堅持しなければならない。人民の主体としての地位を堅持し、人民の積極性を十分に引き出すのはわが党が不敗の地に立つための根本である。人民の前でわれわれは永遠に小学生であり、人民を師と仰ぎ、能力のある人には教えを請い、

知恵のある人には策を問わねばならない。人民が表明した願い、創造した経験、擁している権利、果たしている役割を尊重しなければならない。人民から授けられた権力を大切にし、りっぱに行使し、進んで人民に権力を監督してもらい、人民に依拠して偉大な歴史的事業を成し遂げ、それによってわが党の基盤が永遠に盤石となるようにしなければならない。

大衆路線を堅持するには、誠心誠意人民に奉仕するという根本的な理念を堅持しなければならない。「政の興る所は民の心に順うにあり、政の廃する所は民の心に逆らうにあり（民意に従えば政権は栄え、民意に背けば政権は崩壊する）」〔三〕とあるように、誠心誠意人民に奉仕することはわが党のすべての活動の出発点と帰結点であり、他のすべての政党と区別されるわが党の根本的なメルクマールである。党のすべての仕事は最も広範な人民の根本的利益を最高基準としなければならない。すべての仕事の成果を検証する基準は、人民が恩恵を受けたかどうか、人民の生活が改善されたかどうか、人民の権益が保障されたかどうかである。人民のよりよい生活を求める新たな期待に対して、われわれはほんの少しの慢心や気の緩みも許されず、さらに努力を積み重ね、発展の成果をより多く、より公平に人民全体に及ぼし、共に豊かになることを目指して着実に前進しなければならない。

大衆路線を堅持するには、党と人民大衆との血肉のつながりを保たなければならない。わが党の最大の政治的優位は大衆との密接な結び付きにあり、政権党になった後、わが党の最大の危険は大衆からの遊離である。「われわれ共産党員はいわば種子であり、人民はいわば土地である。われわれは行く先ざきで、そこの人民と結び付き、人民のあいだに根を下ろし、花を咲かせなければならない」〔四〕と毛沢東同志が言ったように、大衆的観点、大衆路線が全党同志の思想に深く根を下ろすように、共産党員一人一人が行動に移すよう努めなければならない。また気力をふるって党内に存在する問題、特に人民大衆が不満を抱える問題を解決することによって、わが党は永遠に人民に信頼され擁護されることが可能となる。

大衆路線を堅持するには、真に人民からわれわれの仕事を評価してもらわなければならない。「失政を知る者は草野にあり（政策の過ちを知るには深く大衆の中に入らなければならない）」〔五〕とあるように、いかなる政党の前途と運命も最終的には民意に背くかどうかにかかっている。「民意は力である」。わが党の党員数は人民と比べてまだ少数である。人民の支持を離れればわが党の偉大な奮闘目標は絶対に実現できない。わが党の執政水準と成果は自分で言ってもだめで、必ず人民に評価してもらい、人民だけに評価してもらわなければならない。人民はわが党の仕事の最終裁決者であり最終評価者である。自分を賢いと思って、人民から遊離したり、人民の上にふんぞり返ったりすれば、必ず人民に見捨てられてしまう。どんな政党でもみなそうである。これは歴史発展の鉄則であり、今も昔も、中国でも外国でもすべて例外はない。

独立自主はわが党が中国の現実から出発し、党と人民の力に依拠して革命・建設・改革を行うための必然的な結論である。これまでも現在も未来も、われわれは国と民族の発展を力の原点に据え、民族の自尊心と自信を堅持し、変わることなく自分の道を歩まなければならない。

独立自主は中華民族の優れた伝統であり、中国共産党、中華人民共和国の立党、立国の重要原則である。中国のように人口が多く、経済・文化が立ち遅れた東方の大国で革命と建設を進めるという国情と使命が、自らの道を歩むほかないことを決定づけた。

九百六十万平方キロの広い大地を踏みしめ、中華民族の長期にわたる奮闘によって蓄積された文化的養分を吸い、十三億の中国人民が結集した気勢盛んな力を擁して、われわれが自らの道を歩むのは、この上なく広い前途があり、この上なく深い歴史の底力があり、この上なく強大な前進の原動力を備えている。中国人民はこのような自信を持つべきである。一人一人の中国人がこのような自信を持つべきである。

独立自主を堅持するには、中国のことは中国人民自身で決め、解決することを堅持しなければならない。世の中にはどこにでも通用する発展モデルはなく、永恒不変の発展の道もない。多様な歴史条件によって各国はさ

まざまな発展の道を選んであった。人類の歴史において、外部の力に頼ったり、ほかの民族をまねたりすることで強くなり、盛んになった民族や国はない。そんなことをすれば、失敗を喫するか、他人の従属物になるほかない。

わが党は革命・建設・改革を指導する長期的な実践の中で、一貫して独立自主を堅持して道を切り開いてきた。こうした独立自主の模索と実践の精神、こうした自分の道を歩むことへの固い自信と決意は、わが党のすべての理論と実践の立脚点であり、党と人民の事業が絶えず勝利から新たな勝利へ向かう根本的な保証である。

独立自主を堅持するには、揺るぐことなく中国の特色ある社会主義の道を歩まなければならない。閉鎖的で硬直したかつての道を歩むこともなければ、旗印を変えるような邪道にそれることもない。われわれは政治の底力を強め、道・理論・制度への自信を強めなければならない。情勢や任務の発展・変化に応じて、改革の全面的な深化を通じ、中国の特色ある社会主義の道を絶えず切り広げ、中国の特色ある社会主義の理論体系を絶えず豊かにし、中国の特色ある社会主義の制度を絶えず完ぺきなものにしていかなければならない。われわれは人類社会が創造したすべての文明の成果を謙虚に学び、手本にする一方で、自らの歴史と祖先を忘れることなく、他国の発展モデルをそのまま引き写しにせず、またいかなる国からもあごでこき使われるような説教を受け入れることはない。

独立自主を堅持するには、独立自主の平和外交政策を堅持し、揺るぐことなく平和的発展の道を歩まなければならない。われわれは平和・発展・協力・ウインウインの旗印を高く掲げ、平和共存五原則〔六〕を踏まえて各国と友好協力関係を発展させ、平等互恵に基づいて各国との交流と協力を積極的に展開し、断固として世界の平和を擁護し、共同の発展を促進する。われわれは事柄そのものの是非・善悪に従って立場と政策を決め、公平を保ち、正義を広め、各国の人民が自ら発展の道を選ぶ権利を尊重する。自分の意志を他人に無理に押し付けることはせず、またいかなる者もその意志を中国人民に押し付けることを絶対に許さない。われわれは国際紛争の平和的解決を促し、いかなる形の覇権主義と強権政治にも反対し、永遠に覇を唱えず、拡張をしない。われわれは

国家主権・安全・発展の利益を守りぬく。いかなる国も、われわれが自らの核心的利益を取引対象にしたり、わが国の主権・安全・発展上の利益を損なうような結果を受け入れるだろうなどと期待してはならない。

〔注〕

〔一〕毛沢東の「われわれの学習を改造する」(『毛沢東選集』第三巻、人民出版社、一九九一年版、第八〇一頁)を参照。

〔二〕毛沢東の「新政治協商会議準備会での演説」(『毛沢東選集』第四巻、人民出版社、一九九一年版、第一四六七頁)を参照。

〔三〕『管子・牧民』を参照。『管子』は前漢の劉向によって編纂され、一部の内容は戦国時代の斉の稷下の学士らが管仲の名に託して著した。劉向(約前七七~前六)、沛(現在の江蘇省沛県)出身、前漢の経学者、目録学者、文学者。管仲(?~前六四五)、潁上(潁水之濱)出身、春秋時代の斉の政治家。

〔四〕毛沢東の「重慶交渉について」(『毛沢東選集』第四巻、人民出版社、一九九一年版、第一一六二頁)を参照。

〔五〕王充の『論衡』を参照。王充(二七~約九七)は会稽上虞(現在は浙江省に属する)の出身で、後漢時代の哲学者、思想家、文学批評家。『論衡』は秦代以前の儒家、道家、墨家などの思想と漢代の自然科学の成果を広く吸収し、神学の目的論と讖緯学を批判した。

〔六〕平和共存の五原則は、領土主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政不干渉、平等互恵、平和共存を指す。一九五三年十二月から一九五四年四月にかけて、中国政府代表団とインド政府代表団は、北京で、中印両国の中国チベット地方にかかわる問題について交渉を行った。一九五三年十二月三十一日、すなわち交渉の第一日目、中国の周恩来総理はインド代表団と会見した際に、平和共存の五原則を打ち出した。のちにこの五原則は双方が調印した『中国チベット地方とインドの間の通商および交通に関する中印両国の協定』の前文に正式に書き入れられた。一九五四年六月、周恩来総理はインドと当時のビルマ(現ミャンマー)を訪問し、六月二十八日、インドのネルー首相、二十九日には当時のビルマ(現ミャンマー)のウー・ヌ首相と共同声明を発表し、平和共存の五原則を国家間の関係を処理する基本原則とするよう正式に呼びかけた。

第二章

中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢

中華民族の偉大な復興の実現

（二〇一二年十一月二十九日）

「復興の道」展を見学した際のスピーチ

「復興の道」という展覧は、中華民族の過去を回顧し、現在を展示し、未来を宣明するもので、われわれに深い教訓と啓示を与えるものである。中華民族の過去は、まさに「堅関 鉄のごとし」[一]で、近代以降、中華民族は苦難の連続で、多くの犠牲を払ってきた。これは世界史上、稀にみることである。だが中国人民は決して屈服せず、絶えず闘争に奮起し、ついに自らの運命を掌握し、自らの国家を造り上げるという偉大な道のりを歩み始め、愛国主義を核心とする偉大な民族精神を十分に示した。中華民族の現在はまさに、「滄桑の変ぞ人の世の理なる」[二]と言える。改革開放以来、われわれは歴史的経験を総括し、絶えず粘り強く模索を重ね、ついに中華民族の偉大な復興の実現に至る正しい道を探り当て、世界の注目を集める成果を挙げた。この道のりこそが、中国の特色ある社会主義にほかならない。中華民族の未来は、まさに「長風浪を破るに会ず時有り（長風が吹いて浪を破り進んでいく時が必ず来る）」[三]である。アヘン戦争[四]以来、百七十余年の奮闘を続け、中華民族の偉大な復興は、明るい未来を見せている。現在、われわれは歴史上のどの時期よりも、中華民族の偉大な復興の目標に近づいている。歴史上のどの時代よりも、この目標を実現させる自信と能力を持っている。

全党の同志が過去を振り返って必ず銘記しなければならないのは、立ち後れれば叩かれる、発展してこそ自らを強くすることができる、ということである。全党の同志が現在を見つめて銘記しなければならないのは、道が運命を決めるのであり、正しい道を見つけるのがどれほど難しくとも、われわれはこれを揺るぐことなくしっかりと歩んでいかなければならない、ということである。全党の同志が未来を展望して銘記しなければならないのは、青写真を現実のものとするにはまだ長い道を歩まなければならず、われわれは長期にわたり粘り強く努力していく必要がある、ということである。

すべての人が理想と追い求めるものを持っており、みな自らの夢を持っている。現在、みなが中国の夢について語っているが、私は中華民族の偉大な復興を実現することこそが、中華民族が近代以来抱き続けてきた最も偉大な夢であると思う。数世代にわたる中国人の宿願が凝縮され、中華民族と中国人民の全般的な利益が具現化されているこの夢は、中華民族の子女共通の願いである。歴史がわれわれに教えているように、一人一人の前途・運命はすべて国と民族の前途・運命と密接につながっている。国と民族が繁栄してこそ、国民一人一人の未来は明るくなるのである。中華民族の偉大な復興の実現という栄えある、しかし困難極まる事業を成し遂げるには、幾世代にもわたる中国人が共に努力していく必要がある。空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す。われわれの世代の共産党員は必ずや先人の事業を受け継いで後につづく人のために発展の道を切り開き、わが党をよりよくし、中華民族の子女を団結させ、よりよい国家を造り上げ、民族の発展をいっそう促し、中華民族の偉大な復興という目標に向かって引き続き勇往邁進していかなければならない。

中国共産党創立百周年を迎えるまでに小康社会を全面的に築き上げるという目標と、新中国成立百周年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるという目標を必ず達成することができ、中華民族の偉大な復興の夢は必ずかなえられるということを、私は固く信じている。

〔注〕

〔一〕毛沢東の『憶秦娥・婁山関』（『毛沢東詩詞選』、中央文献出版社、一九九六年版、第四五頁）を参照。

〔二〕毛沢東の『七律・人民解放軍　南京を占領す』（『毛沢東詩詞選』、中央文献出版社、一九九六年版、第六四頁）を参照。

〔三〕李白の『行路難三首・其の一』を参照。李白（七〇一～七六二）、祖籍は隴西郡成紀県（現在の甘粛省静寧県の南西部）で、唐代に綿州昌隆（現在の四川省江油市南部）に生まれた。砕葉（唐代に安西都護府に属した現在のキルギス北部のトクマクあたり）に生まれたとする説もある。唐代の詩人。

〔四〕アヘン戦争は一八四〇年から一八四二年までのイギリスが発動した中国侵略戦争のことを指す。一八四〇年、中国がアヘン貿易を禁止したため、英国政府は通商保護を口実に軍隊を派遣して中国を侵略した。両広総督（広東省・広西省の総督）林則徐率いる清朝の軍隊が英国の侵略に抵抗した。広州の住民は自発的にイギリスの侵略に抵抗する部隊を作り、イギリスの侵略軍と戦った。それと共に、福建省・浙江省などの住民も自発的にイギリスの侵略に抵抗した。一八四二年、イギリス軍は長江へ侵入し、中国近代史上初の不平等条約である「南京条約」への調印を清朝朝廷に強要した。

第十二期全国人民代表大会第一回会議における演説

（二〇一三年三月十七日）

代表の皆さん

今回の大会で私は中華人民共和国の主席に選出され、代表の方々と全国各民族人民の、私に対する信頼に心から感謝したい。

国家主席というこの崇高な職務を担当することは、栄えある使命であり、重責であることと、私は深く理解している。私は憲法が与えるこの職責を忠実に履行し、祖国と人民に忠誠を尽くし、職務を忠実に尽くし、朝から晩まで公務に従事し、人民のために奉仕し、国のために尽力し、人民の監督を進んで受け入れ、代表の方々と全国各民族人民に託された信頼と重い期待に決して背かない。

代表の皆さん

中華人民共和国は輝かしい歴程をたどってきた。毛沢東同志を核心とする党の第一世代中央指導グループ、鄧小平同志を核心とする党の第二世代中央指導グループ、江沢民同志を核心とする党の第三世代中央指導グループ、そして胡錦濤同志を総書記とする党中央の指導のもとで、全国各民族人民は一致協力して絶えず奮闘し、前進途上にあるさまざまな困難と危険に打ち勝ち、世界の注目を集める輝かしい成果を上げてきた。今日、私たちの人民共和国は意気軒昂たる姿で世界の東方にそびえ立っている。

胡錦濤同志が国家主席を務めた十年間、その豊かな政治的英知と卓越した指導力、勤勉な奉仕精神で、中国の特色ある社会主義の堅持と発展のために卓越した功績を残し、全国各民族人民の心からの敬愛と国際社会の広い称賛を集めた。ここに私たちは、胡錦濤同志に心からの感謝と最大の敬意を表したいと思う。

代表の皆さん

中華民族は五千年を超える連綿と続く文明の歴史を持ち、豊かで奥深い中華文明を築き、人類文明の進歩に不滅の貢献をしてきた。数千年もの世の移り変わりを経て、わが国の五十六の民族、十三億余りの人々をしっかりと結束させたもの、それは、われわれが共に経験してきたなみなみならぬ奮闘であり、共につくり上げた美しい国であり、われわれが共に培ってきた民族精神である。さらに、これらを貫くものの中でさらに重要なものは、われわれが共に堅持してきた理想と信念である。

小康社会を全面的に築き上げ、豊かで強い、民主的で、文明的で、調和のとれた社会主義現代化国家を築き上げるという奮闘目標を達成し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することは、国家の富強、民族の振興、人民の幸福を実現することにほかならない。これは、今日の中国人の理想を十分に具現しているとともに、われわれの先人たちの絶えず進歩を追求する栄えある伝統をも十分に反映している。

滔々たる時代の潮流に直面し、人民大衆のよりよい生活への切なる期待を前にして、われわれには、ほんのわずかな慢心も気の緩みも許されない。われわれは、いっそう努力を積み重ね、勇往邁進し、中国の特色ある社会主義事業を引き続き前進させ、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に向けて引き続き努力・奮闘していかねばならない。

――中国の夢を実現するには、中国の道を歩まなければならない。中国の道とは、中国の特色ある社会主義の道にほかならない。この道にたどりつくのは生易しいことではなかった。それは、三十年以上にわたる改革

開放の偉大な実践の中で導き出された道であり、中華人民共和国建国以来六十年以上にわたる模索の積み重ねの中で導き出された道であり、近代以来百七十年以上にわたる中華民族の発展の歴程を徹底的に総括する中で導き出された道であり、中華民族の五千年以上にわたる悠久の文明を伝承する中で導き出された道であり、そこには奥深い歴史的根源と広範な現実的基盤がある。中華民族は非凡な創造力を持つ民族である。偉大な中華文明を創造してきたわれわれは、これからも中国の国情にふさわしい発展の道を切り開いてしっかりと歩んでいくことができるだろう。全国各民族の人民は、中国の特色ある社会主義の理論と道と制度への自信を深め、正しい中国の道にしっかりと沿って邁進していかなければならない。

――中国の夢を実現するには、中国の精神を発揚しなければならない。中国の精神とは、愛国主義を核心とする民族精神にほかならず、改革・革新を核心とする時代精神でもある。この精神は、人々の心と力を一つに結束させる興国の魂、国家を強くする魂である。愛国主義は一貫して中華民族を固く結束させる精神の力であり、改革・革新は一貫してわれわれが改革開放の中で時代に即して変化発展することを励ます精神の力であった。全国各民族の人民は、こうした偉大な民族精神と時代の精神を発揚し、一致団結する精神の絆、自己向上を怠らない精神力を絶えず強化して、永遠に生き生きと未来へ向かって邁進していかなければならない。

――中国の夢を実現するには、中国の力を結集しなければならない。中国の力とは、中国各民族人民の大団結の力にほかならない。中国の夢は民族の夢であり、中国人一人一人の夢でもある。われわれがしっかりと団結して、みなの心を一つにし、共通の夢の実現に向けて奮闘しさえすれば、夢を実現する力は限りなく強大になり、われわれ一人一人が自分の夢の実現のために払う努力にも洋々たる可能性が開ける。この偉大な祖国で偉大な時代に生きる中国人民は、素晴らしい人生を送るチャンスを共有し、夢を実現するチャンスを共有し、祖国と時代と共に成長し、進歩するチャンスを共有しているのである。夢があり、チャンスに恵まれ、その上

で奮闘すれば、どんな素晴らしいことも実現できる。全国各民族人民は、使命を胸に刻み、みなの心を一つにし、力を合わせて、十三億人の頭脳と力で、何事にも負けない無限の力を集めなければならない。

中国の夢とはつまるところ、人民の夢である。それゆえ、しっかりと人民に依拠して実現されなければならず、絶えず人民に幸福をもたらすものでなければならない。

われわれは党の指導、人民が主人公となること、法律に基づく国家管理という三者の有機的な統一を堅持しなければならない。人民の主体的な地位を堅持し、人民民主を拡大し、法律に基づく国家管理を推進し、人民代表大会制度という基本的政治制度と中国共産党が指導する多党合作と政治協商制度、民族地方自治制度および末端大衆自治制度などの基本的な政治制度を堅持し、整備しなければならない。また、サービス型政府・責任政府・法治政府・清廉な政府をつくり上げることによって、人民の積極性を十分に引き出していく必要がある。

われわれは発展こそ絶対の原理であるという戦略的思想を堅持しなければならない。あくまでも経済建設を中心として堅持し、社会主義経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設を全面的に推進し、改革開放を深め、科学的発展を促し、中国の夢の実現を支える物資的・文化的基盤を絶えず固めていく必要がある。

われわれはいついかなる時も人民の声に耳を傾け、人民の期待に応えなければならない。人民の平等な参与と平等な発展の権利を保障し、社会の公平と正義を擁護し、教育・所得・医療・養老・住居の問題を引き続き改善し、最も広範な人民の根本的利益をしっかり実現、擁護、増大させ、発展の成果をより多くより公平に全国人民に及ぼし、経済・社会の絶え間ない発展を基盤にして、「共同富裕」に向けて着実に前進していかなければならない。

われわれは最も広範な愛国統一戦線を打ち固め、発展させるにあたり、中国共産党と民主諸党派、無党派の

人々との団結と協力を強化し、平等に団結し、互いに助け合い調和のとれた社会主義民族関係を強固にして、発展させるとともに、宗教界の人々と信者の人々が経済・社会の発展を促進する上で積極的な役割を発揮させ、集結可能なすべての力を最大限に集結しなければならない。

代表の皆さん

「功の崇(たか)きは惟れ志なり、業の広きは惟れ勤なり（立派な功績をあげるには志がなければならず、大きな事業を成し遂げるには勤勉に努力を続けなければならない）」[二]という言葉がある。わが国は今もなお、そしてこれからも長期にわたり社会主義の初級段階にある。中国の夢を実現して全国人民により良い生活をもたらす任務は重く、道は遠い。それゆえ、われわれは一人ひとりが勤勉に働き、懸命に努力を続けていく必要がある。

全国の広範な労働者、農民、知識人は、知恵を絞り、勤勉に働き、経済・社会の発展を担う主力軍、新鋭軍としての役割を積極的に発揮しなければならない。すべての政府機関の職員は、私心を捨てて公のために尽くし、清廉を旨として仕事に励み、人民の悩みや苦しみに関心を寄せ、人民のために実のある仕事をしなければならない。中国人民解放軍のすべての指揮官・戦闘員、中国人民武装警察部隊の全将兵は、「党の指揮に従い、戦闘に勝利できる、優れた気風を持つ」という軍隊強化目標に基づいて、使命の遂行力を向上させ、国家の主権と安全、発展上の利益を断固として守り、人民の生命・財産の安全を断固として守らなければならない。全ての非公有制経済の人々とその他の新しい社会階層の人々は、労働による創造精神と創業精神を発揚し、社会に報い、人民に幸福をもたらし、中国の特色ある社会主義事業にふさわしい建設者とならなければならない。そして全国の広範な青少年は、遠大な志を持ち、知識を深め、意志を鍛え、時代の進歩の中で自らの青春を美しく輝かせなければならない。

香港特別行政区の同胞、澳門(マカオ)特別行政区の同胞は、国と香港、澳門の全般的な利益を重んじ、香港・澳門

の長期にわたる安定と繁栄を共に保ち、促進していかなければなならない。広範な台湾同胞と大陸部の同胞は手を携えて、両岸関係の平和的発展を支え、守り、促進するとともに、両岸同胞の幸福を増大させ、中華民族の新たな前途を共に切り開かなければならない。広範な海外同胞は、中華民族の勤勉・善良という優れた伝統を発揚し、祖国の発展促進のため、そして中国人民と所在国の人々との友好増進のために力を尽くすべきである。

中国人民は平和を愛している。われわれは平和・発展・協力・ウインウインの旗印を高く揚げて、平和的発展の道を一貫して歩み、互恵・ウインウインの開放戦略を一貫して実行し、世界各国との友好協力の深化に尽力し、果たすべき国際的責任と義務を履行し、引き続き各国の人民と共に人類の平和と発展という崇高な事業を推進していく。

代表の皆さん

中国共産党は、全国各民族の人民を指導・団結させ、中国の特色ある社会主義の偉大な事業を建設する中核的な力として、歴史的な重任を負い、時代の試練を受けている。それゆえ中国共産党は、「公のための立党、民のための執政」と「党が党を管理し、厳格に党を治める」方針を堅持しなければならず、党建設を全面的に強化し、党の指導力と執政レベルを引きあげ、腐敗を拒み変質を防ぎ、リスクに抵抗する能力を、絶えず向上させなければならない。全ての共産党員、特に党の指導幹部は、理想と信念を堅持し、あくまでも人民を最重視し、党の栄えある伝統と優れた気風を大いに発揚し、形式主義・官僚主義、それに享楽主義・贅沢浪費に断固として反対し、あらゆる消極さや腐敗現象に断固として立ち向かい、共産党員としての政治的本質を永遠に保ち、党と人民の事業のために揺るぐことなく奮闘しなければならない。

代表の皆さん

偉大な目標を達成するには堅忍不抜の努力が必要である。全国各党派、各団体、各民族、各階層、各界の人士は、中国共産党中央委員会を中心にいっそう緊密に結束し、中国共産党第十八回全国代表大会の精神を全面的に貫徹・実行し、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとして、いかなる時も謙虚で慎重な態度で刻苦奮闘し、いかなる時も仕事に専心して鋭意前進し、小康社会の全面的建設と社会主義現代化の推進加速において新たな、より大きな勝利を得て、人類のために新たな、より大きな貢献を重ねていこうではないか。

〔注〕

〔一〕『尚書・周書』を参照。『尚書』は中国古代の歴史文献を集め編纂した書籍で、主に殷（いん）、周時代の統治者たちの話を記録している。『書経』とも呼ばれる。

着実に実践してこそ夢が実現できる

（二〇一三年四月二十八日）

全国模範労働者代表との座談会における談話の一部

われわれはすでに今後の奮闘目標を確定している。それは、中国共産党創立百周年を迎えるまでに、小康社会を全面的に築き上げるという目標と、新中国成立百周年を迎えるまでに、富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げ、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することである。

前進する道は決して平坦ではなく、改革・発展・安定の任務は依然として重く厳しいが、未来に対し、われわれは必勝の確信に満ちている。わが国の労働者階級は必ず中国の道を堅持し、中国の精神を発揚し、中国の力の凝集において模範・手本としての役割を果たし、みなが心を一つにして大きな力を発揮し、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現にたゆまず努力していかなければならない。

人民が歴史をつくり、労働が未来を切り開く。労働は人類社会の進歩を促す根本的な力である。幸福が空から降って来たり、夢がおのずとかなったりすることはありえない。われわれの奮闘目標を達成し、われわれの麗しい未来を切り開くには、しっかりと人民に依拠し、あくまでも人民に尽くすとともに、必ず勤勉な労働、誠実な労働、創造的労働に頼らなければならないのである。われわれはよく「空理・空論は国を誤り、着実な

実践こそ国を興す」と言うが、「着実な実践」とは何よりも地道に働くことなのである。

未来へ邁進する道のりで、労働者階級の重要な役割を十分に発揮し、彼らが歴史において果たしてきた積極的な精神を奮い興し、労働と創造の積極性を引き出さなければならない。

第一に、必ず労働者階級の主力軍としての役割を十分に発揮させなければならない。労働者階級はわが国の指導階級であり、わが国の先進的な生産力と生産関係を代表しており、わが党の最も確固とした、最も信頼できる階級的基盤であり、また、小康社会を全面的に築き上げ、中国の特色ある社会主義を堅持し発展させる主力軍である。

改革開放以来、わが国の労働者階級の隊列は絶えず強大になり、資質は全面的に向上し、構造はさらに最適化され、姿を一新し、先進性が絶えず増強されている。未来を展望してみると、中国の特色ある社会主義を堅持し発展させるには、誠心誠意労働者階級に依拠し、労働者階級の指導階級としての地位を打ち固め、労働者階級の主力軍としての役割を十分に発揮しなければならない。誠心誠意労働者階級に依拠することは、スローガンを唱え、レッテルを貼るだけで成し遂げられるものではなく、党と政府が政策を制定し、仕事を推し進める全プロセスの中で、企業の生産や経営などの各方面で徹底的に実行しなければならない。

第二に、あくまでも労働者階級に依拠し、中国の特色ある社会主義を発展させなければならない。中国の特色ある社会主義は現代中国が発展・進歩すべき根本的な方向であり、中国の夢を実現する上で必ず通らなければならない道であるとともに、わが国の労働者階級を導いてより明るい未来へ向かう上でも必ず通らなければならない道である。わが国の労働者階級は、歴史的使命感と責任感を強め、自らの仕事に立脚しつつ全局を視野に入れ、自発的に自分の人生の理想と家庭の幸せとを国家の富強と民族の復興という偉業の中に融け込ませ、個人の夢と中国の夢とを密接に結びつけ、常に国家の主人公として中国の特色ある社会主義の堅持と発展に貢

献していかなければならない。

わが国の労働者階級は中国の特色ある社会主義の理想と信念をしっかりと打ち立て、永遠に党と共に進む信念を堅持し、社会主義制度と改革開放を断固として擁護し、終始中国の道を堅持する柱にならなければならない。社会主義の中核的価値観〔二〕を積極的に実践し、わが国の労働者階級の偉大な品性を発揚し、先進的な思想と模範的な行動で社会全体に影響を与え、牽引する役割を果たし、中国の精神に絶えず新しいエネルギーを注ぎ、中国の精神を発揚する手本であり続けなければならない。あくまで中華の振興を自らの任務として、偉大な創造力を十分に発揮するとともに、大切なところをわきまえ、大局に気を配るという労働者階級の栄えある伝統を発揚して、自ら進んで安定し団結した政治的局面を維持し、終始中国の力を結集する上での中核とならなければならない。

第三に、労働への尊重を持ち続け、労働者に幸福をもたらし続けなければならない。労働は富の源泉であり、幸福の源泉でもある。誠実な労働によってこそ、世の中の美しい夢は実現され、発展の過程におけるさまざまな難問も乗り越えられ、人生のあらゆる輝きがもたらされるのである。中華民族を創造し、中華民族の輝かしい歴史を育んできた労働は、必ずや中華民族の明るい未来をも切り開くであろう。「勤勉に働けば、この世に難事はない」。それゆえわれわれは必ず、労働こそ最も栄誉なことであり、最も気高く、最も偉大で、最も美しいものであるという意識をしっかりと打ち立て、全人民が労働の情熱をさらに燃やして潜在力をいっそう発揮し、労働を通してよりよい生活をつくり出すようにしなければならない。

社会全体は労働、知識、人材、創造を尊重するという重要な方針を徹底的に実行し、労働者の利益を保護し発展させ、労働者の権利を保障しなければならない。社会の公平や正義を堅持し、労働者が発展に関与し、発展の成果を分かち合うことの障害となるものを取り除き、労働者たちが立派に働き、全面的に発展できるよう

努めなければならない。社会全体が労働を愛し、勤勉に労働することを名誉とし、安逸を貪るのは恥であるとしなければならない。

第四に、模範労働者の精神を大いに発揚し、その役割を発揮させなければならない。よい手本には無限の力がある。模範労働者は民族の精鋭で、人民の鑑である。広範な模範労働者は長年来、平凡な労働で非凡な業績を打ちたて、「仕事を愛して職務に勤勉に励み、一流を目指し、刻苦奮闘して果敢に革新に挑戦し、名利にこだわらず進んで奉仕に徹する」という模範労働者の精神を築き上げ、民族の精神と時代の精神を豊かなものにしてきた。これは、われわれにとって極めて貴い精神的な財産となっている。

われわれの発展目標を達成するには、物質的に強大となるだけでなく、精神面での強化をはかる必要もある。全国各民族人民は、模範労働者を見習い、彼らを手本とし、寸刻を惜しんで努力する奮闘精神を発揚して、中華民族の偉大な復興の実現という壮大な事業に共に身を投じなければならない。広範な模範労働者と先進人物は栄誉を大切にし、努力を重ね、仕事を愛して職務に勤勉に励み、私心なく奉仕し、揺るぎない理想と信念を持つ模範、勤勉に働く模範、団結を固くする模範にならなければならない。現在の労働者たちは力を持つだけでなく、さらに知恵や技術を持ち、発明や革新を行うことができ、実際の行動で時代の主旋律を奏でなければならない。各級の党委員会、政府や労働組合は模範労働者を大いに重視し、彼らに関心を寄せ、彼らが中核として率先する役割を果たすのを支え、生産や生活における問題の解決を助け、模範労働者の先進的な事跡を広範に宣伝し、模範労働者の精神を大いに発揚しなければならない。

党は労働組合に大きな望みを託し、労働大衆も労働組合に大いに期待している。中国の労働組合は中国共産党が指導する労働者階級の大衆組織であり、党と労働者を結びつける懸け橋であり絆であり、社会主義国家政権の重要な支柱でもある。中国の特色ある社会主義の労働組合の発展の道は中国の特色ある社会主義の道の重

要な一部であり、中国の労働組合の性格と特徴を深く反映しており、労働組合組織とその仕事は終始正確な方向に向かって前進していくための重要な保障である。この道を一貫して堅持し、切り開き続け、歩けば歩くほど、この道が広くなるよう努めなければならない。

時代は発展し、事業は革新しつつある。労働組合の仕事にも常に発展・革新が必要となる。時代の要求に順応し、社会の変化に適応し、科学的かつ効果的な仕事の方法を編み出すのを得手としなければならない。労働組合が本当の意味で「労働者の家」であり、労働組合の幹部たちが最も信頼できる「実家の人々」のような存在であると、労働者たちに感じさせなければならない。労働者に真心を尽くして奉仕することを労働組合のあらゆる仕事の出発点・立脚点として、誠心誠意労働者に奉仕し、労働者の要求に真剣に耳を傾け、広範な労働者そして出稼ぎ農民たちの法律に基づく権益を保護し、彼らのためになること、実際的なこと、難問の解決を着実に行い、調和がとれた社会主義労働関係を築き上げていかなければならない。広範な労働者のさまざまな要求を重視し、労働者の成長の可能性を広げ、多数の知識型、技術型、革新型の高資質の労働者の育成に力を入れなければならない。各級の党委員会と政府は労働組合に対する指導を強め、指導方法を改善し、労働組合の仕事の進行をバックアップし、労働組合の仕事により多くの資源と手段を提供し、労働組合が職責を果たすために、より良い条件を整えなければならない。

「千里の道も足元の一歩から」と言われる。わが国の発展の前途はたいへん明るいものであるが、道中常に順風満帆であるはずがなく、青写真が一挙に現実化したり、夢が一夜にしてかなうこともあり得ない。「人間万事は苦難のなかから生まれる」のである。より麗しい未来を手に入れたいと考えるならば、われわれはいっそう大きな努力を払わなければならない。

地道に働いてこそ困難は克服でき、着実に実践してこそ夢は実現できる。地道に働いて着実に実践する好ま

しい気風を、われわれは社会全体で大いに発揚しなければならない。各級の指導幹部は率先して模範労働者の精神を発揚し、実のある政策を出し、身を入れてしっかりと取り組むべきであり、名ばかりで実のない功績を求めてはならない。さらに、幹部や大衆から厳しい批判が出ている「四つの悪風」——形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費の風潮に断固として反対し、身をもって手本を示し、大衆を導いて一つひとつの仕事を着実に進めていかなければならない。

党中央の堅固な指導があれば、わが国の労働者階級と全ての労働者たちが団結して奮い立って前進すれば、そして全国各民族人民が共に奮闘すれば、われわれはより麗しい未来を切り開くことができ、中華民族の偉大な復興という中国の夢が必ず実現できると、私は固く信じている。

〔注〕

〔一〕社会主義の中核的価値観は、二〇一二年十一月に行われた中国共産党第十八回全国代表大会における報告「中国の特色ある社会主義の道に沿って揺るぐことなく前進し、小康社会の全面的実現のために奮闘する」で提起された。基本的な内容は、富強、民主、文明、調和、自由、平等、公正、法治、愛国、勤勉、誠実、友好などである。

中国の夢の実現を目指す生き生きとした実践の中で青春の夢を羽ばたかせよう

（二〇一三年五月四日）

各界の優れた青年の代表との座談会における談話の一部

中国共産党第十八回全国代表大会は、小康社会を全面的に築き上げるという目標と社会主義現代化の加速という壮大な青写真を描き出した上で、「二つの百周年」の奮闘目標〔二〕の達成に向けて邁進しようという時代のスローガンを打ち出した。こうした第十八回党大会の精神に基づいて、われわれは「中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現」を明確に打ち出した。それゆえ今では、みなが中国の夢について語り合う中で、中国の夢と自分との関わりを考え、中国の夢の実現のために自分が果たすべき責任について考えをめぐらしている。

――中国の夢は過去の夢であり、現在の夢であり、未来の夢でもある。中国の夢には、無数の愛国志士のたゆまぬ努力が凝縮され、中国のすべての人々の共通の願いが込められ、国家の富強、民族の興隆、人民の幸福という麗しい展望がはっきりと示されている。

――中国の夢は、国家の夢であり、民族の夢であり、中国人一人一人の夢でもある。国が幸福で、民族が幸福でなければ、みんなが幸福になることはできない。一人一人が麗しい夢のために奮闘してはじめて、中国の

夢を実現する無限の力を結集することができる。

――中国の夢は、私たちの夢であり、何よりあなた方青年の世代のものである。中華民族の偉大な復興は、最終的には、広範な青年が努力をつないでいく中で実現することだろう。

革命の時代、建設の時代、改革の時代のいずれにおいても、中国共産党は一貫して青年を非常に重視し、青年に関心を寄せ、青年を信頼し、青年世代に切なる期待を寄せてきた。中国共産党はこれまで一貫して青年を祖国の未来、民族の希望と見なし、一貫して青年を党と人民の事業の発展を担う強力な新戦力と見なし、一貫して青年が人民の偉大なる奮闘の中で自らの人生の理想を実現できるよう、力添えしてきた。

現在、私たちは歴史上のどの時代よりも中華民族の偉大な復興という目標の実現に近づいており、歴史上のどの時代よりもこの目標を実現する自信と能力を持っている。「百里を行く者は九十里を半ばとす」[二]と言われるように、中華民族の偉大な復興という目標の実現に近づけば近づくほど、私たちは気を緩めることなく、いっそう努力を重ねるとともに、より広範な青年がこの目標の実現のために奮闘してくれるよう、いっそう働きかけていかなければならない。

未来を展望してみると、わが国の青年世代は必ず大きな可能性に恵まれ、かつ必ず大きな成果を上げられるだろう。これは「長江は後の波が前の波を押して流れる」という歴史の法則であり、「新しい世代は古い世代よりも立派になる」という青春の責任でもある。広範な青年は時代に与えられた重責を果敢に担い、志を高く持ち、足を地に着けて着実に取り組み、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現を目指す生き生きとした実践の中で、青春の夢を羽ばたかせるよう努めなければならない。

第一に、広範な青年は必ず理想と信念を打ち固めなければならない。「功の崇(たか)きは惟(こ)れ志なり、業の広きは惟れ勤なり（立派な功績をあげるには志がなければならず、大きな事業を成し遂げるには勤勉に努力を続けな

ければならない)」〔三〕という言葉がある。理想は人生の方向を指し示し、信念は事業の成否を決める。理想と信念がなければ、精神は言わば「カルシウム不足」となり、もろくなってしまう。中国の夢は、全国各民族人民の共通の理想であるとともに、青年世代がしっかりと打ち立てるべき遠大な理想でもある。中国の特色ある社会主義は、われわれ中国共産党が人民を指導して万難を乗り越えながら探し当てた中国の夢の実現への正しい道であるとともに、広範な青年がしっかりと打ち固めるべき人生の信念でもある。

広範な青年は、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観で常に理論武装に励むとともに、理想と信念を、科学理論の理性的認識、歴史の法則に対する正しい認識、そして基本的国情の正確な把握の上に打ち立て、絶えず道と理論と制度への自信を深め、党の指導を堅持する信念を強め、永遠に党にしっかりと従って中国の特色ある社会主義の偉大な旗じるしを高く掲げていかなければならない。

第二に、広範な青年は必ずしっかりとした能力を身に付けなければならない。学習は成長・進歩するための階段であり、実践は能力を伸ばすための道である。青年の資質と能力は、中国の夢を実現する過程に直接影響を及ぼす。昔の人の言葉に、「学は弓弩の如く、才は箭鏃の如し」〔四〕というものがある。その意味は、学問の土台は弓のようなものであり、才能は矢じりのようなものであるから、確かな見識に導かれさえすれば、才能は十分に発揮される、というものである。青年期は学習にとって最良の時期であるため、青年は学習を第一の任務として、学習を一種の責任、精神的追求、生活様式として、「夢は学習に始まり、事業の成否は能力で決まる」という意識を確立し、学習に励んで青春の大航海を乗り切る原動力とし、能力を伸ばして青春の荒波と闘うエネルギーとしなければならない。

広範な青年は、現代化に目を向け、世界に目を向け、未来に目を向けて、知識を新たにすることへの緊迫感を強め、むさぼるように勉強し、基礎知識をしっかりと身に付ける一方で、いち早く新たな知識に更新し、理

論の研鑽に励む一方で積極的に技能を身に付け、時代の発展と事業の要請に応えられる資質と能力を絶えず高めていかなければならない。学んだ知識をあくまでも実際に役立て、末端や大衆の中に深く入り込んで、改革開放と社会主義現代化建設という大きな熔鉱炉の中や社会という大きな学校の中で、本物の能力と知識を身に付け、不可能を可能として、大いに有用で重責に堪える重要な人材になるよう努めなければならない。

第三に、広範な青年は必ず勇気をもって創造・革新に励まなければならない。革新は、民族の進歩の魂であり、国家の繁栄と発展の絶えることのない源泉であり、中華民族の最も深いところにある民族の天性でもある。まさに「苟(まこと)に日に新たにして、日日に新たなり、又た日に新たなり(一日一日と自らを新しくし、また一日一日と新しくし、また新しくする)」[五]という言葉の通りである。因習にとらわれて現状に満足している者や、進取の精神がなく、他力本願の者を、人生がやさしく配慮し、待っていてくれたためしはない。多くチャンスが与えられるのは、革新に秀で、革新に果敢に挑戦する人々なのである。青年は、社会において最も活力にあふれ、最も創造性に富む世代であるからには、創造・革新の先頭に立って進むべきである。

広範な青年は、人の先に立つ勇気を持ち、果敢に思想を解放して時代と共に前進し、あちこちを模索し、新分野を切り開き、先人の事業を受け継ぎ先人を越えていく壮大な志を持ち、個々の青春を燃焼させて青春の国家、青春の民族をつくり上げなければならない。行く手に山があったら道を切り開き、川があったら橋を架ける意気込みで、創造・革新のためならどんな困難にも屈せず、勇敢に突き進んでいかなければならない。本物の知識を探求する姿勢、実践に基づいて真実を求める姿勢を身につけて、個々の役割に立脚した創造・革新を図りながら、絶えず経験を積み重ねて成果をあげていかなければならない。

第四に、広範な青年は必ず刻苦奮闘の志を立てなければならない。「宝剣は磨けば磨くほど鋭くなり、梅花は極寒に耐えてこそかぐわしく香る」と言われる。人類の輝かしい理想は、簡単には実現できない。最初の一

歩の困難や、それに続く長期にわたる刻苦奮闘を経験しなければ、実現できないのである。わが国、わが民族は、積年の貧困と衰退から一歩一歩進んで、今日の発展と繁栄にたどり着いた。それができたのは、幾世代にもわたって人々が粘り強く懸命に努力してきたからであり、中華民族のたゆまず向上をはかる奮闘精神を発揮してきたからにほかならない。われわれは現在、大きな発展のチャンスに直面する一方で、いまだかつてない困難と試練にも直面している。夢は前方にあり、道は足もとにある。強いのは自分に打ち勝てる者であり、成功するのは自分を向上させる者である。われわれの発展目標を実現するには、広範な青年の粘り強い努力が不可欠なのである。

広範な青年は、「空理や空論は国を誤り、実践こそ国を興す」という言葉をしっかりと胸に刻み、個々の役割に立脚して仕事に打ち込み、自ら率先して始め、小さなことから着手し、両手を使って勤勉に働き、一流の業績をあげて、自らの輝かしい人生を実現しなければならない。困難を恐れずそれに挑んで克服し、生活条件の厳しい末端部や国家建設の最前線、重要プロジェクトの最前線に勇気を持って赴き、試練に耐えて自分を鍛え、才能を伸ばさなければならない。果敢に創業に挑み、大胆に突き進んで、改革開放の中で新しい道を切り開き、新しい事業を創り出し、絶えず事業発展の新天地を切り開いていかなければならない。

第五に、広範な青年は必ず気高い品性を養わなければならない。中国の特色ある社会主義は、物質文明と精神文明が全面的に発展した社会主義である。精神力がない民族は自立・進歩することが難しく、文化の支えがない事業は長続きしない。青年は社会の気風をリードする世代である。一つの民族の文化的素養はかなりの程度、青年世代のモラルの水準と精神性に現れる。

広範な青年は、モラルを正しく認識すること、モラルを自主的に身に付けること、モラルを積極的に実践することの三つをしっかり結びつけて、社会主義の中核的価値観を自覚的に確立・実践し、良好な社会の気風を率先

してつくり上げなければならない。思想モラルの修養を強化し、愛国主義・集団主義・社会主義の思想を積極的に発揚し、公衆道徳、職業モラル、家庭モラルを積極的に提唱しなければならない。「善に従うは登るが如し、悪に従うは崩るるが如し（善をなすのは山を一歩一歩登るように大変なのに対し、悪をなすのは山が一気に崩れ落ちるように容易である）」〔六〕の道理をしっかりと心に刻み、人生に対する積極的な姿勢、モラル面の好ましい資質、生活における健全な嗜好を常に保たなければならない。社会文明に新風を吹き込み、率先して雷鋒〔七〕に学び、積極的にボランティア活動に参加し、進んで社会的責任を担い、心から他人に関心を寄せ、貧困脱却扶助や生活困窮者支援、社会的弱者支援や障害者支援に積極的に取り組み、実際の行動で社会進歩を促していかなければならない。

中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために奮闘すること、これは時代によって与えられた中国の青年運動のテーマである。共産主義青年団は、広範な青少年の中に深く入り込んで、「私の中国の夢」という教育・実践活動を展開し、すべての青少年に夢の種をまいて芽生えさせ、より多くの青少年に夢を持つ勇気、夢を追う勇気を持たせ、夢の実現のために努力させ、すべての青少年に中国の夢の実現のために青春の大きなエネルギーを注ぎ込ませねばならない。中国の夢で広範な青少年の共通の思想的土台をうち固め、青少年が正しい世界観・人生観・価値観を確立し、われわれの偉大な祖国、偉大な人民、偉大な中華民族を永遠に心から愛し、しっかりと党に従って中国の道を進むように教育・援助しなければならない。中国の夢で広範な青少年の歴史的責任感を引き出し、「党が呼びかければ、青年団が動く」という栄えある伝統を発揚し、党と国家の活動の大局の中で青年団の活動の切り口と接点を見定め、広範な青少年を組織・動員して改革を支持し、発展を促進し、安定を維持していかなければならない。広範な青少年が夢を実現できるよう積極的に支持し、仕事に取り組む姿勢を着実に改善し、末端部や青年の間に深く入り込み、青年の立場になって青年の考えや要望を把握し、青少年の普遍的な利

益にかかわる要求を代表・擁護し、広範な青少年が成長して社会に役立つ人材となるよう良い環境を積極的に整えていかなければならない。

模範的青年は広範な青少年が見習うべき手本であり、社会的責任と大衆の期待を担っており、青少年にとどまらず社会全体をも促進していく模範として非常に大きな役割を担っている。模範的青年たちがさらに努力を重ね、厳格に自分を律し、鋭意前進して、自分自身の成長過程、精神的追求、模範的言動を通じて、広範な青少年の良い手本となるよう期待する。

青年が栄えれば国も栄え、青年が強くなれば国も強くなる。私たちの党は創立当時からずっと広範な青年を代表し、広範な青年を獲得し、広範な青年に依拠してきた。各級の党委員会と政府は、青年を十分に信頼し、青年に深い関心を寄せ、青年に厳しい要求をするとともに、青年が存分に考えを発揮できる場をさらに広げ、青年が実践と革新に取り組めるようさらに広い舞台を準備し、青年が自己形成・キャリア形成を図ることができるようさらに豊富なチャンスを提供し、青年が大きな成功を収められるようさらに有利な条件を整えていかねばならない。各級の指導幹部は、青年の望んでいることに関心を寄せ、青年の成長を助け、青年の創業を援助するとともに、青年たちの気持ちの分かる人間、青年の活動を熱心に応援する人間にならなければならない。

青春は一生に一回だけである。現在の青春は、燃やして奮闘するもので、後には思い出して懐かしむものとなる。人生の道には、平坦な道もあれば急な坂道もあり、緩やかに流れる川もあれば危険な早瀬もあり、まっすぐな道もあれば曲がった道もある。青年は多くの選択に迫られる。肝心なのは、正しい世界観・人生観・価値観に従って選択することである。人生で成功した人たちの無数の事例から分かることは、青年時代の苦労は得るところが大きく、奉仕の道を選べば人格が陶冶（とうや）される、ということである。青年期に多くの苦労や挫折、試練を経験すれば、その後の人生を順調に歩む上での糧となる。得失に左右されない心理的資質や不撓不屈の

向上心を練磨し、楽観的で前向きな精神状態を保ち、挫折をエネルギーに変え、挫折の中で学んだ教訓を人生の道しるべにして、人生の昇華・超越を得なければならない。要するに、熱く奮闘する青春を送った者だけが、粘り強く全力で闘う青春を送った者だけが、人民のために献身的に青春を送った者だけが、充実した、暖かい、永続する、悔いのない青春の思い出を残すことができるのである。

青年の皆さん、私は次のように確信している。党の指導の下で、全国各民族の人民がしっかり団結し、足を地に着け、積極的に未来を切り開いていけば、今世紀の中葉までには、われわれは必ず富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げ、わが国の広範な青年は必ず全国各民族人民と共に中国の夢の実現に立ち会い、夢の実現の喜びを分かち合うことであろう。

〔注〕

〔一〕「二つの百周年」の奮闘目標というのは、中国共産党第十八回全国代表大会で提出された中国の特色ある社会主義を建設する奮闘目標のことで、具体的には、中国共産党の創立百周年の際の小康社会の全面的な実現と、新中国成立百周年の際に富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築きあげることを指す。

〔二〕『戦国策・秦策五』を参照。原文は「行百里者、半於九十」。『戦国策』は戦国時代の縦横家遊説家の計略や言説を編纂した書物。

〔三〕本書中の「第十二期全国人民代表大会第一回会議における演説」の注釈の〔二〕を参照。

〔四〕袁枚の『続詩品・尚識』を参照。原文は「学如弓弩、才如箭簇」。袁枚（一七一六〜一七九七）は清代の詩人・評論家で、銭塘（現在の浙江省杭州）出身。『続詩品』は詩論を記した袁枚の主要著書である。

〔五〕『礼記・大学』を参照。『大学』は中国古代の儒学の経書の一つであり、主に個人の道徳修養と社会的管理との関係を論じている。もともと『礼記』の一篇であり、宋代に『礼記』から独立させ、『中庸』『論語』『孟子』と合

わせて四書とされた。

〔六〕『国語・周語下』を参照。左丘明によって著されたという。西周・春秋時代に発生した重要な出来事を記録したものである。

〔七〕雷鋒（一九四〇～一九六二）、湖南省望城県出身。中国人民解放軍の模範兵士とされる人物。誠心誠意人民に奉仕し、人を助け、仕事を愛した。不幸にも事故で殉職したが、一九六三年、毛沢東が「雷鋒同志に学ぼう」と題する文章を発表し、全国的に運動が展開された。毎年三月五日は中国の「雷鋒に学ぶ日」と定められている。

中国の夢の実現は中国人民に幸福をもたらすだけでなく世界の人々にも幸福をもたらすものである

（二〇一三年五月）

トリニダードトバゴ、コスタリカ、メキシコのラテンアメリカ三カ国のメディアによる共同書面インタビューに寄せた回答の一部

中華民族は度重なる苦難を経てきたが、終始自らの向上に励み、美しい夢の追求をやめたことは一度もない。中華民族の偉大な復興を実現するという中国の夢は、近代以来、中華民族の宿願であり続けている。

新しい歴史的時期における中国の夢の本質は、国家の富強、民族の興隆、人民の幸福を実現することである。私たちの奮闘目標は、二〇二〇年までに国内総生産（ＧＤＰ）と都市・農村住民一人当たりの所得・収入を二〇一〇年の二倍にし、小康社会を全面的に築き上げることであり、また今世紀の中葉までに、わが国を富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家に築きあげて、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することである。

中国の夢を実現するには、中国の特色ある社会主義の道を堅持しなければならない。われわれはこの道をすでに三十年以上歩んできた。歴史が証明しているように、この道は中国の実情に合致した「富民強国（人民を豊かにし、国を強くする）」の正しい道である。それゆえ、われわれは揺るぐことなくこの道に沿って歩んでいく。

中国の夢を実現するには、中国精神を発揚しなければならない。愛国主義を核心とする民族精神と、改革・革新を核心とする時代の精神で、民族全体の「気力」を奮い立たせていかなければならない。

中国の夢を実現するには、中国の力を結集しなければならない。「空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す」。われわれは十三億の中国人の英知と力、中国人の幾世代にもわたるたゆまぬ努力によってわが国をしっかりと建設し、我が民族をしっかりと発展させなければならない。

中国の夢を実現するには平和的発展を堅持しなければならない。われわれは終始変わることなく平和的発展の道を歩み、終始変わることなく互恵・ウインウインの開放戦略を実行して、中国自らの発展に努めるだけでなく、世界への責任と貢献も強調し、中国人民に幸福をもたらすだけでなく、世界の人々にも幸福をもたらしていく。中国の夢の実現が世界にもたらすのは平和であって、世界情勢の不安定ではなく、チャンスであって、脅威ではない。

中国とラテンアメリカは広い海を隔てているが、われわれの心は通じあっている。われわれは深く厚い伝統的な友情、緊密な共同利益で結ばれているだけでなく、共に美しい夢を追っているという点でも結ばれている。

近年、ラテンアメリカやカリブ諸国の地域統合がたえず新しい進展を見せている。ラテンアメリカやカリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）の発足は、ラテンアメリカ独立運動の先駆者たちが提唱した連帯協力、共同発展という夢の実現をラテンアメリカが積極的に促していることを余すところなく示している。

中国はラテンアメリカ・カリブ諸国と緊密に連帯し、支え合い、誠意をもって協力し、発展・繁栄という美しい夢の実現に向かう道を手を携えて前進することを願っている。

創造・革新は時宜にかない夢の実現を図ることも時流にかなうものである

（二〇一三年十月二十一日）

欧米同学会（二）設立百周年記念大会におけるスピーチの一部

小康社会を全面的に築き上げ、社会主義現代化を推し進め、中華民族の偉大な復興を実現することは、栄えある偉大な事業であり、燦然と輝く未来図である。この偉大な事業を志すものは誰でも大いに腕をふるうことができる。十数億もの中国人民が肩を並べて大いなる道のりを進んでいる中で、広範な留学経験者の皆さんが創造・革新を行うことは時宜にかない、夢の実現をはかることは時流にかなうものである。広範な留学経験者の皆さんには、愛国の情、国家富強への志、報国の行動を一つに結び付けて、中国の夢の実現に向けた人民の壮大な奮闘の中に自分の夢を融け込ませ、中華民族の偉大な復興という輝かしい歴史の記録に自らの名前を残していただきたい。

この場で、広範な留学経験者の皆さんに四つの期待を示したいと思う。

第一に、愛国主義精神を堅守していただきたい。中華民族の数千年にわたる長い発展の歴史の流れにおいて、愛国主義は一貫して人々を奮い立たせる主旋律であり続け、たゆまず自分を向上させようとするわが国の各民

族人民を励ます大きな力であり続けてきた。木の影がどれだけ長くなろうとも、その根は地中にしっかりと張っているものである。そのように、留学経験者の皆さんには、どこにいようとも、祖国と人民のことを常に念頭に置いていただきたい。銭学森〔二〕が言ったように、「中国の科学技術分野に従事する一員として、生きる目的は人民に奉仕することである。もし私が一生をかけてやってきた仕事が人民に認められれば、それこそ最高のご褒美である」。

広範な留学経験者の皆さんには、留学して祖国に報いるという栄えある伝統を引き継いで発揚し、愛国主義の思想を堅持しかつ伝え広め、「天下の憂えに先んじて憂え、天下の楽しみに後れて楽しむ」〔三〕という人生の理念を貫き通し、終始国家の富強、民族の興隆、人民の幸福をめざして努力し、愛国主義という常緑樹に各自の成果をどんどん実らせていっていただきたい。党と国は広範な留学経験者の選択を尊重している。帰国して働くのならば、われわれは両手を広げて歓迎し、海外に滞在しても、さまざまな形で祖国に貢献することをバックアップする。どこにいても、皆さんは中華民族の一人で、祖国と人民は終始皆さんのことを気にかけており、祖国が皆さんの温かい精神の家であり続けることを銘記していただきたい。

第二に、皆さんは勤勉に学習することを志していただきたい。学習は立派に生きるための永遠のテーマであり、国に報い、人民に奉仕するための重要な基盤である。夢は学習から始まり、事業は実践から進み始める。知識や情報がどんどん新たになる今日の世界では、学習を少し怠っただけでも時代遅れになってしまう。人間一人ひとりの世界を一つの円に例えるなら、その半径は学習であり、半径が大きければ大きいほど、その人の世界は広がると、ある人は言っている。

広範な留学経験者は現代化に向けて、世界に向けて、そして未来に向けて頑張っていただきたい。国際の先進的な知識、技術、管理経験の習得に狙いを定め、韋編三絶（いへんさんぜつ）〔四〕、懸梁刺股（けんりょうしこ）〔五〕の根性で、鑿壁偸光（さくへきとうこう）〔六〕、嚢蛍映（のうけいえい）

雪[七]の意気込みで、学習の半径を拡大してほしい。本を読むことはもちろん、社会からも知識を獲得し、道徳モラルを鍛え磨き、本物の知識と才能といかなる試練にも耐え得る技量を身につけるよう務めてもらいたい。学業を終えた留学経験者の皆さんも、視野と見聞を広め、知識のリニューアルを加速し、知識構成を最適化したうえで、重任に堪え得る優れた人材になるよう努めなければならない。

第三に、留学経験者の皆さんは革新・創造に励んでいただきたい。革新は民族の進歩の要でもあり、国家の興隆と発展の無限の原動力でもあり、中華民族の根本をなす民族の天性でもある。激しい国際競争の中で、革新者のみが進歩し、革新者のみが強くなれ、革新者のみが成功できる。留学経験者の皆さんは視野が広いため、革新の最先端を歩むべきである。祖国の改革開放と社会主義現代化建設の熱烈なプロセスは、革新・創造に志し大きな事業をやり遂げようとするすべての人々に広大な舞台を提供するものである。

広範な留学経験者の皆さんは積極的に革新・創造の実践に身を投じていただきたい。人の一歩先を行く大胆な試みを恐れず、絶えず粘り強く模索し、最新のブームを知り、ブームを切り開き、ブレークスルーを求め、発展して功績を残していただきたい。中国の大地で功績を残したいなら、重要なのは、祖国の大地をしっかり踏みしめて人民の願いを念頭に置きながら、自分の専門上の強みと社会の発展との接点を見つけ、自分の先進的知識とわが国の実情との接点を見つけて、自分の創造・革新を中国に根を下ろさせ、花を咲かせ、実を結ばせることである。

第四に、留学経験者の皆さんは積極的に中外交流を促進していただきたい。中国の発展は世界と無関係ではいられない。世界の繁栄にも中国の力が必要である。われわれはより開放的な態度で、世界とのつながりと交流を強め、世界各国の人々との理解と友情を深めなければならない。広範な留学経験者たちは中国国内で成長した経歴を持つばかりでなく国外での生活経験もある。国内外の広い人脈を持つばかりでなく豊富な異文化交

流の経験もある。多数の外国人は留学経験者の皆さんによって中国を知り、中国を理解している。一方で、多くの中国人が皆さんから世界を知り、そして世界を理解するのだ。

広範な留学経験者は自分の強みを発揮し、国外との結び付き・協力を強めて、中外交流のための懸け橋となっていただきたい。皆さんは国内外の友好交流を促進する民間の大使となり、外国人が耳を傾け、理解し、納得してもらえる道筋と方法を用いて中国の物語を上手に語り、中国の声を上手に伝え、世界の中国に対する理解と力添えを大きくするよう努めていただきたい。

欧米同学会は百年前、中華民族が危難にさらされている時に成立し、成立当初から愛国思想を積極的に実践して、会員を組織して愛国民主運動に参与し、民族の危急を救い、人民を解放する事業に身を投じ、当時の民主を追い求め、科学を尊ぶ愛国の社会団体となった。新中国が成立した後には、欧米同学会は海外にいる留学経験者の帰国を働きかけ、党と政府の指導下の先進的な社会団体となった。改革開放以来、欧米同学会は「報国計画」の実行に力を入れ、中国の特色ある社会主義事業に専念する大衆団体となった。二〇〇三年、中央政府の承認を得て、欧米同学会は「中国留学人員連誼会」という組織名を新たに追加し、仕事の範囲が全国に広がり、対象は世界に拡大し、広範囲にわたる影響力を持つ人民団体になりつつある。

新情勢下における新たな任務の前で、欧米同学会・中国留学人員連誼会は、大衆を代表する力、ハイレベルの知識、統一指揮されているという特徴と長所を発揮し、国内に立脚し、海外を開拓し、留学して国に報いる人材バンク、建言・献策のシンクタンク、民間外交を実践する新鋭軍になるべく努力しなければならない。そして、党が広範な留学経験者と結びつく懸け橋や絆、党と政府が留学人員に関する業務を順調に進めるためのアシスタント、広範な留学経験者のホームになるよう努め、広範な留学経験者を党の周りに緊密に結集しなければならない。留学経験者の仕事、学習、生活に関心を寄せ、彼らの願望や要求を伝達し、合法的権益を守り、

彼らを引きつけ、結集させる力をつねに増強しなければならない。

「賢を尊ぶこそ政の本なり（人材を尊重することこそ政治の根本である）」〔八〕各級の党委員会と政府は、党と国家の留学経験者に関する方針や政策を徹底的に実行し、わが国の改革開放と社会主義現代化国家建設がすぐにでも必要としている各レベル、各種の人材をより大規模に、より効果的に育成しなければならない。環境がよければ、人材は集まり、事業が盛んとなる。環境が悪くなると、人材は流失し、事業は衰えてしまう。健全な仕事のメカニズムをつくりあげ、サービス精神を増強し、教育と指導を強め、革新の受け皿をつくりあげ、人材の発見・結集・利用に努め、留学経験者が帰国して仕事し、国に奉仕するためのよい環境をつくり、優れた人材がおのずと頭角を現すように促さなければならない。欧米同学会・中国留学人員連誼会の仕事に関心を寄せ、バックアップし、組織づくりに力を入れ、業務機構を健全化し、業務従事者の人数を増やし、彼らが仕事を順調に進められるよう条件を整えなければならない。

発展途中の中国はより多くの海外人材が必要である。開放的な中国は世界各地からの人材を歓迎する。広範な留学経験者たちは「空理・空論は国を誤り、実践こそ国を興す」という言葉を銘記し、人民と同じ場所に立ち、人民と一緒に奮闘しさえすれば、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するための、時代に恥じない、人民に恥じない、歴史に恥じない輝かしい一章を書き添えることができると、われわれは信じている。

〔注〕

〔一〕 欧米同学会は一九一三年十月に設立された、海外各国から帰国した留学経験者が自発的に作り上げた団体であり、二〇〇三年には「中国留学人員連誼会」という名前もつけ加えられた。

〔二〕銭学森（一九一一～二〇〇九）、浙江省杭州市出身。一九三五年にアメリカへ留学し、一九五五年に帰国。中国国防科学技術工業委員会の副主任、中国科学技術協会主席などの職務を歴任した。中国のロケット、ミサイル、人工衛星の研究・製造や実験に直接参加し、組織・指導した。中国の宇宙飛行事業の発展に卓越した貢献をした人物である。

〔三〕范仲淹の『岳陽楼記』を参照。范仲淹（九八九～一〇五二）、蘇州呉県（現在の江蘇省蘇州市）出身。北宋の政治家、文学者。

〔四〕孔子は晩年『易経』を愛読し、何回も繰り返し読んだため、竹簡をとじた革ひもが三回も切れたという。ここから勤勉に勉強するたとえとなった。『史記・孔子世家』を参照。

〔五〕漢代の孫敬は学問に打ち込み、自らを眠らせないために首に縄を結んで天井の梁にかけたという。さらに戦国時代の蘇秦は夜遅くまで読書をし、眠くなると、きりでふとももを刺して眠気を払ったという。ここから、一心に勉強することのたとえとなっている。『楚国先賢伝』と『戦国策・秦策一』を参照。

〔六〕前漢の匡衡は勤勉かつ好学な人だったが、家が貧しかったため、ろうそくを買うお金さえなかった。隣人の家ではろうそくをつけているので、匡衡は壁に穴を開け、そこからもれてくる明かりで勉強した。ここから、苦労をいとわず勉強に励むことのたとえとなった。『西京雑記』を参照。

〔七〕東晋の車胤は、本を読むことが好きだったが、家が貧しく灯油が買えなかったので、夏に蛍をたくさん集めて袋に入れ、その光で勉強したと言われる。南朝の孫康は家が貧乏で、ろうそくが買えなかったため、冬に雪によって反射された月光を利用して読書したとされる。ここから、苦労して勉学に励むたとえとして使われるようになった。『晋書・車胤伝』と『孫氏世録』を参照。

〔八〕『墨子・尚賢上』を参照。『墨子』は墨家の作品をまとめたもの。

中華民族の偉大な復興の実現は国内外の中国人の共通の夢である

（二〇一四年六月六日）

第七回世界華僑・華人社団聯誼大会の代表との会見での談話の要旨

団結し統一された中華民族は国内外の中国人の共通のルーツであり、広くて奥深い中華文化は国内外の中国人の共通の魂であり、中華民族の偉大な復興の実現は、国内外の中国人の共通の夢である。共通のルーツはわれわれの情を深くし、共通の魂はわれわれの心を相通じさせ、共通の夢はわれわれの心を一つにしている。われわれはかならずや中華民族の発展の新たな一章を共に書き記すことになるだろう。

同郷人が同郷人に会ったとき、涙が溢れ、とても親近感を感じる。私は中国共産党中央、国務院を代表して、第七回世界華僑・華人社会団体の親睦大会の開催に心からの祝意を表し、大会に参加した海外の同胞たちを熱烈に歓迎し、世界各地の華僑・華人に心からのあいさつを送りたい。

世界各地には数千万の海外同胞がおり、みな共に中華大家族のメンバーである。長期にわたって、一代また一代の海外同胞が、中華民族の優れた伝統を受け継ぎ、祖国を忘れることなく、父祖の地を忘れることなく、体に流れる中華民族の血を忘れることなく、中国の革命、建設、改革の事業を積極的にサポートし、中華民族

の発展・成長、祖国の平和統一という偉業の促進、中国人民と各国人民の友好協力の増進のために重要な貢献を果たしてきた。祖国の人民は広範な海外同胞の功績を永遠に銘記することであろう。

現在、中国人民は「二つの百周年」の奮闘目標を実現しようとしており、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現のために奮闘している。この偉大なプロセスの中で、広範な海外同胞は他には換え難い重要な役割を発揮するに違いない。中国の夢は国家の夢であり、民族の夢であり、中華民族のすべての人の夢でもある。広範な海外同胞は誠実な愛国心、強力な経済力、豊かな知恵、幅広いビジネス面の人脈があり、これは中国の夢を実現する重要な力となるだろう。国内外の中華の血を引く人々がしっかりと結束し、力があるものは力を提供し、知力があるものは知力を提供し、心を一つにして奮闘したら、夢を実現するに足る強大な力となるに違いない。

中華文明は五千余年の長い歴史を持っており、中華民族がうまずたゆまず努力し、発展するための強大な精神力となっている。われわれの同胞はどこに暮らしていても、体には鮮明な中華文化の烙印が押されており、中華文化は中華民族の共通の精神的遺伝子である。皆さんが中華文化を引き続き発揚し、その中から自らの精神力をくみ上げるだけでなく、また、中国と外国文明の交流、相互参考を積極的に推進し、中国の物語をうまく語り、中国の声をうまく伝え、中国と外国の民衆の相互理解を促進し、中国の夢を実現するために良好な環境をつくり上げることを願っている。

中国の夢は中国人民が幸福を追求する夢であるだけでなく、各国人民が幸福を追求する夢とも通じ合っている。国と民族が繁栄しなければ、みなが幸福になることはできない。世界が繁栄しなければ、中国が幸福になることはできない。中国が平和発展の道を堅持することは、世界の繁栄・発展にもプラスのエネルギーをもたらす。広範な海外同胞は自らの長所や条件をうまく用いて、積極的に所在国と中国の各分野の交流と協力のための条件をつくりあげ、現地の社会にさらに良く融け込んで、そこへのフィードバックを行い、世界の平和と発展を促進するために絶えず新たな貢献をしなければならない。

第三章
改革の全面的深化

改革開放には進行形があるのみでこれで終わりということはない

（二〇一二年十二月三十一日）

第十八期中央政治局第二回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

改革開放は長期にわたる入り組んだ至難の事業なので幾世代にもわたって引き継いでいかなければならない。社会主義市場経済改革の方向を堅持し、対外開放の基本国策を堅持し、さらなる政治的勇気と英知をもって、時機を逸せず重要分野の改革を深化させ、中国共産党第十八回全国代表大会で指示された改革開放の方向に向かって勇気を奮い起こして前進しなければならない。

歴史、現実、未来は通じ合っている。歴史は過去の現実であり、現実は未来の歴史である。第十八回党大会で定められた改革開放についての重要な配置を着実に実施するには、改革開放のプロセスを真剣に回顧し深く総括し、改革開放の歴史的必然性をさらに深く認識し、改革開放の法則をさらに自発的に把握し、改革開放を深化する重責をさらに揺るぎなく負わなければならない。

改革開放の成功経験を真剣に総括し運用しなければならない。第一に、改革開放は深みを持った革命であるから、必ず正しい方向を堅持し、正しい道に沿って進めなければならない。方向の問題では、われわれは必ず

冷静さを保ち、絶えず社会主義制度の自己改善と自己発展を推し進め、揺るぎなく中国の特色ある社会主義の道を歩まなければならない。第二に、改革開放は、これまで人類が取り組んだことのない全く新しい事業であり、必ず正しい方法論を堅持し、たゆまず実践と模索を重ねながら推し進めていかなければならない。「川底の石を探りながら川を渡る」のは、中国の特色に富み、中国の国情に合致した改革の方法である。「川底の石を探りながら川を渡る」とは、法則を探ることにほかならず、実践から正しい認識を得ることである。「川底の石を探りながら川を渡る」こととトップダウン設計の強化とは、弁証法でいう対立物の統一である。ゆえに、局部的で段階的な改革開放の推進はトップダウン設計の強化を前提にして行われなければならず、トップダウン設計の強化は局部的で段階的な改革開放の推進に基づいて計画されなければならない。われわれはマクロ思考とトップダウン設計を強化し、改革の系統性・全体性・協調性をいっそう重視していく必要があり、同時に、引き続き大胆な試みや突破を奨励し、絶えず改革開放を深めていく必要もある。第三に、改革開放はシステマチックな事業であり、必ず全面的な改革を堅持し、諸般の改革を相互に調和させながら推し進めていかなければならない。改革開放は、根本的かつ全面的な社会変革であり、一つ一つの改革が他の改革に重要な影響を与える可能性があり、かつ、他の改革との調和を必要とする。われわれは各改革の相互促進、プラスの相互作用をいっそう重視し、全体的に推し進め、重点分野で突破を遂げて、改革開放を推し進める一丸となった大きな力を形成しなければならない。第四に、安定は改革・発展をはかるための前提である。改革・発展・安定の統一を堅持しなければならない。社会を安定させてこそ、改革と発展を絶えず推し進めることができるのである。改革と発展を絶えず推し進めてこそ、社会の安定は確実な基礎を備えることができるのである。われわれは、あくまで改革の度合いと発展のスピードと社会の受容可能レベルとを統一し、人民の生活の改善を改革・発展・安定の関係を処理する上での接点としなければならない。第五に、改革開放は十数億の人民自らが行う事業であ

るから、必ず人民の創造精神を尊重することを堅持し、党の指導の下で推し進めることを堅持しなければならない。改革開放の認識と実践における突破と発展、改革開放における新たなものの発生とその発展、改革開放の各方面の経験がつくり出し、積み重ねてきたものは、いずれも十数億の人民の実践と英知からきたものなのである。改革・発展・安定の任務が重くなればなるほど、われわれは党の指導を強化・改善しなければならないだけでなく、党と人民大衆との血肉のつながりを保って、正しい路線・方針・政策の提起・貫徹を通じて人民を導き、前進することに長じ、人民の実践的創造と発展の要請に応じて政策・主張を完全なものにしていくことに長じなければならない。そして、改革・発展の成果をより多く、より公平に全人民にもたらし、改革開放を深化する上での大衆面での土台を絶えず固めなければならない。

改革開放には進行形があるのみで、これで終わりということはない。改革開放がなければ、中国の今日はなく、中国の明日もない。改革開放における矛盾は改革開放という方法でしか解決できない。われわれは第十八回党大会の精神を全面的に貫徹し、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとすることを堅持し、改革開放の深化に対する人民大衆の強烈な要望と切実な期待に積極的に応え、社会の共通認識を結集し、各分野各部分の改革を協調的に推進し、改革開放を前へと推し進めるよう努めなければならない。

『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定』についての説明

（二〇一三年十一月九日）

第十八期三中全会における説明

中央政治局の委託を受け、私はここで全体会議に向けて『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定』について説明する。

一、三中全会の『決定』起草の経緯について

改革開放以来、各期中央委員会第三回全体会議（以下、三中全会と略す）がどのような議題を検討し、どのような決定を行い、どのような措置を取り、どのようなシグナルを発するかは、人々が新しい中央指導グループの施政方針や活動の重点を判断するにあたっての重要なよりどころであり、その五年ないし十年間の活動にしっかり取り組む上で重要な意義を持つものである。

中国共産党第十八回全国代表大会の後、中央はすぐに第十八期三中全会の議題の検討に着手した。第十八回党大会では小康社会の全面的建設と改革開放の全面的深化という目標を掲げた。そこでは、必ずやいっそう大

きな政治的勇気と英知をもって、機を逸することなく重要分野の改革を行い、科学的発展をさまたげるすべての思想意識や体制・仕組みの弊害を断固として打破し、各方面の制度がさらに成熟し、定着するように、システムが整い、科学的・規範的で、効果的に運用できる制度体系を構築しなければならないことを強調した。われわれは、第十八回党大会で提起された各戦略目標と活動計画を達成するには、必ず全面的改革の推進を急がなければならないと考えている。

党と国家の活動の中心を経済建設に移して改革開放を実行するという歴史的決定を党の第十一期三中全会〔一〕が打ち出してからすでに三十五年になる。中国人民の姿、社会主義中国の姿、中国共産党の姿がこのように大きく変わり、わが国は国際社会において大きな影響力のある重要な地位を勝ち取った。これができたのは、改革開放をたゆまず推し進めてきたからにほかならない。

一九九二年に鄧小平同志は南方を視察した際の談話の中で、「社会主義を堅持せず、改革・開放を行わず、経済を発展させず、人民の生活を改善しなければ袋小路に陥るだけである」〔二〕と述べた。いま振り返ってみると、われわれには鄧小平同志のこの言葉がいっそう深く理解できる。だから、われわれは、社会主義こそが中国を救うことができ、改革開放こそが中国を発展させ、社会主義を発展させ、マルクス主義を発展させることができると言うのだ。

まさに歴史的経験と現実からの要請という次元から、党中央は第十八回党大会以来、改革開放は現代中国の運命を決定づける切り札であり、「二つの百周年」（中国共産党創立百周年と新中国成立百周年）の奮闘目標の実現、中華民族の偉大な復興の実現を決定づける切り札であると繰り返し強調してきた。実践の発展には永遠に終わりがなく、思想の解放には永遠に終わりがなく、改革開放にも永遠に終わりがない。足踏みや後戻りに活路はなく、改革開放には進行形のみがあって、完了形はない。新たな情勢、新たな任務を前にして、われわれは必ず

や改革の全面的深化を通じて、わが国の発展が直面する一連の際立った矛盾と問題の解決に力を入れ、わが国の特色ある社会主義制度の自己改善と自己発展を絶えず推し進めていかなければならない。

現在、国内外とも環境がきわめて広く深く変わってきており、わが国の発展は一連の際立った矛盾と試練に直面し、行く手にはなおも少なからぬ困難と問題が横たわっている。例えば、◇発展における不均衡・不調和・持続不可能という問題が依然として際立っている、◇科学技術革新の能力が弱い、◇産業構造が不合理である、◇発展パターンが依然として粗放型である、◇都市・農村間および地域間の発展の格差と住民の所得分配の格差が依然としてかなり大きい、◇社会的矛盾が明らかに増えている、◇教育、雇用、社会保障、医療・衛生、住宅、生態環境、食品・医薬品安全、労働安全、社会治安、法執行・司法などの面で大衆の切実な利益にかかわる問題がかなり多い、◇一部の人々が生活に困っている、◇形式主義・官僚主義・享楽主義・贅沢浪費の風潮の問題が際立っている、◇消極腐敗現象が発生しやすい分野や多発している分野がある、◇反腐敗闘争の情勢が依然として厳しい、などの問題がある。これらの問題を解決するカギは、改革の深化にある。

今年四月、中央政治局は深く掘り下げた思考と検討を行い、党内外の各方面の意見を広く聴取した上で、党の第十八期三中全会において改革の全面的深化の問題を検討し、問題検討に関する決定を行うことを決定した。

四月二十日、党中央は「党の第十八期三中全会で改革の全面的深化について検討することに対し意見を徴する通達」を出した。各地区・各部門はいずれも、党の第十八期三中全会が改革の全面的深化を重点的に検討することは、広範な党員、幹部、大衆の願いにかなっており、社会全体が最も関心を寄せる問題をとらえているとして、広く賛意を表した。

改革開放以来、各期三中全会はいずれも改革の深化について検討し、いずれも重要なシグナルを発してきた。すなわち、わが党は断固として改革開放の旗印を高く掲げ、断固として党の第十一期三中全会以来の理論や路線、

方針、政策を堅持するということだ。これはつまるところ、新たな歴史的条件の下でどんな旗印を掲げ、どんな道を歩むのかという問いに答えるためであった。

党の第十八期三中全会が改革開放の全面的深化を主要議題としたことは、わが党が鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を常に導きとして、新たな情勢の下で党の基本路線・基本綱領・基本的経験・基本的要請を揺るぐことなく貫徹し、改革開放の大きな旗印を揺るぐことなく高く掲げていくという重要な宣言、重要な姿勢である。

議題の確定後、中央政治局は文書起草グループの設置を決めた。私がリーダーを務め、劉雲山〔三〕同志、張高麗〔四〕同志がサブリーダーとなり、関連部門の責任者、一部の省・直轄市の指導者が参加し、中央政治局常務委員会の指導の下で三中全会の『決定』の起草作業に取り組んだ。

文書起草グループの成立後、七カ月近くの時間をかけて幅広く意見を求め、特定のテーマについて論証を重ね、調査研究を進め、繰り返し討議・修正を行ってきた。その間、中央政治局常務委員会は三度、中央政治局は二度にわたってそれぞれ『決定』について審議するとともに、『決定』に関する意見聴取文案を党内の一定範囲に配布し、党内の古参同志の意見を求め、また特に各民主党派中央、全国工商連合会の責任者、無党派人士の意見の聞き取りを行った。

フィードバックされた状況から見て、各方面は次のような認識で一致した。三中全会の『決定』は、わが国の改革発展と安定が直面する重要な理論と実践の課題を掘り下げて分析し、改革の全面的深化の持つ重要な意義と未来への方向付けを明らかにしている。また、改革の全面的深化の指導思想、目標・任務、重要な原則、改革の全面的深化の新しい青写真、新たなビジョン、新たな目標を提起するとともに、改革の全面的深化に関する新思想、新論断、新措置を集約し、社会の声、要請、期待を反映し、全党と社会全体の改革の全面的深化

についてのコンセンサスと行動、英知を結集したものである。

各方面はさらに次のような認識で一致した。三中全会の『決定』は、改革の全面的深化の戦略的重点、優先順位、主力を傾ける方向、活動の仕組み、推進方式とタイムテーブル、ロードマップを合理的に配置し、改革の理論面と政策面で一連の新たなブレークスルーを成し遂げた。これは改革の全面的深化に再度総合的布石と総動員を行うもので、必ずや中国の特色ある社会主義事業の発展を推進する上で重要かつ深遠な影響を及ぼすに違いない。

意見聴取の過程で、各方面から多くの素晴らしい意見や提案が寄せられた。党中央は同文書起草グループがこれらの意見や提案を真剣に整理、検討するよう求め、文書起草グループは三中全会の『決定』に対し重要な修正を行った。

二、三中全会の『決定』の全般的枠組みと重点課題について

中央政治局は、次のように考えている。新たな情勢、新たな任務、新たな要請を前にして、改革を全面的に深める上でカギとなるのは、さらに公平な競争を確保する発展環境を形成し、社会・経済の発展の活力をより向上させること、政府の効率と効果をより向上させること、社会の公平と正義をさらに実現し、社会の調和と安定をさらに促進し、党の指導水準と政権担当能力をさらに向上させることである。

こうした重要な課題をめぐり、われわれは強い問題意識を持ち、重要問題の解決を求めて、カギとなる問題をとらえてさらに深く考えて検討し、わが国の発展が直面している一連の際立った矛盾と問題の解決の促進に力を入れるよう強調した。われわれ中国共産党の党員は革命を成し遂げ、建設を行い、改革に取り組んできたが、これまでもすべて中国の実際問題を解決するためだった。改革は問題に迫られて生まれ、また問題を解決し続

ける中で深化していくものだとも言える。

三十五年にわたって、われわれは改革という方法で党と国家の事業の発展における一連の問題を解決してきた。同時にまた、世界を認識し改造する過程では、一つの問題が解決すればまた新しい問題が発生し、制度は常に改善していかなければならない。従って改革は一挙に成し遂げられるものではなく、一度苦労すればあとは楽になるといったものでもない。

三中全会の『決定』の起草にあたっては、五つの面での考えを強く打ち出している。（一）党と国家の事業の発展の新たな要請に応え、第十八回党大会が提起した改革開放の全面的深化という戦略的任務を着実に実行に移す。（二）改革を主軸とし、改革の全面的深化についての新たな措置を際立った位置に置き、一般的な措置、重複的な措置、発展のためのみの措置は盛り込まない。（三）重点をしっかりとらえ、人民大衆の不満が強い問題をめぐっては、人民大衆の声と期待に応え、重要な分野とカギとなる部分を際立たせ、経済体制改革牽引の役割を突出させる。（四）積極的かつ慎重にことを運ぶことを堅持する。改革措置を構想する場合、大胆かつ着実でなければならない。（五）期限を二〇二〇年までとし、この期間に照準を合わせて改革の任務を提起し、二〇二〇年までに、重要な分野とカギとなる部分の改革において決定的な成果を勝ち取るものとする。

枠組みの構成上、三中全会の『決定』は、早急に解決しなければならない当面の重要な問題を要点として、一条ごとに構成が考えられている。序言と結びの言葉のほか、全体は十六部、三章に分かれている。第一部は第一章を構成する総論となっており、主として改革の全面的深化の持つ重要な意義、指導思想、全体的な構想について述べている。第二部から第十五部までが第二章となっており、これらは各論について述べている。主として経済、政治、文化、社会、エコ文明、国防と軍隊の六つの面から、改革の全面的深化の主な任務と重要な措置が具体的に配置されている。そのうち、経済には六カ条(第二～第七部)、政治には三カ条(第八～第十部)、

文化には一カ条（第十一部）、社会には二カ条（第十二〜第十三部）、生態面には一カ条（第十四部）、国防と軍隊の面には一カ条（第十五部）を当てている。第十六部は第三章を構成し、組織指導が内容である。主として改革の全面的深化に対する党の指導の強化と改善について述べている。

ここで、三中全会の『決定』で触れたいくつかの重要な問題と重要な措置について中央の考えを紹介したい。

第一、資源配置における決定的な役割を市場に果たさせ、政府の役割をよりよく発揮させることについて。これは今回の三中全会の『決定』が提起した重要な理論的観点である。というのも、経済体制改革は依然として改革の全面的深化の重点であり、経済体制改革の核心的問題は依然として政府と市場の関係をうまく処理することだからである。

一九九二年、第十四回党大会では、わが国の経済体制改革の目標は社会主義市場経済体制の確立であること、国のマクロコントロールの下で市場に資源配置における基礎的役割を果たさせることが提起された。この重要な理論的ブレークスルーは、わが国の改革開放と経済・社会発展のために極めて重要な役割を果たした。これはまた、理論上の革新が実践上の革新に対し重要な先導的役割を持っており、改革の全面的深化が理論上の革新を先導とすべきことを物語っている。

二十年余りの実践の結果、わが国の社会主義市場経済体制はすでに基本的に確立されたが、なお少なからぬ問題が見られる。主として市場秩序が規範化されておらず不正な手段で経済利益を図る現象が広く見られること、生産要素市場の発展が立ち遅れており生産要素の遊休化と多くの有効需要が満たせない状況が並存していること、市場ルールが統一されておらず多くの部門保護主義や地方保護主義が存在すること、市場競争が不十分で優勝劣敗と構造調整の障害となっていることなどだ。こうした問題をうまく解決しなければ、整った社会主義市場経済体制は実現しがたい。

第十四回党大会以来の二十年余りの間に、政府と市場の関係について、われわれは一貫して実践の広がりと認識の深化を踏まえ、新たな科学的位置づけを模索してきた。第十五回党大会では「国のマクロコントロールの下で市場に資源配置における基礎的役割を果たさせる」ことを提起し、第十六回党大会では「市場の資源配置における基礎的役割をより大きな度合いで発揮させる」ことを提起し、第十七回党大会では「制度の面で市場の資源配置における基礎的役割をよりよく発揮させる」ことを提起し、第十八回党大会では「市場の資源配置における基礎的な役割をより大きな度合い、より広い範囲で発揮させる」ことを提起した。こうしたことから、われわれの政府と市場の関係に対する認識が絶えず深まっていることが見てとれる。

今回の討議と意見を募る過程では、多くの方面から、理論上から政府と市場の関係についてさらに一歩進めて位置付けをすべきであり、これは改革の全面的深化に極めて重要な役割を持つという指摘があった。各方面の意見と現実の発展の要請を考慮し、繰り返し討議し検討した結果、党中央はこの問題について理論面で新たな表現を行う条件がすでに整っており、市場の資源配置における「基礎的な役割」を「決定的な役割」に修正すべきだと判断した。

現在、わが国の社会主義市場経済体制はすでに基本的に確立されており、市場化の度合いは大幅に高まり、われわれの市場法則に対する認識や制御能力は絶えず向上し、マクロコントロール体系はいっそう健全になり、主観的にも客観的にも条件が備わっており、われわれは社会主義市場経済体制の充実に向けて新たな一歩を踏み出すべきである。

政府と市場の関係をさらによく処理することは、実際には資源配置において市場が決定的な役割を果たすのか、それとも政府が決定的な役割を果たすのかという問題を上手に処理することである。経済の発展とは資源、とりわけ希少資源の配置効率を高め、できるだけ少ない資源の投入でできるだけ多くの製品を生産し、できる

だけ大きな収益を上げることである。理論と実践はいずれも、市場による資源配置が最も効率的な形態であることを立証している。市場が資源配置を決定することは市場経済の一般法則であり、市場経済は実質的には市場が資源配置を決定する経済である。社会主義市場経済体制を健全にするには、必ずこの法則に従わなければならず、市場体系の未整備や、政府が介入しすぎたり管理監督が行き届かないといった問題の解決に力を入れなければならない。「資源配置における決定的役割を市場に果たさせる」との位置付けは、党全体と社会全体が政府と市場の関係について正しい意識を形成するのに役立ち、経済の発展パターンの転換に役立ち、政府機能の転換に役立ち、消極腐敗現象の抑制にも役立つ。

当然のことながら、わが国が実行しているのは社会主義市場経済体制であり、われわれは依然としてわが国の社会主義制度の優位性を発揮させ、党と政府の積極的役割を発揮することを堅持しなければならない。市場は資源配置において決定的な役割を果たすが、すべての役割を果たすわけではない。

社会主義市場経済を発展させるには、市場の役割だけでなく、政府の役割も発揮させなければならない。ただし、市場の役割と政府の役割は機能面で異なるものである。三中全会の『決定』は、政府の役割をいっそうよく発揮させることについて明確な要求を打ち出し、科学的なマクロコントロール、効果的な政府ガバナンスが社会主義市場経済体制の優位性を発揮させるための内在的要請であると強調した。三中全会の『決定』は、マクロコントロール体系の健全化、政府職能の全面的かつ正確な履行、政府の組織構造の最適化に対して配置を行い、政府の職責と役割は主としてマクロ経済の安定を保ち、公共サービスに力を入れ、最適化し、公平な競争を保障し、市場に対する監督・管理を強化し、市場の秩序を守り、持続可能な発展を推進し、共に豊かになることを促進し、市場の働きが思わしくない面をカバーすることであると強調している。

第二、基本的な経済制度を堅持、整備することについて。公有制を主体とし、多種類の所有制経済を共に発

展させる基本経済制度を堅持し、完全なものにすることは、中国の特色ある社会主義制度を強固にし、発展させるための重要な柱である。

改革開放以来、わが国の所有制構造は徐々に調整され、公有制経済と非公有制経済が経済発展、雇用促進などの面に占める比重は絶えず変化し、経済・社会発展の活力を強めた。こうした状況の下、いかにして公有制の主体的地位をよりよく具現し、堅持し、基本的な経済制度の効果的な実現形態をさらに模索するかは、われわれの前に置かれた重要な課題である。

三中全会の『決定』は公有制経済をいささかも揺るぐことなく強化・発展させ、公有制の主体的地位を堅持し、国有経済の主導的役割を発揮させ、国有経済の活力、支配力、影響力を増強し続けていかなければならないと強調している。

三中全会の『決定』は第十五回党大会以来の関連論述を堅持し、発展させた上で、混合所有制経済を積極的に発展させることを提起し、国有資本、集団資本、非公有資本などが互いに株式を持ち合い、互いに融合した混合所有制経済は、基本経済制度の重要な実現形態であり、国有経済の機能の拡大、価値の維持・増大、競争力向上に役立つものだと強調している。これは新しい情勢の下で公有制の主体的地位を堅持し、国有経済の活力と支配力、影響力を強めるための効果的な手段であり、必然的な選択でもある。

三中全会の『決定』は次のように提起した。国有資産の管理体制を整備し、資本管理を主として国有資産の監督・管理を強化し、国有資本の授権経営体制を改革する。国有資本の投資運営は国の戦略目標に奉仕し、より多く国の安全、国民経済の命脈にかかわる重要業種やカギとなる分野に投入し、公共サービスを重点的に提供し、重要で将来性のある戦略的産業を発展させ、生態環境を保護し、科学技術の進歩を支援し、国の安全を保障しなければならない。国有資本の一部を社会保障基金の充実に振り向ける。国有資本の収益から公共財政

に上納する割合を高め、より多く民生の保障と改善に用いる。

国有企業は国家の現代化を推進し、人民の共通の利益を保障する重要な力である。長年の改革を経て、国有企業は全般的に言ってすでに市場経済に融け込んでいる。その一方で、国有企業には問題や弊害がいくらか積み重なっているので、改革をいっそう推進することが必要となってくる。三中全会の『決定』は一連の的を絞った改革措置を提起した。それには以下のようなものが含まれる。国有資本の公益企業への投入を増やすこと。国有資本が引き続き持ち株経営を行っている自然独占業種においては、政府と企業の分離、政府と資本の分離、特許経営、政府の監督・管理を主な内容とする改革を実行し、異なる業種の特性に基づき、鉄道網と輸送を分離するなど、競争的な業務を開放すること。協調運営と効果的に牽制しあうコーポレート・ガバナンス構造の健全化をはかること。専門経営者制度を確立し、企業家が役割をより果たせるようにすること。長期的に効果的なインセンティブ・制約メカニズムを確立し、国有企業の経営・投資責任の追及を強化すること。国有企業の財務予算など重要情報の開示を進めるよう模索すること。国有企業は市場による従業員採用の比率を合理的に増やし、国有企業の管理者の報酬水準、職務待遇、職務経費、業務経費を合理的に確定し、厳格に規範化することだ。こうした措置は国有企業の現代的企業制度を整備し、経営効率を高め、社会責任を合理的に引き受け、よりよく役割を発揮させるよう促すことになろう。

基本的経済制度を堅持し、充実させるには、必ず「二つの揺るがない」[五]を堅持しなければならない。三中全会の『決定』は、非公有制経済の発展を励まし、支援し、導いて非公有制経済の活力と創造力を呼び起こすための多方面にわたる改革措置を打ち出している。▽機能面での位置づけにおいては、公有制経済と非公有制経済は共に社会主義市場経済の重要な構成部分であり、わが国の経済・社会の発展を支える重要な基盤であることを明確にした。▽財産権の保護においては、公有制経済の財産権が不可侵であり、非公有制経済の財産権

も同様に不可侵であることを明確に打ち出した。▽政策待遇面においては、権利の平等・機会の均等・ルールの平等を堅持することを強調し、統一した市場参入の制度を実行することも強調した。そのほか、非公有制企業が国有企業改革に参画することや、非公有資本の持ち株による混合所有制企業を発展させること、それに条件の整った民営企業が現代的企業制度を確立するのを励ますこととした。これらの措置は非公有制経済の健全な発展を促していくであろう。

第三、財政・税務体制の改革深化について。財政は国家のガバナンスの基礎であり重要な柱でもある。科学的な財政・税務体制は資源の適正配置、市場統一の維持、社会的公平の促進、国家の長期安寧を実現するための制度的な保障である。現行の財政・税務体制は一九九四年の分税制(六)改革の基礎を踏まえて逐次整備・形成されたものであり、政府の財力増強と経済の急速な発展というウインウインの目標達成に重要な役割を果たした。

情勢の発展・変化に伴い、現行の財政・税務体制はすでに中央と地方の所管権限の合理的な区分、国のガバナンス整備の客観的な要請に必ずしも応じられなくなっており、経済発展パターンの転換、経済・社会の持続的で健全な発展を促すという現実的要請にも必ずしも応じられなくなっているが、わが国の経済・社会発展におけるいくつかの際立った矛盾や問題も財政・税務体制の不健全さとかかわりがある。

今回の改革の全面的深化において、財政・税務体制の改革は重点の一つである。主に関連するのは、予算管理制度の改善、税収制度の整備、所管権限と支出責任が互いに見合う制度の構築などである。

三中全会の『決定』は次の方針を打ち出している。▽全面的で規範化された、オープンで透明度の高い予算制度を実施するとともに、中央の所管権限と支出責任を適度に強化し、国防や外交、国家安全保障、全国的統一市場に関するルールとそれに対する管理などを中央の所管権限とする。▽一部の社会保障や地域にまたがる

重要プロジェクトの建設・維持などを中央と地方の共有所管権限とした上で、両者の所管権限関係を逐次合理化していく。▽中央は移転支出金の交付によって、一部の所管権限内での支出責任を地方に分担させることができる。▽地域にまたがる、かつその他の地域への影響がかなり大きな公共サービスについては、中央は移転支出を通じて地方の所管権限内での支出責任の一部を担う。

これらの改革措置の主な目的は、所管権限の明確化、税制の改革、税負担の安定維持、予算の透明化を行うことや、効率を引き上げることによって、経済発展パターンの転換、公平で統一した市場づくり、基本的公共サービスの均等化の推進にプラスとなる現代的財政制度を早期に築き上げること、それに中央と地方との間で財政力と所管権限がつりあった税財政体制を確立し、中央と地方両者の積極性をよりよく発揮させることにある。

財政・税務体制の改革には一定の過程が必要であり、順を追って達成していく。中央は、現行の中央と地方の財力構造の全体的な安定を保ち、中央と地方の収入区分はさらに調整していくということをすでに明確にした。

第四、都市・農村発展一体化に向けた体制や仕組みの整備について。都市と農村の発展が不均衡で調和が取れていないことは、わが国の経済・社会の発展に見られる際立った矛盾であり、小康社会の全面的な実現、社会主義現代化の推進を加速させるために必ず解決しなければならない重要な問題である。改革開放以来、わが国の農村には天地をくつがえさんばかりの変化が見られた。しかし、都市・農村の二元構造は根本的に変わっておらず、都市と農村の発展格差が絶えず拡大する傾向はなお抜本的に是正されていない。これらの問題を抜本的に解決するには、都市・農村発展一体化を推し進めなければならない。

三中全会の『決定』は、体制・仕組みを整備し、工業が農業を促進し、都市が農村の発展を導き、工業と農業が互いに利益を与え合い、都市と農村とが一体となった新たな工業・農業、都市・農村の関係を形成し、広大な農民による現代化プロセスへの平等な参加を実現し、現代化の成果を共に享受しなければならないと提起

した。

三中全会の『決定』は次のような都市・農村発展一体化の体制と仕組みを整備する改革措置を提起した。①新型農業経営体系の構築を加速する。主として農業における家庭経営の基礎的地位を堅持しつつ、土地請負経営権を公開市場において大規模専業農家、家庭農場、農民合作社、農業企業に向けて移転させることを奨励し、農村の合作（協力）経済を発展させることを奨励し、商工業資本が農村で企業化経営に適した現代的な栽培・飼育・養殖業を発展させるよう奨励し、導き、農民が土地請負経営権譲渡の形で出資し農業の産業化経営を発展させることを認める、など。②農民により多くの財産権を与える。主として法律に基づいて農民の土地請負経営権を守り、農民の集団経済組織構成員としての権利を保障し、農家の住宅用地の用益権を保障し、農民の住宅財産権の抵当・担保・譲渡のモデル試行を慎重かつ着実に推し進める。③都市と農村における生産要素の平等な交換と公共資源の均衡的な配置を推進する。主として出稼ぎ労働者が同一労働に対して同一報酬を得られるよう保障し、農民が公平に土地の付加価値収益を得られるよう保障する。農業保険制度を整備する。社会資本が農村建設に投入されることを奨励し、企業や社会組織が農村で各種の事業を興すことを認める。都市と農村の義務教育資源をバランスよく配置するよう統一的に計画し、都市と農村住民の基本養老保険制度、基本医療保険制度を整理統合し、都市と農村の最低生活保障制度の統一的発展を推し進め、都市部の基本公共サービスが常住人口の全てをカバーするよう着実に推し進め、都市部に転入した農民を全て都市の住宅、社会保障システムに組み入れる。

第五、協商民主の幅広く多層にわたる制度化への発展を促すことについて。協商民主は中国の社会主義民主政治において特有の形態、独特の優位性であり、党の大衆路線の政治分野での重要な具現である。協商民主を推し進めることは、人民の秩序立った政治参与を充実させ、党と人民大衆の血肉のつながりを強め、政策決定

の科学化・民主化を促進するものである。

三中全会の『決定』は、協商民主の幅広く多層にわたる制度化への発展を促すことを政治体制改革の重要な内容とし、次のように強調した。党の指導の下、経済・社会発展の重要問題と大衆の身近な利益にかかわる実際問題を内容として社会全体で幅広い協商を展開し、政策を決定する前や実施する過程において協商を堅持するようにする。手順が合理的で、プロセスが整った協商民主体系を構築し、国家政権機関・政治協商組織、党派団体、末端組織、社会組織の協商のルールを拡大する。立法協商、行政協商、民主協商、参政協商、社会協商を深く掘り下げて展開する。統一戦線〔七〕の協商民主における重要な役割を発揮させ、人民政治協商会議の協商民主の重要なルートとしての役割を発揮させ、人民政治協商制度の体系を整備し、協商の内容と手順とを規範化し、協商民主の形式を拡大し、特定テーマの協商、同一部門の協商、業界別の協商、提案受理の協商をより活発に秩序よく組織するようにし、協商の密度を高め、より協商の効果が現れるようにする。

第六、司法体制と運営の仕組みの改革について。司法体制は政治体制の重要な構成部分である。ここ数年来、大衆から司法が不公平だという意見がかなり集中し、司法の信認度が低かったことはかなりの度合いにおいて司法体制とその仕組みが不合理であることに関係している。

司法改革は今回の改革の全面的深化における重点の一つである。三中全会の『決定』は一連の関連ある新たな措置を打ち出した。司法管理体制の改革を含めて、省レベル以下の地方法院、検察院の人材・資金・物的資源の統一管理を推し進め、行政区画から適度に分離した司法管轄制度の確立について模索すること、司法権の運用の仕組みを改善し、主審裁判官、合議法廷の案件責任制を整備し、審理する者にその裁判をさせ、責任を持たせるようにすること、減刑、仮釈放、保釈治療の手続きを厳格に規範化すること、誤審防止、是正、責任追及の仕組みを整備し、違法証拠排除の法則を厳格に実行すること、法律と訴訟にかかわる投書・陳情は法律

によって終結させる制度を確立し、労働矯正制度を廃止し、違法犯罪行為に対する懲罰・矯正についての法律を整備すること、などである。

こうした改革措置は、司法機関が法律にのっとった独立的な裁判権、検察権の行使を確保し、権限と責任の明確な司法権力運用の仕組みを整備し、司法の透明度と信認度を高め、よりよく人権を保障する上で重要な意義を持っている。

第七、反腐敗指導体制と活動の仕組みを整備することについて。反腐敗はかねてより党内外で取りざたされることがかなり多い問題である。当面の問題は主として反腐敗機構の職能が分散しており、相乗効果を生むことができないため、一部の案件は断固たる取り調べや処分が難しく、腐敗案件が頻発しても責任追及は不十分なままであるということにある。

三中全会の『決定』は反腐敗体制・仕組みの刷新と制度的保障の強化について重点的に布石を行った。主として、党風刷新・廉潔政治確立と反腐敗活動に対する党の統一指導を強化し、党委員会の主体的責任、規律検査委員会の監督責任を明確にし、着実に実行可能な責任追及制度を制定、実施すること、反腐敗指導体制と活動の仕組みを整備し、各級の反腐敗協調グループの職能を改革し充実させ、腐敗案件の取り調べ・処分にあたっては上級規律検査委員会による指導を主とすると定めたこと、上級規律検査委員会の下級規律検査委員会に対する指導強化を具現し、手がかりの処置や案件の取り調べ・処分は同レベルの党委員会に報告すると同時に必ず上級の規律検査委員会に報告しなければならないと定めたこと、中央規律検査委員会が中央一級レベルの党・政府機関に規律検査委員会の出先機構を置き、中央と省・自治区・直轄市の巡視制度を改良し、地方、部門、企業・事業体のすべてをカバーするようにしたこと、である。

これらの措置はすべて実践経験を総括し、各方面の意見を汲み取った上で打ち出したものである。

第八、インターネットの管理指導体制の整備を急ぐことについて。インターネットと情報セキュリティーは国の安全と社会の安定にかかわるもので、われわれが直面している新たな総合的挑戦である。

実践面から見ると、インターネットの技術と応用の急速な発展に直面して、現行の管理体制には明らかに、多重管理、職能の重複、権限と責任の不一致、効率の低さを主とする弊害が見られる。と同時に、インターネットのメディアとしての属性が強まるにつれ、ネット上のメディア管理や産業管理は情勢の発展に遥かについていけなくなっている。特に伝達速度が速く、影響が大きく、カバー面が広く、社会的動員力が強いマイクロブログやウィーチャットなどのSNSやインスタントメッセンジャーのユーザーが急速に増加していることから、いかにしてインターネットの法秩序確立を強化し世論を導き、インターネットの情報伝達秩序と国家の安全保障、社会の安定を確保するかは、すでにわれわれの直面する特に際立った現実問題となっている。

三中全会の『決定』は、積極的利用、科学的発展、法律による管理、セキュリティー確保の方針を堅持し、法律によるネットワーク管理の度合いをさらに強め、インターネットの管理指導体制を整備することを提起した。その目的は関係機関の職能を統合し、技術から内容、通常のセキュリティーから犯罪取り締まりに至るインターネット管理の相乗効果を生み出し、インターネットの正しい運用と安全を確保することにある。

第九、国家安全委員会の設置について。国家の安全保障と社会の安定は改革・発展の前提である。国家の安全保障と社会の安定がなければ、改革・発展を絶えず推し進めることはできない。当面、わが国は対外的には国家の主権、安全保障、発展の利益を守り、国内的には政治的安全と社会の安定を守るという二重の圧力に直面しており、さまざまな予測可能あるいは予測しにくいリスク要因が目に見えて増加している。われわれの安全管理体制・仕組みはまだ国家の安全保障の需要に見合っておらず、強力なプラットフォームを構築して国家の安全保障を包括的に管理する必要がある。国家安全委員会を設置し、国家の安全に対する集中・統一指導を

強化することは、すでに当面の急務となっている。

国家安全委員会の主な職責は国家の安全保障戦略の制定と実施で、国家の安全保障に関する法体制づくりを推し進め、国家の安全保障活動の方針と政策を制定し、国家の安全保障における重要問題を検討、解決することにある。

第十、国家の自然資源資産の管理体制を整備し、自然資源の監督・管理体制を整えることについて。国の自然資源資産の管理体制を整備することは自然資源資産の財産権制度を充実させる重要な改革の一つであり、系統的で整備されたエコ文明制度の体系を確立する内在的要請でもある。

わが国の生態環境保護に見られるいくつかの際立った問題は、ある程度体制の不備とかかわりがあり、その原因の一つは全民所有の自然資源資産の所有権者が欠落しており、所有権者の権益をまっとうすることができないことにある。この問題に対応して、三中全会の『決定』は次のように国の自然資源資産の管理体制整備の要請を打ち出した。全般的な考え方は、所有者と管理者の分離、一つの事務は一つの部門が管理する原則に則って、全民所有の自然資源資産の所有権を具体化し、全民所有の自然資源資産の所有権者の職責を統一的に行使する体制を確立することである。

国が全民所有の自然資源資産に対して所有権を行使するとともに管理を行うことは、国が国土の範囲内の自然資源に対して管理監督権を行使することとは異なっており、前者は所有権者という意味での権利行使であり、後者は管理者という意味での権限行使である。そのためには、自然資源の管理監督体制を整備しなければならず、すべての国土空間の用途管理の職責を統一的に行使することによって、国有自然資源資産の所有権者と国の自然資源管理者が互いに独立し、互いに協力し合い、互いに監督し合うようになるのである。

われわれは次のように認識すべきである。山・水・森林・農地・湖沼は一つの生命共同体であり、人間にと

って最も重要なものは農地であり、農地にとって最も重要なものは水であり、水にとって最も重要なものは山であり、山にとって最も重要なものは土であり、土にとって最も重要なものは森林である。用途管理と生態回復は必ず自然法則に従わなければならず、もし木を植える人が木を植えるだけで、水利を行う人が水利しかかまわず、農地を守る人が農地しか守らなければ、一方に気を取られて他方がおろそかになり、ついには生態系の破壊を招来してしまう。一つの部門が領土範囲内のすべての国土空間の用途管理に責任を負うことは、山・水・森林・農地・湖沼を統一的に保全し、統一的に回復する上で極めて必要である。

第十一、中央が改革全面深化指導グループを設置することについて。改革の全面的深化は一つの複雑なシステム・エンジニアリングであり、ただ一部門やいくつかの部門だけに頼っては力不足で、そのためにはよりハイレベルの指導システムを確立する必要がある。

三中全会の『決定』は、中央が改革全面深化指導グループを設置し、改革の総体設計、統合協調、全面推進、実施の監督・管理を担当させることを提起した。これは党の全局を統括し、各方面の協調を図る指導的中核としての役割をよりよく発揮させ、改革の順調な推進と各項目の改革任務の実行を保証するためである。指導グループの主な職責は、全国的な重要な改革を統一的に布石し、各分野の改革を統一的に計画して推進し、各方面の力を協調させて改革推進のための合力を形成し、督促・検査を強化し、改革目標任務の全面達成を推し進めることである。

三、討論の中で注意しなければならないいくつかの問題について

今回の全体会議の任務は三中全会の『決定』が提起した改革の全面的深化の思考と方案を討議することである。ここで、私は皆さんにいくつかの要請を申し上げる。

第一、改革を推進する信念と勇気を強める。改革開放はわが党が新たな時代条件の下で人民を指導して行う新たな偉大な革命であり、現代中国の最も鮮明な特色であり、わが党の最も鮮明な旗印でもある。三十五年来、わが党は何に依拠して民心を鼓舞し、思想を統一し、力を結集してきたのか。何に依拠して人民全体の創造の精神と創造の活力を引き出してきたのか。何に依拠して中国の経済・社会が急速に発展し、資本主義との競争の中で比較優位を勝ち取ったのか。それは改革開放に依拠してきたことにある。

未来に向けて、発展が直面するさまざまな難問を克服し、各方面からのリスクと試練を解消し、中国の特色ある社会主義制度の優位性をよりよく発揮し、経済・社会の持続的で健全な発展を推し進めるには、改革開放の深化をさらに推し進めるよりほかはない。

当面、改革開放の問題については、党内外、国内外とも非常に関心を寄せており、全党の上から下まで、そして社会の各方面も非常に強い期待を抱いている。改革開放は新たな重要な時期にさしかかっている。われわれは改革開放において絶対に微動だにしてはならず、改革開放の旗印を引き続き高々と掲げ続けるべきで、中国の特色ある社会主義の道という正しい方向をしっかりと堅持しなければならない。全党は改革の信念を固め、さらに大きな政治的勇気と英知、より強力な措置と方法によって改革を推し進めていかなければならない。

第二、思想の解放、実事求是（事実に基づいて真理を追求すること）を堅持する。改革開放の旗印を高く掲げるには、立場と姿勢だけではだめで、必ずしっかりとした措置を講じなければならない。行動は最も説得力がある。中央は党の第十八期三中全会という良き転換点をとらえて、改革の全面的深化への布石を行うことを決定したが、これは戦略的な選択である。われわれはこのチャンスをしっかりつかみ、改革の全面的深化における新たなブレークスルーを成し遂げなければならない。新たなブレークスルーを成し遂げるには、必ずさらに思想を解放しなければならない。

思想観念の束縛を突き破り、利益固定化の壁を突破するには、思想の解放が最も重要である。改革を深める上で、いくつかの思想観念の束縛は往々にして体制外ではなく体制内から来る。思想を解放しなければ、われわれはさまざまな利益固定化の問題のありかをはっきり見て取ることができず、突破する方向や力の入れどころを的確にさぐりあてることができず、創意ある改革措置を打ち出すことが難しくなる。したがって、われわれは必ずや自ら革新する勇気と志を持たなくてはならず、因習やしきたりの制限を乗り越え、部門利益のしがらみを克服し、積極的かつ主動的な精神で改革措置を打ち出さなくてはならない。

改革措置を打ち出すにはもちろん慎重でなければならず、検討を重ね、繰り返し論証しなければならないが、だからといって小心翼々として、尻ごみし、何もしようとせず、何も試せないようではいけない。改革を行う以上、既存の活動の枠組みや体制運営をほんのわずかでも打ち破らないということはあり得ないし、何もかもが無難で当たり障りなく、いかなるリスクも冒さないということはありえない。十分な論証、評価を経て、実際条件にかない、必ずやらなければならないものであれば、やるべきことはやはり大胆にやらなければならない。

第三、大局から出発して問題を考えることを堅持する。改革の全面的深化は党と国家の事業発展の全般にかかわる重要な戦略配置であり、ある分野やある面の個別の改革ではない。「全局を謀らぬ者は、一域を謀るに足りず」〔八〕である。皆さんは異なる部門や職場から来ているが、誰もが全局から問題を見なければならない。まず打ち出された重要な改革措置が全局の需要にかなっているかどうか、党と国家の事業の長期的発展に役立つかどうかを見なければならない。真に前向きに展望し、未来志向で考え、時代を先取りして手を打たなければならない。そうしてこそ、最終的に出来上がった文書が真に党と人民の事業発展の要請に応えうるものになるのである。

改革の全面的深化のためにはトップダウン設計と全体計画を強化しなければならない。各項目の改革の関連

性、系統性、フィージビリティーの研究を強化しなければならない。われわれは大胆かつ着実にと言っているが、着実にというのは、統一的に考慮し、全面的に論証し、科学的に策定することである。経済、政治、文化、社会、エコ文明の各分野における改革と党建設の改革とを緊密に結びつけ、互いに融合し、いかなる分野の改革もその他の分野の改革に影響を及ぼすとともに、その他の分野の改革の緊密な呼応がなければならない。もしも各分野の改革がセットとならず、各方面の改革措置が互いに牽制するなら、改革の全面的深化を推し進めていくのは非常に困難になり、たとえ無理して推し進めても、その効果は大きく見劣りするものになるだろう。

〔注〕

〔一〕中国共産党第十一期三中全会は、中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議を指し、一九七八年十二月十八日から二十二日まで北京で開催された。今回の全体会議はマルクス主義の思想路線、政治路線、組織路線を改めて確立し、党と国の活動の中心を経済建設へ移し、改革開放を実行するという歴史的な方策を作り、中華人民共和国が成立した後の中国共産党の歴史で深遠な意義を持つ偉大な転換であり、中国の改革開放という歴史の新たな時期を切り開いた。

〔二〕鄧小平の「武昌、深圳、珠海、上海などの地方での談話の要点」(『鄧小平文選』第三巻、人民出版社、一九九三年版、第三七〇頁)。

〔三〕劉雲山、一九四七年生まれ、山西省忻州出身。現在は中国共産党中央政治局常務委員、中央書記処書記、中央党学校校長。

〔四〕張高麗、一九四六年生まれ、福建省晋江出身。現在は中国共産党中央政治局常務委員、国務院副総理。

〔五〕「二つの揺るがない」は、公有制経済を揺るぐことなく強固に発展させ、非公有制経済の発展を揺るぐことなく支持し導くことを指す。

〔六〕分税制は、財政管理体制モデルの一種である。国のすべての税目を中央政府と地方政府の間で区別し、それによ

って中央政府と地方政府の収入の範囲を確定する。その本質は、中央政府と地方政府の職権に基づいて相応する財産権を確定し、税目の区分を通じて中央と地方の収入体系を形成するもの。中国は一九九四年一月一日から分税制を実行した。

〔七〕 統一戦線は、異なる社会政治の力（階級、階層、政党、集団、民族、国家などを含む）が一定の歴史的条件下で、一定の共同目標実現のために、ある種の共同利益の基礎の上に政治連盟を結成するもの。中国共産党が指導する統一戦線は、中国の新民主主義革命および社会主義建設と改革の歴史プロセスの中で、国家の独立と民主、富強、中華民族の偉大な復興の実現のために、各民族、各党派、各階層、各分野の人々が結成した最も広範な革命統一戦線、社会主義統一戦線、愛国主義統一戦線である。

〔八〕 陳澹然の『寤言』巻二『遷都建藩議』を参照。原文は「昔から万世を謀らぬ者は一時を謀るに足りず、全局を謀らぬ者は一域を謀るに足りぬ」となっている。

思想を適切に党の第十八期中央委員会第三回全体会議の精神に統一する

（二〇一三年十一月十二日）

第十八期三中全会第二回全体会議における談話の一部分

全党の思想と意志を統一すれば、全国の各民族の人民の思想と意志を統一することができ、改革を推進する強大な合力を形成することができる。

ここで、私は全体会議に提出された指導思想、全体方針、目標・任務をめぐって、全体会議の精神の徹底的な実行についていくつかの要請を提起する。

第一、中国の特色ある社会主義制度の整備と発展を堅持し、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を全面的な改革深化の全般的目標とすることを推進する。鄧小平同志は一九九二年に、あと三十年もあれば、われわれは各方面で一連のより成熟した、もっと形の整った制度をつくり上げることができるだろうと述べた。今回の全体会議は鄧小平同志の戦略的思想をもとに、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推進することを提起した。これは中国の特色ある社会主義制度を整備・発展させるための必然的な要請であり、社会主義の現代化を実現するために備わっているべき道理でもある。われわれが今回の三中全

会で改革の全面的深化の問題を研究し、一つの分野、またはいくつかの分野での改革を推し進めるのではなく、すべての分野の改革を推進することを決めたのは、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の全体な視点から考えたからである。

国家のガバナンス体系とガバナンス能力は一つの国家の制度と制度の執行能力の集中的な体現である。国家のガバナンス体系は党の指導の下で国家を管理する制度の体系であり、経済、政治、文化、社会、エコ文明と党の建設などの各分野の体制・メカニズム、法律・法規の手配を含むもので、それはまた緊密に関連し合い互いに協調する国の制度でもある。国家のガバナンス能力はすなわち国の制度によって社会各方面の事務を管理する能力であり、改革・発展・安定、内政・外交・国防、党・国・軍の管理などを含む。国家のガバナンス体系とガバナンス能力は有機的統一体であり、互いに補完し合うものであり、良き国家のガバナンス体系を有すれば、国家のガバナンス能力を向上させることができ、また国家のガバナンス能力が向上すれば、国家のガバナンス体系の効果を十分に発揮できる。

実際のところ、社会主義社会というまったく新しい社会をどのように治めるかということについて、以前の世界の社会主義の中ではよく解決されてこなかった。マルクス、エンゲルスは一つの社会主義の国を全面的に管理する実践機会を持ったわけではなく、将来の社会についての彼らの原理の多くは予測的なものであった。レーニンはロシアの十月革命の後でほどなく逝去し、この問題を深く模索する時間がなかった。ソ連はこの問題で模索を行い、いくつかの実践経験を獲得したが、重大な誤りも犯し、この問題を解決することはできなかった。わが党は全国的政権を掌握した後、この問題を絶えず模索してきた。厳しい曲折も経験したが、国家のガバナンス体系とガバナンス能力における豊かな経験を蓄積し、大きな成果をおさめた。改革開放以来の進展はとりわけ顕著である。わが国は政治が安定し、経済が発展し、社会が調和し、民族が結束し、世界の一部地

域や国家で見られる動乱情勢とは鮮明な対照を成している。これはわが国のガバナンス体系とガバナンス能力が総体的に良好で、わが国の国情と発展の要請に適応するものであることを示している。

同時に、われわれは次の点を見て取らなければならない。わが国の経済・社会の発展の要請と比べ、人民大衆の期待と比べ、現在世界で日増しに激しくなっている国際競争と比べ、国家の長期的安定の実現と比べ、国家のガバナンス体系とガバナンス能力でわれわれにはまだ多くの不足が存在しており、改善されるべき部分は多い。社会の調和と安定、国家の長期的安定を真に実現するには、やはり制度をよりどころとし、優れた国家のガバナンス能力を持つ高い資質の幹部の隊列をよりどころにしなければならない。われわれが中国の特色ある社会主義の優位性をよりよく発揮するには、各分野で国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推進しなければならない。

国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推進するには、時代の変化に応じて、実践的発展の要請に適さない体制・メカニズム、法律・法規を改革し、また新しい体制・メカニズム、法律・法規を構築し、各方面の制度をさらに科学的に、さらに完全なものにし、党、国家、社会における各事務管理の制度化、規範化、手順化を実現することが必要である。ガバナンス能力の向上をより重視し、制度と法律に基づいて実務を行う意識を高め、制度と法律によって国家を管理することに優れ、各方面の制度の優れた点を国家管理の効果に昇華し、党の科学的な執政、民主的な執政、法律に基づく執政のレベルを向上させなければならない。

第二、思想をさらに解放し、社会的生産力をさらに解放・発展させ、社会の活力をさらに解放・強化させる。全体会議の決定が提起した「三つのさらなる解放」は改革の目的であり、また改革の条件でもある。思想を解放することは前提であり、社会的生産力を解放・発展させ、社会の活力を解放・強化させるメーンスイッチである。思想を解放しなければ、わが党は十年動乱が収束してほどなくして党と国家の活動の重心を経済の建設

に移し、改革開放という歴史的な方策を実行し、わが国発展の歴史における新しい時期を切り開くことはできなかった。思想を解放しなければ、わが党は実践の中で理論の革新と実践の革新を絶えず推進し、前進する道にある各種のリスクと困難を効果的に取り除き、改革開放を絶えず前進させ、一貫して時代の先頭を歩むことはできなかった。社会的生産力をさらに解放・発展させ、社会の活力をさらに解放・強化させることは、思想解放の必然的な結果であり、思想を解放する重要な基礎でもある。

小康社会を全面的に築き上げ、社会主義の現代化を実現し、中華民族の偉大な復興を実現する上で最も根本的かつ差し迫った任務は、やはり社会的生産力をいっそう解放・発展させることだ。思想を解放し、社会の活力を解放・強化させるのは、社会的生産力をよりよく解放・発展させるためである。鄧小平同志は次のように語ったことがある。革命は生産力を解放することであるが、改革も生産力を解放することであり、「社会主義の基本制度が確立されてからも、生産力の発展を束縛する経済体制を根本的に変革し、生気と活気に満ちた社会主義経済体制を打ち立て、生産力の発展を促すことが必要である」〔一〕。われわれは改革を深めることによって、労働、知識、技術、管理、資本などあらゆる要素の活力が競ってわき上がるようにし、社会の富を創出するあらゆる源泉も十分にわき出て、流れるようにしなければならない。それと同時に、活力と秩序の関係をうまく処理する必要がある。社会の発展は十分な活力が必要だが、こうした活力は秩序立ってあふれ出なければならない。物事が何も進まないのではいけないし、さまざまな問題が目に見えないところで次々と起こってもいけない。

われわれは道・理論・制度への自信を固め、強固な磐石のような精神と信仰の力を重んじるとともに、このような精神と信仰を支える大きな物質的力が必要である。そのために、たゆまぬ改革・革新を行って、社会的生産力の解放・発展、社会の活力の解放・強化、人間の全面的発展の促進の面で、中国の特色ある社会主義を、

資本主義制度よりもさらに効率が高く、全人民の積極性・能動性・創造性をさらに呼び起こすことができる、社会の発展のために有利な条件をさらにもたらすことができる、競争の中で比較優位をさらに勝ち取ることができるものにし、中国の特色ある社会主義制度の優位性を十分に具現化する必要がある。

第三、経済体制改革を重点とし、同改革に牽引の役割を発揮させる。全体会議の決定は「六つの主眼」[二]を挙げて改革の全面的な深化に向けたロードマップを描き、経済体制改革を重点とし、同改革に牽引の役割を発揮させることをとりわけ強調している。わが国が今もなお、そしてこれからも長期にわたって社会主義の初級段階にあるという基本的国情は変わらないし、人民の日増しに増大する物質・文化面の需要と立ち遅れた社会的生産の矛盾というこの主要な社会矛盾も変わらない。また、世界最大の発展途上国としてのわが国の国際的地位も変わらない。このことは、経済建設が依然として全党が取り組むべき中心的な活動であることを決定づけている。

現在、科学的発展を制約する体制・仕組み上の障害の多くが経済の分野に集中しているのは、経済体制改革の任務がまだまだ達成されておらず、経済体制改革の潜在力も今なお十分に引き出されていないからである。それゆえ、経済建設をしっかりと中心に据え、揺るぎなく堅持するために、あくまで重点としての経済体制改革を揺るぐことなく進めていかなければならない。

経済的な基礎が上部構造を決める。経済体制改革はその他の方面の改革に対し重要な影響と波及効果をもたらす。とくに重要な経済体制改革の進度は、その他の面での多くの体制改革の進度を決定づけ、全局にも影響を与える。マルクスは「経済学批判・序言」の中で、「人間は彼らの生活の社会的生産において、一定の、必然的な、彼らの意志から独立した諸関係に、すなわち、彼らの物質的生産力の一定の発展段階に対応する生産諸関係に入る。これらの生産諸関係の総体は、社会の経済的構造を形成する。これが実在的土台であり、その上

に一つの法律的および政治的上部構造がそびえ立ち、そしてそれに一定の社会的諸意識形態が対応する」〔三〕と述べている。改革を全面的に深める中で、われわれはあくまで経済体制改革を主軸に据えて、重要な分野と肝心な部分で改革の新たな躍進を遂げられるよう努め、その他の分野の改革を牽引・促進し、各々好き勝手に振る舞って力が分散することがないよう諸方面の改革を共同で推進し、合力を形成するようにしなければならない。

第四、社会主義市場経済の改革方向を堅持する。社会主義市場経済体制確立という改革目標を打ち出したことは、中国の特色ある社会主義を建設する中でわが党が行った理論上・実践上の重要な創造・革新であり、これによって世界の他の社会主義国が長年解決できなかった非常に大きな課題を解決できたのである。

二十数年来、われわれは社会主義市場経済体制の確立という目標をめぐって、経済体制やその他各方面の体制改革を推進し、わが国が高度に集中した計画経済体制から活力があふれる社会主義市場経済体制へ、閉鎖・半閉鎖から全面的な開放へと偉大な歴史的転換を遂げることを成功裏に実現した。人民の生活について温飽（衣食が足る）水準から小康水準への歴史的な飛躍を実現し、世界第二位のＧＤＰという歴史的な超越を実現し、十数億の人民の積極性を大いに引き出し、社会的生産力の発展を大いに促進し、党と国家の生気と活力を大いに増強した。

同時に、わが国の社会主義市場経済体制はすでに基本的に確立されたが、市場システムがまだ規範化されておらず、市場の発達が不十分で、とりわけ政府と市場の関係はまだよく調整されておらず、市場は資源配分において効果のある役割を果たす上で多くの制約を受けていることを見て取る必要がある。中国共産党第十八回全国代表大会に提出された社会主義市場経済体制の加速・整備という戦略的任務の実現にはまだ多くの努力を要する。

社会主義市場経済の改革方向を堅持する上で、核心的課題となるのは、政府と市場の関係を適切に処理して、

資源配分における決定的な役割を市場に果たさせ、政府の役割をよりよく発揮させることである。これは、わが党がまた理論面・実践面において成し遂げた重要な躍進のひとつである。

社会主義市場経済の改革方向を堅持することは、経済体制の改革の基本原則であり、改革を全面的に深化させるための重要な拠り所でもある。資源配分における決定的な役割を市場に果たさせることは、主に経済体制改革に関わりがあるが、それは必然的に政治や文化、社会、エコ文明、そして党の建設などの諸分野にも影響を与える。それゆえ、完璧な社会主義市場経済の体制を打ち立てるという方向に向かって各方面の体制改革を共に推進し、各方面のそれぞれの関係部分が、社会主義市場経済の発展にともなって出された新たな要請によりよく対応できるようにしなければならない。

第五、社会の公平と正義の促進と人民の福祉の増進を出発点、帰結点とする。改革開放以来、わが国の経済と社会の発展は巨大な成果を挙げ、社会の公平と正義を促進するための確固たる物的基盤と有利な条件をもたらした。同時に、わが国の現在の発展レベルでは、社会には公平と正義に反する多くの現象が存在している。特にわが国の経済・社会の発展レベルと人民の生活レベルの絶え間ない向上に従って、人民大衆の公平意識、民主意識、権利意識は不断に強まり、社会における不公平な問題への反応はますます強くなっている。

中央はわが国の経済・社会の発展の現状と態勢を全面的に見極め、科学的に分析し、この問題を早急に解決しなければ、改革開放に対する人民大衆の自信に影響するだけでなく、社会の調和と安定にも影響すると考えている。第十八回党大会は、公平と正義は中国の特色ある社会主義の内在的な要請であり、全人民の共同の奮闘および経済・社会の発展の上で、社会の公平と正義を保障する大きな効果を備える制度を急速に建設しなければならないと提起している。権利の公平、機会の公平、ルールの公平を主な内容とする社会公平保障体系を段階的に確立し、公平な社会環境を作るよう努力し、人民が平等に参加し、平等に発展する権利を保証する。

今回の全体会議の決定は、改革を全面的に深化させるには、社会の公平と正義の促進と、人民の幸福の増進を出発点、帰結点としなければならないと強調している。これは、誠心誠意人民のために奉仕するというわが党の根本的趣旨から必然的に求められることである。また、改革を全面的に深化させるには、より公平で、より正義に満ちた社会環境づくりを目指し、公平と正義に反するさまざまな現象を絶えず取り除き、これにより、改革と発展の成果がすべての人々により多く、より公平にもたらされるようにしなければならない。もし大衆に実益をもたらすことができなかったならば、もしより公平な社会環境を作り出せず、さらにはより多くの不公平を招いてしまったならば、改革は意味を持たなくなり、持続させることもできなくなってしまうのである。

社会の公平と正義の実現を決定付ける要因はさまざまであるが、最も重要な要因はやはり経済・社会の発展レベルである。社会の公平と正義に対する認識や要請は、それぞれの発展レベルおよび歴史的時期によって、人々の思想・認識、所属階層によって違いがある。われわれが強調している社会の公平と正義を促進するには、最も広範な人民の根本的利益を出発点とし、特に社会の発展レベルや、社会の大局、全人民の立場に立ってこの問題を受け止めて、扱う必要がある。現在、わが国に見られる公平と正義に反する現象の多くは、発展の途上においてよく起こりうるものなので、絶え間ない発展によって、制度設計や法律の規範化および政策的対応によって解決できるものである。その一方で、われわれは経済建設をしっかりと中心に据えて、経済の持続的かつ健全な発展を促し、経済の「パイ」をさらに大きくし、社会の公平と正義を保障するためのより確固たる物的基盤を固めなければならない。

これは、経済が発展するまで社会の公平と正義の問題を解決しなくてもいいということではない。どの時期にもそれ相応の問題があり、発展レベルが高い社会には発展レベルの高い問題があり、発展レベルが高くない社会には発展レベルの高くない問題がある。「パイ」を絶えず大きくする一方で、うまく切り分けることもまた

必要である。わが国の社会には古くから、「寡を患えずして、均しからざるを患う」〔四〕という考え方がある。私たちは絶え間ない発展を基に、自分の能力の範囲で全力を尽くして社会の公平と正義の促進にしっかりと取り組み、人民全体にかかわる教育・所得・医療・養老・住居などの社会保障面での問題に絶えず新たな改善が見られるよう努めるべきである。

どのような発展レベルにあっても、社会の公平と正義を保証する上で制度は重要である。それゆえ、われわれは制度設計を刷新することによって、人的要因によってもたらされた公平と正義に反する現象を取り除き、人民の平等参加、平等発展の権利を保障するよう努める。社会の公平と正義の促進および人民の幸福の増進を基準にして各方面の体制・仕組みと政策・規定を細かく見極め、社会の公平と正義を促す目的に合致しない問題があれば改革し、際立った問題がみられる分野や部門を改革の重点とする。制度設計が不完全であるために生じた公平と正義に反する問題を早急に解決して、われわれの制度設計が社会主義の公平正義原則をよりよく具現化したものとなり、さらには最も広範な人民の根本的な利益をしっかり実現し、擁護し、増大させる上でプラスとなるようにする。

第六、あくまでも人民に依拠して改革を推し進める。人民は歴史の創造者であり、われわれの力の源である。改革開放が広範な人民大衆の心からの支持と積極的な参加を得られた最も根本的な原因は、われわれの改革開放の事業が当初から人民大衆の中に深く根を下ろしたものであったためである。全体会議の『決定』は改革開放によって積み上げられた貴重な経験を総括しているが、その中で最も重要なのは、人間本位を堅持し、人民の主体的な地位を尊重し、人民大衆の創造精神を発揮させ、あくまでも人民に依拠して改革を推し進めていくのを強調したことである。人民の支持と参加なしには、いかなる改革も成功を収めることができない。たとえいかなる困難や試練に出くわしても、人民の支持と参加さえあれば、克服できない困難や、越えられない難所

はまずないのである。われわれは党の大衆路線を貫徹し、人民の心と通じ合い、人民と苦楽を共にし、人民と団結して奮闘しなければならない。

いかなる大きな改革を推進するにも、人民の立場に立って改革に関連する重要な問題を把握・処理しなければならず、人民の利益から出発して改革の道筋を策定し、改革の措置を制定しなければならない。漢代の王符は「大鵬の動、一羽の軽にあらざるなり、騏驥の速、一足の力にあらざるなり」〔五〕と言った。これはつまり、鵬が空で飛び回るのは、一本の羽によるのではなく、駿馬がすばやく駆け回るのは、一つの足の力によるのではないということだ。中国が高く飛び、速く走るためには、十三億人民の力に依拠しなければならない。

改革の全面的深化の過程で、関係が複雑で判断しがたい利益の問題にぶつかった場合には、大衆の実情はいったいどうなのだろうか、大衆はいったい何を望んでいるのだろうか、大衆の利益はどのように守るのか、大衆はわれわれの改革に満足するだろうか、と真剣に考えてみなければならない。改革の政策決定の科学性を高めるのに極めて重要な一つの原則とは、大衆の意見や提案に幅広く耳を傾け、大衆の切り開いた新たな経験を時を移さずに総括し、大衆の改革を推し進める積極性・自発性・創造性を十分に引き出し、最も広範な人民の英知と力を改革へと結集して、人民と共に改革を推し進めていくことである。

〔注〕

〔一〕　鄧小平の「武昌、深圳、珠海、上海などの地方での談話要点」（『鄧小平文選』第三巻、人民出版社、一九九三年版、第三七〇頁）を参照。

〔二〕　「六つの主眼」、中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議で採択された『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定』で提起された改革の全面的深化のロードマップ。経済体制改革において市場

の資源配分における決定的な役割を果たさせる主な内容は次の通りである。経済体制改革を深化させること。党の指導を堅持し、人民を主人公とすることを主眼として、法律による国政運営をしっかりと中心に据え、有機的に統合して政治体制改革を深化させること。社会主義の中核的価値体系の構築と社会主義文化強国の建設を主眼として、文化体制改革を深化させること。民生のさらなる保障と改善、社会の公平と正義の促進を主眼として、社会体制改革を深化させること。「美しい中国」の建設を主眼として、エコ文明体制の改革を深化させること。科学的な執政、民主的な執政、法律に基づく執政レベルの向上を主眼として、党の制度建設改革を深化させることである。

〔三〕マルクス「経済学批判・序言」(『マルクス・エンゲルス文集』第二巻、人民出版社、二〇〇九年版、第五九一頁)を参照。

〔四〕『論語・季氏』を参照。『論語』は中国儒家の経典の一つであり、孔子の弟子が孔子の言行を記録した著作であるが、中には孔子の弟子の対話もある。『大学』『中庸』『孟子』と合わせて『四書』と称する。

〔五〕王符の『潜夫論・釈難』を参照。王符（八五?～一六三?)、安定臨涇（現在の甘粛省鎮原県）出身。後漢の哲学者、政治評論家。

改革はどれだけ難しくても前進しなければならない

（二〇一四年二月七日）

ロシア国営テレビ局の単独インタビューに応じた際の質疑応答の一部分

ブリリョフ〔一〕　中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議（以下、三中全会と略す）は『改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定』を採択したが、習主席は改革の全面的深化指導グループのリーダーを務めている。習主席の執政理念は何であり、中国の次の改革の重点分野はどこにあり、中国の発展の前途をどのように見ているのか。

習近平　これは中国の発展と関係する重要な問題である。一九七八年に中国共産党第十一期三中全会が中国の改革開放の道を切り開いてから、これまですでに三十五年以上が経ち、世界の注目を集める成果があげられてきた。だが、われわれはこれからも引き続き前進していかなければならない。われわれは「二つの百周年」の奮闘目標を掲げている。現在、経済のグローバル化が急速に進み、総合国力をめぐる競争がますます熾烈になり、国際情勢が複雑にめまぐるしく変化している。こうした中で、中国がチャンスをとらえ、進んでチャレンジし、新たなより大きな発展を実現するには、根本的にはやはり改革開放に頼らなければならない、とわれわれは考えている。激しい国際競争の中で前進するのは、まさに流れに逆らって舟を進めるのと同じであり、

進まなければ押し戻されてしまうからである。

現在は、過去と比べ、中国の改革の範囲と深度は大幅に上回っている。改革を前進させるためにはトップダウン設計を強めなければならない。昨年の十一月、中国共産党第十八期三中全会は改革の全面的な深化について総体的計画を打ち出し、改革のロードマップとタイムテーブルを提出し、十五の分野にわたる、三百三十以上の重要な措置を打ち出した。

そこには経済、政治、文化、社会、エコ文明および党の建設などの各分野が含まれる。改革の進軍ラッパはすでに吹き鳴らされたのだ。われわれの総目標は中国の特色ある社会主義制度を充実・発展させ、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進めることである。

力を集約して改革を推進させるため、われわれは中央改革全面的深化指導グループを確立し、私自身がリーダーを務めている。その任務は、重要な問題を統一的に配置し、協調を図り、さらに任務を分け、一つ一つ着実に実施することである。私はこれを「配置が一分、実施が九分」と呼んでいる。

中国のような十三億以上の人口を有する国家が改革を深化させるのは容易なことではない。中国の改革はすでに三十年以上を経て、すでに「深水区」に入っている。つまり、簡単な、みなが喜ぶような改革はすでに完了し、おいしい肉は食べ終わっており、残っているのは噛むのに力を要する硬い骨ばかりであると言える。私たちは大胆かつ着実に歩んでいかなければならない。大胆にというのは、改革がどれだけ難しくても前に進む勇気、硬い骨を噛みくだく勇気、難所に取り組む勇気を持つということだ。着実に歩むというのは、必ず方向を正しく定め、必ず安定して前進するということだ。特に破滅的な間違いは絶対に犯してはならない。

私は中国の発展の前途に大きな自信を持っている。なぜか。最も根本的な原因は、長期にわたっての模索を経て、われわれはすでに中国の国情に適した正確な発展の道を見出しており、十三億以上の中国人民にあくま

で依拠し、みずからの道を揺るぐことなく歩みさえすれば、われわれは必ずいかなる困難や障害にも打ち勝ち、新たな成果を上げ、最終的にわれわれが定めた目標を実現することができるのである。

中国共産党は人民のために執政し、人民のよりよい生活への熱望がわれわれの奮闘目標である。私の執政理念を一言で表すなら、「人民のために奉仕し、負うべき責任を負う」ということである。

ブリリョフ　習主席が中国の国家主席となって一年になろうとしているが、中国のような大きな国家を指導して感じるところは何か。個人としてどのような趣味を持っているか。最も好きなスポーツは何か。

習近平　中国は九百六十万平方キロの陸地面積、五十六の民族、十三億以上の人口を擁し、経済・社会の発展のレベルも人民の生活レベルもまだ高くない。このような国を治めるのはたやすいことではなく、高所に登って遠くを見渡すと同時に足を地に着けなければならない。私は中国の異なる地方で長期に仕事を行ってきており、東部から西部まで、地方から中央まで、各地方、各レベルの各方面で相違が非常に大きいことを熟知している。従って、中国の指導者として、情況をはっきりと掌握した上で、統一的に計画しながら各方面に配慮し、総合的にバランスを取り、重点を際立たせ、全局の進展を促し、時には大を捉え小を解き放し、大をもって小を兼ねなければならず、時には小から大に広げ、小の中に大きな問題を見出さなければならない。たとえて言うなら、十本の指でピアノを弾くということである。

国家の指導者として、人民が私をこのポストに就かせたのであり、私は常に人民を心の中の最も高い位置に置き、責任が泰山より重いことをしっかりと心に刻み、絶えず人民大衆の安否と日常生活を心に置き、うまずたゆまず、日夜公務に励み、終始人民と心を通じ合い、人民と苦楽を共にし、人民と団結して奮闘しなければならない。

趣味については、私の趣味は読書、映画、旅行、散歩などである。あなたも知っている通り、私のようなポ

ストにあれば、基本的に自分の時間はない。今年の春節期間、中国には『時間はどこに行ったの』という歌がはやっていた。私にとって、問題は私個人の時間はどこへ行ったのかだが、もちろんそれは仕事に占められている。現在、私がしょっちゅうできることは読書であり、読書は私の一つの生活様式になっている。読書は、思想活力を保たせてくれ、インスピレーションを与えてくれ、正大で剛直な精神を養ってくれる。私はロシア作家の作品を数多く読んだことがある。例えばクルイロフ、プーシキン、ゴーゴリ、レールモントフ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、ネクラーソフ、チェルヌイシェフスキー、トルストイ、チェーホフ、ショーロホフなどで、私は今でも彼らの作品中の素晴らしい章節やストーリーをはっきりと記憶している。

スポーツに関しては、私は水泳や山登りなどが好きで、四、五歳の時にはもう泳げた。またサッカー、バレーボール、バスケットボール、テニス、武術などのスポーツも好きだ。ウインタースポーツではアイスホッケー、スピードスケート、フィギュアスケートが好きだ。特にアイスホッケーは個人的な力やテクニックだけでなく、チームワーク・協力を必要とする競技であり、素晴らしいスポーツだと思う。

〔注〕

〔一〕　セルゲイ・ブリリョフ（Sergei Brilev）、ロシア国営テレビ局司会者。

中国の特色ある社会主義制度を運用して国を効果的に統治する能力を絶えず向上させよう

第十八期三中全会精神の学習・貫徹と改革の全面的深化をテーマとした省・部級主要指導幹部セミナーにおける談話の要旨

（二〇一四年二月十七日）

われわれは必ず国の現代化の総プロセスに適応し、党の科学的な執政、民主的な執政、法律に基づく執政の水準と、国家機関が機能を果たす能力、人民大衆が法律に基づいて国家や経済・社会・文化、それに自身に関する事柄を管理する能力を高めるとともに、党、国家、社会における諸般の実務に対する統治の制度化・規範化・手順化を実現し、中国の特色ある社会主義制度を運用して効果的に国家を統治する能力を絶えず高めなければならない。

中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議で提出された改革の全面的深化の総目標は、つまり中国の特色ある社会主義制度を充実・発展させることと、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進めることである。これは中国の特色ある社会主義制度を堅持し、発展させるための必然的な要請であり、社会主義の現代化を実現するために備わっているべき道理でもある。

改革開放以来、わが党は全く新しい視点から国家のガバナンス体系の問題を考え始め、指導制度と組織制度の問題がさらに根本的、全局的、安定的、長期的な性質を持つことを強調している。現在、われわれの前に置かれた重大な歴史的任務の一つは、中国の特色ある社会主義制度をさらに成熟させるように推し進め、さらに定型化させ、党と国家の事業の発展、人民の幸福や安泰・健康、社会の調和・安定、国家の長期的な安定につながる一連のより完備した、より安定的な、より役立つ制度体系を提供することである。この事業は極めて壮大であり、必ず全面的で系統的な改革と改善でなければならず、つまりそれは各分野の改革と改善の連動と集約であり、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化において総体的な効果をつくり出さなければならない。

国家のガバナンス体系とガバナンス能力は一国の制度と制度の実行力をまとめて具現化したものであり、両者は相互に補完し合っている。われわれの国家のガバナンス体系とガバナンス能力は総体的に良好で、独特な優位性を持ち、わが国の国情と発展の要請に適応している。同時に、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の面でなお改善すべきところは多く存在し、国家のガバナンス能力の向上にさらに大きく気力を奮い立たせる必要がある。党の政権担当能力の向上を重点とし、できるだけ早くわれわれの各級の幹部、各方面の管理者の思想・政治面の資質、科学・文化面の素養、仕事の能力をすべて高め、できるだけ早く党と政府機関、企業・事業体、人民団体、社会組織などの活動能力を全て高めてこそ、国家のガバナンス体系はさらに効果的に機能することができるのだろう。

国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進めるには、必ず改革を全面的に深める総目標を完全に理解し、把握することが必要である。これは中国の特色ある社会主義制度を充実・発展させ、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進めるという二つの句からなる一つの文で表すことができる。われわれの方向は中国の特色ある社会主義の道である。

一国がどのようなガバナンス体系を選ぶかは、その国の歴史の伝承、文化伝統、経済・社会の発展水準によって、その国の人民によって決められるものである。わが国の今日の国家のガバナンス体系は、わが国の歴史の伝承、文化伝統、経済・社会の発展をふまえて長期にわたって発展し、徐々に改善し、内生的に進化した結果である。わが国の国家のガバナンス体系は改善し、充実させる必要があるが、どのように改め、どのように充実させるかについて、われわれは主張を持ち、自信を持つべきである。中華民族は異なる性質のものを併せ持つ、包容力の大きな民族であり、長い歴史の中で、絶えず他のものの良いものを学び、他のものの良いものをわれわれ自身のものに変えてきた。われわれ民族の特色はこうして形成されてきたのである。確固とした制度への自信がなければ、改革を全面的に深める勇気を持てないし、同様に、絶え間ない改革から離れれば、制度への自信をどこまでも持つこともできないし、長く続かない。われわれが改革を全面的に深化させるのは、中国の特色ある社会主義制度をよりよくするためである。われわれの言う制度への自信を固めるというのは、現状に甘んじて進歩を求めないのではなく、絶えず体制・仕組みの弊害を取り除き、われわれの制度が成熟して長く続くようにすることである。

国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推進するには、社会主義の中核的価値体系[一]と中核的価値観の育成と発揚に力を注ぎ、中国の特色、民族の特性、時代の特徴を十分に反映する価値体系の構築を加速しなければならない。われわれの中核的価値体系と中核的価値観をしっかりと守るには、文化の役割を果たさなければならない。民族文化は一つの民族がその他の民族と区別する独特のメルクマールである。中華民族の優れた伝統文化に対する掘り起こしと解明を強め、中華民族の伝統的美徳の創造的な転化、革新的な発展の実現に努めなければならない。時空を越え、国家を越え、恒久的魅力に富み、現代的価値を備える文化精神を発揚し、優秀な伝統文化を受け継ぎ、また時代の精神も発揚し、自国に立脚しまた世界に向かう現代中国文化の革新成果を押し広めなければ

ならない。中華民族の一世代一世代が崇高な道徳の境地を追求しさえすれば、われわれの民族には永遠に希望が満ちるのである。

よく練り上げた文書を作成できたのは、単に万里の長征の第一歩を踏み出したにすぎず、重要なのは文書の内容を着実に実施に移すことにある。われわれは三中全会の精神を学習し、宣伝することでまたより細かく、より誠実に、より深く工夫・努力し、改革の全面的深化に対する思想認識を打ち固めなければならない。学習や理解において、文章の一部分だけを取り上げ、機械的に当てはめることは絶対に避けなければならず、全体的な政策の配置と具体的な政策との関係、系統的だった「政策チェーン」（互いに関連性をもった政策群）と一部分の政策との関係、政策のトップダウン設計と政策のランク分け・結合との関係、政策の統一性と政策の相違性との関係、長期的政策と段階的政策との関係をはっきりさせ、局部が全体に取って代わったり、全体が局部に取って代わったりしてはならないし、柔軟性の重視で原則性を損ない、また原則性によって柔軟性を束縛したりしてもならない。三中全会の精神を貫徹するには、空理・空論を説くだけで、情勢を傍観するだけ、目前の利益を急いで求めるといったことを防ぎ、待ったなしの切迫感と日夜怠ることなく公務に励む責任感を持つ必要があり、しっかりと、よりしっかりと取り組まなければならない。改革は順を追って一歩一歩進めていく任務であり、大胆に突破を試みるだけでなく、一歩一歩着実に前へ進めて、改革の目標と任務の達成を確保しなければならない。改革の全面的深化は国家の全体的利益、根本的利益、長期的利益に立脚して配置したものであり、気に入ればやるが、気に入らなければやらないという傾向や、改革・発展を妨げる既存の凝り固まった思考パターンを打ち破り、党と人民の事業にプラスとなること、最も広範な人民にプラスとなること、党と国家の繁栄・発展と長期的安定の実現に役立つことであれば、改める必要があることは断固として改めなければならない。これこそが、歴史に対して、人民に対して、国家と民族に対して責任を負うということである。

【注】

〔一〕社会主義の中核的価値体系は、二〇〇六年十月に中国共産党第十六期中央委員会第六回全体会議で採択された『社会主義調和社会の構築についての若干の重要な問題に関する中共中央の決定』で提起されたのである。その基本的な内容は、マルクス主義の指導思想、中国の特色ある社会主義の共同理想、愛国主義を核心とする民族精神と改革・革新を核心とする時代精神、社会主義栄辱観から成り立っている。

第四章
経済の持続的で健全な発展を促進する

経済成長は水増しのない確実な成長でなければならない

（二〇一二年十一月三十日）

中共中央招集の党外人士座談会における談話の要旨

今年以来、国際経済の複雑な環境に直面し、国内の改革・発展・安定の入り組んだ至難の課題に直面し、われわれは科学的発展をテーマとし、経済発展方式の加速転換を大筋とすることを堅持し、安定の中で前進するという活動の基調に基づき、マクロコントロールを即時に強化し改善し、成長を安定的に保つことをもっと重要な位置に置き、、成長を安定的に保ち、構造を調整し、改革を促進し、人民に恩恵をもたらすなどの面においてすべて積極的な進展をとげた。

わが国の経済・社会の発展のファンダメンタルズが健全であることを十分に認める前提の下で、われわれは現在と今後ある時期に直面するリスクと挑戦を決して過小評価してはいけない。それは主に世界経済の低速成長の基調はまだ続き、総需要の不足と生産能力の相対的な過剰の矛盾がある程度高まり、企業の生産・経営のコストの上昇と革新能力の不足という問題が併存し、経済の発展と資源環境の矛盾はある程度激しさを増している。われわれは「二面論」を堅持し、一つのものを二つに分けるように二つの問題を分析し、国際・国内の情勢の中での有利な一面を見ると同時に、不利な一面も見なければならず、悪い所から考え、最も十分な準備

をし、比較的良好な結果が得られるように努めていかなければならない。

来年は第十八回党大会の精神を全面的に貫徹・実施する最初の年であり、来年の経済・社会の発展の任務を成し遂げることは非常に重要であり、経済成長の質と効果を高めることを中心とし、安定の中で前進し、開拓・革新し、着実に始め、改革開放をさらに深化させ、革新による促進をさらに強化し、経済の持続的かつ健全な発展と社会の調和の取れた安定を実現する。第一、経済の成長を保ち、積極的な財政政策と穏健な貨幣政策を引き続き実施し、経済成長の内生的な活力と原動力を強化し、必ず成長は水増しがない確実な成長でなければならず、効果、質、持続可能な成長でなければならない。第二、農業の基礎的地位を強化し、強農、恵農、富農（農業を強化し、農民に実益をもたらし、農民を豊かにする）に向けた政策を強化し、改善し、現代的農業の発展を加速し、国の食糧と重要農産物の効果的な供給を確保する。第三、構造調整を行い、著しい進展を遂げるように推し進め、外需を安定させると同時に内需の拡大に努力し、産業構造調整のレベルアップにさらに力を入れ、都市化の健全な発展を着実に推進する。第四、社会主義市場経済の改革方向を堅持し、トップダウン設計を適切に行い、対応性のあるいくつかの改革施策を即時打ち出し、全体の一歩一歩着実な推進と局部の突破の相互結合を堅持し、大胆に模索し、実際的な効果を求める。第五、人民の生活の保障と改善に力を入れることで、低所得層の基本的生活を重点的に保障し、生活に困窮している大学生に対する援助をしっかりと行い、就業の安定と拡大を重視し、都市部と農村部の社会保障システムの整備を強化し、広範な大衆が勤勉に働くことによって生活を改善するように導き、それによって人民の生活の改善を党と政府の活動の方向とすると同時に、また広範な人民大衆の奮闘する目標にしていくことだ。

開放型経済のグレードアップ

（二〇一三年四月八日）

博鰲（ボアオ）・アジアフォーラム二〇一三年次総会に出席した国内外の企業家代表との座談会における談話の要旨

中国経済の発展の前途は洋々たるものがある。中国は揺るぐことなく改革開放を推し進め、発展パターンの転換を加速し、揺るぐことなく対外開放政策を遂行し、引き続き外国企業によりよい環境と条件を提供する。中国の発展は世界に一層の貢献をもたらすだろう。

企業家は就労機会と富を創出する重要な力であり、発展と協力を促す新たな力であり、フォーラムに参加する主体でもある。あなたたちがいかに行うかはアジアと世界経済の発展に重要な影響をもたらすだろう。この機会を借りて、皆さんのご意見をお聞きし、皆さんと交流したいと思う。

現在、世界経済は依然として不安定性、不確定性に満ちており、経済再生は複雑でとても長いプロセスだ。アジア経済の成長は比較的力強い。こうした背景の下、誰もが中国経済の展望に非常に関心を持っている。これについて、私はいくつかの見方を話したい。

中国の発展情勢は全般的に見て良好な状況にある。中国は今後かなり長期にわたって発展の上昇期にあり、工業化、情報化、都市化、農業の現代化が巨大な国内市場をもたらす。社会生産力の基盤は強固で、生産要素

の総合的優位は明らかで、体制・枠組みはたゆまず改善されるであろう。われわれは「二つの百周年」の奮闘目標を定め、中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢を打ち出した。これらの目標の達成によって中国経済に新たな活力と原動力が次々と、たゆまず注入されることは確実だ。比較的高い水準の経済成長率を引き続き保つことは、われわれの努力によって完全に可能だ。中国は発展を推し進める重点を質と効率の向上にシフトし、グリーン発展、循環型発展、低炭素型発展の推進に力を入れることになろう。

中国の市場環境は公平だ。中国大陸部で登記したあらゆる企業は、中国経済を構成する重要な一部だ。われわれは社会主義市場経済の方向を揺るぐことなく堅持し、法治建設を引き続き強化し、投資環境を積極的に改善し、各種企業が法に則って平等に生産要素を使用し、公平に市場競争に参加し、同等に法的保護を受けられるように努力する。中国の市場環境をより公平で魅力あるものにすべく努力する。われわれの外資導入政策が変わることはなく、法に則って外資系企業の合法的権益を保障する。

中国の開放の扉が閉じられることはない。過去十年間、中国はＷＴＯ（世界貿易機関）加盟時の公約を全面的に履行し、より開放的で規範化されたビジネス環境を実現した。中国はさらに大きな範囲、幅広い分野、深いレベルで開放型経済の水準を高める。中国の扉は引き続き各国の投資家に対して開かれる。外国の扉も中国の投資家に対して一層開かれることを願っている。われわれはいかなる形の保護主義にも断固反対する。関係国間の経済貿易分野の摩擦を話し合いによって適切に解決し、バランスのとれた、ウインウインの、発展に注目する多国間経済貿易体制の構築を積極的に推し進めることを願っている。

中国の発展は世界に恩恵をもたらすものだ。中国の発展はまず隣国に恩恵をもたらした。東アジア・南アジア各国を訪れた中国人観光客の数は二〇一二年には延べ千五百七十六万人に達した。中国はアジア経済の成長に重要な貢献をした。今後五年間で中国は十兆ドル前後の商品を輸入する必要があり、対外投資も比較的速い

伸びを持続する。われわれは周辺国との相互コネクティビティーに力を入れている。こうした全ての措置は地域とグローバル経済の成長にとってより大きな貢献をもたらすものだ。

改革開放を堅持する中国の決意が揺るぐことはなく、政策もよりいっそう完備される。われわれはサービスの能力と水準をたゆまず向上させ、各国の実業家の中国での投資・創業のためによりよい環境と条件を提供する。各国の実業家がこのチャンスをがっちりとつかみ、企業のさらなる発展を実現することを期待している。

〔注〕

〔一〕　博鰲・アジアフォーラムは中国に本拠を置く非政府・非営利国際組織で、定期的に開催されている。二〇〇一年二月二十七日に中国・海南省の博鰲で正式発足した。フォーラムは平等、互恵、協力、ウインウインをテーマにし、アジアに立脚し、アジア諸国間の経済交流、協調、協力を推進すると同時に、世界に目を向け、アジアと世界のその他の地域との対話と経済連携を強めることを目指している。

「見えざる手」と「見える手」のどちらも適切に運用すべきである

（二〇一四年五月二十六日）

第十八期中央政治局第十五回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

資源配置における決定的な役割を市場に果たさせ、政府の役割をさらによく果たさせることは重要な理論的命題であり、重要な実践的命題でもある。この命題を科学的に認識し、その内容を的確に理解することは改革の全面的深化、社会主義市場経済の健全かつ秩序ある発展の推進にとって重要な意義がある。市場の役割と政府の役割という二つの問題において、弁証法と二面論を重んじる必要があり、「見えざる手」と「見える手」のどちらも適切に運用すべきである。市場の役割と政府の役割との有機的統一、相互補完、相互協調、相互促進といった枠組みの構築に努め、経済・社会の持続的かつ健全な発展を推し進めていかなければならない。

中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議は、経済体制改革は改革の全面的深化の重点であり、核心的な問題は政府と市場との関係を適切に処理し、資源配置における決定的な役割を市場に果たさせ、政府の役割をさらによく果たさせることであると提起した。資源配置における市場の決定的な役割の提起はわが党の中国の特色ある社会主義建設の法則の認識における新たなブレークスルーであるとともに、マルクス主義の中国化

における最新の成果であり、社会主義市場経済の発展が新たな段階に入ったことを示している。

資源配置における市場の決定的な役割を的確に位置づけ、把握し、政府の役割をさらによく果たさせるには、市場の役割と政府の役割との関係を正確に認識する必要がある。政府と市場の関係は中国の経済体制改革の核心的な問題である。三中全会では資源配置における市場の基礎的な役割を、市場の決定的な役割と改正した。わずか二文字の違いだが、市場の役割を新たに位置づけている。「決定的役割」と「基礎的役割」という二つの位置づけは互いに結びついており、前者は後者を受け継ぎ、発展させたものだ。資源配置における決定的な役割を市場に果たさせ、政府の役割をさらによく果たさせる。両者は有機的な統一体であり、互いに否定し合うものではなく、両者を切り離したり、対立させたりしてはならない。資源配置における市場の決定的役割が政府の役割に取って代わったり、ひいてはそれを否定したりしてはならず、政府の役割をさらによく果たさせることで、資源配置における市場の決定的役割に取って代わったり、ひいてはそれを否定したりしてもならない。

資源配置における市場の決定的役割の提出は、実は問題の方向を示すことを貫徹したものだ。二十年余りの実践の結果、わが国の社会主義市場経済は絶えず発展してきたが、依然として問題が少なからず存在し、市場主体の活力を束縛し、市場と価値法則の役割の十分な発揮の妨げとなる弊害が少なからず存在している。こうした問題を適切に解決しなければ、完璧な社会主義市場経済体制は実現しがたく、発展パターンの転換と経済構造の調整も推進しがたい。われわれは社会主義市場経済改革の方向を堅持し、市場化改革を広く深いレベルで推し進め、政府による直接的な資源配置を減らし、政府のミクロ経済活動への直接的関与を減らさなければならない。統一的かつ開放的な競争の秩序立った市場体系の構築を加速し、公平、開放、透明な市場ルールを確立しなければならない。市場メカニズムによって効果的に調節できる経済活動を市場に任せ、政府の管理す

べきでない事柄を市場に任せ、市場が役割を発揮できるすべての分野で役割を十分に発揮するようにし、資源配置効益の最大化と最適化の実現を推し進め、企業と個人がより多くの活力とより大きな空間を有する中で経済を発展させ、富を築くことができるようにしていかなければならない。

科学的なマクロコントロールと効果的な政府ガバナンスは、社会主義市場経済体制の優位性を発揮するための内在的な要請である。政府の役割をよりよく発揮させるには、政府の機能を確実に転換し、行政体制改革を深化させ、行政管理方式を刷新し、マクロコントロール体系を健全化し、市場への監督・管理を強化し、公共サービスを強化・最適化させ、社会の公平と正義と安定を促進し、共に豊かになることを推進する必要がある。各級政府は厳格に法に基づいて執政し、職責を確実に履行し、管理すべき事をしっかりと管理し、十分に管理し、手放すべき権限をしっかりと手放し、十分に手放し、政府機能において「錯位」（政府の職能が管理すべき範囲からずれている）、「越位」（政府が介入すべきでないことに介入する）、「欠位」（政府の介入を必要としているのに、まだ介入していない）という現象を克服しなければならない。

党の指導を堅持し、党が全局を見据え各方面を協調させるという指導の核心的役割を十分に発揮することは、わが国の社会主義市場経済体制の重要な特徴である。改革開放以来三十年余り、わが国の経済・社会発展が世界でまれに見る大きな成果をあげ、わが国人民の生活レベルが大幅に引き上げられたのは、すべてわれわれが揺るぐことなく党の指導を堅持し、各級党組織と党員全体の役割を十分に発揮してきたことと切り離せないものだ。わが国において、党の強力な指導は政府が役割を発揮するための根本的保証である。改革の全面的な深化の過程において、われわれは政治的優位性を堅持し、発展させ、われわれの政治的優位性をもって改革を指導、推進し、各方面の積極性を引き出し、社会主義市場経済体制の絶え間ない改善、社会主義市場経済のさらなる発展を推し進めなければならない。

新しい情勢の下、各級幹部、特に指導幹部は実践の中で学習を深め、学習の中で実践を深めることを堅持し、不断に新たな問題を検討し、新たな経験を総括し、「見えざる手」と「見える手」の正確な運用を身につけ、政府と市場の関係処理に長じたエキスパートにならなければならない。

生産要素や投資規模による発展から
イノベーションを推進力とする発展への転換を加速する

（二〇一四年六月九日）

中国科学院第十七回アカデミー会員大会、中国工程院第十二回アカデミー会員大会における談話の一部

現在、全党と全国各民族人民は小康社会の全面的な完成、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために団結して奮闘している。われわれは歴史上のいかなる時期よりもさらに強大な科学技術イノベーション力を必要としている。中国共産党第十八回全国代表大会は、イノベーションを推進力とする発展戦略の実施という重要な布石を打ち、科学技術イノベーションを社会生産力と総合国力を向上させる戦略的支柱として、国の発展の全局の中心に位置づけなければならないと強調している。これは党中央が国内外の主な趨勢を総合的に分析し、わが国の発展の全局に立脚して下した重要な戦略的選択である。

二十一世紀に入り、新たな科学技術革命と産業革新を迎えつつあり、グローバルな科学技術イノベーションは新たな発展の趨勢と特徴を呈している。学際融合が速まり、新たな学問分野が絶えず誕生し、先端分野が絶えず広がり、物質構造、宇宙進化、生命起源、意識の本質といった基礎科学分野で大きなブレークスルーと発展を果たしつつあるか、または果たす望みがある。情報技術、バイオテクノロジー、新素材技術、新エネルギ

ー技術は広範に浸透し、ほとんど全ての分野でグリーン、インテリジェント、ユビキタスを特徴とする技術革命を牽引している。従来の基礎研究、応用研究、技術開発と産業化の境界はますます曖昧になり、科学技術イノベーションチェーンはさらに柔軟性を持ち、技術革新と成果転化のスピードがさらに速まり、産業のモデルチェンジとレベルアップのテンポが速まりつつある。科学技術イノベーション活動は地域、組織、技術の境界線を絶えず突破して、イノベーションシステム的競争の進化により、イノベーション戦略的競争が総合国力競争に占める地位は日増しに高まっている。科学技術イノベーションは地球を持ち上げるテコのように、いつも人が予想できない奇跡を創出することができる。現代科学技術発展の歴程はこの過程を十分に実証している。

科学技術イノベーションの新発展と新傾向を前にして、世界の主要国は科学技術イノベーションの新しい突破口を探し求め、機先を制して将来の経済・科学技術発展を自分のものにしようとしている。われわれは科学技術イノベーションの「競技場」で落伍するわけにはいかず、努力して先頭を追い、奮起して追いつき、追い越すよう全力を尽くさなくてはならない。

改革開放以来、わが国の経済と社会の発展は世界の注目を集める成果を収め、ＧＤＰは世界第二位に躍進し、多くの経済指標で世界の上位を占めている。しかし同時に、わが国は経済規模は大きいが、依然として強くなく、経済成長のスピードは速いが、依然として経済の質は高くないことも、必ず冷静に見なければならない。主に資源などの生産要素の投入に頼る経済成長の推進と規模拡張の粗放型発展パターンは持続可能ではない。現在、世界の先進国人口は全部合わせても十億人に過ぎないが、わが国の人口は十三億人余りで、その全ての現代化が実現することは、先進国人口は倍以上になることを意味する。その時にわれわれが現在の先進国人口の資源消費方式で働いたり、生活したりすれば、世界中の現有資源を全部与えられても足りない！そんなことは想像できないだろう。古い道が通れないなら、新しい道はどこにあるのか。新しい道は科学技術イノベーションに

あり、生産要素や投資規模による発展を主とすることからイノベーションを推進力とする発展を主とすることへの転換を加速することにある。
数日前に私が読んだ資料には次のように書かれていた。「ロボット革命」は「第三次産業革命」の切り口や重要な成長点となることが見込まれ、グローバルな製造業の勢力図に影響し、しかもわが国は世界最大のロボット市場となるという。国際ロボット連盟（ＩＦＲ）は「ロボット革命」が数兆ドル規模の市場を創出できると予測している。ビッグデータ、クラウドコンピューティング、モバイルインターネットといった新世代の情報技術とロボット技術との融和のテンポが速まったため、３Ｄプリンター、人工知能が急速に発展し、ロボットの製造に用いられるソフトウェアとハードウェア技術が日増しに成熟し、コストが絶えず下がり、性能が絶えず上がり、軍用無人航空機、ロボットカー（自動運転車）、家事ロボットは現実のものになり、あるインテリジェントロボットはかなりの程度で自己思考・自己学習の能力を備えている。国際世論はロボットを「製造業という王冠のてっぺんに輝く真珠」と例え、その研究・開発・製造・応用が一つの国の科学技術イノベーションとハイエンドの製造業レベルを評価する重要なメルクマールだとしている。ロボットメーカーや製造国は次々と布石を打ち、技術と市場の攻略ポイントを機先を制して手中にしようとしている。ここまで読んで、私はこう考えた。わが国が世界最大のロボット市場となるが、われわれの技術と製造能力はロボット業界の競争に対応できるのだろうか。われわれはわが国のロボットのレベルを高めるのみならず、できる限り多くの市場を押さえなくてはならない。このような新技術、新分野はほかにもまだたくさんある。われわれは時の動きを分析し発展の趨勢を見極め、全般的に考慮し、計画を急いで策定し、着実に推進しなければならない。
イノベーションを推進力とする発展戦略を実施するにあたって、最も根本的なのは自主イノベーション能力を増強することであり、最も緊迫しているのは、体制・メカニズムの障害を排除し、科学技術が第一の生産力

として蓄えた巨大な潜在能力を最大限に解き放ち、引き出すことである。将来に向けての自主イノベーション能力を増強するために、最も重要なのは中国の特色ある自主イノベーションの道を揺るぎなく歩み、自主イノベーションを堅持し、重点事項の枠を越え、発展を支え、未来をリードするという方針を堅持し、イノベーション型国家の建設テンポを加速しなければならない。

多年にわたる努力を経て、わが国科学技術の全体的水準は大幅に向上し、若干の重要な分野は世界の先進レベルにあり、ある分野は「後ろについて走る」から「並行して走る」「先頭を走る」状態へシフトしている。わが国はすでに新型工業化、情報化、都市化と農業現代化が同時に発展し、並行して発展し、多重化して発展するという重要な時期に入っており、自主イノベーションのための広々とした発展空間とかつてない強い原動力をもたらしている。

私はこれまで何度も述べてきたが、中華民族の偉大な復興は決して容易に実現できるわけではない。わが国が発展し強大になればなるほど、直面する抵抗と圧力も大きくなる。こうした経験から見れば、カギはタイミングと決断である。歴史的機会は往々にして少し気を緩めると過ぎ去ってしまう。われわれは科学技術イノベーションを推進するという重要な歴史的機会に直面しており、一度しか訪れない好機をしっかりと捉えなければならない。

われわれは改革開放三十数年来積み重ねてきた強固な物質的基礎があり、持続的イノベーションで形作られた一連の成果があり、イノベーションを推進力とする発展戦略を実施するために良好な条件を備えている。このため、先手を打ち、主導権を握る必要がある。国と民族にとって重要な戦略的意義のある科学技術における政策決定については、しっかりと考えて固まったなら、最終決断を下すべきだ。さもなくば、歴史的チャンスを逃してしまい、ひいては大きな代価を払うことになるかもしれない。

二〇一三年三月、私は第十二期全国政治協商会議第一回会議の科学技術協会と科学技術業界の政協委員の合同討論に参加した際、次のように言っている。総体から見れば、わが国の科学技術イノベーションの基礎はしっかりしておらず、自主イノベーション、特にオリジナル・イノベーション能力が強くなく、肝心な分野のコア技術で他者から掣肘を受けるという構図は根本的に変わっていない。コア技術を自らの手に握ってこそ、競争と発展の主導権を真に掌握することができ、国家経済の安全、国防の安全およびその他の分野の安全保障を根本的に確保することができる。いつも他人の昨日をもって、自国の明日を飾ってはならない。つねに他人の技術成果に頼って自国の科学技術の水準を高めるわけにはいかず、ましては技術の面で他国に従属し、いつまでも他人に追随してはならない。われわれはほかに選択肢がなく、自主イノベーションの道を歩まざるを得ない。

実践が示しているように、自力更生は中華民族を世界諸民族の中で自立させる奮闘の出発点であり、自主イノベーションはわれわれが世界の科学技術の高峰を登るために通らなければならない道なのだ。問題を目にしたら、「時はわれを待たず」精神で「駑馬に鞭打ち(一層スピードアップすること)」に局面を変えていくべきだ。数年も言っているが、結局は根本的に変わらないわけにはいかないのだ。当然ながら、自主イノベーションは「閉門造車(門を閉じて車を造る)」や「単打独闘(孤独な戦い)」ではなく、先進レベルに学ぶのを排斥することではない。また、世界と切り離して閉じこもることでもない。われわれは国際科学技術交流と協力をさらに積極的に展開し、国内外の科学技術資源をしっかり利用する必要がある。

科学技術は世界的、時代的なものであり、科学技術を発展させるにはグローバルなビジョンを持たなければならない。現在、グローバル経済の構造は科学技術イノベーションの大きなブレークスルーと応用の加速によって再構築される可能性が極めて高く、産業と経済における競争態勢も変わっていく。従来の国際競争の競技場では、ルールは制定済みで、われわれは参加してもいいが、制定済みのルールに従わなければならず、より

多くの主導権を持たない。新しい科学技術革命・産業変革の大きなチャンスをつかむには、新しい競争の競技場の建設初期から加わり、ひいては建設をリードする必要があり、これによって新しい競争のルールメーカーになり、新しい競争の競技場の重要なリーダーにならなければならない。われわれには他人に先んじる一つやいくつかの独自の得意技がなければ、新しい競争の競技場建設に参加し、それをリードする能力がなければ、チャンスは少なくなる。チャンスはいつも準備ができている人、構想や志、強靭な精神力を持つ者に与えられる。わが国が将来の発展において先行する者を追い越すことができるかどうか、機会を捉えて先行できるかどうかは、イノベーションによる発展において確実な一歩を踏み出すことができるかどうかによって決まる。

李四光〔一〕はこう語っている。「科学の存在は全て新発見にかかっている。新発見がなければ、科学は死んでしまう」〔二〕。フランスの作家ビクトル・ユゴーはこう語った。「すでに創造されたものは、創造が待たれるものに比べればほんの微々たるものだ」〔三〕。わが国の科学技術の発展方向は、まさにイノベーション、イノベーション、またイノベーションである。原始的な専門基礎理論のブレークスルーを極めて重視し、科学のインフラ建設を強化し、基礎的、系統的、先端的技術の研究と技術開発を引き続きしっかりと推し進め、自主イノベーション成果の供給源を強化しなければならない。グローバル・イノベーションのリソースを積極的かつ自発的に整合して利用し、わが国の現実のニーズ、発展のニーズから出発し、世界の国際的大型科学装置と研究開発基地および研究開発センターの建設と利用について選択的、重点的に参加すべきである。重点分野の科学技術発展の戦略的チャンスを的確に把握し、全局と長期的発展にかかわる戦略上の争奪戦となる分野と優先方向を的確に選び、効率的かつ合理的な配置を通じて、協同イノベーションと開放イノベーションを深く突っ込んで推進し、効率的かつ強大な汎用技術・キーテクノロジー供給システムを構築し、キーテクノロジーの重要なブレークスルーの実現に努力し、それを自分の手で掌握する。

「聡者は無声に於いて聴き、明者は未形に於いて見る（聡明な人は混沌の中で方向をはっきり見分けることができ、困惑の中で真理を鑑別する能力がある）」〔四〕。科学技術イノベーションには限りがない。科学技術の競争はショートトラック・スピードスケートのように、われわれは全力で滑走している時に、他の選手も加速している。最後の勝負はスピードの速さ、スピードの持続力によって決まる。荀子〔五〕がこう語る。「騏驥も一躍にして十歩なること能わず。駑馬も十駕すればまた之に及ぶ。功は舎めざるにあり。鍥んで之を舎めざれば、朽木も折れず。鍥んで之を舎めざれば、金石も鏤むべし」〔六〕。その意味は、よく走るすぐれた馬でも、一回の跳躍で十歩の距離を進むことはできない。足の遅い駄馬であっても十日も車につないで走らせ、途中で捨て去らなければ、功績をあげることができる。刻んで途中で止めれば、朽木でも折ることはできないが、途中で止めなければ、金属や石でも細工することができるということだ。わが国の広範な科学技術関係者は果敢に担い、勇敢に追い越し、正しい方向を向いて、しっかりと押さえてゆるめず、先例となることをおそれない志と自信をしっかり確立し、前人未踏の道を歩むことを恐れず、難関攻略の中で卓越を追い求め、世界の潮流をリードする科学技術の成果を勇敢に創造しなければならない。

イノベーションを推進力とする発展戦略の実施はシステム工学である。科学技術の成果は国の需要、民衆の要請、市場のニーズと結び付き、科学研究から実験開発、普及応用への三段跳びを完成して初めて、イノベーション価値の創出、イノベーションによる発展を真に実現することができる。

なぜ明末・清初以降のわが国の科学技術が徐々に立ち遅れてきたのか、私はずっと考えている。ある研究者は、清の康熙帝〔七〕は西洋の科学技術に大変興味を持ち、西洋人宣教師から天文学、数学、地理学、動物学、解剖学、音楽、ひいては哲学を含む西洋文化を学んだが、講義された天文学に関する本だけで百冊以上にもなった。いつごろから学び始め、どのくらいの時間学んだのだろうか。それはおよそ一六七〇年から一六八二年にかけて

のことで、二年五カ月ずっと西洋の学問を学び続けた。学んだのは早くないとは言えず、学んだことは多くないとは言えないが、問題なのは、当時西洋の学問に興味を持ち、学んだことも少なくないにもかかわらず、これらの知識はわが国の経済・社会の発展のために何の役割も果たすことがなかったことだ。ほとんどは机上の空論だった。一七〇八年、清朝政府は宣教師を集め、十年を費やして史上空前の高いレベルを持つ中国全土の実測図「皇輿全覧図」を作成させ、この分野で世界のトップに立った。ただし、こうした重要な成果は長い間機密文書として宮中に所蔵され、一般社会ではまったく目にすることができず、経済・社会の発展に何の役割も果たすことができなかった。逆に、制作に参加した西洋人宣教師は資料を西洋に持ち帰って整理し、発表した。これによって、かなり長期にわたって西洋人の中国地理への理解は中国人を上回るものとなっていた。これは何を物語っているのだろうか。科学技術は社会の発展と結びつけなければならず、学んだことがいくら多くても、それをしまい込み活用しなければ、ただ一種の猟奇的、高尚な趣味でしかなく、ひいては不必要な奇抜なものや精巧なものと見なされるに過ぎず、現実社会に対して役割を果たすことはできないのだ。

長年にわたってわが国には、科学技術の成果を現実的生産力へ転化させることが効率的でなく、スムーズでないという持病が存在している。その中の一つの重要な問題点は、科学技術イノベーションチェーンに数多くの体制や制度の障壁が存在し、イノベーションと転化の各プロセスが密接にリンクしていないことにある。それはリレー競技で、第一走者がリレーゾーンに到達した時にバトンを受け取る第二走者がおらず、あるいは第二走者はバトンを受け取ったもののどこに向かって走るか分からないといったようなものだ。

この問題を解決するには、科学技術体制の改革を深め、科学技術イノベーションを制約するすべての思想上の障害や制度の垣根を一掃し、政府と市場との関係をうまく処理し、科学技術と経済・社会発展を深く融合させるよう推進し、強い科学技術から強い産業、強い経済、強い国に至る道筋を通じさせ、改革によってイノベ

ーションの活力を放出させ、国家イノベーションシステムの構築・健全化を加速し、すべてのイノベーションの源泉を十分に湧き出させなければならない。

科学技術イノベーションをわが国の発展の新しいエンジンに例えるとすれば、改革はこの新しいエンジンをかけるための欠かせない点火装置だ。われわれはより効果的な措置を取り点火装置を健全化し、イノベーションを駆動する新しいエンジンをフル回転させるようにしなければならない。

科学技術体制の改革には、硬い骨のような難問にしっかりとかじりつき、難関を攻略して困難を克服し、中国共産党第十八期三中全会で確定された科学技術体制改革の諸任務を早急に実行に移す必要がある。全力で科学技術イノベーションを国の発展の全局の中心に位置づけ、イノベーションの推進力による発展戦略におけるトップダウン設計の制定を加速し、重要な課題に対してロードマップとタイムテーブルを制定する必要がある。全力で科学技術体制の改革と経済・社会分野の改革という二つの面で同一歩調を取って力を出し、国家の科学技術イノベーション戦略計画、資源配置体制とメカニズムを改革し、政治的業績評価システムとインセンティブ体系を整備し、産・学・研（企業・大学・科学研究機関）の連携を深め、科学技術成果の移転・転化の制約のカギとなる問題の解決を急ぐべきだ。全力で科学技術イノベーションの統一的計画・協調を強化し、科学技術イノベーションにおける各分野、各部門、各方面の分散、閉鎖、交錯、重複といった断片化現象を克服するよう努力し、イノベーションにおける孤立化現象を回避し、各主体、各方面、各プロセスの有機的インタラクティブ、協同的かつ効率的な国家イノベーションシステムの構築と健全化を加速しなければならない。科学技術イノベーション基礎制度をしっかりと整備し、国家科学技術報告制度、イノベーション調査制度、国家科学技術管理情報システムの確立と健全化を急ぎ、科学技術リソースの開放、共有のレベルを大幅に向上させる必要がある。全力で産業チェーンをめぐるイノベーションチェーンを配置し、イノベーションチェーンをめぐる

金融サプライチェーンを完備させることに力を入れ、国家戦略目標に照準を合わせ、資源を集結させて相乗効果を作り出し、国民経済や民生、経済の命脈に関わる重要なキーテクノロジーにおけるブレークスルーを成し遂げなければならない。全力で基礎研究体制とメカニズムの整備を加速し、基礎研究、先端技術、汎用技術・キーテクノロジー、公益的技術と戦略的技術の研究を重要な基礎プロジェクトとして実行し、国家の重要な科学技術計画と科学プロジェクトをしっかり実施し、国際科学の先端分野の戦略的高地を押さえなければならない。科学技術イノベーションを中心にし、製品イノベーション、ブランドイノベーション、産業組織イノベーション、ビジネスモデルイノベーションを全方位的に推し進め、イノベーションの推進による発展戦略を現代化建設の全過程と各方面に移して実施しなければならない。

科学技術体制の改革を推進する過程において、われわれは一つの問題に注目しなければならない。それは、わが国の社会主義制度が力を集結させ大事をなすことができるための重要な制度的保証だということである。わが国の数多くの重要な科学技術成果はこの制度的保証によって生み出されたもので、決して捨ててはいけない。資源配置において市場に決定的な役割を果たさせ、同時に政府の役割をよりよく果たし、統一計画・協調を強化し、協力イノベーションを大いに展開し、力を集結させて大事をなし、重要・先端・基本を捉え、自主イノベーションの強大な相乗効果を創出し、推進しなければならない。

「蓋し非常の功有るは、必ず非常の人を待つ（非凡な功業を立てるには非凡な才能をもつ人材に頼る必要がある」〔八〕。人間は科学技術イノベーションにとって最も肝心な要素である。イノベーションの事業は革新的人材を呼び寄せる。人材の尊重は中華民族悠久の伝統である。「思れ皇きかな多士、この王国に生まれたる。王国よく生めり、維周の楨なり。済済たる多士、文王以て寧し」。これは『詩経・大雅・文王』〔九〕にある言葉である。その意味は周文王〔一〇〕は賢人を尊び、厚遇するため、多くの人材が集まり、国もこれによって強大になったとい

うことだ。中華民族の偉大な復興を実現するには、人材が多ければ多いほどいいし、才能があればあるほどいい。わが国は人的資源の大国であり、知的資源の大国でもある。わが国の十三億余りの人の頭の中に蓄えられた知的資源は最も貴重なものだ。知識は力であり、人材は未来である。わが国は科学技術イノベーションにおいて世界の最前列に立ち、イノベーション実践において人材を発見し、イノベーション活動において人材を育成し、イノベーション事業において人材を凝集しなければならず、規模が大きく、構造が合理的で、資質に優れたイノベーション型科学技術人材の育成に力を入れなければならない。

わが国は世界最大規模の科学技術陣を持ち、われわれはこれを誇りに思う必要がある。しかし、われわれの科学技術陣はイノベーション型科学技術人材が構造的に不足しているという矛盾が目立ち、世界レベルの科学技術の学者・専門家が欠乏しており、リーダー型人材、先端人材が不足し、エンジニアリング人材の育成がイノベーション実践と乖離するという厳しい試練に直面している。「一年の計は穀を樹うるに如くは莫く、十年の計は木を樹うるに如くは莫く、終身の計は人を樹うるに如くは莫し（一年の利益から考えるならば穀物を植えることが、十年の利益ならば樹を育てることが、そしてもっと長期の、一生の利益を考えるならば、人材を育てることが一番だ）」〔一一〕。われわれは人材資源の開発を科学技術イノベーションの最優先の位置に置き、人材の育成、導入、使用のメカニズムを改革し、多くの世界的レベルの研究者、科学技術リーダー、エンジニアと高水準のイノベーションチームを育成するよう努力し、最前線のイノベーション人材と若手科学技術人材の育成に力を入れなければならない。

人材成長の法則によって人材育成のメカニズムを改善し、「能く木の天に順いて、以て其の性を致すのみ。（樹木の天性を尊重してこそその潜在力を最大限に生かすことが可能になる）」〔一二〕、目前の功利を求め、功を焦って方法を誤ることを回避する必要がある。競争・インセンティブと協力・尊重との結び付きを堅持し、人材資

源の合理的かつ秩序ある流動を促すべきである。広い範囲で海外の優秀な専門家、研究者を誘致してわが国の科学技術イノベーション事業のために奉仕してもらう必要がある。全社会で大胆にイノベーションに取り組み、果敢にイノベーションに取り組み、イノベーションを包容するという良好な雰囲気をつくり、成功を重視する一方、失敗に寛容に対応し、人材評価の指導的役割を完全なものにし、人材が役割を発揮し、才能を発揮するためにさらに広々とした空間を提供する必要がある。

未来はいつも若者に属するものだ。数多くのイノベーション型人材を擁することは国のイノベーションの活力の所在であり、科学技術発展の希望の所在でもある。「我れ天公に勧む重ねて抖擻して、一格に拘わらず人材を降せと（地位身分に関係なく、天下の人材を下賜されたい）」〔一三〕と言う。広範な中国科学院や中国工程院会員は科学技術イノベーションの開拓者になるのみならず、後輩を助けるリーダーになる必要がある。広範な中国科学院や中国工程院会員は若手科学技術人材育成の責任を担い、献身的精神で、若者を丁寧に指導し、素晴らしい眼識で人材を発見し、人材の発掘・育成・推薦を絶えず行い、先端的イノベーション人材の才能をすべて発揮させるための懸け橋を築くことを願っている。幅広い若手科学技術人材は科学精神を樹立し、イノベーション思考を養成し、イノベーションの潜在力を掘り起こし、イノベーション能力を高め、先人から受け継いだ基礎の上で、たゆまず乗り越えていかなければならない。

〔注〕

〔一〕　李四光（一八八九～一九七一）、湖北省黄岡市出身。中国の地質学者、中国地質事業の創始者の一人である。

〔二〕　李四光の「地質関係者は科学の戦線でどんなことをしたのか」（『李四光全集』第八巻、湖北人民出版社、

〔三〕一九九六年版、第二四三頁）を参照。

〔四〕ヴィクトル・ユゴー『ウイリアム・シェークスピア』（訳林出版社、二〇一三年版、第一六六頁）を参照。

〔五〕司馬遷の『史記・淮南衡山列伝』を参照。司馬遷（前一四五あるいは前一三五〜？）、左馮翊夏陽（現在の陝西省韓城市の西南部）出身。前漢時代の史学家、文学者。『史記』は中国初の紀伝体の歴史書と伝記文学の大作であり、叙述範囲は伝説上の黄帝から前漢の武帝までで三千年余りに及ぶ。

〔六〕荀子（前三二五〜前二三八）、名は況、趙（現在の山西省北部）の人。戦国時代末の哲学者、思想家、教育家。「天行に常有り（天体の運行には軌道と原則がある）」とし、「制天命而用之」という人定勝天（人間は天下を治めることができる）の思想と性悪説を唱える。著書は『荀子』である。『荀子』は秦の時代の儒家、墨家、道家など諸学派の哲学思想への総括と発展である。

〔七〕荀子の『荀子・勧学』を参照。

〔八〕康熙、清の聖祖（一六四五〜一七二二）を指す。即ち愛新覚羅・玄燁。在位期間は一六六一〜一七二二年。

〔九〕班固の『漢書・武帝紀』を参照。班固（三二〜九二）、扶風安陵（現在の陝西省咸陽市東北部）出身。後漢の史学家。『漢書』は『前漢書』とも呼ばれ、中国最初の紀伝体の断代史（一つの王朝に区切っての歴史書）であり、前漢の歴史を研究するための重要な史書である。

〔一〇〕『詩経』、中国最古の詩集であり、「詩」と略称し、あるいは「詩三百」と呼ばれる。西周初期から春秋中期に及ぶ（約前十一世紀〜前六世紀）五百年間の歌謡三百五編を収録。『国風』『雅』『頌』の三部門に分けている。

〔一一〕周文王（生没年不詳）、姓は姫、名は昌。周王朝の創始者。伝えられるところによると、在位期間は五十年。

〔一二〕『管子・権修』を参照。

〔一三〕柳宗元の『種樹郭橐駝』を参照。柳宗元（七七三〜八一九）、本籍地は河東（現在の山西省永済市西部）。その後は長安（現在の陝西省西安市）に移る。唐代の文学者、哲学者。

〔一三〕龔自珍の『己亥雑詩』を参照。龔自珍（一七九二〜一八四一）、浙江省仁和（現在の杭州市）出身。清代の思想家、史学家、詩人。

わが国のエネルギー生産・消費革命を積極的に推進しよう

（二〇一四年六月十三日）

中央財政・経済指導グループ第六回会議における談話の要旨

エネルギー安全保障は国の経済・社会発展の全体性、戦略性に関わる問題であり、国の繁栄と発展、国民生活の改善、社会の長期的安定にとって極めて重要である。エネルギー需給の枠組みに生じた新変化、世界のエネルギー発展の新傾向を前にして、国のエネルギー安全を保障するには、エネルギー生産・消費革命を推進しなければならない。エネルギー生産・消費革命の推進は長期的戦略であり、現在からスタートし、重点的な任務と重要な措置の実行を急がなければならない。

長期にわたる発展を経て、わが国は世界最大のエネルギー生産国、消費国となり、石炭、電力、石油、天然ガス、新エネルギー、再生可能エネルギーが全面的に発展するエネルギー供給体系が形成され、技術設備のレベルが顕著に高められ、生産・生活のエネルギー使用条件も著しく改善された。わが国はエネルギーの発展において大きな成果を上げたとはいえ、エネルギー需要の圧力が大きく、エネルギー供給の制約が多く、エネルギー生産・消費による生態環境破壊が深刻で、エネルギー技術水準の全般的立ち遅れという課題に直面している。われわれは必ず、国家の発展と安全保障という戦略的次元から情勢を分析、見極め、潮流に応じて対処し、エネルギ

ー発展の趨勢に順応する道を見つけなければならない。

第一に、エネルギー消費革命を推進し、不合理な消費方式を抑制する。エネルギー消費の総量をしっかりとコントロールし、省エネ優先の方針を効果的に実行に移し、省エネルギーを経済・社会発展の全過程と各分野で貫徹し、産業構造を断固として調整し、都市化における省エネルギーを高度に重視し、勤勉節約の消費観を樹立し、エネルギー節約型社会の構築を加速する。第二に、エネルギー供給の改革を推進し、多元化供給体系を構築する。国内の多元化供給による安全保障に立脚し、石炭のクリーンかつ高効率な利用を大いに推進し、非化石エネルギーの発展に力を入れ、石炭、石油、天然ガス、原子力、新エネルギー、再生可能エネルギーなどによる多輪駆動のエネルギー供給体系を構築し、同時にエネルギーの送配ネットワークと備蓄施設の建設を強化する。第三に、エネルギー技術革命を推進し、産業のレベルアップを牽引する。わが国の国情に立脚し、世界のエネルギー技術革新の新趨勢に歩調を合わせ、グリーン・低炭素を目指し、技術革新、産業革新、商業モデルの革新をおのおの推進してその他の分野のハイテクと緊密に結び付け、エネルギー技術とその関係産業をわが国の産業レベルアップを牽引する新たな成長点に育て上げていく。第四に、エネルギー体制革命を推進し、エネルギー発展の高速レーンを整備する。改革を確固として推進し、エネルギー製品の属性を元に戻し、効果的な競争のある市場構造と市場システムを構築し、市場によるエネルギー価格決定という仕組みを確立し、エネルギーへの政府の監督・管理方式をシフトし、エネルギー法制システムを構築し、健全化する。第五に、国際協力を全方位に強化し、オープンな環境条件下におけるエネルギー安全保障を実現する。国内に立脚するという前提の下、エネルギー生産・消費革命の及ぶ各方面において国際協力を強化し、国際資源を効果的に利用する。

二〇三〇年エネルギー生産・消費革命戦略を早急に策定し、「第十三次五カ年」エネルギー計画を研究しな

ければならない。一部のエネルギー消費効率基準の改訂を急ぎ、立ち遅れたものであればすべてその改訂を急ぎ、定期的に更新し、そして真剣に実行しなければならない。電力の外部への送電を主とする千万キロワット級の大型石炭火力発電基地を引き続き建設し、石炭火力発電ユニットの参入基準を引き上げ、省エネ・汚染物質排出削減基準に達していない現役の発電ユニットについては、期限を設けて改造やレベルアップを実施し、引き続き遠距離の大容量電力輸送技術を発展させる。国際的に最も安全な基準を採用して安全を確保する前提の下、早急に東部沿海地域に新たな原子力発電所プロジェクトの建設を始動する。「一ベルト一ロード」〔一〕のエネルギー協力を着実に推進し、石油・天然ガスにおける中央アジア、中東、アメリカ州、アフリカとの協力に大いに力を入れる。石油・天然ガス資源の探査・開発に力を入れ、石油・天然ガスパイプライン、石油・天然ガス備蓄施設建設を強化し、エネルギー緊急対応システムと能力向上について整備を進め、エネルギー統計制度を改善する。エネルギー体制の改革を積極的に推進し、電力体制改革と石油・天然ガス体制改革の全体方案制定を急ぎ、エネルギー分野の法律・法規の制定、改定、廃止の取り組みをスタートさせる。

〔注〕

〔一〕　「一ベルト一ロード」は「シルクロード経済ベルト」と「二十一世紀海上シルクロード」の略称。



第五章
法によって国を治める

首都各界による現行憲法公布施行三十周年記念大会におけるスピーチ

（二〇一二年十二月四日）

同志の皆さん、友人の皆さん

一九八二年の十二月四日、第五期全国人民代表大会第五回会議で「中華人民共和国憲法」が可決された。わが国の現行憲法の公布施行は三十年を迎えた。本日、われわれがここで盛大に集会を開き、この大きな歴史的意義と現実的意義のある出来事を記念することは、まさに憲法の全面的かつ効果的な施行を確保し、中国共産党第十八回全国代表大会精神の全面的貫徹を推進するためである。

歴史は常に人々に深い啓示を与えている。わが国の憲法制度発展の歴程を振り返ると、わが国の憲法が党と人民が行った艱難辛苦に満ちた奮闘と創造の輝かしい成果との緊密なつながりを持ち、党と人民が切り開いた前進の道と積み重ねられた貴重な経験との緊密なつながりを持つことを、いっそう強く感じる。

わが国の現行憲法は、一九四九年の臨時憲法の役割を持つ「中国人民政治協商会議共同綱領」と一九五四年の第一期全国人民代表大会第一回会議で可決された「中華人民共和国憲法」にさかのぼることができる。これらの文献は国家の根本法の形で、近代百年来の中国人民が国内外の敵に反対し、民族の独立と人民の自由と幸

福を勝ち取るために行った勇敢な闘いをはっきりと認め、中国共産党が中国人民を率いて新民主主義革命[一]の勝利を勝ち取り、中国人民が国家の権力を握る歴史的変革をはっきりと認めている。

一九七八年、わが党は重要な歴史的意義を持つ中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議を召集し、改革開放という新しい歴史的時期がスタートし、社会主義民主を発展させ、社会主義法制を健全なものにすることは党と国家の確固不動の基本的方針となった。まさにこの会議で、鄧小平氏が「人民の民主を保障するには、法秩序を強化しなければならない。民主の制度化、法律化につとめ、指導者が交替したからといって、あるいは指導者の考え方や注意力の振りむけ方が変わったからといって、すぐ制度や法律が変わるようなことを防がなければならない」[二]と鋭く指摘したのだった。党の第十一期三中全会で確定した路線・方針・政策を踏まえ、わが国の社会主義建設のプラスとマイナス両面の経験を総括し、「文化大革命」[三]十年の痛ましい教訓を深く汲み取り、世界の社会主義における成功と失敗・得失を鑑とし、わが国の改革開放と社会主義現代化建設、社会主義民主法制建設強化の新しい要請に応じるため、われわれはわが国の現行憲法を制定した。同時に、憲法は絶えず新情勢に適応し、新たな経験を吸収し、新たな成果を認めてこそ、生命力を持続的に維持することができる。一九八八年、一九九三年、一九九九年、二〇〇四年の全国人民代表大会ではそれぞれわが国現行憲法の一部の条文と内容に対して必要かつ非常に重要な改正を行い、わが国の憲法は安定性と権威性を保った上で、時代の前進の歩みにしっかりと歩調を合わせ、時代と共にたゆまず前進することになった。

わが国の憲法は国家基本法の形式で、中国の特色ある社会主義の道、中国の特色ある社会主義理論体系、中国の特色ある社会主義制度発展の成果を打ち立て、各民族人民の共通の意志と根本的利益を反映して、歴史の新時期における党と国家の中心的活動、基本的原則、重要な方針、重要な政策の国の法制面における最高の体現となった。

三十年来、わが国の憲法はその法としての最高の地位と強大な法制の力によって、人民が主人公となることを力強く保障し、改革開放と社会主義現代化建設を力強く促進し、社会主義法制国家のプロセスを力強く推進し、人権事業の発展を力強く促進し、国家の統一、民族の団結、社会の安定を力強く維持し、わが国の政治、経済、文化、社会生活に極めて大きな影響をもたらした。

三十年間の発展の過程が十分に立証しているように、わが国の憲法は国情と実情に合致し、時代の発展の要請に合致する優れた憲法であり、人民の共同の意志を十分に具現し、人民の民主と権利を十分に保障し、人民の根本的利益をしっかり守る優れた憲法であり、国の発展と進歩を推進し、人民が幸福な生活を打ち立てるのを保障し、中華民族の偉大な復興の実現を保障する優れた憲法であり、わが国と人民がさまざまな困難や試練に耐え、終始中国の特色ある社会主義の道に沿って前進する根本的な法制保障である。

さらにさかのぼって新中国成立六十余年来のわが国の憲法制度の発展の歴程を振り返ると、われわれは憲法が国家の前途、人民の運命と密接にかかわっているのをはっきりと見て取ることができる。憲法の権威を守ることは、党と人民の共通意志の権威を守ることである。憲法の尊厳を守ることは党と人民の共通意志の尊厳を守ることである。憲法の施行を確保することは人民の根本的利益の実現を確保することである。憲法を確実に尊重し効果的に施行しさえすれば、人民の主人公としての地位は確保でき、党と国家の事業は順調に発展できるのである。その反面、憲法が軽視されたり、弱められたり、ひいてはぶちこわされたりするとなると、人民の権利と自由は確保できず、党と国家の事業は挫折してしまう。これら長期的実践から得た貴重な啓示はより大切にしなければならない。われわれはより高い自覚を持って憲法の原則を遵守し、憲法の精神を発揚し、憲法から与えられた使命を履行すべきである。

われわれは成果を十分に肯定すると同時に、不十分な点があることを見て取らなければならない。主なもの

として、憲法の施行を確保する監督制度および具体的制度がまだ整っておらず、一部の地方や部門において法に則らない、法執行が厳格でない、違法行為が追及されないことが依然存在する。人民大衆の切実な利益にかかわる法執行・司法問題がまだ目立つ。公職にある一部の者の職権濫用、職責不履行、職務怠慢、法執行における違法行為、さらには自らの利益や私情のために法を曲げる行為が、国の法制の権威を著しく損なっている。一部指導幹部を含む公民の憲法意識の一層の向上が待たれる。われわれはこうした問題を大いに重視し、しっかりと解決しなければならない。

同志の皆さん、友人の皆さん

第十八回党大会は、法によって国を治めることは党が人民を指導して国を治める基本方策で、法治は国政運営の基本的な方式であり、国家のガバナンスと社会管理における法治の重要な役割の発揮をさらに重んじ、法によって国を治めることを全面的に推進し、社会主義法治国家の構築を加速すべきだと強調している。この目標を実現するには、憲法を全面的に貫徹・施行しなければならない。

憲法の全面的な貫徹と施行は、社会主義法治国家建設の最重要任務であり基礎的な取り組みである。憲法は国の基本法であり、国家を管理し平和に安定させるための総規則であり、法として最高の地位、権威、効力を備え、基本性、全局性、安定性、長期性を備える。全国各民族人民、全ての政府機関と武装力、各政党と各社会団体、各企業・事業組織は憲法を根本的な活動準則としなければならず、しかも憲法の尊厳を守り、憲法の施行を保障する職責を負っている。いかなる組織または個人も、憲法と法律を超える特権を有してはならない。憲法と法律に違反する行為は全て追及しなければならない。

憲法の生命は施行にあり、憲法の権威も施行にある。われわれは憲法の施行活動に絶えず力を入れ、憲法の全面的貫徹・施行を新しいレベルに引き上げなければならない。

第一に、正しい政治の方向性を堅持し、中国の特色ある社会主義政治の発展の道を揺るぎなく歩むことである。改革開放以来、わが党は人民を団結させ率いて社会主義民主政治を発展させる面で大きな進展をとげ、中国の特色ある社会主義政治の発展の道を成功裏に切り開き、それを堅持し、最も広範な人民民主を実現するために正しい方向性を樹立した。この政治的発展の道の核心的思想、主体的内容と基本的要請はすべて憲法に確認され、具現化されており、その本質は密接に繋がり合い、互いに通じ合い、相互に促進し合うものだ。国家の根本的制度と根本的任務、国家の指導の核心と指導思想、労働者階級が指導する、労農同盟を基礎とする人民民主独裁の国家体制、人民代表大会制度の政治体制、中国共産党指導下の多党合作と政治協商制度、民族区域自治制度と末端大衆自治制度、愛国統一戦線、社会主義法制原則、民主集中制原則、人権の尊重と保障原則――など、これら憲法の確立した制度と原則を長期的に堅持し、全面的に貫徹し、絶え間なく発展させなければならない。

中国の特色ある社会主義政治発展の道を堅持するカギは、党の指導の堅持、人民が主人公であること、法により国を治めることとの有機的統一である。人民が主人公であることとの保障を根本とし、党と国家の活力を増強し、人民の積極性を引き出すことを目標とし、社会主義民主を拡大し、社会主義政治文明を発展させなければならない。われわれは国家の一切の権力が人民に属するという憲法の理念を堅持しなければならず、最大限に人民に働き掛け、動員・組織して憲法と法律の規定に則り、各級人民代表大会を通じて国家の権力を行使し、さまざまなルートと形式を通じて国家と社会事務を管理し、経済と文化事業を管理し、共同で建設に参加し、成果を共有し、共に発展し、国家、社会と自らの運命の主人公となるようにしなければならない。われわれは憲法の確立した民主集中制の原則、国家政権体制と活動準則に基づいて、人民代表大会が国家権力の統一的行使を行い、政策決定権、執行権と監督権を合理的に分担し互いに協調し、政府機関が法に定められた権限と手続き

によって職権を行使し、職責を履行することを保障し、政府機関が諸事業を統一的かつ効果的に配置することを保障しなければならない。われわれは憲法の確立した体制と原則に基づいて中央と地方の関係、民族関係、各方面の利益関係を正しく処理し、全ての積極性を引き出し、民主的で、団結した積極的で活力にあふれ、安定し調和の取れた政治局面を強固にし、発展させなければならない。われわれは人民民主を拡大し、経済・社会の発展を促進する新たな要請に応じ、政治体制改革を積極的かつ適切に推進し、より広範で、より十分かつ健全な人民民主を発展させ、わが国の社会主義政治制度の優位性を十分に生かし、社会主義政治制度の自己改善と自己発展を絶えず推し進めていかなければならない。

第二に、法によって国を治める基本的方略を確実に実施し、社会主義法治国家の建設を加速する。憲法は社会主義法制の基本的原則を確立し、中華人民共和国が法によって国を治めること、社会主義法治国家を建設すること、国が社会主義法制の統一と尊厳を守ることを明確に定めている。法によって国を治める基本的方略を実行するには、科学的な立法、厳格な法の執行、公正な司法と国民全体の法律遵守のプロセスを全面的に推進しなければならない。

われわれは憲法を最高の法的規範とし、憲法をはじめとする中国の特色ある社会主義の法体系を引き続き改善し、国の諸事業と諸活動を法制の軌道に乗せ、従うべき法があり、法があれば必ずそれに基づき、法は必ず厳格に執行し、違法行為は必ず追及し、社会の公平・正義を守り、国と社会生活の制度化、法制化を実現しなければならない。全人代とその常務委員会は重点分野における立法を強化し、民衆の秩序ある立法への参加の道筋を拡大し、完備した法律によって憲法の施行を推進し、憲法の確立した制度と原則を実行に移すことを保障しなければならない。国務院と立法権を持つ地方の人民代表大会およびその常務委員会は法律と相互に連結する行政法規と地方性法規の制定、改正を早急に行い、憲法と法律の効果的施行を保障しなければならない。

各級国家行政機関、裁判機関、検察機関は法による行政、公正な司法を堅持し、法治政府の建設を急ぎ、司法の社会的信頼性を絶えず高めなければならない。国務院と地方の各級人民政府は国家権力機関の執行機関、国家行政機関として、憲法と法律を厳格に貫徹・施行する上で重要な職責を担い、政府行為を規範にし、厳格で規範に合った公正で文明的な法執行を確実に行わなければならない。われわれは司法体制改革を深め、法律に則り独立した公正な裁判権・検察権の行使を保障しなければならない。全人代とその常務委員会および政府の関係監督機関は憲法と法律監督の職責を担い、憲法と法律の施行への監督・検査を強化し、監督の仕組みと手順を健全にし、違憲・違法な行為をあくまで是正しなければならない。地方の各級人民代表大会とその常務委員会は法に則って職権を行使し、憲法と法律の当該地域における遵守と執行を保障しなければならない。

第三に、人民の主体的地位を堅持し、公民の権利の享有と義務の履行を適切に保障する。公民の基本的権利と義務は憲法の核心的内容であり、憲法は全ての公民が権利を享有し、義務を履行するための根本的保障である。憲法の基盤は人々が心からそれを擁護していることにあり、憲法の偉大な力は人民のこれに対する真摯な信仰にある。法律の前では全ての公民が平等であることを保障し、人権を尊重し保障し、公民の法による広範な権利と自由の享受を確保してこそ、憲法は深く人々の心に染み込み、民衆に受け入れられることができ、憲法の施行は真に公民全体の自発的行動となることができる。

われわれは法に則って公民全体の広範な権利の享有を保障し、公民の人身権、財産権、基本的参政権などの諸権利の不可侵を保障すべきで、公民の経済、文化、社会の各方面における権利の履行を保障し、最も広範な人民の根本的利益を守り、人民大衆の幸せな生活への憧れと追求を保障しなければならない。われわれは法に基づいて民衆の要請に公正に対応し、民衆に全ての司法案件の過程で公平・正義を感じさせるために努力し、不公正な裁判が民衆の感情を傷つけたり、民衆の利益を損なったりすることのないようにしなければならない。

われわれは社会全体で憲法についての広報・教育を強化し、人民全体、特に各級指導幹部と政府機関関係者の憲法意識と法制観念を高め、社会主義法治精神を発揚し、社会主義法治文化を育て、憲法を誰にも分かるようにし、社会全体で憲法を学び、憲法を尊び、憲法を守り、憲法を使うという良好な気風を形成しなければならない。われわれはたゆまぬ努力によって、社会全体で憲法と法律の権威を強固に打ち立て、広範な人民大衆が法律を十分に信頼し、自発的に法律を運用し、広範な人民大衆が憲法は必ず遵守すべき行為規範であるのみならず、公民の権利を保障する法律的武器だと認識させなければならない。われわれは憲法についての広報・教育を党員幹部の教育の重要な内容とし、各級指導幹部と行政機関職員に憲法の基本的知識を習得し、憲法に忠実で、憲法を尊重し遵守するという自覚意識を打ち立てなければならない。法律は成文化された道徳であり、道徳は内心の法律である。われわれは法によって国を治めることと道徳によって国を治めることとの結び付きを堅持し、道徳の公民の行為に対する規範の役割を非常に重視し、公民が法に従って合法的権益を守る一方、自発的に法で決められた義務を履行し、権利の享有と義務の履行とが互いに一致するよう導かなければならない。

第四に、党の指導を堅持し、党の指導方式と執政方式の改善をより重視しなければならない。法によって国を治めるには、まず憲法に基づき国を治めることである。法による執政のカギは憲法に基づく執政である。新しい情勢のもと、わが党は政権を運営して国を発展させる重要な職責をしっかり履行し、党規約に従って党を厳格に治め、憲法に従って国政運営をしなければならない。党が人民を指導し、憲法と法律を制定し、党が人民を指導し憲法と法律を執行し、党自身は憲法と法律の範囲内で活動すべきで、党が立法を指導し、執法を保障し、率先して法を守ることを真に実現しなければならない。

われわれは党が全局的に掌握し、各方面を協調させるという指導の核心的役割を堅持し、法によって国を治

めることの基本方略と法による執政の基本方式を堅持しなければならず、党の主張を法定手続きを経て国家意志に変えること、党組織の推薦する人を国の政権機関の指導者にならせること、国の政権機関を通じて党の国と社会に対する指導を実行することに長じるべきで、国の権力機関、行政機関、裁判機関、検察機関が憲法と法律により独立して責任を負い、歩調を合わせて活動を行うのをサポートしなければならない。各級党組織と党員指導幹部は率先して法治を励行し、法に基づく執政能力と水準を不断に高め、国政運営の諸活動の制度化、法律化を絶えず推し進めなければならない。各級指導幹部は法治の理念と方式によって改革の深化や発展の促進、矛盾の解消、安定の維持に取り組む能力を高めなければならず、事を行うには法に従い、事に当たるには法を求め、問題を解決するには法を用い、矛盾を解消するには法に拠るという望ましい法治環境を形成するよう努め、法治によって諸活動を推進しなければならない。われわれは権力運用への制約・監督体系を健全化させ、権力があれば必ず責任を負い、権力を運用すれば必ず監督を受け、職務上の過失があれば必ず問責を受け、法律に違反すれば必ず追及されなければならず、人民に賦与された権力を終始人民の利益をはかるために使うことを保障しなければならない。

同志の皆さん、友人の皆さん

全党、全国各民族人民は党中央の周りに固く結束して、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとして、法によって国を治めることと法による執政、法による行政を共に推進していくことを堅持し、法治国家、法治政府と法治社会の一体化建設を堅持し、第十八回党大会の精神を各活動で実施し、全面的に小康社会を築き上げ、中国の特色ある社会主義事業の新たな局面を切り開くために奮闘努力しようではないか。

〔注〕

〔一〕新民主主義革命はプロレタリア階級が指導し、革命の性質は帝国主義、封建専制に反対するブルジョア階級民主革命である。ただし、その目的はブルジョア階級独裁の共和国を打ち立てることではなく、プロレタリア階級が指導し、労農同盟を基礎とし、いくつかの革命的階級の連合独裁の人民共和国を打ち立てることである。一九一九年の五・四運動から一九四九年の中華人民共和国建国までの三十年間、中国共産党の指導下における反帝・反封建・反官僚資本主義の革命は新民主主義革命である。

〔二〕鄧小平の「思想を解放し、実事求是の態度をとり、一致団結して前向きの姿勢をとろう」（『鄧小平文選』第二巻、人民出版社、一九九四年版、第一四六頁）を参照。

〔三〕「文化大革命」の略称は「文革」。中国で一九六六年五月から一九七六年十月まで続いた、毛沢東が誤って発動し、広範な民衆が参加し、それに巻き込まれ、林彪や江青らのグループに利用され、党と国家、各民族人民に大きな災禍をもたらした政治運動であった。

法治国家、法治政府、法治社会の一体化建設を堅持しよう

（二〇一三年二月二十三日）

第十八期中央政治局第四回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

小康社会の全面的建設は法によって国を治めることにさらに高い要求を掲げた。われわれは中国共産党第十八回全国代表大会の精神を全面的に貫徹・実施し、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとし、科学的立法、厳格な法執行、公正な司法、全民法遵守を全面的に推進し、法によって国を治めること、法による執政、法による行政の共同推進を堅持し、法治国家、法治政府、法治社会の一体化建設を堅持し、絶えず法によって国を治めることに新局面を切り開かなければならない。

わが国は憲法をはじめとする中国の特色ある社会主義の法体系を確立し、国と社会生活の各方面において「従うべき法がある」ことを全般的に実現した。これはわれわれがあげた大きな成果である。実践は法律の基礎であり、法律は実践の発展に伴って発展しなければならない。立法計画を改善し、立法の重点を際立たせ、法律の制定、改正、廃止を並行して進めることを堅持し、立法の科学化、民主化レベルを向上させ、法律の目的性、適時性、系統性を高めなければならない。立法作業の仕組みと手続きを改善し、民衆の秩序ある参加を拡大し、各方面の意見を十分に聞き取り、経済・社会発展の要請を法律に的確に反映させるようにし、利益関係をより

よく調整し、立法の主導的、促進的役割を発揮しなければならない。

憲法と法律の実施を強化し、社会主義法制の統一、尊厳、権威を維持し、人々が法に違反しようとせず、法に違反することができず、あえて法に違反しない法治環境を形成し、法があれば必ずそれに基づき、法の執行を必ず厳格にし、法に違反すれば必ず追及しなければならない。行政機関は法律法規実施の重要な主体であり、率先して厳格に法を執行し、公共の利益、人民の権益、社会秩序を維持しなければならない。法執行者は法律に忠実でなければならない。各級指導機関と指導幹部は法治の思考と法治の方式の運用能力を高め、法治で改革の共通認識を結集し、発展行為を規範化し、矛盾解決を促進し、社会的調和を保障することに努めなければならない。法執行活動への監督を強化し、法執行活動への不法な関与をあくまで取り除き、地方保護主義と部門保護主義をあくまで防止、克服し、腐敗現象をあくまで取り締まり、権力があれば必ず責任を負い、権力を使えば必ず監督を受け、法に違反すれば必ず追及しなければならない。

われわれは人民大衆に全ての司法案件の過程で公平・正義を感じさせるために努力することを提起し、全ての司法機関はこの目標をめぐって業務を改善し、司法公正に影響を及ぼし司法能力を制約する深く突っ込んだ問題の解決に重点を置かなければならない。人民のための司法を堅持し、司法作業の作風を改善し、情熱を奉仕に注いで人民が訴訟するのが難しいという問題を確実に解決し、特に貧困な民衆の合法的権益を守るために法律支援を大いに提供しなければならない。司法関係者は民衆と密接に連携し、司法行為を規範化し、司法の公開に力を入れ、人民大衆が司法の公正・公開に寄せる関心と期待に応えなければならず、裁判機関、検察機関が法に基づいて裁判権、検察権を独立して公正に行使することを確保しなければならない。

いかなる組織または個人も憲法と法律の範囲内で行動しなければならず、いかなる公民、社会組織、国家機関も憲法と法律を行動準則とし、憲法と法律に基づいて権利または権力を行使し、義務または職責を履行しな

ければならない。法秩序・宣伝教育を深く突っ込んで展開し、社会全体で社会主義法治精神を発揚し、民衆全てを導いて法律を遵守し、何か問題があれば法律によって解決し、法律を遵守することが栄誉だという望ましい気風をつくらなければならない。法制教育を法治実践と結び付けることを堅持し、法による管理を広く展開し、社会管理の法制化の水準を高めるべきである。法によって国を治めることと道徳によって国を治めることの結び付きを堅持し、法治建設と道徳建設を密接に結び付け、他律と自律を密接に結び付け、法による管理と道徳による管理の相互補完、相互促進をしなければならない。

わが党は執政党である。法に基づく執政を堅持することは法によって国を治めることの全面的推進における重要な役割を持っている。党の指導と、人民が主人公であること、法によって国を治めることの有機的統一を堅持し、党の指導を法によって国を治めることの全過程に貫徹していかなければならない。各級党組織は憲法と法律の範囲内で行動をすることを堅持しなければならず、各級指導幹部は率先して法に基づいて事を進め、率先して法律を遵守しなければならない。各級組織部門は法に基づいて事を進めることができるかどうか、法律を遵守できるかどうかを幹部の審査識別の重要な条件としなければならない。

社会の公平と正義を促進し人々が安らかに暮らせ生業に励めるよう保障する

（二〇一四年一月七日）

中央公安・検察・司法活動会議における談話の要旨

社会の大局の安定維持を基本任務とし、社会の公平と正義の促進を中核的価値として追い求め、人々が安らかに暮らせ生業に励むことができるよう保障することを根本的な目標とし、厳格な法律執行と公正な司法を堅持し、改革を積極的に深め、公安・検察・司法の活動を強化、改善し、人民大衆の身近な利益を守り、「二つの百周年」の奮闘目標（中国共産党創立百周年を迎えるまでに小康社会を全面的に築き上げるという目標と、新中国成立百周年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるという目標）の実現と中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に力強い保障を与えていかなければならない。

公安・検察・司法戦線は旗幟鮮明に中国共産党の指導を堅持しなければならない。党の指導を堅持するには、人民が主人公になることを支持し、法律に基づいて国家を統治するという党が人民を指導して国を治める基本方略を的確に実施しなければならない。公安・検察・司法活動に対する指導を揺るぐことなく堅持するだけでなく、公安・検察・司法活動に対する党の指導を強化し、改善し、絶えず公安・検察・司法活動に対する党の

指導力と水準を高めていかなければならない。

党の政策と国の法律との関係を正しく処理しなければならない。わが党の政策と国の法律はいずれも人民の根本的な意思の反映であり、本質的に一致するものでもある。党は人民を指導して憲法と法律を制定するだけでなく、人民を指導して憲法と法律を執行し、党が立法を指導し、法の執行を保障し、率先して法律を守るようにしなければならない。公安・検察・司法活動は党の政策と国の法律の権威性を意識的に維持し、党の政策と国の法律が統一的に正しく実施されることを確実なものとしなければならない。党の指導を堅持することと司法機関が法律に基づいて公正に独立した機能の発揮を確保することとの関係を正しく処理しなければならない。各級の党組織と指導幹部は公安・検察・司法系統の部門が憲法と法律に基づき、独自で責任を負い、一致協力して活動を展開することを支持しなければならない。党委員会、政法委員会は機能の位置付けを明確にし、法治の考え方と方式をうまく運用して公安・検察・司法活動を指導し、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進める中で重要な役割を果たさなければならない。

社会の大局の安定維持は公安・検察・司法活動の基本任務である。安定維持と権利擁護の関係をうまく処理し、大衆の合理的、合法的利益の要求を上手に処理し、大衆の身近な利益の維持に重要な役割を果たす制度を整備し、矛盾解消における法律の権威的地位を強化し、大衆が心から公平な対応を受け、利益が効果的に保護されていると感じ取るようにする。活力と秩序の関係を適切に処理し、系統的なガバナンス、法律による管理、総合対策、根本から対策を堅持し、社会全体を動員してみなで社会の安定維持を地道に守らなければならない。

社会の公平と正義の促進は公安・検察・司法活動の中核的価値の追求である。ある意味で言えば、公平と正義は公安・検察・司法活動の生命線であり、司法機関は社会の公平・正義を守る最後の一線である。公安・検察・司法戦線は公平の天秤を肩に担ぎ、正義の剣を手にし、実際の行動で社会の公平と正義を守り、大衆が確実に、

公平と正義が身近にあると感じ取れるようにしなければならない。大衆の権益を損ねる際立った問題を重点的に解決し、大衆の救助要請通報を放置することは決して許さず、一般大衆が訴訟を起こせない状況を決して許さず、権力を乱用して大衆の合法的な権益を侵害することを決して許さず、法の執行側が法を犯し冤罪・でっち上げ・誤審事件を起こすことを決して許さない。

人々が安らかに暮らせ生業に励むことができることの保障は公安・検察・司法活動の根本的目標である。公安・検察・司法機関と広範な幹部・警察は大衆のことを自分のことと見なし、大衆の小さな事を自分の重きことと見なし、大衆を満足させることから始め、大衆が不満を抱いている問題から改正し、法律面から人民大衆が安らかに暮らせ生業に励むことができることに力強い保障を与えなければならない。社会治安総合対策を深く推し進め、刑事犯罪の多発傾向を断固食い止め、人民の生命・財産の安全を保障しなければならない。

公安・検察・司法機関は党と人民から与えられた光栄な使命を履行し、必ず厳格に法を執行し、司法の公正さを確保しなければならない。「公なれば明を生じ、廉なれば威を生ず（公正であってこそ厳正になれ、廉潔であってこそ威信を持てる）」という言葉がある。職業の良知良能や人民のための法律執行を守り抜き、広範な幹部・警察を教育し、自分に制約を課す職業モラルを持つよう指導し、大衆が極度に憎悪することに対して一切容赦なしの姿勢で臨み、大衆が切迫して待ち望むことに対して一切怠慢なしの姿勢で臨み、勧善懲悪、法の執行を厳格にする浩然の気を確立していかなければならない。法治を信仰し、法治を守り抜き、法律を知り、法を理解し、法を守る法の執行者になり、足元を踏み固めて動揺せず、背筋をのばしてまっすぐに立ち、事実のみを認め、法律にのみ従い、公正無私に法律を執行しなければならない。制度によって法律を保障し、法の執行過程の各段階において仕切りを設け、高圧線を敷設するように、法律制度に違反する者があれば、最も厳しく処罰を与え、犯罪に該当する場合、法律に基づいて刑事責任を追及しなければならない。公開することで公

正さを促し、透明化で清廉を保ち、進んで公開し、監督を受ける意識を強め、裏工作が介在する余地を一切なくし、司法腐敗が身を隠せないようにしなければならない。

各級指導者は率先して法律に基づいて事を運び、法律を遵守し、法律のレッドラインに触れず、法律の最低ラインを越えてはならないという意識をしっかりと確立し、法律に基づいて自分が行使すべきでない権力を行使してはならず、さらに個人の言論をもって法律に代えて法律を無視したり、権力によって法律をねじ曲げ、私利私欲にとらわれて法律に背いてはならない。法に定められた手続きに違反した司法登録の通報制度と責任追及制度を確立、健全化しなければならない。

われわれの公安・検察・司法陣の主流は素晴らしいものであり、党の指揮に従い、人民に奉仕し、困難に満ちた闘いを遂行することができ、犠牲を恐れないチームであり、党と人民が完全に信頼できる頑強な戦闘力を有するチームである。各級の党委員会と政府は警察優遇政策・措置を真剣に実行し、幹部・警察の実際的な困難の解決を支援しなければならない。政治面で厳しい試練に耐えられ、業務に優れ、責任をきちんと負い、規律と仕事態度が厳正という要請に従って、揺るぎなき信念を持ち、人民のために法律を執行し、重責を果敢に担い、清廉公正な公安・検察・司法陣をつくり上げるよう努力していかなければならない。

揺るぎなき政治的信念は公安・検察・司法陣の政治上の魂である。理想と信念の教育を公安・検察・司法陣整備では第一に考えるべく、絶えず旗印を高く掲げ、党の指揮に従い、使命に忠誠を尽くすという思想的基礎をしっかりと打ち固め、党の事業至上、人民の利益至上、憲法法律至上を堅持し、党、国家、人民、法律に忠誠を尽くすという政治上の本来の姿を保ち続けていかなければならない。公安・検察・司法陣が果敢に重責を担い、よこしまな風潮に立ち向かい、果敢に剣を抜き放って断固闘争し、絶対に放置してはならない。緊急で困難かつ危険な重要任務に対して、命がけで取り組み、突き進んでいかなければならず、ひるんで進まないと

いうことが絶対にあってはならない。規律教育を強化し、規律実行の仕組みを健全化し、鉄則で強力な公安・司法陣を育成しなければならない。幹部と警察官の能力を高め、公安・検察・司法の諸任務をよりよく履行することを確保しなければならない。最も断固とした意志、最も断固とした行動で公安・検察・司法分野の腐敗現象を取り締まり、社会に害を及ぼす者を断固として一掃しなければならない。

司法体制改革は政治体制改革の重要な構成部分であり、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進めるのに非常に重要な意義をもっている。指導を強化し、協力して推推し、実効性を求め、公正で、効率の高い、権威ある社会主義司法制度の構築を加速させ、党の指導をよりよく堅持し、中国の司法制度の特色をよりよく発揮させ、社会の公平と正義をよりよく促していかなければならない。

第六章
社会主義文化強国の建設

宣伝思想工作をよりよく行う

（二〇一三年八月十九日）

全国宣伝思想工作会議における談話の要旨

宣伝思想工作は必ず経済建設を中心に据えて、大局に奉仕することを基本的職責としなければならず、大局を念頭に置き、発展のすう勢をとらえ、大事に着目し、仕事の切り口と力点を正しく見出し、時に応じて計画し、適切な時期に行動し、発展の方向に合った方法で行うようにしなければならない。

経済建設は党の中心的活動であり、イデオロギーにかかわる取り組みは党の極めて重要な取り組みの一つであり、中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議以来、わが党は終始経済建設を中心とすることを堅持し、経済建設と人民生活の向上を図ることに力を集中してきた。国内外の大勢に根本的な変化が発生しない限り、経済建設を中心にすることは変えられないし、変えるべきでもない。これは党の基本路線として百年揺るぐことなく堅持する根本的な要請であり、現代中国の全ての問題を解決するための根本的な要請である。同時に物質文明建設と精神文明建設にも力を入れ、国の物質的な力と精神的な力を共に強化し、全国各民族人民の物質的生活と精神的生活が共に改善されてこそ、はじめて中国の特色ある社会主義事業は順調に前進できるのである。

宣伝思想工作では、マルクス主義のイデオロギー分野における指導的地位を強固なものにし、全党と全国人民の団結奮闘する共通の思想的基盤を強固なものにしなければならない。党員、幹部はマルクス主義、共産主義の信仰を固め、着実に党の現段階の基本綱領を実現するために絶えず努力し、地道に一つ一つの取り組みをしっかりと行い、「リレー競技」でわれわれのこのチームが優れた成績を収めるようにしなければならない。指導幹部、とりわけ高級幹部はマルクス主義の基本理論を系統的に把握することを得意技とし、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、とりわけ鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を地道にまじめに学習しなければならない。党学校、幹部学院、社会科学院、大学、理論学習中心グループなどはすべてマルクス主義を必修科目としなければならず、マルクス主義の学習、研究、宣伝の重要な陣地としなければならない。新しい幹部、若手幹部は特に理論の学習にしっかりと力を入れ、学習を堅持して、マルクス主義の立場、観点、方法を活用して問題を観察し解決することを習得し、理想と信念を固めなければならない。

中国の特色ある社会主義に関する宣伝・教育を突っ込んで展開し、全国各民族人民が中国の特色ある社会主義の偉大な旗印の下に団結し、結束するようにしなければならない。社会主義の中核的価値体系の建設を強化し、社会主義の中核的価値観の育成と実践に力を入れて、公民モラルの資質を全面的に高め、栄辱を知り、正しい気風を重んじ、貢献し、調和を促す望ましい気風を培わなければならない。

党性と人民性は従来から一致し、統一したものである。党性を堅持するには、その中核は正しい政治的方向づけを堅持し、政治の立場をしっかりととり、断固として党の理論と路線・方針・政策を宣伝し、断固として党中央の重要な活動の配置を宣伝し、断固として党中央の情勢に関する重要な分析と判断を宣伝し、断固とした態度で党中央と高度の一致を保ち、断固として党中央の権威を守らなければならない。すべての宣伝思想部門と組織、すべての宣伝思想戦線の党員、幹部は旗幟を鮮明にして党性の原則を堅持しなければならない。人

民性を堅持するには、すなわち最も広範な人民の根本利益をしっかり実現し、しっかり保護し、しっかり発展させることを出発点と立脚点とし、人民本位、人間本位を堅持しなければならない。人民を中心とする活動方向を打ち立て、大衆に奉仕することと大衆を教育し、導くことを結びつけ、需要を満たすことと素養を高めることとを結びつけ、人民大衆の偉大な奮闘と熱気にあふれた生活を大いに報道し、人民大衆の中から湧き出た先進的モデルと感動的事跡を大いに宣伝し、人民の精神世界を豊かにし、人民の精神力を強め、人民の精神的需要を満さなければならない。

団結・安定・鼓舞を堅持し、ポジティブな宣伝を主体とすることは宣伝思想工作で必ず守り従うべき重要な方針である。われわれは多くの新たな歴史的特徴のある偉大な闘争を行っており、直面する挑戦と困難はかつてなかったものであり、必ず主流的思想の世論を強固にし、壮大にするよう堅持しなければならず、主旋律を高揚し、プラスのエネルギーを伝え、社会全体が団結して前進する強い力を引き出さなければならない。肝心なのは質とレベルの向上であり、時機、度合い、効果をよく把握し、吸引力と感化力を強め、大衆に聞きたい見たいと思わせ、共感させ、ポジティブに人を鼓舞し激励する役割を十分に発揮しなければならない。正邪善悪や政治的原則にかかわる問題に対しては、必ず主体性を強め、イニシアチブを掌握し、主導的によく闘い、幹部と大衆が是非曲直のけじめをつけ、あいまいな認識をはっきりさせるよう協力しなければならない。

長期にわたる実践の中で、わが党の宣伝思想工作は極めて豊富な経験を積み重ねてきた。これらの経験は容易に得られたのではなく、非常に貴重なものであり、今後の仕事をよりよく行う上で従うべき重要な決まりであり、必ずこれを真剣に総括し、長期にわたって堅持するとともに、実践の中で絶えず豊かにし発展させなければならない。「明者は時によって変わり、知者は事に従って制する（聡明な人は時代の変化に応じて自分のやり方を変え、知恵のある人は物事の変化に応じて決まりを定める）」〔一〕と言う。宣伝思想工作を革新するには、

理念の革新、手段の革新、末端における取り組みの革新に重点的に取り組み、思想認識の新たな飛躍により仕事の新局面を切り開き、仕事の難問解決に役立つ新たな対策措置を積極的に模索し、革新の重点を末端部の第一線に置かなければならない。文化体制の改革を引き続き推し進め、文化事業の全面的繁栄と文化産業の急成長を促進し、社会主義文化強国を建設しなければならない。

全面的な対外開放の条件下で宣伝思想工作を行う上で、一つの重要な任務は人々がさらに全面的かつ客観的に当代の中国を認識して外の世界と向き合うよう指導することである。中国の特色を宣伝、説明するには、それぞれの国や民族の歴史や伝統、文化の蓄積、基本的国情は異なっており、発展の道筋は必然的にそれぞれの特色を有するということをはっきりと説明すべきである。中華文化は中華民族の最も深い精神的追求が込められ、中華民族を世々代々壮大に発展させた豊富な栄養であることをはっきりと説明すべきである。中華民族の優れた伝統文化は中華民族の際立った優位性であり、われわれの最も深味のある文化的ソフトパワーであることをはっきりと説明すべきである。中国の特色ある社会主義は中華文化の肥沃な土地に根付き、中国人民の願望を反映し、中国と時代の発展と進歩の要求に適応し、深い歴史的根源と広範な現実的基礎を持っていることをはっきりと説明すべきである。中華民族は長い歴史を持つ中華文化を創出したのであり、中華民族は必ず中華文化の新たな輝きを創出することもできるはずだ。独特な文化の伝統、独特な歴史的運命、独特な基本的国情が、われわれが必ず自らの特徴に応じた発展の道を歩むことを運命づけている。わが国の伝統文化や国外のものに対して、昔のものを今に役立たせ、外国のものを中国に役立たせることを堅持し、枝葉を除いて精髄を取り、偽物を除去し本物を残し、科学的アウフヘーベン（止揚）を経て自らの役に立てるようにしなければならない。

国際情勢の発展や変化、世界に出現する新しい物事や新たな情況、各国に現れた新たな思想、新たな観点や

新しい知識に対して、人類文明創造の有益な成果を積極的に参考となるよう、われわれは宣伝・報道を強化しなければならない。対外広報活動を入念に行い、対外的な宣伝の方法を革新し、中国と他国が理解し合える新たな概念・カテゴリー・表現の形成に取り組み、中国の物語を上手に語り、中国の声を上手に届けなければならない。

宣伝思想部門は非常に重要な職責を担っており、必ず取り組みに対してきちんと責任を持ち、果たさなければならない。宣伝思想部門の活動が強くなるためには、まず指導幹部たるものが強くなり、指導グループが強くならなければならない。各級の宣伝部門の指導者の同志は学習を強化し、実践を強化し、真に人を信服させる専門家にならなければならない。

宣伝思想工作を強化するには必ず全党を挙げて行わなければならない。各級の党委員会は政治責任と指導責任を果たすべく、宣伝思想分野の重要な問題に対する分析、研究、判断と重大な戦略的任務への包括的指導を強化し、絶えず宣伝思想工作への指導の能力とレベルを高めなければならない。包括的宣伝という活動理念を打ち立て、各戦線の各部門が共に取り組むように働きかけ、宣伝思想工作と各分野の行政管理、業種管理、社会管理とをいっそう緊密に結びつけるようにしなければならない。

〔注〕

〔一〕　桓寛の『塩鉄論』を参照。桓寛（生没年未詳）、汝南（現在の河南省上蔡県）出身。前漢の大臣。『塩鉄論』は前漢の経済思想史を研究する上での重要な著作である。

中国の夢の実現に向けて大きな精神的力としっかりしたモラルの基盤を築き上げる

（二〇一三年九月二十六日）

第四回全国道徳模範・模範候補者と面会した際の談話の要旨

道徳模範は社会道徳構築の重要な旗印である。道徳模範の学習・広報活動をさらに展開し、真善美を発揚し、プラスのエネルギーを広めていく必要がある。そして、徳と善を尊んで人格者を見習うよう人民大衆を鼓舞し、善行を積んで徳を身に付け、美徳を励行するよう社会全体に呼びかけ、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に向けて強大な精神的力としっかりした道徳的支えを結集しなければならない。

精神の力は無限であり、道徳の力も無限である。悠久の歴史をもつ中華文明は、中華民族の貴い精神的資質を育み、中国人民の崇高な価値目標を培ってきた。自らをたゆまず向上させ、徳の力で物事に当たるという思想があったからこそ、中華民族は世々代々民族のたいまつを受け継いで来ることができたのである。この思想は今日においても、われわれが改革開放と社会主義現代化建設を推し進める上での大きな精神的力となっている。

長い間、各地区と各部門は中央の要請に基づき、絶えず公民道徳建設を推し進め、中華民族伝統の美徳を発揚し、時代の新風を培ってきており、中国には多数の道徳模範や最も優れた人物が輩出している。全国道徳模

範はその中でも優れた代表なのである。皆さんはあるいは愛する心を持ち、喜んで人を助けたり、勇気を持って正しい行いをし、自らの命さえ顧みず、信義・誠実を重んじ、正しい道を歩み、仕事に全力を捧げ、敬虔・勤勉であり、あるいはお年寄りや家族を大切にし、肉親の情が深い。皆さんの高尚な人品は人の心を温め、中国を感動させ、社会全体に模範を示すものだ。

偉大な時代は偉大な精神を呼び寄せるもので、崇高な事業は模範によるけん引が必要である。現在、全国各民族人民は中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に向けて奮闘している。われわれは中国共産党第十八回全国代表大会で提起された社会主義の中核的価値観の育成と実践の求めに基づき、道徳建設を非常に重視し、適切に強化し、社会の公衆道徳、職業道徳、家庭の美徳、個人の人徳育成を推進し、愛国、勤勉、誠実、友好などの基本的な道徳規範を唱導し、栄辱を知り、正しい気風を重んじ、貢献し、調和を促す好ましい気風を培わなければならない。

私は皆さんに全国道徳模範の龔全珍女史を紹介したい。彼女は甘祖昌将軍の夫人である。甘祖昌同志は江西省出身の古参紅軍の一人で、中華人民共和国の開国の将軍だったが、彼は農村に帰って農民となることをあくまで願い出て、龔全珍女史も甘祖昌同志と共に農村に戻って刻苦奮闘してきた。半世紀余りを経たが、龔全珍女史は終始刻苦奮闘の精神を保ち続けている。今日、全国道徳模範として会議に出席しているが、私はこれをとてもうれしく思う。私は龔全珍女史に崇高な敬意を表すものである。われわれは刻苦奮闘する精神を世々代々にわたって継承していかなければならない。

国の文化的ソフトパワーを向上させる

（二〇一三年十二月三十日）

第十八期中央政治局第十二回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

国の文化的ソフトパワーを向上させることは「二つの百周年」の奮闘目標と中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現にかかわる。社会主義の先進的文化を発揚し、文化体制改革を深化させ、社会主義文化の大いなる発展と繁栄を促し、中華民族全体の文化創造の活力を強め、文化事業の全面的な繁栄、文化産業の急速な発展を推進し、絶えず人民の精神世界を豊富にし、人民の精神力を強め、絶えず文化全体の実力と競争力を強め、社会主義文化強国を築き上げるという目標に向かって絶えず前進していかなければならない。

国の文化的ソフトパワーを向上させるためには、国の文化的ソフトパワーの土台を固めることに努力しなければならない。中国の特色ある社会主義文化発展の道を歩み続け、文化体制の改革を深化させ、社会主義の中核的価値体系の学習と教育を強化し、理想と信念の教育を幅広く行い、民族精神と時代の精神を大いに発揚し、文化事業の全面的な繁栄、文化産業の急速な発展を促さなければならない。国内文化建設の根幹としての土台を固めるために、一つの重要な取り組みは思想道徳から、社会の風潮から、一人一人から着手することである。長期にわたる実践の中で育まれ形成されてきた中国人民の伝統的美徳を受け継ぎ、発揚し、マルクス主義の道

徳観、社会主義の道徳観を堅持し、枝葉を捨てて精髄を取り、偽りを捨てて真を残すという基礎の上に、昔のものを今に役立たせ、古びたものを退けて新しいものを生み出すことを堅持し、中華民族の伝統的美徳の創造的転化、革新的発展を達成するために努力し、人々がモラルを重んじ、尊び、守る生活にあこがれ、追求するよう導き、十三億人全てが中華民族の伝統的美徳や中華文化を広める主体となるようにすべきである。

国の文化的ソフトパワーを向上させるには、現代中国の価値観を広めることに取り組まなくてはならない。現代中国の価値観とはすなわち中国の特色ある社会主義の価値観であり、中国の先進的文化の発展方向を代表するものである。わが国は中国の特色ある社会主義の道を成功裏に歩んでおり、実践がわれわれの道、理論体系、制度が成功であることを証明している。その精錬と解説を強化し、対外発信のプラットフォームやキャリアを拡大発展させ、当代中国の価値観を国際交流や伝播のあらゆる分野に行き渡らせなければならない。

中国の夢についての宣伝と解説は当代中国の価値観としっかりと結び付けなければならない。中国の夢は、中国人民と中華民族の価値観体系に対する認識と追求である。それは小康社会の全面的な完成、中華民族の偉大な復興の実現を意味するものであり、中国人一人一人が中国の夢のために奮闘する中で自らの夢を実現できることを意味するものであり、中華民族の団結奮闘の最大公約数であることを意味するものであり、中華民族が人類の平和と発展のためにより大きな貢献をしたいという心からの願望を意味するものである。

国の文化的ソフトパワーを向上させるには、中華民族の文化の独特な魅力を見せることに努力しなければならない。五千年余りに及ぶ文明発展の過程で、中華民族は幅広く奥の深い、光り輝く文化を創造してきた。大切なのは、中華民族の最も基本的な文化的遺伝子を、現代文化・現代社会と相互に調和させて人々に喜ばれる方式、みなが触れられる方式で押し広めること、時空や国境を超越し、そして永遠の魅力と現代的価値のある文化の精神を発揚していくこと、優れた伝統的文化を受け継ぎつつ時代の精神をも発揚しており、自国に立脚

しつつ世界にも目を向けている現代中国の文化革新の成果を広めていくことである。伝統的文化資源を系統的に整理して、禁断の宮殿に収められている文物、広大な国土のあちこちにある文化遺産、古代の書に記されている文字を、みな生き返らせなければならない。道理を説いて人を説得し、中華文化をもって人を説得し、道徳をもって人を説得し、対外文化交流のレベルを向上させるべきである。人的・文化的交流の仕組みを完全なものにし、人的・文化的交流の方式を革新し、マス・コミュニケーション、集団伝達、個人間伝達などさまざまな方式を総合的に活用して中華文化の魅力を示していかなければならない。

中国のイメージ作りを重んじ、中国の歴史の豊かさ、各民族の多元的な一体性、多様な文化が調和する文明大国のイメージ、明朗な政治、経済の発展、文化の繁栄、社会の安定、人民の団結、美しい山河を有する東方大国のイメージを重点的に示さなければならない。また、平和的発展を堅持し、共同発展を促し、国際社会の公平・正義を擁護し、人類のために貢献できる責任ある大国のイメージを重点的に示さなければならない。さらに、対外的にはいっそう開放し、親和力があり、希望や活力に満ちあふれる社会主義大国のイメージを重点的に紹介していかなければならない。

国の文化的ソフトパワーを向上させるためには、対外発信力を高めていかなければならない。対外発信力の向上に力を入れ、対外言語体系を入念に構築し、新興メディアの役割をしっかりと発揮させ、対外言語の創造力、感化力、信頼感を高め、中国の物語を上手に伝え、中国の声をしっかりと届け、中国の特色を詳しく説明しなければならない。中国人民と中華民族の優れた文化と栄えある歴史をプラス面から宣伝することに力を入れ、学校教育、理論研究、歴史研究、テレビ・映画作品、文学作品などのさまざまな方法を活用して愛国主義、集団主義、社会主義の教育を実施し、中国人民が歴史観、民族観、国家観、文化観を正しく樹立するよう導き、中国人としての気概と自信を高めなければならない。

社会主義の中核的価値観の育成と発揚

（二〇一四年二月二十四日）

第十八期中央政治局第十三回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

社会主義の中核的価値観の育成・発揚を、人々の心と力を一つに結束させ基盤を強固にする基礎的事業として、中華民族の優れた伝統文化、伝統的美徳を継承し、発揚し、社会主義の中核的価値観の宣伝と教育を広範に展開し、積極的に人々が道徳を重んじ、尊び、守るよう導き、高尚な道徳理念を追い求め、絶えず中国の特色ある社会主義の思想道徳の基礎を打ち固める。

中核的価値観は文化的ソフトパワーの魂であり、文化的ソフトパワー構築の重点でもある。これは文化の性格と方向性を決める最も深層の要素である。一国の文化的ソフトパワーは根本的に言えば、その中核的価値観の生命力、凝集力、感化力にかかっている。中核的価値観を育成、発揚し、社会意識を効果的に統合することは、社会システムが正常に機能することができ、社会の秩序が効果的に守られる重要な方途であり、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の重要な面でもある。歴史と現実が示しているように、強大な感化力のある中核的価値観の構築は、社会の調和・安定、国の長期にわたる安寧にかかわるものだ。

社会主義の中核的価値観の育成・発揚は必ず中華民族の優れた伝統文化に立脚しなければならない。揺るぎ

ない中核的価値観にはいずれも固有の根っこがある。伝統を捨てて、根っこを失うことは、自らの精神的な命脈を断ち切ることに等しいのである。幅広く奥深い中華民族の優れた伝統文化は、激しく揺れ動く世界文化の中でわれわれが足元を踏みしめてしっかり立つ土台である。中華文化は悠久の歴史を持っており、中華民族の最も深層の精神的追求の積み重ねであり、中華民族の独特な精神的象徴であり、中華民族が次々に立ち上がり、発展し、強大化するための豊かな養分を提供した。中華民族の伝統美徳は中華文化の真髄であり、豊富な思想道徳の資源を含むものである。根っこを忘れないでこそ、未来を切り開いていくことができ、それをしっかりと継承してこそ、よりよく革新できるのだ。歴史と文化、特に先人が代々伝えてきた価値観と道徳規範に対して、昔のものを今に役立たせ、古びたものを退けて新しいものを生み出すことを堅持し、識別して対処し、止揚して継承し、中華民族が創造した全ての精神的財産を活用し、文化をもって人民を教化し、文化をもって人民を育成することに努めなければならない。

中華民族の優れた伝統文化の歴史的根源、発展の道筋、基本的な方向性をはっきりと説明し、中華文化の独特な創造性、価値理念、鮮明な特色をはっきりと説明し、文化への自信、価値観への自信を強化すべきである。中華民族の優れた伝統文化の思想の精粋と道徳の精髄を汲み取り、愛国主義を中核とする民族精神、改革・革新を中核とする時代精神を大いに発揚し、中華民族の優れた伝統文化における仁愛を重んじ、人間本位を重んじ、信義・誠実を守り、正義を尊び、和合を尊び、大同を求めるという時代の価値を突っ込んで掘り起こし、解き明かし、中華民族の優れた伝統文化を社会主義の中核的価値観を蓄える重要な源泉としなければならない。継承と創造的発展との関係をうまく処理し、創造的転換と革新的発展をしっかりと重点的に行うべきである。

社会主義の中核的価値観を社会生活のあらゆる分野まで徹底させるべきである。教育的指導、世論宣伝、文化の薫陶、実践養成、制度保障などを通じて、社会主義の中核的価値観を人々の精神的追求に内在化させ、人々

の自覚的行動に外在化させなければならない。模範の力は限りがないものであり、広範な党員、幹部は率先して社会主義の中核的価値観を学習、発揚し、自らの模範的な行為と高尚な人格で大衆を感化し、大衆を導いていくべきである。子どもや学校から始め、社会主義の中核的価値観ということを教科書に記入し、教室で教え、人々の頭に入れるようにする必要がある。物を潤して細かく音もない春雨のように、さまざまな文化様式を用い、生き生きと具体的に社会主義の中核的価値観を表現し、質とレベルの高い作品を通じて人々に真善美とは何か、偽悪醜とは何か、肯定と称賛に値するものは何か、反対・否定されるべきものは何かを如実に伝えなければならない。

一つの価値観が真に役割を発揮するには、必ず社会生活に溶け込み、人々に実践の中でそれを感知させ、悟らせることが必要だ。われわれが呼びかけていることを人々の日常生活と緊密に結びつけるよう気を配り、細かくて小さい実際的なことから着実に取り組んでいかなければならない。社会主義の中核的価値観の基本的な要請に従って、各産業・各業種の規則や制度を健全化し、市民公約、郷規民約、学生守則（市民、村民、児童・生徒としての約束事や心得）などの行動規範を完全なものにして、社会主義の中核的価値観が人々の日常の仕事や生活における基本的なものさしとなるようにしなければならない。一連の儀礼制度を構築して規範化し、さまざまな形の記念・祝賀行事を準備・開催し、主流の価値基準を広めて、人々の民族的アイデンティティーと帰属意識を強化しなければならない。社会主義の中核的価値観の要請を各種の精神文明創建活動に融け込ませ、大衆を引き寄せて幅広く参加させ、人々が家庭のために幸福をはかり、他人のために暖かい援助の手を差し伸べ、社会のために貢献をする過程において精神的な境地を高め、文明の気風を育むことを推進すべきである。各種の時機と場所を活用して社会主義の中核的価値観の育成と発揚に役立つような生活の情景を形成し、社会の雰囲気を醸成し、中核的価値観が空気のようにいつでもどこでも人々に影響を与えるようにしなければならない。

政策の方向性の役割を発揮させて、経済・政治・文化・社会など各方面の政策がいずれも社会主義の中核的価値観の育成に役立つようにしなければならない。法律の力で中核的価値観の構築を促していくべきである。さらに、各種の社会管理にも社会主義の中核的価値観の唱導の責任を担わせ、特に日頃の管理における価値目標の具現に尽力させて、中核的価値観に合致する行いが奨励され、中核的価値観に反する行いが制約されるようにしなければならない。

青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである

（二〇一四年五月四日）

北京大学教師・学生座談会における談話の一部

学生の皆さん、教師の皆さん、同志の皆さん

今日は五・四青年デー〔一〕である。北京大学で皆さんと顔を合わせ、共に五・四運動〔二〕九十五周年を記念することができ、うれしく思う。まず、私は党中央を代表して、北京大学の教師・学生・職員の皆さん、全国各民族の青年の皆さんに、祝日の挨拶を申し上げる。また、全国の広範な教育関係者、青年教育関係者の皆さんに、心からの敬意を表明する。

さきほど、朱善璐〔三〕同志が大学の仕事の状況を報告なさり、何人かの大学生、青年教師の皆さんが相次いで発言をなさった。いずれも素晴らしい発言で、啓発されるところが多かった。今回は私が中央での仕事に従事して以来五回目の北京大学訪問だが、毎回来るたびに新たに感じるものがある。青春の活力にあふれるキャンパスを歩いて回り、目に触れるものすべてに、感慨無量だった。現代の大学生は愛すべきで、信頼できて、立派で、前途有望な世代だと私は思う。

五・四運動は愛国、進歩、民主、科学の五・四運動の精神を生み、中国の新民主主義革命の幕を切って落とし、

中国におけるマルクス主義の伝播を促し、中国共産党の成立を促した。五・四運動以来、中国共産党の指導下で、代々の志ある青年は「わが青春をもって、青春の家庭、青春の国家、青春の民族、青春の人類、青春の地球、青春の宇宙を創造し」〔四〕、国家の滅亡を救い、民族の生存をはかり、中華民族を振興する歴史の潮流の中で一つ一つの感動的な青春の楽章を奏でた。

北京大学は新文化運動〔五〕の中心であり、五・四運動の発祥地であり、この栄えある歴史を目撃した証人でもある。長い間、北京大学の広範な教師、学生たちは終始祖国および人民と運命を共にし、時代と社会と共に前進しつづけ、諸分野でわが国の革命、建設、改革事業のために重要な貢献をしてきた。

中国共産党第十八回全国代表大会で「二つの百周年」の奮闘目標が打ち出された。以前にも言ったが、現在、われわれは歴史上のどの時代よりも中華民族の偉大な復興という目標の実現に近づいており、歴史上のどの時代よりもこの目標を実現する自信と能力がある。

「百里を行く者は、九十を半ばとす」〔六〕という言葉がある。中華民族の偉大な復興という目標の実現に近づけば近づくほど、われわれは気を緩めることなくいっそう努力するとともに、広範な青年がこの目標の実現のために奮闘してくれるよういっそう働きかけていかなければならない。

月日は移り変わり、世の中は変化する。時間の川の流れは途絶えることがない。どの世代の青年にも自分の巡り合わせや縁があり、自分が身を置く時代条件のもとで人生を企画し、歴史を創造せねばならない。青年は時代を反映する最もセンシティブなバロメーターであり、時代の責任は青年に授けられ、時代の栄光は青年のものとなる。

広範な青年が五・四運動を記念する最も素晴らしいやり方は、すなわち党の指導下で、勇敢に時代の先頭をゆく奮闘者、開拓者、奉仕者となり、確固たる信念、優れた品性、豊かな知識、高い能力を身につけて、全国

各民族の人民と共に、歴史の重責を担い、五・四運動の精神にさらにまばゆい時代の光芒を放たせることだ。

学生の皆さん、教師の皆さん

大学は学問を研究し、真理を探求する場である。この機会を借りて、私は社会主義の中核的価値観の問題について学生、教師の皆さんと考えを交流したいと思う。

この問題についてお話ししようと思ったのは、五・四運動の精神の発揚からの連想である。五・四運動の精神は中国人民と中華民族が近代以来追い求めてきた先進的な価値観の具現である。愛国、進歩、民主、科学は、われわれが今日でも依然しっかりと守り、実践すべき中核的価値であり、広範な青年がそれをしっかり守り、実践すべきであるのみならず、社会全体がそれをしっかり守り、実践すべきである。

人類社会の発展の歴史が明らかにしているように、一つの民族、一つの国家にとって、最も持続的で、最も深層的な力は社会全体が共に認める中核的価値観である。中核的価値観には一つの民族、一つの国家の精神的追求が託されており、一つの社会が理非曲直を判定する価値基準を具現している。

昔の人の言葉に、「大学の道は、明徳を明らかにするにあり、民を親たにするにあり、至善に止まるにあり」〔七〕というものがある。中核的価値観とは実は一種の徳であり、個人の徳でもあれば、大きな徳すなわち国家の徳、社会の徳でもある。国は徳なくして興らず、人は徳なくして立たない。もし一つの民族、一つの国に共通の中核的価値観がなければ、意見がばらばらでまとまらず、何をやるにもよりどころがなく、それではこの民族、この国は前進することができない。このような状況は、中国の歴史上、今日の世界においてもしばしば見られたことである。

中国は十三億以上の人口、五十六の民族を擁する大国であり、全国各民族人民が共に認める価値観を反映した「最大公約数」を確立し、全人民が一心同体となって、団結して前進するようにすることは、国の前途と運命、

人民の幸福や安泰にかかわってくる。

それぞれの時代にはそれぞれの時代の精神があり、それぞれの時代にはそれぞれの時代の価値観がある。国には礼義廉恥という四本の綱がある。「四本の綱が切れてしまうと、国は滅びる」[八]。これは当時の中核的価値観に対する中国の先人の認識であった。現代中国では、わが民族、わが国はどんな中核的価値観をしっかりと守るべきなのか。この問題は理論の問題であり、実践の問題でもある。繰り返して意見を求め、各方面の認識をまとめた結果、われわれは富強・民主・文明・調和を唱導し、自由・平等・公正・法治を唱導し、愛国・勤勉・誠実・友好を唱導し、社会主義の中核的価値観を積極的に育成、実践することを打ち出した。富強・民主・文明・調和は国レベルの価値基準であり、自由・平等・公正・法治は社会面の価値基準であり、愛国・勤勉・誠実・友好は公民を対象にする価値基準である。この概括は実際上、われわれがどんな国、どんな社会を築き上げようとしているのか、どんな公民を育成していくのかという重要な問いかけに答えたものである。

古代中国では古くから、「格物致知（事物の道理を追究すること）」「誠意正心（誠意を尽くし心を正すこと）」「修身斉家（自分の行いを正して家庭をととのえること）」「治国平天下（国を治め天下を平和にすること）」を重視してきた。ある角度から見れば、「格物致知、誠意正心、修身」とは個人面、「斉家」は社会面、「治国平天下」は国家面の要請である。われわれが打ち出した社会主義の中核的価値観は、国家、社会、公民にかかわる価値基準を一体化し、社会主義の本質的価値基準を具現化し、中華民族の優れた伝統文化を受け継ぐとともに、世界文明の有益な成果を吸収し、時代の精神を体現している。

富強・民主・文明・調和、自由・平等・公正・法治、愛国・勤勉・誠実・友好は、中国の優れた伝統文化の遺伝子を受け継いでおり、近代以来、中国人民が模索を繰り広げ、万難を乗り越えて確立した理想と信念が託されており、われわれ一人一人の麗しい願いが寄せられている。われわれは社会全体に社会主義の中核的価値

観をしっかり確立し、全人民が共に努力して、たゆまぬ奮闘を続け、わが国をさらに富強・民主・文明・調和の麗しい国家に築き上げ、中華民族がより自信を持ち、より自強の姿勢で、世界の諸民族の中で高くそびえ立つようにしなければならない。

富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げ、中華民族の偉大な復興を実現することは、アヘン戦争以来の中国人民の最も偉大な夢であり、中華民族の最高の利益、根本的利益でもある。今日、われわれ十三億余の人間のすべての奮闘はとどのつまり、この偉大な目標を実現するためである。中国はかつて世界の経済強国になったことがあるが、のちに、世界で産業革命が盛んに繰り広げられ、人類社会に大きな変革が生じていた時期に、中国は世界と共に進歩する歴史的チャンスを逸し、主導権がなく侮られる状態に陥った。特にアヘン戦争以降、中華民族はさらに貧困と衰退を重ね、他人に思うままに蹂躙される悲惨な状況に陥るようになった。この歴史の悲劇を決して繰り返させてはならない。富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げることは、われわれの目標であり、われわれの責任でもある。われわれの中華民族に対する責任、先人に対する責任、後代に対する責任でもある。われわれは強い戦略的意志と確固たる信念をもって、自らの道を揺るぐことなく着実に歩んでいき、自らの目標に向かって進んでいかなければならない。

中国はすでに発展し始めた。われわれは「国が強大になれば必ず覇を唱える」といった論理に賛同せず、平和的発展の道を歩むことを堅持するが、中華民族が思いのままに外国に辱められた時代はもはや二度と返って来ないであろう。われわれは今なぜこのような自信を持つに至ったのか。それはわれわれの国が発展してきたからだ。現在、中国の国際的な地位は絶えず向上し、国際社会における影響力は絶えず拡大している。これは中国人民が百年にわたる奮闘を通じて人々からの尊敬を勝ち取ったのだ。近代以来、中国が主権を喪失し、恥辱を受け、外国人が中国で横柄にのさばり返った悲惨な歴史を考えると、ほんとうに鮮やかなコントラストをなしている。

数千年にわたる中華文明にはその独特な価値体系がある。中華民族の優れた伝統文化はすでに中華民族の遺伝子として中国人の心の中に根を下ろし、知らず知らずのうちに中国人の思考様式や行動様式に影響を与えている。今日、われわれが社会主義の中核的価値観を提唱、発揚するには、その中から豊富な滋養を汲み取らなければならず、そうでなければ、生命力と影響力をもつことはあり得ない。たとえば、中華文化は次のような価値観を強調する。「民はこれ邦の本」[九]、「天人合一」[一〇]、「和して同ぜず」[一一]、「天行健なり、君子もって自強して息まず（天の運行は揺らぐことなく続いていく、そのように、立派な人は自ら努め励んで怠らない）」[一二]、「大道の行われるや天下を公と為す」[一三]、「天下の興亡、匹夫に責あり」[一四]。また、徳を以って国を治め、文を以って民を教化することを主張し、次のように強調する。「君子は義に喩る（君子は真っ先に義を考える）」[一五]、「君子は坦かに蕩蕩たり（立派な人は、心が穏やかでのびのびしている）」[一六]、「君子は義を以て質と為す（立派な人は義を根本とする）」[一七]、「言は必ず信、行は必ず果（言ったら必ず実行し、実行したら断固としてやり抜く）」[一八]、「人にして信無くんば、其の可なるを知らざるなり（信がなければ、人間として評価するに値しない）」[一九]、「徳は孤ならず、必ず隣あり（徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れる）」[二〇]、「仁者は人を愛す」[二一]、「人に善をなす」[二二]、「己の欲せざる所を人に施すなかれ」[二三]、「出入相友い、守望相助け」[二四]、「吾が老を老として、以て人の老に及ぼし、吾が幼を幼として、以て人の幼に及ぼす」[二五]、「貧困者救済・弱者扶助」「寡きを患えず、均しからざるを患う」[二六]、等々。このような思想と理念は、過去現在を問わず、その鮮明な民族的特色を持ち、永遠に色褪せることのない時代的価値を有する。これらの思想と理念は、時間と時代の移り変わりに従って、絶えず時代と共に前進しているだけでなく、自らの一貫性と安定性を保っている。われわれが中国人として生まれて、その最も根本にあるのは中国人の独特な精神世界であり、人々が日々気づかずに用いている価値観なのである。われわれが提唱した社会主義の中核的価値観は、

中華民族の優れた伝統文化の伝承と昇華を十分に具現している。

価値観は人類が自然と社会を認識し、改造する過程において生じ、その効力を発揮してきたものである。異なる民族、異なる国家はその自然条件や発展過程も異なるため、そこに生まれ、形成された中核的価値観もそれぞれの特色を有する。一つの民族、一つの国家の中核的価値観は必ずその民族、その国家の歴史文化に合致し、その民族、その国家の人民の奮闘目標と結び付き、その民族、その国家が解決すべき時代の課題に適応していかなければならない。世界に全く同じ木の葉は二枚とない。一つの民族、一つの国家は必ず自分が誰なのか、どこから来て、どこに行こうとしているのかをはっきりと知らなければならない。それがはっきりし、正しければ、揺るぐことなくこの目標に向かって前進して行かなければならない。

昨年十二月二十六日、私は毛沢東同志生誕百二十周年記念座談会で次のように述べた。九百六十万平方キロの広大な土地に立ち、中華民族が長期にわたり奮闘し、蓄積してきた文化から滋養を汲み取り、十三億もの中国人民の力を凝集し、われわれは自らの道を歩む。それはこの上なく広々とした舞台をそなえ、限りなく奥深い歴史の蘊蓄を有し、限りなく強大な前進の意志力を秘めている。中国人民はこの自信を持つべきであり、すべての中国人がこの自信を持つべきである。われわれは人類社会が創造したあらゆる文明の成果を謙虚に学び参考とする必要があるが、だからと言って自らの根っこを忘れてはならず、他国の発展モデルをそのまま引き写しにしてはならず、またいかなる国からもあごでこき使われるような説教を受け入れることはない。

なぜこう言うかというと、われわれの発展目標を達成し、中国の夢を実現するには、必ず道、理論、制度への自信を強めなければならず、「千磨万撃（せんまばんげき）にも堅く揺るがず、東西南北の風吹こうとも（［竹は］さまざまな方角から吹きつける風に千度揺さぶられ万度打たれても、しっかりとして揺るがない）」[二七]でなければならないからである。この「三つの自信」はわれわれが中核的価値観を認めることで支えられている。

私はなぜ若い人たちに社会主義の中核的価値観の問題について話そうとするのか。それは、青年の価値志向は将来の社会全体の価値志向を決定づけるからだ。そして青年は価値観を形成し確立する時期にあり、この時期にしっかりと価値観を身につけることがたいへん重要だからだ。これは服を着るときにボタンをかけるのと同じで、最初のボタンをかけ間違えてしまうと、残りのボタンも全て間違ってしまう。人生のボタンは最初のものからしっかりとかける必要がある。「井を鑿つは三寸の穴に始まり、もって万仞の深みに達す」〔二八〕という言葉がある。青年は今から始め、自分から始め、社会主義の中核的価値観を自らの基本的規範とし、かつ実践躬行によって全力でこれを社会全体に広めていくべきである。

広範な青年が社会主義の中核的価値観を確立し育成するには、次の面から着実に取り組んでいかなければならない。

第一に、勉学に励み、懸命に研鑽し、真の学問を求めるべきである。知識は中核的価値観を確立するための重要な基礎である。古代ギリシアの哲学者は「知識は美徳だ」と言った。わが国の古人は「学非ずんば広才ならず、志非ずんば学成らず」〔二九〕と言った。大学の青春時代は一生に一度しかないのだから、大切にすべきだ。知識を学ぶには、勤勉、研鑽、恒心が大切である。魯迅〔三〇〕は「天才なんかあるものか。ぼくは他人がコーヒーを飲んでいる時間に仕事をしただけだ」〔三一〕と言っている。大学の段階は、「ときしも　同学のわれら年若く　才華まさに満ちあふれる」〔三二〕時期であり、先生の指導を受けたり、同級生と切磋琢磨したり、多くの書物に道案内を請うたりして、一心不乱に知識を求め学問に打ち込むことができる。今努力しないでいつ努力するというのか。勤勉に学習に励み、素早く知識を吸収し、学んだ知識を内面化し、自分なりの見解をつくり上げるべきである。専門を深め、広く書物を渉猟するとともに、国や人民や世界に関心を寄せ、社会的責任を担うことを身につけなければならない。

第二に、徳を修め、道徳の修養を強化し、道徳の実践を重んじるべきである。「徳は本なり」〔三三〕という。蔡元培〔三四〕先生は、「もし徳がなければ、肉体や知力がいくら発達しても、かえって悪事を為す助けとなるだけだ」〔三五〕と言っている。道徳は個人においても、社会においても、土台としての意義がある。身を持し事に当たるのに最も大切なのは徳を尊び、身を修めることである。これこそわれわれの人材登用基準が才徳兼備であり、徳を最優先とする理由である。なぜなら、道徳は第一に重要なものであり、方向を示すものであり、人は大徳をよくわきまえ、公徳を守り、私徳を厳しくしてこそ、その才能が必要なときに役立つからである。徳を修めるには、志を高く持つとともに、質朴を保つことに立脚しなければならない。祖国のため尽力し、人民に奉仕する志を持つべきである。これは大徳であり、大徳を養う者こそ大事業を成し遂げることができる。と同時に、小さいことや細々したことをきちんとやることから始め、「善を見れば則ち遷り、過ち有れば則ち改む（善をみればただちに学びとり、過失があればただちに改める）」〔三六〕。公徳、私徳を着実に修め、労働、勤勉節約の習慣を養い、恩に感謝し、人を助けることを学び、謙譲、寛容、自省、自律を身につけなければならない。

第三に、弁別する力が必要である。是非を見分け、決断・選択することに巧みでなければならない。古人は「学びて思わざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し」〔三七〕と言った。是非をはっきりさせ、方向性をはっきりさせ、正しいやり方をしてこそ、人々の苦労は実を結ぶことができるのだ。世界の深刻かつ複雑な変化、情報化時代のさまざまな思潮が互いに激しく絡みあう状態、複雑で錯綜した、善悪優劣入り混じる各種の社会現象に直面し、また学業、感情、職業の選択など諸方面をめぐる考慮を前にして、一時的に疑いを抱き、悩み迷い、喪失感を覚えるのは正常な人生経験だと思う。重要なのは、深く考えることを学び、分析に長じ、正しく選択し、穏健で自制心があり、ゆったりと自信に満ち、確固として自ら励むことである。正しい世界観、人生観、価値観を確立しなければならない。この肝心かなめのカギを掌握してから、振り返って社会のさまざまな現象や人

生の歩みを眺めれば、おのずからにすべての是非、正誤、軽重、真偽、善悪、美醜が火を見るよりも明らかになり、おのずからに正しい判断を下し、正しい選択をすることができるようになる。正に「千回も洗い流し万回も篩い分け、砂嵐が吹き尽くしてこそ金があらわになる」〔三八〕というとおりである。

第四に、実直でなければならない。着実に仕事を進め、まじめに身を持さなければならない。道は座して議論してはならず、徳は空理・空論になってはならない。具体的な事柄に着実に取り組み、認識と実践の知行合一に努めてこそ、中核的価値観を人々の精神的追求に内在化させ、人々の自覚的行動に外在化させることができる。

『礼記』〔三九〕には、「博く之を学び、審らかに之を問い、慎みて之を思い、明らかに之を弁え、篤く之を行う」〔四〇〕とある。「聖人とはすすんで努力する凡人であり、凡人とは努力しようとしない聖人だ」という言葉がある。青年は大きなチャンスに恵まれているわけだが、肝心なのは着実に足を踏み出し、土台をしっかり打ち固め、長く続けていくことである。落ち着きがなく、移り気で、ある分野を学んではそれを投げ出し、ある仕事を担当してはそれを辞めてしまう。学問であれ、事業であれ、こうしたことは最も避けなければならないタブーである。「天下の難事は必ず易きに作り、天下の大事は必ず細より作る」〔四一〕という。成功の背後にあるのは、永遠に艱難辛苦の努力である。青年は苦しい環境を自分を鍛えるチャンスとし、小さな仕事も大きな仕事と見なして取り組み、一歩一歩着実に進んでいくべきである。水滴石をも穿つ、である。根気よくたゆまず努力し、どんな困難にもくじけなければ、成功は必ず皆さんを待っている。

中核的価値観を身につけるのは決して一日でできることではない。あくまで易しいものから難しいものへ、身近なものから遠いものへと堅持し、中核的価値観の要求を日常の行動の準則に変え、自覚をもって信奉する信念・理念を形成すべく努めなければならない。順調な時は山を眺めれば山そのものに見え、川を目にすれば

川そのものに見えたのに、一度挫折すると、疑いが生じて動揺してしまい、山を眺めても山には見えず、川を見ても川には見えない、というのではいけない。いかなる時でも、われわれは中国の大地で生まれ、発展してきた社会主義の中核的価値観をしっかりと守り、時代の流れの中で自らの事業を達成し、自らの大切な人生を完成させなければならない。

学生の皆さん、教師の皆さん

党中央は世界一流の大学を建設するという戦略的政策を決定した。われわれはこの目標に向かって揺るぐことなく進んでいかなければならない。中国において世界一流の大学を運営するには、必ず中国の特色を持たなければならない。特色がなければ、他人の後に追随して、単純に模倣するだけとなり、成功を収めることはできない。「民族的なものであればあるほど、いっそう世界的なものとなる」という言葉をあてはめることができるだろう。世界には第二のハーバード、オックスフォード、スタンフォード、マサチューセッツ工科大、ケンブリッジが現れることはないが、最初の北京大学、清華大学、浙江大学、復旦大学、南京大学など中国の有名校が現れるはずだ。われわれは世界の先進的な学校運営の経験を真剣に吸収し、さらに教育の法則に則り、自国の大地に根を下ろして大学を運営しなければならない。

魯迅は、「北京大学は常に新しいものを志向し、進歩的な運動の前衛であり、中国が良き方向に向かって前進すべき道を指し示してきた」[四二]と言っている。党の第十八期三中全会は改革の全面的深化の大号令を発し、わが国の高等教育の改革の深化にも明確な要求を打ち出した。今、肝心なのは青写真を一歩一歩現実に描き換えることである。全国の高等教育機関は教育改革の先頭に立ち、徳育によって人材を育成する根本的な任務をしっかりと中心に据え、活力に満ち、効率が高く、より開放的な学校の科学的発展に役立つ体制・仕組みの構築を速め、教育改革の先頭部隊としての役割を果たすべきである。私も、北京大学が懸命な努力と改革・革新

を通じて、世界一流の大学を創設するという北京大学の人々の数世代にわたる夢を、一日も早く実現するようにと願っている。

教師は最もおごそかで神聖な使命を担っている。梅貽琦〔四三〕先生は、「大学というものは、建物を指すのではない、優れた師を指すのである」〔四四〕と言った。私はこうした優れた師は学問の師でもあれば、品行の師でもあると思う。教師は知識を教えつつ人間をも育てるという使命を常に心に留め、若い世代を育てるために進んで自分を犠牲にし、人格的魅力をもって学生の心を導き、学術上の造詣で学生の知恵の扉を開くべきである。

各級の党委員会と政府は大学の仕事を高度に重視し、終始学生の成長に配慮し、青春の夢を羽ばたかせ、学生の素晴らしい人生のために舞台を用意すべきである。改革を全面的に深化し、公平公正な社会環境を整え、社会の流動性を促進し、絶えず広範な青年の活力と創造力を引き出していかなければならない。就職・起業のサービスシステムの整備を強化し、学生たちが社会に出る第一歩を順調に踏み出すよう応援しなければならない。各級の指導幹部は常に学生たちの間に入り、彼らと友人になり、その見方とアイデアに耳を傾けなければならない。

現在、大学に在校している学生たちはすべて二十歳前後の若者である。小康社会を全面的に築き上げる二〇二〇年になっても、皆さんの多くはまだ三十歳にならず、現代化をほぼ実現する今世紀の中葉でも、まだ六十歳にはなっていない。つまり、皆さんと千万の若者たちは、「二つの百周年」の奮闘目標を実現するすべてのプロセスに参加することになるということだ。信念、夢を持ち、奮闘、奉仕する人生こそ、意義のある人生である。現代の青年にとって、大きな成功を収められる舞台は非常に広々としたものであり、夢を実現する前途も非常に明るい。皆さんが努力して、中国の夢を実現する偉大な実践の中で自らの素晴らしい人生を創造するよう望む。

現代中国の青年は必ずや党と人民が与えた歴史的重責を担うことができ、青春を燃え立たせ、人生を切り開き、社会に貢献する過程において、時代に恥じない輝かしい歴史の一章を書き継いでくれるものと、私は信じている。

【注】

〔一〕五・四運動以来の中国青年の栄えある革命的伝統を受け継ぎ、発揚するため、一九三九年に、陝甘寧辺区（中国共産党が抗日戦争中に陝西省北部、甘粛省および寧夏回族自治区東部に設立した抗日根拠地）の西北青年救国連合会が五月四日を中国青年デーに定めた。一九四九年十二月、中央人民政府政務院は正式に五月四日を中国青年デーとすることを公布した。

〔二〕五・四運動とは、一九一九年五月四日、北京で勃発した中国人民の帝国主義、封建主義に反対する愛国運動を指す。当時、第一次世界大戦が終ったばかりで、英、米、仏、日、伊などの戦勝国はパリで対独講和会議を開き、日本は山東省におけるドイツの権益を引き継ぐことを決めた。中国は対独宣戦に参加した戦勝国の一つであった。しかし、北洋軍閥政府はこの決定を受け入れようとした。五月四日、北京の学生はこの理不尽な決定と北洋軍閥政府の妥協に反対するデモ行進を行った。この運動は急速に全国人民の反響を呼び起こし、六月三日前後には、労働者階級、都市のプチブル階級と民族ブルジョア階級が参加する幅広く大衆的な反帝国主義、反封建主義の愛国運動へと発展した。五・四運動はまた封建文化に反対する新文化運動でもあった。一九一五年、『青年雑誌』（のちに『新青年』と改称）の創刊を発端とする新文化運動は、「民主」と「科学」の旗印を高く掲げ、旧道徳に反対して新道徳を提唱し、旧文学に反対して新文学を提唱した。五・四運動は中国の旧民主主義革命の終結と新民主主義革命の始まりを示すものであり、中国革命はこれ以後新たな歴史的時期を迎えた。

〔三〕朱善璐、一九五三年生まれ、遼寧省瀋陽市出身。現在、中国共産党北京大学党委員会の書記を務める。

〔四〕李大釗の『青春』を参照。李大釗（一八八九～一九二七）、河北省楽亭出身。中国でマルクス主義を受容、伝播した先駆者であり、中国共産党の主要な創立者の一人。

〔五〕本文中の注〔二〕を参照。
〔六〕本書中の「中国の夢の実現を目指す生き生きとした実践の中で、青春の夢を羽ばたかせよう」の注〔二〕を参照。
〔七〕『礼記・大学』を参照。
〔八〕『管子・牧民』を参照。
〔九〕『尚書・五子之歌』を参照。
〔一〇〕中国古代の哲学概念。西周の天命論に由来し、天と人は緊密なつながりを持っていると考える。
〔一一〕『論語・子路』を参照。
〔一二〕『周易・乾』を参照。『周易』は中国の儒家の経典の一つ。『周易』では八卦（天、地、雷、風、水、火、山、沢の八種の自然現象を象徴する）の形を通して、自然と社会の変化を推測し、陰陽二種の勢力の相互作用が万物生成の根元であると見なし、「剛柔相推して、変その中に在り（陽と陰が互いに推移・交錯することによってさまざまな変化をもたらす）」など、素朴な弁証法的観点を提起している。
〔一三〕『礼記・礼運』を参照。
〔一四〕顧炎武の『日知録・正始』を参照。原文は「保天下者，匹夫之賤與有責焉耳矣（天下を保つ者は、匹夫の賤、与かって責め有るのみ）」。顧炎武（一六一三～一六八二）、江蘇省崑山出身。明末清初の思想家・歴史学者。
〔一五〕『論語・里仁』を参照。
〔一六〕『論語・述而』を参照。
〔一七〕『論語・衛霊公』を参照。
〔一八〕『論語・子路』を参照。
〔一九〕『論語・為政』を参照。
〔二〇〕『論語・里仁』を参照。
〔二一〕『孟子・離婁下』を参照。『孟子』は中国の儒家の経典の一つで、戦国時代の孟子の言論集。孟子とその弟子の共同編纂に成る。『大学』『中庸』『論語』と共に『四書』と称される。
〔二二〕『孟子・公孫丑上』を参照。
〔二三〕『論語・顔淵』を参照。
〔二四〕『孟子・滕文公上』を参照。

〔二五〕『孟子・梁恵王上』を参照。
〔二六〕本書中の「思想を適切に党の第十八期中央委員会第三回全体会議の精神に統一する」の注〔四〕を参照。
〔二七〕本書中の「中国の特色ある社会主義を揺るぎなく堅持・発展させよう」の注〔二〕を参照。
〔二八〕劉昼の『劉子・崇学』を参照。原文は「鑿井者，起于三寸之埳，以就万仞之深」。劉昼（五一四～五六五）、渤海阜城（現在の河北省阜城東）出身。北斉の文学者。
〔二九〕諸葛亮の『誡子書』を参照。諸葛亮（一八一～二三四）、字は孔明、琅邪郡陽都（現在の山東省臨沂市沂南）出身。三国時代の蜀漢の宰相、政治家。
〔三〇〕魯迅（一八八一～一九三六）、本名は周樟寿、のち周樹人と改名。浙江省紹興市出身。中国の文学者、思想家、革命家。中国現代文学の創始者。
〔三一〕「魯迅全集編校後記」（『魯迅全集』第二〇巻、人民文学出版社、一九七三年版、第六六三頁）を参照。
〔三二〕毛沢東の「沁園春・長沙」（『毛沢東詩詞集』、中央文献出版社、一九九六年版、第六頁）を参照。
〔三三〕『礼記・大学』を参照。
〔三四〕蔡元培（一八六八～一九四〇）、浙江省紹興市出身。中国の民主革命家、教育家、科学者。国立北京大学の学長を務めた。
〔三五〕蔡元培の「愛国女学校における講演」（『蔡元培全集』第三巻、中華書局、一九八四年版、第八頁）を参照。
〔三六〕『周易・益』を参照。
〔三七〕『論語・為政』を参照。
〔三八〕劉禹錫の『浪淘沙九首（その八）』を参照。劉禹錫（七七二～八四二）、洛陽（現在の河南省洛陽市）出身。唐代の文学者、哲学者。
〔三九〕『礼記』、中国の儒家の経典の一つで、中国古代の社会状況、法令制度と儒家思想を研究するための重要な著作。そこに記述された思想は社会、政治、倫理、哲学、宗教などの内容を含む。
〔四〇〕『礼記・中庸』を参照。『中庸』は中国の儒家の経典の一つ。もとは『礼記』の中の一編であったが、宋代に『礼記』から抽出されて、『大学』『論語』『孟子』と共に『四書』と称されるようになった。
〔四一〕『老子』第六十三章を参照。『老子』は中国古代の重要な哲学著作であり、その中で提起された「道法自然」は素朴な弁証法的思想を含んでおり、「無為の治」を唱える。

〔四二〕　魯迅の「わが北京大学観」（『魯迅全集』第三巻、人民文学出版社、一九七二年版、第一五五頁）を参照。

〔四三〕　梅貽琦（一八八九～一九六二）、原籍は江蘇省武進県（現在の江蘇省常州市）、天津市出身、台湾で病没。一九三一年十月から一九四八年十二月にかけて国立清華大学の学長を務めた。

〔四四〕　これは梅貽琦が一九三一年十二月二日、国立清華大学の学長就任の挨拶の中で述べた学校運営の理念である。

早期から社会主義の中核的価値観を育成し実践

（二〇一四年五月三十日）

北京市海淀区民族小学校座談会を主宰した際の談話

児童の皆さん、教師の皆さん、同志の皆さん

こんにちは。国際児童デーの直前に、われわれは北京市海淀区民族小学校を訪れ、少年先鋒隊の入隊式に参加したり、行事を見たりできたことを非常にうれしく思う。二日後は国際児童デーだが、ここで、まずご在席の皆さんと全国各民族の少年児童に祝賀の意を表したい。国際児童デーおめでとう。

海淀区民族小学校は徳育を重んじ、さまざまな活動を繰り広げ、素晴らしい成績をあげている。先ほど、生徒や先生、保護者の皆さんの発言を聞いてとても得るところがあった。皆さんの誰もが徳育強化活動に触れ、少年児童が幼い頃から社会主義の中核的価値観を育み、実践するよう導くことに言及していた。これは素晴らしいことで、私たちは同じ考えを持っている。今日はここで、この問題について話したいと思う。

一つの民族の文明の進歩、一つの国の壮大な発展には、代々受け継がれる努力が必要であり、多くの力で推し進めることが必要である。中核的価値観はその中における最も恒久的かつ深みのある力だ。中華民族は五千年余りの歴史と輝かしい文化を持ち、中華文明は古代から今日まで続いている。中華民族が数千年の歴史の中

で粘り強く存続し発展してきたのはなぜだろうか。一つの重要な原因は、わが民族には何代にもわたって受け継がれてきた精神面の追求と特質、脈絡があるからだ。現在でも使われている漢字は甲骨文字と根本的な違いがない。老子〔一〕、孔子〔二〕、孟子〔三〕、荘子〔四〕などの先哲の観念も現在まで伝わっている。このように現在まで数千年に連なって発展してきた文明は、世界各民族でも多くは見られないものだ。

今日、中華民族が引き続き前進するには、必ず時代の条件に基づき、わが民族の精神、優れた文化、特にその中の伝統的な美徳を継承し、発揚しなければならない。

私たちが唱導する富強・民主・文明・調和・自由・平等・公正・法治・愛国・勤勉・誠実・友好という社会主義の中核的価値観は古代聖人賢者の思想を表し、愛国の志士のかねてからの願いを表し、革命に献身した人たちの夢を表し、各民族人民の幸せな生活へのあこがれを託すものだ。中国人であれば自覚的に社会主義の中核的価値観を育み、実践するべきである。

この間、私は社会主義の中核的価値観を育み、実践することを集中的に強調してきた。今年二月、中央政治局は社会主義の中核的価値観の育成・高揚をテーマとする集団学習を行った。私は発言し、社会全体に要請を提出した。「五月四日」の青年デーに北京大学を訪れ、大学生たちにこの問題について話し、また先日上海に行って、指導幹部たちにこの問題について話したが、今日は小学生たちにこれを語りたいと思う。なぜかというと、いかなる思想や観念も、社会全体で確立し、長期にわたって役割を果たしていくには、少年児童から始めなければならないからである。

少年児童は祖国の未来であり、中華民族の希望だ。これはまさに「少年中国説」〔五〕にある、「少年聡ければ即ち国も聡く、少年富めば即ち国も富めり、少年強ければ即ち国も強く、少年進歩すれば即ち国も進歩する」だ。新陳代謝は阻むことのできない歴史の法則で、未来は今日の少年児童がつくり出すものだ。去年の国際児童デ

ーに私は、誰もが子どもから成長していくものだと述べた。私たちの夢を実現するには、私たちの世代に依拠し、また、それ以上に次の世代に依拠しなければならない。少年児童は物事に敏感で、すべての美しきものを受け入れることを準備している。「古来英雄は年少の人々から輩出する」と言われる。中華民族の今日と明日のために、私たちは広範な少年児童が遠大な志を立て、美しい心を育むよう教え導き、よりよく成長させなければならない。

少年児童はどのようにして社会主義の中核的価値観を育み、実践するのだろうか。これは大人とは異なるべきで、少年児童の年齢と特徴にふさわしくあるべきだ。主には、求められることを記憶し、手本から学び、小さなことから始め、助けを受け入れることだと考えられる。

――求められることを記憶するとは、社会主義の中核的価値観の基本的な内容を暗記し、心に溶け込ませ、頭の中にしっかり刻むことだ。皆さんは勉学段階にあり、実社会の経験が少ないため、社会主義の中核価値観の内容理解は必ずしも深くないかもしれないが、心に銘記すれば、年齢や知識、経験の増加にともなって、より多く、より深く、より徹底して理解できるはずだ。成長する中で、学習や生活などの実践と結び付けて、絶えずこれら記憶した要求をよく考えて、理解を深めてほしいと思う。昔から今日まで、立派な人はほとんどが少年時代から自らに厳しい要求を課したものである。

――手本から学ぶとは、英雄、先進的人物、素晴らしい事物から学び、その中から良好な思想や品格への追求を養成することだ。中国の歴史には、少年英雄の物語がたくさんあり、中国共産党が人民を指導して行った革命、国家建設、改革事業においても数多くの少年英雄が現れた。その多くの名前を皆さんも聞いたことがあると思う。以前の映画の『紅孩子（赤い子どもたち）』『小兵張嘎（少年兵張嘎）』『鶏毛信（小さな密使）』『英雄小八路（八路軍の小さな英雄）』『草原英雄小姉妹（草原の小さな英雄姉妹）』などはこれらの少年英雄の物語

を表現するものだ。今日になって、優秀な少年児童はさらに増えている。あなたたちの学校でも「最も美しい少年少女」が選ばれていると思う。また、宇宙飛行の英雄、オリンピックのチャンピオン、科学の大家、模範労働者、青年ボランティアなど各分野に学ぶべき手本がたくさんあり、さらに喜んで人を助ける人、勇気を持って正しい行いをする者、信義・誠実を重んじる人、仕事に全力を捧げる人、お年寄りや家族を大切にする人なども学ぶべき手本だ。手本の力には限りがない。皆さんは彼らを手本として、彼らから学び、彼らのように素晴らしい思想や品格と道徳を追求すべきだ。これは孔子の言葉のように「賢を見てはそれに斉しくなろうと思い、不賢を見ては内に自ら省みる」(六)ということである。

——小さなことから始めるとは、自分や身近な小さな事から始め、少しずつ積み重ね、素晴らしい思想や品格、道徳を育むことだ。「若いときに努力しないと、年をとってからいたずらに悲しむだけだ」(七)、「千里の道も一歩から」なのである。少年児童は大人のように社会のために多くの事は行えないが、小さなことから始め、毎日考えるべきだ。祖国を深く愛しているか、グループに熱心か、勉強に励んでいるか、クラスメートに関心を持っているか、学校の先生を尊敬しているか、家で親孝行をしているか、社会のマナーを守っているか、善人やよい行いに敬服しているか、悪い人や悪い行為に憤りを感じるかなど、よく考えれば、自分により多く行うよう促すことになり、少しずつ積み重ねれば自らの素晴らしい思想や品格、道徳が増えていく。衣食やマイカーの送迎、両親の地位を張り合う子どもがいると聞いているが、これは間違っている。絶対に、これらは張り合ってはいけない。「古来英雄は数々の苦難をなめつくすもので、伊達男には偉人少なし」「少年時は辛苦して一生の事業の基礎をつくり、わずかでも怠けて時間をムダにしてはいけない」(八)と言われる。張り合うなら、誰が気骨があるか、誰が勤勉か、誰が働くことが好きか、誰が体を鍛えることを好むか、誰が最も思いやりがあるかを張

り合おう。

——助けを受け入れるとは、意見を聞き入れ、批判を受け入れ、誤りはすぐ直して直せば直すほどよくなる雰囲気の中で健康に育つということだ。完璧な人間はいない。欠点を克服し、誤りを正す中で進歩するのだ。「玉磨かざれば器を成さず、人学ばざれば義を知らず」[九]。少年児童は世界観、人生観、価値観を形成する中で、助けを必要とする。親の話が多いことや教師の厳しい訓戒を嫌がってはならないし、学友の熱心な助けを余計なことだと嫌がってはいけない。まずは正しいかどうか、自分のためであるかどうかを考え、正しければ受け入れてほしい。うまくやれないことがあっても、あわてることはない。自分が意識し、直したいと思えば進歩する。自分が意識せず、親や先生、学友の指摘によって意識しても、直せば進歩することもできる。「良薬は口に苦くして病に利あり、忠言は耳に逆らいて行いに利あり」。私たちは自らに対する要求を厳しくし、批判や助けを虚心に受け入れる習慣を養成すべきだ。幼い頃から正しい道に沿って歩み、少し学べば、それだけ実行するのだ。最もよい自分になろうとし、最も自分のよい面で努力すれば、人生には陽光が差すはずである。

社会主義の中核的価値観を少年児童の間に育むことに対しては、家庭、学校、少先隊[一〇]組織、社会全体に責任がある。

家庭は子どもにとって最初の教室であり、保護者は子どもにとって最初の教師である。保護者はいつでもどこでも子どものためによい手本を示し、正しい行為、正しい思想、正しい方法で子どもに学ばせるべきだ。小さな事から真善美を意識し、偽悪醜を遠ざけることを教えるべきだ。子どもの考えることや品行の変化を見つめ、常にしつけをしなければならない。

学校は徳育をより重要な位置に置き、校風、教師のモラルを全面的に強化し、知識を伝え人格を育むことを堅持し、少年児童の特徴と成長の法則によって、順序よく、穏やかな風や細かな雨のように教え導き、授業で

は知識を伝えるだけでなく、美徳を育まなければならない。活動は身心を健康にするだけでなく、品性を陶冶する。少年児童に気を配り、助けを与え、社会主義の中核的価値観の種が少年児童の心に根を下ろし芽生えるようにしなければならない。

少先隊は組織教育、自主教育、実践活動の展開を堅持し、少年児童の社会主義中核的価値観を育み、実践するために奉仕し、広範な少年児童を結集し、しっかり教え導かなければならない。社会全体は少年児童を理解、尊重し、関心を示し、奉仕し、彼らのために素晴らしい社会環境を提供しなければならない。少年児童の権益を損ない、少年児童の身心の健康を損なう言動は断固として防止し、法によって取り締まらなければならない。

「長江は後の波が前の波を押すようにして進める」。私はこの世代の少年児童は必ずや志を立て、夢を持ち、勉学に励み、労働を好み、祖国を愛し、幼い頃から自発的に社会主義の中核的価値観を育み、それを実践し、星とたいまつ〔二〕の輝きの下、中国共産党の陽光を浴びて、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために常に準備をしていると信じている。

〔注〕

〔一〕老子（生没年不詳）、老聃ともいう。姓は「李」、名は「耳」。苦県（現在の河南省鹿邑東）出身。春秋時代の思想家、道家の開祖。「道は自然に法る」「有無相生ず」「無為にして治める」などの教えは豊富で、素朴な弁証法思想がある。著作は『老子』であると伝えられている。

〔二〕孔子（前五五一～前四七九）、名は「丘」、字は「仲尼」、魯国陬邑（現在の山東省曲阜市東南）出身。春秋時代末期の思想家、教育者、政治家、儒家の始祖。「仁」を核心として哲学的な思想体系を創造的に構築した。孔子は教育事業に励み、『詩』『書』など古典の整理、『春秋』の删修を行った。孔子の思想学説は主に『論語』にま

とめられている。漢代以降、孔子の学説は二千年余りの間中国伝統文化の主流になり、封建統治者は孔子を「聖人」視するようになった。

〔三〕孟子（前三七二頃～前二八九）名は「軻」、字は「子輿」、鄒（現在の山東省鄒城東南）出身。戦国時代中頃の哲学者、思想家、教育家。「天人合一」を主張し、性善説を打ち出し、道徳を仁・義・礼・智の四徳にまとめられている。孔子の「仁」と徳治の思想を継承、発展させ、「民貴君軽」を打ち出した。孟子は儒家の思想や原則を守り、儒家道統の伝授者、「亜聖」とも称される。著書は『孟子』。

〔四〕荘子（前三六九～紀元前二八六）、宋国蒙（現在の河南省商丘市東北）出身。戦国時代の哲学者、道家学派の代表的な人物。老子の「天道自然」の思想を継承し、道が世界の最高の本源であるとしている。荘子哲学の目的は「天地は我と並び生じて万物は我と一なり」の境地に達することにある。

〔五〕「少年中国説」は梁啓超が書いた文。梁啓超（一八七三～一九二九）、広東省新会出身。中国近代の思想家、学者、戊戌の変法維新運動の指導者の一人。

〔六〕『論語・里仁』を参照。

〔七〕「楽府詩選・長歌行」（『楽府詩選』、人民文学出版社、一九五四年版、第一六頁）を参照。

〔八〕杜荀鶴の詩作「題弟侄書堂」を参照。杜荀鶴（八四六～九〇四）、池州石埭（現在の安徽省石台県）出身。唐代の詩人。

〔九〕『三字経』を参照。『三字経』は昔中国の初学者用の学習書。宋代の王応麟の編と伝えられる（一説に宋代末期の区適子が撰したとも言われる）。明、清時代に増補された。その内容は、道徳教育を重んじ、三文字一組で構成され、語呂がよく暗記しやすい。

〔一〇〕少先隊、全称は中国少年先鋒隊で、中国共産党の委託による中国共産主義青年団の指導下に置かれる全国統一の少年団組織。一九四九年十月十三日、中国共産主義青年団中央は全国統一の中国少年児童隊を創立した。一九五三年八月二十一日、中国少年先鋒隊と改称。

〔一一〕中国少年先鋒隊の隊旗は五角形の星とたいまつの赤旗。五角形の星は中国共産党の指導を、たいまつは光明を象徴している。

第七章

社会事業と社会管理の改革発展

貧困地区における貧困脱却・富裕化を推し進め発展を加速させる

（二〇一二年十二月二十九日、三十日）

河北省阜平県貧困脱却扶助・開発活動を視察した際の談話の要旨

貧困を解消し、民生を改善し、共に豊かになることをめざすことは社会主義の本質的要請である。生活困窮者にとりわけ気を配り、百方手を尽くして彼らの悩みごとや困難を解決し、大衆の日常生活を常に念頭に置き、党と政府の温かい思いやりを幾千幾万もの世帯に届けなければならない。

かつての革命根拠地であった地域とその人民が中国革命の勝利のために重要な貢献をしたことは、党と人民はいつまでも忘れない。改革開放三十余年来、わが国の人民の生活水準は全体として大きく変わった。だが、わが国はいまだ社会主義の初級段階にあり、生活に困窮した大衆がまだ少なくない。小康社会を全面的に実現する上で、最も困難で最も重い任務は農村にあり、特に農村の貧困地区にある。農村、特に貧困地区における小康社会の実現なしには、全面的な小康社会を実現することはできない。中央は貧困脱却扶助・開発事業を非常に重視している。各級の党委員会と政府は、貧困脱却扶助・開発をしっかり進める責任感と使命感を強め、計画、資金、目標を持ち、措置、検査を徹底し、村民が少しでも早く貧困から脱却し、豊かになり、小康社会

に向かうよう、みなで共に努めなければならない。

自信さえあれば、黄土を金に変えることができる。各級の党委員会・政府は生活困窮者、特にかつての革命根拠地であった地域と貧困地区の生活困窮者に対する貧困脱却と富裕化の取り組みをさらに優先させ、各地域の実情に応じて、科学的に計画し、種類別の指導を行い、状況の変化に応じて巧みに誘導し、各種の扶助政策はかつての革命根拠地、貧困地区に傾斜するようにし、さらに自信を固め、正しい道筋を見つけ、刻苦奮闘を堅持し、貧困地区での貧困脱却・富裕化、発展の加速化を推し進めるべきである。各級の指導幹部は生活困窮者を常に念頭に置き、困窮者の救済につながる仕事をたくさん行い、情熱をこめて困窮者のために働かなければならない。

農村を発展させ、農民を豊かにするには、党支部にそのカギがある。農村の末端部にいる同志は、第一線で働き、条件もよくないし、一年中かなりの苦労をしており、お疲れさまであった。皆さんの労を心よりねぎらいたいと思う。党の政策を着実に実行に移し、心を一つにし、力を合わせて村民の皆さんが一日も早く幸せな生活を送れるよう、八方手を尽くしてがんばらなければならない。

十三億の人民に、よりよいより公平な教育を

（二〇一三年九月二十五日）

国連「グローバル・エデュケーション・ファースト」イニシアチブ一周年記念活動へのビデオメッセージの要旨

「百年の大計は、教育にあり」。教育は人類の文明や知識を伝承し、若い世代を育成し、よりよい生活をつくり出すための根本的な手段である。

中国は引き続き国連の呼びかけに応えるだろう。中国には二億六千万人の在学生、千五百万人の教師がおり、教育の発展という任務は非常に重いものである。中国は科学技術・教育による国家振興戦略を確固として実施し、常に教育を優先的に発展させるという戦略的位置に据え、資金投下を絶えず増やし、全民教育と生涯教育の発展、学習型社会の構築に努め、すべての子供に教育を受ける機会を提供し、十三億の人民がよりよいより公平な教育を受け、自己発展、社会貢献、人々に幸福をもたらす力を獲得できるよう努力している。中国は世界各国と教育面の交流を強化し、教育の対外開放を拡大し、発展途上国の教育事業の発展を積極的にサポートし、各国人民と共に、人類がより素晴らしい明日へと向かうよう努めるだろう。

住宅保障・供給システムの整備を加速する

（二〇一三年十月二十九日）

第十八期中央政治局第十回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

住宅保障・供給システムの整備の加速は、大衆の基本的な住宅需要を満足させ、全国民に住む場所があるという目標を実現する重要な任務であり、社会の公平・正義を促進し、人民大衆が改革・発展の成果を共に享受することを保証する必然的要求である。各級の党委員会と政府は組織・指導を強化し、各目標・任務と政策措置を実施して、住宅保障・供給システムの構築を実践、人民、歴史の検証に耐えうる徳政プロジェクトとするよう努力しなければならない。

住宅問題は民生問題であり、発展問題でもある。それは、幾千幾万世帯もの切実な利益にかかわり、人民が安心して生活し楽しく働くことにかかわり、経済・社会の発展の全局にかかわり、社会の調和・安定にかかわるものである。党・国家は従来から大衆の住宅問題を高度に重視してきた。長期間の努力を経て、わが国の住宅の発展は大きな成果を上げた。同時にわれわれは、大衆の住宅問題の解決は長期にわたる任務であり、住宅困窮家庭の基本需要はいまだ根本的に満たされておらず、保障タイプの住宅（政府が中低所得世帯向けに提供する社会保障的性格を持つ住宅）は総体的に不足しており、住宅資源の配分が不合理・不均衡であるという問

題がなお存在することを見て取らなければならない。人民大衆はみなに住む場所があることとの実現に大きな期待を抱いており、われわれはさらに大きな決意を固め、より大きな気力をふりしぼって住宅の発展に存在するさまざまな問題をしっかり解決しなければならない。

住宅保障・供給システムの整備を加速するには、政府による公共サービスの提供と市場化の関係や、住宅開発の経済的効果と社会的効果の関係、需要と供給の関係および住宅保障と福祉の罠の回避との関係を上手に処理しなければならない。市場化に向けた改革方向を堅持してこそ、市場の活力を十分に引き出し、重層化した住宅需要を満たすことができるのである。一方で、労働技能が時代に合っていない、満足な就職ができない、所得水準が低いなどといった原因で住宅に困っている人たちが一部に存在しているため、政府は「市場を補足する」役割を果たし、生活困窮者に対する基本的な住宅保障を行わなければならない。

わが国の国情から見ると、全体的方向としては、政府が主として基本保障を与え、市場が主として重層化した需要に応える住宅供給システムをつくり上げる。わが国の住宅制度改革発展の経験を総括し、他国の住宅問題を解決するための有益な手段を参考にし、住宅建設の法則性をよく検討した上で、トップダウン設計を強化して、統一・規範化され、成熟・安定した住宅供給システムの構築を加速させなければならない。また、さまざまな措置を講じて住宅供給を増やす一方で、人民大衆の住宅需要の調節を重要な位置に据え、割安で、住みやすく、環境にやさしく、省エネで安全な住宅基準システムを確立・健全化し、国情に合致した住宅消費モデルを提唱する必要がある。

第十二次五カ年計画〔二〕には、三千六百万戸の都市の社会保障タイプの住宅の建設とバラック地区の再開発、二〇一五年までに全国の社会保障タイプの住宅のカバー率を二〇パーセント前後とすることが提起されている。これは政府が人民に対して行った公約であり、全力で達成しなければならない。公共賃貸住宅を重点的に発展

させ、低家賃住宅の建設を加速し、各種バラック地区の再開発を加速しなければならない。この政策の推進過程において、力を尽くして行うことと分相応に行うことを結びつけ、基本的な住宅需要を満足させるよう努力しなければならない。住宅は人々の心のよりどころであり、質の保証が大切である。社会保障タイプの住宅の計画・配置、施設・付属施設や間取り設計を最適化し、工事の質を優れたものとしなければならない。

住宅支援政策を整備し、政策による支援・誘導・牽引作用の発揮を重視し、各方面の積極性・主動性を引き出さなければならない。土地政策を整備し、民生優先を堅持し、土地供給計画を科学的に立案し、住宅用地の総供給量を増やし、社会保障タイプの住宅用地を優先的に手配しなければならない。財政政策を整備し、社会保障タイプの住宅建設への財政資金投入を適切に強化しなければならない。政策措置を総合的に運用し、企業やその他の機関を誘致して公共賃貸住宅の建設・運営・管理に参与させる。NPOが社会保障タイプの住宅の建設・運営・管理に参与する体制・仕組みを積極的に模索・確立し、各方面が共同で参与する局面を形成しなければならない。

社会保障タイプの住宅の建設は、国と国民に利する優れた事業であるが、このような善事をしっかり行い、真に援助を必要としている住宅困窮者にそれを享受させるために、管理を強化し、入居・使用・退去などの方面で規範的な仕組みを確立し、公共資源の公平でよりよい利用を実現しなければならない。公平な分配を堅持し、保障すべき大衆に真に享受させなければならない。社会保障タイプの住宅を違法占有する行為に対し、効果的な対策を行うと同時に制度の抜け穴を塞ぎ、これを防がなければならない。社会保障タイプの住宅を違法に占有する者に対しては、法律・規定に基づき罰しなければならない。

〔注〕

〔一〕「第十二次五カ年計画」とは「中華人民共和国国民経済・社会発展第十二次五カ年（二〇一一～二〇一五年）計画要綱」を指す。

常に人民大衆の生命の安全を第一に置く

（二〇一三年十一月二十四日）

青島・黄島経済開発区石油パイプライン漏洩による爆発事故の緊急救助・対処作業を視察した際の談話の要旨

今回の事故は再びわれわれに警鐘を打ち鳴らした。生産の安全性を確保するためには警鐘を長く鳴らし、常に努力を怠らず、少しも手を緩めてはならない。さもなくば国家と国民に取り返しのつかない損害をもたらすだろう。生産の安全性確保の責任制度を整え、企業の主体的責任を強化し、生産の安全性大検査を強化し、教訓から真剣に学び、一つのことから類推して多くのことを知るように努め、生産の安全性を確保するための取り組みを、全面的に強化しなければならない。

今回の事故は人々の生命や財産に大きな損害をもたらし、非常に心が痛む出来事であった。現在、国務院の関連部門、山東省党委員会・政府、青島市党委員会・政府および関係方面の共同の努力のもと、事故処理は一応の成果を見た。続いて全力で負傷者の救助・手当を行い、犠牲者の善後処理をし、遺族を慰め、被災者の暮らしを適切に手配し、今回の事故の調査・処理を急ぎ、法に基づき、関係者の責任を追及しなければならない。

各級の党委員会・政府および指導幹部は、安全を守りつつ発展を図る理念をゆるぎないものとし、常に人民大衆の生命の安全を第一に考えなくてはならない。各地区・各部門および各企業は、みな生産の安全性につい

ての高い基準、厳格な要求を守りぬき、投資を誘致したり、新規プロジェクトを立案したりする際には、安全生産面の参入要件を厳しくして、安全生産指標審査の重要度をいっそう高め、安全生産と安全生産事故リスクまたは大事故リスク評価において、「一票でも反対があれば否決する制度」を実施すべきである。責任は泰山より重い。安全生産責任システムの確立・整備を急ぎ、党と政府のトップが自ら手がけなければならない。安全生産責任を各持ち場・各担当者に徹底させ、業界の管理、事業運営の管理にあたっては、必ず安全管理を念頭に置いて、監督・検査を強め、考課・賞罰を厳格にして、生産活動の安全を全面的に推し進めなければならない。

すべての企業は安全生産の主体的責任を真剣に履行し、安全生産を確保するため安全への投資、安全管理訓練、基礎管理、緊急救援を確かなものとしなければならない。中央企業は率先して行い、手本とならなければならない。各級の政府は管轄地区の管理責任を徹底し、法律・規定に基づいて、厳しく管理しなければならない。

生産の安全性を守るには災いを未然に防がなければならない。生産安全性の大検査を引き続き行い、「全面的にカバーし、一切容赦せずの姿勢を取り、厳しく法律を執行し、実効を重視しなければならない」。通知せず、あいさつをせず、報告を聞かず、随行者や人びとの受け入れを断り、直接末端・現場を訪れ、ひそかに調査し、特に地下に埋設した石油・天然ガス輸送パイプライン網のような隠れた災害原因となり得る装置を深く調査する。目に見えない危険を取り除く対策・措置を強化し、安全生産検査業務の責任制を確立し、検査を行った者、サインした者が責任を取る。いい加減に済ませず、死角を残さず、うわべだけを繕うようなこともせず、必ずや効果を上げなければならない。

「一つの工場で事故が発生すれば、すべての工場がそれを教訓とし、一つの地区に隠れた危険があれば、全国に警告を発する」を、徹底しなくてはならない。各地区と各業界は事故がもたらした教訓から深く学び、安全責任を強化し、安全監視を改善し、予防措置を実施しなければならない。

冬がやって来た。年末年始はかねてから事故多発期である。皆さんが党と人民に重い責任を担う姿勢で、生産の安全性をしっかりと念頭に置き、着実に、綿密に、地道に仕事を行って、大事故・巨大事故を断固として防ぎ、全国の安全生産の情勢が安定的に好転するよう促すことを願っている。

中国をネット強国にするよう努めねばならない

（二〇一四年二月二十七日）

中央サイバーセキュリティー・情報化指導チーム第一回会議における談話の要旨

サイバーセキュリティーと情報化は国家の安全と発展、人民大衆の仕事と生活にかかわる重要な戦略的問題である。国際、国内の情勢に立脚して、全般的に配置し、各方面を統一的に協調させ、イノベーションによる発展をめざし、わが国をネット強国に築き上げるよう努めなければならない。

今日の世界では、情報技術革命は日進月歩であり、国際政治、経済、文化、社会、軍事など諸分野の発展に大きな影響を与えている。情報化と経済のグローバル化は相互に促進し合い、インターネットは社会生活の各方面に浸透し、人々の生産と生活様式を大きく変えてきた。わが国もまさにこの流れの中で、ますます大きな影響を受けている。わが国のインターネットと情報化事業の発展は著しい成果を上げ、多くの家庭がインターネットに接続し、ネット利用者数は世界一となり、わが国はすでにネット大国となっている。同時に、われわれは自主イノベーションの面では相対的に遅れている。地域間、都市と農村の格差が目立ち、特に、一人当たりの帯域幅は国際的先進レベルとの格差が大きく、国内のインターネット発展のボトルネックが依然として突出していることを見て取るべきである。

サイバーセキュリティーと情報化の動きは、一国の多くの分野でも全局に影響が及ぶため、われわれは直面する情勢と任務をはっきりと見極め、的確に仕事に取り組むことの重要性と緊迫性を十分に認識し、情勢を見て計画し、情勢に応じて行動し、情勢に従って実行しなければならない。

サイバーセキュリティーと情報化は車の両輪のようなもので、その両輪を動かすように、両者を統一的に計画・配置し、推進し、実施すべきである。サイバーセキュリティーと情報化に着実に取り組むには、セキュリティーと発展との関係を適切に処理し、両者のバランスを取りながら同時に進め、セキュリティーの確保によって発展を保障する一方で、発展によってセキュリティーを促し、長期的な安全と繁栄を築き上げるよう努力する必要がある。

ネット世論誘導業務にしっかり取り組むことは長期にわたる任務であり、ネット上における広報を革新・改善し、ネットワーク・コミュニケーションの法則を運用して主旋律を高揚させ、プラスエネルギーを引き出し、社会主義の中核的価値観の育成と実践に力を入れ、サイバースペースの浄化のために、ネット世論誘導のタイミング、度合い、効果をしっかり把握しなければならない。

ネット上の情報は国境を越えて伝播する。情報の流れは技術の移動、資金の移動、人材の移動を先導する。情報リソースは日増しに重要な生産要素、社会的財産になっている。情報掌握の多寡は国のソフトパワーと競争力の重要な指標となっている。情報技術と産業発展のレベルは情報化の発展レベルを決定づけるものである。コア技術の自主イノベーションとインフラ整備を強化し、情報収集、処理、伝播、利用、セキュリティーの能力を高め、さらに民生にメリットをもたらすべきである。

サイバーセキュリティーなしに国家の安全はなく、情報化なしに現代化は不可能である。ネット強国を築くには、独自の技術、高度の技術、豊富で全面的な情報サービス、盛んに発展するネット文化を必要とする。良

好な情報インフラと、実力ある情報経済を形成する必要がある。資質の高い、サイバーセキュリティーと情報化の人材を必要とする。二国間、多国間のインターネット交流・協力を積極的に展開する必要がある。ネット強国構築という戦略的構想は、「二つの百周年」という奮闘目標と同時に推進し、インターネットのインフラを基本的に普及させ、自主イノベーション能力を著しく向上させ、情報経済を全面的に発展させ、力強いサイバーセキュリティー保障があるという目標に向かって絶えず前進しなければならない。

全面的な情報技術、ネットワーク技術の研究開発戦略を策定し、科学研究成果の応用問題の解決に力を入れる必要がある。企業の発展をサポートする政策を打ち出し、企業が技術イノベーションの主体となり、情報産業発展の主体となるようにしなければならない。立法計画を早急に策定し、インターネット情報のコンテンツ管理や重要情報インフラ防護（ＣＩＩＰ）などに関する法律・法規を充実させ、法律に基づきサイバースペースを管理し、公民の合法的な権利と利益を擁護しなければならない。

ネット強国を築き上げるには、人材資源を集め、政治的資質が高く、業務に精通し、気風が良い、強大な陣営を養成する必要がある。「千人の軍は容易に得られるが、一人の将軍は求めにくい」[二]と語られるように、世界レベルの科学者、インターネット科学技術のリーダー、優秀なエンジニア、ハイレベルのイノベーション陣営を育成しなければならない。

中央サイバーセキュリティー・情報化指導グループは集中・統一された指導的役割を発揮し、各分野のサイバーセキュリティーと情報化の重要な問題を統一的に協調させ、国家のサイバーセキュリティー・情報化発展戦略、マクロ計画と重要な政策を策定・実施し、安全保障能力を絶えず強化しなければならない。

〔注〕

〔一〕　馬致遠の『漢宮秋』を参照。馬致遠（一二五〇頃～一三二四頃）、大都（現在の北京）出身。元代の劇作家。

総体的国家安全観を堅持し中国の特色ある国家安全の道を歩もう

（二〇一四年四月十五日）

中央国家安全委員会第一回会議における談話の要旨

国家安全保障情勢の変化の新たな特徴と新たな趨勢を正しく把握し、総体的国家安全観を堅持し、中国の特色ある国家安全の道を切り開かなければならない。

憂患意識を高め、「治にありても乱を忘れることなく」することはわれわれが党と国を治める際に終始堅持しなければならない重要な原則の一つである。わが党は政権党の地位を固め、人民を結束させて導き、中国の特色ある社会主義を堅持して発展させなければならず、それには国家の安全保障を確保することが最も重要である。

党の第十八期三中全会は国家安全委員会の成立を決定した。これは、国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化を推し進め、国の長期安定を実現するための差し迫った要請であり、小康社会を全面的に築き上げ、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するための重要な保障であり、その目的はわが国の国家安全保障が直面する新たな情勢、新たな任務により良く適応し、集中的、統一的、効率的で、権威のある国家安全体制

を築き、国家安全保障の取り組みに対する指導を強化するものである。

現在、中国の国家安全保障は歴史上のいかなる時にもましてその内容と範囲が多くなり、時間・空間の領域が広大になり、国内外の要因も複雑になっている。総体的国家安全観を堅持し、国民の安全を旨とし、政治の安全を根本とし、経済の安全を基礎とし、軍事、文化、社会の安全を保障とし、国際安全の促進を拠り所とし、中国の特色ある国家安全の道を歩み出さなければならない。総体的国家安全観を徹底的に実施するには、外部の安全と共に内部の安全を重視し、対内的には発展、変革、安定を求め、平安な中国を建設し、対外的には平和、協力、ウインウインを求め、調和の取れた世界を構築しなければならない。国土の安全と共に国民の安全を重視し、人民本位、人間本位の姿勢を堅持し、国家の安全保障は全てが国民のためであり、全てが国民に依るものであることを堅持して、国家安全保障の大衆的基盤を真に突き固めなければならない。新旧の安全問題を共に重視し、政治、国土、軍事、経済、文化、社会、科学技術、情報、生態、資源、核などの安全が一体化した国家安全保障システムを構築しなければならない。発展の問題だけでなく安全の問題も重視しなければならない。発展は安全の基礎であり、安全は発展の条件である。国を豊かにして初めて軍事力を強化することができ、軍事力を強化して初めて国を守ることができる。自らの安全だけでなく共同の安全を重視し、運命共同体を築き上げ、各方面が相互利益、共同安全という目標に向かって進むよう促さなければならない。

中央国家安全委員会は集中・統一、科学的な企画、統合・分担の結合、協調的行動、有能かつ高効率という原則に従って、重点に目を向け、要点をかいつまみ、国家安全保障の取り組みの統一的配置の徹底した実施に力を入れなければならない。

国家の安全と社会の安定を着実に維持する

（二〇一四年四月二十五日）

第十八期中央政治局第十四回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

新たな情勢と新たな試練に直面して、国家の安全と社会の安定を維持し、改革を全面的に深め、「二つの百周年」の奮闘目標を達成し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することは、すべて非常に重要なことである。各地区・各部門はそれぞれの職責を尽くし、それぞれの責任を負い、緊密に歩調を合わせ、協力して、勇気をもって責任を果たし、果敢に重責を担って、国家の安全と社会の安定を維持する強大な力を生み出さなければならない。

改革開放以来、わが党は常に改革・発展・安定の関係を正しく処理することを非常に重視し、一貫して国家の安全と社会の安定を党と国家の基礎的な取り組みとしている。われわれは、改革開放と社会主義の現代化建設の望ましい環境をつくり上げるため、わが国の社会の大局の安定を維持している。「安に居て危を忘れず、存して亡を忘れず、治に居て乱を忘れず」[一]。同時に、新たな情勢のもとでわが国家の安全と社会の安定を脅かす問題や脅威が増え、とりわけさまざまな脅威や問題が連動して現れる傾向が明らかであることを冷静に見て取らなければならない。われわれは必ずや冷静さを保ち、ボトムライン思考を強化し、国家の安全のリスクを効果

的に防止・管理・処理し、社会の安定を脅かす問題に力強く対応し、それを処理・解決しなければならない。

各地区・各部門は総体的国家安全観を貫徹し、わが国の国家安全情勢の変化の新たな特徴と趨勢を正しく把握し、外部の安全を重視する一方で、内部の安全をも重視し、国土の安全を重視する一方で、国民の安全をも重視し、従来型の安全問題を重視する一方で、新たな安全問題をも重視し、発展の問題を重視する一方で、安全の問題をも重視し、自らの安全を重視する一方で、共同の安全をも重視することを堅持し、国家の安全における諸般の業務をしっかりと行わなければならない。大衆に対する国の安全教育を強化し、全人民の国家安全意識を高めなければならない。

反テロ闘争は国の安全、人民大衆の直接の利益、改革・発展・安定の大局にかかわっており、祖国の統一、社会の安定、人民の幸福を守る闘いであり、必ず断固たる措置をとり、厳しく取り締まる態勢を保ち、テロリストの横行を押さえ込まなければならない。反テロ活動の枠組みを構築し、反テロ活動のシステムを整備し、反テロの実力を強化しなければならない。プロの反テロ活動と大衆の反テロ活動との結合を堅持し、大衆に依る諸般の反テロ活動を深く繰り広げ、金城鉄壁の備えを構築し、テロリストを「人々から集中攻撃を受ける的」としなければならない。愛国的宗教人士の役割を発揮し、信者に対する積極的導きを強化し、信者たちの正常な宗教活動への要請を満たし、宗教過激思想の浸透を効果的に防がねばならない。

暴力的テロ活動は基本的人権を軽視し、人道正義を踏みにじり、人類文明共通の最低ラインに挑むものであり、民族問題でも宗教問題でもなく、各民族・人民の共通の敵である。われわれは各民族の幹部と大衆をあくまで信頼し、頼りにして、彼らと団結して民族の団結と社会の安定を維持しなければならない。

新たな情勢下における反分裂闘争を強化し、各民族大団結の旗印を高く掲げ、各民族が共に団結・奮闘し繁栄・発展するという主題を堅持し、民族団結の広報教育を深く展開し、民族団結の思想的基礎を打ち固め、各

民族の大衆と最大限に団結しなければならない。末端組織と末端政権の建設を強化し、大衆活動を深く綿密に推し進めなければならない。党の民族・宗教政策を正しく把握し、民族団結に影響を及ぼす問題や紛争を適時・適切に解決し、国内外の敵対勢力が民族問題を利用して分裂、浸透、破壊活動を進めることを断固として抑制し、打撃を加えなければならない。

国家の安全を維持するには、社会の調和・安定の維持にしっかり取り組み、社会矛盾の予防・解決の仕事をよく行って、制度、メカニズム、政策、業務の面から社会矛盾の予防・解決の仕事を推し進めなければならない。発展の全面性、協調性、持続可能性を高め、民生の保障・改善を強化し、根源から社会矛盾の発生を予防、解決しなければならない。社会の公平・正義の促進、人民の福祉の増進を出発点・立脚点とし、各方面の利益関係の調整に力を入れ、発展の成果がより多く、より公平に全人民に恩恵をもたらすように促さなければならない。大衆の合法的権益を守るための体制メカニズム、社会安定のリスク評価メカニズムを完備させ、実行し、利益の衝突を予防、減少させなければならない。法律による国家統治を全面的に推進し、人民大衆の合法的権益をよりよく擁護する。さまざまな社会問題に対し、大衆が法的手続きを通し、法的手段を用いて解決するよう導き、法律に基づいて事を運び、問題にぶつかれば法律を参照し、法律を用いて問題を解決し、法律に依拠して争いを解決する望ましい環境になるよう促さなければならない。

〔注〕

〔一〕『易経・繫辞伝下』を参照。

第八章

エコ文明の建設

美しい中国を建設するために より良好な生態環境をつくり上げよう

（二〇一三年四月二日）

首都義務植樹イベントに参加した際の談話の要旨

広報・教育を強化し、活動方法を刷新し、広範な国民が義務植樹に積極的に参加するよう導き、植樹義務の達成率を絶えず高め、法律に基づいて森林を厳しく保護し、義務植樹の効果を向上させ、義務植樹を深く、持続的に繰り広げていき、小康社会の全面的な実現、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために、絶えずより望ましい生態環境づくりに取り組む必要がある。

全国民の義務植樹を展開してからの三十余年間、わが国の森林資源の回復・発展が促進され、全国民の植樹や緑の保護意識も高まっている。同時に、わが国は全般的に言えば依然として緑が不足し、生態系が脆弱な国であり、植樹造林、生態環境の改善は、「任重くして道遠し」であることを冷静に見て取るべきである。

森林は陸地の生態系の主体であり重要な資源であり、人類の生存と発展のための重要な生態的保障でもある。森林がなければ、地球と人類がどうなるかは、想像し難い。全社会が中国共産党第十八回全国代表大会で打ち出された美しい中国を建設するという要請に基づき、エコ意識を確実に強め、生態環境の保護を着実に強化し、わが国を素晴らしい生態環境をもつ国としなくてはならない。

社会主義のエコ文明新時代に向かって進むよう努める

（二〇一三年五月二十四日）

第十八期中央政治局第六回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

生態環境保護は功はその時代にあって、恩恵は永く世々代々まで及ぶ事業である。生態環境保護と環境汚染対策の緊迫性と困難さ、エコ文明建設の重要性と必要性をはっきり認識し、人民大衆と子々孫々に対して重い責任を負う姿勢で、真に覚悟を決めて環境汚染対策に取り組み、よい生態環境づくりを進め、社会主義エコ文明の新時代に向かって進むように努力し、人民のために良好な生産・生活環境を築かなければならない。

エコ文明建設は人民の福祉、民族の未来に関わっている。中国共産党第十八回全国代表大会はエコ文明建設を中国の特色ある社会主義事業の「五位一体」の全体配置に組み入れ、エコ文明建設の推進に力を入れ、美しい中国の建設に努め、中華民族の永続的な発展を実現することを明確に提起した。これはわれわれの中国の特色ある社会主義の法則についてのより深い認識を示すものであり、われわれのエコ文明建設を強化するという揺るぎない意志と強い決意を表明するものでもある。

エコ文明建設を推進するには、第十八回党大会の精神を全面的に、徹底して実行しなければならず、鄧小平理論と「三つの代表」重要思想、科学的発展観に則り、自然を尊重し、自然に順応し、自然を保護するエコ文

明理念を樹立し、資源節約と環境保護の基本国策を堅持し、節約優先、保護優先、自然回復を主とする方針を堅持し、生態観念の樹立に力を入れ、生態制度を整備し、生態の安全を守り、生態環境を最適化して、資源節約と環境保護を目指す空間構造、産業構造、生産方式、生活方式をつくりあげなければならない。

経済発展と生態環境保護の関係を正しく処理しなければならず、生態環境の保護とはつまり生産力の保護で、生態環境の改善とはつまり生産力の発展であるという理念を定着させ、グリーン発展、循環型発展、低炭素型発展をより自覚的に推し進め、環境を犠牲にして一時的な経済成長を図ることは、決してあってはならない。

国土はエコ文明建設の空間的な受け皿である。人口と資源・環境とのバランスを保ち、経済・社会・生態の効果・利益の一体化という原則に基づき、国土空間の開発を全般的に計画し、生産空間、生活空間、生態空間を科学的に配置し、自然のためにより多くの回復空間を残すようにしなければならない。確固として主体機能区戦略の実施を急ぎ、最適化開発、重点開発、制限開発、開発禁止という主体機能の位置づけに厳格に従って、生態レッドラインを引きそれを厳格に守り、科学的かつ合理的な都市化の推進の枠組み、農業発展の枠組み、生態安全の枠組みを構築し、国と地域の生態安全を保障し、エコサービス機能を高める。生態レッドラインの理念をしっかりと樹立すべきである。生態環境保護問題において、一線を越えてはならない。さもなくば、懲罰を受けるべきである。

資源節約は生態環境保護の根本策だ。資源の節約・集約利用に力を入れ、資源利用方法の根本的な転換を推進し、全過程の節約管理を強化し、エネルギー、水、土地の消耗量を大幅に削減し、循環経済を大いに発展させ、生産、流通、消費におけるリデュース、リサイクル、リユースを促進しなければならない。

重要な生態回復工事を実施し、エコ製品の生産力を高めなければならない。良好な生態環境は人間と社会が持続的に発展する根本的な基礎である。人民大衆は環境問題に大いに注目している。環境の保護とその対策は

大衆の健康に損害をもたらす深刻な環境問題の解決を重点とし、予防を主として、総合対策に取り組み、水、大気、土壌などの汚染対策の推進を強化し、重点流域と地域の水質汚染対策、重点業種と重点地域の大気汚染対策の推進に力を入れなければならない。

最も厳しい制度、最も厳密な法治を実施してこそはじめてエコ文明建設のための頼りになる保障となる。最も重要なのは、経済・社会発展の審査・評価システムを整え、資源消耗、環境被害、生態効果など、エコ文明建設の状況を示す指標を経済・社会発展評価システムに組み入れ、エコ文明建設の重要な指針・制約とすることである。責任追及制度を確立し、生態環境を顧みずに盲目的な政策を決定し、重大な結果を招いた者に対し、責任を生涯追及し続けなければならない。エコ文明の広報・教育を強化し、全国民の省エネ意識、環境意識、エコ意識を強め、生態環境を保護する望ましい気風を醸成しなければならない

青空、緑の大地、清らかな水という生活環境を子孫に残すために

（二〇一三年七月十八日）

エコ文明貴陽国際フォーラム二〇一三年次総会への祝賀メッセージ

エコ文明貴陽国際フォーラム二〇一三年次総会の開幕にあたり、私は謹んで中国政府と人民を代表し、また個人としても、会議の開催に熱烈なお祝いを申し上げ、各国元首、政府首脳、国連機関の責任者および専門家、企業家など各界からご出席いただいた来賓の方々に、熱烈な歓迎の意を表したいと思う。

今回のエコ文明貴陽国際フォーラム年次総会は、「エコ文明建設、グリーン変革とパターン転換――グリーン産業、グリーン都市、グリーン消費が持続可能な発展を導く」をテーマに、エコ文明建設への国際社会全体の注目を集めたものである。ご出席の皆さんの共同の努力を通じて、会議の成果は必ずや地球の生態環境保護のために積極的な貢献を果たすものと信じている。

エコ文明の新しい時代に向かって邁進し、美しい中国の建設に取り組むことは、中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢の重要な内容である。中国は自然を尊び、自然に順応し、自然を保護するという理念に照らして、資源節約と環境保護という基本国策を貫徹し、より自発的にグリーン型、循環型、低炭素型の発展を促

していくとともに、エコ文明の建設を経済建設、政治建設、文化建設、社会建設の各分野と全過程に融け込ませていく。こうした取り組みによって、資源節約と環境保護に役立つ国土空間の枠組みや産業構造、生産様式、生活様式をつくり出し、子々孫々のために青空、緑の大地、清らかな水に恵まれた生産、生活の環境を残していく。

生態環境の保護、気候変動対策、エネルギー資源の安全保障は全世界が共に直面する試練である。中国は引き続きしかるべき国際的義務を担い、エコ文明分野において世界各国との交流・協力を深く繰り広げ、成果の共有を促し、手を携えて優れた生態環境を持つ素晴らしい故郷、地球を創り出そうとしている。

大会の円満なご成功をお祈り申し上げる。

中華人民共和国主席　習近平

二〇一三年七月十八日

第九章

国防と軍隊の現代化推進

国防と軍隊の建設を絶えず前へと推し進めよう

（二〇一二年十一月十六日）

中央軍事委員会拡大会議における談話の要旨

軍事委員会グループと軍隊の高級幹部は、国防と軍隊の建設の指導において重要な歴史的責任を担っている。われわれは一貫して冷静さを保ち、代々の将兵のたゆまぬ努力による大きな成果、長期にわたる実践によって積み重ねてきた貴重な経験および現在軍隊建設の発展の素晴らしい局面を一層大切にし、忠誠心を持って党と人民のために働き、国防と軍隊の建設を絶えず前へと推し進めるよう努力しなければならない。

中国共産党第十八回全国代表大会精神の学習と貫徹を、最も重要な政治的任務として、切迫感を持ってしっかりと取り組まなければならない。各級は党中央と中央軍事委員会の配置に従い、全軍において早期に第十八回党大会精神を学習・貫徹する高まりを盛り上げるように取り組むべきである。科学的発展観の突っ込んだ学習と貫徹を徹底し、新しい情勢下での国防と軍隊の建設に関する党の思想を学習し、国防と軍隊の建設における科学的発展観の指導的地位を強固なものに確立し、新しい情勢下における国防と軍隊の建設の特徴と法則を深く把握しなければならない。胡主席〔一〕が国防と軍隊の建設を指導する中で作り出した貴重な経験を真剣に総括し、胡主席が定めた軍隊建設の施政方針と諸般の戦略的政策を確実に実行に移さなければならない。

軍隊に対する党の絶対的な指導をいささかも揺るぐことなく堅持しなければならない。軍隊に対する党の絶対的な指導を保証することは、わが軍の性格と根本目的、社会主義の前途と運命、党と国家の長期的安定にかかわるもので、わが軍の建軍の基本原則・魂であり、終始一貫して思想政治建設を軍隊の諸般の建設の最優先的位置に置き、軍隊に対する党の絶対的な指導を将兵の思想の中に深く根を下ろさせ、全軍がどんな時でもいかなる状況においても党中央と中央軍事委員会の指揮に断固として従うことを確保しなければならない。軍隊における党の建設を強化し、思想、政治、組織の面において党によって軍隊をしっかりと掌握することを確保しなければならない。政治面から幹部を考課・登用することを堅持し、党に忠実であり、信頼できる人物に、終始一貫して武器を持たせなければならない。政治規律と組織規律を厳格にし、党中央と中央軍事委員会の権威を断固として擁護し、政令と軍令が滞りなく伝わることを確保しなければならない。

必ず諸般の軍事闘争任務を断固として遂行しなければならない。全軍は、国家の安全と発展戦略の全局における軍隊の重要な地位と役割を深く認識し、あくまでも国家の主権と安全を最優先し、軍事闘争への備えを先導役とすることを揺るぐことなく堅持し、情報化の条件下の抑止力と実戦能力を全面的に向上させ、国家の主権、安全と発展の利益を断固として守らなければならない。全軍は、軍事訓練を戦略的位置に置き、部隊の実戦化レベルを高めなければならない。

全面的建設の思想に基づいて、軍隊の革命化・現代化・正規化建設を推進するよう努めなければならない。全面的な観点で建設に取り組むことを堅持し、軍事、政治、後方勤務、装備など各分野の活動の全面的な発展を推し進め、軍隊建設の全体的レベルを高めなければならない。新たな時期における積極的防御の軍事戦略方針を真剣に貫徹し、軍事戦略の革新と発展を積極的に推進し、軍隊の諸般の建設と活動に対する軍事戦略の統括力を十分に発揮すべきである。国防と軍隊の建設のテーマと主線をしっかり貫徹し、国防と軍隊の建設の科

学的発展の推進において著しい進歩を遂げ、戦闘力形成モデルチェンジの加速において実質的な進展を遂げるべきである。中国の特色ある軍事変革を深く推し進め、中国の特色ある現代的軍事力体系を築き上げるよう努めなければならない。

わが軍の栄えある伝統と優れた気風を一貫して保たなければならない。毛主席〔二〕、鄧主席〔三〕、江主席〔四〕、胡主席が育んだ栄えある伝統と優れた気風を継承・発揚し、国防と軍隊の現代化を全力で推し進めなければならない。将兵の憂患意識、危機意識、使命意識を強め、信念を揺るがせにせず、思想の緩みを避け、闘志を衰えさせず、気風を散漫にさせず、一貫して確固たる革命意志と旺盛な戦闘精神を保たなければならない。軍隊の腐敗反対・廉潔提唱づくりを確実に強化しなければならない。軍隊の高級幹部は、旗幟鮮明に腐敗に反対し、率先して廉潔自律に関する諸規定を遵守しなければならない。

党中央と中央軍事委員会による強固な指導があり、全国人民による強力な支持があり、全軍による団結と奮闘があるからこそ、国防と軍隊の現代化という壮大な目標は必ず実現できるのである。

〔注〕

〔一〕胡錦濤のこと。

〔二〕毛沢東のこと。

〔三〕鄧小平のこと。

〔四〕江沢民のこと。

強固な国防と強力な軍隊の建設に努めよう

（二〇一二年十二月八日、十日）

広州戦区を視察した際の談話の要旨

全軍は、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとして、国防と軍隊の建設のテーマと主線を深く貫徹し、中国共産党第十八回全国代表大会の国防と軍隊の建設に関する戦略的配置を真剣に実行し、断固として党の指揮に従うことが軍隊強化の魂であることと、「戦闘ができ、戦闘に勝利できる」ことが軍隊強化の要であること、法律に基づく軍隊管理と厳格な軍隊管理が軍隊強化の基であることをしっかりと銘記し、革命化・現代化・正規化建設を全面的に強化しなければならない。

思想政治建設を軍隊の諸般の建設の優先位置に置き、部隊建設の正確かつ確固たる政治的方向を一貫して保持しなければならない。中国の特色ある社会主義の理論体系による将兵の武装をたゆまず堅持し、当代の革命軍人の中核的価値観〔一〕を引き続き育み、わが軍の栄えある伝統と優れた気風を大いに発揚し、「旗印を高く掲げ、党の指揮に従い、使命を履行する」という政治思想の基礎を一層固める。現在および今後一定の期間、思想政治の建設の強化において、第十八回党大会精神を学習・貫徹することが最も重要な任務である。実際と結びつ

けることを重視し、学習内容を実際に応用することを堅持し、部隊建設の推進と軍事任務の遂行を実践する中で、第十八回党大会精神を確実に貫徹・実行しなければならない。戦闘の基準で軍事闘争への備えを推進することを堅持し、「戦闘のために軍隊に入り、戦闘のために部隊を統率し、戦闘のために軍隊を訓練する」という思想をたゆまず強化し、実戦の需要に立脚し、困難な状況を想定して部隊訓練の厳格化を堅持し、軍事闘争への備えを先導役とする現代化建設の促進を堅持し、情報化の条件下で局地戦争に勝つことを核心として、多様化している軍事任務の遂行能力を全面的に引き上げなければならない。法律に基づく軍隊管理と厳格な軍隊管理という方針を徹底的に実行し、規律厳守、指示遵奉、歩調一致という部隊の優れた気風を育成しなければならない。一貫して末端に仕事の重点を置き、軍隊建設と戦闘力の基礎を一層強固なものにしなければならない。

中華民族の偉大な復興の実現は、中華民族が近代以来抱いてきた最も偉大な夢である。言うなれば、この偉大な夢はまさに国力強化の夢であり、軍隊にとっては軍隊強化の夢でもある。中華民族の偉大な復興を実現するには、必ずや国の富強と軍の強化との統一を堅持し、強固な国防と強力な軍隊の建設に努めなければならない。一つ、断固として党の指揮に従うことは軍隊強化の魂であるゆえ、必ずや軍隊に対する党の絶対的な指導をいささかも揺るぐことなく堅持し、どんな時でも、いかなる状況においても、永久に党の命令に従い、永久に党と共に歩んでいかなければならない、としっかりと銘記すること。二つ、「戦闘ができ、戦闘に勝利できる」ことは軍隊強化の要であるゆえ、必ずや「戦闘」ということを基準にして整備や準備に取り組んで、軍隊が「呼べばすぐ来る、来れば戦える、戦えば必ず勝つ」という目標を確実に全うできるようにしなければならない、としっかりと銘記すること。三つ、法律に基づく軍隊管理、厳格な軍隊管理は軍隊強化の基であるゆえ、必ずや厳格な気風と鉄の規律を保ち、軍隊の高度の集中・統一と安全・安定を確保しなければならない、としっかりと銘記すること。中華民族の偉大な復興を実現する大いなる道のりにおいて、英雄的な人民の軍隊は必ずや、

伝統を発揚し、先人の事業を受け継いで後につづく人たちのために発展の道を切り開き、自らが背負っている歴史的使命を効果的に履行できるだろう。

〔注〕

〔一〕当代の革命軍人の中核的価値観の主要な内容は、党への忠誠、人民への熱愛、国家に報いること、使命への献身、栄誉の尊重。

党の指揮に従い、戦闘に勝利できる、気風の優れた「人民の軍隊」を建設しよう

（二〇一三年三月十一日）

第十二期全国人民代表大会第一回会議の解放軍代表団全体会議における談話の要旨

全軍は、中国共産党第十八回全国代表大会精神を徹底的に貫徹・実行し、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとして、新たな情勢下における党の軍事強化目標をしっかりと把握し、軍隊の革命化・現代化・正規化建設を全面的に強化し、党の指揮に従い、戦闘に勝利できる、気風の優れた「人民の軍隊」を築くために奮闘しなければならない。

党の指揮に従い、戦闘に勝利できる、気風の優れた「人民の軍隊」を築くことは、新たな情勢下における党の軍隊強化目標である。「党の指揮に従う」とは魂であり、軍隊建設の政治的方向を決めている。「戦闘に勝利できる」とは核心であり、軍隊の根本的な役目と軍隊建設の根本的な方向を反映している。「気風の優れた」とは保証であり、軍隊の性格・根本目的・本質にかかわる。全軍は、この軍隊強化目標を正確に把握し、軍隊の建設と改革、軍事闘争への備えを統率し、国防・軍隊建設を新たな水準に引き上げるよう努めなければならない。

党の指揮に従うという軍隊強化の魂をしっかりと打ち固め、軍隊に対する党の絶対的な指導という根本的な原

則と「人民の軍隊」という根本的な趣旨を揺るぐことなく堅持し、軍隊の絶対的な忠誠、絶対的な純潔、絶対的な信頼性を確保し、全ての行動は党中央と中央軍事委員会の指揮に従わなければならない。「戦闘ができ、戦闘に勝利できる」という軍隊強化の要をしっかりと押さえ、「戦闘のために軍隊に入り、戦闘のために軍隊を統率し、戦闘のために軍隊を訓練する」という将兵の思想を強め、戦闘力という唯一の根本的な基準を固く打ち立て、戦闘の基準で整備や準備に取り組んで、軍隊が「呼べばすぐ来る、来れば戦える、戦えば必ず勝つ」という目標を確実に全うできるようにしなければならない。優れた気風は、わが軍の際立った特色と政治的優位性である。気風の改善を深く導き、軍隊の建設と管理の各部分で貫徹し、真に実事を求め、実務を重んじ、実行に移すことに力を入れ、法律に基づく軍隊管理と厳格な軍隊管理という軍隊強化の基礎を突き固め、長期にわたって形成されてきた「人民の軍隊」の良好なイメージを保たなければならない。

経済建設と国防建設を一体化させ、国家富強と軍隊強化との統一を実現するよう、努めなければならない。軍民融合の発展という大計画を一層推進し、必要性による牽引、国家による主導で、インフラ施設と重要分野における軍民の踏み込んだ融和という発展の枠組みを築き上げるよう努めなければならない。刻苦奮闘の精神を発揚し、勤勉節約を励行し、派手な浪費に反対し、軍費の管理と使用をよりきちんとし、国防への投入資金の利益最大化を実現しなければならない。「政府を擁護し、人民を守る」こと、「軍隊を擁護し、軍人の家族を優遇する」という栄えある伝統を発揚し、軍民による共同建設と調和の取れた社会作りの活動を展開しなければならない。地方の各級の党委員会と政府は、国防と軍隊の建設に関心を寄せ、それをサポートし、国防教育を強化し、全国人民の国防意識を増強し、「国防に関心を寄せ、国防を熱愛し、国防を建設し、国防を防衛する」ことを全社会の共通認識と自発的行動にしていかなければならない。

第十章

「一国二制度」の実践を豊かにし祖国の統一を推進

香港、澳門（マカオ）と祖国大陸部の運命は終始密接につながっている

（二〇一二年十二月二十日、二〇一三年三月十八日、二〇一三年十二月十八日）

香港特別行政区行政長官梁振英、澳門特別行政区行政長官崔世安と会見した際の談話の要旨

一

新しい特別行政区政府が発足して以来、梁振英行政長官をはじめとする特別行政区政府の管理グループは奮起努力して、実務的に成果を上げており、中央は梁振英行政長官と特別行政区政府の仕事を認めており、特別行政区政府が法律に基づいて施政を行うことを引き続き断固支持していく。

中央指導グループの新旧交代が実現した後、中央政府の香港と澳門に対する方針・政策に変化があるかどうか、みんな関心を持っている。今日、私はこの機会を借りて、重ねて強調したいと思う。中央政府が「一国二制度」[一]を貫徹・実行し、厳格に基本法に基づいて活動を行う方針は変わることはない。行政長官と特別行政区政府が法律に基づいて施政を行い、職責を履行することを支持する決意は変わることはない。香港と澳門という二つの特別行政区の経済発展、民生改善、民主推進、調和促進を支持する政策も変わることはない。中国共産党第十八回全国代表大会が打ち出した香港と澳門に関する国家の重要な政策および重要な方針と、中央政府が長期にわたって実施してきた香港と澳門に対する方針・政策とは、一脈相通じるものである。

肝心なのは、「一国二制度」の方針を全面的かつ正確に理解・貫徹し、基本法の権威をあくまでも尊重し、擁護することである。

国の発展情勢は大変素晴らしいものであり、小康社会の全面的な完成と中華民族の偉大な復興の実現という壮大なビジョンはすでにわれわれの目の前に広がっている。以前も言ったが、中華民族の偉大な復興の実現は、中華民族が近代以来抱いてきた最も偉大な夢である。広範な香港同胞もこれを終始心にかけていると信じている。また、強い民族的自尊心と民族の誇りを持っている広範な香港同胞は必ずや全国人民と共に中華民族の偉大な復興の実現のために力を尽くしてくれるものと信じている。

香港特別行政区行政長官梁振英と会見した際の談話の要旨

（二〇一二年十二月二十日）

二

今日は澳門の祖国復帰十三周年の日にあたる。まずは崔世安行政長官を通じて、澳門の同胞に対する心からの挨拶と祝福を伝えたい。今のところ澳門の全般的な情勢は素晴らしいものであり、崔世安行政長官と特別行政区政府は社会各界の人々を結集し、共に努力して、澳門の繁栄、安定、発展を維持しており、中央は崔世安行政長官と特別行政区政府の仕事を認めている。

中央政府は、これまで通り「一国二制度」「澳門人による澳門の統治」、高度の自治の方針と澳門基本法を貫徹・実行し、これまで通り行政長官と特別行政区政府が法律に基づいて施政を行うことを支持し、これまで通り澳門特別行政区の経済発展、民生の改善、民主の推進、調和の促進を支持していく。われわれは、国家と民族の

未来に自信満々であり、澳門の諸般の事業がよりよく発展していくだろうと確信している。

澳門特別行政区行政長官崔世安と会見した際の談話の要旨
(二〇一二年十二月二十日)

三

香港、澳門と祖国大陸部の運命は終始密接につながっている。中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するには、香港、澳門と祖国大陸部とがあくまで強みを補完し合い、共に発展する必要があり、香港、澳門の同胞と大陸部の人民があくまで助け合い、手を携えて前進する必要がある。

梁振英行政長官が打ち出した「安定の中で変化を求める」という施政理念は、広範な香港市民に受け入れられている。現在肝心なのは、実行に取り組むことである。これは、行政長官と特別行政区政府の責任であるとともに、香港の社会各界の一致協力いかんによることでもある。「みんなで薪を拾い集めて燃やせば、火はもっと燃えさかる」。香港の社会各界がしっかり団結し、行政長官と特別行政区の法律に基づく施政を支持し、香港のさらに美しい未来を共に切り開くよう希望する。

現在の澳門は、歴史上比較的良好な時期にある。だが、未来の発展は試練にも直面している。澳門特別行政区政府と社会各界が危機意識を強め、有利な時機や条件を利用して、発展を制約している際立った問題の解決を検討し、澳門の長期的な発展のために基礎を打ち固めるよう願っている。

香港特別行政区行政長官梁振英および澳門特別行政区行政長官崔世安と会見した際の談話の要旨
(二〇一三年三月十八日)

四

あなたと特別行政区政府は、「安定の中で変化を求める」、民生優先という施政方針を真剣に貫徹し、経済・社会の発展における際立った問題の解決に力を入れ、初歩的な成果を上げた。中央政府は、あなたと特別行政区政府の仕事の成績を十分に肯定している。

中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議は改革の全面的深化について全般的な布石を行った。これは国家の発展にかかわる重要な戦略的布石である。その過程において、内陸部では、資源配置において市場の決定的な役割を発揮させ、政府の役割をよりよく発揮させていく。これは、香港、澳門、台湾に対する開放・協力を拡大するのに役立ち、大陸部と香港の交流・協力がいっそう深まることによって、香港はより多くの発展のチャンスとより大きな発展の余地を得るだろう。

中央政府は二〇一七年香港特別行政区行政長官の普通選挙という問題において、明確かつ一貫した立場をとっている。香港の社会各界の人々が『基本法』の規定と全国人民代表大会常務委員会の決定に基づいて実務的な討論を展開し、共通認識を結集し、行政長官普通選挙の順調な実現に向けて基礎を固めるよう願っている。

香港特別行政区行政長官梁振英と会見した際の談話の要旨
（二〇一三年十二月十八日）

五

澳門は良好な発展状態を維持し、経済が安定成長し、社会が調和、安定しており、市民が心安らかに暮らし自分の仕事に励んでいる。中央政府はあなたと特別行政区政府の仕事を高く評価している。現在、澳門は治に居て乱を忘れてはならない、長い目で計画を立てなければならない。ここ数年にわたる高度成長を踏まえて実

際に即して革新を行い、発展の過程で日増しに目立ってくる矛盾と問題を解決し、澳門の経済の適度な多元的発展の道を模索し、澳門の持続的な発展を実現するには、特別行政区政府と澳門の社会各界が引き続き努力しなければならない。

党の第十八期三中全会は改革の全面的深化について全般的な布石を行った。これは国家の発展にかかわる重要な戦略的布石である。現在、全国の各層から改革の全面的深化の強大なプラスエネルギーが集まりつつあり、全国各民族の人民は「二つの百周年」の奮闘目標と中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために、一致団結して懸命に努力している。澳門の運命は終始、祖国大陸部と密接につながっている。祖国内陸部の発展プロセスにおいて、澳門は引き続き、祖国の大陸部と共に進歩し、共に発展していくだろう。

澳門特別行政区行政長官崔世安と会見した際の談話の要旨

（二〇一三年十二月十八日）

〔注〕

〔一〕「一国二制度」は、「一つの国家、二つの制度」の略称。祖国統一の大事業の実現と、台湾、香港、澳門問題の解決について、中国共産党と中国政府が打ち出した科学的構想である。その基本的内容は、祖国統一を前提として、国家の主体が社会主義制度を堅持すると同時に、台湾、香港、澳門は従来の資本主義制度と生活様式を長期間保持して変えず、高度な自治権を享有する。この構想に基づいて、香港は一九九七年に、澳門は一九九九年に、祖国に復帰した。

共に中華民族の美しい未来を切り開く

（二〇一三年四月八日、十月六日）

台湾両岸共同市場基金会名誉理事長蕭万長一行と会見した際の談話の要旨

一

大陸部側は両岸関係の平和発展を推進する上で、確固たる決意と、明確な方針・政策を持っている。われわれは、台湾に対する重要な政策、重要な方針の連続性を保ち、引き続き効果のある政策を実施し、両岸関係の発展が絶えず新たな成果を上げるよう促し、両岸の同胞により多くの幸福をもたらすよう努めていく。両岸の同胞は、真摯に連帯・協力し、共に中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に向けて懸命に努力しなければならない。

両岸の全面的かつ直接的な双方向の「三通」(一)がすでに実現し、中でも両岸経済協力枠組み協定の調印と実施により、両岸の経済関係は新たな発展の段階に入った。「勢いを取ろうとする者こそ人の先に立つことができ、勢いを謀れる者こそ必ずや成すところがある」。海峡両岸の中国人にとって重要なのは、歴史的なチャンスを正確に認識し、確実に把握し、時代の発展の流れに順応し、手を携えて両岸関係の平和的発展を推し進め、共に中華民族の美しい未来を切り開くことである。

第一に、両岸の同胞は一つの家族という理念に基づいて両岸の経済協力を促進するよう希望する。両岸の同

胞はみな中華民族であり、両岸の経済もみな中華民族の経済である。われわれは、台湾同胞の需要と利益により多く配慮し、投資と経済協力の分野において台湾企業に大陸部企業と同等の待遇を与えることを積極的に促し、両岸の経済協力の深化により大きな可能性を提供していく。

第二に、両岸が経済分野におけるハイレベルな対話と協調を強め、共に経済協力のステップアップを推し進めるよう願っている。両岸経済協力枠組み協定内の経済協力委員会をよりよく機能させ、情勢、政策、発展計画に関する意思疎通を強化し、経済協力の計画性と協調性を強めることが必要である。産業協力の拡大を加速し、双方向の投資を拡大し、金融サービス業の協力を深化し、新たな協力の道を模索しなければならない。

第三に、両岸が経済協力枠組み協定の継続協議のプロセスを速め、経済協力の制度化のレベルを引き上げるよう願っている。両岸は、サービス貿易協定の早期締結に取り組み、貨物貿易、トラブル解決などの議題に関する協議の年内妥結に努めなければならない。両岸は、経済の共同発展、地域経済協力プロセスにつながる適切な方式と実行可能なルートについて適時に実務的な討議を行い、両岸の経済協力に新たな活力を注ぎ込むべきである。

第四に、両岸同胞が団結・協力し、共に中華民族の偉大な復興の実現に尽力するよう希望する。大陸部と台湾が獲得した一つ一つの発展の成果は、すべて両岸の中国人が誇りとするに値する。両岸同胞が共に両岸関係の平和的発展を推進することこそ、中華民族の偉大な復興を実現するための貢献である。両岸が何事によらず中華民族の全体的な利益から考慮すれば、必ずや前進する行く手にあるさまざまな困難と障害を乗り越え、両岸関係の平和的発展を推進する上で新たな成果を絶えず勝ち取ることができるであろう。

台湾両岸共同市場基金会名誉理事長蕭万長一行と会見した際の談話の要旨
(二〇一三年四月八日)

二

両岸双方は両岸関係の平和的発展という正しい道を歩むことを堅持し、「両岸は家族のように親しみ合う」という理念を提唱し、交流・協力を強化し、中華民族の偉大な復興を共に促進していかなければならない。

歴史的なチャンスを大切にし、両岸関係の平和的発展の良い勢いを保たなければならない。両岸の民衆はみな、両岸関係のさらなる進展を願っている。双方は民心に従い、チャンスをとらえ、両岸関係発展の新たな成果を上げるべきである。

政治的な相互信頼を増進し、共同の政治的基盤を打ち固めることは、両岸関係の平和的発展を確保するカギとなる。長い目で見れば、長期にわたって存在している両岸の政治的立場の食い違いはいずれ徐々に解決しなければならず、これらの問題を代々伝えていくわけにはいかない。たびたび表明してきたように、われわれは「一つの中国」の枠組み内で両岸の政治的問題について台湾側と対等な協議を行い、情理にかなった取り決めを行うよう願っている。両岸関係における処理すべき問題について、双方の主管部門の担当者が顔を合わせて意見を交わすのもよかろう。

両岸経済は共に中華民族の経済に属しており、アジア太平洋地域の経済発展の新たな情勢の下では、双方は協力を強化してこそ、試練によりよく対応することができる。両岸の経済協力の制度化建設を強化し、産業協力の促進をいっそう重視しなければならない。

台湾両岸共同市場基金会名誉理事長蕭万長一行と会見した際の談話の要旨

(二〇一三年十月六日)

【注】

〔一〕「三通」は、すなわち中国大陸部と台湾の間の「通郵、通航、通商」を指す。

中華民族の全般的な利益という次元から両岸関係の大局をつかむ

（二〇一三年六月十三日）

中国国民党名誉主席呉伯雄一行と会見した際の談話の要旨

過去五年間、われわれ両党、両岸双方および両岸同胞は共に努力して、両岸関係の平和的発展という正しい道を切り開き、両岸関係の推進で大きな進展を遂げた。新たな情勢下において、中国共産党中央は引き続き既定の重要な施政方針を実行し、両岸関係の平和的発展を強化・深化し、両岸同胞と中華民族に幸福をもたらすことに尽力する。両党と両岸双方が引き続き相互信頼を深め、良好な相互作用を保ち、両岸関係の全面的発展を着実に推し進め、両岸関係の平和的発展の各基礎を固め、両岸同胞を結束して、共に中華民族の偉大な復興の実現に努めるよう希望する。

現在、両岸関係は新たな出発点に立っており、重要なチャンスにも恵まれている。われわれは真剣に経験を総括し、情勢の発展と変化を明確に認識すると同時にそれに応じて揺るぐことなく両岸関係の平和的発展の道を歩み、両岸関係の平和的発展のための政治的、経済的、文化的、社会的基礎を打ち固め、深化し、両岸関係の発展の新たな成果づくりを促進すべきである。

第一に、中華民族の全般的な利益という次元から両岸関係の大局をつかむことを堅持する。われわれはあくまでも中華民族の根本的利益を守るとともに、台湾同胞を含む中華民族の子女たちの共通利益を守る。中華民族の全般的な利益の次元から両岸関係の大局をつかむ上で、最も根本的で核心的なものは国の領土と主権の保全である。大陸部と台湾はまだ統一されていないが、同じ一つの中国に属し、不可分の統一体である。国民党と共産党の両党は一つの中国の立場を堅持して、一つの中国の枠組みを共に守らなければならない。われわれは、両党が歴史と人民に対して責任を負うという姿勢で、中華民族の全般的な利益を重んじるとともに、両岸関係の平和的発展という大局をしっかりとつかんで、両岸関係が正しい方向に沿って絶えず前へ進んでいくよう促すことを望んでいる。

第二に、歴史の発展の趨勢を見極める中で両岸関係の前途をつかむことを堅持する。中華民族の子女たちのたゆまぬ努力によって、中華民族の偉大な復興にはいままでにない明るい前途が開けている。われわれは大所高所に立って、時代の発展と民族の興隆の大きな趨勢を見て取るとともに、両岸関係の平和的発展がすでに中華民族の偉大な復興の重要な構成部分となっていることを見て取り、時代にそぐわない古い考え方の束縛を脱し、中華振興という共通の奮闘目標を明確にすべきである。両岸関係の発展は大勢の赴くところとなっており、われわれはこれを受けて自らのロードマップを確定し、引き続き前に進むべきである。われわれ両党は民族の興隆、人民の幸福の実現を自らの任務として、両岸同胞の団結・協力を促すとともに、「両岸は一つの家族」という理念を積極的に宣伝・提唱し、両岸の中国人の英知と力を結集して、中華民族の偉大な復興を共に実現する過程で歴史の痛手を癒し、中華民族の繁栄と隆盛の新たな一ページを書き添えなければならない。

第三に、相互信頼の増進、良好な相互作用、小異を残して大同につくこと、実務に励む進取の精神を堅持する。相互信頼の増進とは、一つの中国の枠組みを強固なものとし維持するという原則的な問題でより明確な共通認識と一致した立場を形成することが核心である。良好な相互作用とは、意思疎通を強め、対等な協議を行い、

向かい合って歩み寄り、互いに善意を示し、両岸関係の平和的発展という得難い局面を保ち、相互間の問題の情理にかなった解決を図ることである。小異を残して大同につくとは、共に協力して難関を切り抜けるという精神に基づいて、政治的知恵を発揮し、両岸関係の発展を推進する共通認識を結集・拡大し、双方の隔たりを適切に処理・管理・コントロールすることである。実務に励む進取の精神とは、実事求是の態度をとり、あくまで現実から出発し、着実な歩調で、順を追って一歩一歩進め、困難に遭っても立ち止まることなく、いかなる妨害にも惑わされることなく、逆戻りの現象が現れるのを防ぎ、避けることである。両岸関係は強化と深化の新たな段階に入った。われわれ双方は積極的な進取の精神を持ち、さらに大きな勇気と決意をもって前進の途上に立ちふさがる困難に直面し、それを克服する必要がある。双方が共に努力し、両岸関係の発展がより多くの積極的成果を生み出すよう促し、両岸関係の平和的発展の道を絶えず拡大していくよう願っている。

第四に、両岸関係の全面的発展の着実な推進を堅持する。まず、両岸関係の大局の安定を引き続き保つこと。「台湾独立」分裂勢力およびその分裂活動は依然として台湾海峡の平和にとって現実的な脅威である。必ずやあらゆる形の「台湾独立」の分裂の主張と活動に引き続き反対、抑制しなければならず、いかなる妥協もあってはならない。両岸関係の大局の安定を基礎として、両岸の各分野の交流と協力には広々とした可能性が開かれている。両岸双方は、経済、科学技術、文化、教育などの分野における協力を深化するため、より多くの積極的な措置をとり、より多くの政策的サポートを与え、より便利な条件をつくることによって、協力分野の拡大、協力レベルの向上、収益の拡大を図るべきである。われわれは、両岸の民衆の幸福増進に努め、より多くの民衆に両岸関係の平和的発展の成果を享受させなければならない。また、両岸同胞が共通の利益の強化と中華文化の発揚に取り組む中で、両岸の運命共同体としてのアイデンティティーを強化し、民族的な誇りを強め、中華振興という共同の信念を固めるよう、積極的に促していかなければならない。

中華民族の偉大な復興という中国の夢を共に実現する

（二〇一四年二月十八日）

中国国民党名誉主席連戦一行と会見した際の談話の要旨

尊敬する連戦名誉主席、令夫人
台湾各界の友人の皆さん

こんにちは。春節が過ぎてすぐ、連主席や古き友人、新しき友人の皆さんにお会いできたことを嬉しく思う。皆さんは、ウマ年の最初の台湾からのお客であり、まずは皆さんのご来訪に心から歓迎の意を表する。皆さんがウマ年の一年つつがなく、「一馬当先（率先して事を行う）」「馬到成功（着手すればたちどころに成功する）」となることを心から祈る。

私と連主席は、何度も顔を合わせた古き友人である。連主席が深い民族感情を持ち、長期にわたって両岸関係の推進と民族振興に積極的に取り組んでこられたことを、高く評価する。

一年の計は春に在る。去年も、連主席が友人の皆さんと年の初めに来訪されたことで、過去一年の両岸関係の発展は幸先のよいスタートを切った。両岸関係は絶えず新たな進展を見せ、両岸同胞にさらに多くの実益をもたらし、かつ新しい発展の契機をも宿している。新しい年の初めにあたり、両岸双方が「両岸は家族のよう

に親しみ合う」という理念を堅持し、勢いに乗じて行動し、心を合わせて協力し、両岸関係の平和的発展がさらに多くの実を結び、両岸の民衆に幸せをもたらすよう願っている。

連主席が両岸関係についてよい意見を発表されたことに感謝する。たいへん啓発されるところがあった。皆さんは台湾各界の代表的な知名人であり、私は今日この場を借りて、皆さんと腹蔵なく話をしたいと思う。

歴史的および現実的な要因から、両岸関係に存在する多くの問題はここしばらくは解決することが難しいが、それでもかまわない、われわれは共に努力して解決に取り組む。ただ、これらの問題があるからといって両岸同胞の関係発展や協力と交流に影響を与えてはならない。と同時に、両岸同胞は一つの家族であり、共通の血筋、共通の文化、共通の結び付き、共通の願いを持っている。これは、われわれが互いに理解し合い、手を携え心を一つにし、共に前進するための大きな原動力である。

第一に、両岸同胞は家族のように親しく、われわれの血脈を断ち切ることは誰にもできない。台湾同胞が祖先を崇敬し、郷土を愛し、純朴かつ率直で、勤勉に仕事に励むさまは、私に深い印象を与えた。両岸同胞は家族のように親しみ合うという理念は、われわれ共通の血筋と精神に根を下ろし、われわれ共通の歴史と文化に根を下ろしている。われわれはみな、両岸同胞は同じ中華民族に属し、同じ中華文化を受け継いでいると考えている。台湾が侵略・占拠されていた五十年間(二)、台湾同胞は強い中華民族の意識と確固たる中華文化の情感を保ち、心の底から自分が中華民族に属するというアイデンティティーをあたためてきた。これは生来の、全く天賦のものであり、消し去ることなどできないものである。

台湾が歩んできた歴史と、両岸同胞が歩んできた道のりを振り返ってみると、私は身にしみて感じたことが一つある。それは、台湾がどんなに艱難辛苦に遭っても、両岸関係がどんなに転変を経ても、両岸同胞は終始心と心が通じ合い、互いに助け合ってきたということだ。このことは、両岸同胞の「血は水よりも濃い」とい

う素朴な道理を世間に知らしめることになった。数百年前に「黒水溝」[二]を越えて生計を立てるために台湾に行った人々も、あるいは数十年前に台湾へ渡った人々も、広範な台湾同胞はみなわれわれの血筋のつながった親兄弟である。みんな同根同源、同文同族であり、心と心が通じ、情と情が融け合い、元来血筋のつながった一つの家族である。両岸の歩み寄りと、同胞の団らんは、両岸同胞の共通の願いであり、いかなる力も、われわれの間を引き裂くことはできない。

第二に、両岸同胞は運命を共にしており、互いに解きほぐせないわだかまりはない。両岸同胞は海峡一つで隔てられているが、運命はこれまでずっと緊密につながっている。民族の富強と隆盛は同胞の共通の幸せであり、民族の衰弱と混乱は同胞の共通の災いである。近代以来の幾多の苦難を経て、われわれはみな、この点について深く体得している。

今年は、甲午の年である。百二十年前の甲午の年に、中華民族は国力が衰えていたために、台湾を外国に侵略・占拠されてしまった。これは中華民族の歴史上の悲惨極まりない一ページであり、両岸同胞に胸をえぐられるような痛みを与えた。台湾が侵略・占拠された苦難の日々において、無数の台湾同胞が血と命によって、自分が中国人であり、中華民族という大家族の不可分な一員であることを証明した。ここ六十年来、両岸はまだ統一されていないが、われわれが同じ国家、同じ民族に属することはこれまで変わっておらず、また変わるはずもない。なぜなら、われわれの体には中華民族の血が流れており、われわれの心には中華民族の魂が刻み込まれているからである。

台湾同胞が自らの歴史的境遇と社会的環境に起因する、特殊な歴史的トラウマを含む特定の心理状態を有し、いつかは主人公になり、頭角を現す日が訪れるという強い意識を持っており、台湾現行の社会制度と生活様式を大切にし、穏やかで幸せな暮らしを望んでいることを私は知っている。相手の立場に立ち、他人の身になっ

て考えて、われわれは台湾同胞の気持ちを深く理解している。
歴史が台湾同胞に残した傷と痛みを、われわれは自らが経験したように感じている。それはすべての中華民族の子女にとって共通の痛手だからである。民族の運命を自分の手に握り、どこへ行っても尊敬される、堂々たる中国人になること、それは近代以来中華民族のすべての人々が奮闘してきた目標である。われわれは志を同じくする同志である。
心の傷を癒すには、家族の温もりが必要であり、現実の問題を解決するには、真心が必要である。われわれは辛抱強いし、さらに自信も持っている。家族の温もりは心の傷と痛みを癒し、わだかまりの解消に利くだけでなく、心の融和を実現することができる。われわれは、台湾同胞が自ら選んだ社会制度と生活様式を尊重し、率先して大陸部の発展のチャンスをまず台湾同胞と分かち合うことを願っている。過去を選ぶことはできないが、現在を捉え、未来を切り開くことはできる。
第三に、両岸同胞は心を合わせ協力して、引き続き両岸関係の平和的発展を推進しなければならない。この五年余り、両岸同胞は共に両岸関係の平和的発展の道を選び、かつてない新たな局面を切り開き、両岸同胞に実益をもたらした。事実が裏付けているように、これは両岸の平和を守り、共同発展を促し、民族復興に向かって進み、両岸同胞に幸福をもたらす正しい道である。両岸同胞は信念を固め、すべての妨害を排除し、この道に沿って一歩一歩着実に進まなければならない。
両岸関係の平和的発展は両岸同胞のどちらにとっても有利であり、誰も現在のよい局面の逆転は望まない。そのためには、両岸双方は、「九二年コンセンサス」〔三〕を堅持して「台湾独立」に反対するという共通の基礎を固め、一つの中国の枠組みを守るという共通認識を深めなければならない。この基礎は両岸関係のいかりである。このいかりをしっかりと下ろしてこそ、どんな荒波に揉まれても、冷静に大局を把握することができるの

である。この基礎を堅持しさえすれば、両岸関係の前途はますます明るくなる。逆に、この基礎が破壊されれば、両岸関係は再び、不穏な古い道に逆戻りするだろう。このほど、双方の両岸事務主管部門の担当者が顔を合わせ、積極的な合意に達したことは、両岸関係の全面的な発展を推進するのに積極的な意義がある。

両岸の間で長期にわたって問題となっている政治的意見の食い違いについては、われわれは一つの中国の枠組み内で、台湾側と対等に協議し、情理にかなった処置を行うつもりである。何か考えがあれば何でもどんどん話し合うとよい。世の中の多くの問題は瞬時に解決できるようなものではないが、話し合いを続けさえすれば見込みがある。精神一到、金石をも穿つことができる。両岸の中国人は問題解決のカギを見出す知恵を持っていると、私は確信している。

みなで薪を拾い集めて燃やせば、火はもっと燃えさかる。われわれは、さらに多くの台湾同胞が両岸関係の平和的発展を推進する事業に参与することを歓迎する。みなで努力して意見とアイデアを出し合い、より多くの知恵と力を結集し、両岸関係の発展の成果を打ち固め、拡大し、それによって両岸関係の平和的発展を阻むことのできない歴史の流れに変え、広範な台湾同胞、とりわけ末端の民衆がより多く両岸関係の平和的発展による実益を得られるようにしなければならない。われわれは、すべての台湾同胞を平等に見ている。誰であろうと、これまでどんな主張を持っていたとしても、現在両岸関係の平和的発展の推進に参与する意欲がありさえすれば、われわれはすべて歓迎する。

第四に、両岸同胞は手を携え心を一つにし、共に中華民族の偉大な復興という中国の夢をかなえるようにしなければならない。中華民族の偉大な復興を実現し、国家の富強、民族の振興、人民の幸せを実現することは、孫中山（孫文）〔四〕先生の宿願であり、中国共産党員の宿願であり、中国人の近代以来の宿願でもある。われわれの言う中国の夢は、まさにこの民族の宿願の生き生きとした表明なのである。

連主席が話された通り、中国の夢と台湾の前途とは互いに緊密に関係している。中国の夢は両岸共通の夢であり、みなで夢をかなえる必要がある。「兄弟心を同じくすれば、その利きこと金を断つ」〔五〕。両岸同胞は互いに支え合い、党派を問わず、階層を問わず、宗教を問わず、地域を問わず、みなで民族復興のプロセスに参与し、われわれ共通の「中国の夢」の早期達成に取り組むべきである。

われわれは誠心誠意台湾同胞に接しており、各方面の意見に真剣に耳を傾けたいと思っている。台湾同胞の幸福を増進するのに有利であり、両岸関係の平和的発展の推進に有利であり、中華民族の全般的利益の擁護に役立つことであれば、われわれは全力で取り組み、広範な台湾同胞により多く両岸関係の平和的発展による実益をもたらし、すべての中国人がみな素晴らしい生活を送れるようにしたい。

最後に、連主席と友人の皆さんが大陸部でよい旅を過ごされるようお祈りする。

〔注〕

〔一〕一八九五年、中国は甲午戦争に敗れ、日本との「馬関条約」調印を強いられ、台湾と澎湖列島を日本に割譲した。一九四五年、日本が第二次世界大戦で敗北し、無条件降伏したことにより、台湾と澎湖列島は再び中国に返還された。

〔二〕以前、中国大陸部の移住者が船で台湾海峡を横断して台湾に入るためには、澎湖水域を経由しなければならなかった。この一帯は海流が急であり、海難が多発した。また、海水が濃く暗い色をしているため、移住者はこの水域を危険視し、「黒水溝」と呼んだ。後に広く台湾海峡を指すようになった。

〔三〕「九二年コンセンサス」、すなわち一九九二年十一月に、中国大陸部の海峡両岸関係協会と台湾地区の海峡交流基金会が、両岸の事務的協議の中でいかにして一つの中国の原則堅持の立場を表明するかという問題について、海峡両岸が共に一つの中国の原則を堅持することを各自が口頭で表明する、という合意に達したことを指す。

〔四〕孫中山（一八六六～一九二五）、名は文、号は逸仙、広東省香山県（現広東省中山市）出身。偉大な民族英雄、偉大な愛国主義者、中国民主主義革命の偉大な先駆者。民族、民権、民生という「三民主義」の政治綱領を掲げ、「中華振興」の第一声をあげ、辛亥革命の指揮をとり、中国を数千年にわたり支配した専制君主制を覆した。後に、中国共産党およびソ連共産党とレーニンの協力のもと、中国国民党を改組し、「連ソ、連共、労農援助」の三大政策を実施し、国共合作（中国国民党と中国共産党の協力関係）を実現し、反帝・反封建の民主主義革命を前へと推し進めた。

〔五〕『易経・繫辞伝上』を参照。原文は「二人同心、其利断金」（二人心を同じくすれば、その利き（と）こと金を断つ）となっている。

両岸関係の前途開拓と民族の偉大な復興の実現という重任を担う

（二〇一四年五月七日）

親民党主席宋楚瑜一行と会見した際の談話の要旨

両岸関係の平和的発展は、両岸同胞が歴史の流れに順応して下した共通の選択である。われわれがみな、「両岸は家族のように親しみ合う」との理念に立ち、相手の立場に立って考え、誠意を持って付き合えば、解消できない心のわだかまりはなく、乗り越えられない困難もない。

両岸関係の平和的発展の大局は安定しており、荒波の試練に耐えられる。これは、歴史的必然である。両岸関係は数十年もの紆余曲折を経ながらも、全体的には前向きな発展の勢いを保っている。平和的発展は、両岸同胞の共通の追求であり、両岸は共にその実益と恩恵を受けている。われわれが両岸関係の平和的発展を推進する政策方針は決して変わることがなく、両岸の交流・協力、互恵・ウインウインを促すための実務的措置は決して放棄することがなく、台湾同胞と団結して共に奮闘する真摯な情熱は弱まることがなく、「台湾独立」勢力の分裂をはかる企みを阻止する確固たる意志は決して揺らぐことがない。われわれは、台湾の社会の安定、経済の発展、民生の改善、そして台湾同胞が安らかで幸せな生活を送れるよう心から願っている。

両岸関係の平和的発展は任重くして道遠しであり、両岸同胞の相互信頼を深めることが必要である。同胞が互いに信頼し合えば、多くの難問も容易に解決策を見出せるだろう。われわれは、積極的によい条件をつくり出し、両岸の社会各界および各階層の人々の接触の場を広げ、顔を合わせて意思疎通し、心と心で交流し、絶えず理解を深め、心理的距離を縮めていかなければならない。

両岸関係の平和的発展には広々とした前途があり、引き続き開拓・進取の精神で取り組むべきである。大陸部の改革の全面的深化と対外開放の拡大は、両岸の経済協力に力強い原動力と有利な条件をもたらすだろう。経済の融合は両岸の互恵・ウインウインに役立ち、いかなる時でも妨げられてはならない。われわれは、台湾の民衆、とりわけ末端民衆の現実的な需要をよく知った上で、積極的な措置を講じて、弱者層を優遇し、より多くの台湾の民衆が両岸の経済交流・協力の中で利益を得るようにしたい。

両岸の青少年には両岸関係の未来が託されている。より多くのアイデアを出し、多くの条件をつくり出すことによって、彼らにいっそう多く触れ合い、交流させ、両岸関係の平和的発展の流れと中華民族の偉大な復興の勢いを感じさせ、今後両岸関係の前途開拓と民族の偉大な復興の実現という重任を担うことができるようにしなければならない。

親民党が一つの中国の立場を堅持し、分裂をはかる「台湾独立」勢力の企みに引き続き反対し、台湾各界の人々と共に、両岸関係の平和的発展の大局を断固として守り、中華民族の全般的な利益を絶えず増進するよう願っている。



第十一章
平和的発展の道を歩む

国内と国際という二つの大局をよりよく統一的に企画し平和的発展の道を歩む土台を突き固める

（二〇一三年一月二十八日）

第十八期中央政治局第三回グループ学習会における談話の要旨

平和的発展の道を歩むということは、わが党が時代の発展の流れとわが国の根本利益に基づいて決定した戦略的選択である。われわれは、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を指針として、戦略的思考と戦略的意志を強め、国内と国際という二つの大局をよりよく統一的に企画し、開放的な発展、協力的な発展、ウインウインの発展を堅持しなければならず、平和な国際環境を勝ち取ることによって自らの発展を図ると同時に、自らの発展をもって世界の平和を擁護、促進し、わが国の総合国力を絶えず向上させ、広範な人民大衆に平和的発展がもたらす利益を絶えず享受させ、平和的発展の道を歩む物質的土台と社会的土台を絶えず突き固めるべきである。

中華民族は平和を愛する民族である。戦争をなくし、平和を実現することは近代以降中国人民の抱いてきた最も差し迫った、最も強い願いである。平和的発展の道を歩むこと、これは中華民族の優れた文化・伝統の継承と発展であり、中国人民が近代以降なめつくした苦難の中から得た必然的な結論でもある。中国人民は戦争

がもたらす苦難について深く心に刻まれた記憶があるため、平和に対して、うまずたゆまず追求し、平和で安定した生活を非常に大切にしている。中国人民が恐れているのは不安定であり、求めているのは安定であり、待ち望んでいるのは天下泰平である。

われわれの平和的発展の道は簡単に勝ち取れるものではなかった。これは新中国成立以来、特に改革開放以来、わが党の苦難を伴った模索とたゆまぬ実践によって徐々に形成されたものである。わが党は終始変わることなく平和の旗印を高く掲げており、いまだかつて動揺したことはない。われわれは長期にわたる実践の中で、平和共存五原則を提起し、これを堅持するとともに、独立自主の平和外交政策を確立し、実行し、世界に向けて永遠に覇を唱えず、永遠に拡張しないとおごそかに約束した。そして、中国は終始変わることなく世界の平和を擁護する確固たる力であり続けると強調している。われわれはこれらをいつまでも揺らぐことなく、終始一貫して堅持していかなければならない。

第十八回党大会で「二つの百周年」の奮闘目標が明確に打ち出されたことを踏まえ、われわれはさらなる奮闘目標として中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢を明確に提起した。われわれの奮闘目標を実現するには、平和な国際環境が必要である。平和がなければ、中国も世界も順調な発展は望めないし、発展がなければ、中国にも世界にも恒久平和はもたらされない。われわれはチャンスをしっかりととらえ、力を結集して自らのことを立派に推し進め、わが国のさらなる富強を図り、人民をさらに豊かにし、絶えず発展している力を頼りに、よりよく平和的発展の道を歩んでいかなければならない。

「世界の潮流はとうとうと広く、それに従えば栄え、逆らえば滅ぶ」。世界の歴史を見渡せば、武力による対外侵略と拡張主義はみな失敗に終わった。これは、歴史の法則である。世界の繁栄と安定は中国にとってチャンスであり、中国の発展も世界にとってチャンスである。平和的発展の道を滞りなく歩むことができるかどう

かは、かなりの程度、われわれのやり方次第である。つまり、いかに中国のチャンスを世界のチャンスへ、世界のチャンスを中国のチャンスへ転換し、中国と世界の望ましい相互作用と互恵・ウインウインの関係の中でこの道を切り開き、前へ進むことによるかである。われわれはわが国の実情からの出発を堅持し、自らの道を断固として歩む一方で、世界にも目を向けて、国内の発展と対外開放をよりうまく統一させ、中国の発展と世界の発展とを結び付け、中国人民の利益と各国の人々の共通の利益とを結び付け、各国との互恵・協力を絶えず拡大し、より前向きな姿勢で国際問題の解決に参加し、共に世界的な難問に立ち向かい、全世界の発展に貢献できるよう努めなければならない。

われわれは平和的発展の道を堅持しなければならない。しかし、決してわれわれの正当な権益を放棄したり、国の核心的利益を犠牲にしてはならない。いかなる国も、われわれが自らの核心的利益を取引対象にしたり、わが国の主権・安全・発展上の利益を損なう苦い果実を呑み込んだりするだろうなどと期待すべきではない。中国は平和的発展の道を歩むが、他の国々も平和的発展の道を歩むべきである。各国が共に平和的発展の道を歩んではじめて共同発展が可能になり、国と国との平和共存が可能になるのである。われわれは、わが国が断固として平和的発展の道を歩むという戦略的理念を広範かつ効果的に宣伝し、わが国の発展に対し正確な認識と姿勢を持つように国際社会を導かなければならない。中国の発展は決して他国の利益を犠牲にするものではなく、われわれは決して他人を損ない、自分の利益を図り、隣国を自国の洪水のはけ口にするようなことをせずに、断固として平和的発展の実践者、共同発展の推進者、多角的貿易体制の擁護者、グローバル経済管理の参加者になることを目指していく。

心を合わせて協力し ウインウインの新しい道を歩もう

（二〇一三年六月十九日、二〇一四年五月十九日）

潘基文（バンギムン）国連事務総長と会見した際の談話の要旨

一

国連は各国人民の期待を担うと同時に、数多くの重要な使命を担っている。現在、世界中で深刻で複雑な変化が起き、グローバルな難問を解決するためには国連の広範な加盟国が手を携え努力する必要がある。国連は平和と発展をテーマにし、公平と正義の旗印を高く掲げ、理に合うことを語り、物事を公平に取り扱うべきである。ゼロサムゲーム理論はすでに時代遅れであり、われわれは心を合わせて協力し、ウインウインの新しい道を歩まなければならない。この面で、国連はなすべき役割を果たすべきである。

中国は「二つの百周年」の奮闘目標を確立して国の将来の発展のために壮大な青写真を描いている。中国は国連を必要としており、国連も中国を必要としている。中国は国連を重視しており、今後も断固として国連を支持していく。中国は国連安保理の常任理事国であり、権限を与えられている一方で、ずっしりと重い責任をも背負っている。中国はこの責任を十分に担っている。中国は引き続き国際紛争の平和的解決を大いに促し、

国連ミレニアム開発目標の推進を支えていく。また、各国と共に努力して気候変動などの問題に共同で対処し、世界平和と人類の進歩にさらなる貢献をしていきたい。

潘基文国連事務総長と会見した際の談話の要旨
（二〇一三年六月十九日）

二

来年は世界反ファシズム戦争と中国人民抗日戦争(二)の勝利七十周年で、また国連創設七十周年でもある。国際社会はこの重要な契機を生かし、多国間主義（マルチラテラリズム）に対する公約をあらためて確認し、国連憲章の趣旨と原則を守り、国連の役割強化に努めるべきである。

国際社会は共に努力して世界の平和と発展を促すべきである。一、衝突を政治的に解決する方向を堅持する。世界的にホットスポット、係争問題が少なからずあり、「ヒョウタンを沈めたと思えば、ひさごが浮き上がってくる」という例えがあるように、一つの問題を解決したかと思えば、別の問題が起こる。これらの問題を解決するには理にかなった適切な方法を取るべきで、一方的に圧力をかけても解決できないし、外部からの武力干渉は解決を一層難しくするので、政治的解決が唯一の道である。国連はこの旗印を高く掲げるべきである。二、共同発展の目標の実現を堅持する。国連は政治的、道義的な優位性を生かし、総合的に配慮する役割を果たし、ポスト二〇一五年開発アジェンダを策定し、貧困撲滅を中核とし、持続可能な発展を実現しなければならない。中国は今年（二〇一四年）九月に開かれる国連気候変動サミットの成功を期待している。三、国連は国際問題でリード役を堅持する。テロ取り締まり問題で国連は大いに力を発揮し、是非の基準を明確にするよう唱導し、国際社会がいかなる形のテロも断固取り締まるよう促さなければならない。インターネットの問題で国連は中

心的なパイプ役として、ルール、主権、透明性を重んじ、各国の情報セキュリティーに対する関心を尊重し、共同のガバナンスを実現しなければならない。中国は引き続き国連のネットセキュリティーに関する活動を断固支持する。

潘基文国連事務総長と会見した際の談話の要旨
（二〇一四年五月十九日）

【注】

〔一〕抗日戦争は一九三七年七月～一九四五年九月まで中国人民が日本の侵略に反撃した民族解放戦争であり、世界反ファシズム戦争の重要な戦場の一つでもある。中国人民が堅忍不抜かつ長期的な戦いを経て、巨大な犠牲を払い、ついに日本の侵略者を打倒した。抗日戦争の勝利は近代史上、中国人民が反帝国主義侵略戦争で勝ち取った初の完全勝利であり、また世界の反ファシズム戦争の勝利に対して、永久不滅の偉大な歴史的貢献を果たすものであった。

理性と協調を同時進行させる核の安全保障観を堅持

（二〇一四年三月二十四日）

オランダ・ハーグ核セキュリティー・サミットにおける談話

尊敬するルッテ首相

ご在席の皆さん

本日、われわれがハーグに集い、共に核安全保障対策強化について検討するのはとても有意義なことである。まず、ルッテ首相およびオランダ政府が今回のサミットのために、積極的な努力と行き届いた手配をされたことに心から感謝の意を申し上げるものである。

二十世紀、原子の発見と核エネルギーの開発利用は人類社会の発展に新たなエネルギーをもたらすと同時に、われわれの世界に対する認識力と改造力を大いに高めた。半面、核エネルギーの発展は、安全面でのリスクと試練も伴うものだった。そのため、人類が核エネルギーをもっとうまく利用し、さらに発展させるためには、各種の核の安全保障に関する試練に対応し、核物質と核施設の安全保障を擁護しなければならない。

ご在席の皆さん

核の安全保障を強化することは継続的なプロセスである。核エネルギー事業の発展の歩みが止まらない限り、

核の安全保障強化の努力を止めてはならない。二〇一〇年のワシントンから、二〇一二年のソウル、さらに今日のハーグまで、これまでの核セキュリティー・サミットは、各国がコンセンサスづくりに励み、核の安全保障強化に努めることを重要な使命だと受け止めている。われわれは、理性と協調を同時進行させる核の安全保障観を堅持し、核の安全保障を健全で持続的な発展の軌道に乗せなければならない。

第一、発展と安全を共に重視し、安全確保を前提に核エネルギー事業を発展させる。エネルギーの安全性を確保し、気候変動に対応する重要な手段として、核エネルギーの平和利用事業はプロメテウスが人間にもたらした火のように、人類の発展のために希望の火をともし、素晴らしい未来を切り開いた。一方、その核エネルギーの安全を効果的に確保できず、核材料やその施設による潜在的リスクに適切に対応できないなら、素晴らしい未来に暗い影を落とし、甚だしい場合は災いをもたらすかもしれない。核エネルギー事業を発展させる希望の火として永遠に消えないためには、安全第一の原則をしっかりと堅持しなければならない。

われわれは発展のために安全を求め、安全によって発展を促進するという理念を堅持する必要がある。発展と安全という二つの目標を有機的に融合させ、各国政府や核関連企業に、安全を犠牲にするいかなる核エネルギーの発展も持続し難くなり、真の発展ではないということを理解してもらわなければならない。確実な措置を講じてこそ、はじめてリスクを避けることができる。また、核の安全保障を実現してこそ、原子力事業の持続的な発展は可能になる。

第二、権利と義務を共に重視し、各国の権益の尊重を基礎に国際社会の核安全保障プロセスを推進する。コンパスや定規がなければ方形や円を描くことはできない（規則がなければ、何事もうまくいかない）。各国は核の安全保障に関する国際法の文書規定に定められた義務を的確に履行し、国連安保理の関連決議を全面的に執行すべきであり、現在の核の安全保障に関する法的枠組みを強化し、国際社会の核の安全保障のために、制度

的な保障および普遍的な遵守すべき指導原則を提供するよう努めなければならない。中国は核物質防護条約およびその改正案、それに核テロ防止に関する国際条約の採択を積極的に考慮するよう、より多くの国に呼びかけている。

各国は国情が異なり、核エネルギー事業の発展段階や直面している核の安全保障のリスクなどは同じではない。一つの鍵は一つの錠しか開けられないように、各国の国際義務の履行を強調すると同時に、自国の国情に基づいた最も自国に適した核安全保障政策と措置をとる各国の権利を尊重すべきである。また、各国が核の安全保障に関するセンシティブな情報を保護する権利を尊重し、公平な原則を堅持し、実際を重んじる精神に則って、積極的かつ穏当に国際的な核の安全保障プロセスを推進しなければならない。

第三、自主と協力を共に重視し、互恵・ウインウインの道に沿って普遍的な核の安全保障を求める。核の安全保障はまず国の課題となること、その主要な責任は各国政府が担うべきである。各国政府は核の安全保障の責任を知り、その責任を負い、核の安全保障意識を強化し、核の安全保障文化を育成し、その枠組みづくりを強化し、技術水準を向上させなければならない。これは自国に対し責任を負い、世界に対しても責任を負うものである。

核の安全保障はグローバルな課題でもある。桶で水を汲む量は一番短い脇板によって決められるのである。例えば一国で核物質の紛失事件が起きたら、全世界が脅かされてしまう。普遍的な核の安全保障を実現するには世界各国の連携と努力が必要である。われわれは、さらに多くの国々を国際社会の核の安全保障プロセスに引き寄せ、この中で、各国が利益を受けながら、貢献もできるように、核の安全保障プロセスのグローバル化を実現するように努める。われわれは交流を強め、互いの参考、共有を強化し、関連する多国間枠組みやイニシアチブを統合的に調整し、協同して努力する必要がある。たとえ同じスタートラインから出発することがで

きなくても、どのパートナーも落後させないようにすべきである。

第四、末梢の問題の解決と根本の問題の解決を共に重視し、根源を取り除くことを目標に核の安全保障への努力を全面的に推し進める。核の安全保障はさまざまな方面に及んでおり、その中には、科学的かつ効果的な管理、先進的な原子力技術の研究開発を含むだけではなく、核テロおよび核拡散への対処も含む。核の安全保障政策と措置を充実させると同時に、現代化した低いリスクの原子力技術を研究・開発する。核物質の需給バランスを堅持し、核不拡散の輸出規制を強化し、核テロ取り締まりの国際協力を深化すること、これは核の安全保障の潜在的リスクや核拡散リスクを取り除く直接的かつ効果的な道筋である。

末梢の問題の解決と根本の問題の解決を共に行う。平和で安定した国際環境を築き、調和的な善隣友好関係を発展させ、睦まじい開放的な文明交流を行ってはじめて、核テロと核拡散の問題を根本から解決し、原子力事業の永続的な安全と発展を実現することができる。

ご在席の皆さん

中国は核の平和利用において、その安全保障問題を筆頭に置き、最も厳しい基準に基づいて、核物質やその施設に対する管理を行っている。五十年余りの核エネルギー事業の発展において、中国は安全保障分野で良好な記録を維持してきた。

オランダの哲学者であるエラスムスは次のように語った。「予防は治療にまさる」。ここ数年、国際社会で起きた重大な核事故は各国に警鐘を鳴らした。われわれは悲劇を繰り返さないよう、万全な措置をとるべきである。未然に防ぐため、中国は全面的に核安全保障措置を講じている。われわれは、原子力の安全利用技術のレベルアップやリスク対応力の向上に力をいれ、全国の核施設に対して全面的な安全検査を行い、すべての核物質とその施設の安全保障を効果的に確保した。また、われわれは、核の安全保障に関する中長期計画を策定、実施し、

国の核の安全保障についての法体系を整備する。現在、国家核安全保障法体系を整備し、国家核安全保障条例を制定し、核の安全保障事業の枠組み化、法制化を着実に推し進めている。

また、中国は核の安全保障分野における国際協力も積極的に推し進めている。中国では米国と共同で建設する核安全保障モデルセンターの定礎式が行われ、同工事が順調に進捗している。このセンターの設立は地域ないし国際社会の核の安全保障技術の交流と協力に貢献をすることになろう。中国はロシアやカザフスタンなどの国と連携し、核物質の違法運搬・取引などに対して、一連の取り締まり活動を行っている。中国は経済や技術的に可能な状況の下で、できるだけ高濃縮ウランの使用を削減するよう努めている。現在、中国は国際原子力機関（ＩＡＥＡ）の枠組み内で、ガーナが濃縮ウランを使用する原子炉を、低濃縮ウランを使用できる原子炉に改造することをサポートしている。同時に、中国はＩＡＥＡの核セキュリティー基金に寄付をし、研修クラスなどを開く形で、アジア太平洋地域国家の核の安全保障能力をレベルアップさせている。

ご在席の皆さん

光明が一歩前進すれば、暗黒が一歩後退する。われわれが核の安全保障分野でより多く努力すれば、それだけテロリズムがつけ込む機会が少なくなる。末永い核の安全保障を実現するために、中国は引き続き努力し、貢献していきたい。

第一、中国は断固として揺るぎなく自国の核の安全保障能力を強化し、引き続き核の安全保障の政府による監督管理能力を強化し、核の安全保障の技術開発と人的資源の投入を大いに増やすと共に、核の安全保障文化の育成と発展を堅持する。

第二、中国は揺るぎなく国際社会の核の安全保障システムの構築に参与し、各国と共に、公平、協力、ウインウインの国際的核の安全保障システムの構築を推し進め、各国が原子力の平和利用成果を共有するよう

促していく。
第三、中国は核の安全保障分野における国際協力を断固として支持していく。この分野の技術や経験を分かち合い、資源や交流の場を提供し、地域と国際間の協力を強化していく。中国はＩＡＥＡが主導的な役割を発揮し、ＩＡＥＡが発展途上国に支援し、その核の安全保障能力を高めることを激励し、歓迎する。中国は引き続き核の安全保障分野の活動に積極的に参加し、またＩＡＥＡを招いて、物理的防護に関するコンサルタントサービスを展開してもらうことにしている。
第四、中国は、地域および世界の平和と安定を断固として擁護していく。平和発展、協力とウインウインの原則を堅持し、平等な対話と友好な協議を通じて矛盾や紛争を適切に解決していく。中国は核テロおよび核拡散を根絶するために、各国と共に努力していきたい。
ご在席の皆さん
核の安全保障を強化することはわれわれの公約であると同時に、共通した責任でもある。各国の人々が末永い核の安全保障を実現できるという自信を持てるようにするため、また、核エネルギー事業は人類に福祉を与えられると信じられるようにするため、われわれは手を携えて協力しようではありませんか。
ご清聴ありがとうございました。

文明は相互交流によって多彩になり相互参照によって豊かになる

（二〇一四年三月二十七日）

国連教育科学文化機関（ユネスコ）本部での演説の一部

文明は交流によって多彩になり、相互参照によって豊かになる。文明の交流と相互参照は人類文明の進歩と世界の平和的発展を促す重要な原動力である。

文明の交流と相互参照を推進するには、正しい姿勢と原則に則る必要がある。最も重要なのは次の諸点を堅持することと考えている。

第一に、文明は多彩なものであり、人類文明は多様であるからこそ相互交流、相互参照の価値がある。日光に七つの色があるように、世界も多彩である。ある国と民族の文明はその国と民族の集団的記憶である。人類は長い歴史の流れの中で、多彩な文明を創造し発展させてきた。未開の時代から農耕社会に至るまで、産業革命から情報社会に至るまで、波瀾万丈の文明図録を作り上げ、感動的な文明の詩編を書き残してきた。「花が一輪咲いても春とは言えず、百花が一斉に咲き誇ってはじめて春が来る」。もしも世界にただ一種の花しかなかったら、たとえその花がいくら美しくても、やはり単調である。中華文明はもちろん、世界中に存在するその他

の文明もすべて人類文明が生み出した成果である。
　私はフランスのルーブル美術館を参観したことがあり、中国の故宮博物院も参観したことがあるが、それぞれ一千万点を上回る貴重な芸術品が収蔵され、人々の視線を集めているのは正にそこに展示されている多様な文明の成果なのである。文明の交流、相互参照というのは、ある文明だけを尊重したり、またはある文明をおとしめることを前提にすべきではない。中国人は二千余年前に、すでに「それ物の斉しからざるは物の情による」［二］という道理を理解していた。文明が相互交流、相互参照を推進すれば、人類文明の色彩を豊かにすることができ、世界各国民はより内容のある豊かな精神生活を享受し、より選択肢のある未来を切り開くことができるようになる。
　第二に、文明は平等なものであり、人類文明が平等であるからこそ相互交流と相互参照の前提となる。さまざまな人類文明は価値の上からは平等なものであり、それぞれの人類文明にはそれぞれの特色があり、また至らぬところもある。世界に完全無欠な文明はないし、何一つ良いところのない文明もなく、文明には高低や優劣の違いはない。
　私は世界の多くの土地を訪問したことがあるが、最も好きなのは五大陸の異なる文明を知り、それらの文明と他の文明の相違、独特なところを知り、それらの文明の中で暮らしている人々の世界観や人生観、価値観を知ることである。私は古代マヤ文明を代表するチチェン・イッツァ遺跡に行ったことがあるし、濃厚なイスラム文明の色彩を持つ中央アジアの古都サマルカンドにも行ったことがある。各種の文明の真諦（しんたい）を理解するには、平等で謙虚な態度で接しなければならない、とつくづく思う。もし高みに立ってある文明を見下ろせば、その文明の深奥を知ることができないばかりか、それと相いれないことになってしまう。歴史と現実から、傲慢と偏見は文明の相互交流と相互参照にとって最大の障害であることを示している。

第三に、文明には包容力があり、人類文明は包容力があるからこそ交流し、照らし合う原動力を持つようになっている。大海はどんな川の水をも受け入れる包容力があるからこそ広大なのである。人類が創り上げたあらゆる文明は労働と知恵の結晶である。どの文明もユニークなものである。文明に関しては、無理に当てはめたり、無理に合わせたりできないばかりでなく、そうすることは極めて有害である。あらゆる文明の成果は全て尊重する価値があり、あらゆる文明の成果は大切にしなければならない。

交流と相互参照によってのみ、ある文明が生命力に満ち得ることを、歴史はわれわれに教えている。包容力のある精神をもってすれば、「文明の衝突」といったものがなくなれば、文明間の調和も実現し得る。これはつまり中国人がよく言う「ダイコンにも野菜にも愛すべきところはある」である。

中華文明は五千年以上にわたる歴史の変遷を経てきたが、終始脈々と受け継がれ、中華民族の最深層の精神的追求を積み重ね、中華民族の独特な精神的シンボルとして、中華民族が生きながらえて、大きく発展するために豊かな養分を注いできた。中華文明は中国の大地に誕生した文明であると同時に、他の文明とのたゆまぬ交流と、相互参照によって形成された文明でもある。

紀元前一〇〇年以上前から、中国は西域に通じる「絹の道（シルクロード）」を切り開き始めた〔二〕。漢の時代に張騫〔三〕が紀元前一三八年、紀元前一一九年の二回にわたって西域への使節として派遣され、西域に中華文化を伝え、またブドウ、ウマゴヤシ、ザクロ、アマ、ゴマなどの西域文化の成果を中国に伝えた。前漢時代に中国の船団がインドとスリランカに到達し、中国のシルクを瑠璃、真珠などの物品と交換した。唐代は中国の歴史上における対外交流の活発な時期であった。史料の記載によると、唐代には中国に使節を送って友好関係を結んだ国が七十カ国余りに達し、当時の都長安には各国から使節、商人、留学生が大勢集まった。こうした大交流は中華文化が遠く世界に伝播することを促進しただけでなく、各国文化と物産の中国伝来をも促した。

十五世紀初頭、明代の有名な航海家・鄭和〔四〕が七回にわたる遠洋航海によって、東南アジアの多くの国々にたどりつき、ひいてはアフリカ東海岸のケニアにも到達し、中国と途中の各国人民との友好往来のエピソードを残した。明末、清初に、中国人は積極的に近代科学技術の知識を学んで、欧州の天文学、医学、数学、幾何学、地理学の知識が次から次へと中国へ伝えられ、中国人の知識の視野を広げた。その後、中国と諸外国との文明の交流と相互参照はさらに頻繁になり、その中で衝突、矛盾、疑惑、拒絶もあったが、より多くは学習、消化、融合、刷新であった。

仏教は古代インドで生まれたが、中国に伝来した後、長期にわたる進化を経て、中国の儒家文化、道家文化と融合、発展して、ついに中国の特色のある仏教文化を形成し、中国人の宗教信仰、哲学観念、文学・芸術、礼儀・習俗などに深い影響を残した。唐代には、玄奘〔五〕が西域へ仏典を学びに赴き、苦しみをなめつくした。それを実現させたのは中国人の域外文化を学ぶ強靭な精神力である。その故事を演繹した神話小説『西遊記』〔六〕は、皆さんよくご存知のことと思う。中国人は中華文化によって仏教思想を発展させ、独特な仏教理論を形成した上で、仏教を中国から日本、韓国、東南アジアなどの地に伝えた。

二千余年来、仏教、イスラム教、キリスト教などが相前後して中国に伝来し、中国の音楽、絵画、文学なども絶えず外来文明の優れた点を吸収してきた。中国の伝統画法は西洋の油絵と融合し、刷新し、独特の魅力を持つ中国の写意油絵を形成し、徐悲鴻〔七〕らの大家の作品は多くの人に高く評価されている。中国の製紙、火薬、印刷術、羅針盤の四大発明は世界的な変革を促進し、ヨーロッパのルネサンスを促すことにもなった。

中国の哲学、文学、医薬、シルク、磁器、茶などは西洋に伝わり、西洋の民衆の日常生活の中に染み込んだ。マルコ・ポーロの旅行記『東方見聞録』は数えきれないほど多くの人々に中国に対する憧れを抱かせた。

周知の通り、中国には秦の兵馬俑〔八〕があり、「地下の軍団」と称されている。フランスのシラク元大統領は

見学した後、次のように述べた。「ピラミッドを見なければ、真にエジプトに行ったとは言えないし、秦の兵馬俑を見なければ、真に中国に行ったとは言えない」。一九八七年、この二千年余り以前の貴重な中華の文化財が、世界文化遺産に登録された。中国にはまだ多くの文明の成果があり、ユネスコの世界文化遺産、世界無形文化遺産、世界記憶遺産に登録されている。ここで、私はユネスコが中華文明の保存と伝播に対して貢献してきたことに、心から感謝の意を表したい。

現代世界で、人類は異なる文化、人種、皮膚の色、宗教、異なる社会制度からなる世界で暮らしており、各国人民は「あなたあっての私、私あってのあなた」という相互依存の運命共同体を形成している。

中国人民は早くから「和して同ぜず」〔九〕の道理を知っている。二千五百年前の歴史学者・左丘明〔一〇〕は『左伝』〔一一〕の中で斉国の上大夫・晏子〔一二〕の「和」に関する一つのエピソードを次のように記録している。「和は羹（あつもの）の如し、水、火、酢、肉醤（ししびしお）、塩、梅を以って、魚肉を煮る」。「声も味の如し、一気、二体、三類、四物、五声、六律、七音、八風、九歌を以って、相成り」。「もし水を以って水を済ませば、誰がこれを食べられようか。もし琴と瑟の音色が一つなら、誰がこれを聞かれようか」

世界には二百余りの国と地域があり、二千五百以上の民族と多くの宗教がある。もし一つの生活様式、一つの言語、一つの音楽、一つの衣服しかなければどうなるのか。そんなことは想像することさえできない。

ユゴーは次のように述べて、世界で最も広々としているのは海であり、海に比べてさらに広々としているのは空であり、空に比べてさらに広々としているのは人間の度量である。異なる文明に対して、われわれは天空よりもさらに広い度量が必要である。文明は水の如く、静かに万物を潤す。われわれは異なる文明間の相互尊重、調和的な共存を促し、文明間の交流と相互参照を各国民間の友情を増進する懸け橋として、人類社会の進歩を促す原動力として、世界平和を維持する絆として推進しなければならない。われわれは異なる文明から英知を

探りあて、養分をくみ取り、人々に精神的な支えと心の慰めを提供し、手を携えて人類が共に直面しているさまざまな試練を解決していかなければならない。

一九八七年、陝西省にある法門寺の地下宮殿から二十点の華麗な瑠璃器が出土した。これらは唐代に中国に伝来した東ローマ帝国やイスラム圏の瑠璃器である。これらの域外の文物を鑑賞する際に、私はいつもこういうことを考えている。つまり異なる文明に対して、ただそれらが生み出した精巧で美しい文物を鑑賞するだけに満足してはならず、さらにその中に含まれている人文精神を味わうべきである。また、往時の生活に染み込んだ芸術的表現を味わうだけに満足してはならず、さらにそこに込められている精神を蘇らせなければならない。

〔注〕

〔一〕『孟子・滕文公上』を参照。

〔二〕中央アジアを経て南アジア、西アジアから欧州、北アフリカに至る中国古代の陸上通商ルート。大量の中国産シルクや絹織物がこのルートに沿って西へ運ばれたので、昔から「絹の道（シルクロード）」と称される。

〔三〕張騫（?～前一一四）、漢中成固（今の陝西省城固の東）出身。前漢の大臣。西域（漢代、玉門関・陽関より西の境域を西域と総称した）の各民族と共に匈奴に対する守りを固める約束を交わすため、前一三八年、前一一九年に相前後して命を受け、使者として西域に赴いた。遠くは今の中央アジア地域に到達し、中原と西域の関係を密にし、シルクロードの開拓を促した。

〔四〕鄭和（一三七一～一四三三）は明代の航海者。昆陽（今の雲南省昆明市晋寧）出身。明初に宮廷に出仕し、後に内官監太監の任に就いた。一四〇五年から一四三三年にかけ、大船団を率い、相前後して七回の遠洋航海を行い、使節としてアジア・アフリカ諸国へ赴き、東南アジア、インド洋および紅海沿岸の三十余りの国・地域を歴訪し、遠くはアフリカ東海岸やイスラム教の聖地メッカなどの地に到達している。これを歴史上、「鄭和の西洋下り」（明代、ブルネイの西の海域を西洋と呼んだ）と称する。鄭和の遠洋航海は中国とアジア・アフリカ諸国との経済・

文化交流を促進した。

〔五〕玄奘（六〇〇あるいは六〇二～六六四）、三蔵法師とも呼ばれ、一般に唐僧という。隋代に生まれ、洛州緱氏（今の河南省偃師緱氏鎮）出身。唐の高僧であり、仏典翻訳家、唯識宗（法相宗）創始者の一人。十三歳で出家し、その後、名師を求めて各地を遍歴し、諸師の説が一様でなく、定論が得られなかったことから、天竺（今のインド）に行き仏教の原典を学ぶ決意をした。六二九年（一説によると六二七年）、インドに赴き仏教の原典の研鑽に励み、六四五年に長安に戻った。後に仏典七十五部、合わせて千三百三十五巻を翻訳し、また道中の見聞に基づいた『大唐西域記』を著した。

〔六〕『西遊記』は呉承恩（一五〇〇前後～一五八二前後）が著した神話小説であり、唐僧・三蔵法師と孫悟空、猪八戒、沙悟浄の師弟四人が天竺に向かい経典を持ち帰る様子を描写している。途中で妖怪、変化を退治し、本物の経典を手に入れる物語である。『西遊記』は『三国演義』『水滸伝』『紅楼夢』と共に、中国の四大古典と称されている。呉承恩は山陽（今の江蘇淮安）の出身で明代の文学者。

〔七〕徐悲鴻（一八九五～一九五三）、江蘇省宜興出身。画家、美術教育家。

〔八〕秦俑は中国史上の最初の皇帝・始皇帝（前二五九～前二一〇）の帝陵に副葬された陶製の兵馬の彫塑群で、一九八七年に世界文化遺産リストに登録された。

〔九〕本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔二〕を参照。

〔一〇〕左丘明（前五五六～前四五一）、魯国の人、春秋時代の史学家。

〔一一〕『左伝』は『左氏春秋』とも称され、左丘明の著作と伝わる儒家の経典の一つであり、『公羊伝』『穀梁伝』と共に『春秋』を解釈する三伝の一つである。

〔一二〕晏子（?～前五〇〇）は晏嬰の敬称。夷維（今の山東省高密県）出身。春秋時代の斉国の大夫。

平和的発展の道を歩むことは中国人民自らの発展目標の実現に対する自信と自覚の表れ

（二〇一四年三月二十八日）

ドイツ・コルバート基金での演説の一部

互いに知り合い、理解し合うこと、これは国家間の関係の発展を促進する基本的なプログラムである。多く知り合えば知り合うほど、理解が深まり、交流と協力の基礎は強固になり、幅が広くなっていく。

周知のように、三十年余の改革開放による急成長で、中国のGDPは世界第二位になった。体つきがどんどん大きくなる中国を見ると、中に憂慮し始めた人々もいるし、いつも色眼鏡をかけて中国を見ている人々もいる。彼らは中国が発展し勃興したら、必然的に一種の「脅威」となるとし、ひいては中国を恐ろしい悪魔の「メフィストフェレス」のように描き、まるで、いつの日か中国が世界の魂を吸収してしまうとさえ考えている。こうした論調は『アラビアン・ナイト』のようなものだが、遺憾なことに、こうした見方に飽きずに没頭している人々もいる。これは改めて一つの真理を証明しているに過ぎない。つまり、偏見は往々にして取り除くのが最も難しい、ということである。

人類の歴史を振り返ってみると、人々を隔てるのは山河でもなく、大海深海でもなく、人間同士の相互理解、

相互認識の隔壁である。ライプニッツが言ったように、各自の才能を相互交流してはじめて、共に知恵の明かりを灯すことができる。

この場を借りて、中国は平和的発展の道を歩むことをテーマに、中国の改革と発展について、私自身の体験を交えて話し、皆さんの中国に対する知識、理解の増進に役立てていただきたい。

中国は早くから世界に向けて厳かに以下のように公言してきた。中国は断固として平和的発展の道を歩み、世界平和の擁護を通じて、自らを発展させ、また自らの発展を通じて世界平和を擁護する。平和的発展の道を歩むことは、中国の発展方向に対する国際社会の関心に対する回答であり、さらに中国人民の自らの発展目標実現に対する自信と自覚の表れである。この自信と自覚は中華文明の奥深い淵源に由来するものであり、中国の発展目標を実現する条件に対する認識に由来するものであり、また世界の発展という大勢に対する把握に由来するものである。

中華民族は平和を愛する民族である。ある民族の最深層の精神的追求は、代々受け継がれてきた民族精神のたいまつで運ばれる遺伝子配列に込められている。五千年の歴史を持つ中華文明は終始、平和を尊んできた。平和、和睦、調和の追求は中華民族の精神世界に深く根を下ろしており、中国人民の血脈にも溶け込んでいる。中国には昔から「国が大きくても戦を好めば必ず亡ぶ」[二]という箴言（しんげん）がある。ほかにも「和を以て貴しと為す」「和して同ぜず」[三]「干戈を玉帛にかえる（戦争をやめて親善を図る）」「国泰んじ民安んず（国家が安泰であれば人民は平穏である）」「善隣友好」「天下太平」「天下大同（平等で平和な理想社会）」といった理念が世々代々受け継がれてきた。中国は歴史上、長期にわたって世界で最も強大な国の一つだったが、他国を殖民支配したり侵略した記録は残っていない。われわれが平和的発展の道を歩むことを堅持しているのは、中華民族の平和を愛する数千年来の文化と伝統に対する継承と発揚である。

中国は、すでに将来の発展目標を確定している。それは、二〇二〇年までにGDPと都市・農村住民一人当たりの所得を二〇一〇年の二倍にし、小康社会を全面的に築き上げると同時に、今世紀半ばまでに、富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げる、ということである。われわれはこの目標をイメージとして中華民族の偉大な復興を実現する「中国の夢」と概括している。中国は十三億余りの人口を擁しており、歩む道が正しければ、社会全体の財産水準と幸福指数を急速に上昇させられる。ただし、一人一人の個人的な財産水準と幸福指数の伸長はそれほど容易なことではない。なぜかというと、同じ一つのテーブルの食事では、いくら料理が盛りだくさんであっても、八人で食べるのと、八十人、八百人で食べる場合では、たいへんな違いだからである。中国が今後相当長い間、相変わらず世界最大の発展途上国であり、十三億余りの人の生活水準と質を高めるには、辛抱強く努力を重ねていかなければならないということをわれわれはよく知っている。中国が一心不乱にその建設に取り組むには、二つの条件が不可欠である。一つは調和が取れた安定的な国内環境であり、もう一つは、平和的で安寧な国際環境である。

歴史は最も良い教師であり、それぞれの国が歩んできた足跡を忠実に記録し、それぞれの国の未来の発展のために啓示を提供してくれる。一八四〇年のアヘン戦争から一九四九年の新中国成立までの百年余、中国社会は頻繁に戦火に脅かされ、絶えず戦禍に見舞われ、内戦と外敵の侵入が繰り返し発生し、中国人民に振り返りたくない苦難をもたらした。日本の軍国主義が発動した中国侵略戦争だけで中国の軍民に三千五百万人以上の死傷者を出す惨劇を引き起こした。この悲惨な歴史は中国人の骨身に刻み込まれた記憶として残っている。中国人は従来、「己の欲せざる所は人に施すなかれ」[三]を希求してきた。中国が平和を必要とするのは、人間が空気を必要とし、万物の成長に日光が必要なのと同じである。平和的発展の道を堅持し、世界の国々と共に世界平和を擁護してこそ、中国自身の目標を実現でき、世界に対してさらに大きな貢献ができるのだ。

中国民主革命の先駆者である孫文は「世界の潮流はとうとうと広く、それに従えば栄え、逆らえば滅ぶ」と述べた。歴史が示しているように、ある国が発展し、繁栄しようとすれば、世界の発展の大勢に順応しなければならない。そうでなければ必然的に歴史に見捨てられる。ところで、何が今の世界の潮流だろうか。答えはただ一つしかなく、平和、発展、協力とウインウインである。中国は「国が強大になれば必ず覇を唱える」という古い論理に同意しない。今日の世界で、植民地主義や覇権主義という古い道筋がまだ通じるだろうか。その答えは否である。それは通じないだけでなく、ぶつかれば頭から血を流すようにさんざんな目に遭うに違いない。平和的発展の道だけが通じている。それゆえ、中国は平和的発展の道を断固として歩んでいくのである。

事実は雄弁に勝る。数十年来、中国は一貫して独立自主の平和外交政策を堅持し、一貫して世界平和の擁護と共同発展の促進が中国外交政策の主旨であると強調してきた。中国はさまざまな形の覇権主義、強権政治に反対し、他国の内政に干渉せず、永遠に覇権を唱えず、永遠に拡張政策を取らない、と繰り返し公言してきた。われわれは政策的にこのように規定し、制度上もこのように設計し、実践もこのように行ってきた。当然、中国は自らの主権、安全、発展の利益を断固として擁護し、いかなる国もわれわれの主権、安全、発展の利益を損なう苦い果実をわれわれが飲み込むものと期待してはならない。

総じて言えば、中国が平和的発展の道を歩むことは便宜上の措置ではなく、外交辞令でもなく、歴史、現実、未来の客観的判断から得た結論であり、思想的自信と実践的自覚の有機的統一である。平和的発展の道は中国にとってプラスとなるだけでなく、世界にとってもプラスとなる。われわれは、実践的に通れると立証されているこの道を堅持しないいかなる理由も思いつかない。

〔注〕

〔一〕『司馬法・仁本』を参照。『司馬法』は『司馬穰苴兵法』『軍礼司馬法』とも呼ばれる中国古代の兵法書である。宋代に、武学の基本教材として知られた。

〔二〕本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔一〕を参照。

〔三〕本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔三〕を参照。

第十二章

新型大国関係構築を推進

時代の流れに乗り、世界の平和と発展を促進しよう

（二〇一三年三月二十三日）

モスクワ国際関係学院における演説

尊敬するトルクノフ学長
尊敬するゴロジェツ副首相
教員の皆さん、学生諸君

今日、美しいモスクワ国際関係学院を訪れる機会に恵まれ、ご来場の先生方および学生諸君とお会いすることができ、とても嬉しく思う。

モスクワ国際関係学院は世界に名を馳せる大学であり、ここには著名な教授が多数いらっしゃるし、人材も輩出しており、貴学が各分野で収めている素晴らしい成績に対して、熱烈にお祝いの言葉を贈りたいと思う。

ロシアは中国の友好的な隣国である。今回のロシア訪問は私が中国の国家主席に就任後初めての訪問で、この歴訪の最初の訪問先である。美しく豊かな貴国への三年ぶりの訪問でもある。昨日、私はプーチン大統領と実りある会談を行い、さらにロシアの「中国観光年」の開幕式に共に出席した。

早春三月は万物の蘇る春の訪れを意味し、種まきの季節が再びやって来たことも意味する。中国では「一年

の計は春にあり」と言われているが、中ロ双方は早春というこの素晴らしい季節に、両国関係および世界の平和と発展のために懸命に努力をすれば、必ず新たな成果を収めることができ、両国国民および各国人民に幸福をもたらすことだろう。

教員の皆さん、学生諸君

国際関係学院は国際問題を研究し、教学を行う高等教育機関であり、国際情勢についていっそうの関心を寄せていると信じており、過去数十年間には、国際社会が「滄海（そうかい）が桑畑となる」ほどの巨大な変化をより深く感じ取ったことと思う。われわれは目まぐるしく変化する時代にあって、日進月歩の世界に直面している。

この世界では、平和、発展、協力、ウインウインが時代の流れとなっており、古い植民システムが瓦解し、冷戦時代の陣営ももはや見られなくなり、いかなる国家や国家集団も国際実務を取り仕切ることはできなくなっている。

この世界では、多くの新興市場国や発展途上国が発展の軌道に乗り、十数億人、さらに数十億人が急ピッチで現代化に向かって進んでいる。複数の経済成長圏が世界各地域で形成されつつあり、国際勢力の力関係は引き続き世界の平和と発展に有利な方向へと向かっている。

この世界では、各国の相互関係、依存の度合がかつてなく深まっており、人類は同じ地球村で暮らし、歴史と現実とが入り交じる同じ時空の中で生きており、ますます「あなたあっての私、私あってのあなた」という運命共同体となっている。

この世界では、人類は相変わらず多くの難問や挑戦に直面している。国際金融危機による深遠な影響は継続しており、さまざまな保護主義が著しく台頭し、地域問題があちこちで発生し、覇権主義、強権政治、新たな干渉主義が今なお力をふるっている。軍備競争、テロリズム、インターネットセキュリティーなど、従来から

の安全への脅威と新たな安全への脅威が相互に交錯しあっており、世界平和の維持と共同発展の促進は依然として「任重くして道遠し」の状態にある。

われわれは世界がより麗しいものになるよう願っている。また、世界がより麗しくなることを信じる理由がある。同時に、未来は明るいけれども、そこへの道は紆余曲折を経るものだと、われわれははっきりと知っている。チェルヌイシェフスキーはかつてこのように書いている。「歴史の道は決してネフスキー大通り（サンクトペテルブルクにあるメインストリートの名）ではない。それはまったく野原の中を進むようなものである。時には土ぼこりの中を通り、時には泥沼を越え、時には沼沢地を進み、時には密林を通り抜ける」。人類社会の発展史が立証しているように、どんな紆余曲折を経たとしても、歴史は常に自らの法則に従って前に向かって発展している。いかなる力でも歴史の進む車輪を阻止することはできない。

世界の潮流は、広く果てしない。これに従う者は栄え、これに逆らう者は滅びる。時代と共に進歩しようと思うならば、二十一世紀の人間は、考え方が過去の植民地拡張という古い時代に留まっていてはいけないし、冷戦思考やゼロサムゲームという発想の枠内に留まっていてもいけない。

国際情勢が急激に変化し、世界各国が苦楽を共にするといった客観的な状況の下で、各国は、協力とウインウインを核心とする新しいタイプの国際関係の構築を共に推進し、各国人民は共に世界平和を維持し、共同発展を促進すべきである。

われわれは各国と各国人民が共に尊厳を享受すべきであると主張する。国家の大小、強弱、貧富を問わず、一律平等を堅持し、各国人民が自主的に発展の道を選択する権利を尊重し、他国の内政への干渉に反対し、国際的な公平・正義を維持しなければならない。「靴が足に合うかどうかは、自分で履いてみなければ分らない」のと同じように、一国の発展の道が適切かどうかは、その国の人民に最も発言権がある。

われわれは各国と各国人民が共同で発展の成果を享受すべきであると主張する。各国は自国の成長を図ると同時に、他国との共同発展を積極的に促進しなければならない。一部の国がますます豊かになっているのに対して、一部の国が長期的に貧しく、立ち遅れた状態に陥っている状況では、世界の長期的な発展はありえない。各国が共に発展してこそ、世界がより良く発展することができる。隣国を自国の洪水のはけ口にし、危機を転嫁し、人に損害を与えて自分の利益を計るなどのやり方は道徳的でないと同時に、長く続けることはできない。

われわれは各国と各国人民が共同で安全保障を享受すべきであると主張する。各国は心を一つにして協力し、さまざまな課題や挑戦を適切に対処しなければならない。グローバルな問題であればあるほど、力を合わせて対応し、圧力を動力に変え、危機を活力に変えなければならない。複雑に入り組んだ国際的な安全脅威に直面して孤軍奮闘してはならないし、武力を盲信することはさらに良くない。協調的な安全保障、集団的な安全保障、共同の安全保障こそがこの問題を解決する正しい選択である。世界の多極化に伴い、経済のグローバル化や文化の多様化、社会の情報化が絶えず進んでいる。今日の人類は以前のいかなる時期よりも平和と発展という目標へ向かって邁進する有利な条件を備えている。協力とウインウインはこの目標を実現させる現実的な道筋である。

世界の運命は各国人民が共に掌握するものでなくてはならない。各国の主権範囲内のことは、その国の政府と国民だけが管理できる。世界のことは各国政府および人民が共に相談し合って行うべきである。これは国際実務を処理する原則であり、国際社会はこれを共同で遵守しなければならない。

教員の皆さん、学生諸君

昨年十一月、中国共産党は第十八回全国代表大会を開き、今後の国の発展についての青写真を描き上げた。それは、二〇二〇年までにＧＤＰと都市・農村住民一人当たりの所得を二〇一〇年の二倍にし、中国共産党の

創立百周年を迎える時点で、小康社会を全面的に築き上げ、新中国成立の百周年を迎える際に、富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるというものである。一方、十三億の人口を擁する発展途上の大国として、中国が今後、発展の途上で直面するであろうリスクや挑戦は依然として大きく、厳しいものであろうことを、われわれははっきりと認識している。既定の奮闘目標を実現するには、引き続き並々ならぬ努力を払わなければならない。

中華民族の偉大な復興を実現することは、近代以来中国人民が抱いてきた最も偉大な夢であり、われわれはこれを「中国の夢」と呼んでいる。その基本的内容は、国家の富強、民族の興隆、人民の幸福を実現することである。中華民族は昔から平和を愛する民族である。近代以来、中国人民は百年にもわたる外国の侵略と内乱の苦難を経てきたため、平和の大切さを肌で知っている。中国人民にとって最も必要なのは、平和な環境で国の建設を行い、人々の生活レベルを絶えず改善していくことである。中国は断固として平和的発展の道を歩み、開放的発展、協力的発展、ウインウインの発展を促進するよう努めていく。同時に、世界各国が共に平和的発展の道を歩むよう呼びかける。中国は終始防御を主とする国防政策に則り、軍備競争をせず、いかなる国にも軍事的脅威を与えない。中国の発展や強大化が世界にもたらすのは脅威ではなく、多くのチャンスである。われわれが実現を目指す中国の夢は中国国民だけでなく、各国人民に幸せをもたらすものである。たいへん喜ばしいことに、中国とロシアは互いに最大の隣国同士である。国の発展ビジョンにおいて似通っているところがたくさんある。ロシアは二〇二〇年までに一人当たりのGDPを先進国レベルに到達させるか、またはそれに近づけるという目標を打ち出し、強国富民（国を強くし、人民の生活を豊かにする）という道へ向かって急ピッチで進んでいる。われわれはロシアが一日も早く自国の奮闘目標を実現するよう心から祈っている。繁栄し強大なロシアは中国の利益に合致するだけではなく、アジア太平洋地域および世界の平和と安定にプラスとな

るだろう。

中ロ関係は世界で最も重要な二国間関係であり、しかも最も良好な大国関係である。ハイレベルで力強い中ロ関係は双方の利益に合致するだけでなく、国際的な戦略的バランスと世界の平和と安定の維持にとって、重要な保障となる。双方の二十年以上の絶え間ない努力によって、中国とロシアは全面的な戦略協力パートナーシップを築いてきた。この関係は双方の利益や関心に符合し、両国人民に確実な恩恵をもたらしている。両国は歴史が残した国境問題を徹底的に解決し、「中ロ善隣友好協力条約」に調印し、両国関係の長期的な発展に強固な基礎を固めた。

現在、中国とロシアは共に民族復興という重要な時期に置かれている。両国関係は互いに重要な発展チャンスを提供し合い、互いに優先的な協力パートナーとなる新たな発展段階に入った。新しい情勢の下での中ロ関係の発展について、私の考えでは、次の三つの面に力を入れなければならない。

第一に、未来に向けた関係を揺るぎなく発展させていく。中国とロシアが世々代々にわたって友好を保ち、永遠に敵とならないことは両国人民の共通の願いである。われわれ双方は大所高所から両国関係の発展を統一的に企画すべきである。プーチン大統領は「ロシアは繁栄かつ安定した中国を必要としている一方で、中国も強大かつ成功したロシアを必要としている」と述べているが、まったくその通りだと思う。両国が共同で発展すれば、中ロの全面的戦略協力パートナー関係により広い発展の可能性をもたらし、また、国際秩序と国際的枠組みが公正かつ合理的な方向へ向かって発展していくための、プラスエネルギーを提供することができる。両国はいつでも良い隣人、良き友、良きパートナーでありたい。そのためには、双方は実際行動を取って、相手国の核心的利益の維持、相手国の発展と復興、相手国が国情にふさわしい発展の道を歩むこと、相手国が自国のことを上手に処理することを、断固として支持する。

第二に、協力とウインウインの関係を揺るぎなく発展させていく。中国とロシアは国情が異なり、条件もそれぞれである。双方が密接に協力し、長所を以て短所を補うならば、相乗効果を発揮することができる。昨年、両国間の貿易額は八百八十二億ドルに達し、人的交流数は三百三十万人であった。こうした数字からも、中ロ関係を発展させる巨大な潜在力と明るい見通しがうかがえる。中ロ両国はエネルギー分野における協力を絶えず深めている。十七世紀の「万里の茶の道」〔一〕に次いで、中ロ原油・天然ガス輸送パイプラインは両国を繋ぐ新世紀の動脈となっている。当面、両国はそれぞれ国や地域の発展戦略の相互結合を積極的に推進し、利益が合致するものや協力可能な分野をよりたくさん開拓している。われわれは、両国の協力をエネルギーなどの資源分野から、投資、インフラ整備、ハイテク技術、金融などの分野にまで拡大し、また、商品の輸出入から共同研究開発、共同生産に移行させるよう促進し、両国間の実務レベルの協力を絶えず高めていくべきである。

第三に、両国国民の友好関係を揺るぎなく発展させていく。「国の交わりは民の相親しむに在り」という言葉があるが、人民の深い友情は国家関係を発展させる力の源である。ここで、私は両国人民が互いに助け合った具体的な事例を挙げてみたい。抗日戦争の際、旧ソ連のパイロットであったクリシェンコ（Geligeli Kulishenke）氏は中国人民と肩を並べて戦った。彼は感情を込めてこのように語った。「私はわが国の災禍を体験するかのように、中国の働く人々が今蒙っている災禍を体験している」。彼は中国で勇ましく命を投げ出したが、中国人民はこの英雄を忘れることはない。ある中国人の親子二人が半世紀にわたってその墓を守り続けている。二〇〇四年、ロシアでベスラン人質事件〔二〕が発生した後、中国は一部の負傷した子どもたちを中国に招き、リハビリ治療を施した。これらの子どもたちは中国で行き届いた世話を受けた。これに対して、子どもたちを連れてきたロシア側の医師は「このたび、中国の医師たちに大変世話になったことを、子どもたちはいつまでも忘れないだろう」と語った。二〇〇八年中国四川省の汶川大地震〔三〕が起きた際、ロシアは真っ先に中国に援助

の手を差し伸べ、また、被災地の子どもをロシアの極東地域での療養に招待してくれた。三年前、私がウラジオストクにある「海洋」全ロ児童センターを視察した際、センターの先生やスタッフが中国の子どもたちに心のこもった世話をし、温かな関心を向けていたことをこの目で確認している。中国の子どもたちはロシア人民の友愛と善良を肌で感じたことだろう。中国には「大愛無疆」（大きな愛に境界はない）ということわざがあるが、確かにその通りである。このような感銘を受けた事例はまだたくさんある。こうしたことこそ、両国人民の友情の木の葉を茂らせ、潤すものである。

　中ロ両国は悠久な歴史および燦然と輝く文化を擁している。人的交流は両国人民の友情増進にとって、かけがえのない役割を果たしている。孔子、老子など中国古代の思想家はロシア人民にとってなじみのある人物である。中国の古参革命家はロシア文化の影響を深く受けており、われわれの世代もロシア文学の古典的作品をたくさん読んだ。私も若い頃、プーシキン、レールモントフ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフら文豪の作品を読んで、ロシア文学に魅了された。中ロ両国には深く厚い文化交流の基盤がある。

　青年は国の未来であると同時に、世界の未来、また、中ロ友好事業の未来でもある。今回のロシア訪問期間中、私とプーチン大統領は共に二〇一四年と二〇一五年を両国が中ロ青年友好交流年とすることを発表した。中国側はモスクワ国際関係学院の学生を含むロシア大学生代表団の訪中を招請するだろう。ご来場の学生諸君はロシア青年のエリートである。私は、より多くの中ロ青年が中ロ友情のバトンを受け継ぎ、積極的に両国人民の友好事業に身を投じるよう期待している。

　教員の皆さん、学生諸君

　ロシアには「大船であれば必ず遠くへ航行できる」ということわざがあるが、中国には「長風波を破る会(かなら)ず時あり、直ちに雲帆(うんぱん)を掛けて滄海(そうかい)を済(わた)らん（長風が吹いて浪を破り進んでいく時が必ず来る。すぐに高く帆を

掲げ、青い海を渡ろう)」〔四〕という漢詩がある。両国政府と人民が共に努力する下で、中ロ関係は必ず時代の流れに乗り、困難を排除して絶えず前に向かって進んで行くだろう。そうなれば、両国国民に幸福をもたらすだけでなく、世界の平和と発展をも大いに促すことだろう。
ご清聴、ありがとうございました。

〔注〕

〔一〕万里の茶の道は、明末・清初に山西省の商人が開拓した茶の通商ルートである。このルートは中国の福建省からロシアのキャフタを経由して、サンクトペテルブルグにまで至る。その沿線には二百余りの都市があり、総延長は一万三千キロ、シルクロードと並ぶ重要な国際通商ルートである。

〔二〕ベスラン人質事件は、二〇〇四年九月一日、ロシア南部の北オセチア共和国ベスラン市のベスラン第一中等学校で起きたテロ襲撃事件を指す。この事件によって、三百人以上の人質が死亡した。

〔三〕汶川大地震は、二〇〇八年五月十二日十四時二十八分四秒、中国の四川省汶川県で起きたマグニチュード八・〇の大地震。震源地は汶川県映秀鎮の南西三十八度より十一キロ離れたところ。地震により極めて大きな被害を受けた。二〇〇八年九月二十五日までに確認された死亡者は六万九千二百二十七人、負傷者は三十七万四千六百四十三人、行方不明者は一万七千九百二十三人。地震による直接的な経済損失は八千四百五十一億元に達した。

〔四〕李白の『行路難三首(其の一)』を参照。

中米両国の新型大国関係を構築しよう

（二〇一三年六月七日）

米国のオバマ大統領との共同記者会見での談話の要旨

先ほど、私とオバマ大統領は最初の会談を行い、それぞれの内外政策、中米の新型大国関係および共に関心を寄せる重要な国際・地域問題について率直で突っ込んだ意見交換を行い、重要な合意に達した。

中国が断固として平和的発展の道を歩み、断固として改革を深化し、開放を拡大し続けるとともに、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に努め、人類の平和・発展という崇高な事業の促進に努めていくということを、私はオバマ大統領にはっきりと伝えた。

中国の夢とは、国家の富強、民族の興隆、人民の幸福を実現するものであり、平和・発展・協力・ウインウインの夢であり、アメリカン・ドリームを含む世界各国の人々の麗しい夢と相通じるものである。

経済のグローバル化の急速な進展や、各国による世界的課題への共同対処という客観的必要性を前にして、中米両国は歴史上大国同士が衝突・対立してきたものとは異なる新しい道を歩むべきであり、それが可能であるとの考え方でオバマ大統領と一致した。そして双方は新型大国関係を構築し、相互に尊重し、協力・ウインウインを図り、両国および世界各国の人々に幸福をもたらすよう共に努力することで合意した。国際社会も中

米関係が絶えず改善・発展していくことを期待している。中米両国がうまく協力することができれば、世界の安定を保つ「バラスト（重し）」、世界平和を促す「ブースター（推進装置）」となれる。

各レベルの対話とコミュニケーションを強化し、相互理解と信頼を絶えず深めていくことで双方は合意した。私とオバマ大統領は今後も、相互訪問・会合・電話・通信などの手段を通じて緊密な関係を保っていく。次回の会談を行うため、適切な時期に訪中するようオバマ大統領に要請した。私とオバマ大統領は相互訪問を早期に実現する。双方の代表団は緊密に連携し、次回の中米の戦略・経済対話、文化や人的交流に関するハイレベル協議が前向きな成果を収めるよう努力する。中国の国防部部長と外交部部長も招きに応じて米国を訪問するだろう。

経済・貿易やエネルギー・環境・文化・地方など幅広い分野の協力を強化し、利益を全面的に共有する枠組みを深め、両国の軍事関係を改善・発展させ、新型の軍事関係の構築を推進し、マクロ経済政策の調整を強化し、両国の経済発展のプロセスにおける協力分野を拡大し、アジア太平洋地区および世界経済の力強い、持続可能な、バランスのとれた成長を促していくことで双方は合意した。

事の成否は人次第である。私は中米両国が新型大国関係を構築することに自信を持っている。まず、双方とも新型大国関係を構築する政治的意欲を持っている。二番目として、四十年以上に上る双方の協力の蓄積によって、両国の協力は非常に好ましい基盤を持っている。三番目として、双方は戦略と経済対話、文化および人的交流に関するハイレベル協議など九十あまりの対話・意思疎通の仕組みを確立しており、新型大国関係を構築するための制度的保障を提供している。四番目として、双方の二百二十組あまりの省と州、都市が友好関係を結んでいる。中国の学生十九万人近くが米国に留学し、米国の学生二万人余りが中国に留学している。中米の新型大国関係を構築するための厚い民意の基礎が整っている。五番目として、今後両国には幅広い協力を進

める余地がある。
中米の新型大国関係を構築した先人はおらず、後人が取り組んでいかなければならない。中米は対話を強化し、相互信頼を深め、協力を推進し、食い違いを管理・コントロールする過程において、新型大国関係の構築を絶えず推進していく必要がある。
中華民族とアメリカ民族は偉大な民族であり、両国人民は偉大な人民である。双方が決意を固め、自信を持ち、忍耐力と英知を保ち、大きいところに目をつけ大所高所に立ちながら、また、小さいところから手をつけ少しずつ積み重ねていけば、必ずこの事業を成就することができると私は信じている。
中国はハッカー攻撃の被害国である。一方、中国はインターネットのセキュリティーを断固として守る保護者である。中米双方はインターネットのセキュリティーに対して、共に関心を寄せている。双方は中米戦略安全保障対話の枠内でインターネット・ワークグループを設置し、この問題についての研究を加速していくことを決めた。双方は邪推をなくし、協力を進め、インターネットのセキュリティーが中米協力の新しい注目分野になるよう努力すべきである。

ユーラシア大陸に友好と協力の橋を架けよう

（二〇一四年四月一日）

ブルージュの欧州学院での演説の一部

中国と欧州は万里も隔たっているが、同一の時空に生活しており、至るところで密接な関係を持っている。現在、中国と欧州連合（ＥＵ）は共に発展の重要な時期にあり、これまでにないチャンスと挑戦に直面している。先ほど、私は、われわれは欧州の友人と共に、ユーラシア大陸に友好と協力の橋を架けることを願っている」と語った。われわれは共に努力して、平和、成長、改革、文明という四つの懸け橋を架け、世界的な影響力を持つ中国とＥＵの全面的戦略パートナー関係を築いていかなければならない。

――われわれは平和と安定の橋を架け、中国とＥＵという二つのパワーを結合すべきである。中国とＥＵを合わせると、その面積は全世界の十分の一、人口は四分の一を占める。また、国連安保理で三つの常任理事国の席を有する。戦争ではなく平和を求め、一国主義ではなく多国主義を求め、対抗ではなく対話を求めることは、双方の共通した認識である。われわれはグローバル化問題におけるコミュニケーションや協調を強化し、世界の平和と安定を維持するためにカギとなる役割を果たすべきである。文明と文化を広めることができるように、世界平和と発展も広めることができる。平和の陽光で戦争の暗雲を払い、繁栄のたいまつで世界経済の春の冷え込

みを暖め、全人類が平和的発展と協力・ウインウインの道を歩むように促すため、中国はEUと共に努力していきたい。

――われわれは繁栄と成長の橋を架け、中国とEUという二つの市場を結び付けなければならない。中国とEUはGDPを合わせると世界経済の三分の一を占める、世界で最も重要な二つの経済体である。われわれは共に市場開放を堅持し、投資協定に関する交渉を加速させ、自由貿易区の整備を積極的に検討し、二〇二〇年までに双方の貿易総額が一兆ドルに達するという壮大な目標を実現するよう努めなければならない。また、われわれは、中国・EU間の協力とシルクロード経済ベルトの整備を結び付けることも積極的に検討し、ユーラシア大陸という大市場の構築を目指し、この大陸の人的資源、企業、資金、技術を生かして、活気があふれる大陸とすると同時に、中国とEUが世界経済成長のツイン・エンジンになるようにしなければならない。

――われわれは改革と進歩の橋を架け、中国とEUで行われているそれぞれの改革の足並みをそろえるべきである。中国とEUは人類史上未曾有の改革プロセスを経験しており、先人が歩んだことのない道を歩んでいる。双方はマクロ経済、公共政策、地域発展、農村部の発展、社会・民生などの分野における対話と協力を強化し、改革の道を互いに尊重し合い、改革の経験を互いに分かち合い、各自の改革によって、世界の発展と進歩を促していくべきである。

――われわれは文明と共栄の橋を架け、中国と欧州という二つの文明を結び付けるべきである。中国は東洋文明の重要な代表者であるが、欧州は西洋文明の発祥地である。中国人が茶を好むように、ベルギー人はビールを好む。奥深くかつ控えめである茶と、情熱的かつ奔放である酒は、それぞれに人生を味わい、世界を読み取る二つ異なる様式を代表している。ところが、茶と酒を融合させることは不可能ではない。「酒は知己と飲めば千杯でも足りない」と同時に、「茶を味わい人生を味わう」こともできる。中国は「和して同ぜず」〔二〕と言い、

ＥＵは「多元一体」を強調している。人類の各種文明の花を咲かせるために、中国とＥＵは共に努力していかなければならない。

世界情勢がいかに変化しようと、中国は終始、欧州の一体化プロセスを支持し、団結・安定・繁栄したＥＵが、国際問題でより大きな役割を果たすことを一貫して支持していく。中国はまもなく二番目の対ＥＵ政策に関する文書を発表する。この文書は改めて中国がＥＵおよび欧州との関係発展を非常に重視していることを強調している。昨年、中国とＥＵは「中国・ＥＵ協力二〇二〇戦略計画」を策定し、百近くの分野で一連の壮大な協力目標を打ち出した。双方は、こうした青写真を現実に変え、今後十年の中国とＥＵの関係をより麗しいものにするよう、共に努力すべきである。

〔注〕

〔一〕　本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔一〕参照。

第十三章
周辺諸国との外交関係を上手に進める

共に「シルクロード経済ベルト」を建設しよう

（二〇一三年九月七日）

ナザルバエフ大学での演説の一部

二千百年余り前、中国の漢の時代の張騫が平和・友好の使命を担い、二度にわたり使節として中央アジアを訪問し、中国と中央アジア諸国の友好往来の扉を開き、東西に横断してヨーロッパとアジアを結ぶシルクロードを切り開いた。

私の故郷陝西省は、古代シルクロードの起点に位置している。ここに立って、歴史を振り返ると、山間にこだまするラクダの鈴の音が聞こえ、大砂漠にゆらゆらと立ち上る煙が見えるようだ。それは私に非常な親しみを感じさせる。

カザフスタンの大地は、古代シルクロードが通っていたところで、かつて東西の文明をつなぎ、異なる民族、異なる文化の相互交流と協力を促すのに重要な貢献をした。東西の使節、隊商、旅人、学者、工匠の往来が絶えず、沿線の各国は有無相通じ、互いに学び、参考にし、共に人類文明の進歩を図った。

古代シルクロード上の古都、アルマトイには冼星海(一)通りがあり、一つの物語が伝えられている。一九四一年大祖国防衛戦争が勃発し、中国の有名な音楽家冼星海は転々としてアルマトイにたどり着いた。見知らぬ土地

で、貧しさと病にさいなまれている時、カザフの音楽家バイカダモフが彼を引き取り、温かい家に住まわせてくれた。
アルマトイで、冼星海は『民族解放』『神聖な戦い』『満江紅』など有名な作品を創作するとともに、カザフの民族英雄オマンギャルドの史話をもとに、交響詩『オマンギャルド』を創作し、ファシズムに抵抗・反撃するため戦うよう人々を励まし、地元の人々に幅広く歓迎された。
長い年月にわたって、この古代シルクロードで、各国人民は語り継がれる友好の編章を共につづってきた。二千余年の交流の歴史で証明されたように、連帯・相互信頼、平等互恵、包容・相互参照、協力・ウインウインを堅持しさえすれば、異なる種族、異なる信条、異なる文化的背景の国が完全に平和を共有し、共に発展することが完全に可能である。これは古代シルクロードがわれわれに残した貴い教えである。
二十余年来、中国とユーラシア諸国の関係の急速な発展に伴い、古いシルクロードが日増しに新たな生気と活力をみなぎらせ、新しい形で、中国とユーラシア諸国の互恵協力を絶えず新たな歴史的高みに押し上げている。
遠くの親戚より近くの隣人という。中国と中央アジア諸国は山河が連なった友好的隣邦である。中国は中央アジア諸国との友好協力関係を大いに重視し、それを外交の優先的方向と見なしている。
目下、中国と中央アジア諸国の関係は得難い発展のチャンスを迎えている。われわれは中央アジア諸国と共に、絶えず相互信頼を増進し、友好を強固にし、協力を強化して、共同の発展と繁栄をはかり、各国人民の幸福を図ることを願っている。
――われわれは代々の友好を堅持し、調和の取れた、睦まじいよき隣人になるべきだ。中国はあくまでも平和的発展の道を歩み、揺るぎなく独立自主の平和外交政策を取っていく。われわれは各国人民が自主的に選ん

だ発展の道とその内外政策を尊重し、決して中央アジア諸国の内政に干渉しない。中国は地域の問題における主導権を求めず、勢力圏を作らない。われわれはロシアおよび中央アジア諸国との意思疎通と協調を強め、共に調和の取れた地域づくりのためにたゆまぬ努力を払うことを願っている。

――われわれは揺るぎなく相互に支持し合い、心から信頼し合うよき友人になるべきだ。国の主権、領土保全、安全・安定など重要な核心的利益にかかわる問題で、相互に支持し合うことは、中国と中央アジア諸国の戦略的パートナーシップの本質と重要な内容である。われわれは二国間と上海協力機構（ＳＣＯ）〔二〕の枠組み内で各国との相互信頼を強め、協力を深め、力を合わせて「三つの勢力」〔三〕、麻薬密輸、国際的組織犯罪を取り締まり、地域の経済発展と人民が心安らかに暮らし楽しく働けるためのよい環境を整えることを願っている。

――われわれは実務協力を大いに強化し、互恵・ウインウインに基づくよきパートナーになるべきだ。中国と中央アジア諸国は共に大事な発展段階にあり、かつてないチャンスを迎え、チャレンジに直面している。われわれは共に自国の国情に合った中長期の目標を打ち出している。われわれの戦略的目標は一致しており、それは経済の長期的、安定的発展を確保し、国家の繁栄・富強と民族の振興を実現することにほかならない。われわれは実務協力を全面的に強化し、政治関係の強み、地理的に隣接している強み、経済面の相互補完の強みを実務協力の強み、持続的成長の強みに転化させ、互恵・ウインウインに基づく利益共同体を築くべきだ。

――われわれはより大きな度量とより広い視野をもって地域協力を広げ、共に新たな栄光を築いていくべきだ。目下、世界経済の融合が加速し、地域協力が深まりつつある。ユーラシア地域にはすでに複数の地域協力組織が出来ている。ユーラシア経済共同体（ＥＡＥＣ）と上海協力機構の加盟国とオブザーバー国はユーラシア、南アジア、西アジアに跨がっており、上海協力機構とユーラシア経済共同体の協力強化によって、われわれはより大きな発展の空間を獲得できる。

われわれユーラシア各国の経済的つながりをいっそう緊密にし、相互協力をいっそう深め、発展空間をいっそう広々としたものにするため、われわれは革新的な協力モデルによって、「シルクロード経済ベルト」を共同で建設することができる。これは沿線の各国人民に幸せをもたらす大事業である。まず以下のいくつかの面から始めて、点で面を引っ張り、線から面へと広げ、地域の大協力を徐々に作り上げることができる。

第一に、政策における意思疎通を強化する。各国は経済発展戦略と対策について十分な交流を行い、小異を残して大同につく原則に則り、協議によって地域協力推進の計画と措置を定め、政策面と法律面で地域経済融合の「ゴーサイン」を出すことができる。

第二に、鉄道の連係を強化する。上海協力機構は現在交通円滑化協定について協議中だ。この文書に早急に調印し、それを実行に移すことで、太平洋からバルト海に至る大輸送ルートが開かれるだろう。これを基礎に、われわれは各国と国境を越えた交通インフラの整備を積極的に検討し、徐々に東アジア、西アジア、南アジアをつなぐ交通輸送網を形成し、各国の経済発展と人的往来の利便を図ることを願っている。

第三に、貿易をよりスムーズにする。シルクロード経済ベルトの総人口は三十億に近く、その市場規模と潜在力は唯一無二だ。各国の貿易や投資分野の協力の潜在力は極めて大きい。各国は貿易と投資の円滑化問題で検討を進めるとともに適当な手配をして、貿易障壁を取り除き、貿易と投資のコストを引き下げ、地域経済の循環のスピードと質を高め、互恵・ウインウインを実現すべきである。

第四に、通貨の流通を強化する。中国とロシアなどは自国通貨による決済面で良好な協力を繰り広げ、喜ばしい成果を収め、また豊富な経験を積んだ。この良いやり方は押し広める必要がある。もし各国の経常取引と資本取引における自国通貨の交換性と決済が実現すれば、流通コストを大きく引き下げ、金融リスクへの抵抗力を強め、地域経済の国際競争力を高めることができる。

第五に、人民の心がより通じ合うようにする。国の交わりは民の相親しむにあるという。上に述べた分野の協力をうまく進めるには、各国人民の支持を得なければならず、人民の友好往来を強化し、相互理解と伝統的友情を増進し、民意と社会の面で地域協力のためのしっかりとした基礎を築かなければならない。

〔注〕

〔一〕冼星海（一九〇五～一九四五）、原籍は広東省番禺（今の広東省広州市の一区）、現在の澳門特別行政区出身。中国現代の音楽家。

〔二〕上海協力機構とは、中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの六カ国による政府間国際機構のことである。二〇〇一年六月十五日に上海にて設立。前身は「上海ファイブ」（ウズベキスタンを除く五カ国）の首脳会談。加盟国間の相互信頼と善隣友好を強化し、政治や経済、科学技術、文化、教育、エネルギー、交通、環境保護およびその他の分野における加盟国間の効果的な協力を進め、地域の平和、安全、安定を維持し、保障し、民主的で公正かつ合理的な国際政治や経済の新たな秩序の構築を推進することを趣旨としている。毎年一回、加盟国の元首による公式会談を開き、また定期的に政府首脳会談が開かれている。会談は各加盟国の持ち回りで行われている。

〔三〕「三つの勢力」とは、テロリスト、分裂勢力、宗教過激勢力のことである。

共に「二十一世紀海上シルクロード」を建設しよう

（二〇一三年十月三日）

インドネシア国会での演説の一部

中国と東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）諸国は国土が相連なる隣国であり、血がつながり親しい。今年は中国・ＡＳＥＡＮ戦略的パートナーシップ確立十周年にあたり、中国とＡＳＥＡＮの関係はいま歴史の新たなスタートラインに立っている。

中国はインドネシアのＡＳＥＡＮにおける地位と影響力を非常に重視しており、インドネシアをはじめとするＡＳＥＡＮ諸国と共に努力して、双方が盛衰と安危を共にし、同舟相救うよき隣人、よき友人、よきパートナーとなることを願い、さらに手を携えてより緊密な中国・ＡＳＥＡＮ運命共同体を構築し、双方と地域の人々により多くの福祉をもたらすことを願っている。

そのために、以下のいくつかの面で努力を払わなければならない。

第一に、信義重視・修好を堅持する。人と人の行き来では言ったことを守るのが大事で、国と国の付き合いでは信義を重んじることが基本である。中国はＡＳＥＡＮ諸国と誠意をもって接し、友好的に付き合い、政治的、戦略的相互信頼を絶えず強固にすることを願っている。

世界にはどんな所に置いてもみな正しいという発展モデルはなく、いったん出来上がれば二度と変わらない発展の道もない。中国とＡＳＥＡＮ諸国の人民は勇敢に変革・刷新し、絶えず開拓・進取の精神で、時代の流れに沿い、自国の現実に合った道を模索、開拓し、経済・社会発展の明るい展望を切り開いた。

われわれは、社会制度と発展の道を自主的に選択する互いの権利を尊重し、経済・社会の発展を図り人民の生活を改善するそれぞれの模索と実践を尊重すべきである。そして相手の戦略的方向に対する揺るぎない自信を持ち、相手が多大な関心をもつ問題において互いに支持し、中国・ＡＳＥＡＮの戦略的協力の大方向をしっかりとつかむべきである。

中国はＡＳＥＡＮ諸国と善隣友好協力条約の締結について話し合い、善隣友好の素晴らしい青写真を共同で描き上げることを願っている。中国はこれまで通り、ＡＳＥＡＮの発展・拡大を支持し、ＡＳＥＡＮ共同体の構築をバックアップし、ＡＳＥＡＮが地域協力で主導的役割を果たすことを支持する。

第二に、協力・ウインウインを堅持する。「利を計るなら、天下の利を計るべきだ」[二]という。中国は平等互恵を基礎に、ＡＳＥＡＮ諸国への開放を拡大し、自国の発展がＡＳＥＡＮ諸国によりよく恩恵を及ぼすようになることを願っている。中国は中国・ＡＳＥＡＮ自由貿易圏のグレードを引き上げ、二〇二〇年の中国・ＡＳＥＡＮ貿易額一兆ドルの実現を願っている。

中国はＡＳＥＡＮ諸国との相互アクセスの強化に力を尽くしている。中国はアジアインフラ投資銀行の設立を提唱し、ＡＳＥＡＮ諸国を含めて、この地域の発展途上国がインフラの相互アクセスの体制作りを進めることを支援したいと考えている。

東南アジア地域は昔から「海上シルクロード」の重要な中枢だった。中国はＡＳＥＡＮ諸国と海上での協力を強化し、中国政府が設立した中国・ＡＳＥＡＮ海上協力基金を活用して、海洋協力のパートナーシップを発

展させ、共に「二十一世紀海上シルクロード」を建設することを願っている。中国はＡＳＥＡＮ諸国との各分野における実務協力の拡大を通じて、有無相通じ、相互に補完し合い、ＡＳＥＡＮ諸国とチャンスを共有し、共に試練を迎え、共同の発展と繁栄を実現することを願っている。

第三に、互いに見守り助け合うことを堅持する。中国とＡＳＥＡＮ諸国は唇歯輔車（しんしほしゃ）の関係にあり、地域の平和と安定を共同で守る責任を負っている。歴史上、中国とＡＳＥＡＮ諸国の人民は民族の運命を握る戦いで、肩を並べて戦い、苦難を共にしてきた。近年、アジア金融危機への対応から世界的金融危機への対応まで、インド洋大津波とのたたかいから中国四川省の汶川大地震との闘いまで、われわれ各国人民は肩を並べ、手を取り合って、強大な相乗力を形成した。

われわれは冷戦思考を捨て、総合的安全保障、共通の安全保障、協力による安全保障という新しい理念を積極的に提唱し、地域の平和と安定を共に守るべきである。防災・救災、ネットセキュリティー、国際犯罪取り締まり、合同法執行などの面での協力を深化させ、地域の人民のためにいっそう平和で、安寧で、温かいふるさとを築くようにすべきである。

中国はＡＳＥＡＮ諸国と中国・ＡＳＥＡＮ国防相会議の仕組みをいっそう完全なものにし、地域の安全保障の問題について定期的に対話を行うことを願っている。

中国と東南アジアの一部の国に、領土主権と海洋権益の面で存在する意見の食い違いや係争については、双方が常に平和的方法で、平等な対話と友好的協議を通じてこれを適切に処理し、双方の関係と地域の安定という大局を守るようにすべきである。

第四に、互いの心が通じ合うことを堅持する。「合抱の木も、毫末より生じ、九層の台も、累土より起こる（一抱えもある大木も、元は毛先ほどの芽から生じ、九階建ての高楼も、土台づくりから始まる）」〔二〕という。中国

とASEANの友情の樹がいつまでも青々と生い茂るには、双方の関係の社会的土壌を突き固めなければならない。昨年、中国とASEAN諸国の人的往来は延べ千五百万人に達し、毎週千便余りの航空機が中国とASEAN諸国の間を往復した。行き来が増え、きずなが深まってこそ、心と心がより近くなる。

われわれは青年、シンクタンク、議会、非政府組織（NGO）、社会団体などの友好交流を促進し、中国・ASEAN関係発展のためにより多くの知的サポートを提供し、人民の理解と友情を増進すべきである。中国はASEANにより多くのボランティアを派遣し、ASEAN諸国の文化、教育、衛生、医療などの分野の事業を支援したいと考えている。また二〇一四年を中国・ASEAN文化交流年とすることを提唱している。今後三年から五年の間に、中国はASEAN諸国に一万五千人の政府奨学金枠を提供することにしている。

第五に、開放・包容を堅持する。「海は百川を納め、容の大なる有り（海は数え切れない程多くの川を受け入れ、それは広大である）」という。長い歴史のプロセスで、中国とASEAN諸国の人民は豊富多彩で、世界に誉れ高い輝かしい文明を生み出した。ここは多様性に満ちた地域で、さまざまな文明が相互に影響する中で融合、進化し、中国とASEAN諸国の人民が互いに学び、互いに参考にし合い、互いに促進し合うための重要な文化的基盤をつくりあげている。

われわれは他の地域の発展の経験を積極的に参考にし、域外の諸国がこの地域の発展と安定のために建設的な役割を果たすことを歓迎すべきである。同時に、域外の諸国もこの地域の多様性を尊重し、もっとこの地域の発展と安定に役立つことをすべきである。中国・ASEAN運命共同体とASEAN共同体、東アジア共同体は切っても切れない関係にあり、それぞれの強みを生かし、多元的共生、包括的共進を実現し、共に地域の人民と世界各国の人民に幸せをもたらすようにすべきである。

いっそう緊密な中国・ASEAN運命共同体は、平和を求め、発展をはかり、協力を促し、ウインウインを

図る時代の流れに合致し、アジアと世界の各国人民の共通の利益に合致し、広々とした発展の余地と極めて大きい発展の潜在力をもっている。

〔注〕

〔一〕 于右任が蒋経国に贈った書。原文は「計利当計天下利、求名応求万世名」（利を計るなら天下の利を計るべきで、名を求めるなら万世の名を求めるべきだ）。于右任（一八七九～一九六四）、陝西省三原出身。中国国民党の元老。蒋経国（一九一〇～一九八八）、浙江省奉化出身。中国国民党主席を務めた。

〔二〕『老子』第六十四章を参照。

親密、誠実、恩恵、包容の周辺外交の理念を堅持する

（二〇一三年十月二十四日）

周辺外交活動座談会における談話の要旨

周辺外交活動への取り組みは「二つの百周年」[1]の奮闘目標の実現および中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に必要なことであり、いっそう高い志をもって周辺外交を推し進め、わが国の発展のために良好な周辺環境を勝ち取り、わが国の発展が周辺諸国により多くの恩恵をもたらすようにし、共同の発展を実現しなければならない。

新中国成立後、毛沢東同志を核心とする党の第一世代中央指導グループ、鄧小平同志を核心とする党の第二世代中央指導グループ、江沢民同志を核心とする党の第三世代中央指導グループ、胡錦濤同志を総書記とする党中央は、いずれも周辺外交を非常に重視し、一連の重要な戦略思想と方針・政策を打ち出し、わが国全体にとって有利な周辺環境を切り開き、発展させて、われわれが引き続き周辺外交活動に取り組むための強固な基礎を築いた。中国共産党第十八回全国代表大会以降、党中央は外交の大方針の連続性と安定性を維持した上で、外交全体について積極的に作戦を練り、わが国の発展の大局と外交全体における周辺諸国の重要な役割を際立たせ、一連の重要な外交活動を展開してきた。

地理的位置、自然環境から見ても、相互関係から見ても、周辺はわが国にとって極めて重要な戦略的意義を持っている。周辺問題を考え、周辺外交を進める時には、立体的、多元的で、時空を越えた視点を持つことが必要である。わが国の周辺の情勢を見ると、周辺環境は大きく変化し、わが国と周辺諸国の関係は大きく変化しており、わが国と周辺諸国との経済・貿易のつながりはいっそう緊密になり、相互作用はかつてなく密接になっている。このことは客観的に、われわれの周辺外交の戦略と活動が時代と共に進み、いっそう主動的になることを求めている。

わが国の周辺は生気と活力に満ち、はっきりした発展の優位性と潜在力を持っており、わが国の周辺環境は全体として安定し、善隣友好、互恵協力が周辺諸国の対中関係の主流である。われわれは大勢を考え、策略を重んじ、作戦を重んじ、周辺外交の活動をいっそうしっかりと行わなければならない。

わが国の周辺外交の戦略目標は、「二つの百周年」の奮闘目標の実現と中華民族の偉大な復興の実現に従い、それに貢献して、周辺諸国との関係を全面的に発展させ、善隣友好を強固にし、互恵協力を深め、わが国の発展の重要な戦略的チャンスの時期を守り、国家の主権・安全・発展の利益を守ること、そして周辺とわが国の政治関係をいっそう友好的に、経済的絆をいっそう強固に、安全のための協力をいっそう深く、人的・文化的つながりをいっそう緊密にすることにほかならない。

わが国の周辺外交の基本方針は、あくまでも善意をもって隣国に接し、隣国をパートナーとすること、あくまでも隣国を仲間と見なし、隣国と親しみ、隣国を安心させ、隣国を豊かにし、親密、誠実、恩恵、包容の理念を体現することにほかならない。周辺諸国との善隣友好関係を発展させることは、わが国の周辺外交の一貫した方針である。善隣友好、見守り助け合うことを堅持すべきだ。平等を重んじ、感情を重んじるべきだ。常に顔を合わせ、少しでも多く行き来すべきだ。少しでも多く人心を得、人心を温めるようなことをし、周辺諸

国がわが国により懇ろで、近づき、わが国をより認め、サポートしてくれるようにし、親和力、感化力、影響力を強めるようにすべきだ。誠心誠意周辺諸国に相対し、より多くの友人とパートナーを獲得すべきだ。互恵互利の原則に則って、周辺諸国との協力を繰り広げ、いっそう緊密な共通利益のネットワークを築き、双方の利益の融合をより高いレベルに引き上げ、周辺諸国がわが国の発展から利益を受けるよう、また周辺諸国の共同発展がわが国に役立ち、助けとなるようにすべきだ。包容の思想を提唱し、アジア太平洋の大きな空間の下でみなが共同発展することを強調し、いっそう胸襟を開き、いっそう前向きな態度で地域協力を促進すべきだ。これらの理念をまずわれわれ自身が実行し、それを地域の国々がよりどころとし、遵守する共通の理念、行動準則とするようにする。

新たな情勢下の周辺外交活動への取り組みでは、戦略的見地から問題を分析、処理し、全体の舵取り、統一的企画、運用・実施の能力を高めて、周辺外交を全面的に推し進めるようにすべきである。周辺の平和・安定の大局を重点的に守るべきだ。平和的発展の道を歩むことは、わが党が時代の潮流とわが国の根本的利益に基づいて行った戦略的選択であり、周辺の平和・安定を守ることは周辺外交の重要な目標である。

互恵・ウインウインの枠組みの深化に力を入れるべきだ。経済、貿易、科学技術、金融などの資源を統一的に考え、比較優位をうまく生かし、周辺諸国との互恵協力深化の戦略的接点を的確に見つけ、地域経済協力に積極的に参加すべきだ。関係諸国と共に努力して、インフラの相互アクセスを加速し、シルクロード経済ベルト、二十一世紀海上シルクロードを立派に建設すべきだ。周辺を基礎に自由貿易圏戦略の実施を急ぎ、貿易、投資分野の協力の可能性を広げ、地域経済一体化の新しい枠組みを築くべきだ。地域金融協力を絶えず深化させ、アジアインフラ投資銀行の設立準備を積極的に進め、地域の金融セーフティーネットを整備すべきだ。国境地帯の開放を加速し、国境沿いの省・自治区と周辺諸国の互恵協力を深めるべきだ。

地域の安全保障協力の推進に力を入れるべきだ。わが国と周辺諸国は隣同士であり、安全保障協力は共に必要なことだ。相互信頼、互恵、平等、協力に基づく新しい安全保障観を堅持し、全面的安全保障、共通の安全保障、協力による安全保障の理念を提唱し、周辺諸国との安全保障協力を推し進め、地域とサブ地域の安全保障協力に進んで参加し、関係する協力メカニズムを深化させ、戦略的相互信頼を増進すべきだ。

周辺諸国に対する広報活動、公共外交、民間外交、人的・文化的交流の強化に力を入れ、わが国と周辺諸国の関係を長期的に発展させる社会・民意の基盤を強固にし、拡大すべきだ。関係が親密かどうかのカギは民心にある。全方位で人的・文化的交流を推し進め、観光、科学・教育、地方協力などの友好往来を深く繰り広げ、広く友と交わり、広くよい縁を結ぶべきだ。対外的にわが国の内政・外交の方針・政策を上手に紹介し、中国の事情を上手に説明し、中国の声を上手に伝え、中国の夢と周辺各国人民のよりよい生活への願いや地域発展の展望をリンクさせ、運命共同体の意識を周辺諸国に根付かせるべきだ。

政策と策略は党の生命であり、外交活動の生命でもある。外交活動をしっかり行うには、国内、国際二つの大局を念頭に置いておかなければならない。国内の大局とは、「二つの百周年」の奮闘目標、中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢である。国際的大局とはわが国の改革・発展・安定のために良好な外部条件を勝ち取り、国家の主権、安全、発展の利益を守り、世界の平和・安定を守り、共同の発展をはかることである。利益の共通点と合流点を見つけ、正しい義利観（道義と利益の関係を正しく処理する考え方）を堅持し、原則を踏まえ、情誼を重んじ、道義を重んじ、発展途上国に力の及ぶ限り多くの援助を提供すべきだ。外交活動の改革・刷新を推し進め、外交活動の企画・設計を強化し、最大の効果を得るよう努力すべきだ。外交活動の統一的計画、しっかりと全般的考慮をし、各方面を上手に組織、調整して、それぞれの強みを生かすよう留意し、外交活動をよりよく進めるようにしなければならない。

周辺外交の任務は困難で重く、外交活動に携わる同志たちは責任感、使命感、緊迫感を強め、趣旨を銘記し、能力を高め、活動姿勢を練磨し、また貢献を重んじ、敢然と引き受け、果敢に革新して、いっそう積極的かつ有意義に周辺外交活動に取り組まなければならない。

〔注〕

〔一〕　二〇二一年の中国共産党創立百周年までに小康（ややゆとりのある）社会を全面的に築き上げること、二〇四九年の建国百周年までに富強、民主、文明、調和の取れた社会主義現代化国家を築き上げること。

第十四章

発展途上国との団結・協力を強化

いつまでも信頼できる友人、誠実なパートナーであり続ける

（二〇一三年三月二十五日）

タンザニアのニエレレ国際コンベンションセンターでの演説

尊敬するキクウェテ大統領
ご在席の皆さん
ハバリ(一)！ ハバリ！ 今日、タンザニアのニエレレ国際コンベンションセンターで皆さんと顔を合わせることができ、たいへん嬉しく親密に感じている。
今回は中国国家主席に就任後初めてのアフリカ訪問であるが、私にとってアフリカを訪れるのは六回目である。タンザニアの美しい土地に足を踏み入れたとたん、タンザニア人民の中国人民に対する熱意あふれる友情を感じ取った。タンザニア政府と人民は特別に盛大な歓迎式典を行ってくださった。これは私と中国代表団に対する重視ということだけでなく、中国・タンザニア両国と両国人民の長年の深い友情をも示している。
まず、私は謹んで中国政府と人民を代表して、そして私個人の名義で、ご在席の皆さんに、兄弟のようなタンザニア人民とアフリカ人民に真摯な挨拶と祝福を捧げたいと思う。また、今回の訪問のために念入りな手配をし、熱意あふれるもてなしをしていただいたキクウェテ大統領とタンザニア政府に感謝を申し上げたい。

タンザニアは人類発祥地の一つである。タンザニア人民は光栄ある伝統を持ち、アフリカ人民が民族独立を勝ち取り、人種隔離政策とのたたかいに勝利するために大きな貢献をした。

近年、キクウェテ大統領の指導の下で、タンザニアの政局は安定を保ち、建設事業が日増しに向上発展しており、アフリカおよび国際事務において重要な役割を果たしている。中国人民はこれらの成果を心から喜び、兄弟のようなタンザニア人民が絶えずより大きな成果を収めるよう祈っている。

アフリカに来ていつも特に印象深いことが二つある。一つには来るたびに新しくなっていること。毎回アフリカに来るたびに新たな発展と変化が痛切に感じられ、興奮させられる。二つには熱い友情。中国人民に対するアフリカ人民の心からの友情は、アフリカの陽光のように温かく熱意にあふれ、忘れがたいものである。

アフリカには「川は源泉があるからこそ深く流れる」ということわざがある。中国とアフリカの友好交流には長い歴史がある。一九五〇年代から一九六〇年代にかけて、毛沢東、周恩来〔二〕ら新中国の第一世代の指導者と当時のアフリカの政治家が共に中国・アフリカ関係の新紀元を切り開いた。その時から、中国人民とアフリカ人民は植民地主義と帝国主義に反対し、民族の独立と解放を勝ち取る闘争の中で、また発展・振興の途上で、互いに支え合い、誠意を持って協力し、生命や運命を共にし、心を一つにした兄弟の情誼を結んできた。

今日、双方の努力の下で、中国・アフリカ関係は全面的かつ急速な発展段階に入った。双方は中国・アフリカ協力フォーラム〔三〕を設立し、新しいタイプの戦略的パートナーシップを構築し、各分野における協力は著しい成果を収めている。二〇一二年の中国・アフリカ間の貿易額は二千億ドル近くに上り、人的往来は延べ百五十万人を上回った。昨年（二〇一二年）までの中国の対アフリカ直接投資額は累計で百五十億ドルを上回った。今年（二〇一三年）は中国がアフリカへ医療チームを派遣してから五十周年にあたり、この五十

年来延べ一万八千人の医療スタッフが派遣され、二億五千万人に上るアフリカの患者を診察治療した。

アフリカ人民も中国人民に多大の支持と無私の支援を与えてくれた。二〇〇八年北京オリンピックの聖火リレーがダルエスサラームで行われた時、タンザニア人民は自らの祝日を祝うように、歌い踊ってオリンピックの聖火を迎えており、その喜ばしい場面は中国人民の脳裏に鮮やかに焼きついている。

中国で汶川大地震が起きた時、アフリカの国々は次々に支援の手を差し伸べた。ある国は決して豊かではなく人口も二百万に満たないのに、被災地に二百万ユーロ、一人当たり一ユーロの援助を行った。この友情は中国人民の心をよりいっそう温めてくれた。

われわれ双方は国際事務と地域事務において、絶えず歩調を合わせ協力し合い、発展途上国の共通の利益をきちんと守っている。中国人民とアフリカ人民の友情と協力は、すでに中国・アフリカ関係の象徴となり、国際社会の美談となっている。

過去半世紀余りにわたる共同の努力とそれによる豊かな成果は、われわれが中国・アフリカ関係を引き続き推進するための強固な基礎を築き、貴重な経験を蓄積した。

――この間の歴史が教えているように、中国・アフリカ関係は一日で築かれたものではなく、誰から与えられたものでもなく、われわれ双方が困難を共に切り抜け、一歩一歩築き上げたものだ。水を飲むとき井戸を掘った人を忘れない。われわれは中国・アフリカ関係の発展のために障害を取り除き、心血を注いだ人々を銘記し、絶えず歴史から前進の原動力をくみ取る。

――この間の歴史が教えているように、中国とアフリカはこれまでずっと運命共同体であり、共通の歴史的境遇、共通の発展の任務、共通の戦略的利益がわれわれを結びつけてきた。われわれはどちらも相手の発展を自らのチャンスとみなし、積極的に協力を強めることで共同の発展・繁栄を促す。

――この間の歴史が教えているように、中国・アフリカ関係の本質的特徴は誠実・友好、相互尊重、平等互恵、共同発展である。われわれは話が合い、お互いに平等であると感じている。われわれは自らの意志を押し付けないし、あなたがたも自らの意志を押し付けない。中国はアフリカの発展を力の及ぶ限り支援し、それにもまして、アフリカの国々と人民の長期にわたる中国への多大な支持と無私の援助に感謝している。われわれは相手の核心的利益にかかわる問題では、いつでも立場をはっきりさせ、ためらうことなく相手を支持している。

――この間の歴史が教えているように、中国・アフリカ関係の旺盛な生命力を保つには、必ず時代と共に進み、開拓し革新しなければならない。半世紀余りにわたり、中国・アフリカ関係が重要な発展の時期を迎えるたびに、双方はいつも長期的な視点に立ち、中国とアフリカの協力の新たな一致点や成長点を見出し、関係の新たな飛躍を実現させてきた。このような「山に逢うと道を切り開き、川に遇うと橋を架ける」という開拓の精神は、われわれが中国とアフリカの協力レベルを高めるための特に有効な手段である。

皆さん

現在、中国・アフリカ関係は新たな歴史的出発点に立ち、天の時、地の利、人の和という有利な条件を備えている。「希望に満ちた大陸」「成長のホットスポット」として、現在のアフリカは世界で経済成長が最も速い地域の一つになった。アフリカの雄々しい獅子は走りを加速しており、中国も引き続き発展の良好な勢いを保っている。中国とアフリカの協力の基礎はさらに強固になり、協力の意志はいっそう強くなり、協力の仕組みはより完全なものとなる。中国とアフリカの協力を推進することは双方の人民の共通の願いであり、大勢の赴くところ、人心の向かうところである。

ここで私が皆さんにはっきり伝えたいのは、新たな情勢の下で中国・アフリカ関係の重要性は下がるのではなく高まっており、双方の共通利益は減るのではなく増え、対アフリカ関係の発展に向けた中国の取り組みは

弱まることなく、強化されるのみだということである。

第一に、アフリカの友人に対しては、われわれは「真」を重視している。真の友は最もありがたい存在だ。中国とアフリカの伝統的友情はとりわけ貴重なものであり、大切にするに値する。われわれはあくまでもアフリカ諸国との団結・協力関係の発展を対外政策の重要な基礎としている。中国自身の発展と国際的地位の向上によってこの点が変わることは断じてない。中国は国の大小、強弱、貧富を問わず一律平等に扱い、公平を堅持し、正義を貫き、大国が小国をいじめ、強国が弱国を侮り、豊かな国が貧しい国を抑えつけることに反対し、他国の内政に干渉することに反対し、相手国の核心的利益と重大な関心を寄せる問題において引き続き相互に支持し合い、国際事務と地域事務において、あくまでもアフリカ諸国の正義の立場を支持し、発展途上国の共通の利益を守る。中国はアフリカが地域の問題を自ら解決することを断固支持し、アフリカの平和と安全を促すためにより大きな貢献をしていく。

世界にはどこにでも通用する発展モデルはない。おのおのが世界文明の多様性と発展モデルの多様化を尊重すべきである。中国は、引き続きアフリカ諸国が自国の国情に合った発展の道を模索することを断固支持し、アフリカ諸国と国政運営における経験交流を強め、それぞれの古い文明と発展の実践から知恵をくみ取り、中国とアフリカの共同の発展・繁栄を促していく。

「家和して万事興る」（家庭が円満であれば何事もスムーズに運ぶ）という。アフリカ全体は運命を共にする大家族である。今年はアフリカ統一機構（ＯＡＵ）設立五十周年にあたり、地域統合と独立自彊を求めたアフリカ人民にとって一里塚の意義を持っている。中国は、アフリカが統合・自彊の歩みをさらに前進させ、アフリカの平和と発展の事業が絶えず新たな段階に進むことを心から願い、断固支持する。

中国は、中国・アフリカ関係がさらに発展し、また他の国とアフリカの関係がさらに発展することを希望し

ている。アフリカはアフリカ人のものである。いかなる国もアフリカとの関係を発展させるには、アフリカの尊厳と自主性を尊重しなければならない。

第二に、対アフリカ協力を進める際に、われわれは「実」を重視している。中国は協力・ウインウインの提唱者であるだけでなく、さらに積極的な実践者でもある。中国は自国とアフリカの発展、中国人民とアフリカ人民の利益、中国とアフリカの発展チャンスを緊密に結びつけるよう努めており、アフリカ諸国の発展がいっそう速くなり、アフリカ人民の暮らしがさらによくなることを心から願っている。中国は自らの発展をはかると同時に、終始アフリカの友人にできる限りの支援を提供している。特にここ数年来、中国はアフリカへの援助と協力を強化している。中国は約束しさえすれば、必ず掛け値なしにしっかりと実行に移す。

中国は引き続きアフリカとの投融資における協力を拡大し、三年以内にアフリカへ二百億ドルの貸付枠を与えるとの約束を実行し、「アフリカの多国間・多地域インフラ建設協力パートナーシップ」を実施し、農業や製造業などの分野における互恵協力を強め、アフリカを支援して資源優位から発展の優位に転換させ、自主的発展と持続可能な発展を実現させる。

「魚を直接与えるよりも漁のやり方を教えたほうがよい」。中国は「アフリカ人材計画」の実施に力を入れており、今後三年間でアフリカのために三万人にのぼるさまざまな人材を養成し、一万八千人の留学生に奨学金を支給し、アフリカへの技術移転と経験共有を推進する。

中国の経済力と総合国力の向上につれて、中国は引き続きアフリカの発展に、力相応の、いかなる政治的条件もつけない援助を与える。

第三に、アフリカとの友好の強化において、われわれは「親」を重視している。中国人民とアフリカ人民の間には自然な親近感がある。「人生の楽しみは互いに心を知ることにある」という。中国とアフリカはどのよう

にして心を知り合えばいいか。私の考えでは、対話と実際の行動を通じて心と心の共鳴を生み出すことが何より大切だ。

中国・アフリカ関係の土台と血脈は人民にあり、中国・アフリカ関係を発展させるにはよりいっそう一般の人々の交流に目を向けるべきだ。近年、中国・アフリカ関係の発展に伴い、中国とアフリカの人民はお互いにますます身近に感じるようになった。一部のアフリカ人は中国のバラエティー番組で活躍し、みながよく知る人気スターとなっている。『媳婦的美好時代（お嫁さんの美しい時代）』という中国のテレビドラマはタンザニアで好評放映され、タンザニアの人々はそれによって中国の普通の家庭生活の幸せや悩みを理解したのである。

中国のある若いカップルの話をしよう。彼らは子どもの頃からテレビ番組を通じてアフリカのことを知り、アフリカに憧れていた。その後、二人は結婚して、新婚旅行の目的地をタンザニアにした。結婚後初めてのバレンタインデーに、二人はバックパックを背負ってタンザニアにやって来て、ここの風土人情とセレンゲティ大草原の壮大さ、美しさを味わった。帰国後、タンザニアでの見聞をブログに書き込むと、数万回のアクセスと、数百件のコメントが寄せられた。「私たちは本当にアフリカが大好きになりました。この神秘的な土地に魅せられて忘れられなくなりました」と彼らは書いている。この話で分かるのは、中国とアフリカの人民の間には自然の親近感があり、国民間の交流を絶えず深めれば、友情はきっと実り多いものになるということだ。

われわれは双方の人的・文化的交流を一段と重視し、国民間の相互理解と認識を深め、友好事業の社会的基盤を打ち固めるべきだ。中国・アフリカ関係は未来に目を向けた事業であり、志ある青年が代々受け継ぎ共に奮闘しつづける必要がある。双方は青年間の交流を積極的に推進し、中国・アフリカ友好事業の後継者を育て、永遠に青春と活力を維持すべきだ。

第四に、協力の過程での問題を解決するのに、われわれは「誠」を重視している。中国とアフリカはいずれ

も急速な発展のただ中にあり、相互の認識は絶えず時代と共に進まなければならない。中国は中国・アフリカ関係が直面する新たな状況、新たな問題に誠意をもって向き合う。そこで生じた問題については、双方は相互尊重と協力・ウインウインの精神に基づき妥当な解決をはかるべきだ。

チャンスは常に試練より多く、解決法は常に困難より多いと私は信じている。中国はこれまでもまた今後も、引き続きアフリカ諸国と共に、適切な措置をとり、中国とアフリカの経済・貿易協力における問題をきちんと解決し、アフリカ諸国が協力によってさらに多くの利益を得られるようにする。それと同時に、アフリカ諸国がアフリカで協力を進めている中国企業と公民に相応の便宜を与えられることを心から望んでいる。

皆さん

新中国成立後の六十余年来、特に改革開放以後の三十余年来、中国共産党は中国人民を指導して中国の特色ある社会主義の道を成功裏に切り開いた。中国の発展は歴史的な進展をとげ、経済規模は一躍世界第二位となり、総合的国力が著しく向上し、人民の生活は明らかに改善した。十三億以上の人口を抱える国として、中国は先進国が数百年かけて歩んだ発展の道のりを数十年で歩み終わった。その中の辛苦と紆余曲折は推して知るべしだろう。

現在、中国の基本的国情は依然として人口が多く、基盤が弱く、発展がアンバランスだということである。経済規模は大きいものの、十三億余りの人口で割ると、一人当たりのＧＤＰはまだ世界九十位前後である。国連の基準によると、中国ではまだ一億二千八百万人が貧困ライン以下の生活を送っている。十三億余りの人民がみな豊かな生活を送れるようになるにはまだ長い道のりがあり、長期にわたる並々ならぬ努力が必要である。中国の発展に伴い、中国人民の生活レベルは絶えず向上するに違いない。しかし、中国はどこまで発展しようとも、いつまでもアフリカ諸国を苦難を共にした友と思っている。

皆さん
中国の発展は世界から切り離せず、アフリカから切り離せない。世界とアフリカの繁栄・安定も中国を必要としている。中国とアフリカは遠くいくつもの海を隔てているが、心は通じ合っている。われわれを結び付けているのは長年の深い友情と密接な利益の絆だけではなく、またそれぞれの夢もある。
十三億余りの中国人民は今、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に取り組んでいる。十億余りのアフリカ人民は今、統合・自彊と発展・振興というアフリカの夢の実現に努めている。中国人民とアフリカ人民は連帯と協力を強化し、相互支援と相互補完を強め、それぞれの夢の実現に努力しなければならない。また、われわれは国際社会と共に、恒久の平和、共同の繁栄という世界の夢の実現を促し、人類の平和と発展という崇高な事業に新たな、より大きな貢献をしなければならない。
アサンテサーナ！〔四〕

〔注〕

〔一〕ハバリはスワヒリ語で「こんにちは」の意味。
〔二〕周恩来（一八九八～一九七六）江蘇省淮安出身。マルクス主義者、中国プロレタリア階級革命家、政治家、軍略家、外交家。中国共産党と中華人民共和国の主な指導者の一人であり、中国人民解放軍の主要創建者の一人である。
〔三〕中国・アフリカ協力フォーラムは中国とアフリカ諸国が集団対話と協力を行う新しいプラットフォームであり、南南協力を促進するための効果的な仕組みである。第一回閣僚級会議は二〇〇〇年十月に北京で開かれた。北京サミットおよび第三回閣僚級会議は二〇〇六年十一月に北京で開かれた。中国の指導者とアフリカ四十八カ国の元首、政府首脳または代表が出席した。北京サミットでは『中国・アフリカ協力フォーラム北京サミット宣言』

と『中国・アフリカ協力フォーラム——北京行動計画（二〇〇七～二〇〇九年）』の二つの文書が採択され、中国とアフリカの新しいタイプの戦略的パートナーシップを確立した。

〔四〕　アサンテサーナはスワヒリ語で「ありがとうございます」の意味。

中国・ラテンアメリカ関係を推し進め さらに大きな発展を実現する

（二〇一三年六月五日）

メキシコ参議院での演説の一部

ふたたび活気と希望に満ちたラテンアメリカの地を踏んで、ここが優れた発展条件に恵まれていること、ラテンアメリカが発展の新たな黄金期を迎えつつあることをいっそう強く感じている。われわれはラテンアメリカが発展すればするほど、世界にとっても中国にとっても良いと信じている。

現在、中国・ラテンアメリカ関係は急速に発展する重要なチャンス期にある。双方は遠大な視点に立ち、時代と共に前進し、長年の友情を強固にし、全方位の往来を強化し、協力レベルを高め、中国・ラテンアメリカの平等互恵、共同発展という包括的協力パートナーシップを推し進め、新しいさらに大きな発展を実現すべきだ。

――政治面では、中国とラテンアメリカは真摯な友好を堅持し、互いの核心的利益にかかわる問題や重大な関心を寄せる問題について、引き続き互いに理解し、支持すべきだ。

――経済面では、中国とラテンアメリカは双方の経済成長パターンの転換がもたらしたチャンスをつかみ、協力の潜在力を深く掘り起こし、協力モデルの刷新をはかり、利益の融合を深化し、永続的で安定した互恵経

済貿易協力パートナーシップを確立すべきだ。
——人的・文化的な面では、中国とラテンアメリカは文明間の対話と文化交流を強化し、「おのおのその美を美とする」（各国が自分の素晴らしい伝統文化を発展させる）ばかりでなく、「人の美を美とし、美と美共に与る（他国の長所を学び、互いの文化を学び合う）」〔一〕こともできるようになり、異なる文明間の調和ある共存と相互促進の模範となるべきだ。

双方が共に努力して、中国・ラテンアメリカ協力フォーラムを一日も早く立ち上げ、それぞれの優位を生かし、包括的協力パートナーシップの推進のためにより大きなプラットフォームを築き、アジア・太平洋の安定・繁栄のためにプラスのエネルギーを増し加えることを希望する。

「道が遠いほど馬の力が分かり、時間がたつほど人の心が見える」という中国のことわざがある。中国・ラテンアメリカ関係の発展プロセスが示しているように、双方の関係の発展は開かれた発展、包摂的な発展、協力的発展、ウインウインの発展だ。

われわれは、より高いレベルの中国・ラテンアメリカの包括的協力パートナーシップが双方の共同の発展をさらに促し、地域と世界の平和、安定、繁栄に寄与するものと信じている。

〔注〕

〔一〕　費孝通の『美美与共』と人類文明」（『費孝通、文化的自覚を論ずる』、内蒙古人民出版社、二〇〇九年版、第二六二頁）を参照。原文は「各美其美、美人之美、美美与共、天下大同」。費孝通（一九一〇～二〇〇五）、江蘇省呉江出身。中国の社会学者、人類学者、社会活動家。かつて全国人民代表大会常務委員会副委員長、中国人民政治協商会議全国委員会副主席を歴任した。

シルクロード精神を発揚し中国・アラブ諸国の協力を深化する

（二〇一四年六月五日）

中国・アラブ諸国協力フォーラム第六回閣僚級会議開幕式における談話

尊敬するジャービル首相殿下
アラブ連盟のアラビ事務総長、各代表団の団長
ご在席の皆さん

アッサラーム・アライクム〔一〕、こんにちは。今日、アラブ諸国の皆さんと一堂に会して、中国・アラブ諸国協力フォーラム〔二〕事業と中国・アラブ諸国関係の発展の大計を共に話し合うことができて、たいへんうれしく思っている。まず、私は中国政府と中国人民を代表して、また私個人の名義で、謹んでご来場の皆さんに心から歓迎の意を表するものである。中国・アラブ諸国協力フォーラム第六回閣僚級会議の開催を心からお祝い申し上げる。

アラブ諸国の皆さんにお会いするたびに、昔からの知り合いのような親近感を覚える。この親近感はお互いの熱意と誠意から生まれたものであり、中国とアラブ諸国の長期にわたる交流から生まれたものでもある。

中国とアラブ諸国の人民の交流史を振り返ると、陸のシルクロードと海の「香料の道」を思い出す。われわれの先人はゴビ砂漠においても「馳命走驛、不絶于時月（駅伝の車馬が毎日毎月行き来し）」〔三〕、果てしない大海原にあっても「雲帆高張、昼夜星馳（帆を高く揚げ、昼夜問わずに進んで）」〔四〕、古代の世界各民族の友好往来の先駆けとなった。甘英〔五〕、鄭和、イブン・バットゥータ〔六〕は、われわれがよく知っている中国とアラブの友好交流の使者である。シルクロードは、中国の製紙術や火薬、印刷術、羅針盤をアラブ地域経由でヨーロッパに伝え、またアラブの天文や暦法、医薬を中国に紹介し、文明間の交流と相互参照において重要な役割を果たした。

千数百年にわたり、平和・協力、開放・包容、相互学習・参照、互恵・ウインウインというシルクロードのもたらした精神は代々にわたって伝えられてきた。中国とアラブ諸国の人民は、民族の尊厳と国の主権を守るたたかいの中で互いに支持し合い、発展の道を模索し民族の振興を実現する道のりにおいて互いに助け合い、人的・文化的交流を深め民族文化を繁栄させる事業において互いに参照し合っている。

六十年前のバンドン会議〔七〕で、中国はまだ国交を結んでいなかったアラブ諸国にパレスチナ人民のたたかいを支持することを約束した。四十余年前に、アラブの十三カ国はアフリカの友人たちと共に、新中国の国連復帰に賛成票を投じてくれた。われわれはこれらを忘れることはない。また、中国の一万人近くに上る医者がアラブ諸国の農村部を駆け回り、献身的に患者を診療している。中国四川省の汶川大地震が起きた時には、最大の援助を惜しまなかったのはアラブ諸国であった。われわれはこれらのことも忘れることはない。

皆さん

これからの十年は中国とアラブ諸国の双方にとって肝心な成長期である。中国は小康社会を全面的に築き上げる決定的段階に入っている。この目標の達成は、中華民族の偉大な復興という中国の夢をかなえるための大

事な一歩である。そのため、われわれは改革の全面的深化についての全般的な布石を打っている。その重点の一つは、いっそう整備され活気に満ちた開放型の経済システムをもって、全方位かつ多層的な国際協力を発展させ、各国、各地域との利益の一致点、互恵・ウインウイン関係を拡大することである。中東はかつてない大変動や調整の時期にあり、アラブ諸国は自ら変革を模索している。民族振興という共通の使命やチャレンジを実現するには、シルクロードの精神を広め、発展に原動力を与え、協力に活力を与え、中国・アラブ諸国の包括的協力、共同発展の戦略的パートナーシップを絶えず深化しなければならない。

――シルクロード精神の発揚は、文明間の相互参照を促すことだ。人類の文明には高低・優劣の差がなく、平等な交流によって多種多彩なものになる。正に「五色照り映えて、ますます美しく、八音（八種の楽器）合奏し、よく調和す」〔八〕といわれる通りだ。中国とアラブ諸国は開放的で寛容な心をもって向き合い、対話と交流によって衝突と対抗に取って代わり、異なる社会制度や信仰、文化的伝統を持つ国が調和して共存する手本を確立した。中国は引き続きアラブ諸国が民族の文化的伝統を維持することをいささかも揺るぐことなく支持し、特定の民族や宗教へのあらゆる差別と偏見に反対する。われわれは共に努力して、文明への寛容さを提唱し、極端な勢力や思想によって文明と文明が分断されるのを防がなければならない。

――シルクロード精神の発揚は、道の選択を尊重することだ。「履き物は足に合いさえすれば必ずしも同じでなくてよい。治国政策は民に有利でさえあれば必ずしも同じでなくてよい」〔九〕という。国の発展の道がふさわしいかどうかは、その国の人民にこそ最も発言権がある。すべての花がアラセイトウになることを要求できないように、われわれは異なる文化的伝統、歴史的境遇、現実的国情を持つ国が同じ発展モデルを採用することも要求できない。さもなければ、この世界はあまりにも単調なものになってしまう。アラブ諸国は自ら発展の道を模索している。われわれはアラブの友人たちと国政運営の経験を共有し、それぞれの古い文明と発展の

実践から知恵を汲み取ることを願っている。

——シルクロード精神の発揚は、協力・ウインウインを堅持することだ。中国は共同の発展を求めており、自ら豊かになるだけでなく、他国にも豊かにしたい。今後五年で、中国は十兆ドルを上回る商品を輸入し、五千億ドルを超える対外直接投資を行っていく。二〇一三年のアラブ諸国からの商品輸入額は千四百億ドルで、これは今後予定されている毎年二兆ドルの商品輸入額の七パーセントに過ぎない。アラブ諸国への直接投資額は二十二億ドルで、今後予定されている毎年一千億ドルの対外直接投資額の二・二パーセントに過ぎない。ギャップは潜在力となるものであり、チャンスでもある。中国は自らの発展をアラブ諸国の発展と一致させ、アラブ諸国の雇用拡大、工業化推進、経済成長推進を支援することを願っている。

——シルクロード精神の発揚は、対話・平和を提唱することだ。中国はあくまで中東和平プロセスを支持し、一九六七年の国境を基礎に、東エルサレムを首都とし、完全な主権を有するパレスチナ独立国家の建国を支持している。関係各方面が適切な措置を講じ、和平交渉の障害を取り除き、速やかに和平交渉の膠着状態を打ち破ることを望んでいる。中国はシリア人民の合理的訴えを尊重し、ジュネーブ・コミュニケの迅速な実行、包容性のある政治的移行のスタート、シリア問題の政治的解決の実現を支持している。中国はシリアの人道状況に大きな関心を寄せ、人道的災難を軽減するためにヨルダンやレバノンなどにいるシリア人難民に新たな人道援助を提供する。中国は中東非核地帯の設立を支持し、中東の政治的版図を変えようとするいかなる企みにも反対している。中国は建設的姿勢をもって地域事務に参加し、公平と正義を主張し、アラブ諸国と共に、対話を通じ各方面に配慮した最大公約数を探り、地域のホットな問題の妥当な解決のためにより多くの公共財を提供する。

皆さん

「一ベルト一ロード（シルクロード経済ベルト、海上シルクロード）」は互恵・ウインウインの道であり、各国の経済をいっそう緊密に結びつけ、各国のインフラ建設と体制・仕組みの刷新を促し、新たな経済成長点をつくりだし、雇用拡大を推進し、各国経済の内生的原動力とリスク抵抗力を増強する。

中国とアラブ諸国はシルクロードを通じて互いを知り、交流してきた仲であり、「一ベルト一ロード」の共同建設における自然な協力パートナーである。

――中国とアラブ諸国が「一ベルト一ロード」を共に建設するには、共に協議し、建設し、享受するとの原則を堅持すべきである。共に協議するとは、衆知を集めて、みんなで相談しながら進め、「一ベルト一ロード」の建設において双方の利益と関心事に配慮し、双方の知恵と創意工夫を具現することである。共に建設するとは、それぞれが長所を発揮し、能力を尽くし、優位と潜在力を生かし、ちりも積もれば山となり、水もたまれば深い淵となるように、根気よく続けて推進することである。共に享受するとは、中国とアラブ諸国の人民が建設の成果をより多くより公平に享受するようにし、中国とアラブ諸国の利益共同体と運命共同体を築くことである。

――中国とアラブ諸国が「一ベルト一ロード」を共に建設するには、遠大な視点に立つと同時に、地に足を着ける必要がある。遠大な視点に立つとは、トップダウン設計をきちんと行い、方向と目標を設定し、「一＋二＋三」の協力構造を構築することである。「一」は、エネルギー協力を主軸とし、石油・天然ガス分野における産業チェーン全体の協力を深化し、エネルギー輸送ルートの安全を守り、エネルギー分野において中国・アラブ諸国の互恵・ウインウイン、安全で信頼でき、長期的友好の戦略的パートナーシップを構築することである。「二」はインフラ建設、貿易と投資の円滑化を両翼とし、中国・アラブ諸国の重要な発展プロジェクト、代表的な民生プロジェクトにおける協力を強化し、双方の貿易・投資の促進のために関連制度を確立することである。

中国側は中国企業がアラブ諸国からより多くの石油以外の製品を輸入することを奨励して、貿易構造を最適化し、今後十年間で相互貿易額を昨年の二千四百億ドルから六千億ドルにまで増やすよう努力する。また、中国企業がアラブ諸国のエネルギー、石油化学工業、農業、製造業、サービス業へ投資することを奨励し、今後十年間で中国のアラブ諸国に対する非金融類投資累計額を昨年の百億ドルから六百億ドル以上にまで増やすよう努力する。「三」は原子力、宇宙衛星、新エネルギーの三大ハイテク分野を突破口として、双方の実務協力のレベルを引き上げるよう努力することである。双方は中国・アラブ諸国技術移転センターの設立を検討し、アラブ原子力平和利用トレーニングセンターを共同で設立し、アラブ諸国における中国の衛星測位システム「北斗」の展開を検討することができる。

地に足を着けるとは、早期の成果を勝ち取ることである。アラブには「行動で証明した言葉は最も説得力がある言葉だ」ということわざがある。双方が共通認識を得て、基礎ができたプロジェクトでさえあれば、協議と推進を加速し、条件の整ったものから実現していくべきだ。例えば、中国・湾岸協力理事会（ＧＣＣ）自由貿易圏、中国・アラブ首長国連邦共同投資基金、アジアインフラ投資銀行（ＡＩＩＢ）設立へのアラブ諸国の参加などである。「一ベルト一ロード」建設において真の成果を上げるのが早ければ早いほど、各方面の積極性を引き出し、先導的かつ模範としての効果を発揮することができる。

――中国とアラブ諸国が「一ベルト一ロード」を共に建設するには、伝統的親善を拠り所とし、強化すべきである。人民の心が通じ合うことは「一ベルト一ロード」建設の重要な内容であり、肝心の基礎でもある。私はここで、双方が二〇一四年と二〇一五年を中国・アラブ諸国友好年と定め、この枠組み内で一連の友好交流行事を行うことを発表する。われわれはアラブ諸国と共に芸術祭の相互開催など文化交流活動の規模を拡大し、より多くの若者が相手国に留学したり交流したりすることを奨励し、観光、航空、報道出版などにおける協力

を強化することを望んでいる。今後三年間で、われわれはアラブ諸国のために各種人材六千人を育成し、アラブ諸国と発展や貧困削減などの経験を共有し、中国の先進的適正技術を交流する。今後十年間で、双方のアーチスト一万人の相互訪問・交流を企画・組織し、双方の二百の文化機構の一対一の協力を推進し、支持し、アラブ諸国の文化・芸術分野の人材五百人を中国に招請して研修を行う。

皆さん

中国・アラブ諸国協力フォーラムの設立は、中国・アラブ諸国関係の長期的発展に着眼した戦略的選択である。十年間の発展を経て、フォーラムは双方関係の戦略的内包を充実させ、双方の着実な協力を推進するための効果のある手段となっている。「一ベルト一ロード」を共に建設することはフォーラム発展の新たなチャンス、新たなスタートラインである。このチャンスをつかんでこそ、現在の発展が停滞することなく、将来の発展を持続させることができる。この新たなスタートラインに立ってこそ、より大きな発展の可能性を獲得し、より持続的な成長の原動力を引き出すことができる。一言で言えば、フォーラムの建設は実際の効果を上げ、双方の支えとならなければならない。

――われわれはフォーラムを拠り所とし、政策面の意思疎通を強化すべきだ。互いに率直に向き合い、意見の食い違いを恐れず、問題を避けず、それぞれの外交政策と発展戦略について交流を十分に行い、政治的相互信頼を増強し、戦略的すり合わせを促し、双方の協力を政策面から支援しなければならない。

――われわれはフォーラムを拠り所とし、着実な協力を深化すべきだ。中国・アラブ諸国はもともと発展における相互補完性が強い。われわれは資源共有の潜在力を掘り起こし、それぞれの長所を生かし短所をカバーし、分かりやすい言葉で対話を行い、親密な協力関係を築く必要がある。集団協力は一時的なトピックスになることを求めず、基礎づくりを重んじ、長期的視野に立つ措置を重んじる。

――われわれはフォーラムを拠り所とし、絶えず開拓し革新すべきだ。フォーラムの生命力は革新にある。われわれ双方は新たな考え方を運用し、新たな措置を打ち出し、新たな仕組みを確立しており、実務協力におけるさまざまな難問を解決し、改革・革新の精神をもって現実のボトルネックを解消し、協力の潜在力を引き出すよう努力しなければならない。

皆さん

中国・アラブ諸国関係の急速な発展により、双方の一般の人々の運命もいっそう密接に結びつけられるようになった。私がかつて勤務していた浙江省では、次のような事が話題となっていた。アラブの商人が雲集している義烏市で、ムハマドというヨルダンのビジネスマンが本場アラブ料理のレストランを開いた。彼は、正真正銘のアラブの食文化を義烏にもたらし、繁栄し隆盛を誇る義烏で事業を成功させた。そして中国の女性とめでたく結ばれ、中国に根をおろした。アラブの普通の青年が、自分の夢を中国人の幸せ追求の中国の夢に溶け込ませ、粘り強い奮闘によって、素晴らしい人生を実現し、また同時に、中国の夢とアラブの夢が完璧に結び付いていることをも示したのである。

中華民族とアラブ民族は燦然と輝く文明をつくり出し、近代以来時代の変遷と共に紆余曲折を経てきた。民族復興の実現は終始われわれ双方の追い求めるものであった。われわれは手を携えて、シルクロードの精神を発揚し、中国・アラブ諸国の協力を深め、中国の夢とアラブ振興のために努力しよう。人類の平和と発展という崇高な事業のために奮闘しよう。

シュクラン〔一〇〕。ありがとうございました。

〔注〕

〔一〕アッサラーム・アライクムはアラビア語で「こんにちは」の意味。
〔二〕中国・アラブ諸国協力フォーラムは、二〇〇四年一月三十日に設立され、中国とアラブ諸国の対話・協力を強化し、平和・発展を促すことを趣旨としている。メンバーは中国とアラブ連盟の二十二の加盟国からなる。
〔三〕範曄の『後漢書・西域伝』を参照。範曄（三九八～四四五）、順陽（現在の河南省淅川東南部）出身。南北朝時代の歴史学者。
〔四〕『天妃霊応之記』を参照。『天妃霊応之記』は一般に「鄭和の碑」ともいい、鄭和の七度にわたる西洋下りの経験を記している。「文明は交流によって多彩になり、相互参照によって豊かになる」の注〔四〕を参照。
〔五〕甘英（生没年不詳）、後漢の使節。九七年に使節として大秦国（ローマ帝国）に派遣され、安息（パルティア、今のイラン）の西の境のペルシャ湾にたどりつき、そこで足を止めて帰路についた。ローマには到着しなかったものの、中国の中央アジア諸国に対する認識を深めた。
〔六〕イブン・バットゥータ（一三〇四～一三七七）、モロッコ人。旅行家。
〔七〕バンドン会議は、一九五五年四月十八日から二十四日までインドネシアのバンドンで開催された会議で、インド、インドネシア、ビルマ（現ミャンマー）、セイロン（現スリランカ）、パキスタン、中国などアジアとアフリカの二十九カ国・地域の政府代表団が参加した。
〔八〕馮友蘭の「国立西南連合大学記念碑碑文」（『三松堂全集』第十四巻、河南人民出版社、二〇〇〇年版、第一五四頁）を参照。馮友蘭（一八九五～一九九〇）、河南省唐河出身。中国の哲学者、哲学史家。
〔九〕魏源の『魏源集・黙觚下』を参照。魏源（一七九四～一八五七）、湖南省邵陽県金潭（現在は湖南省隆回県に属する）出身。清代の思想家、経史学者、詩人。
〔一〇〕シュクランはアラビア語で「ありがとう」の意味。

第十五章

多国間協力に積極的に参加

連携・協力して共に発展しよう

第五回ブリックス（ＢＲＩＣＳ）首脳会議での基調演説

（二〇一三年三月二十七日）

尊敬するズマ大統領、ルセフ大統領、プーチン大統領、シン首相
ご来場の皆さん

二年ぶりに虹の国と呼ばれる南アフリカを訪問することができて、大変喜んでいる。南アフリカ人民の温かいもてなしとＢＲＩＣＳの協力に対する積極的な支持を強く感じた。この場を借りて、ズマ大統領および南アフリカ政府の今回の会議のための行き届いた手配に対し心から感謝の意を表したい。

中国には「志を同じくする者はたとえ海山を隔てていても遠いと思わない」〔一〕という古い言葉がある。われわれ世界の四大陸の五カ国は、パートナーシップの構築と共同発展という壮大な目標を実現するために、そして国際関係の民主化と人類の平和・発展という崇高な事業を推進するためにここに集まっている。平和を求め、発展を策し、協力を促し、ウインウインを図ることは、われわれに共通する念願であり責務である。

われわれは断固として国際的な公平と正義を擁護し、世界の平和と安定を守るべきである。今の世界は安寧が保たれているとは言えず、各種のグローバルな脅威と試練が次々と途切れることなく現れている。ＢＲＩＣＳ

各国はみな平和を愛し、それを大切にしている。世界の恒久平和を実現し、世界中のどの国にも平和で安定した社会環境を形成し、どの国の人民にも安穏な生活を保証することが、われわれの共通の願いである。

国際情勢がいかに変化しようとも、われわれは終始変わることなく平和的発展、協力・ウインウインを堅持し、戦争ではなく平和を求め、対立ではなく協力を求め、自国の利益を追求する際には、他国の合理的な関心事にも配慮しなければならない。

国際構造がいかに変化しようとも、われわれは一貫して平等・民主、包容精神を堅持し、各国が社会制度と発展路線を自主的に選択する権利を尊重し、文明の多様性を尊重し、国の大小、強弱、貧富に関わらず、国際社会の平等な一員として、一国の事はその国の人民が決めるべきであり、国際問題は各国が共に相談して処理すべきである。

グローバルガバナンス体系がいかに変革されようとも、われわれは積極的に参与し、建設的な役割を果たし、国際秩序がより公正かつ合理的な方向に発展するように推進し、世界の平和と安定のために制度上の保障を提供しなければならない。

われわれは国際的発展のパートナーシップの構築に力を入れ、各国の共同繁栄を促進すべきである。一本の木では林にならない。経済のグローバル化が発展している時代にあって、ＢＲＩＣＳ各国の発展は独りよがりになってはならず、自国の発展を図ると同時に各国の共同発展を促進していかなければならない。

われわれは経済発展、民生改善に努め、自らのなすべきことをしっかりと行い、世界経済のためにより多くの成長ポイントを創出すべきである。われわれは各国がマクロ経済政策での協調を強化し、国際通貨・金融システム改革を推進し、貿易と投資の自由化・円滑化を推進し、グローバル経済のより力強い発展を促進しなければならない。

われわれは共に国際開発アジェンダの策定に参加し、人類が積み重ねてきた生産力と物的資源を活用して国連のミレニアム開発目標を達成し、南北格差を縮小し、世界の発展がよりバランスのとれたものになるように促進すべきである。本日の会議のテーマである「発展、一体化、工業化に尽力するパートナーシップ」は、ＢＲＩＣＳの発展目標であり、ＢＲＩＣＳがアフリカ諸国と協力する上で目指すべき重要な方向でもある。

われわれはパートナーシップの構築を通じてＢＲＩＣＳ各国の関係緊密化を図り、経済・貿易、金融、インフラ整備、人的往来などの分野における協力拡大に力を入れ、一体化した大市場、重層的な大流通、陸海空の大接続、文化大交流といった目標に向かって前進して行かなければならない。

われわれは共にアフリカ諸国が力強い経済成長の追求、一体化プロセスの加速、工業化実現に向けた努力を支持し、アフリカ経済を世界経済における新たな注目点にするように促進すべきである。

われわれは互恵協力を深化させ、互恵・ウインウインを図るべきである。ＢＲＩＣＳの三十億人がみな豊かに暮らし、素晴らしい人生を送るという憧れが実現するまでの道のりはまだまだ遠い。この道は、主に各国の自力更生によるが、ＢＲＩＣＳ各国のさらなる協力強化も必要である。

われわれは五カ国の政治的な相互信頼と人民の友情を引き続き深め、国を治めるガバナビリティーに関する経験交流を強化し、工業化、情報化、都市化、農業現代化のプロセスを共に推進し、発展の法則を把握し、発展の理念を刷新し、発展の難問を打開していかなければならない。国連、主要二十カ国・地域（Ｇ20）、国際金融機関（ＩＦＩ）などの枠組みの下での協調と協力を引き続き強化し、共同利益を守らなければならない。

われわれは各国の政治的コンセンサスを具体的な行動に転化し、ＢＲＩＣＳの新開発銀行（ＮＤＢ）と外貨準備基金などのプロジェクトを積極的に推進し、各分野での実務的な協力を加速し、協力を展開するための経済的、社会的基礎を打ち固め、ＢＲＩＣＳ内の発展を図ると同時に、他国との協力も促すという前向きのイメ

ージを打ち出すべきである。
ＢＲＩＣＳという枠組みが成立してからはまだ五年にしかならず、動き出したばかりの発展段階にある。われわれは着実に自らのなすべきことをなし、ＢＲＩＣＳの協力パートナーシップを発展させ、ＢＲＩＣＳの協力メカニズムを整備しなければならない。自国の発展路線に対する自信、ＢＲＩＣＳ各国間協力に対する自信を固め、いかなるリスクをも恐れず、いかなる妨害にも惑わされずにいられれば、われわれの事業は必ず隆盛をきわめるだろう。
皆さん
皆さんは中国の未来の発展に関心を持っている。未来に向けて、中国は段階的に二つの大きな目標を目指して前進していく。それはまず、二〇二〇年までにＧＤＰと都市・農村住民一人当たりの所得を二〇一〇年の二倍にし、十数億人に利益をもたらす小康社会を全面的に築き上げること。次に二〇四九年、すなわち新中国成立百周年までに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げること。
この二大目標を実現するために、われわれは引き続き発展を最重要課題と位置づけ、経済建設を核心的な任務とし、引き続き国家の経済的・社会的発展を推進していく。われわれは人間本位を堅持し、経済建設、政治建設、文化建設、社会建設、エコ文明建設を全面的に推進し、現代化建設の各方面・各段階間の相互調和を促し、美しい中国を建設していく。
この発展は開放による発展であり、われわれは対外開放の基本国策と互恵・ウインウインの開放戦略を堅持し、開放型経済のレベルを絶えず向上させる。
この発展は協力による発展であり、われわれは共同発展の理念を堅持し、平等・互恵の基礎の上で世界各国との経済・技術協力を展開し、協力を通じて自身の発展と各国の共同発展を促す。

この二大目標を実現するために、われわれは良好な外部環境が必要である。中国は引き続き独立自主の平和外交政策を実行し、中国人民の利益と各国人民の共通の利益とを結びつけ、引き続き世界各国とのマクロ経済政策協調を継続し、保護主義に反対し、グローバル経済ガバナンスを改善し、共に世界経済の成長を促進していくであろう。

皆さん

ＢＲＩＣＳ各国との協力強化は一貫して中国の外交政策の優先的方向の一つである。中国は引き続きＢＲＩＣＳ各国と協力を強化し、各加盟国の経済成長がより力強く、協力の枠組みがより完全なものに、協力の成果がより豊富になるようにし、各国人民に実質的な利益をもたらし、世界の平和と発展のためにより大きな貢献をしていく。

ご清聴ありがとうございました。

〔注〕

〔一〕　葛洪の『抱朴子・外編』を参照。葛洪（二八一頃〜三四一頃）、号は抱朴子、丹陽句容（今は江蘇省に属す）出身。東晋の道教理論家、医学者、神仙思想家。『抱朴子』は『内編』と『外編』に分かれて、道教思想による養生を主とし、儒学思想による治世を従とする著者の人生観を集中的に反映している。

アジアと世界の素晴らしい未来を共に切り開こう

（二〇一三年四月七日）

博鰲・アジアフォーラム二〇一三年次総会での基調演説

尊敬する各国元首各位、政府首脳、議長、国際機関の責任者、大臣各位
博鰲・アジアフォーラム理事会のメンバー各位、ご来賓の皆さん、友人の皆さん
柔らかい風にココヤシの木のほのかな香りが漂い、広い海に引き立てられる青空はいっそう高く見える。この麗しい季節に、皆さまと美しい海南島で一堂に会し、ボアオ・アジアフォーラム二〇一三年次総会に参加できることを大変喜んでいる。
まず、中国政府と人民を代表して、そして私個人として、友人の皆さんの来訪に対し、心より歓迎の意を表したい。年次総会の開催に対し、熱烈な祝意を表したい。
この十二年間で、ボアオ・アジアフォーラムはますますグローバルな影響力を持つ重要なフォーラムになっている。中国文化において、十二年は十二支(二)の一周期であり、この考えに基づくと、ボアオ・アジアフォーラムはまさに新たなスタートラインに立っていると言えるので、さらにステップアップするよう望んでいる。
今回の年次総会のテーマは「刷新、責任、協力―共同発展を求めるアジア」であり、非常に現実的な意義がある。

皆さんが将来を見通した優れた見識を十分に述べ、アジアと世界の発展の大計について話し合い、この地域と全世界の平和、安定、繁栄のために英知と力で貢献されることを信じている。

現在、国際情勢には引き続き非常に複雑な変化が生じている。世界各国の相互連携は日増しに緊密化し、相互依存関係は日増しに深まり、世界中の至る所にある多くの発展途上国、数十億の人口が現代化を目指して努力しており、平和、発展、協力、ウインウインに向かう時代の潮流はより力強くなっている。

同時に、天下泰平にはまだほど遠く、発展の問題は依然して際立ち、世界経済は深い調整期に入り、全体的な景気回復は困難と曲折に満ち、国際金融分野は変わることなくかなり多くのリスクがあり、さまざまな形の保護主義が台頭し、各国の経済構造調整は少なからぬ困難に直面し、グローバルガバナンスのメカニズムはさらなる改善が待たれている。各国による共同発展の実現は依然して任重くして道遠しである。

アジアは今世界中で最も発展の活力と潜在力に満ちた地域の一つであり、アジアの発展はアジア以外の各大陸の発展と緊密にかかわっている。アジア諸国が自国の状況にふさわしい発展路線を積極的に模索し、自身の発展を実現すると同時に、世界の発展を強力に促進してきた。アジアはアジア以外の地域と共に困難な時局を乗り越え、協力して国際金融危機に対応し、世界経済の回復と成長をけん引する重要なエンジンであり、ここ数年は世界の経済成長への貢献率が五〇パーセントを上回り、全世界に信頼されている。アジアとほかの地域との地域協力・サブ地域協力は活力があふれ、洋々たる未来が待っている。

もちろん、アジアはより大きな発展を求め、よりよくこの地域とほかの地域との共同発展を促進するには、依然して少なからぬ困難と試練に直面しており、いくつかの坂を上り、いくつかの峠を越えなければならないということを、われわれははっきりとわきまえている。

――アジアの発展の実現は勢いに乗じて進み、パターン転換とレベルアップが必要である。アジアにとって、

発展は依然して最重要課題であり、際立っている矛盾と問題を解決するカギであり、経済発展パターンの転換と経済構造の調整を行い、経済発展の質と効果の向上を図り、その基礎の上に、人民の生活レベルを絶えず向上させることが求められている。

――アジアの安定の実現には共に守り、難問の解決に取り組むことが必要である。アジアの安定は新たな挑戦に直面しており、ホットな問題があちこちで起こり、従来型の安全に対する脅威も非従来型の脅威も見られており、この地域の長期的な安定を実現するには、地域諸国が相互信頼を増進し、共に手を携えて努力しなければならない。

――アジアの協力の実現は「百尺竿頭一歩を進む」というように、すでに工夫を重ねてきたが、もう一段の工夫が必要である。アジア地域の協力を強化するためのメカニズムと提議は多く、各方面の考え方と主張は豊富、多様である。各方面の利益追求を調整し、互恵・ウインウインが保障できるメカニズムを確立するには、より良く理解し、コンセンサスを凝集し、内容を充実させ、協力を深化させなければならない。

会場の皆さん

人類にはたった一つの地球しかなく、各国は一つの世界に共存している。共同発展は持続可能な発展の重要な基礎であり、各国人民の長期的利益と根本的利益に合致している。われわれは一つの地球村に生活しているのであり、運命共同体意識をしっかり確立し、時代の潮流に順応し、正しい方向を把握し、「同舟合い済う」というように、力を合わせて難関を切り抜ける精神を堅持し、アジアと世界の発展が絶えずステップアップしていかなければならない。

第一に、勇敢に変革・革新に取り組み、共同発展の促進に無限の原動力を提供すること。長年来、各国・各地域は安定を保持し、発展を促進する面で多くの優れた経験と手法を積み重ねてきた。これらの優れた経験と

やり方を引き続き大いに発揚していかなければならない。一方、世の中の万物は常に変化する。「明者は時に因りて変わり、知者は世に随いて制す（聡明な人は時代の変化に応じて自分のやり方を変え、知恵のある人は世の中の変化に応じて決まりを定める）」〔二〕。時宜に合わない古い考え方を捨て去り、発展を制約する古いしきたりを打破し、発展の活力が湧き上がるようにする。経済発展パターンの転換と経済構造の調整にいっそう力を入れ、発展の質と民生の改善をより重視しなければならない。国際経済・金融システムの改革を着実に推進し、グローバルガバナンスのメカニズムを完全なものにし、世界経済の健全で安定した成長のために保障を提供する。アジアは従来から自己変革する活力を持っており、時代の波に乗る勇敢なチャレンジャーとして、アジアの変革と世界の発展を互いに促進し、相乗効果を生み出さなければならない。

第二に、心を一つにして平和を守り、共同発展を促進するために安全保障を提供すること。平和は人民の永遠の望みである。平和は空気や日光のような存在であり、気付かないうちにそのメリットに浴して、いったん失ってしまえば生きていかれない。平和がなければ、発展は語りようがない。すべての国は大小、強弱、貧富を問わず、平和の擁護者、推進者となるべきであり、こちらで足を引っ張り、あちらで足をすくうのではなく、互いに協力し合い、良い芝居を続ける好演をすべきである。国際社会は総合安全保障・共通安全保障・協力安全保障の理念を提唱し、われわれの地球村を、互いの力を競い合う競技場とするのではなく、共同発展を目指す大舞台にすべきである。私利私欲で地域ひいては世界の安定を乱してはならない。各国が頻繁に付き合う中、摩擦やトラブルは免れ難いものであり、対話・協議と平和的交渉によって、矛盾と意見の相違を適切に解決し、相互関係を発展させるという大局の堅持がカギとなるだろう。

第三に、協力の推進に力を入れ、共同発展を促進するために効果的なルートを提供すること。「花が一輪咲いても春とは言えず、百花が一斉に咲き誇ってはじめて春が来る（一人またはひとつの地域が発展しても理想

的な結果とはならないが、共に発展すれば本当の素晴らしさが実現する)」。世界各国は緊密に連携し、利益が融合し、互いに有無相通じ、それぞれの強みを互いに補い合い、自国の利益を追求する際には他国の合理的な関心事にも配慮し、自らの発展を図る際には、各国の共同発展を促進し、共同利益の接点を絶えず拡大しなければならない。南南協力と南北対話を強化し、発展途上国と先進国のバランスの取れた発展を推進し、世界経済の長期的で安定した発展の基礎を打ち固めるべきである。積極的により多くの協力のチャンスを創出し、協力のレベルを向上させ、発展の成果が各国人民により多くの利益をもたらすように、世界経済の成長の促進に多大な貢献をすべきである。

第四に、開放と包容の精神を堅持し、共同発展を促進するために広い空間を提供すること。「海は百川を納め、容の大なる有り(海は数え切れない程多くの川を受け入れ、それは広大である)」。われわれは各国が自主的に社会制度と発展路線を選択する権利を尊重し、疑念と隔たりを消し去り、世界の多様性と各国の相違性を発展の活力と原動力に変えるべきである。われわれは開放の精神を堅持し、積極的にほかの地域の発展経験を参考にし、発展のための資源を共用し、地域協力を推進していくものである。新世紀に入って十数年来、アジア地域内の貿易額は八千億ドルから三兆ドルに増加し、アジアとアジア以外の地域との貿易額は一兆五千億ドルから四兆八千億ドルに増加したことは、アジアの協力は開放的なものであり、域内協力とほかの地域との協力は平行して展開しても矛盾は起きず、すべての参加者は協力によってメリットを得ていることを示している。アジアは域外諸国がこの地域の発展と安定に建設的役割を発揮することを歓迎すべきである。一方、域外諸国もアジアの多様性とすでに形成した協力の伝統を尊重し、アジアの発展とアジア以外の地域の発展はプラスの相互作用が働き、共に進むような望ましい局面を切り開こうではないか。

会場の皆さん

中国はアジアと世界という大家族の重要な一員である。中国の発展はアジアと世界から切り離せず、アジアと世界の繁栄と安定も中国を必要としている。

昨年十一月、中国共産党は第十八回全国代表大会を開き、今後一時期の発展の青写真を描き上げた。われわれの奮闘目標は、二〇二〇年までにGDPと都市・農村住民一人当たりの所得を二〇一〇年の二倍にし、小康社会を全面的に築き上げることであり、また今世紀中葉までに、わが国を富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家に築き上げ、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現することである。未来を展望して、われわれは十分自信を持っている。

一方、われわれは次のような問題もわきまえている。つまり、中国はいまだ世界最大の発展途上国であり、中国の発展はなおも多くの困難や試練に直面しているため、全中国人民が麗しい生活を送れるようにするには、長期にわたるたゆまぬ努力が必要である。われわれは揺らぐことなく改革開放を堅持し、経済発展パターンの転換という主軸をしっかり把握し、精力を集中して自らのなすべきことをしっかりと行い、社会主義現代化建設を絶えず推進していくであろう。

「親戚同士が互いの幸せを願うように、隣人同士も互いの幸せを願う」。中国は隣国に善意をもって接し、隣国をパートナーとする方針を堅持し、隣国との善隣友好を固め、互恵・協力を深化し、自らの発展がさらに周辺諸国に利益をもたらすように努力する。

われわれはアジアと世界の発展、繁栄の促進に尽力する。新世紀以来、中国と周辺諸国との貿易額は一千億ドル余りから一兆三千億ドルに増加し、中国はすでに多くの周辺国にとって最大の貿易パートナー、最大の輸出市場、重要な投資国となっている。中国とアジア、そして世界との利益の融合はかつてない広さと深さを持つに至っている。当面および今後一時期、中国経済は引き続き健全な発展の趨勢を維持し、内需、特に消費需

要は今後も拡大し、対外投資も大幅に増加するだろう。今後五年間、中国は十兆ドル前後の商品を輸入し、対外投資規模はは五千億ドル、中国大陸部外への観光客数は延べ四億人を超えると予測されている。中国が発展すればするほど、アジアと世界に発展のチャンスをもたらすことができる。

われわれは揺るぎなくアジアと世界の平和と安定を擁護していく。中国人民は戦争と動揺がもたらす苦難について深く心に刻まれた記憶があり、平和に対してうむことのない追求心を持っている。中国は自らの発展のために平和な国際環境を求めると同時に、自らの発展によって、世界平和を擁護し、促進してきた。中国は引き続き関係国との意見の相違と摩擦を適切に処理し、国家主権、安全、領土保全を断固として守る上に、周辺諸国との関係および地域の平和・安定の大局を守るために努力する。中国は国際的、地域的なホットな問題において引き続き建設的な役割を果たし、和解を勧め、交渉を促す方針を堅持し、関連する諸問題を対話と交渉によって適切に解決するようにたゆまぬ努力をしていく。

われわれはアジアと世界的規模の地域協力を積極的に推進していく。中国は周辺国との相互接続を加速し、地域的資金調達プラットホームづくりを積極的に模索し、地域経済融合を促進し、地域の競争力を高める。中国はアジア地域協力プロセスに積極的に参加し、アジア以外の地域・国との地域協力・サブ地域協力を断固推進する。中国は引き続き貿易と投資の自由化、円滑化を提唱、推進し、各国との双方向の投資を強化し、協力の新たな注目点を作り上げるであろう。中国はアジア地域と他の地域との開放・協力を断固支持し、地域と世界の他の地域との共同の発展を一層促進する。中国は南北格差の縮小に尽力し、発展途上国の自主発展能力の増強を支援する。

会場の皆さん

「親仁善隣（隣人と親しくし、友好的に付き合うこと）」は中国古来の伝統である。アジアと世界の平和・発

展、協力・ウインウインの事業にゴールラインはなく、一つまた一つと続くスタートラインがあるだけである。中国は五大陸の友人と手を携えて努力し、アジアと世界の素晴らしい未来を共に切り開き、アジアと世界の人民に幸福をもたらすことを願っている。

結びにあたり、年次総会の円満な成功を祈願したい。

〔注〕

〔一〕十二支は中国で人の生まれ年を表す十二種類の動物、すなわち子（ネ）、丑（ウシ）、寅（トラ）、卯（ウ）、辰（タツ）、巳（ミ）、午（ウマ）、未（ヒツジ）、申（サル）、酉（トリ）、戌（イヌ）、亥（イ）十二年で一周する。

〔二〕本書中の「宣伝思想工作をよりよく行う」の注〔一〕を参照。

開放型世界経済を共に擁護、発展させよう

（二〇一三年九月五日）

主要二十カ国・地域（G20）首脳会議の初会合での世界経済情勢に関する発言

尊敬するプーチン大統領
会場の皆さん
　美しいサンクトペテルブルクで皆さんとお会いし、世界の経済成長と雇用促進策を共に討議できることを大変喜んでいる。まず、プーチン大統領とロシア政府が今回のサミットのために積極的な努力と周到な準備をされたことに謹んで心より感謝の意を表したい。
　現在、世界経済は徐々に低迷から抜け出し、情勢は引き続き良い方向に進んでいる。一方、国際金融危機のマイナスの影響は依然存在し、一部の国々はいまだに景気後退から脱却しておらず、グローバル経済の復調への道のりはまだまだ遠い。
　情勢は任務を決定し、行動は成果を決定する。そこでわれわれは将来を見据え、各国が発展・刷新し、成長を連動させ、利益を融合させる世界経済を築くよう努力し、開放型世界経済を揺るぎなく擁護し、発展させなければならない。

──発展・刷新は、世界経済の持続可能な成長のための要請である。刺激政策と経済に対する政府の大規模な直接介入だけに頼る成長、さらに対症療法だけで根本治療がなく、大量の資源消費と環境汚染の上に成り立つ成長を長続きさせるのは困難である。経済成長の質と効果を向上させ、GDPの伸び率だけで業績を評価するGDP英雄論を回避すべきである。各国は積極的な構造改革によって市場の活力を刺激し、経済競争力を強めるべきである。

──成長の連動は世界経済の力強い成長のための要請である。力強く成長する世界経済の源は各国の共同の成長にある。各国は運命共同体意識を確立し、「一国が栄えればみな栄え、一国が転べばみな転ぶ」というカスケード効果(連鎖反応)をはっきり見極め、競争の中で協力し、協力の中でウインウインを図るべきである。自国の利益を求める際には、他国の利益にも配慮し、自らの発展を求める際には、他国の発展にも配慮すべきである。それぞれの国が直面している際立った問題を解決するために互いに助け合うことは、世界経済の発展のための客観的要請である。一つ一つの国の発展が他国の成長とカスケード効果を生み、互いにマイナスではなくプラスのスピルオーバー効果(溢出効果)をもたらすようにすべきである。

──利益の融合は、世界経済のバランスのとれた成長のための要請である。バランスのとれた成長は成長を移転させるゼロサムゲームではなく、各国が幸福を共有する成長である。各国は比較優位を十分に生かし、世界経済の資源配分を共同で最適化し、グローバルな産業分布をより完全なものにし、利益共有のグローバル・バリューチェーンを構築し、各国に広く利益が及ぶグローバルな大市場を育て、互恵・ウインウインに基づく発展を実現すべきである。

このような世界経済を築くには、G20の加盟諸国・地域がいっそう緊密な経済パートナーシップを構築し、しかるべき責任を負う必要がある。

第一に、責任あるマクロ経済政策をとること。各主要経済体はまず自らのなすべきことをしっかり行い、自国の経済に大きな混乱が生じないようにすべきである。これはわれわれの最低限の責任である。われわれはマクロ経済政策協調のメカニズムをより完全なものにし、相互の意思疎通と協調を強化すべきである。マクロ・ミクロの経済政策と社会政策とは一体であり、各国は社会政策で経済政策を支え、マクロ・ミクロ経済政策の実行のための条件を整えるべきである。G20財務大臣・労働大臣合同会合が経済政策と雇用政策の協調を強めることを決定したのは、正しい道であり、揺るぎなく歩んでいくべきである。

この面で、中国が取っている経済政策は中国経済に対する責任を負い、また世界経済に対しても責任を負っている。中国経済のファンダメンタルズは良好で、今年（二〇一三年）上半期のGDPは七・六パーセント伸びた。一方、中国は地方政府の債務、一部業界の生産能力過剰などの問題にも直面している。これらの問題は制御可能な範囲内にあり、われわれはいま解決のための措置を講じつつある。

われわれは次のように認識している。経済の長期的発展問題を根本的に解決するには、構造改革を揺るぎなく推進しなければならず、そのために成長の速度が多少落ちても構わない。いかなる事業でも、長期、短期両方の視点で考え、深謀遠慮する必要があり、ニワトリを殺して卵を取り、沢を干して魚を捕るような発展は長続きしない。

中国経済は世界経済と高度に融合している。経済運営がより安定し、成長の質がより高く、今後の成長がより持続可能な中国は、世界経済の発展にとって長期的好材料である。中国は経済の持続的で健全な発展を実現し、各国のためにより広大な市場と発展空間を提供し、世界経済により多くのプラスのスピルオーバー効果をもたらす条件も能力も持っている。

第二に、開放型世界経済を共に擁護し、発展させること。「花が一輪咲いても春とは言えず、百花が一斉に

咲き誇ってはじめて春が来る（一人またはひとつの地域が発展しても理想的な結果とはならないが、共に発展すれば本当の素晴らしさが実現する）」というように、各国の経済は互いに通じ合えば共に発展するが、互いに閉ざせば共に後退してしまう。われわれは時代の潮流に順応し、さまざまな形の保護主義に反対し、国内の二つの市場と二種類の資源を統一的に利用しなければならない。

われわれは自由、開放、非差別の多角的貿易体制を維持し、排他的な貿易基準、ルール、システムを作らず、グローバル市場の分割と貿易システムの分化を回避すべきである。グローバルな投資ルールを検討してより完全なものにし、グローバルな開発資本を合理的流動に誘導し、開発資源をいっそう効果的に配分すべきである。

第三に、グローバル経済ガバナンスを整備し、より公平・公正なものにすること。G20は先進国と途上国が国際経済について十分に話し合う重要な場である。われわれはG20を世界経済の安定の実現、国際金融セーフティーネットの構築、グローバル経済ガバナンスの改善のための重要な力に成長させるべきである。

われわれは国際金融機関を引き続き改革すべきで、関係国は国際通貨基金（IMF）のクォータ（出資割当額）とガバナンスの改革案を早急に実行に移さなければならない。各国の経済総量の世界経済におけるウェートを反映する新たなクォータの公式を策定すべきである。引き続き国際金融市場の監督・管理を強化し、金融体系を真に実体経済の発展に依拠し、それに貢献し、それを促進するものにすべきである。安定した、リスクに強い国際通貨システムを築き、特別引き出し権（SDR）の通貨バスケット構成を改革し、国際金融、地域金融の協力メカニズムの連携を強化し、金融リスクに対するファイアーウォールを築くべきである。

中国は、税金逃れ防止の多国間協力の強化を支持し、国際的租税管理メカニズムの整備のために、応分の務めを果たしたいと考えている。

ここで中国の経済・社会の持続的で健全な発展を促進するために、改革を揺るぎなく進めることを強調した

い。われわれは今、改革の全面的深化について総合的な研究を進めている。それは経済、政治、文化、社会、エコ文明各分野の体制改革を統一的に推進し、社会的生産力を一段と解き放ち、発展させ、社会全体のクリエーティビティを解き放ち、強めるためである。中国は市場システムづくりを強化し、マクロコントロール、財政・租税、金融、投資、行政管理などの分野の体制改革を推進し、資源配分における市場の基礎的役割をよりいっそう十分に発揮させる。金利と為替レートの市場化改革の深化に努力し、人民元為替レートの弾力性を高め、人民元の資本取引における交換性を徐々に実現する。中国は互恵・ウインウインの開放戦略を堅持し、投資・貿易体制にかかわる改革を深め、法律・法規を整備し、中国に進出している各国企業の公平な経営のための法治環境を整え、関係国との貿易紛争を協議によって解決する。

会場の皆さん

手を携えて努力し、より緊密なパートナーシップを築きさえすれば、G20はいっそう安定的に、いっそう好調に、いっそう遠くまで進むことができ、各国人民は世界経済にいっそう自信を持ち、将来の生活にいっそう自信を持つことができる。

ご清聴ありがとうございました。

「上海精神」を発揚し、共同発展を促進しよう

（二〇一三年九月十三日）

上海協力機構（ＳＣＯ）加盟国首脳理事会第十三回会議での演説

尊敬するアタムバエフ大統領
尊敬する同僚の皆さん

ビシケクで開催された上海協力機構（ＳＣＯ）首脳会議に参加できることを大変喜んでいる。議長国であるキルギスの万全な準備と周到な手配に感謝したい。また、中国はキルギスがこの一年間、ＳＣＯの発展のために尽力してこられたことを高く評価する。

国際情勢、地域情勢の最新の発展・変化を見据え、安定擁護、経済発展、民生改善という加盟各国に共通する要請を踏まえ、今回の首脳会議では「ＳＣＯ加盟国長期善隣友好協力条約」の実行をテーマとし、同条約の実施要綱を批准し、ＳＣＯの今後五年間の発展の青写真を描く。これによって、ＳＣＯの発展により広い新境地が開かれるだろう。

現在、ＳＣＯは得難い発展のチャンスを迎えているが、厳しい試練にも直面している。「三つの勢力（テロリスト、分裂勢力、宗教過激勢力）」や麻薬犯罪、国際組織犯罪がこの地域の安全と安定を脅かしている。国際

金融危機の影響を受け、各国経済は程度こそ異なるものの困難に直面し、調整期または回復期に入っている。いかなる国も単独ではこれらの試練に対応し難い。われわれは協力を強化し、協力による自己向上を図らなければならない。上述のことを踏まえ、SCOが以下の面で協力を強化するよう提案したい。

第一に、「上海精神」[二]を発揚すること。「上海精神」を実践に生かし、加盟国の相互信頼を深め、平等、協議、相互理解・歩み寄りを土台に互恵協力を展開し、平和・発展という時代の潮流に順応することは、加盟国人民の利益と要請に合致している。

われわれはこの旗を高く掲げ、「条約」を確実に実行し、SCOの枠組み内の各分野における協力を誠心誠意推進し、加盟国は仲良く付き合う良き隣人、同舟相救う良き友人、苦楽を共にする良きパートナーとなろう。

第二に、地域の安全・安定を共に擁護する。安全で安定した環境は互恵協力を展開し、共同発展・繁栄を実現するために必要な条件である。「テロリズム、分裂(分離独立)主義、過激主義取り締まり上海条約」および協力要綱を実行に移し、法執行安全協力体系を整え、地域テロ対策機構に麻薬取締りの機能を組み込み、その上で安全面の脅威と試練に対応する総合センターを設立する。

加盟国の関係部門も日常の情報を交換するチャンネルを確立し、合同行動の方式を検討し、「三つの勢力」を協力して取り締まり、この地域の各国人民の生産・生活のための良好な環境づくりに取り組むべきである。

アフガニスタンはSCOのオブザーバー国であり、アフガニスタン情勢はこの地域の安全・安定と緊密にかかわっている。SCOはアフガニスタンの民族和解プロセスを支持し、アフガニスタンの平和・安定の早期実現を支援し、地域の安全を共に擁護すべきである。

第三に、実務協力の発展に力を入れること。実務協力はSCOが発展を実現するための物的基盤と原動力である。SCOの加盟六カ国とオブザーバー五カ国はみな古代シルクロード沿いにある。加盟国とオブザーバー

国として、われわれにはシルクロードの精神を伝承し、大いに発揚する責任がある。

その一は、交通・物流大通路を開設すること。「国際道路輸送円滑化協定」に早期に調印すべきである。調印後は自由意志の原則に基づき参加意欲のあるオブザーバー国を幅広く受け入れ、バルト海から太平洋まで、中央アジアからインド洋・ペルシア湾までの交通輸送回廊を整備することを提案したい。

その二は、貿易・投資円滑化協定について協議すること。各方面の利益と関心事に十分に配慮した上で、貿易と投資の分野における幅広い協力の展開を図り、加盟諸国の協力潜在力を十分に発揮し、優位性の相互補完を実現し、共同発展・繁栄を促進する。

その三は、金融分野における協力を強化すること。ＳＣＯ開発銀行の設立を推進し、ＳＣＯのインフラ整備および経済・貿易協力プロジェクトのために融資の保障と決済のプラットホームを提供する。同時に、ＳＣＯ専用口座を早期に開設し、ＳＣＯの枠組みの下でのプロジェクト研究事業と交流・研修事業のために資金援助を提供する。ＳＣＯ銀行連合体というメカニズムを効果的に利用し、地域各国の金融機構の交流・協力を強化する。

その四は、エネルギークラブを設立すること。本機構の枠組みの下でのエネルギー協力における協調を図り、安定した供給・需要関係を構築し、エネルギー安全を確保すると同時に、エネルギー効率の向上と新エネルギーの開発などの分野で幅広く協力する。

その五は、食糧安全協力のメカニズムを構築すること。農業生産、農産物貿易、食品安全などの分野で協力を強化し、食糧安全保障を確保する。

第四に、人的・文化的交流と民間交流を強化し、ＳＣＯの発展のための民意基盤と社会基盤を固める。われわれは文化、教育、映画・テレビ、医療衛生、スポーツ、観光などの分野で幅広く協力する。

中国は昨年の北京ＳＣＯ首脳会議で今後十年間で加盟国の学生三万人に政府奨学金を支給することを発表し

たが、われわれは加盟国と緊密に協力し、この事業を着実に進めたい。
中国は上海政法学院に「中国—上海協力機構国際司法交流協力研修基地」を設立し、これを通じて加盟国のために司法人材を養成したい。
伝統医学は各国が協力する新しい分野であり、中国は加盟国と協力して中国医学医療機構を設立し、伝統医学の資源を十分に活用して加盟国人民の健康に貢献する。
各国の合意に基づき、中国は率先してＳＣＯ善隣友好協力委員会を設立した。加盟諸国とオブザーバー国も同様の社会団体を設立し、各国人民の相互理解と伝統的友情を増進することを提案したい。
今回の首脳会議で発表された「ビシケク宣言」はシリア問題についてＳＣＯ加盟国の立場を表明した。この場で、中国はシリア情勢に高度に注目し、国際社会による停戦の積極的な推進を支持し、仲裁や交渉によるシリアの危機の政治的解決を呼びかけていることを強調したい。中国はロシアによるシリアの化学兵器を国際社会の管理下で廃棄させる提案を支持し、国連安全保障理事会を通じて関係各方面との意思疎通と協調を強化し、シリア問題の政治的解決を推進するために引き続きたゆまぬ努力をしていきたい。
ご清聴ありがとうございました。

〔注〕

〔一〕「上海精神」には相互信頼、相互利益、対等、協力、文明の多様性の尊重、共同発展の追求という思想が内包されている。二〇〇一年六月に江沢民国家主席（当時）が上海協力機構の創設大会で提起したもので、「上海協力機構設立宣言」に盛り込まれている。

改革開放を深化し
共に素晴らしいアジア太平洋地域をつくろう

（二〇一三年十月七日）

ＡＰＥＣ・ＣＥＯサミットでの演説

尊敬するワルダナ議長
会場の皆さん

本日は多くのご来賓と俊秀の皆さまにご参集いただいた。アジア太平洋地域の商工業界の皆さんと「天国の島」と呼ばれる美しいバリ島で一堂に会することができて大変喜んでいる。

ここは世に名を馳せた観光地というだけでなく、バリ・プロセス、バリ・ロードマップなどの誕生の地でもある。バリ島で開かれた今回のアジア太平洋経済協力会議（ＡＰＥＣ）非公式首脳会合にアジア太平洋地域および世界から期待が寄せられている。

現在、世界経済の回復は紆余曲折を経ているが、アジア太平洋経済は良好な発展の趨勢を維持しながらも、新たな試練に直面している。今回の会議は地域経済とグローバル経済の成長に新たな活力を注ぐことが期待されている。

会場の皆さん

世界経済は依然として本格的な調整期にあり、回復の兆しはあるものの、基礎が不安定で、原動力が不足しており、速度がアンバランスという問題に直面している。主要先進経済体の構造的な問題は解決にはほど遠く、マクロ経済政策の協調強化の必要性が際立っている。新興市場経済体の成長率は鈍化し、外的リスクと試練が増加している。世界貿易機関（ＷＴＯ）のドーハラウンドは難航し、貿易・投資保護主義は新たな形で現れている。世界経済の全面的な回復と健全な成長の実現は、長期にわたる曲折したプロセスとなろう。

世界経済情勢がもたらす新たな試練に対し、先進経済体であろうと発展途上経済体であろうと、いずれも新たな成長の原動力を努力して探し求めている。

成長の原動力はどこから来るのか。私の考えでは、改革の中から、調整の中から、イノベーションの中からしか出て来ない。長い間、アジア太平洋地域は常に世界経済の成長をけん引する重要なエンジンであった。世界経済の回復の原動力が欠乏している背景の下、アジア太平洋各経済体は敢えて天下に先んじる勇気を奮い、発展・刷新、成長の連動、利益の融合ができる開放型経済発展パターンの確立を推進しなければならない。このようにしてこそ、「山重水複路無きかと疑う、柳暗花明又一村（山が幾重にも重なりあい、川がまがりくねって、道は行き止りかと思っていると、柳がほの暗くしげる中に、花がぱっと明るく咲いているところに、また一つの村が目の前にあらわれた）」〔一〕のいうように、行き詰まっている世界経済の回復においてアジア太平洋経済のけん引車としての役割が期待されている。

中国はまさにこのような努力を進めているところである。上半期、中国経済は前年同期比で七・六パーセント成長した。これは以前の八パーセント以上の成長に比べれば、確かにある程度鈍化している。一部の友人は中国経済の先行きを心配しており、「中国経済はハードランディングするのではないか」「中国経済は持続的で

健全な発展ができるのか」「中国はいかに対応するのか」「中国経済情勢は、アジア太平洋にどのような影響をもたらすのか」といった疑問を提起する人もいる。これに対し、私はいくつかの考えを述べてみたい。

まず、私が強調したいのは、各方面の状況を総合的に分析すると、中国経済の発展の先行きについて、私は自信に満ちあふれているということである。

第一に、この自信は、中国経済の成長率が合理的な範囲内にあり、所期の目標内にあることに由来する。中国経済の成長率は、以前の二桁成長から二〇一一年の九・三パーセント、二〇一二年の七・八パーセントに至り、さらに今年上半期の七・六パーセントに至っており、全体として平穏な推移を実現している。七・六パーセントの成長は、世界の主要経済体の上位にランクされている。中国経済のファンダメンタルズは良好であり、経済成長およびその他の主要経済指標は所期の目標内に維持されている。すべては想定内であり、何も意外なことは発生していない。

中国経済の成長がある程度鈍化しているのは中国の自主的な調整によるものである。われわれが定めた二〇二〇年までにGDPと都市・農村住民一人当たりの所得を二〇一〇年の二倍にする目標を実現するには、七パーセントの成長率で十分である。われわれは中長期的発展目標を打ち出す際に、これについて十分に推計した。同時に、経済の長期的発展の問題を根本的に解決するには、成長の速度を多少落としてでも、構造改革を揺るぎなく推進しなければならない。いかなる事業でも、長期、短期両方の視点から考え、深謀遠慮する必要があり、ニワトリを殺して卵を取り、沢を干して魚をとるような発展は長続きしないとわれわれは認識している。

第二に、この自信は、中国経済の発展の質・効率が徐々に高まっていることに由来する。今年上半期、中国経済の発展の特徴は、全体として平穏であり、安定した中で前進しているということである。「安定」とは、経

済成長が合理的範囲内にあることを指し、「前進」とは、経済発展パターン転換の歩みが加速していることを指す。中国経済の発展は、まさにこれまでの過度な投資・輸出のけん引への依存から、内需とりわけ消費需要のけん引への依存に転換している。上半期の経済データを見ると、構造調整のけん引作用が顕在化している。内需は経済成長を七・五ポイントけん引しており、このうち消費は三・四ポイントけん引している。われわれはもはや単純にGDP成長率で業績を評価するGDP英雄論ではなく、経済成長の質・効率向上を立脚点とすることを強調している。事実が証明しているように、われわれがこの政策を制定したのは、中国自身に対してのみならず、世界に対しても責任を負っているということである。

第三に、この自信は、中国経済の強靭な内生的動力に由来する。中国経済の発展の内生的動力はまさに絶えず増加しており、引き続き増強されていくだろう。引き続き進行する新型都市化は、数億単位の中国人を農村から都市に向かわせ、さらに高水準の生活に向かわせるために新たな空間を創造するものである。中国の教育水準は絶えず向上しており、新世代の労働者は、素質がより高く、視野がより広く、技能がより優れた現代化・専業化した人材に成長している。中国はイノベーションによって発展を推進する戦略の実施に力を入れており、科学技術と経済の緊密な結合を推進し、科学技術イノベーションと新興産業の発展を推進している。中国が絶えず開拓している内需・消費市場は、巨大な需要と消費動力をもたらす。中国は人間本位の理念を堅持し、発展の成果をより広範な地域・民衆に及ぼす。これらはいずれも、中国経済の発展を推進する強靭な内生的動力に転化することだろう。

第四に、この自信はアジア太平洋地域の発展の良好な見通しに由来する。アジア太平洋各経済体の共同の努力の下、アジア太平洋地域の資金・情報・人員の流動はすでにハイレベルに達しており、産業の分業化は日増しに明瞭となり、アジア太平洋市場は初めて輪郭を見せ始めている。熟しつつある新たな科学技術革命と新た

な産業革命は、アジア太平洋地域に優位性を集積している。アジア太平洋各経済体は耐リスク能力を大いに増強させ、為替レートメカニズムをさらに柔軟化させ、外貨準備の水準をいちじるしく高めており、各種の多国間・二国間の金融の枠組みは複雑な局面に対応するメカニズムの保障を提供している。アジア太平洋地域の経済発展の先行きに中国は自信をもっている。アジア太平洋地域の成長の大環境から受益することにより、中国は自身の発展を実現してきたし、同時に自身の発展によりアジア太平洋経済の成長に貢献してきた。この相互作用の傾向がますます強まることが、アジア太平洋地域の発展のためにさらに多くのチャンスを創出すると、私は信じている。

私は中国経済の持続的で健全な発展について、確固とした自信を抱いている。同時に、需要の下降、生産能力の過剰、地方債務、シャドーバンキング等の問題・試練について、われわれははっきりとした認識を持っており、外部環境がもたらす可能性のある衝撃に高度に注意を払い、穏当な対応措置を講じて弊害を未然に防いでいる。

会場の皆さん

中国経済はすでに新たな発展段階に入っており、まさに本格的なパターンの転換と構造の調整が進められているところである。こうした中で求められるのは、不断に坂を登り峠を越え、堅塁を攻略し難関を克服していくことである。これは必然的に調整の陣痛や成長の悩みを伴うが、それらはいずれも払うに値する代償である。

虹は往々にして風雨のあとに現れる。「人より高い山はなく、足より長い道はない」という名言がある。山がどんなに高く、道がどんなに長くとも、われわれが諦めずに粘り強く前進していきさえすれば、いつの日か必ず目的は達成できるのである。

中国が前進するには、改革開放を全面的に深化させなければならない。人民大衆の新たな期待に対し、われ

われは改革開放への信念を確固とし、さらなる政治的勇気と英知、より有力な措置と方法によって改革開放を推進し、いっそう思想を解放し、いっそう社会的生産力を解放し発展させ、いっそう社会のクリエーティビテイーを解き放ち、強化する。

中国は、改革を全面的に深化させる全体プランを制定している。これは全体として、経済・政治・文化・社会・エコ文明建設などの分野の改革を統一的に計画し、発展プロセスで現れる難問の解決に努力し、経済の持続的で健全な発展に対する体制・メカニズムの障害を除去し、改革を通じて経済発展のために新たな原動力を注入するものでなければならない。

われわれは基本経済制度を完全なものにし、市場体系づくりを強化し、マクロコントロール、財政・租税、金融、投資などの分野の体制改革を推進し、金利と為替レートの市場化改革の深化に努力し、人民元為替レートの弾力性を高め、人民元の資本取引における交換性を徐々に実現する。われわれは行政体制改革を推進し、さらに機能を転換し、政府機関を簡素化し企業に一部の権限を委譲し、政府と市場の関係を合理化させ、資源配分における市場の基礎的役割をより大きな程度、より広い範囲に発揮させる。われわれは科学技術体制を健全化し、科学技術のイノベーション能力を高め、企業を主体とし、市場を導きとし、産・学・研が結び付いた技術イノベーション体系の構築に力を入れる。われわれは民生の保障・改善を重点とし、社会の公正・正義を促進し、質のより高い雇用の実現を促進し、所得分配制度改革を深化させ、健全な社会保障体系と基本公共サービス体系を整備する。われわれは生態環境保護を強化し、資源節約をしっかりと推進し、人民のために良好な生産・生活環境を創造し、地球気候変動に対応するために新たな貢献を行う。

われわれはより積極的かつ自発的な開放戦略を実施し、互恵・ウインウイン、多元的均衡を保ち、安全と高効率を目指す開放型経済システムを完全なものにし、沿海地域・内陸部・辺境地域の開放面における優位性の

相互補完を促して、国際的な経済協力と競争をリードする開放区域を形成し、地域の発展をけん引する開放の本拠地を築き上げる。輸出と輸入の両方を重視することを堅持し、対外貿易のバランスの取れた発展を促す。「海外から導入する」と「海外に出て行く」を共に重視することを堅持し、国際投資協力のレベルを高める。また、投資、貿易体制に関する改革を深め、法律・法規を充実させ、中国における各国の企業が公平に経営活動ができる法治環境を作り出す。われわれは二国間、多国間、地域的またはサブ地域的な範囲での開放・提携を統一的に計画し、自由貿易区（FTA）戦略の実施を急ぎ、周辺諸国との相互アクセスを推し進めていく。

改革は深みをもった革命であり、重要な利益関係の調整と各方面の体制・メカニズムの整備に関わっているとわれわれは認識している。中国の改革はすでに難関突破期と「深水区」に差しかかっている。それは、現在改革を推進する上で解決を要する問題は噛み切るのが難しい硬い骨のような難問ばかりであるからである。この時期に必要なのは一気呵成に取り組むことである。後先のことを考えすぎて躊躇したりおじけづいてしり込みしたりすれば、前進できないばかりかこれまでの功績が水泡に帰することになる。

中国は大国であり、決して根本的な問題で破滅的な誤りを犯してはならない。さもなければ、挽回しようもないし補いようもない。われわれの立場は、大きな勇気をもって着実に進めなければならず、大胆に模索し勇気を持って開拓するのみならず、穏当かつ慎重に、熟慮した後に事を運ばなければならないというものである。われわれは改革開放という正しい方向を堅持し、硬い骨のような難問に果敢にかじりつき、危険な早瀬のような試練を果敢に渡り、長年累積した治療の難しい持病に果敢にメスを入れ、とどまることなく確実に改革開放を推し進めていかなければならない。

会場の皆さん

アジア太平洋地域は大家族であり、中国はこの大家族の一員である。中国の発展はアジア太平洋地域か

ら切り離すことができず、アジア太平洋地域の繁栄も中国から切り離すことができない。中国経済の持続的かつ健全な発展はアジア太平洋地域の発展により大きなチャンスをもたらす。

中国は断固として地域の平和と安定を維持し、アジア太平洋地域におけるウインウイン関係のための基礎を打ち固める。私は今年の博鰲・アジアフォーラムをはじめ多くの場で申し上げたように、平和は空気と日光のようなもので、気付かないうちにその利益を得て、いったん失ってしまえば生きていかれない。平和がなければ、発展は源の無い水と根の無い木のようなものになる。家和して万事成るというように、中国はアジア太平洋地域の大家族の一員で、家族同士の皆さんと睦まじく付き合い、助け合うことを望んでおり、アジア太平洋諸国・地域は簡単に手に入れることのできない、平和で安定した局面を大切にし、恒久の平和、共同の繁栄といった調和の取れたアジア太平洋地域の構築を共に推進していくことも願っている。

中国は地域の発展と繁栄の促進に力を入れ、アジア太平洋におけるウインウイン関係のためにチャンスを創出する。中国はアジア太平洋地域の多くの経済体にとって最大の貿易パートナー、最大の輸出市場、主要投資国となっている。二〇一二年のアジア経済の成長率に対する中国の貢献率はすでに五〇パーセントを上回っている。二〇一二年末時点で、中国が設立を許可した外資系企業は累計七十六万社に上り、外資直接投資額は約一兆三千億ドルに達した。中国はすでに二十カ国・地域と十二の自由貿易協定（ＦＴＡ）を締結しており、交渉中のは六つあり、自由貿易パートナーはほとんどＡＰＥＣ加盟国・地域である。今後五年間、中国の製品輸入額は十兆ドル、新規対外投資は五千億ドル、中国大陸部外への観光客数は延べ四億人を超えると予測されている。中国の国内需要、特に消費と投資需要の拡大によって、海外投資者にはより多くの協力機会がもたらされる。

中国は太平洋両岸をまたぎ、各方面に利益をもたらす地域協力枠組みの構築のために力を尽くしていく。太平洋が広いというのは、天然の障壁がまったくないからであり、われわれはそこに人為的な障壁を設けるべき

ではない。われわれは、ＡＰＥＣにおいてけん引し、協調を促す役割を果たし、開放・包容、互恵・ウインウインの考えを堅持して、マクロ経済政策面での協調を強化し、地域貿易協定（ＲＴＡ）の協調を促し、地域一体化のプロセスをさらに進めるとともに、「スパゲティ・ボウル」現象（二国間の自由貿易協定と地域貿易協定の下、各協定で異なる優遇措置や原産地規則が交錯し、切っても切れず、整理してもなお入り乱れている現象）を防ぎ止め、太平洋両岸でより緊密なパートナーシップを結び、共にアジア太平洋地域の長期的発展を求めなければならない。

会場の皆さん

「浩渺（こうびょう）たる海を果てしなく航行し、帆を揚げて但だ風に信す（まかす）（広々とした空間を自由に駆け回る意味）」（二）というように、アジア太平洋はわれわれの共同の発展空間であり、われわれはみなアジア太平洋地域という大洋を前進する船の帆である。アジア太平洋地域の未来の発展はＡＰＥＣのメンバー全員の利益に関わっている。

中国は今回のＡＰＥＣ非公式首脳会合に大いに期待しており、アジア太平洋地域のパートナーと手を携え、世界をリードし、各方面に利益を与え、子孫に恩恵をもたらす素晴らしいアジア太平洋地域を共に創ろうと希望している。これに対し、四つの願いを述べたい。

第一に、アジア太平洋地域は共同発展を追求すべきである。アジア太平洋地域の各経済体は緊密につながり、利益が融合しており、比較優位を十分に生かし、資源配分を共同で最適化し、産業分布をより完全なものにし、利益共有のアジア太平洋バリューチェーンを構築し、各方面に広く利益が及ぶアジア太平洋大市場を育てなければならない。先進経済体は発展途上経済体のためにより多くの支持と援助を提供し、後者も努力して先頭に追いついていくべきである。発展の格差が縮小されてこそ、はじめてアジア太平洋地域は全体として発展レベルを向上することができる。

第二に、アジア太平洋地域は開放的発展を堅持すべきである。第二次世界大戦後、世界中の十三の経済体は二十五年以上に及ぶ高速成長を実現した。これらの経済体に共通する特徴は開放政策を実施したことである。われわれは時代の潮流に順応し、自由、開放、非差別の多角的貿易体制を擁護し、さまざまな形の保護主義に反対しなければならない。われわれは手を携えて開放型の経済・地域協力の枠組みを構築し、開放と包容の精神をもってアジア太平洋自由貿易圏（ＦＴＡＡＰ）の実現を推進しなければならない。

第三に、アジア太平洋地域はイノベーションによる発展を推進すべきである。財政刺激政策と非伝統的通貨政策だけに頼る成長は長続きせず、過度の資源消費と環境汚染の上に成り立つ成長は得るものよりも失うもののほうが大きい。われわれは発展の方針を刷新しながら、発展の手段を刷新しなければならない。古い思考パターンとしたきりを突破し、グリーン発展、循環型発展、低炭素型発展を堅持しなければならない。イノベーション能力を不断に高め、イノベーションによって新興産業を育て、イノベーションによって成長動力を掘り起こし、イノベーションによって中核的競争力を強化しなければならない。

第四に、アジア太平洋地域は連動する発展を求めるべきである。アジア太平洋各経済体は利益が融合し、運命が一つになっており、一国が栄えればみな栄え、一国が転べばみな転ぶというのである。このような動態的均衡が保っているチェーンにおいて、すべての経済体の発展はそのほかの経済体に連鎖反応を及ぼす。われわれは運命共同体の意識をしっかり持ち、自身の発展を通じて他者の発展を促し、協調・連動を通じてそれぞれの優位性を最大限に発揮させ、プラスのエネルギーを伝え、各経済体の間でプラスの相互作用が働き、協調して発展する枠組みを形成しなければならない。

現在、アジア諸国、特に新興市場と発展途上国はインフラ整備の融資需要が大きい一方、最近は経済の下押しリスクの増大と金融市場の不安定さなどの厳しい試練に直面しており、より多くの資金をインフラ整備に導

くことで経済の持続的で安定した成長を維持し、地域内の相互アクセスと経済一体化プロセスを促進する必要がある。そのため、中国はアジアインフラ投資銀行の設立を提唱し、東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）諸国を含むアジア地域の発展途上国のインフラ整備のために資金面での支持を提供したい考えである。新しいアジアインフラ投資銀行はアジア内外の既存の多国間開発銀行と提携し、互いに補完し合い、アジア経済の持続的で安定した発展を共に促進していくものになる。

会場の皆さん

商工業界は経済と貿易の発展を推進する主力軍であり、ＡＰＥＣの協力を推進する上で不可欠の重要な力でもある。中国は商工業界の役割を高度に重視しており、商工業界からの意見と提言に耳を傾け、商工業界、特に中・小・零細企業が便利に経済発展と地域協力に参加できるための道を切り開きたい。

今年（二〇一三年）八月、中国の商工業界はＡＰＥＣ中国商工理事会を設立し、アジア太平洋地域の経済・貿易規則の制定に深く参加するための仕組み面の保障を提供し、中国の商工業界が国際責任を負う積極的な姿勢を示した。

友人が多ければ、道は歩きやすくなる。ご臨席の商工業界の方々は中国の改革開放事業の参加者であり、中国人民の古い友人でもある。われわれは古い友人を忘れず、新しい友人も作りたい。中国は各経済体、特にＡＰＥＣ加盟国・地域の企業が中国で投資・起業し、積極的に中国の改革開放に参加することを歓迎、奨励している。友人が多ければ多いほど、中国の改革開放事業は盛んになることだろう。

商工業界の友人の皆さんがＡＰＥＣというプラットホームを十分に活用し、アジア太平洋地域における貿易と投資環境を改善する上で自分の声を出してほしい。また、積極的に市場情報、技術シーズインキュベーション、イノベーション駆動などの分野で持つ優位性を積極的に発揮し、戦略性と予見性を持つ助言を提出し、

貿易と投資の自由化・円滑化の推進、地域経済一体化の深化、ＡＰＥＣの未来の発展などについて助言・献策するように期待している。

会場の皆さん

中国は二〇一四年にＡＰＥＣ非公式首脳会合および関連イベントを主催することになっている。われわれはこれを契機に、未来に向けて、より緊密なパートナーシップの構築を目指し、実務的な協力を深化させ、ＡＰＥＣがけん引役としての役割をよりいっそう発揮するように推進し、アジア太平洋地域の長期的発展の青写真を描き出すであろう。

ご臨席の皆さんがその際に北京に集まり、重要事案を協議し、アジア太平洋地域の発展におけるもう一つの重要な時点に立ち会うように期待している。

ご清聴ありがとうございました。

〔注〕

〔一〕陸游の『游山西村』を参照。陸游（一一二五〜一二一〇）、北宋に生まれ、越州山陰（今の浙江省紹興）出身。南宋の詩人。

〔二〕尚顔の『送朴山人帰新羅（新羅に帰る朴山人を送る）』を参照。尚顔（生没年不詳）、唐代の詩人。

アジア安全観を積極的に樹立し安全協力の新局面を共に創出しよう

（二〇一四年五月二十一日）

アジア相互協力信頼醸成措置会議第四回サミットでの演説

ご来賓の皆さん、同僚の皆さん、友人の皆さん

まず、先ほどのトルコ大統領特別代表ダウトオール外相の発言に感謝を申し上げたい。中国がアジア相互協力信頼醸成措置会議（ＣＩＣＡ）の議長国を務めるにあたり、各方面、特にＣＩＣＡの創設を提唱したカザフスタンおよび前議長国であるトルコの中国に対する信頼と支持に、謹んで感謝の意を表したい。

これより、私は中華人民共和国を代表して発言させていただく。

本日、ＣＩＣＡ加盟国、オブザーバー国、首脳会議に参加するゲスト国を含む四十七の国家と国際機関の指導者および代表者が上海で一堂に会し、「対話・信頼・協力を強化し、平和・安定・協力の新アジアを共に築く」というテーマをめぐり、安全協力の大計について協議し、長期的安定維持の良策を共にはかり、発展・繁栄に向けて力を合わせることは、アジアと世界の安全保障にとって重要な意義と深い影響がある。

今日のアジアは全世界の人口の六七パーセントとＧＤＰの三分の一を擁し、また多くの文明と民族が集まり

融合する地でもある。アジアの平和と発展は人類の前途と運命に緊密にかかわっており、アジアの安定は世界平和にとって幸いなことであり、アジアの振興は世界の発展にとって福である。

今日のアジアが直面するリスクや試練は増えているが、依然として世界において発展の活力と潜在力が最も大きい地域であり、平和・発展・協力・ウインウインが終始地域情勢の主流であり、協議と交渉によって意見の相違や紛争を解決することがアジア諸国の主要な政策方向である。アジアは世界の戦略的枠組みにおける地位が絶えず向上しており、世界の多極化、国際関係の民主化プロセスでますます重要な役割を果たすようになっている。アジアの良好な情勢は簡単に手に入れることのできるものではなく、いっそう大切にすべきである。

今日のアジアは地域経済協力の発展の勢いが見え、安全協力は困難に立ち向かいながら進んでおり、さまざまな協力のメカニズムがよりいっそう活発化し、地域安全協力プロセスが従来の事業を受け継いで未来の発展の道を切り開くカギとなる段階にある。

「明者は時に因(よ)りて変わり、知者は世に随(したが)いて制す」(二)であり、情勢は発展し、時代は進歩している。時代の歩みと共に進むためには、二十一世紀に身を置きながら頭は冷戦思考、ゼロサムゲームの旧時代に留まったままというわけにはいかない。われわれは共同、総合、協力、持続可能なアジアの安全観を積極的に提唱すべきで、安全理念を革新し、地域の安全と協力の新たな枠組みを創り出して、共同構築、共有、ウインウインというアジアの安全を保障する道を切り開くよう努めるべきであると考える。

共同とは、すべての国の安全を尊重し、保障することである。アジアでは多様性という特徴が鮮明で、各国の大小・貧富・強弱はそれぞれ異なっている。歴史も文化伝統も社会制度も千差万別で、安全保障上の利益や要請も多種多様である。皆さんはアジアという大家族の中で暮らしており、利益が互いに融合しあい、安全と危機を共にし、一国が栄えればみな栄え、一国が転べばみな転ぶ運命共同体としての性格が日増しに強まって

いる。

安全は普遍的なものであるべきである。一国の安全のため他国の安全が損なわれるようなことがあってはならず、一部の国家の安全が別の一部国家の安全を損なうようなこともあってはならない。他国の安全を犠牲にしていわゆる自身の絶対的安全を求めることは、なおさらあってはならない。さもなければ、カザフスタンのことわざにあるように、「他人の明かりを吹き消せば、自分のひげが焼け焦げてしまうだろう」。

安全は平等なものであるべきである。各国は地域の安全問題に平等に参加する権利を持っており、地域の安全を守る責任も負っている。いかなる国も地域の安全問題の独占を求め、他国の正当な権益を侵害すべきではない。

安全は包容力を持つものであるべきである。アジアの多様性と各国の違いを地域の安全協力を促すための活力と原動力に転化し、主権・独立・領土保全の尊重や内政相互不干渉など国際関係の基本準則を厳格に守り、各国が自ら選んだ社会制度と発展路線を尊重し、各方面の安全問題における合理的な関心事を尊重し、それに配慮すべきである。第三国を対象とした軍事同盟を強化することは地域の共同の安全を守ることにプラスにならない。

総合とは、伝統的と非伝統的分野の安全保障を統一的に考慮することである。アジアの安全保障問題は極めて複雑で、ホットで敏感な問題もあれば、民族・宗教上の矛盾もあり、テロ、国際犯罪、環境安全保障、ネットセキュリティー、エネルギー・資源安全保障、ひどい自然災害などによる困難が顕著に増え、伝統的、非伝統的安全保障分野の脅威が交錯し、安全保障問題の内包と外延がさらに拡大している。

アジアの安全保障問題については歴史的経緯と現状を総合的に考慮し、多方面からの取り組みを集め、総合的施策をとり、地域の安全保障管理を協調して推進しなければならない。現在の際立った地域安全保障問題の

解決に力を入れるだけでなく、さまざまな潜在的脅威への対応を統一的に計画し、「頭が痛ければ頭を治し、足が痛ければ足を治す」というようなことは避けなければならない。

テロリズム、分裂主義、過激主義という「三つの勢力」に対し、一切容赦なしの姿勢をとり、国・地域の協力を強化し、いっそう厳しく取り締まり、地域人民が平穏で和やかな土地で幸せに生活できるようにしなければならない。

協力とは、対話と協力により各国と地域の安全保障を促すことである。ことわざにもあるように、力は団結から生まれるもので、腕から生まれるものではない。誠実で突っ込んだ対話とコミュニケーションを通じて戦略的相互信頼を深め、互いの疑念を減らし、小異を残して大同につき、平和的に共存していかなければならない。各国の共通の安全保障上の利益に着眼し、敏感性の低い分野から着手し、安全面の試練に協力して対応していく意識を積極的に育て、絶えず協力分野を拡大し、協力方式を革新し、協力によって平和を求め、協力によって安全を促していかなければならない。平和的方法による紛争の解決を堅持し、ややもすれば武力行使や武力威嚇で互いに脅威になることに反対し、自らの私益のためにトラブルを起こし、矛盾を激化させることに反対し、自己利益のために災いを他人に押し付け、他人の利益を損ない自身の利益を図るようなことに反対しなければならない。

アジアの事は結局、アジア人民に依拠して解決し、アジアの問題は結局、アジア人民に依拠して処理し、アジアの安全は結局、アジア人民に依拠して守っていかなければならない。アジア人民は協力を強化することでアジアの平和と安定を実現する能力も英知も持っている。

アジアは開放されたアジアである。アジア諸国は自らの協力を強化すると同時に、他の地域の国家、他の地域や国際機関との協力にも揺るぎなく取り組まなければならない。各国がアジアの安全と協力のために前向き

で建設的な役割を果たし、双方に利があること、多方面に利があること、相互に利があることを実現するために努力することを歓迎したい。

持続可能とは、発展と安全を共に重視し、恒久的な安全を実現することである。「木の長ずることを求める者は、必ず其の根を固めなければならず、水の遠く流れることを欲しがる者は、必ず其の源を浚わなければならない」[二]と言うように、発展は安全の基礎であり、安全は発展の条件である。やせた土地には平和の大樹は育たない。戦乱が続く環境の中では、発展の果実は実らない。アジアの大多数の国家にとって、発展は最大の安全そのものであり、地域の安全問題を解決するマスターキーでもある。

風雨の試練に耐え抜くアジアの安全のビルを建設するには、発展というテーマに焦点を合わせ、民生を積極的に改善し、貧富の格差を縮小し、安全保障の基盤を絶えず強化していかなければならない。共同発展と地域一体化プロセスを推進し、地域の経済協力と安全協力がプラスの相互作用をし、共に前進する素晴らしい局面をつくり出し、持続可能な発展によって持続可能な安全を促進していかなければならない。

友人の皆さん

ＣＩＣＡはアジアにおいてカバーする範囲が最も広く、加盟国数が最も多く、最も代表性を持つ地域安全フォーラムである。二十年余りの間、ＣＩＣＡは相互信頼と協力の増進、アジアの安全と安定の促進を自らの務めとし、協議一致の原則を堅持し、理解を深め、共通認識を凝縮し、協力を深化するために、重要な貢献を行ってきた。

現在、アジア人民の平和と安定への渇望はより強まり、安全面の試練への協力対応要望はより緊迫している。

中国は、ＣＩＣＡがアジア全体をカバーする安全対話と協力のプラットフォームとなるように推進し、それを基盤に地域安全協力における新たな枠組みの樹立を模索することを提案する。中国は、情勢の変化に応じて、

ＣＩＣＡ外相会議、さらにはサミットの開催回数を適宜に増やし、ＣＩＣＡに対する政治的指導を強化し、ＣＩＣＡの発展の青写真を適切に構想することを検討できると考えている。

中国は、ＣＩＣＡの能力向上とメカニズム整備を強化し、ＣＩＣＡ事務局の機能改善をサポートすること、ＣＩＣＡ枠組み内において加盟国に防衛事務協議メカニズムを確立し、各分野に信頼醸成措置実施監督グループを設置し、反テロリズム、経済・貿易、観光、環境保護、文化などの分野における交流と協力を深化することを提案したい。

中国は、ＣＩＣＡ非政府フォーラムの開催などの方式を通じて、ＣＩＣＡにおける民間交流ネットワークを構築し、ＣＩＣＡの安全理念を幅広く発信し、ＣＩＣＡの影響力を高め、地域の安全管理推進に向けて堅実な基礎を固めることを提案する。

中国は、ＣＩＣＡの包容性と開放性を高め、地域内の他の協力組織との協調と協力を強化し、他の地域や関係国際組織との対話と意思疎通を拡大し、地域の平和と安定を共に維持するために貢献することを提案したい。

中国はＣＩＣＡ議長国としての職責を果たし、皆さんと共にＣＩＣＡの地位と役割をよりいっそう引き上げ、手を携えてアジアの安全と協力における新局面を切り開いていきたい。

友人の皆さん

中国は一貫して地域と世界の平和を守り、共同発展を促す堅固な力である。中国がインド、ミャンマーと共同で提唱した平和共存五原則は、日増しに国家間関係を導く基本準則となってきている。中国は一貫して平和的な方法を通じて関係諸国との領土主権と海洋権益の紛争を処理することを堅持し、すでに友好的な協議によって十四の隣国のうちの十二カ国と陸上国境問題を抜本的に解決した。中国は地域安全協力に積極的に参与し、関係国と上海協力機構（ＳＣＯ）を設立し、相互信頼、互恵、平等、協力の新たな安全観を提唱し、東南アジ

ア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）、南アジア地域協力連合（ＳＡＡＲＣ）、アラブ連盟などが地域事務において積極的な役割を発揮することをサポートしている。中国はロシアと共同でアジア太平洋安全保障・協力を呼びかけ、アジア太平洋地域の平和と安定を強固なものにし、維持するために重要な役割を果たしている。中国は六カ国協議のプロセスを推進し、アフガニスタンの平和の再建を支援し、対話・交渉を通じて国際間と地域のホットな問題を解決するためにたゆまぬ努力を行っている。中国は地域諸国や国際社会と協力してアジア通貨危機や国際金融危機に対応し、地域とグローバル経済の成長促進のために応分の貢献を行ってきた。

中国は平和発展の道を揺るぎなく進み、互恵・ウインウインの開放戦略を終始一貫して励行し、平和共存五原則の基礎の上で世界各国との友好的協力を発展させる。中国の平和発展はアジアに始まり、アジアを頼りとし、アジアに幸福をもたらすものである。

「身内同士が互いの幸せを願うように、隣人同士も互いの幸せを願う」。中国は「善意をもって隣国に接し、隣国をパートナーとし、隣国と親しみ、隣国を安心させ、隣国を豊かにする方針を堅持し、親密、誠実、恩恵、包容の理念を実行し、自らの発展がアジア諸国により多くの利益を及ぼすように努めていく。中国は各国と共に、シルクロード経済ベルトと二十一世紀海上シルクロードの建設推進を加速し、アジアインフラ投資銀行を早期に設立し、地域協力のプロセスにより深く参与して、アジアの発展と安全が互いに促し、相乗効果が出るように推進していく。

「山積もりて高く、沢たまりて長し（山は長い年月のうちに土や石が積み重なって高くなり、大河は水が長期に蓄積されてできる。少しずつ積み重ねることの重要性を強調する言葉）」[三]。中国はアジア安全観の積極的な提唱者、堅固な実践者である。中国は各方面との安全対話・協力を一歩一歩着実に強化し、地域安全保障の行動規範とアジア安全保障パートナー計画を共同で検討、策定し、アジア諸国が互いに信頼し、平等的に協力す

る良きパートナーとなるようにする。中国は地域諸国と常態化した交流・協力メカニズムを打ち立て、共同で「三つの勢力」を取り締まり、アジア法執行安全協力フォーラムやアジア安全緊急対応センターなどの設立を検討し、法執行・安全協力を深化し、地域諸国が大きな突発的安全事件に的確な対応ができるように協調を展開していきたい。中国はアジア文明対話会議の召集などの方法を通じて、異なる文明、異なる宗教が互いに交流し、学び合い、長所を取り入れ短所を補い、共に進歩するように推進することを提案したい。

友人の皆さん

中国人民は中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するために努力しており、同時に、アジア諸国人民がそれぞれの素晴らしい夢を実現するようにサポート・援助し、各方面と共に恒久的平和と共同発展というアジアの夢の実現、人類の平和と発展という崇高な事業の促進のためにより大きな貢献をしていきたい。

ご清聴ありがとうございます。

〔注〕

〔一〕　本書中の「宣伝思想工作をよりよく行う」の注〔二〕を参照。

〔二〕　魏徴の『諫太宗十思疏』を参照。魏徴（五八〇～六四三）は巨鹿下曲陽（今の河北晋州西）出身、後に相州内黄（今の河南内黄西）に移住。唐代の政治家。

〔三〕　劉禹錫の『唐故監察御史贈尚書右僕射王公神道碑銘』を参照。

第十六章
党と人民大衆の結び付きを密接にする

節約を励行し、浪費に反対する

（二〇一三年一月十七日、二月二十二日）

新華社、人民日報関連資料での二件の指示

一

報道内容から見ると、飲食の各段階で見られる浪費現象は驚くべきものである。広範な幹部と大衆は飲食の浪費など各種の浪費行為、特に公費による浪費行為に対して強い不満を示している。わが国にはまだ数多くの貧困層がいることを思えば、さまざまな浪費現象が深刻になっていることは非常に胸が痛むことである。浪費の風潮は断固止めなければならない！　宣伝誘導の力を強め、中華民族の勤勉節約の優れた伝統を大いに発揚し、節約は光栄なことであり、浪費は恥であるという思想観念の宣伝に大きな力を入れ、節約励行、浪費反対が社会全体の気風となるようにしなければならない。各級の党・政府・軍の機関、事業体、各人民団体、国有企業、各級の指導幹部は、率先垂範し、公務接待制度を厳格に執行し、さまざまな節約措置を厳格に実施し、公費による浪費現象を断固根絶しなければならない。対応性が強く、実行可能性が強く、指導的効果が顕著な措置をとり、検査監督を強め、節約を励行し、浪費をなくさなければならない。

（二〇一三年一月十七日付新華社報道『ネチズンが飲食の一環における「舌の上の浪費」を抑えるよう呼び

かける』資料に関する指示）

二

中国共産党中央委員会の節約を励行し浪費に反対する要求は、広範な幹部と大衆の心からの支持を得ている。今後とも取り組みを継続し、あくまでその場限りや一時的なものに終わらせず、最後まで徹底的に取り組み、終始一貫させる。取り組んでも厳しくなかったり、表面的だったり、継続しなかったりすれば、何もしないのと同じになる。ここのところ、社会の各方面から浪費について積極的に建言・献策がなされており、重視すべき意見が多い。合理的な意見を整理して受け入れ、われわれ自身の経験と教訓をまとめ、内外の有益な経験を参考にしなければならない。そして次には、制度の建設という重点に取り組み、公務接待、財務予算と会計監査、勤務評定と責任追及、監督・保障などの制度の改善を手がかりとして、立体的で全方位的な制度体系作りに努力しなければならない。固定した制度による制約、厳格な制度の執行、力強い監督検査、容赦なく懲戒する仕組みによって、公費消費におけるさまざまな規則・規律・法律違反の現象をしっかりと抑制しなければならない。

（二〇一三年二月二十二日付人民日報報道『公費による飲食を抑制することについての専門家・学者の分析と提案』などの資料に関する指示）

大衆路線は党の生命線であり、根本的な活動路線である

（二〇一三年六月十八日）

党の大衆路線教育実践活動工作会議における談話の一部

大衆路線はわが党の生命線であり、根本的な活動路線である。党の大衆路線教育実践活動を繰り広げることは、わが党が新しい情勢の下で党が党を管理し、党を厳しく治めることを堅持する重要な方策であるだけでなく、大衆の期待に応えて学習型、サービス型、革新型のマルクス主義政権党の建設を強化する重要な布石であり、中国の特色ある社会主義を推進する重要な措置でもある。それは党の先進性と純潔性を保ち、共産党の執政の基盤と政権党としての地位を強化すること、小康社会を全面的に完成させることに重要かつ深遠な意義を有する。

第一に、党の大衆路線教育実践活動の展開は、第十八回党大会が定めた奮闘目標を達成するための必然的な要請である。第十八回党大会が掲げたように、中国共産党創立百周年を迎えるまでに小康社会を全面的に築き上げ、新中国成立百周年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げる。第十八回党大会以降、党中央はさらに中華民族の偉大な復興の実現という中国の夢を提起した。第十八回党大会が定めた奮闘目標と中国の夢の実現は、全党の同志が優れた気風を備えることを要求している。

優れた気風とはいったい何だろうか。優れた気風とは、わが党が従来から堅持してきた理論を実際と結び付けること、大衆と密接に結び付くこと、批判と自己批判を行うこと、および刻苦奮闘、真実を求め実務に励むなどのやり方である。革命、建設、改革の長期にわたる実践の中で、わが党は終始全党の同志が栄えある伝統を堅持し、優れた気風を発揚するよう求め、党と人民の事業が絶えず勝利から勝利へと向かうための重要な保障を提供した。

特に改革開放の歴史的新時期にあって、われわれは次のことを冷静に見て取っている。すなわち、改革の不断の深化と対外開放の不断の拡大に伴い、わが党は必ずや未曾有のリスクと試練に直面するであろう。党の作風建設は終始われわれの目の前にある重要かつ緊迫した任務であり、作風建設への取り組みはいささかもなおざりにしてはならず、一刻も手を休めてはならない。

改革開放の初期に、鄧小平同志はすでにこう強調している。「いまのこの歴史的転換期には、解決すべき問題が山積し、さまざまな事業の振興が待たれており、党の指導を強め、党の作風を正しくすることが決定的な意義を持っている」〔一〕。鄧小平同志を核心とする党の第二世代中央指導グループ、江沢民同志を核心とする党の第三世代中央指導グループ、胡錦濤同志を総書記とする党中央は、いずれも党風建設を高度に重視し、相次いで「整党」〔二〕、「三講」教育〔三〕、共産党員の先進性を保つ教育〔四〕、科学的発展観を深く学習・実践する活動〔五〕などを繰り広げてきた。わが党は終始、政権党の党風が党のイメージ、人心の向背、党と国家の生死存亡にかかわってくること、党の作風建設を強化・改善するその重点は党と人民大衆との血肉のつながりを保つことであり、マルクス主義政権党の最大の危険は大衆からの遊離であることを強調している。

顧みると、党の第十一期三中全会以来、わが党は思想を解放し、実事求是を旨とする思想路線を改めて確立し、終始党の作風建設の取り組みを高度に重視し、終始党と人民大衆との血肉のつながりを保つことを高度に重視

してきたため、全党の精神状態と気風はすっかり一新し、改革開放と社会主義現代化建設を順調に推し進めるために重要な保障を提供した。

歴史と現実が告げているように、大衆と密接に結び付くことは党の性質と宗旨の具現であり、中国共産党がほかの政党と区別される顕著な指標でもあり、党が発展し盛んになる重要な原因でもある。党と人民の血肉の関係を保持できるか否かが、党の事業の成敗を決定する。

わが党は人民の中から生まれ、人民に根付き、人民に奉仕するものである。党の基盤は人民にあり、血脈は人民にあり、力は人民にある。人民の擁護と支えがなければ、党の事業や活動はなきに等しい。党が引き続き執政の試練、改革開放の試練、市場経済の試練、外部環境の試練に耐えるためには、終始大衆と密接に結び付かなければならない。いついかなる状況にあっても、人民と息を通わせ、運命を共にし、立場を変えてはならず、誠心誠意人民に奉仕する宗旨を忘れてはならない。大衆は真の英雄であるという史的唯物論の観点をなおざりにしてはならない。あくまで公のための立党、民のための執政を堅持しなければならない。

現在、われわれは第十八回党大会の定めた奮闘目標と中国の夢を実現するにあたって、あくまで人民に依拠し、最も広範な人民の積極性、自発性、創造性を十分に引き出さなければならない。党の大衆路線教育実践活動を展開する目的は、全党の同志が誠心誠意、人民に奉仕する根本的宗旨を銘記、遵守し、優れた気風によって人民を固く結集させ、第十八回党大会の定めた目標と任務の実現に向けて努力奮闘するためである。

第二に、党の大衆路線教育実践活動の展開は、党の先進性と純潔性を保持し、党の執政基盤と政権党としての地位を強固なものとするための必然的な要請である。党の先進性と純潔性を保持し、党の政権基盤と地位を強固なものとすることは、党の建設が直面する根本的な問題であり、時代の課題である。

たびたび述べてきたように、党の先進性と政権党としての地位は、一度苦労すれば永遠に楽ができる、いっ

たん完成すればもう変わらないといったものではない。かつて先進的だったものが現在も先進的であるとは限らず、現在先進的なものが永遠に先進的であるとは限らない。かつて擁したものを現在も擁しているとは限らず、現在擁しているものを永遠に擁するとも限らない。これは弁証法的唯物論と史的唯物論を用いて問題を観察して得た結論である。党の先進性と純潔性を保持し、党の執政基盤と政権党としての地位を強固にするには、何に依拠すればよいのか。最も重要なのは党の大衆路線を堅持し、大衆と密接に結びつくことである。

民心を得る者は天下を取り、民心を失う者は天下を失う。人民の擁護と支持はわが党の執政における最も強固な土台である。人心の向背は党の死活存亡にかかわるものである。わが党は終始人民と一心同体となり、息を通わせ、運命を共にし、また終始人民に依拠して歴史を前に推し進めなければならない。そうしてこそ、たとえ「黒雲城を圧して城摧けんと欲する」〔六〕時にも「われそびえたって動ずるなし」〔七〕で、泰山のようにどっしりとして揺るがず、磐石のごとくびくともせずにいることができる。党の大衆路線教育実践活動を展開する目的は、人民への奉仕・実務・清廉の価値志向を全党の同志の思想と行動に深く根付かせ、党の執政の基盤を打ち固め、政権党としての地位を強固なものとし、党の創造力・結束力・戦闘力を強め、それによって党の先進性と純潔性を保持すること、党の執政基盤と政権党としての地位を強化することに、幅広く、堅実で、頼りになる大衆的基礎を備えるようにするためである。

第三に、党の大衆路線教育実践活動の展開は、大衆が強い不満を抱いている際立った問題を解決するための必然的な要請である。全体から見れば、現在の各級党組織と党員、幹部による党の大衆路線の貫徹・実行状況はおおむね良好であり、党や党の幹部と大衆の関係も良好であり、幅広い党員、幹部が改革・発展・安定のそれぞれの仕事の中で率先的取り組みや献身的な奉仕によって、前衛的、模範的な役割を果たし、広範な人民大衆から評価され擁護されている。これが主流であり、十分に評価されなければならない。

しかし同時に、世情、国情、党情の大きな変化に直面して、精神的な怠慢の危険、能力不足の危険、大衆から遊離する危険、消極的・腐敗の危険が全党の前により先鋭に立ち現れている。党内には大衆遊離の現象が大量に存在し、しかも一部の問題はかなり深刻で、形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費の風潮という「四つの風潮」において集中的に見られる。

形式主義の面では、主として考えと行いが一致しないこと、実際の効果を求めないこと、無駄な文書や会議が多いこと、見かけ倒しで実用的でないこと、うわべの名声を求めること、虚偽を弄して人をだますことに表れている。ある者は党の理論と仕事に必要な知識を真剣に学ぼうとしない。たとえ学んでも適当にあしらい、トンボが水面をかすめるように浅く表面的に触れるだけで、徹底的に理解しようとしないので、実践の中でまじめに活用する意欲も能力もない。ある者は会議を開くだけで上級機関の会議の内容を実行したつもりになり、文書を作成するだけで上級からの文書を実行した気になる。虚勢を張ったり、自分をひけらかしたりすることに熱中し、指導者に顔を出して挨拶してもらうこと、プレスリリースの手配を行うこと、テレビに出ることなどが何より大事で、結局仕事の方はうやむやのうちに終わらせている。ある者は仕事に取り組むときに実際の効果を重んじず、存在する矛盾や問題を力を入れて解決していない。上級指導者の印象に残らないことはやらず、あまり大きな効果を生まないことはやらず、業務報告や年末総括書に書き入れても立派な成果に見えないことはやらない。儀式に次ぐ儀式、総括書に次ぐ総括書、表彰に次ぐ表彰で、結局のところすべて「クリクン」(八)になってしまう。ある者は現場に行って調査研究を行うとき、大ざっぱに表面だけを見て回る。行く目的はテレビに出て、顔を見せることだけである。車から降りずに回るので、車窓から外の様子を見るだけで、「門構え」や「窓口」を見るにとどめ、「裏庭」やら「隅っこ」は見ようとしない。こういうことを大衆は「紙一枚隔てた調査研究、山一つ隔てた政策の実行」と言っている。ある者は上がってきた報告が偽の状況、水増しの数字、

偽の模範であることを明らかに知っていながらそのままにしておき、ひどい場合にはあらゆる知恵を絞って偽造、粉飾を行う。

官僚主義の面では、主として実際からかけ離れ大衆から遊離していること、お高くとまって現実を無視すること、唯我独尊で自己中心といったことに表れている。ある者は実際の状況に対して理解もせず注意も払わず、困難で骨の折れる地区には深く入ろうとしない。末端組織や大衆に手を貸して実際の問題を解決しようとはしない。それどころか、末端組織や普通の大衆と付き合うのも嫌がり、自分に面倒が及ぶのを恐れ、仕事はいいかげんに責任逃れをし、何かあれば人のせいにし、その場限りでお茶を濁す。ある者は地方の実際状況や大衆の願望を顧みず、その場の思いつきで政策決定し、自信たっぷりに胸をたたいて請け合い、盲目的に手を広げ、プロジェクトを承認するが、結局責任を取らずに去ってしまい、残るのはたくさんの後遺症のみである。ある者は上級機関に対してはおべんちゃらを言って迎合する反面、一般の人に対しては偉そうに威張って眉をつり上げ目を怒らす。役所の入り口は入りにくく、担当者の顔つきは不機嫌で、手続きは順調に進まない。さらには、金銭を渡さないと動かない、金銭を渡してもちゃんとやってくれないということさえある。ある者は上級機関の仕事の手配に対してはよく検討もせず鵜呑みにして、自分の都合のよい部分だけ取り上げる。上級機関の決定を執行するときは、型通りで決まりきったやり方をし、あるいはただ物まねをして、機械的にあてはめたり、以前のやり方や他人のやり方をそのまま引き写したりする。その地方やその部門の実情をまったく顧みない。ある者はひどく役人風を吹かして独断専行し、おれさまが天下第一だと思い、あらゆることを勝手に決め、批判と助言を拒否し、他人を受け入れず、異った意見には聞く耳を持たない。

享楽主義の面では、主として精神的に怠慢であること、進取の精神がないこと、名利を追い求めること、享楽をむさぼること、派手好みであること、遊ぶ風潮がはびこることに表れている。ある者は意気消沈し、信念

が揺るぎ、楽しめるうちに楽しもうという人生哲学を貫き、「今朝酒あれば今朝酔わん」〔九〕、「人生意を得ればすべからく歓を尽くすべし」〔一〇〕を実行している。ある者は物質的享楽を求め、嗜好が低俗であり、道楽にふけって本業を忘れ、酒色におぼれ、贅沢と享楽をむさぼる。ある者は楽な仕事を選び、骨の折れる仕事を避け、現状に甘んじ、苦労に耐えることを嫌い、有り合わせの学識と見解に満足し、すでにやり遂げた功績にうぬぼれ、新しい目標を立てず、新しい原動力に欠け、「足を組んで腰かけ、お茶を飲みながら新聞を読み、むだ話ばかりして仕事を傍観し、無為に日を送る」。

贅沢浪費の風潮の面では、主として金に糸目をつけず派手に行うこと、湯水のごとく金をつかい節度がないこと、盛んに土木工事を行うこと、イベントが多すぎること、私生活が贅沢ですさんでいること、さらには職権を利用して腹を肥やすこと、腐敗堕落することに表れている。ある者は豪壮で派手な役所ビルを建てるために百ムー（約六・七ヘクタール）以上の土地を占有し、何億元も浪費して華麗に造り、あらゆる酒色遊楽の施設を取りそろえている。ある者は祝日や記念日などの創設と運営に熱中し、祝賀イベントのためにしょっちゅう何百万、何千万元を費やして、人力・財力に負担をかけている。ある者は個人的待遇にこだわり、なるべく大きな住宅を数多く所有し、なるべく高価な車に乗り、なるべく美味な料理を食べ、ブランド品の衣服を着る。規準を超えた生活待遇を気にもかけないどころか、それでも不満に思っている。ある者は基準を超えた接待を求め、デラックスホテルに宿泊し、山海の珍味を食べ、銘酒を飲み、接待が終わったらさらに別の要求を出す。ある者は高価な会員カードや現金カードを持ち歩き、高級クラブで家に帰るのも忘れるほど遊び、高級ジムで時間をつぶし、景勝地で観光を楽しみ、外国で夢うつつの日を送る。さらには国外のカジノで、金銭を湯水のように使う者さえある。ある者は態度が不まじめで、道徳的に堕落し、放蕩な私生活を送り、それを恥とも思わないばかりか、立派なことだと思っている。

以上の状況を述べた目的は、全党が過ちを犯さないように注意することである。こうした問題の蔓延をそのままにしておけば、今後どうなることか予断を許さない。毛沢東同志が言ったように、「覇王別姫」〔一一〕になってしまうかもしれない。もっと深刻なのは、一部の同志たちはそれらの問題に対してすっかり慣れきってしまい、さらにはあたりまえのように思い、「鮑魚の肆(みせ)に入るがごとし、久しうしては其の臭を聞かず(塩漬け魚を商う店に入ってもしばらくすればその臭気が気にならなくなる)」〔一二〕となる。そうなればなおいっそう危険になる。

われわれは「贅沢浪費の始まりは、国の滅亡の兆しなり」〔一三〕という昔の言葉を銘記し、気風の弊害、行為の汚れに対し、一斉捜査、一斉点検修理、大掃除を行い、人民大衆が強い不満を持つ際立った問題をしっかりと解決しなければならない。

〔注〕

〔一〕鄧小平の「四つの基本原則を堅持しよう」(『鄧小平文選』第二巻、人民出版社、一九九四年版、第一七八頁)を参照。

〔二〕この整党は、中国共産党が一九八三年冬から一九八七年にかけて党の作風と組織に対し全面的な整頓を行ったことを指す。その根本任務は思想を統一し、気風を整頓し、規律を強め、組織の純潔を保つことであった。

〔三〕「三講」教育とは、中国共産党が一九九八年十一月から二〇〇〇年十二月にかけて、県レベル以上の党と政府の指導グループ、幹部たちの間で展開された学習、政治、正しい気風の三つを重んじることを主要な内容とする党性、党風の教育運動を指す。

〔四〕共産党員の先進性を保持する教育とは、中国共産党が二〇〇五年一月から二〇〇六年六月にかけて、全党で展開した「三つの代表」重要思想の実践を主要な内容とする共産党員の先進性を保つ教育活動を指す。この教育活動は全党七千万余の党員、三百五十万余の末端組織に及んだ。

〔五〕科学的発展観を深く学習・実践する活動とは、中国共産党が二〇〇八年九月から二〇一〇年二月にかけて、全党

で展開した県レベル以上の指導グループと党員指導幹部を重点として、全党員が参加した科学的発展観を深く学習・実践する活動を指す。

〔六〕李賀の『雁門太守行』を参照。李賀（七九〇～八一六）、原籍は甘粛省隴西、福昌（現在の河南省宜陽県）出身。唐代の詩人。

〔七〕毛沢東の「西江月・井岡山」（『毛沢東詩詞集』、中央文献出版社、一九九六年版、第一三頁）を参照。

〔八〕ソ連の大祖国防衛戦争の時期に、コルネイチュクの脚本『前線』の登場人物で、根も葉もない記事をでっちあげる新聞記者。名前は「クリクン」という。その後、「クリクン」という言葉は実際からかけ離れた大げさな空論をもてあそぶ報道の風潮を指すようになった。

〔九〕羅隠の『自遣』を参照。羅隠（八三三～九一九）、杭州新城（現在の浙江省富陽市）出身。唐代の文学者。

〔一〇〕李白の『将進酒』を参照。

〔一一〕秦末に反乱を起した武将・項羽（「西楚覇王」と名乗る）は、独断専行し、異なる意見を聞かなかったため、楚漢戦争に敗れ、垓下（現在の安徽省蚌埠市）で包囲される結果となった。項羽と妃の虞姫は酒を酌み交わし、悲歌慷慨した。虞姫は踊りながら剣で自刎した。項羽は兵士を率いて包囲を突破したが、烏江の川岸に至り自刎する。ここの「覇王別姫」は、独断専行し、大衆から遊離すれば、最後は崩壊することのたとえである。司馬遷『史記・項羽本紀』を参照。

〔一二〕『孔子家語・六本』を参照。原文は「不善の人と居るは、鮑魚の肆に入るが如し。久しうしては其の臭を聞かず、亦た之と化す」。

〔一三〕『新唐書・褚遂良伝』を参照。『新唐書』は中国唐代の歴史を記述した紀伝体史書である。

党の大衆路線教育実践活動の指導思想と目標・要請を正確に把握する

（二〇一三年六月十八日）

党の大衆路線教育実践活動工作会議における談話の一部

中国共産党中央委員会は今回の教育実践活動の指導思想、目標と任務、基本原則、方法と手順に対し明確な規定を定めた。中央の要請をしっかりと貫徹・実行するために、中国の特色ある社会主義の偉大な旗印を高く掲げ、第十八回党大会の精神を全面的に貫徹・実行し、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとし、中央が第十八回党大会以来決定した重要な活動の配置と要請を貫徹し、党の先進性と純潔性を保ち発展させることをしっかりと中心に据え、人民に奉仕し、実務に励み、清廉な姿勢を貫くことを主な内容として、党員全体のマルクス主義大衆観と党の大衆路線教育を着実に強化し、中央の「八項規定」⑴の精神の貫徹・実行を切り口として、際立った問題の解決に力を入れる。肝心なのは以下数点の要請をきちんと把握することである。

第一に、目標と任務をしっかりと把握すること。これまでに党内で行われた集中的教育活動の実践から分かるように、活動を成功させるには、適切な目標を定めることが非常に重要である。

活動を展開する以上は効果を上げるべきで、効果が大きければ大きいほどよい。と同時に、われわれは実事求是の態度も持たねばならない。今回の教育活動は一年にわたって行うことになっているが、一つの政府機関で実際に実施するのは三カ月ほどにすぎないから、党内のあらゆる矛盾や問題を一挙に解決することは望めない。多くの矛盾や問題は依然として日常的な仕事によって解決するほかない。ここには十本の指を傷つけることと一本の指を断つこととの関係がある。こうした考えに立って、中央は繰り返し検討した結果、今回の教育実践活動の主要任務を作風建設に絞り、形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費の風潮という「四つの風潮」の解決に集中することを決定した。

なぜ「四つの風潮」に絞るのか。なぜなら、「四つの風潮」はわが党の性質や宗旨に相反するもので、目下大衆が極度に憎み、最も強い不満を抱いている問題であり、また党と大衆、幹部と大衆の関係を損なう主な根源だからである。党内に存在するその他の問題もみな「四つの風潮」にかかわるもので、あるいは「四つの風潮」から派生したものと言える。「四つの風潮」の問題をきちんと解決すれば、党内のその他の問題を解決するにもよい条件が整えられる。第十八回党大会以降、中央政治局がまず活動の作風改善に取り組んだのもそこに理由がある。われわれは教育実践活動を通じて、これ以前の党風建設の成果を打ち固め、拡大しなければならない。

「四つの風潮」の問題を解決するには、ぴたりとピントを合わせ、ツボを見つけ、急所を突かなければならない。ぼんやりしたり、あちこち気が散ってはいけない。形式主義に反対するには、仕事に中身がないという問題を重点的に解決しなければならない。党員と幹部を教育し導いて、学習・文章・会議の風潮を改善し、仕事のやり方を改善する。根本的な是非善悪の前では敢然たる態度と原則を堅持する勇気を持ち、真に事業の上で知恵を絞り、実情を調査すること、建設的な意見を出すこと、具体的な仕事をすること、実効を求めることに力を注ぐようにさせなければならない。官僚主義に反対するには、人民大衆の利益を守らない、何もしないといっ

た問題を重点的に解決しなければならない。党員と幹部を教育し導いて、深く現実の中に入り込み、末端部に入り込み、大衆の中に入り込み、民主集中制を堅持し、謙虚に大衆に学び、心から大衆に責任を負い、熱心に大衆に奉仕し、誠心誠意大衆の監督を受けるようにしなければならない。いいかげんにごまかすこと、責任を人になすりつけること、大衆の利益を侵害することは断固なくさなければならない。享楽主義に反対するには、楽しめるうちに楽しもうという思想と特権意識を重点的に克服しなければならない。党員と幹部を教育し導いて、「二つの必ず」〔二〕を銘記し、献身的に奉仕し、政務に励み廉潔を保ち、意欲と向上心、発奮有為の精神状態を保つようにさせなければならない。贅沢の風潮に反対するには、浪費享楽、贅沢淫蕩の良くない風潮に重点的に歯止めをかけなければならない。党員と幹部を教育し導いて、節約は光栄であり浪費は恥であるという思想観念を固く守り、質素でよく苦労に耐え、細かくそろばんをはじき、あらゆることを節約して済ませるようにさせなければならない。「四つの風潮」を解決するには、現実から出発し、主要な矛盾をつかみ、特に際立った問題を重点的に解決し、特に緊迫している問題を急ぎ解決しなければならない。正しく目標をとらえ、きちんと的を絞って取り組み、ぜひとも実効が出るようにしなければならない。

第二に、全般的要請を真剣に貫徹すること。延安整風運動〔三〕の際、毛沢東同志は主観主義、セクト主義、党八股〔四〕（形式主義）を集中して正さなければならず、これらの一掃活動と整頓活動は容易ではなく、患者をおどろかせ、汗びっしょりにさせるというような強烈な刺激を与え、そのあとでじっくりと治療するという手法を用いなければならないと述べている。今回の教育実践活動も延安整風運動の経験にかんがみて、「鏡を見て、衣冠を正し、身を清め、病を治す」という全般的目標を明確に提起した。この四つをまとめて言うと、自己浄化、自己完成、自己革新、自己向上である。言ってみれば簡単で分かりやすいが、本当にやり遂げるのは容易なことではない。

鏡を見るとは、主に党規約を鏡として、党の規律、大衆の望んでいること、先進的な模範と対照し、作風改善の要求と対照し、党の宗旨意識、仕事のやり方、廉潔と自律の面で問題を列挙し、足りない点を見つけ、方向をはっきりさせることである。鏡には自分の姿を映すだけでなく、他人も映すことができるが、今回は主として自分自身を映す。現実の生活の中で、ある同志はいつも自己満足し、鏡を見る気がしない。ある同志は自分に問題があると分かっていても、鏡に映す勇気がない。ある同志は自分のきれいなところしか見たくないので、化粧してから鏡を見ることが習慣となっている。また、ある同志は鏡で他人を映すことを好み、自分は素晴らしく美しいが、他人はみな醜いと考えている。以上のような現象はすべて共産党員の修養にふさわしいものではない。党員や幹部は鏡を見る勇気を持ち、頻繁に鏡を見るべきである。特に欠点と誤りに対しては深く、細かいところまで映さなければならない。細部をはっきりさせてこそ、足りない点を見つけ、自らの身を正すことができるのである。

衣冠を正すとは、主に鏡を見た上で、人民に奉仕し、実務に励み、清廉な姿勢を貫くという要請に照らして欠点と不足を直視し、党の規律、特に政治規律を厳正にすることである。思想に触れ、矛盾と問題を直視する勇気を持ち、自ら率先して始め、直ちに改め、品行を正し、自覚的に党員としての自覚と修養を正し、党員としての義務を整理し、党の規律と国の法律を厳しく引き締め、共産党員のよいイメージを保つことである。衣冠を正すのは一日一回ではまだ足りず、「吾日に三たび吾が身を省みる（一日に三度、自分の行いを反省する）」〔五〕ことが必要である。自分の持つ問題を直視し解決するには勇気が要るが、そうすることで最も能動的になることができる。「禍患は常に忽微に積み、知勇は多く溺るる所に困ず（災いは常に小さなことを疎かにすることから起こる、才能ある人は往々にして道楽に深入りして身を滅ぼす）」〔六〕。絶えず衣冠を正す習慣を身につければ、過ちを未然に防ぐ効果があり、「積羽舟を沈め、群軽軸を折る（羽もたくさん積めば舟を沈め、軽い荷でもたくさ

ん積めば車軸を折る。小事も積もれば大事になる)」〔七〕ことを防止できる。

身を清めるとは、主に党風を正す精神で批判と自己批判を展開し、問題の起きた原因を深く分析し、思想と行動上のほこりをきれいに洗い、現実の問題を解決することはもちろん、さらに思想上の問題を解決し、共産党員の政治上の本来の姿を保つことである。人間は毎日ほこりに触れるので、いつも入浴し、石けんで洗い、ヘチマのたわしであかを落とし、体をすすがなくてはならない。そうすれば体がきれいになって、気持ちもさわやかになる。同様にわれわれの思想と行動もほこりがつく可能性があり、また政治面のバイ菌に襲われることもあり得る。だから、思想と行動にも「入浴」が必要である。ほこりとあかを落とし、リラックスし、毛穴をすっきりさせ、新陳代謝を促し、完全に汚れを落として仕事をし、清廉潔白に身を持するのでなければならない。一部の人たちは自分の思想と行動上のほこりをいつも隠したがって、「入浴」しようとしない。そのような者に対しては、同志の皆さんと党組織は彼らが「入浴」するよう助けてあげなければならない。

病を治すとは、主に過去の誤りを戒めとし、病を治して人を救うという方針を堅持し、状況ごとに区別して、それぞれに応じた問題解決の手段を講じる。気風に問題がある党員、幹部は教え諭して指摘し、問題がひどい場合は取り調べた上で処分し、不正の風潮や際立った問題に対しては特別立件して処置する。人間が病気になれば、医者に診てもらい、注射したり薬を飲んだりし、病状がひどければ手術をする場合もある。人間の思想や気風も問題が生じれば、早めに直さなければならない。病気を隠して治療を嫌うと、ちょっとした病気がひどい病気になり、病気が表面から体の奥深くに入ってしまい、結局はどんな薬を使っても治らなくなる恐れがある。まさに「微を禁ずるは易し、末を救うは難し(物事の始まるときに禁じれば容易であるが、終わりになって救うのは難しい)」〔八〕となるのである。各級の党組織は有力な措置を講じ、問題のある党員や幹部を助けて「病症」をぴたりと見つけ、病気に応じて投薬し、中国伝統医薬が効けば中国伝統医薬を使い、西洋医薬が効け

ば西洋医薬を飲み、あるいは中国と西洋の医薬両方を使い、手術が必要であれば手術を行い、厳格に党を治めるという要請にしっかり応えなければならない。

第三に、整風の精神をもって批判と自己批判を展開すること。批判と自己批判はわが党の優れた伝統であり、党組織の戦闘力を強め、党の団結と統一を守る効果のある武器である。なぜ整風の精神をもって取り組まなければならないと言うのだろうか。なぜなら、党内の大衆から遊離したさまざまな問題、特に「四つの風潮」の問題は治しにくい病気のようなものであり、真に問題を解決しようとするなら、メンツを捨てて欠点を指摘する勇気が必要であり、不正を犯した大物に対して本気で断罪し、たたかいを交える精神が必要であり、思想の根源を深く探り、魂を揺さぶる態度が必要である。現在、批判と自己批判という「鋭い武器」は多くのところで「鈍い武器」となり、さびついている。問題に触れることができず、触れても深くなく、はたきでおしりをたたくように痛くもかゆくもない、なまぬるい批判をするだけである。ひどい場合は、自己批判が自己表彰になり、相互批判がお互いにおだて合うことになってしまうことさえある。今回の教育実践活動では、批判と自己批判の面でしっかり努力しなければならない。

民主生活会をしっかり行わなければならない。各級の党組織は「団結—批判—団結」の公式を堅持するよう党員と幹部を教育し、自己批判すればメンツがつぶれるとか、上司を批判すれば仕返しされるとか、同僚を批判すれば気まずくなるとか、部下を批判すれば投票してくれないとかの懸念を排除すべきである。自己を深く分析し点検するだけでなく、誠意をもって相互批判も展開し、思想と心に触れ、顔を赤らめ、冷や汗をかき、さらに整風・改善の方向を明確にする。批判でも自己批判でも、実事求是の態度で、公正な心から発し、善意で人を助けるべきである。「ダチョウ政策（現実のことを直視できない政策）」をとったり、適当にあしらったり、過ちを覆い隠したり、私憤をぶちまけたりしてはならない。良薬は口に苦しというが病に効き、忠言は耳に痛

いがためになる。批判的な意見に対して、誤りがあればこれを改め、なければいっそう努力する態度で対応し、決して「批判」で批判を押さえこもうとしたり、無原則ないざこざを起こしてはならない。

大衆の目はごまかせないものである。党員と幹部の持つ問題について、大衆はよく見ていて、最も発言権がある。門戸を開いて今回の教育実践活動を行い、始めから大衆の中に深く入り込んで意見と提案を聞き入れ、あらゆる節々で大衆を組織して秩序正しく参加させ、大衆に活動を監督・評議してもらうことを堅持しなければならない。自作自演や、門戸を閉じた修練、仲間内だけの活動は避けねばならない。

第四に、指導者が率先すること。私はよく次のようなことを耳にする。なかなか解決できない問題は末端部に表れているが、その根っこは上級機関にあり、上級機関が病気になると、下級機関が薬を飲むという。確かに大衆から遊離したさまざまな問題は、主として指導機関や指導幹部の中に見られる。今回の活動は県・処級以上の指導機関、指導幹部を重点として行う。ことわざにも言うとおり、禁令はまず自らに課し、それから人にそれを求める。鉄を打つには自らが硬くなければならない。中央はまず中央政治局からこの活動を先行するよう決定したが、その目的は率先垂範の役割を果たすためである。県・処級以上の指導機関、指導グループ、指導幹部は必ずよき手本とならなければならない。

各級の指導幹部は今回の活動の組織者、推進者、監督者であり、さらには活動の参加者でもある。一般の党員の身分で活動に参加し、できるだけ認識を高め、学習を深め、実践を早め、際立った問題の分析・解決のためにりっぱな案を出せるよう努めなければならない。

自らに対する掘り下げが確かか否か、深みがあるかどうか、厳しいかどうかは、指導幹部がいい手本となれるかどうかについての重要な検証である。私心のない者は何物をも恐れない。各級の指導幹部は尊大な態度を捨て、謙虚に下級、末端部と党員、大衆の意見に耳を傾け、自分が手本をうち立て、自分に見習わせるという

つもりで自己を検証し、個人として、指導グループとして、当該地区と当該部門として、その気風に存在する際立った問題を調べ、問題の焦点と原因を深く分析し、整風・改善の方向と具体的な措置をはっきりと公開しなければならない。問題を調べるときは、物事は調査するが人については調べない、他人は調べるが自分は調べてみようとしない、肝心な点を避けて関係のないことを言う、といったことは決してしてはならない。こうした気力と決意があれば、批判と自己批判を展開することができ、際立った問題を解決するのに効果があり、上級から下級へと一級ごとに手本を示すことが着実に行われる。

第五に、効力が持続する仕組みの確立に力を入れること。党と人民大衆の血肉のつながりを保つことは永遠の課題であるが、作風の問題は何度も繰り返す性質があり、やすやすと成功する性質のものでなく、一挙に成し遂げて終わりになるものではなく、風がさっと吹いてはやむようなものでもなく、絶え間なく、長期にわたって取り組まなければならない。われわれは今現在に立脚して、大衆が強い不満を抱く際立った問題を着実に解決するだけでなく、さらに長期的な視点に立って、党員と幹部が人民に奉仕し、実務に励み、清廉な姿勢を貫くことを堅持する効果の持続する仕組みを確立し、整備しなければならない。

長年の模索と実践を経て、われわれは大衆路線を貫徹し、大衆と密接に結びつく方面では比較的系統的な制度と規定を作ってきた。それらの多くは効果があることが経験済みで、大衆にも認められており、引き続き堅持しなければならない。中央は今回の教育実践活動に対していくつか新しい要請を出した。各地区・各部門も新たな経験を積むであろうから、中央の要請、実際の必要性、新たな経験を結びつけて、新しい制度を制定し、既存の制度を整備し、そぐわない制度は廃止しなければならない。どんな制度を確立し、整備するにしても、必ず各制度の関連性と運用しやすさという原則に基づき、実体的規範と保障的規範の組み合わせを重視し、的を絞った、運用しやすい、指導的効果が顕著な制度にしなければならない。

制度がいったん確立すれば、必ず厳格に遵守し、制度の前では誰もが平等であり制度の執行に例外はないことを堅持し、制度の厳正さと権威を断固として守る。また、制度があっても執行されないとか、禁令があってもやめないといった行為を断固として是正する。それによって、制度を真に党員と幹部が大衆と結び付き、大衆に奉仕する厳しい拘束となし、党の大衆路線の貫徹を真に党員と幹部の自覚的な行動にしなければならない。

〔注〕

〔一〕八項規定とは、第十八期中央政治局が活動の作風を改善し、大衆と密接に結び付くことに関して定めた八項目の規定を指す。主な内容は、視察の改善、会議の簡素化、文書報告の簡素化、海外訪問活動の規範化、警備業務の改善、ニュース報道の改善、草稿発表の厳格化、勤勉倹約の励行である。

〔二〕「二つの必ず」とは、「同志たちが必ず謙虚で、慎み深く、驕らず、焦らずの作風を保ちつづけ、必ず刻苦奮闘の気風を保ちつづけるようにしなければならない」のことを指す。これは毛沢東が中国共産党第七期第二回全体会議の報告の中で提起したものである。当時、中国共産党は全国の政権を奪取するまぎわだった。毛沢東はこの「二つの必ず」によって全党を戒め、執政の試練に耐えるべきこと、驕り高ぶったり、享楽をむさぼったりすることなく、大衆から遊離して政権を失うことのないよう求めたのである。

〔三〕延安整風運動とは、中国共産党が一九四二年から一九四五年にかけて全党で繰り広げたマルクス・レーニン主義の思想・教育運動を指す。主な内容は、主観主義に反対して学風を整え、セクト主義に反対して党風を整え、党八股に反対して文風を整えることである。

〔四〕八股とは八股文のことで、中国の明・清代の科挙の試験制度に定められていた特殊な文体である。八股文は内容が空虚で、もっぱら形式を重んじ、言葉の技巧をこらす。その文章は一段落ごとに決まった書式にあてはめて書かねばならず、文字数にも一定の制限があるので、人々は出された題目に沿ってうわべだけをあしらった文章を作るほかなかった。党八股とは、革命陣営内の一部の人が文章を書いたり、演説をしたり、その他の広報活動を

行ったりする際に、事物について分析もせず、ただいくつかの革命的な名詞と術語をあてはめて作った文章で、なんの中身もなく、空論ばかり、といったものを指す。

〔五〕『論語・学而』を参照。

〔六〕欧陽修の『伶官伝序』を参照。欧陽修（一〇〇七～一〇七二）、吉州永豊（現在は江西省に属する）出身。北宋の政治家、文学者。

〔七〕司馬遷の『史記・張儀列伝』を参照。

〔八〕范曄の『後漢書・丁鴻伝』を参照。

「三厳三実」の作風を樹立・発揚しよう

（二〇一四年三月九日）

第十二期全国人民代表大会第二回会議安徽省代表団審議会に参加した際の談話の要旨

作風建設は永遠にその過程にある。最初は熱心でも後は冷めてしまったり、最初は厳しくても後は甘くなったりすれば、せっかくの努力も水の泡となる。各級の指導幹部はみなよい作風を樹立・発揚しなければならない。厳しく身を修め、厳しく権力を用い、厳しく自らを律し（三厳）、また計画を立てるには現実的に、事業を始めるには堅実に、身を処すには誠実に（三実）、でなければならない。厳しく身を修めるとは、党員としての自覚と修養を高め、理想と信念を固め、モラルを向上させ、高尚な情操をみがき、低俗な趣味から自覚的に離れ、よこしまな気風に自覚的に抵抗する。厳しく権力を用いるとは、人民のために権力を用い、規則や制度に基づいて権力を行使し、権力を制度のオリに閉じ込め、いかなるときも特権を乱用せず、権力を利用して私益をはからないことである。厳しく自らを律するとは、常に畏れの念を抱き、自分を戒めることを忘れず、人が見ていようがいまいが身を慎み、自省に励み、党の規律と国の法律を遵守し、清廉に政治を行うことである。計画を立てるには現実的にとは、現実を踏まえて事業や仕事を計画し、アイデア、政策、方案を実際の状況と合致させ、客観的法則や科学的精神と合致させ、高すぎる目標を追求せず、現実とかけ離れないことである。事業

を始めるには堅実にとは、着実に足を地に着け、堅実に取り組み、責任を持ち、矛盾と向きあう勇気を持ち、問題の解決に長け、実践の試練に耐え、人民と歴史の検証に耐えられるだけの実績を創り上げるよう努めることである。身を処すには誠実にとは、党、組織、人民、同志に対して忠誠と誠意を尽くし、人としてまじめで、うそを言わず、曲がったことはせず、邪心がなく、公正で品行が正しいことである。「釘を打つ精神（釘をしっかり打ち込むには何度も繰り返し打たねばならない。根気よくやり通すこと）」を発揚し、力強さと粘り強さを保ち、終始を全うし、あくまで努力して成功を収め、絶えず作風建設の新たな成果を収めなければならない。

第十七章

腐敗反対・廉潔提唱の推進

権力を制度のオリに閉じ込める

（二〇一三年一月二十二日）

第十八期中央規律検査委員会第二回全体会議における談話の要旨

全党の同志は中国共産党第十八回全国代表大会の布石に基づき、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を導きとして、病因と症状を共に処置し、総合的な措置を講じ、懲罰と予防に同時に力を入れ、特に予防を重視するという方針を堅持し、より科学的、効果的に腐敗を予防・懲罰し、揺るぐことなく党風廉政建設（清廉な政治を行う党風樹立）と反腐敗闘争をより深いレベルへと推し進めなければならない。

第十八回党大会が定めた諸目標と任務を実現し、「二つの百周年」の奮闘目標を達成し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するには、必ず党建設を立派に行わなければならない。党風廉政建設と反腐敗闘争は、党建設の重要な任務である。政治を清廉なものにしてこそ人民の信頼を得ることができ、公正に権力を行使してこそ人民の支持を得ることができる。改革開放以来三十余年というもの、鄧小平同志を核心とする党の第二世代中央指導グループ、江沢民同志を核心とする党の第三世代中央指導グループ、胡錦濤同志を総書記とする党中央は、終始党風廉政建設と反腐敗闘争を重要な任務として取り組んできた。旗印は鮮明であり、措置は有力であり、効果は明らかであり、党の先進性と純潔性を保ち発展させるために重要な役割を果たし、党が改革

開放と社会主義現代化建設を指導するために有力な保障を提供してきた。

われわれ党員・幹部陣の主流は一貫して良好である。と同時に冷静に見て取らなければならないのは、目下、消極腐敗現象が発生しやすい分野や多発している分野があり、一部の規律違反・法律違反の案件は影響がかなり深刻で、反腐敗闘争の情勢は依然として厳しく、人民大衆はまだ多くの点で不満を抱いている。党風廉政建設と反腐敗闘争は長期的で、複雑で、非常に困難な任務である。腐敗反対・廉潔提唱はうまずたゆまず常に取り組み、腐敗拒否・変質防止は長く警鐘を打ち鳴らし続けなければならない。肝心なことは、「常に」と「長く」という二語にある。つまり常に、長期的に取り組むことである。われわれは決意を固め、あらゆる腐敗に反対し、あらゆる汚職を一掃し、腐敗現象が繁殖・蔓延する土壌を絶えず取り除き、実際の効果によって人民の信頼を獲得しなければならない。

わが党は革命の理想と鉄の規律によって組織されたマルクス主義政党であり、厳正な規律はわが党の栄えある伝統であり、独特の優位性である。党の直面する情勢が複雑になればなるほど、また、その任務が困難であればあるほど、いっそう規律建設を強めることが必要となり、いっそう党の団結と統一を守り、全党の意志、行動、歩調を統一して前進することが必要となる。党の規律を厳正にするには、まず党の政治規律を厳正にしなければならない。党の政治規律を厳正にするには、党規約を遵守し、擁護することから着手しなければならない。党の政治規律を遵守する上で、最も核心となるのは、党の指導を堅持し、党の基本理論、基本路線、基本綱領、基本経験、基本要請を堅持し、党中央と高度の一致を保ち、自覚を持って中央の権威を擁護することである。指導思想と路線、方針、政策および全局にかかわる重要な原則問題において、全党は必ず思想、政治、行動の上で党中央と高度の一致を保たなければならない。各級党組織と指導幹部は大局観と全局意識を強固に打ち立て、中央の政令の滞りない貫徹を保障することと現実に立脚して創造的に活動を進めることとの関係を

正しく処理し、いかなる地方的特色をそなえた活動配置も必ず中央の精神の貫徹を前提としなければならない。地方と部門の保護主義、自己本位主義を防止、克服し、決して「上に政策あれば下に対策あり」とか、指令があってもそれを実行せず、禁令があってもそれを無視するなど、中央の政策決定、布石を貫徹・執行する上で手を抜いたり、選り好みしたり、融通を利かすとかいったことがあってはならない。すべての共産党員、特に指導幹部は党規約の意識を強固に打ち立て、党規約によって自覚的に自分の言動を正し、いかなる状況下でも政治的信仰が変わらず、政治的立場が揺るがず、政治的方向が偏らないようにしなければならない。各級の党組織は政治規律を実行・擁護する責任を積極的に担い、党員に対する政治規律遵守の教育を強化しなければならない。党の各級規律検査機関は党の政治規律を守ることを最優先し、政治規律の執行状況に対する監督・検査を強化しなければならない。

仕事に対する姿勢の問題は決して小さなことではない。よくない風潮を断固として正さず、そのままにしておけば、わが党が人民大衆から目に見えない壁に隔てられ、わが党は土台を失い、血脈を失い、力を失ってしまう。仕事に対する姿勢の改善に取り組むことは、各活動すべて重要であるが、最も根本的なのは刻苦奮闘の精神を堅持・発揚することである。仕事に対する姿勢を改善する任務は非常に繁雑で骨が折れるが、「八項規定」はその一つの切り口であり、動員令である。「八項規定」は最高の基準でもなく、なおのこと最終目的でもなく、われわれが仕事に対する姿勢を改善する第一歩にすぎず、われわれが共産党員としてなすべき基本的要求である。「禁令を上手に用いる者は、禁令をまず自らに課し、それから人にそれを求める」[二]。各級の指導幹部は何事も自ら手本を示し、率先垂範し、言ったことはかならず実行し、約束したことはかならず果たさなければならない。あくまで勤勉節約の精神で全ての事業に取り組み、派手好みや見栄を張ることに反対し、享楽主義と贅沢浪費の風潮を断固として食い止めなければならない。中華民族の勤勉節約の優れた伝統を大いに発揚し、

節約は光栄であり浪費は恥であるという思想観念の宣伝に力を入れ、節約励行、浪費反対が社会全体の気風となるようにしなければならない。各地区、各部門は仕事に対する姿勢を改善する関連規定を掛け値なしに遂行し、それをすべての活動、すべての節々において実行しなくてはならない。仕事に対する姿勢が確かに好転したか否かは、人民が満足したかどうかを基準とする。大衆の意見と提案を幅広く聞き取り、大衆の評議と社会からの監督を自覚的に受け入れる。大衆が不満に思っている点は直ちに是正・改善すべきである。中央規律検査委員会、監察部および各級の規律検査・監察機関は検査監督をさらに強化し、厳しく規律を執行し、責任を追及し、検査を徹底させなければならない。地道に仕事をして、自らの実績を残せるような意気込みで取り組み、最後まで全うし、努力して成功させ、竜頭蛇尾に済ませることを防ぎ、全党と全人民に監督してもらい、絶えず人民大衆に確かな効果と変化を見せる。

断固として腐敗を懲罰することは、わが党に力があることを示しており、それはまた全党の同志と広範な大衆の共通の願いである。わが党が高級幹部を含む一部の党員幹部の深刻な規律違反問題を厳しく取り締まる固い決意と鮮明な態度は、われわれが言っている、たとえ誰であろうと、職務がどれだけ高かろうと、党の規律と国の法律を犯しさえすれば、必ず厳しく取り調べ処罰されるという言葉が決してただの空談ではないことを全党、全社会に表明している。厳しく党を治めるため、処罰は決して緩めてはいけない。「虎」（大物）も「ハエ」（小物）も一緒にたたき、指導幹部の規律違反・法律違反案件を断固として厳しく取り締まるだけでなく、大衆の身の回りの不正の風潮や腐敗行為も着実に取り除かなければならない。党の規律、国の法律の前に例外はないことを堅持し、それが誰の身に及ぼうとも、徹底的に調べ、決して見逃してはならない。腐敗の懲罰・予防システムの構築を引き続き全面的に強化し、腐敗反対・廉潔提唱の教育と廉潔政治文化の建設を強化し、権力運用の制約・監督システムを健全化し、国の反腐敗に対する法整備を強化し、腐敗反対・廉潔提唱のための党

内の法規・制度の建設を強化し、腐敗問題が多発している分野や節々の改革を深化させ、政府機関が法に定められた権限と手続きに従って権力を行使することを確実に保障しなければならない。権力運用に対する制約・監督を強め、権力を制度のオリに閉じ込め、腐敗しようと思わせない懲罰の仕組み、腐敗ができない防止の仕組み、たやすく腐敗しない保障の仕組みを形成しなければならない。各級の指導幹部は、誰であれ法律を超えた絶対的権力は持っていないこと、誰であれ権力行使にあたっては人民に奉仕し、人民に責任を負い、自覚をもって人民の監督を受け入れなければならないことを銘記しなければならない。トップの指導者に対する監督を強め、民主集中制を真剣に実行し、施政行為の公開制度を整備し、指導幹部が高い職位に就いても権力を乱用せず、強大な権力を持っても私益をはからないことを保障する。

腐敗反対・廉潔提唱活動にあたっては、必ず特権意識と特権現象に反対しなければならない。共産党員は永遠に勤労大衆の中の普通の一員であり、法律と政策が定めた範囲内の個人的利益と仕事上の職権以外は、すべての党員はいかなる私益や特権も追求してはならない。これは、党風廉政建設の重要な内容であるのみならず、党と国家が生命力と活力を永遠に保つことができるかどうかという大問題でもある。力強い措置をとって、特権意識と特権現象に断固反対し、それを克服しなければならない。

党風廉政建設と反腐敗闘争にしっかり取り組むには、全党の働きが必要である。各級党委員会は職責の範囲内での党風廉政建設に全面的な指導責任を負う。反腐敗の指導体制と活動の仕組みを堅持し、より完全なものにし、規律検査、監察、司法、会計監査などの機関や部門の職能・役割を発揮させ、党風廉政建設と反腐敗闘争を共同で推し進めなければならない。規律検査委員会、監察機関の仕事を支え、規律検査委員会、監察機関の幹部の労をいたわらなければならない。特に党員としての自覚に優れ、原則を堅持する同志の保護に注意し、彼らが仕事に取り組むための条件を整えなければならない。各級の規律検査委員会、監察機関

は幹部陣の建設を強化し、職責を履行する能力とレベルを高め、監督・検査の役割をよりよく果たしていかなければならない。

〔注〕

〔一〕　荀悦の『申鑒・政体』を参照。荀悦（一四八～二〇九）、潁川潁陰（現在の河南省許昌市）出身。後漢の哲学者、歴史学者。

歴史の知恵を生かし腐敗反対・廉潔提唱の建設を推進する

（二〇一三年四月十九日）

第十八期中央政治局第五回グループ学習会を主宰した際の談話の要旨

歴史的経験には注意をはらうべきであり、歴史的教訓はなおのこと戒めとするべきである。複雑でめまぐるしく変わる国際情勢と並々ならぬ困難な改革・発展・安定の任務に直面し、「二つの百周年」の奮闘目標と中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するにあたって、党が党を管理し、党を厳しく治めることを堅持し、わが国の歴史上の廉潔政治の文化を積極的に参考にし、わが党の指導レベルと執政レベルを絶えず向上させ、腐敗と変質を防ぎ、リスクを食い止める能力を高め、党が終始中国の特色ある社会主義事業の強力な指導的核心となることを確かに保障しなければならない。

党風廉政建設と反腐敗闘争を深く推し進めるためには、わが党が腐敗反対・廉潔提唱の建設という長期にわたる実践の中で積み重ねた成功経験を堅持・発揚し、世界各国の腐敗反対・廉潔提唱の有益なやり方を積極的に取り入れ、また、わが国の歴史上の腐敗反対・廉潔提唱の貴重な遺産を積極的に参考にするべきである。わが国の腐敗反対・廉潔提唱の歴史を研究し、古代の廉潔政治の文化を知り、わが国の歴史上の腐敗反対・廉潔提唱の成敗得失を考察することは、われわれに深い啓発を与え、われわれが歴史の知恵を生かして腐敗反対・

廉潔提唱の建設を推進することに役立つ。

わが党が党風廉政建設と反腐敗闘争を党と国家の存亡にかかわる次元において認識するのは、古今東西の歴史的教訓を徹底的に総括したためである。その肝心な点は、党が終始人民にしっかり依拠し、終始人民大衆との血肉のつながりを保ち、一刻も大衆から遊離しないことである。それを達成するには、力を尽くして消極・腐敗の問題を解決し、党が終始人民と一心同体となり、息を通わせ、運命を共にすることを確保しなければならない。

中央が作風建設を提起して、形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費の風潮に反対したのは、すなわち腐敗反対・廉潔提唱の重点を提起し、党の執政の大衆的基礎を打ち固めるための切り口を提起したものである。全党の同志は必ずこのような政治的次元からこの問題を認識し、思想上の警戒を怠らず、「二つの必ず（毛沢東同志が中国共産党第七期中央委員会第二回全体会議で行った報告の中で党の作風にふれた際に、同志たちに謙虚で、慎重な、おごらず、あせらない作風をひきつづき保持させなければならないし、同志たちに刻苦奮闘の作風をひきつづき保持させなければならないと述べたことを指す）」を銘記し、揺るぐことなく作風を転換し、揺るぐことなく腐敗に反対し地道に仕事をして、自らの実績を残せるような意気込みで、絶えず腐敗反対・廉潔提唱における新たな進展と成果によって人民の信用を勝ち取るようにしなければならない。

腐敗反対・廉潔提唱の教育と廉政文化の建設を大いに強化し、法による国家統治と徳による国家統治を結びつけることを堅持しなければならない。思想やモラルから取り組むことは基礎的な役割を備えている。思想の純潔さはマルクス主義政党が純潔性を保持するための根本であり、モラルの高さは指導幹部が清廉、公正に仕事行う基礎である。われわれは広範な党員、幹部を教育し、導いて、理想と信念を固め、共産党員の精神的ふるさとをしっかりと守り、絶えず党員と幹部が廉潔に政治を行う思想・モラルの基盤を打ち固め、腐敗と変質

を防止する堅固な思想・モラルの防御ラインを築いていかなければならない。思想理論建設、党性教育、党員としての修養、モラル建設に取り組み、広範な党員、幹部を教育し、導いて、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、中国の特色ある社会主義理論体系を真剣に学習、実践し、正しい世界観、権力観、事業観をしっかり確立し、率先垂範して社会主義の栄辱観〔一〕を実践し、理論上の確固不動によって行動上の確固を保障し、思想上の冷静によって権力運用上の冷静を保障し、絶えず宗旨意識を強め、終始共産党員の崇高な気品と廉潔な品行を保持するようにしなければならない。

制度確立の問題はより根本性、全局性、安定性、長期性を有する。肝心なのは、権力運用の制約と監督のシステムを健全化し、人民に権力を監督させ、権力をオープンな形で運用し、権力を制度のオリに閉じ込めることである。より科学的、効果的に腐敗を防止するには、腐敗の懲罰・予防システムの構築を全面的に推し進め、反腐敗に関する法律・制度の執行力を高め、法律・制度を厳正に運用しなければならない。典型的な事例に対する分析を強め、腐敗問題が多発する分野と部分に対する改革を深化させ、体制の不備と制度の抜け穴を最大限減らし、改革の深化を通じて腐敗現象が生じ蔓延する土壌を絶えず取り除かなくてはならない。

腐敗反対・廉潔提唱はうまずたゆまず常に取り組み、腐敗拒否・変質防止は長く警鐘を打ち鳴らし続けなければならない。「蠹衆くして木折れ、隙大にして牆壊る（キクイムシが多ければ木は折れ、すきまが大きくなれば壁は崩れる）」〔二〕という道理を銘記し、腐敗を懲罰する高圧的な姿勢を保持し、案件があれば必ず調査し、腐敗があれば必ず懲罰し、「虎」も「ハエ」も一緒にたたくことを堅持し、人民の合法的権益を着実に守り、幹部が公正であり、政府が清廉であり、政治が明朗であるよう努めなければならない。

〔注〕

〔一〕二〇〇六年三月四日、胡錦濤は中国人民政治協商会議第十期全国委員会第四回会議の中国民主同盟と中国民主促進会の委員連合グループ討論に参加した際に、「八栄八恥（八つの名誉と八つの恥辱）」を主要内容とする社会主義の栄辱観を提起した。「八栄八恥」はすなわち次のことである。祖国を愛することは誇りとし、祖国に危害をもたらすことは恥とする。人民への奉仕は誇りとし、人民に背くことは恥とする。科学を尊ぶことは誇りとし、愚昧・無知は恥とする。勤勉に働くことは誇りとし、楽をしたがり労を厭うことは恥とする。団結互助けは誇りとし、人を傷つけ己に利することは恥とする。誠実・信義を守ることは誇りとし、利に目が眩み道義を忘れることは恥とする。規律と法を遵守することは誇りとし、法に背き規律を乱すことは恥とする。刻苦奮闘は誇りとし、贅沢浪費や淫行は恥とする。

〔二〕『商君書・修権』を参照。『商君書』は戦国時代中・後期の商鞅（しょうおう）とその後の法家学派の学説をまとめた著作であり、商鞅一派の法律思想を研究する主要なよりどころとなっている。商鞅（約前三九〇～前三三八）、衛国出身。戦国時代中期の政治家、思想家、法家学派の主な代表人物。秦国で変法（へんぽう）と呼ばれる国政改革を断行し、古い奴隷制に対し比較的徹底した改革を行い、新しい封建制を確立し、秦国を急速に富強な国にした。史上「商鞅の変法」と呼ばれている。

党風廉政建設と反腐敗闘争を深く推し進める

（二〇一四年一月十四日）

第十八期中央規律検査委員会第三回全体会議における談話の要旨

党が党を管理し、厳しく党を治めることを堅持し、党風廉政建設と反腐敗活動に対する党の統一的指導を強化し、反腐敗の体制・仕組みの刷新と制度面の支えを強め、思想・政治教育を強化し、党の規律を厳正にし、たゆみなく「四つの風潮」を是正し、腐敗懲罰の高圧的態勢を保ち、人民大衆の比較的満足する進展と効果を上げるように努めなければならない。

二〇一三年、党中央は党風廉政建設と反腐敗闘争を高度に重視し、中央規律検査委員会が党中央の政策決定・布石に基づいて、党の規律特に政治規律の拘束の強化、規律の執行・監督の強化、腐敗案件の取り調べ・処分の強化などの面で、こぶしを固く握り締めて断固たる打撃を加え、鮮明な活動の特色を形成してきた。各級の党委員会、政府、規律検査委員会と監察機関の共同の努力によって、党風廉政建設と反腐敗闘争は新たな進展を見せた。われわれは中央政治局から率先して、上級機関が下級機関に手本を示すことを堅持し、先頭に立って模範を示す役割を果たしてきた。際立った問題の解決を切り口として正しい気風を樹立し不正の風潮を正すことを堅持し、明らかな進展をみせた。腐敗案件を断固取り調べて処罰し、「虎」も「ハエ」も一緒にたたくこ

とを堅持することで、腐敗分子に対する高圧的態勢を形作っている。権力の規範的な運用促進を堅持し、監督を強化し、巡視活動を強化、改善し、人民大衆からの通報と監督のルートが滞りなく通じるようにし、広範な幹部と大衆から積極的な評価を得ている。

成績を認めると同時に、われわれが見て取らなければならないのは、腐敗の生じる土壌が依然として存在し、反腐敗情勢は依然として厳しく複雑であり、一部の不正な風潮と腐敗問題の影響は極めて深刻で、早急に解決を要するということである。全党の同志は反腐敗闘争の長期性、複雑性、困難性を深く認識し、劇薬を用いて病いを治し、厳しい刑罰によって乱を治める決意を持って、また、毒に染まれば骨を削り、壮士が腕を断ち切って治療するような勇気をもって、党風廉政建設と反腐敗闘争を断固として徹底的に行わなければならない。

腐敗の懲罰・予防システムを確立、整備することは、国家戦略であり、トップダウン設計である。中央が公布した「腐敗の懲罰・予防システムの確立、整備に関する二〇一三～二〇一七年活動計画」は、党風廉政建設と反腐敗活動を進めるための指導的文書であり、各級党委員会は真剣に執行し、この重要な政治任務を改革・発展・安定の各業務に貫かなければならない。

党と人民大衆の血肉のつながりを保つ問題を解決するには、一度の苦労で済むものでもないし、一挙に出来上がることはあり得ず、うまずたゆまず取り組み続ける必要がある。われわれは、よいスタートを切ったが、一歩一歩深化させていかなければならない。作風建設に取り組むには、まず理想と信念を固め、党の性質と宗旨を銘記し、党が幹部に対する要求を銘記しなければならない。党の幹部としては、公正無私であること、公私をはっきり分けること、「私」より「公」を上に置くこと、「公」のために「私」を忘れるのでなければならない。一心に公に奉仕し、何事も公の利益を思う考えから発してこそ、淡々として、謹み深く権力を行使することができ、公明正大で、正々堂々としていることができる。作風問題はみな公私を分ける問題と関係し、公

費、公の権利と関係している。公費は公のため使うもので、一銭たりとも無駄遣いしてはならない。公の権利は人民に奉仕するためのもので、いささかも個人のため乱用してはならない。指導幹部はそれを常に覚えておき、公私をはっきり分け、自己を制して公のために尽くし、自らを厳しく律しなければならない。

腐敗に断固反対し、党が長期的な執政条件のもとで腐敗・変質するのを防ぐことは、われわれが必ず取り組まなければならない重要な政治任務である。反腐敗の高圧的態勢を保ち続け、一切容赦しない態度で腐敗を懲罰することを堅持しなければならない。腐敗分子に対しては、見つけ次第断固取り調べ、処分する。早い段階、軽い段階で押さえ、病気なら早急に治療し、問題を見つけたら直ちに処理する。腫れ物をそのまま放置して、命にかかわる重病になってはいけない。「手を伸ばしてはならず、手を伸ばせば必ず捕まる」[二]という道理を幹部一人一人に銘記させなければならない。「善を見ては及ばざるが如くし、不善を見ては湯を探るが如くす（善いことを見れば、とても達成できないというように謙虚に努力し、善くないことを見れば熱湯に手を入れたようにすぐに離れる）」[三]。指導幹部は畏れを抱かねばならず、運よくやり過ごすことを期待してはならない。

改革の深化によって党風廉政建設と反腐敗闘争を推し進め、党の規律検査体制を改革し、反腐敗の体制と仕組みを整備し、権力に対する制約と監督の効果を強化し、各級規律検査委員会の監督権の相対的な独立性と権威を保障する。権力に対する制約を強化し、科学的に権力を配置し、科学的な権力構造と運行の仕組みを形成しなければならない。権力に対する監督を強化し、指導幹部特にトップ責任者の権力行使に対する監督の改善に力を入れ、指導陣の内部における監督を強化しなければならない。権力の公開を強化し、法律に基づいて権力運用のプロセスを公開し、広範な幹部、大衆が公開された中で監督し、権力を正確に運用するよう保障しなければならない。党委員会の主体責任と規律検査委員会の監督責任をきちんと定め、責任の追及を強化し、制度を張り子の虎やかかしにさせてはいけない。党委員会、規律検査委員会あるいはその他の関連職能部門は担

当する党風廉政建設の職責を履行しなければならない。各改革措置は腐敗の懲罰と防止という要請を具現し、腐敗防止策と同時に考え、計画し、実施し、全ての抜け穴をふさぎ、改革の健全で順調な推進を保障しなければならない。

党の規律遵守は無条件のものであり、掛け値なしに実行し、規律があれば必ず執行し、規律違反があれば必ず取り調べ、規律というものを手加減された束縛もしくは棚の上に祭ったままの空文にしてはならない。党の各級組織は党員、幹部に対する政治規律遵守の教育を強化し、党の各級規律検査機関は党の政治規律の擁護を最優先し、全党が思想、政治、行動の上で党中央と高度な一致を保つことを確実に保障しなければならない。

党の力は組織から来ており、組織は党の力を倍増してくれる。組織の規律性を強化するには必ず党性を強めなければならない。党性とは結局のところ立場の問題である。われわれ共産党員、特に指導幹部は広い度量を有し、高遠な志を持ち、終始党、人民、国家のことを心にかけ、自覚を持って党性の原則を堅持するべきである。全党の同志は党の意識を強化し、自分の第一の身分は共産党員であること、第一の職責は党のために働くことであることを銘記し、組織に忠実であり、いつでも党と一心同体でなければならない。全党の同志は組織の意識を強化し、常に自分が党に属する人間であり、組織の一員であることを意識し、常に自分が果たすべき義務と責任を忘れず、組織を信じ、組織に頼り、組織に服従し、組織の手配と規律の拘束を自発的に受け入れ、党の団結統一を自発的に擁護しなければならない。

民主集中制や党内組織生活制度などの党の組織制度はみな非常に重要で、必ず厳格に執行しなければならない。各級の指導陣と指導幹部はみな事前の指示伺いと事後報告の制度を厳格に執行しなければならない。組織管理を着実に強め、党員と幹部が組織の問題に正しく対応するよう導き、言行一致し、裏表がなく、真実を話し、本心を言い、党組織の教育と監督を受け入れなければならない。組織の規律をしっかりと執行しなければならず、

特例や例外を設けてはならない。各級党組織は果敢に取り組み、規律を真に電気の通った高圧線のようにしなければならない。

党中央が行った政策決定・布石を、党の組織、宣伝、統一戦線、政法（公安・検察・司法機関）などの部門は必ずそれを貫徹・実行し、人民代表大会、政府、政治協商会議、法院（裁判所）、検察院の党組織は必ずそれを貫徹・実行し、事業体、人民団体などの党組織もそれを貫徹・実行し、党組織はその役割を果たさなくてはならない。各方面の党組織は党委員会に対し責任を負い、仕事を報告し、党委員会の統一的な指導の下で職責範囲内の仕事を全力を尽くして行わなければならない。

〔注〕

〔一〕陳毅の「七古・手莫伸」（『陳毅詩詞選集』、人民文学出版社、一九七七年版、第一五五頁）を参照。陳毅（一九〇一～一九七二）、四川省楽至出身。中国プロレタリア階級革命家、軍略家、政治家。中国人民解放軍の創始者、指導者の一人で、中華人民共和国の元帥。

〔二〕『論語・季氏篇』を参照。

第十八章

党の指導レベルを向上させる

素晴らしい青写真は釘を打ちこむように徹底的に

（二〇一三年二月二十八日）

中国共産党第十八期二中全会第二回全体会議における談話の一部

改革・発展・安定の困難で煩雑な任務に直面し、各級の指導グループと指導幹部は必ず中央の要請に照らして、「空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す」ことを銘記し、積極的に取り組み、向上心に燃え、実践、人民、歴史の検証に耐えうる実績をつくらなければならない。改革開放と社会主義現代化建設の広大な領域の中で、誰もみな仕事を行いたいと思い、みな仕事に対する熱意を持ち、みな見事に何か事業を成し遂げたいと考え、党と人民の信頼に背かないようにしなければならない。しかし、この過程で、われわれは「政は恒有るを貴ぶ（政治においては、一貫した原則に従って行うことが大切）」という道理を銘記しなければならない。新たなポストに着任したら、その任期内は仕事に邁進し、当然大胆に仕事に取り組み、鋭意進取に努めなくてはならないが、一方では大局の安定と仕事の一貫性を保つべきでもある。第十八回党大会は小康社会の全面的構築と改革開放の全面的深化という目標を定め、新たな時代と条件の下で中国の特色ある社会主義事業を推進することに対して全面的布石を行い、党建設の科学化レベルを全面的に高めることに対して明確な要求を提出した。全党・全国は地道な努力を通じて、粘り強く第十八回党大会の精神を確実に実施しなければならない。そ

れによって、中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議以来の路線方針・政策、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観に対して、中央が提出した依然有効である諸重要戦略的配置に対して、われわれは徹頭徹尾やり抜かなくてはならない。地方と部門の仕事も同じように、よく練り上げた青写真を実施に移したら、実現するまでやり続け、確実に成果を上げなければならない。われわれはそのために、釘打ちの極意を身につけなければならない。釘は、金槌で一打ちしただけではしっかりと打ちつけることはできない。しっかりと深く打ちつけるには、何回も打ち続ける必要がある。一本打ち終わったらもう一本というように一本ずつ打ち込んでいけば、最後には必ずしっかりしたものとなる。だが、あっちを一打ち、こっちを一打ちというようにむやみやたらに打っていては、一本もまともに打ちつけられないであろう。われわれは「自分の代で成し遂げられなくても（未来の成功につながるなら）かまわない」という心構えを持つべきである。よく練り上げた青写真は、科学的であれば、現実や大衆の願いにかなうのであれば、われわれは一世代また一世代とやり続けなければならない。成し遂げたものはすべて実績で、広範な幹部と大衆はみな見て、銘記してくれることであろう。もちろん、実践は絶えず発展しており、われわれの認識と仕事も時代と共に前進しなければならず、しっかり見定めた上で適宜調整や改善を加えてもよいが、指導陣の交代でそれまでの取り組みが根本から変わってしまってはいけない。ましてや、新任者のいわゆる「業績」を示すために別の事業にまるごと切り替えるなどもってのほかであり、中身のないスローガンを至る所に氾濫させてもいけない。多くの場合、新たなイメージがあるかどうか、新しい兆しがあるかどうかは、必ずしも次々と新しい企画を制定すること、次々と新しいスローガンを叫ぶことにあるのではなく、新たな現実と結びつけ、新たな発想、新たな措置を用いて、着実に既定の科学的目標、よい仕事の青写真を着実に実現していくことにある。正しい業績観を打ち立て、基礎を固める仕事や将来に役立つ仕事を数多く行わなければならず、実際からかけ離れて業績の素晴らしさのみを盲目的に競

ったり、人的・財的資源を浪費して「イメージづくりプロジェクト」や「業績づくりプロジェクト」を行ったりしてはならない。真実を求めて実践に励み、心を込めて着実に仕事に取り組み、勇気を持って仕事にあたり、歴史と人民に対する責任をしっかり果たさなければならない。

学習をよりどころに未来へ向かおう

（二〇一三年三月一日）

中央党学校創立八十周年祝賀大会・二〇一三年度春学期始業式におけるスピーチの抜粋

わが党はこれまで一貫して全党、特に指導幹部の学習強化を重視してきており、これは党と人民の事業発展を推進する一つの成功体験である。あらゆる大きな転換期に、新しい情勢と新しい任務に直面し、わが党はいつも全党の同志が学習を強化するように呼びかけてきた。そして、毎回のこのような学習ブームで、党と人民の事業の発展を推進し、大きな発展と進歩を実現させることができた。改革開放の初期、党中央は四つの現代化を実現することは深刻かつ偉大な革命であると強調した。この偉大な革命の中で、われわれは新たな矛盾を絶えず解決しながら前進したのである。そのため、全党の同志は必ず学習に長じ、さらに重ねて学習することに長じなければならない。過去に比べても、われわれの現在の学習任務は軽くはなく、むしろ重くなっている。これは、われわれが直面している情勢と任務によって決まったものである。

現在、全党が直面している重要な課題の一つは、わが国が発展してから絶え間なく現れた新たな状況と新たな問題をどのように正しく認識し、どのように適切に処理するかということである。現在、われわれが当面している問題の中で、一部分は古い問題であり、あるいはわれわれが長期にわたって解決に努力しているがまだ

きちんと解決できていない問題であり、あるいは新たな形で示された古い問題であるが、多くは新たに出現した問題である。新しい問題は時々刻々と現れており、さらにその多くは過去われわれが知らずにあるいはあまり知らずにいた問題だ。こうした状況の出現は、世情、国情、党情の発展と変化が引き起こしたものだ。新しい問題であれ、古い問題であれ、長期にわたって存在している問題であれ、あるいは新たな形で示された古い問題であれ、うまく認識し解決する唯一の道はわれわれ自身の能力を強化することである。能力を強化するためには学習を強化し、学習した知識を実践で運用するだけでなく、実践の中で問題を解決する新しい能力を増やさなければならない。

第十八回党大会が提起した各目標と任務を実現し、複雑にめまぐるしく変化する国際情勢に対応し、改革・発展・安定の大局を把握し、各方面の仕事にしっかり取り組むことは、われわれの能力に対して新たな要求を提出することになった。わが党は革命、建設、改革のそれぞれの歴史的時期ごとにさまざまな困難と障害に出会っており、われわれの事業の成功はみな苦しい模索、刻苦奮闘を通じて成し遂げられたのである。われわれの事業が順風満帆に、われわれの奮闘目標がスムーズに達成できると考えることは不可能だ。今後のわれわれが前進する道に、各方面からの困難、リスクと挑戦がまた絶え間なく現れるに違いないことは予見できるもので、もっとも肝心なことはわれわれがそれらを克服し、それらに打ち勝ち、それらを制御できる能力があるかどうかということにある。

全般的に見れば、現在のわが党と国の事業発展の要請に比較して、われわれの能力は適応する面がある一方、適応していない面もある。特に形勢と任務の絶え間ない発展につれ、われわれの適応する面は下降しており、適応しない面が上昇している。もし急いで能力を増強しなければ、月日がたつにつれて、われわれは改革開放と社会主義現代化の建設指導という重い任務に堪えられなくなる。延安時代（中国共産党中央委員会が延安に置かれ

ていた一九三五年からの十三年間）に、わが党は「能力危機」の問題に気づいた。当時党中央は、われわれの隊列の中には危機があり、それは経済危機ではなく、政治危機でもなく、能力危機であるとはっきり指摘した。過去に学んだ能力はほんのわずかであり、今日少し使い、明日少し使いして、能力がしだいに底をついてくる。われわれは今、同じ状態に直面しているのではないか、私はそう思う。多くの同志は仕事をしっかり行うことを心から願っており、やる気もあるが、新しい情勢の下で仕事をしっかり行う能力に欠けており、新しい情況と新しい問題に直面した場合に、法則やコツが分からず、知識と能力が不足しているため、相変わらず古い思考と古い方法で対応し、向こう見ずにやみくもに事にあたり、結局なんとか仕事はまっとうしたが、時には非常に苦労したもののやり方が間違っていたり、思ったように事が運なかったり、行動と目的が正反対になってしまう事さえある。新しい方法は使い方が分からず、古い方法は役に立たず、強硬な方法は使う勇気がなく、温和な方法では効果がない。こうした状態が党内のかなり大きな範囲、かなり長い時期にわたって存在していると思う。そこで、全党の同志、とりわけ各級の指導幹部は、みな能力の不足という危機感を抱き、能力の向上に励み、一刻も立ち止まることなく自らの能力を高めなければならない。全党の能力が絶えず高まってこそ、「二つの百周年」の奮闘目標は達成可能となり、中華民族の偉大な復興という中国の夢は実現可能となるのである。

能力は生まれつきのものではなく、学習と実践を通じて獲得するものである。今の時代、知識の更新の周期は大幅に短縮され、各種の新しい知識、新しい情況、新しい物事が次々と現れている。ある研究によると、十八世紀以前、知識の更新速度は九十年ごとに倍増していたが、二十世紀九十年代以降、知識の更新は加速し三年から五年ごとに倍増するようになっているという。この五十年来に人類社会が創造した知識は、過去の三千年のそれよりも多い。またある人によれば、農耕時代には、数年間学んだ知識で一生使うに事足りた。工業経済時代には、十数年間学ばないと一生使うことはできなくなった。知識経済時代になると、時代の前進の歩みに追いつく

ために一生勉強し続けなければならなくなっている。もしわれわれが各方面の知識と素養を高める努力をせず、各種の科学文化の知識を意識的に勉強せず、知識の更新を進んで加速させず、知識構造を最適化させず、見聞と視野を広めないなら、能力を増やすことができないし、イニシアチブや優位性、将来性を獲得することはできない。したがって、全党の同志、特に各級の指導幹部はみな学習を強化する緊迫感を持たなければならない。

まさにこのような戦略的次元から出発し、第十八回党大会は学習型、サービス型、革新型のマルクス主義執政党を建設するという重要任務を提起した。学習型を第一に置くのは、学習は前提であり、学習をよくしてこそサービスをよく行うことができ、学習をよくしてこそ革新を行えるからである。われわれはみな指導幹部であり、党と人民に与えられた職責を負うからには、絶えず自己を高め、自己を豊かにし、まじめにこつこつと仕事を行い、仕事のレベルと質を絶えず高めなければならない。この観点から言うと、指導幹部が学習するかどうかは自分だけの問題ではなく、能力の大きさも自分だけの問題ではなく、党と国家の事業の発展とかかわる大きなものである。これは昔の人が言った「学ぶ者は必ずしも仕えるためではないが、仕える者は必ず学問を用いる」〔二〕ということである。学習を強化してこそ、仕事の科学性、予見性、能動性を強化することができ、指導と方策が時代性を体現し、法則性を把握し、創造性に富むようにすることができ、知識不足による迷い、知識欠如による盲目性・無知なための混乱と苦境に陥るのを避けることができ、ようやく能力不足と能力危機の問題を克服することができる。さもなくば、「盲人が目の見えない馬に乗って夜半に深い池に近づく」〔三〕ことになり、勇気は奨励すべきだが、その行動は軽率で行う価値がなく、仕事において新たな局面を切り開くことができないだけではなく、方向を見失い、時代から取り残される危険もある。

われわれが携わっている中国の特色ある社会主義事業は偉大で波瀾万丈であり、先人が行ったことのないものである。したがって、われわれの学習は全面的かつ系統的で、模索精神に富むべく、学習の重点を捉える

と同時に、学習分野を広く開拓しなければならない。書物から学ぶだけでなく、実践からも学ばなければならない。人民大衆と専門家・研究者から学ぶだけでなく、海外の有益な経験から学ばなければならない。学習には理論知識の学習もあれば、実践知識の学習もある。

まずはマルクス主義の理論を真剣に学ばなければならないこと、これはわれわれがあらゆる活動をうまく行うための奥の手であり、また指導幹部が活動をうまく行うために、あまねく把握しなければならない奥の手でもある。毛沢東同志は、「もしわが党に、マルクス・レーニン主義を断片的でなく系統的に、空虚でなく真に身につけた同志が百人ないし二百人いるならば、わが党の戦闘力は大いに高められる」[三]と言ったことがある。この任務は、現在でも現実的にわが党の前に置かれている。マルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、「三つの代表」重要思想、科学的発展観を本当に身につけ、特にそれを貫くマルクス主義の立場、観点、方法を理解してこそ、優れた洞察力を持つことができ、共産党の執政の法則、社会主義の建設の法則、人類社会の発展の法則を深く認識し正確に把握することができ、理想と信念を終始堅持することができ、非常に複雑な情勢の下で科学的な指導思想と正確な前進方向を堅持することができ、人民が正しい道を歩むよう導くことができ、中国の特色ある社会主義を絶えず前に推し進めることができる。

党の路線・方針・政策と国家の法律・法規を学ぶこと、これは指導幹部が活動を展開する基本的な準備であり、また非常に重要な政治的素養でもある。これらを身につけなければ、何によって方策を制定し、問題を解決するのか。そうすれば仕事の中であれこれの過失が現れるかもしれない。各級の指導幹部はまた党の歴史、国の歴史を学び、党と国を愛することを知らなければならない。わが党と国家の事業のことを知り経緯を理解し、わが党と国家の歴史的経験をくみ取り、党と国家の歴史における重要事件と重要人物のことを知らなければならない。これは党情、国情を正しく認識するために極めて必要なことであり、また未来を切り開いていく上で

も大いに必要である。なぜなら歴史は最も良い教科書だからである。

経済、政治、歴史、文化、社会、科学技術、軍事、外交などの分野における知識を、指導幹部は仕事と結びつけて学び、自分の知識化、専門化レベルを高めなければならない。何かに従事したらそれを学び、何か不足があればそれを補うことを堅持し、指導の取り組みがうまくできるように、持ち場の職責履行に備えるべき諸般の知識を的確に学び、それを身につけ、自ら真に業務に精通した指導者となるよう努めなければならない。各種の文学と歴史の知識、中国の優秀な伝統文化を学び、学習を通じて知識を深め、学習を通じて身を修めなければならない。中国の伝統文化は豊かで深遠であり、そこから各種思想の粋を学ぶことは、正しい世界観・人生観・価値観の形成に非常に有益である。古人の言葉にある「天下の憂いに先んじて憂え、天下の楽しみに後れて楽しむ」〔四〕という政治的抱負や、「地位は低くとも憂国を忘れず」〔五〕、「国を利することであれば命をかけて行い、自分の禍福を理由にそれを避けたりなどしない」〔六〕という報国の心情、「富貴も淫する能わず、貴賤も移す能わず、威武も屈する能わず（いかなる誘惑や困窮やおどしにも心を乱されない）」〔七〕という浩然の気、「人生古(いにしえ)より誰か死無からん、丹心を留取して汗青を照らさん（昔から人はみな死ぬものである、国への真心を貫いて史書を照らそう）」〔八〕、「鞠躬尽瘁して、死して後已(や)まん（死ぬまで国のために全力を尽くそう）」〔九〕という献身の精神などは、いずれも中華民族の優れた伝統文化と民族精神を示すものであり、われわれが受け継ぎ、発揚すべきものである。指導幹部はまたいささかの文学的知識を理解し、文学鑑賞能力と美意識を高めることを通じて、情操を陶冶し、高尚な生活情趣を育成すべきである。多くの一世代上の革命家はとても深い文学的素養を身に付けており、詩・詞・歌・賦の面において非常に深い造詣を持っていた。要するに、歴史を学ぶことで成否を見分け、得失をわきまえ、興廃を知ることができる。詩を学ぶことで意気を高揚させ、志を高め、人を優秀にさせることができる。倫理を学ぶことで廉恥を知り、栄辱を理解し、是非を区別することができる

のだ。われわれは中国の歴史と文化を理解するだけでなく、世界を見て、世界の異なる民族の歴史と文化を理解し、そのカスを取り除き、精髄を取り入れ、そこから啓発を得て、自分のために利用しなければならない。

指導幹部が学習する場合に、学習の方向を正しく把握しなければならない。マルクス主義が導いた方向を軽視すれば、学習は容易に盲目的状態、ひいては誤った道に陥ってしまい、複雑な情勢の中でどうしたらよいか分からなくなり、各種の誤った思潮を防ぐことは難しい。正しい方向がなければ、有益な知識を学ぶことができないだけでなく、容易に飾り立てて吹聴し、実際から乖離し、ひいてはでたらめでおかしく、極めて誤ったものに惑わされ、とらわれてしまう。

学習の目的はすべて運用にある。指導幹部が学習を強化する根本的な目的は仕事の能力を強化し、実際の問題を解決するレベルを高めることにある。「空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す」とは、学習と活動の中での「空理・空論」に反対することを言っているのである。戦国時代の趙括〔一〇〕の「紙の上で兵を談じる（机上の空論）」、晋代の読書人の「虚談で務めが廃れる」という歴史的教訓を皆さんは戒めとしなければならない。読書は学習であり、利用も学習、より重要な学習である。指導幹部は理論と実際を結びつけるというマルクス主義の学風を発揚し、問題を持ちながら学び、人民から学ぶべきであり、実践の中で学び、学習の中で実践し、実際に役に立てるために学び、学んだことを用いて学習を促進し、学習と利用を互いに促進するようにし、決して大げさにまくし立ててはいけない。

興味は学習を奨励する最も良い師である。「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」〔一一〕とはこの道理を述べている。指導幹部は学習を一種の追求、一種の趣味、一種の健康的な生活様式とし、学習を愛し、学習を楽しみとしなければならない。学習に対する興味を濃くすれば、「私に学ばせる」を「私が学びたい」に変え、「一時期学習」から「生涯学習」へと変えることができる。学習と思考、学

習と実践は互いに補完し合うものであり、いわゆる「学びて思わざれば則ち罔(くら)し、思いて学ばざれば則ち殆(あや)うし」〔一二〕ということである。頭に問題があるなら、問題を解決し、問題をうまく解決しようと思えば、学びに行き、自発的に学びに行くものだ。「博くこれを学び、審(つまび)らかにこれを問い、慎みてこれを思い、明らかにこれを弁じ、篤くこれを行う」〔一三〕でなければならない。学習するには時間を割り振りするのがうまくなければならない。ある同志はよく学びたいと思っているが、「仕事がとても忙しく、学ぶ時間がない」とよく話す。道理があるようであるが、決して学習をなおざりにする理由にはならない。中央は仕事に対する姿勢を改善することを強調し、学習をより多く、思考をより多く、無意味な交際をより少なく、形式主義のものをより少なくすることも、仕事に対する姿勢を改善する重要な内容である。大衆は、現在の一部の幹部の学習の気風が濃いものでなく、遊ぶ気風が盛んになっていると言う。「自分がよく分からないのに、他人にはっきり分からせることができようか」〔一四〕であり、これではいけない。仕事を誤らせ、大事をそこなうに違いない。学習に意を注がず、事務に没頭するなら、思想を硬直化させ、俗流化しがちである。学習には、腰を据えておくべく、根気よく続け、よく理解し、徹底することが重要であり、落ち着きなく、少し試してはすぐにやめ、大体を知るだけで満足して深い理解を求めようとしないということではいけない。指導幹部は学習を重要な位置に置き、むさぼるように学ばなければならず、例え一日に半時間だけでも捻出し、数ページだけでも本を読み、堅持しさえすれば、ちりも積もれて山となり、半歩を重ねて千里の遠くまで行けるようになるにちがいない。

要するに、学習が好きになれば向上することができるのである。中国の共産主義者は学習をよりどころに現在まで歩んで来たのであり、また学習をよりどころに未来へ向かって前進しなければならない。われわれの幹部が進取的になり、わが党が進歩し、わが国が前進し、わが民族が向上するには、学習の気風を盛んにしなければならず、学習、学習、また学習を堅持し、実践、実践、また実践を堅持しなければならない。

〔注〕

〔一〕荀子の『荀子・大略』を参照。

〔二〕劉義慶の『世説新語』を参照。劉義慶（四〇三～四四四）、彭城（現在の江蘇省徐州市）出身。南朝の宋国の文学者。『世説新語』は古代の小説集であり、主に漢代末から東晋までの士大夫の話しと逸事を記載している。

〔三〕毛沢東の『民族戦争における中国共産党の地位』（『毛沢東選集』第二巻、人民出版社一九九一年版、第五三三頁）を参照。

〔四〕本書中の「創造・革新は時宜にかない夢の実現を図ることも時流にかなうものである」の注〔三〕を参照。

〔五〕陸遊の『病起書懐』を参照。

〔六〕林則徐の『赴戍登程口占示家人』を参照。林則徐（一七八五～一八五〇）、福建省侯官（現在の福建省福州）出身。清代のアヘン戦争の時期にアヘンを取り締まり、西側の侵略に対する抵抗を主張した愛国の政治家である。

〔七〕『孟子・滕文公下』を参照。

〔八〕文天祥の『零丁洋を過ぐ』を参照。文天祥（一二三六～一二八三）、吉州廬陵（現在の江西省吉安）出身。南宋の大臣、文学者。元に抵抗した名将として知られる。

〔九〕諸葛孔明の『後出師表』を参照。原文は、「鞠躬盡力、死而後已」。

〔一〇〕趙括（？～前二六〇）、戦国時期の趙の武将。「紙の上で兵を談じる（机上の空論）」ことしかできず、実戦の経験がなかった。紀元前二六〇年、長平（現在の山西省の高平の北西）で秦の武将の白起の計略にかかり大敗、趙括は包囲の突破を試みるが矢で射殺され、趙軍四十万人は生き埋めにされた。

〔一一〕『論語・雍也』を参照。

〔一二〕本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔三七〕を参照。

〔一三〕本書中の「青年は社会主義の中核的価値観を自覚的に実践すべきである」の注〔四〇〕を参照。

〔一四〕『孟子・尽心下』を参照。

「大国を治むるは小鮮を烹るが若くす」

（二〇一三年三月十九日）

ＢＲＩＣＳ諸国のメディアの共同インタビューに応じた際の談話の一部

　私と会見した何人かの国家指導者が、中国のような大きな国家をどのように管理するのかと感慨を込めて質問してきた。確かに、中国は十三億の人口を擁し、管理することは難しく、情況をはっきりと理解するだけでもたやすくない。中国を理解するのはひとしきり手間がかかり、一つや二つの地方を見るだけでは不十分だと、私はよく話している。中国は九百六十万平方キロの陸地面積、五十六の民族、十三億の人口を擁し、中国を知るには、「群盲象を評す」という言葉のように一部分だけを見てそれが全てだと考えることは絶対に避けなければならない。

　中国には「宰相は必ず州部より起こり、猛将は必ず卒伍より発す（宰相は必ず地方の役人から身を起こし、猛将は必ず一介の兵士から昇進する）」〔二〕という古い言葉がある。われわれの現在の幹部選抜のメカニズムも一級また一級でとなっており、例えば、私は農村で仕事をしたことがあり、生産大隊の党支部書記を担当したことがあり、また県、市、省、中央のいずれもで勤務したことがある。幹部は、豊かな末端経験を有すれば、よりよく大衆的観点を打ち立てることができ、また国情を知り、人民が何を必要としているかを知ることができ、

実践の中で各方面の経験と専門的知識を絶えず蓄積し、仕事の能力と手腕を強化することができる。これは仕事を上手に行う基本的条件である。

大衆の衣食住と交通手段、社会の日常運営、政府機関の正常な運営、執政党の建設と管理はいずれも多くの仕事をしなければならないものだ。私にとって、人民が私をこのような職務に就けた以上、私は人民を終始心の中で最高の位置に置き、人民の切なる負託をあくまでも銘記し、責任は泰山よりも重いことをしっかりと銘記しなければならない。こうした大国、これほど多くの人民、このように複雑な国情にあって、指導者は国情を深く理解し、人民の考えと期待を理解し、「深淵に臨むがごとく薄氷を踏むがごとし」〔二〕という自覚を持って、「大国を治むるは小鮮(しょうせん)を烹(に)るが若(ごと)くす(大国の統治には、ちょうど小魚を煮るときのように、加減に気をつけて慎重に臨むべきである)」〔三〕という態度で、少しも怠ることなく、少しもいい加減にせず、日夜公務に励む責任感を持ち、懸命に仕事をしなければならない。人民はわれわれの力の源である。人民と苦楽を共にし、人民と団結して奮闘すれば、克服できない困難はなく、やり遂げられない任務はない。

仕事の量について、あなたたちは想像できる。このような職務を担当したら、基本的に自分の時間はないし、仕事はさまざまである。もちろん、私は軽重と緩急をつけることができる。「みんなで薪を拾い集めて燃やせば、火はもっと燃えさかる」。われわれは分担しながら、協力もする中央指導グループであり、とても効果的な活動の仕組みを持って、みんなでそれぞれ責任を担当し、共同で仕事を着実にこなしている。

仕事はとても忙しいが、「浮生半日の閑を偷得したり(忙しい中でいささかの暇を見つけたら自分をリラックスさせる)」〔四〕であり、時間があれば私は家族と共に過ごしている。

私の趣味はとても多いが、最大の趣味は読書であり、読書はすでに私の生活様式の一種になっている。私はスポーツも大好きだが、水泳、登山などのスポーツが好きで、若い時はサッカーとバレーボールが好きであった。

ブラジルが再度ワールドカップを主催することに対して、私は祝賀の意を表す。スポーツ競技、特にサッカーの試合の魅力は予測できないところにある。前回ワールドカップはポールという（勝つチームを当てた）タコがいたが、来年は未来を予測できるタコがいるだろうか。ブラジル代表チームはホームの優位があり、私はブラジルチームの好運を祈る。

〔注〕

〔一〕『韓非子・顕学』を参照。韓非（前二八〇頃～前二三三）、戦国末期の法家学説を大成させた法家学派の代表的人物である。その著作は『韓非子』に収集されている。

〔二〕『詩経・小雅』を参照。原文は、「戦戦兢兢如臨深淵、如履薄氷」。

〔三〕『老子』第六十章を参照。

〔四〕李渉の『題鶴林寺僧舎』を参照。李渉（生没年不詳）、洛陽（現在河南省に属す）出身。唐代の詩人。

党と人民が必要とする優れた幹部の養成・選抜に力を入れよう

（二〇一三年六月二十八日）

全国組織活動会議における談話の一部

現在、全党と全国各民族の人民は小康社会の全面的な構築と、中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現のために団結して奮闘している。複雑でめまぐるしく変化する国際情勢となみなみならぬ困難に満ちた重い国内の改革・発展・安定の任務に直面し、われわれは新たな多くの歴史的特徴を備える偉大な闘争を進める準備をしなければならない。これは第十八回党大会の報告の中での言葉である。「新たな歴史的特徴」という概念は、意味がとても深く、国内と国際の二つの大局を全面的に観察し判断して得た重要な判断である。

新たな多くの歴史的特徴を備える偉大な闘争を行い、第十八回党大会で定められた諸般の目標と任務を実現するためのカギは党にあり、人にある。そのカギが党にある以上、中国の特色ある社会主義を発展させる歴史的過程で党が終始強靭な指導核心であることを確実なものにしなければならない。そのカギが人にある以上、広範な資質の高い幹部陣を育成しなければならない。

わが党は一貫して能力・見識に応じて人材を選ぶことを非常に重視し、終始人材の選抜・登用を党と人民の

事業にかかわる肝心な、根本的な問題として取り組んでいる。国を治めることにおいて最も重要なのは人材の登用である。つまり古人の言葉にある「賢を尚ぶ者、政の本なり（人材の登用は、政治の根本である）」〔一〕「為政の要、人を用いるに先んず莫からん（政治に従事するには、人材の登用が最も重要である）」〔二〕ということである。

近年、各級の党委員会と組織部門は党の幹部路線を執行し、人材の選抜や登用の主流は良好だが、あれこれの一部の問題が目につき、もしうまく解決しなければ、党の結束がばらばらになり、人民を失望させてしまう。

現在、みんながよく考え、よく議論している三つの問題がある。つまりどのような幹部が優れた幹部であるか。どうすれば良い幹部に成長できるのか。どのように優れた幹部を登用するか。この三つの問題に正しい解答を出し、正しく解決すれば、われわれは幹部の仕事をよりよくすることができるのである。

一つ目の問題は、どのような幹部が優れた幹部であるかということだ。これは本来非常に明らかな問題であり、党規約には明確な要求が書いてある。しかし、人材の選抜と登用における不正の気風に影響され、一部の地方が選出した幹部の資質と能力が明らかに不適格で、ひいては一部の「病気（誤りや問題）を帯びて抜擢され」関連規定に違反して抜擢された幹部さえ見られたことで、多くの同志のこの問題に対する認識があいまいになってしまった。こうしたことはわれわれの組織活動に大いに改善する余地があることを物語っている。なぜなら、もしあれこれ選抜したが、結局みなが優れた幹部をはかる基準をあいまいにしてしまうなら、明らかに選抜された一部の者が手本としての役割を果たさないだけでなく、かえって逆効果になってしまう。この問題に対して、われわれは深く考えなければならない。

優れた幹部の基準は、大きな面から言えば才徳兼備である。同時に、優れた幹部の基準はまた具体的かつ歴史的である。異なる歴史的時期に、幹部の才知と人徳に対する具体的な要求には違いがあった。革命戦争の年代、

党に対して忠実で、勇敢でよく戦い、犠牲を恐れない幹部が良い幹部だった。社会主義革命と建設の時期には、政治と業務に通じ、革命化と専門化（政治思想面で優れ、高度な専門知識・技能をもっている）の幹部が優れた幹部だった。改革開放の初期には、第十一期三中全会で定められた路線・方針・政策を擁護し、知識を持ち、専門分野に精通し、鋭意進取改革を進めた幹部が優れた幹部だった。現在、われわれは政治的に信頼でき、仕事の能力が高く、しっかりした作風を身につけ、人民大衆が信頼できるなど具体的要求を提起し、優れた幹部の基準の時代的内包を強調している。

締めくくって言うと、優れた幹部とは確固とした信念を持ち、人民に奉仕し、政務に勤勉で実務に励み、果敢に重責を担い、清廉公正でなければならない。確固とした信念を持つには、党の幹部は必ず共産主義の遠大な理想を揺るぎないものとし、心からマルクス主義を信仰し、永遠に変わることなく中国の特色ある社会主義のために奮闘し、党の基本的理論、基本的綱領、基本的路線、基本的経験を揺るぎなく堅持しなければならない。人民に奉仕するには、党の幹部は人民の公僕として、人民に忠誠を尽くし、人民の憂いと楽しみを自らの憂いと楽しみとし、人民の甘苦を自らの甘苦とし、誠心誠意人民に奉仕しなければならない。政務に勤勉で実務に励むには、党の幹部は必ず勤勉で仕事に熱心でなければならず、真実を求め実務に励み、真に意気込みをもって着実に仕事に取り組み、業務に向上を重ね、実践と人民と歴史の検証に耐えられる実績を創出しなければならない。敢然と重責を担うには、党の幹部として原則を堅持し、真剣に責任を負い、原則的な是非に直面すれば勇敢に対応し、矛盾にぶつかれば勇敢に立ち向かい、過誤があれ勇敢に責任を負い、よこしまな風潮と断固闘う勇気をもたなければならない。清廉公正であるには、党の幹部は権力に畏れを抱き、権力を上手に管理し、謹み深く権力を行使し、自分の政治的生命をしっかりと守り、汚職を拒み腐敗を拒み、永遠に汚れることのない政治的本質を保たなければならない。こうした話はみんな分かるが、真にやり遂げることはそれほど容易な

ことではない。

これらはみな非常に重要であり、ある時期以来、私は異なったところでこれらの要求を強調した。ここで、私は特に理想・信念と勇敢に重責を担うという二つの問題を強調したい。これは現在の幹部陣の中でかなり際立つ問題である。

しっかりとした理想・信念を持つことは、良い幹部の第一義の基準であり、優れた幹部であるかどうかはまずこれにかかっている。もし理想・信念が固いものではなく、マルクス主義を信じておらず、中国の特色ある社会主義を信じておらず、政治的に不合格で、荒波に耐えられないような幹部は能力がいくらか大きくてもわが党が必要とする優れた幹部ではない。理想・信念を固め、強固な理想・信念で「金剛不壊(こんごうふえ)の体（きわめて堅固で決して壊れないこと）」を鍛え上げてこそ、幹部は原則的な是非に直面すれば旗幟鮮明で、荒波の試練を前にすれば恐れ知らず、各種の誘惑を前にして立場に揺るぎなく、正念場でも頼りになり、信頼でき、安心できる。

理想・信念は人の志である。古人は「志の赴くところは、どんなに遠くても、抱負はどんな場所でも手を伸ばすことができ、たとえ海や山を越えて、どんな障害があっても乗り越え、強い兵士や武器でもそれを止めることはできない」[三]と述べている。つまり、遠大な志を持つ者は、どんな遠くにでも達することができ、どれだけ硬いものでも突破することができるということである。革命、建設、改革のそれぞれの歴史的時期に、党と人民の事業のために、無数の共産党員が勇敢に命を捧げたが、彼らを支えたのは「革命の理想は天より高い」という精神力だったのである。

われわれの大部分の幹部の理想・信念は固く、政治的に信頼できると十分に認めるべきである。同時に、われわれの幹部陣の中で、共産主義に対して心に疑念を持ち、それは雲をつかむようで、追いつくのが難しい幻想であると考えている者もいる。一部の人はマルクス・レーニン主義を信じることなく鬼神のたぐいを信じて

おり、封建的迷信の中に精神の託し所を求め、占いや人相見、願かけや仏像礼拝に熱中し、事に当たっては「神に答えを問わねばならない」。また一部の者は、是非の観念が薄く、原則性が弱く、正義感が退化し、わけも分からず官職に就き、事の道理をわきまえなくなっている。ひいては西側の社会制度と価値観にあこがれ、社会主義の前途と運命に自信を失った者さえいる。党の指導と中国の特色ある社会主義の道など原則的問題の政治的挑発の前で態度があいまいで、消極的で、はっきりと立ち向かう勇気を持たず、甚だしきに至っては立場を故意にぼかして、軽口をたたくなどの者もいる。党の指導幹部、とりわけ高級幹部が、原則的な是非の前ではっきりした態度を持たず、政治的事件の発生や、敏感な問題に当面して立場を持たず、まったく無関心であるなど、まったくおかしいことではないか。

「鳥の羽・獣の毛を重んじよ」と言われる。これはいわゆる「名誉」を重んじるということだが、それにはあなたが重んじる「名誉」が何の「名誉」かも見分けなければならない。いったいそれは、個人主義の「名誉」、下心がある人が喝采する「名誉」であるのか、それとも党と人民の立場に立つ名誉であるのか。共産党員なら後者の名誉しかない。もし前者の「名誉」を一心に考えるなら、それは非常に危険なことだ。

現在、形式主義・官僚主義・享楽主義・贅沢浪費の風潮がなぜ流行しているのか。なぜ多くの人が腐敗分子になり、ひいては変節して敵に投降し、犯罪の深淵に向かうことが絶えないのか。つき詰めると、やはり理想・信念が確固としていないからだ。私はよく言うのだが、理想・信念は共産党員の精神における「カルシウム」であり、理想・信念が確固としていれば骨は硬くなるが、理想・信念がなく、あるいは理想・信念が確固としていなければ精神における「カルシウム不足」となり、「骨軟化症」にかかってしまうのである。

事実が繰り返し証明しているように、理想・信念の動揺が最も危険な動揺であり、理想・信念の地滑りが最も危険な地滑りである。私はいつも次のことを考えている。もしある日われわれの目の前で「色の革命」のよ

うな複雑な局面が発生したら、われわれの幹部はすべて断固として党の指導を守り、社会主義の制度を守るために立ち上がることができるのか。私はほとんどの党員と幹部はやり遂げることができると確信している。

革命戦争の年代、幹部の理想・信念が確固たるものが固いかどうかを検証するには、その人が党と人民の事業のために命を顧みないかどうか、突撃ラッパが吹かれれば、直ちに突進するかどうかを見ることであり、このような検証はとても直接的なものであった。平和建設の時期は、生死の試練があるにしてもそれほど多くはなく、幹部の理想・信念を検証するのは確かにかなり難しく、レントゲンやＣＴスキャン、ＭＲＩ装置を使っても検証できない。

もちろん、検証できないわけではない。つまり、主として幹部が大きな政治的試練の前で政治的確信（心を乱されない力）を持てるかどうか、しっかりとした目的意識を打ち立てられるかどうか、仕事に対して極めて強い責任感を持てるかどうか、苦労は人より先に、楽しみは人より後にできるかどうか、緊急・困難・危険・重要な任務の前で勇敢に重任を負えるかどうか、権力、金銭、女色の誘惑に耐えられるかどうかを見ることである。このような検証にはプロセスが必要であり、すぐに、一、二の事を経たり、いくつかのスローガンを聞いたりすれば解決できるというものではなく、長期にわたる仕事ぶり、ひいては一生の態度を見なければならない。

原則を堅持し、勇敢に責任を負うことは党の幹部が備えなければならない基本的資質である。「官職にある者にとって責任回避は一生の恥である」と言われるが、どれだけの責任を負うかは、幹部の度量、勇気、品格を表しており、どれだけ事業が行えるかは負える責任の大小で決まるものである。

現在、一部幹部の中で「お人よし」になることがはやっており、あえて批判せず、批判したくないし、責任を負う勇気がなく、責任を担いたくないという現象が幅広く見られる。ある者は人の感情を損ね、票を失うことを恐れ、無原則な温和さをまとい、聞こえのいいことばかり言い、批判的なことをなるべく言わないという

俗な哲学を信奉し、みながわが家の前だけを除雪し、他家の屋根の霜など気にもせず、自分に無関係なことは顧みず、場当たりでやっていけばよいという役人であることに満足している。ある者は職務に就きながらもその職務をしっかり行わず、問題にぶつかったら避け、大衆の訴えがあってもそれから逃げ、責任をなすりつけ合い、お茶を濁して責任逃れをはかるため、些細な事が大事になり、大事は大きな災いになってしまう。ある者は如才なく、世故に長けていて、苦しい仕事を避け楽な仕事を選び、あれこれと選り好みをし、事にあたって自らの保身だけを考え、功労があればいち早くそれを自分のものにし、問題があれば責任を果たさず上の者や下の者に押しつける。さらに恐ろしいことに、このような者の一部は万事順調で、甚だしきは水を得た魚の如くで、払ったものは他人より少ないにもかかわらず、得たものは他人より多いのだ。こうした、功を求めず、しかしあやまちのないことだけを願うような「ぬらりくらりした役人」「お人よし」「引き戸」「風見鶏」が多ければ、どうして党と人民の事業を前に推し進められるだろうか。これらの問題の害は極めて大きく、必ず全力で解決に取り組まなければならない。

とどのつまり、無私であってこそ恐れることなく、無私であってこそ勇敢に責任を担うことができるのだ。「心が無私であれば世界は寛大だ」である。担うことは責任であり、優れた幹部は責任が泰山よりも重いという意識を持たなければならない。党の原則が第一であり、党の事業が第一であり、人民の利益が第一であることを堅持し、旗幟鮮明に、とことんまで突き詰めて邪悪な勢力に立ち向かう勇気を持ち、仕事に対して苦労をいとわず、全力を尽くし、終始ベストを尽くすのである。「疾風に勁草を知る、烈火に真金を見る（厳しい試練に遭って初めて意志の強さや人の真価がわかる）」であり、党と人民の事業のため、われわれの幹部は大胆に考え、勇敢に行い、勇敢に責任を担い、われわれの時代の風に倒れない草、真の黄金にならなければならない。

もちろん、勇敢に責任を担うことは、党と人民の事業のためであり、個人の売名主義、得意になって勝手気

ままに振る舞い横暴を極め、唯我独尊などは勇敢に責任を担うということではない。春秋時期の宋国の大夫の正考父（せいこうほ）は数代の君主に仕えた元老であったが、自分に対する要求はとても厳しく、彼は一族の廟の鼎に次の文字を鋳造させたという。「一命而僂、再命而傴、三命而俯。循牆而走、亦莫餘敢侮。于是、鬻于是、以糊余口」〔四〕。その意味は、任命・抜擢されるたびに、以前よりさらに慎重に行動し、初めて抜擢された時にはうつむき、次に抜擢された時には背を曲げ、三度目に抜擢された時は腰をかがめ、歩く際にも壁に沿って歩まなければならない。そして、生活の中ではこの鼎で煮た粥を食べるだけで満足だ、ということだ。私はこの物語を読んで非常に感銘を受けた。われわれの幹部はすべて党の幹部であり、権力はすべて党と人民から与えられたものだ。このため、仕事の中でより思い切って事を運び、鋭意進取し、身を律するに謙虚で慎しみ深くあり、傲慢さやあせりを戒めなければならない。

二つ目の問題は、どうすれば優れた幹部に成長するかということである。優れた幹部は自然に生まれるものではない。優れた幹部は、一に自らの努力により、二に組織によって育てられるものだ。幹部自身から言えば、個人として必ず努力しなければならず、これは幹部が成長する内因であり、決定的な要素でもある。

幹部の党員としての素養、思想的自覚、道徳のレベルは党歴が長くなるに従って自然に向上するものではなく、また職務の昇進につれて自然に向上するものでもなく、一生努力しなければならないものである。良い幹部になるには、絶えず主観的な世界を改造し、党員としての素養を向上させ、品性を薫育していかなければならない。いつでも党規約と共産党員の基準を自分に求め、「他人に完璧を求めず、自らには、どこにいたらないところがあるかよく検査する」〔五〕という精神を持ち、常に自らを大切にし、自ら反省し、自らに警鐘を鳴らし、自らを励ますことを堅持し、「微利の誘いに心を動かすことなく、五色の惑いに目をくらますことなし」を実践し、誠実に身を律し、着実に仕事を行い、清廉潔白な官僚とならなければならない。

学習は進歩への階段である。幹部は勤勉に学び、機敏に考え、マルクス主義理論、特に中国の特色ある社会主義の理論体系を学び、それを貫く立場、観点、方法を掌握し、戦略的思考、革新的思考、弁証的思考、レッドラインの思考能力を高め、情勢を正しく判断し、終始政治的冷静さと確固不動さを終始保たなければならない。また各方面の知識を真剣に学び、知識の蓄えを豊かにし、知識構造を完全なものにし、職責を果たすという知識の基礎をしっかりと打ち固めなければならない。

優れた幹部は学習を強化する以外、また実践を強化しなければならない。「耳にするより目で見るに越した事はなく、目で見るより実践するに越したことはない」〔六〕であり、知識と経験は鷹の両翼に似ており、風雨を経験し、見聞を広めてこそ、より高く、遠く飛ぶことができる。条件が悪く、困難が大きく、矛盾が多い場所ほど、人をより鍛えることができる。幹部は末端に深く入り、実際に深く入り、大衆の中に深く入り、改革と発展の主な戦場、安定を維持する最前線、大衆に奉仕する第一線で品性を鍛え磨き、才能を高めなければならない。

優れた幹部はまた組織によって養成されなければならない。情勢が変化し、党と人民の事業が発展すればするほど、より幹部の養成を重視しなければならない。幹部を養成するには、党員としての教育という核心、道徳の建設という基礎にしっかりと取り組み、宗旨の意識、公僕意識の教育を強化しなければならない。幹部に対する実践的試練を強化し、幹部の鍛錬と成長のための環境を構築しなければならない。実践的鍛錬は「箔を付ける」ためではなく、またお茶を濁して抜擢を待つことでもない。もしそうなら、必然的に体は行っても心はついて行かず、依然として大衆とまったく相容れずで、それは虚偽を弄することにほかならない。幹部に対する日常的な管理と監督を強化し、幹部に対する厳しい拘束を形成しなければならない。監督する権力がなければ、腐敗を招くことは必至であり、これは鉄則である。組織が幹部を養成するのは容易なことではなく、きちんと管理し監督しなければならず、彼らに常に深淵に臨むが如く、薄氷を履むが如しの警戒心を持たせなけ

ればならない。幹部に対して同志のようによく腹を割って話し合い、欠点といたらないところを指摘する一方、また鞭撻と激励を与えることは、優れた伝統であり、その維持と発揚に配慮しなければならない。

三つ目の問題は、優れた幹部をどのように登用するかである。優れた幹部が成長し、育成されれば、肝心なことはやはりその登用である。登用しない、あるいはうまく使うことができなければ、結局は優れた幹部がいないのと同じことである。賢人一人を登用すれば、多くの賢人がことごとく集まり、賢を見ては斉しからんことを思う意識が人々の間にどんどん広まる。どのような人を選ぶかは風向計であり、そのような幹部の作風があるし、ひいてはどんな党の作風があるかにつながる。

必ず見なければいけないのは、一部の地方と部門で、正しい人材登用の方向づけがうまく行われておらず、徳と才が平凡で、チャンスをねらってうまく立ち回るような人物が多く抜擢され重用され、着実に仕事を行い、不正に官職を得るよう奔走しない幹部には抜擢される機会がなくなっているが、これに対して幹部と大衆は大きな不満を持っている。各級の党委員会と組織部門は党が幹部を管理するという原則を堅持し、正しい人材登用の方向づけを堅持し、才徳兼備、徳の優先を堅持し、才徳兼備の人材を抜擢し、しかるべき時期に登用し、適材適所に配置し、それぞれ十分に才能を発揮させるよう努力し、優れた幹部を適時に発見し、合理的に登用しなければならない。

人材を適切に用いるには、まずは人を知る必要がある。人をよく知らず、人を正しく見分けることができなければ、人の使い方が妥当でなく、往々にして人の使い方を誤るものである。「人の短を知らず、人の長を知らず、人の長中の短を知らず、人の短中の長を知らざれば、則ち以て人を用うべからず、人を教うべからず」[七]である。幹部に対する認識は感じと印象にとどまってはならず、考察のメカニズムと方法を完全なものにし、多ルート的、多層的、多側面的に深く理解しなければならない。

幹部と身近に接触し、重要な問題に対する幹部の思考を観察し、その見聞と見解を見なければならない。大衆に対する幹部の感情を考察し、その品性と心情を見なければならない。名利に対する幹部の態度を観察し、その精神的境界の枠組みを見なければならない。幹部が複雑な問題を処理する過程と結果を観察し、その能力レベルを見なければならない。幹部を考察・識別するにあたり、普段からよく考察し、また重大な瀬戸際、肝心な時に注意しなければならない。「千曲を操してのち声を暁り、千剣を観てのち器を識る（千本の曲を練習した後にようやく音楽をわかることができ、千丁の剣を観察した後にやっと剣器を鑑別することができる）」[八]であり、幹部の業績は実践にあって、幹部の名声は民間にある。末端の幹部と大衆の中で、そこに伝わる評判の中で幹部を多く知り、「重大な出来事」から人徳を見るだけでなく、「こまごましたこと」からもまた人徳を考察しなければならない。

適切に人を使うには、全面的、歴史的、弁証的に幹部を考察することを堅持し、これまでの一貫した仕事ぶりとあらゆる仕事を重視しなければならない。勇敢に責任を担い、能力を備え、原則を堅持し、人に憎まれることも恐れず、個性が鮮明な幹部に対して、認識が完全一致していないことがよくあるが、組織は彼らのために公正に話さなければならない。幹部の業績をどのように正しく着実に審査するかも、難問の一つである。審査の方法と手段を改善するには、発展と基礎を共に見なければならず、目に見える功績と目に見えない功績の双方を見なければならず、民生の改善、社会の進歩、エコ効果などの指標と実績を重要な審査の内容としなければならず、簡単にＧＤＰ成長率で英雄を語るようなことはもはやあってはならない。一部の幹部は頭をポンとたたくだけで完全に主観的に決定し、胸をたたいて請け合って無鉄砲に行い、最後には逃げ出して他人に尻拭いをさせても、なおも昇進し、何の責任も負わない。これでは絶対いけない。以前も話したように、このような問題に対しては責任制を実施し、生涯追及しなければならない。これについて党中央組織部は急いで検討し実行してもらいたい。

適切に人を使うには、幹部を科学的かつ合理的に使わなければならず、つまりしかるべき時期に使い、その長所を発揮させるように使わなければならない。現在、一部の地方で幹部登用の具体的な人選では、往々にしてキャリア、誰の順番かを見るだけで、年功序列とバランス的配慮を考えており、誰がより優れているか、より適切であるかは考慮されず、長所を見て登用しないため、結果的に幹部が非常に疲れるとともに、問題も積み上げられ、仕事でも局面を打開できない。どのような人材を使い、どのような持ち場に使うかは、必ず仕事の需要から出発し、仕事をもって人を選び、簡単に職務を幹部の奨励手段としてはいけない。「駿馬は険しい道を行くことはできるが田を耕すには牛に及ばない。堅固な荷車は重いものを載せることはできるが、河を渡るには舟に及ばない」であり、われわれは強い人材意識を打ち立て、渇するように人材を求め、人材を発見したら至宝のように重視し、人を推挙するのに形式にとらわれず、それぞれの能力を発揮させるように人材を使わなければならない。そうしてこそ、多くの優れた幹部が絶えず現れ、みなの聡明な才知を十分に発揮させることができるのである。

一つの現象には注意しなければならない。つまりある地方やある部門で、一人の幹部の良し悪しについて、大衆の輿論があり、実践でも比較でき、指導者もはっきり分かっているにもかかわらず、具体的に人材を登用する場合になると、結果は事業の需要と大衆の期待から大きく乖離していたというものだ。これには、陰で妨害しているものがある。つまり一部の指導幹部の私心や雑念であり、人びとが取りざたする「人脈」と「暗黙のルール」である。まさにこれら不健全な要素の働きによって、人材本位の任用という原則は片隅に押しのけられ、縁故関係だけを見て人を任用し、利益だけを見て人を任用するなどの問題が起こっているのである。これらの問題に対して、幹部と大衆は極度に憎んでいる。必ず改善を強め、人材登用方法を真に純潔なものにしなければならない。

〔注〕

〔一〕本書中の「創造・革新は時宜にかなない夢の実現を図ることも時流にかなうものである」の注〔八〕を参照。

〔二〕司馬光の『資治通鑑・威烈王二十三年』を参照。司馬光（一〇一九～一〇八六）、陝西夏県（現在は山西省に属す）出身。北宋の大臣、歴史学者。『資治通鑑』は中国古代初の編年体通史の大著で、周の威烈王二十三年（前四〇三年）から後周の世宗顕徳六年（九五九年）までの計千三百六十二年の歴史を記載した。

〔三〕金纓『格言聯璧・学問』を参照。

〔四〕『左伝・昭公七年』を参照。

〔五〕『尚書・伊訓』を参照。

〔六〕劉向の『説苑・政理』を参照。

〔七〕『魏源集・默觚下』を参照。

〔八〕劉勰の『文心雕龍・知音』を参照。劉勰（四六五頃～五三二頃）、原籍は東莞郡莒県（現在は山東省に属す）。南朝梁国の文学理論批評家。『文心雕竜』は中国古代の文学理論についての著作。

付録

「人民大衆はわれわれの力の源泉である」
──習近平中国共産党総書記

二〇一二年十二月七日、中国共産党総書記に選出されてから二十三日後、習近平氏は北京を離れて初の地方視察を行い、中国の改革開放の最前線である広東省を訪れ、最初の視察地として深圳を選んだ。今回の視察は、随行車や随員を減らし接待を簡素化し、民衆と直に触れ合い、親しく交流した。

翌八日、深圳市蓮花山を訪ね、多くの観光客が見守る中で、鄧小平氏の彫像に花かごを献じた。その後、人垣の中に入り、握手し、手を振って応えた。

広東視察の後、全党と全国の各民族人民は改革開放という強国の道を断固として歩まなければならず、改革の系統性、全体性、協同性を一層重視し、改革を中断せず、開放の歩みを止めてはいけない、と強調した。

今回広東省で視察したルートは、二十年前に鄧小平氏が南方を視察した時に歩いたルートであり、意義深いルートである。あるメディアは、政治に清新な風を吹き込み、改革開放を確固不動の心構えで推進し、中国の夢を実現しようとする中華民族の指導者であると論評した。

五十九歳の習氏は二〇一二年十一月十五日、中国共産党第十八期中央委員会第一回全体会議で党中央委員会総書記に選ばれ、新中国成立後に生まれた最初の中国共産党最高指導者となった。毛沢東、鄧小平、江沢民各氏を核心とする三世代の中央指導グループと胡錦濤氏を総書記とする党中央指導グループを経て、九十一年間

の道のりを歩んできた中国共産党は新しい党の水先案内人を迎えた。

中国が全面的な小康社会の建設に入った決定的な段階で、習氏は中国の政治舞台の中央に立ち、歴史のバトンを受け継いだ。同時に、世界第二の経済体の指導者として、世界という舞台の最前列に立ったのだった。

全中国、全世界は以下のように注目した。

——八千二百余万の党員を擁する世界最大の政党をどのように指導し、人民に奉仕させるのか。

——「中国共産党創立百周年を迎えるまでに小康社会の全面的実現を、新中国成立百周年を迎えるまでに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家の建設を成し遂げる」という二つの目標を実現するために、十三億中国人民をどのようにリードするのか。

——いかに中国が世界の平和と発展に果たすべき貢献を行うよう導いていくのか。

一中全会が閉幕した日の正午、習氏は内外記者五百人余りと対面し、両肩に重い責任を担いながら、新指導グループの使命を三つの責任として総括した。それは民族に対する責任、人民に対する責任、党に対する責任である。

この厳かな公約によって、中華民族に対する歴史的な責任を自らのガバナンスの信念とし目標とすることを表明した。

「人民の幸せな生活へのあこがれこそわれわれの奮闘目標である」

習氏は総書記に選出された後最初に公開された講演で、習氏が率いる中国共産党の政治に対する断固とした決意を表明した。

就任後、他の党政治局常務委員と共に国家博物館の「復興の道」の展示を参観した時、「今、みなが『中国の夢』

を語っているが、私は中華民族の偉大な復興を実現することこそが、中華民族が近代以来抱き続けてきた最も偉大な夢だ、と考えている」と語った。

習氏は終始、人民の夢を自分の夢としてきた。四十三年前、習氏は知識青年として陝北（陝西省北部）の農村の生産隊に下放され、そこで七年働いたが、最初の「公務」は中国共産党組織体系の「細胞」である生産大隊（行政村）の党支部書記だった。二〇〇七年、長年にわたって現場と地方業務の実践を重ねた後、政治局常務委員に選ばれ、中央書記処書記を担当し、また中央党学校校長を兼任した。その後国家副主席、中央軍事委員会副主席を歴任した。その後五年間、習氏は党と国家の大局的な政治方針の研究・決定に直接参与し、中央の重要政策決定と組織的な実施に参与した。

陝西省から北京市へ、河北省から福建省へ、浙江省から上海市へ、西部の貧困地区から国家の政治・文化中心地へ、東部の立ち後れた地区から沿海の先進地区へ、その政治経歴は村、県、市（地区）、省（直轄市）と中央の党・政府・軍隊の主要ポストすべてに及んでいる。習氏は常に次のように語っていた。いったん「公務」に就いたら人民を幸せにすることだけを考え、「憂国の意識を常に抱き、人民の付託を常に思う」ようでなければならない。強大な国、豊かな人民という夢を実現するために、長い政治生活の中で深く考え、繰り返し実践し、中国の特色ある社会主義事業の「五位一体」の全体配置について、以下のような一連の論述と主張を提起してきた。

――経済建設で、「発展こそ絶対的道理」を堅持しなければならないが、盲目的な発展、むちゃな発展は奨励しない。科学的発展を堅持し、資源型の発展、目先の利益ばかり考えて将来を考えない発展、レンガをあちらに運んだり、こちらに運んだりといった実質が伴わない発展ではいけない。

――政治建設で、「国家のすべての権力は人民に属する」という理念を堅持し、政治体制改革を積極的かつ着実に推進し、中国の特色ある社会主義の政治発展の道を断固として歩まなければならない。憲法の原則を厳守し、

憲法の精神を発揚し、憲法の使命を履行し、法によって国を統治し、法による政治を堅持しなければならない。

——文化建設で、人材育成を重視し、民族精神の涵養に力を入れ、特に「われわれの血肉によって新たな長城を築こう」という国歌の精神を発揚しなければならない。

——社会建設で、社会主義初級段階にあるという基本的な国情に立脚し、経済発展の基礎の上で人民の生活を絶えず保障、改善し、正しい幸福観を樹立し、勤勉に働くことを通じて幸せな生活を創造するという観念を強化し、心を合わせて協力して調和の取れた社会を建設する。

——エコ文明の建設で、資源の節約、環境保護という基本国策を堅持し、持続可能な発展の道を歩み、人類の永遠の発展のためになすべき貢献をする。

中国共産党は中国人民を率いて、中国の夢を実現する中核的なリーダーである。習氏は党の最高指導者になる前に、長期にわたって地方の党・政府の責任者を歴任し、中央勤務後は、また中央書記処の日常業務を主宰し、党務を主管し、党の建設の重要性を十分に会得してきた。そして党内法規の整備強化を重視し、党内法規に照準を合わせた多数の文書策定を指導した。

そして党が党を管理し、党を厳しく治めると繰り返し強調した。十一月十七日、第十八期中国共産党中央政治局第一回集団学習会で次のように本質的な点を指摘した。「必ず物が先に腐敗し、後から虫が発生する」〔二〕、「多くの事実がわれわれに教えているように、腐敗問題がひどくなればなるほど、最終的には必ず党も亡び、国も亡ぶ。われわれは警戒心を高めなければならない」

また、調査・研究を「政策決定の全過程に徹底しよう」と力強く提唱し、民衆の中から民衆の中へ行き、広範な民衆の意見を聞き取り、特に民衆に対して「最も希望し、最も緊急で、最も心配な、最も不満な諸問題」を特にしっかりとらえ、自発的に調査・研究をしなければならないと強調した。

二〇〇八年から、中国共産党は全党的に科学的発展観を突っ込んで学習、実践する活動を繰り広げ、中央指導グループのリーダーを務めた。そして何度もわざわざ地方、中央部門に足を運び、検査し、またしばしばいくつかの典型的なケースを選んで、明確な意見を提出し、具体的に指導した。ここ二年の活動を経て、科学的発展観はさらに全党、全国のコンセンサスとなり、経済・社会発展を推進する強大な力になった。

また、中国共産党第十八回全国代表大会の報告起草チーム、党規約改正チームのリーダーを務めた。計り知れない影響力を持つこの二つの文書は第十八回党大会で採択された後、中国の今後の発展を指導する綱領的な文書となった。

習氏は軍隊と深い縁がある。若い頃、中央軍事委員会弁公庁で三年間勤め、軍隊と深い縁を結んだ。地方勤務時代、前後して県人民武装部第一政治委員、市（地区）軍分区党委員会第一書記、省高射砲予備役師団第一政治委員、省軍区党委員会第一書記、大軍区国防動員委員会の指導者など軍の職務を歴任し、軍隊の情況を十分に熟知している。そして軍隊を擁護し、軍隊を愛し、軍隊を支援して多くの実際的な困難を積極的に解決した。中央軍事委員会副主席に就任した後、国防と軍隊建設の指導業務に積極的に参与した。一中全会で、習氏は党中央軍事委員会主席を引き継いだ。

習氏は台湾・香港・澳門に関心を持っている。十七年間の福建省勤務によって、台湾と両岸関係を深く理解するようになった。在任中に、厦門（アモイ）に大陸部初の台湾商人会館を設立し、福州市に初の台湾資本の企業を主とした工業団地を設立した。台湾同胞のために多くの悩みや困難を解消したことによって、多くの台湾同胞は習氏を良い友人であると見なしている。

中央で香港・澳門を担当していた当時、香港・澳門の各界の人びとと何度も会見し、香港・澳門の社会情勢と民意を深く理解し、大陸部と香港・澳門の経済協力を積極的に推進し、香港・澳門の長期的な繁栄・安定・発

展に有利な多くの重要施策を決定、実施した。香港・澳門が国際金融危機の深刻な打撃を受けた時、前後して香港・澳門を訪れ、社会各界と広く接触し、「精神的にしっかりしていれば、方法は困難よりいつも多い」と指摘し、香港・澳門各界の人びとを励ました。二〇一二年、全国両会[二]の際に、香港・澳門の全人代表、政協委員と懇談し、「兄弟心を同じくすれば、その利きこと金を断つ」[三]と香港・澳門の同胞に伝え、香港・澳門の同胞が団結し協力し、素晴らしい未来を共に創造しようと呼びかけ、香港・澳門の社会でプラスの反響を引き起こした。

二〇〇八年初めには、習氏は北京オリンピック、パラリンピックの準備活動指導チームのリーダーとなり、「特色があり、レベルが高い」オリンピックを成功裏に主催するために、心血を注ぎ、重要な役割を果たした。

「自分の両親を愛するように民衆を愛す」

『人民政府』という言葉の前にある『人民』という二文字を決して忘れてはいけない」「民衆が幹部の心の中でどのぐらいの重みを持っているかによって、幹部が民衆の心の中でどのぐらいの重みを持っているかが決まる」「終始一貫して人民と心が通じ合い、人民と苦楽を共にし、人民と団結して共に奮闘する」……習氏はさまざまな時期に、異なった場で、素朴な言葉で人民に対する深い愛情を表している。

心に人民があり、いつでも人民のことを考え、人民に分かりやすい話をし、人民のために奮闘する——習氏の話す「人民への気持ち」は辛酸をなめつくした特殊な成長過程から生まれたものだ。

一九六二年から、まだ幼かった習氏は、中国共産党元老のひとりだった父親・習仲勲氏の冤罪事件に巻き込まれ差別視された。「文化大革命」中に、吊るし上げられ、飢えを経験し、あちこちをさまよい、拘禁されたことさえあった。

一九六九年の初頭、十六歳にも満たなかった習氏は陝西省北部（陝北）の農村の生産隊への下放を自ら志願して、延川県の文安駅人民公社梁家河生産大隊にやって来た。山の崖に掘った洞穴式住居（窑洞）には、特にノミが多く、刺されて全身が水泡だらけになり、オンドルに敷いたアンペラの下に農薬を撒きノミを退治するしかなかった。

この数年間、ほとんど休まずに、野良仕事をし、石炭を運び、土嚢を積み堰（せき）を作り、こえたごを担ぐなど、どんな仕事もし、どんな苦労もいとわなかった。村人たちは、五十キロ、百キロの麦を片方の肩で担いで五キロの山道を何時間も歩く習氏を見て、「苦労にもつらさにもよく耐えるいい若者だ」と感じた。「力を惜しまず働く」「知識が有り、アイデアに富む」。習氏は次第に農民たちに信用され、中国共産党青年団と中国共産党に相次いで加入し、生産大隊党支部の書記にも選ばれた。

陝北の黄土高原の生活は苦難に満ちていたが、自らを鍛え、才能を発揮する初舞台となった。耕地を増やすため、寒い冬の農閑期に、習氏は村民を率いて土留めのダムを修築したが、率先して裸足で氷の中に立って氷に穴を開け、ダムの基盤をきちんと整理した。また、村の鍛冶屋に声を掛け鉄業社を設立し、農機具を自給自足できるようにしたばかりか、付近の村へ売ることで村全体の収入を増やした。新聞で四川省ではメタンガスを利用していることを知ると、経験を聞くために駆け付け、村に戻ると、陝北初のメタンガス備蓄池を作り、村民を率いて陝西省初のメタンガス利用村として、村民たちの炊事、照明の困難を解決した。また、村に下放されていた知識青年に分け与えられた白い小麦粉のマントウを村民に譲り、自分はぬか（糠）などを混ぜてつくった粗末なものを食べていた。習氏は先進的知識青年として、北京から荷台付きのオート三輪車を奨励品として支給された。当時、地元では非常に珍しいものだったが、習氏はこれを手動トラクターや製粉機、もみがら吹き上げ機、吸い上げポンプなどの農機具と取り換え、村人に使ってもらった。

学業は中断されたが、習氏はずっと知識を渇望し、本を読み独学を続けた。梁家河村に下放された時、重たい一箱の本を運んできた。昼間は働き、休憩時間に本を読み、羊を放牧する時も、黄土高原の坂の上で本を読んだ。夜になると、暗い灯油の灯りの下で、深夜まで本を読み続けた。村人たちの記憶によると、習氏は食事の時も食べながら「レンガのような厚さの本」を読んでいたそうだ。

一九七五年、習氏は清華大学に推薦されて入学した。村を離れる日に、村人すべてが長い列を作って習氏を見送り、多くの村人は名残惜しげに涙をこぼし、少なからぬ村人はもう少し、もう少しと習氏と共に歩き、別れを惜しんだ。村人は「貧農、下層中農にとって好ましい党書記」と書いた額縁を贈り、心から称賛した。

陝西省北部を離れてからも、習氏はいつも村人たちを気に掛けていた。習氏は村に電気を通じさせ、橋を架けるのを手伝い、小学校を建て直すなどの面で次々と支援の手を差し伸べた。福建省福州市の党委員会書記として赴任する際、習氏はわざわざ梁家河に寄り、一軒一軒訪ね、貧しいお年寄りにお見舞いのお金を届け、子どもたちに新しいカバン、文房具、遅刻しないように目覚まし時計を贈った。福建省の指導者だった時、重病にかかった村人の友人を治療するため福建省に呼び寄せ、自ら治療費を全額負担した。

七年間にわたる農村生活、七年間にわたって共にした苦楽——黄土高原の純朴な村人たちとつらい仕事の苦労を分かち合い、いっしょに食べ、いっしょに住み、いっしょに働いた歳月は、習氏にとって、現地の民衆と深い友情を結んだばかりでなく、何が中国の農村なのか、何が一般大衆の喜怒哀楽なのか、何が中国の基本的な国情なのか、理解するよい機会だった。習氏は人民に対する深い愛、足元の担当地区に対する責任感を習氏の人生の目標の中に深く刻み込んだ。

習氏は自分の人生で最も力になってくれたのは「革命の大先輩と陝北のあの村人たちだ」と率直に話したことがある。十六歳足らずで黄土高原に来た当時は、途方に暮れ、いろいろな迷いがあった。二十二歳でここを

離れた時、習氏は揺るぎない人生の目標を持った――「人民のために地道に働く」がそれだった。

一九七九年、清華大学卒業後、習氏は国務院弁公庁、中央軍事委員会弁公庁に入った。一九八二年、公務員を辞めてビジネスに転じたり、海外留学に行く若者もいた当時、習氏は北京の優れた条件を自ら放棄して、河北省正定県にやって来た。一九八一年の同県の一人あたりの所得は百五十元足らずだった。最初、この駆け出しの県党委員会の若い副書記に対して、半信半疑の人も少なくなかった。しかし、地味で実務に励んだ習氏は、事務室に寝泊まりし、食事はみなと同じ食堂で食べたり、みなといっしょに列に並んで買ったものを木の下にしゃがんで世間話をしながら食べ、また自転車でよく農村へ行き、村民たちとよもやま話をし、村民たちの生活に細かく気遣い、直ぐにみんなの中に溶け込んだ。

民衆こそ、習氏の心の中で最も重みがあり、また、末端部現場こそ、習氏が行く最も多い場所だ。

一九八八年、福建省寧徳に赴き地区党委員会の書記に就任した。寧徳は当時中国で十八の広域貧困地区の一つだった。ここのすべての村を回るために、習氏は何日も続けてジープに乗り、デコボコな山道を揺られながら走ったために、しばしば腰を真っ直ぐに伸ばすこともできなくなり、時には、腰痛で車を降りることもできなかった。道路がまだ通じていない辺鄙な山地では、ぬかるんで滑り易く、危険な山道を徒歩で行った。その中の一つに下党という郷があり、習氏は朝七時半から昼の十二時過ぎまで歩いてやっとたどり着き、そこで最も心のこもった盛大な歓迎式で迎えられた。郷の住民は「ここに来た最も地位の高い役人だ」と感動した。習氏は数千人の村民が何世代も住んできたあばら屋の改築を推進し、また先祖代々、海上を漂泊する舟を家としてきた漁民たちのために岸辺に家を建てた。彼らは海に出て漁をし、岸に上がって家に住むようになり、安穏に暮らし楽しく働けるようになった。

寧徳在任中、習氏は陳情処理は現場で、末端部現地事務も現場で、調査研究も末端部現場で、政策宣伝も末

端部現場で――という「四つの現場で」を掲げた。福州に来てからは、習氏は指導者、幹部が現場へ足を運び民衆と接する制度を設け、福州の五地区八県を回った。福州市の指導者を率い、二日で七百人余りの民衆と面接し、即決した問題、解決までの期限を切った問題は二百件近くに上った。後に浙江省でも同制度の普及に全力を上げた。「現場へ足を運び、民衆と接することは指導者、幹部の能力と水準を試す大試験場であり、来訪した民衆は試験官であり、民衆からの陳情は試験問題であり、民衆の満足度が答案だ」と語った。二〇〇三年九月、浙江省の三級の主な指導者を率い、問題が多く、矛盾が集中し、民衆の意見が多い浦江県へ行き民衆と面接したが、事前にこの告知を広く民衆に伝えるように明確に指示した。浦江の現場視察を序幕とし、浙江省全域で、指導幹部の現場活動が展開され、同省各級に指導者の現場活動の効果を持続させるメカニズムを構築した。

二〇〇五年旧暦の大晦日、習氏は長広炭鉱浙江鉱区を訪れ、ケージで地下千メートル近い坑道の底まで降り、腰をかがめ、体を曲げて、天井が低く、狭い斜坑を千五百メートル以上進み、切羽で働く採掘労働者たちを見舞い、慰問した。

習氏はニュースメディアを通じた民衆との交流を大変重視した。「哲欣」というペンネームで『浙江日報』のコラムに二百三十二編の小文を発表し、平等に交流する口調で、実生活で民衆が最も関心を持っている諸問題にタイムリーに答え、わかりやすく道理を説いて歓迎された。民衆は「大きな問題を分かりやすく語る」と評価した。

習氏は寛容で親切な態度で人と接したが、民衆の利益に関わる是非曲直の問題に立ち向かう時は、必ず原則を堅持した。習氏はいつも次のように語っていた。『烏紗帽（昔の役人の制帽）』を手に持って民衆に奉仕する役人であるべきで、『烏紗帽』を（免官を恐れて）手で押さえながら、自分のために働く役人であってはならない」。寧徳で幹部が規律に違反して自宅を建てたことを調べ上げた時、幹部の間にに困惑の感情があることに対

し、習氏は机をたたいて激怒した。「われわれは数千人の幹部に申し訳ないことをするのか、それとも数百万人の民衆に申し訳ないことをするのか」。浙江省のトップに就任すると、習氏は幹部の勤務態度の改善に全力を上げ、一年間で、多くの幹部は不作為ということで処分を受けた。

習氏はまた人情味たっぷりの指導者でもある。習氏は恩師を忘れず、年越しには毎年、必ずあいさつと祝福の言葉を欠かさなかった。現在、標語になっている「お年寄りを敬い、幼い子どもをいたわる」を実践し、正定県にいた時には同県に初めて導入された乗用車を老幹部に譲り、またわざわざ老幹部用の病室や娯楽室を設けた。福州市にいた時、習氏は長い間、貧困家庭の子どもが学校へ行けるようにし、彼らが就職するまで助け続けた。

長年にわたって続けてきた末端の現場に深く入り、民衆に親しみ着実に実務に励むという仕事ぶりで、習氏は広範な民衆の間で「平民書記」と称賛された。習氏は「われわれ共産党員にとって、民衆は養ってくれている父母である。自分の両親を愛するように民衆を愛し、民衆のために利益を図り、民衆が良い生活を送れるように努力しなければならない」

「自分の手柄としなくてもよい」

党中央総書記就任後、習氏は多くの場で改革の決意を示し、思想解放、開拓創新を提唱している。広範な幹部・民衆の目に、習氏は思想が開放的で、視野が広く、先見の明があり、改革精神に富む指導者だと映っている。

中国の経済特区の一つである厦門在任中、その指導下で「一九八五~二〇〇〇年厦門経済・社会発展戦略」を策定したが、これは後に厦門の発展企画、実施計画、経済政策策定の重要な拠り所となった。同市の金融体制改革、経済特区管理整備などの指導機構のトップとして、経済特区の改革開放に関する一連の政策を研究・

策定し、厦門を「国家社会経済発展計画特別市」に指定するように積極的に働き掛け、それに関わる一連の重要な政策問題の解決を主導し、協調し、厦門の長期的な発展のために多くの有利な条件づくりに努めた。

習氏は指導者として、現在に立脚するとともに、遠い将来にも目を向け、下地づくりの作業をいとわず、甘んじて未完成の仕事を引き受けなければならない、と考えた。正しい政治業績観を確立し、「功なりても自分の手柄としなくてもよい」という境地を目指し、「一時的な功績、一時的な名声をむさぼらない」「一枚の青写真を最後まで描こう」「次から次へとやり遂げよう」と呼びかけた。

河北省正定県在任中、テレビドラマ『紅楼夢』の制作チームがロケ基地を探しているのを聞くと、習氏は潜在的なビジネスチャンスだと見抜き、進んで商談に赴き、多くの人たちの異なった見方を排して、関係部門と県を説得し多額の資金を投じ、正定にロケ基地「栄国府」をつくり、栄国府観光地もつくった。「栄国府」が完成した年の観光・入場券収入は一千万元以上に達し、投資分を取り戻したばかりか、利潤を上げた。ところが、その時には習氏はすでに正定を離れ厦門に赴任していた。習氏が創った「正定観光モデル」によって、正定は多額の利益を得た。『紅楼夢』の撮影が終わった後も、さらに百七十本以上の映画・ドラマがここで撮影され、ピーク時には、年間百三十万人余りが観光に訪れた。

一九九二年、習氏が提起し、主宰し、策定した「福州三八二〇プロジェクト」は三年、八年、二十年の三段階に応じた経済・社会発展の戦略的目標、段取り、措置などが盛り込まれた。同年確定した主な目標は早くも数年前にすべて実現し、導入、開設を商談でまとめた大プロジェクト、例えば冠捷科技グループ、中華ブラウン管株式有限公司、東南自動車工業有限公司、南方アルミ業（中国）有限公司などは、特色のある産業群をリード、育成し、福州の二十年先の発展のために確固たる基礎を築き、今でも福州のリーダー企業である。

福建省省長だった二〇〇一年、率先して「食卓汚染」対策に取り組み、「食品安心プロジェクト」を展開し、

広範な民衆から称賛を浴びた。

一九九九年、習氏は率先して「デジタル福建」の整備を提起し、二〇〇〇年同省人民代表大会で正式に関連プロジェクトの着工が決まった。習氏は自ら「デジタル福建」建設指導チームのトップを務めた。十数年来、目に見えない「ネット」が次第に四通八達の状態になり、住民の生産・生活、公共行政サービス、都市管理など各方面に普及し、知らず知らずのうちに人々のライフスタイルを変えてきた。二〇一〇年までに、福建省は省内全病院が「一枚の医療保険カード」で利用できる全国唯一の省となった。

二〇〇二年、習氏は武平県の林業改革を認め、バックアップした。これをきっかけに、福建省は全国に先駆けて「財産権の明確化、経営権の活性化、処置権の執行、収益権の確保」を主な内容とする集団的林業権制度改革を行い、後に全国林業改革のサンプルとなった。

また、習氏は「金山銀山も必要だが、緑水青山も必要だ」と語り、環境保護を非常に重視し、エコの優位性を経済的優位性よりも優先すべきであるとして、エコと自然によって子孫に幸せをもたらすようにと提唱した。福建省・長汀の深刻な水・土壌流失問題に対し、習氏は二〇〇二年に率先して「エコ省」を建設するという戦略構想を提起し、後に福建省は全国初のエコ建設モデルケース省となった。十数年努力し続けた結果、長汀の数十万平方キロの荒山は再び緑をまとい、福建省は全国唯一の水、空気、エコ環境のいずれもが優れた省となった。

二〇〇二年、習氏は中国で経済が最も進んだ省の一つ、浙江省に赴任した。大量、広範で掘り下げた調査・研究を経て、二〇〇三年「八つの優位性を発揮し、八つの重要施策を推進」という「八八戦略」〔四〕を打ち出し、浙江省の長期的発展のために確固たる基礎を打ち立てた。

経済成長パターンの根本的転換の推進、経済構造の戦略的調整について、習氏はイメージとして「二羽の鳥

論」を提起し、浙江省に「鳥かごを開け鳥を入れ替える」産業構造の高度化政策を推進する中で、「鳳凰の涅槃」を実現すべきだと求めた。「鳥かごを開け鳥を入れ替える」はつまり、「海外発展」と「外資導入」を結びつけ、全国的な地域協力、地域交流に積極的に参加し、発展空間を開け放ち、多くのエサを必要とせず、卵を多く産み、空高く羽ばたく「優れた鳥」を育て、導入することだ。「鳳凰の涅槃」とは、すなわち、「壮士が腕を切る（勇敢な壮士が腕をヘビに噛まれて、思い切って腕を切り取った）」勇気を出して、粗放型の経済成長パターンへの依存から脱却し、産業と企業の烈火からの再生、換骨奪胎を実現することにほかならない。

二〇〇四年、習氏は浙江省で武義県が村の党支部、党委員会以外に「村行政監督委員会」を設置した経験を広げ、村クラスの行政権力のチェック・アンド・バランスのメカニズムをつくり上げ、目に見え、触って分かる村行政監督を実現した。村民自治を共同建設、共同享受の中で推進し、末端の民主主義は抽象的な概念ではなくなり、農村生活の通常の状態となり、農民の日常生活に溶け込み、末端の民主主義建設の実現方式に対する積極的な模索と実践成功例となった。村民たちの言葉で言うと、「この仕組みはとても簡単で、われわれに村幹部がよく見えるようにし、無茶なことをさせないようにした」。二〇一〇年、全人代常務委員会は村民委員会組織法を修正し、「村は村行政監督委員会あるいは他の形の村行政監督機構を設置しなければならない」と明確に規定した。

習氏はさらに、浙江省に立脚した浙江省の発展を提起し、イメージとして「三老経済」という言葉で説明した。すなわち、浙江経済は伝えられてきた「老祖宗（祖先）経済」である。つまり、古くから浙江省には商工業者の本拠があり、義理と利益を両立させるという伝統的な文化があるからだ。次に何と言っても「老天爺（おてんとう様の）経済」である。つまり、天賦資源には限りがあり、「無から有を生む」ことを学ばざるを得ず、外へ出ていき世界で頑張らなければならいからだ。さらに、民衆によって創られた「老百姓（民衆）経済」であ

る。つまり、浙江省の広範な民衆は強い創業意欲と根っからの商品経済意識があるからだ。また習氏は同時に、浙江省を飛び出して浙江省を発展させ、船を借りて海に出て、はしごを借りて高いところに登るように、進んで上海と軌道をつなぎ、江蘇省など近隣の各省・市との協力を強化し、優位性の相互補完、共同発展を行うよう強調した。これらの政策の実施によって、浙江省の経済・社会の発展を直接に促進したばかりでなく、長江デルタ〔五〕全域の一体化プロセスを促進した。

二〇〇七年、習氏は国際的な大都市上海のトップになった。上海着任後、習氏は引き続き長江デルタ一体化を推進したが、上海の将来の発展計画について、上海の発展は決して独りよがりになってはならず、しかも決して自分勝手な利益を得てもいけないと語り、国の長江デルタ地域発展の総合的な政策の中で考え、計画しなければならず、上海はなすべきことは積極的に行い、誰にも譲らず長江デルタの「リーダー役」を果たさなければならないと提起した。

「海は百川を受け入れ、卓越を追求する」という「上海の大都市のバイタリティー」にさらに「開明叡智、大気謙和（進歩的で英知に富み、大きな事を考え謙虚でもある）」の八文字を加えた。上海のメディアは次のように論評した。

これは上海の経絡（けいらく）を緩め血行をよくするつぼを的確に押さえ、「上海の大都市のバイタリティー」の内容を豊かにしたばかりでなく、上海が「外の世界」に対して深思熟慮し、よりハイレベルの姿勢で臨むメッセージを送ったものだ。ほかの多くの地方幹部・民衆は、「上海は変わった」と、こもごもに感嘆した。

「着実に実践し、先頭を歩む」

「空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す」。中国共産党総書記に就任してわずか十五日目、習氏は

国家博物館の「復興の道」展を参観し、着実な実践によって中国の夢を支える決意を示した。
着実に実践する精神を実施に移すため、党政治局会議を開催し、勤務状況を改善し、民衆と密接に連携する「取り決め八章」を決定し、よく民衆の中に入り、車列は短く随行者も少数に、会議は短時間、演説は短く、特別な交通規制の削減、勤勉節約の励行などを公約し、国内外から広く好評を博した。
「着実に実践してこそ、先端を行くことができる」。習氏は一貫して地道に働き着実に実践することを強調し、民衆が最も関心を持つ問題の解決に力を入れ、着実に幾つかの仕事をやり遂げるよう指示した。「着実に実践しなければ、いくら美しい青写真だとしても空中の楼閣に過ぎない」というのが一貫した考えである。
河北省正定県在任中、習氏は「貧乏で立ち遅れた現状を変えたければ、最も重要なのは『人材経』をしっかり読むことだ」と語った。そのためしばしば自ら進んで「千里を走る馬（傑出した人材）」を探し、自ら全国向けに「人材募集要項」を書いた。
一九八三年初め、厳寒の冬の日に、当時県長だった程宝懐氏と共にわざわざ石家荘市に赴き、医療用化粧品を研究開発していた科学者を訪ねた。相手の具体的な住所も知らないので、一軒一軒の家を訪ねたが、夜十時を過ぎても見つからなかった。そこで習氏は繁華街や路地を歩きながら相手の名前を大声で叫び、やっと見つけたという。そして彼らは夜明けまで語り合い、相手はその場で正定県へ行くことを約束し、まもなく自分の科学研究プロジェクトを持って正定県に行き、一年で三十数万元の利益をもたらした。
同年、習氏は会議を開き、伝統的観念を打破し、人材を招聘する「九条規定」を制定・発表し、広く人々に知らせた。『河北日報』は「正定県は志のある人士に門戸を開放」という見出しを掲げ一面トップで報じ、一時同省で一大センセーションを巻き起こした。また、全国の有名な専門家、研究者、一部の大学、専門学校、大学院や科学研究院宛てに百通以上の「人材募集」の手紙を出し、自ら数十人の専門家を訪ね、面談して要請した。

二年足らずで、正定県は六百八十三人の各種人材を登用し、有名な数学者・華羅庚氏ら五十三人の全国的に名を知られた専門家を招聘し、同県経済顧問に任じた。

着実に実践するには、実事求是（実際に基づいて行動する）を堅持しなければならない。正定県在任当時、習氏は県党委員会の呂玉蘭副書記と圧力をはねのけようとした。例えば、上部機関に穀物買い上げによる負担過重問題を報告し、年間買い上げ量の千四百万キロ減免を勝ち取り、正定県は負担を軽減し、身軽になって前進できるようになった。

福建省寧徳市に赴任後、習氏はすべて実際に基づくスタートを堅持し、その地に適した手法で、多くの問題を解決した。寧徳は「フウセイの郷」と呼ばれる。フウセイという魚がここで産卵するためだ。この独自の優位性を十分に生かし、資源を収集し、科学研究によって難関を突破し、フウセイの人工養殖に成功し、現地農民の収入を大いに増やした。

習氏は党と国の行政機関は「民衆に利便を与えることを根本とする」と強調してきた。福州では「特別なことを特別な方法でやり、その場ですぐやる」ことを推進し、政府の職能転換によって多くの台湾投資企業を誘致し、福州の経済発展を促進した。一九九二年、習氏は率先して全国で十二社の大・中規模の国有企業を選び、三資企業（中外共同出資企業、中外合弁企業、外資系企業）の経営管理モデルを移植した。また、『福州事務ガイダンス』と『福州市民事務ガイダンス』の編集・出版を推進し、海外企業の投資と営業、市民生活の利便化を図り、事務効率を高めた。

二〇〇〇年、習氏は福建省で率先して機関の能率向上を提唱、推進し、自ら省の機関能率向上指導チームの長になった。政府職能転換を加速し、審査許可事項と審査項目を減らし、管理すべきでないことは管理せず、管理すべきことを即座に行うよう、小さな政府とサービス型政府を提起した。二〇〇一年末に、福建省で行政

審査許可事項を六百六項目減らしたが、全体の四〇・四パーセントを占めるものだった。二〇〇一年、福建省は全国で初めての省政府令の形で政務公開実施方法を発表し、省内すべての県（市、区）で県レベル政務公開を行った。また能率査定を実施し、機関の管理を厳格に行い、「職務に励む人に功労があり、仕事を怠ける人を処罰する」雰囲気をつくり、さらに能率に関する苦情受け付けセンターを設け、庶民に陳情の場を提供し、党・政府機関と民衆との「心の懸け橋」と称えられた。

二〇〇二年八月、中央のメディアを通じて全国に向けて「市場を方向付けとし、信用をもって発展を促進し、現地の優位性に立脚し、政府のサービスを強化し、苦闘する精神を発揚し、民間経済の活性化によって、県内経済の発展を促進する」という「晋江の経験」を総括し、推薦した。同年、習氏はまた南平市が農村に選抜派遣した幹部に対する調査、考察と結びつけて、「高いレベルで結びつけ、重心を現場へ移し、農村対策の基礎を打ち固める」という構想によって、科学技術特派員を選抜派遣し、村の党支部書記と郷・鎮の連絡補佐に農村入りさせるメカニズムを創設した。「南平メカニズム」が福建省で普及したことによって、農村の幹部と民衆の関係がいっそう密接になり、幹部の間に、「上層部に取り入らず現場へ行き、人間関係より行政の業績を見る」という方向付けができた。

浙江省トップの当時、習氏は「平安浙江」「グリーン浙江」「文化浙江」「法治浙江」、海洋発展に強い省などを推進した。

以上の「四つの浙江」をつくるためには、着実な実践しかなかった。一方で、全局を見渡して布石しながら、一方で、現場から典型を見付け把握した。浙江省西南部の立ち遅れた淳安県楓樹嶺鎮下姜村を自分の連係スポットとし、二年足らずの間に五回も下姜村へ行き、自ら「省党委員会の政策の現場における効果を知る窓口」だとした。下姜村は山奥にあり、交通が不便で、県城まで六十キロ以上の山道を走らなければならない。調査・

研究に来るたびに、農家に入り、畑に立ち寄り、村民たちの声に耳を傾けた。二〇〇五年三月二十二日、習氏は同村の現場へ工事中のメタンガス備蓄池を見に行き、「三十数年前、私が農村の生産隊にいたときメタンガスの『専門業者』だったよ。今は各条件も良くなっているから、よく管理して、下姜村を全県のメタンガスのモデル村にしよう」と、村民と村の幹部にユーモラスに語った。

浙江省は人が多く、土地が狭い沿海に位置する省である。習氏は浙江省に来ると、すぐ同省の陸地面積の二・六倍に相当する青い海に視線を向け、何回も舟山群島へ調査・研究に赴いた。習氏は、「新世紀、新たな段階における浙江省が経済をさらに発展させる余地がどこにあるだろうか、それは海にあるのだ」と指摘した。二〇〇二年十二月、習氏は「海洋経済に強い省に発展させよう」と指示した。大量の調査・研究によるフィージビリティースタディーを経て、「海洋経済に強い省の建設に関する若干の意見」「浙江を海洋経済に強い省として建設するための企画要綱」などの文書を相次いで打ち出した。後に、同省の海洋経済は年平均一九・三パーセントの成長率で急速に伸長し、二〇〇五年、海洋経済の総生産額が同省ＧＤＰに占める比重は八パーセントに上った。

習氏は寧波、舟山港の一体化を推進し、舟山群島連結プロジェクトを建設し、省全体の港湾整備を加速し、「大いに進出」「大いに導入」のために条件をつくった。二〇一一年、国務院は舟山群島新区の設立を批准した。習氏の下で、建設当時、海をまたぐものとして世界最長となった橋・杭州湾大橋の建設が推進された。これは中国の海上大橋建設史上の里程標となり、さらに民衆から長江デルタを結ぶ「経済の橋」「急成長の橋」と称えられた。二〇〇六年、寧波・舟山港の年間の貨物取扱量は四億二千万トンに達し、全国二位、世界のトップ三に入った。

二〇〇三年には、「都市コミュニティー建設の理念で、農村の新コミュニティー建設を指導し、小康社会モ

デル村・鎮を建設しよう」「農村・都市の生活の質の格差を次第に縮小し、すべての人が現代文明を享受できるようにしよう」と提起した。ここから、浙江省は「千村をモデルに、万村を整備する」という活動を全面的に展開し、都市の公共サービスを農村にも拡大し、都市・農村の総合的な発展のための具体的工程計画を推進し、工業をもって農業を促進し、都市によって農村を牽引するというメカニズムが初歩的に構築された。二〇〇七年末までに、五年の建設目標を繰り上げ達成し、同省の三分の一の村が全面的に整備され、三分の二の村のゴミの統一的回収処理が実施された。多くの農民は、これは土地改革、家庭請負制度、農村税費改革に次いで、党と政府が農民のために行った最も好ましいことだと称えた。

トップとして在任中に、「四つの浙江」という目標は徐々に実現した。二〇〇五年、浙江省のエコ環境状況指数は全国の省・直轄市・自治区で一位となった。二〇〇六年、市民の安全感満足度は九四・七七パーセントに達し、浙江省は全国で最も安全感のある省の一つに数えられた。二〇〇六年、浙江省の持続可能な発展能力は上海、北京、天津に次いで全国四位となった。浙江省は全国に先立って貧困県、貧困郷・鎮のすべてが貧困脱出の目標を達成した。同省のＧＤＰは二〇〇四年に一兆元の大台に乗り、二〇〇五年の一人あたりのＧＤＰは三千ドルを突破し、二〇〇六年には四千ドルに近づいた。

二〇〇七年、危機に直面していた上海に赴任した。一カ月後、民生、発展、上海万博、反腐敗などをめぐって、一瞬も止まることなく調査・研究を展開した。幹部と広く話し合い、広範な民衆の意見に耳を傾け、上海市第九回党大会を招集し、上海の局面を安定させ、幹部と民衆の精神を奮い立たせ、上海の面目を一新させ、上海のその後五年の発展のために新たな青写真を描いた。

「県の党委員会書記であれば、管理下のすべての村を、地区クラスの市の党委員会書記であれば、管理下のすべての郷・鎮を、省の党委員会の書記であれば、管理下のすべての県、市、区をくまなく回らなければならない」。

自分で語った通り、正定県在任当時、すべての村を回り、寧徳では、着任後わずか三カ月で九県を回り、さらにほとんどの郷・鎮を回った。浙江省でも、一年余で同省の九十の県、市、区を回り、上海に勤務したわずか七カ月の間に同市の十九の区、県を回った。中央に来てからは、全国三十一の省・自治区・直轄市に足を運んだ。

「自分がよく過ごしたければ、必ず人もよく過ごさせなければならない」

習氏はこのほど中国に駐在している外国人専門家代表と会見した際に次のように語った。「中国は責任を持つ国であり、自らのことを適切に処理するように努めると同時に、中国と外部世界の関係を適切に処理することを願い、さらに有利な外部環境を獲得し、自らを発展させ、また、世界の平和と発展のためにより大きく貢献する努力を重ねている」

「中国はもっとよく世界を理解することが必要であり、世界ももっとよく中国を理解する必要がある」。地方にいた時も中央に来てからも、習氏は対外交流事業を非常に重視し、国際的な友人と広く交流してきた。地方勤務時代、五大陸六十余りの国・地域を訪問し、多くの海外来賓を受け入れてきた。中央に来てからは、いつもできる限り来訪した外国賓客と会見し、五年足らずで、五大陸の四十余りの国・地域を訪問し、世界の各界人士と幅広く接し、友好交流を行ってきた。

習氏は誠実、率直に、外国の各界人士に対して、中国人民がどのように自分の国を見ており、どのように現在の世界を見ているのか紹介し、同時に相手の見方に喜んで耳を傾け、相手の考えを理解しようと努めてきた。習氏と接したことのある多くの外国政界要人は、自信に満ち、実務に励み、英知に富み、友好的な指導者だと評価している。

外国各界人士にいつもこう話している。「国際社会は日増しに『あなたあっての私、私あってのあなた』とい

う運命共同体になっている。中国の持続的で急速な発展は世界の平和と発展から受益し、同時に世界各国に共同発展の貴重なチャンスと幅広い可能性をもたらし、双方とも相互尊重、実務的協力の中で互恵・ウインウイン、共同発展を実現すべきだ」

二〇一二年七月、清華大学で行った「世界平和フォーラム」において、さらに次のように指摘した。「ある国が自国の発展を追求するならば、他国の発展も図らなければならない。自国の安全を追求するならば、他国の安全も考えなければならない。自らがよく過ごしたければ、人もよく過ごさせなければならない」。シンガポールを訪問し、リー・クワンユー氏(六)と会見した際、こう指摘した。「国が強くなったら、必ずしも覇を唱えるわけではない。中国は平和的発展の道、互恵・ウインウインの開放戦略、永遠に覇を唱えないという宣言と約束を代々伝えていく」

「われわれは心を合わせて協力し、共に発展し、より平等で、バランスの取れた新型グローバル発展のパートナーシップを構築し、人類の共同利益を増やし、より素晴しい地球家族をいっしょにつくろう」。これはこれまで外国を訪問中に、繰り返してきたメッセージである。

二〇一二年五日間にわたる米国公式訪問で、二十七回の行事に出席し、オバマ大統領ら政界要人、財界、民間各方面の人々と全方位の交流を行った。中米双方が終始共同利益という大筋をつかんで、必ず大国間の相互尊重、協力・ウインウインの新型パートナーシップの道を歩んでいく――こうした中米関係に対する切なる期待は米国各界で積極的な反響を呼んだ。最近カーター元米国大統領と会見した際に、中米はプラスエネルギーを蓄積すべきだと強調した。

ロシアを訪問した際、中国が両国関係の発展を極めて重視していることを伝え、中ロの戦略的協力パートナーシップはすでに現在世界で最も重要で最も活力にあふれ、最も内包が豊かな大国関係であり、中ロ関係は終

始中国外交の優先方向であると語った。中ロ執政党対話メカニズム第二回会議の開幕式に出席し、ロシア各党派の首脳と広範な掘り下げた交流をし、さらに中ロ関係の内容を豊かにした。

習氏は発展途上国との関係を強化し発展させることは、中国の対外政策の出発点かつ立脚点であると考えている。南アフリカで、中国・南アフリカ二国間委員会第四回全体会議に出席し、南アフリカと二国間協力に関する素晴らしい青写真を描き上げた。中国・アフリカ協力フォーラム設立十周年シンポジウムで、「気持を語り、危難を語る中に真情が見えなければならない」と強調した。サウジアラビアを訪問した際行った講演の中で、「より繁栄し開放された中国は中東、湾岸地域の国々に必ず大きな発展のチャンスをもたらす」と語った。チリを訪問した際の講演で、中国とラテンアメリカ地域は政治、経済、人的・文化的交流、国際実務という四つの面でパートナーとなるように努めるべきだと呼び掛け、中国・南アメリカ関係の今後十年間の発展の青写真を描き上げた。

国際舞台で世界の人々に対して、実務的で高効率という習氏の一貫した執務姿勢を示してきた。イタリア統一百五十周年記念行事に出席したわずか一日の間に、二十数カ国・国際機関の指導者と友好的に交流した。ドイツなど欧州五カ国を訪問した際には、五つの経済貿易協議調印式に出席し、六つの経済貿易フォーラムに参加し、各国と九十三の各種協力協定の調印を促進し、その総額は七十四億ドルに達した。

文化は人類が共同で創り出した精神的な富だが、習氏は世界の文化的交流の強化による調和の取れた世界の建設推進を重視している。習氏は二〇〇九年、ドイツのメルケル首相とフランクフルトブックフェアの開幕式に出席した際に次のように語った。「異なる文化の相互交流を通じてこそ、異なる国の人々は中国の孔子、ドイツのゲーテ、イギリスのシェイクスピアを知ることができる。世界文化のよりいっそうの交流推進は、人類の進歩と世界の平和的発展を推進する原動力である」。また二〇一〇年にロシアを訪問した際、プーチン大統領と

共にクレムリンで行われたロシアの「中国語年」行事の開幕式に出席し、「文化は交流によって豊かになり、心は交流によって通じ合い、友情は交流によって深まる」とあいさつした。

習氏は中国文化の知恵を生かし、誠実、率直に、生き生きとしユーモアに富む言葉で道理を分かりやすく語り、疑惑を消し去ることに長けている。米国訪問中、「従う前例がない」中米関係について、習氏は「道はどこにあるのか、道は足元にあるのだ」という言葉で中国指導者の自信と迫力を表した。中国の人権の状況に関する質疑に対し、人権問題において、世界各国で「最も良いはなく、より良いしかない」と、率直に指摘した。また、各国の国情は異なるため、歩む道も異なり、「靴が足に合っているかどうかは、靴を履いている本人しか分からない」というイメージ豊かな言葉で説明した。

国の交わりは民の相親しむに在り。習氏はいつも、国と国との友好的基礎がしっかりしているかどうかのカギは人民の間の友情が厚いかどうかによると語っている。外交部の随行職員に、「生命は運動にあり、外交は活動にある。中国の外交官はもっと海外に出かけ、広く友人をつくり、深い交流を行うべきだ」と、ユーモアたっぷりに語った。

ラオスを訪問した時、わざわざ時間をつくってラオスの元指導者キニム・ポルセナ氏の子孫と会見した。キニム・ポルセナ氏の多くの子供たちはかつて北京で暮らし勉強したことがある。習氏は彼らと少年時代、「北京八・一学校」でいっしょに勉強したことを楽しくふり返り、その中のサマナ氏の当時のあだ名が「チビデブ」だったことさえ覚えていた。みんなで心の底から大笑いし、サマナ氏は「そこまで覚えて下さっているとは思いませんでした」と感激していた。

米国訪問時、習氏は特に時間を作って、アイオワ州・マスカティンへ行き、二十七年前に交流のあった友人の家に行き、当時の十数人の古い友人と共に、お茶を飲みながら語り合い、暖炉の火を囲み、膝を交えて話し、

一九八五年、習氏が視察団を率いてここを訪問した時のことを振り返り、みんなのその後の人生、地方協力強化、人民の友情深化などを話題に、時間が過ぎるのも忘れて交流した。

ロシアを訪問した時、習氏は特に四川省の汶川大地震の被災地の小中学生を受け入れ療養させてくれた「海洋」全ロ児童センターへ赴き、そこのスタッフに心からの感謝の意を表した。

アイルランドを訪問した時、サッカーが好きな習氏は運動場で、「人をうならせる」「ロングシュート」を決め、。米国を訪問した時には、プロ・バスケットボールの試合を見に行ったことと結びつけ、メディアに「親しみのあるイメージを極めて上手に伝えた」と称えられた。

……

「習氏が世界に示すことに成功しているのは、個人的な風格や気概だけでなく、まさに中国のイメージと魅力である」と、海外のあるメディアはその外交姿勢を評価した。

「清廉潔白な人となること」

習氏の父・習仲勲氏はかつて中国共産党と国家の指導者の一人で、二十一歳そこそこで陝西・甘粛辺区政府主席に就任し、毛沢東から「民衆から出た民衆のリーダー」と称された。一九六二年から十六年間も冤罪を負わされたが、終始逆境に頭を下げず、勇気を持って真理を堅持し、連座した同志のために義理を欠かさず、事実真相をはっきりさせた。「文化大革命」が終わった後、すべての事業が復活を待っていた時期の初期に、習仲勲氏は改革開放の最前線の広東省党委員会の第一書記に任じられ、進歩的、開放的で、実務に励む執務態度によって、広東省のために、「血路を切り開き」「先頭に立って一歩を歩みだし」、経済特区の設立と後の広東の発展の基礎作りに重要な貢献をした。

母親の斉心夫人も老幹部、古参党員の一人で、今は九十歳近い。習氏は非常に母親思いである。時間があると、母といっしょに食事をし、母親の手を引いて散歩し、世間話の相手をしている。

習家には、子供を厳しく育て、勤勉に家事を切り盛りするという家風がある。習仲勲氏は、党の高級幹部として、党風を正すためには、まず自らから、自らの家族からしなければならないと考えていた。親に厳しく育てられたおかげで、習近平氏の暮らしぶりはつましく、小さい時、弟と二人でよく姉が着た服を着て、履いた靴を履いた。習近平氏が指導者になってから、母は家族会議を開き、身内の者が習氏の管理する分野でビジネスをしてはいけないと言い渡した。親の育て方に影響され、習氏もこの家風を引き継ぎ、家族に対し非常に厳格である。指導者になってから、勤務が替わるたびに、必ず家族、親戚、親しい友人たちに「私の働いているところで一切のビジネスをしてはいけない。どんなことがあっても、私の旗を振りかざしてはいけない。そうでないと親戚とは認めないことにするが、責めないでほしい」と忠告した。福建省、浙江省、上海市時代に、どこの幹部大会でも、誰であろうと、習氏の旗を振りかざし、私利を謀ってはならないし、みなの監督を歓迎すると、厳粛な態度を表明した。

習氏の妻・彭麗媛は中国で誰もが知っている著名な歌手であり、オペラ演出家である。一九八〇年、山東省代表団を代表し北京にやって来て公演し、『包楞調（ボウレン節）』『我的家郷沂蒙山（私の故郷沂蒙山）』という歌で、北京の音楽界を驚かせた。彼女は中国初の民族声楽修士の学位を取得した中国現代民族声楽の代表人物であり、中国民族声楽派の創設者の一人である。彼女の代表作品の『在希望的田野上（希望の野原に立って）』『父老郷親（故郷の皆さん）』『我們是黄河泰山（われわれは黄河、泰山）』『江山（山河）』などの歌は、人々に広く好まれている。

彭夫人は何度も国家レベルの声楽コンテストに出場し、何回も「グランプリ」「金メダル」を獲得し、さらに「中

国ゴールデンレコード賞」「国家オーディオ大賞」なども手にした。
　前後して大型民族オペラ『白毛女』『悲愴なる夜明け』『党の娘』『木蘭詩篇』などに主演し、演劇のグランプリ第三回「梅花賞」、文化部の「文華賞」を受賞した。
　歌を歌い始めて以来、終始人民大衆の中に根を深く下ろして芸術創作をし、また感情を込めて作品を人民大衆に捧げてきた。全国で「徳も芸も兼備」という栄誉称号を獲得した人民の芸術家として、いつも「木がいかに高くなっても根を忘れてはいけない」と芸術家と民衆との切っても切れない関係を形容している。「人民が私を育ててくださったので、私のすべての才能を人民に捧げてこそ、はじめて養育の恩に報いられる」といつも言っている。
　三十数年来、数百回も現場に赴き広範な大衆のために慰問公演を行ってきた。貧困な山地から辺境の沿岸守備部隊まで、油田、鉱山から兵舎、歩哨小屋まで、辺境の砂漠から雪に覆われた高原まで――全国各地に彼女の足跡が残され、彼女の歌声が今でもこだましている。四川省の汶川大地震の被災地で、北京・小湯山の新型肺炎（ＳＡＲＳ＝重症急性呼吸器症候群）との戦いの最前線で、江西省・九江の洪水と戦う最前線で、いずれも彼女が慰問公演する姿を目にすることができた。
　中国の民族声楽と民族オペラを世界へ普及させるため、一九九三年、彼女は率先して海外へ赴き、シンガポールで個人コンサートを開き、また何度も中国を代表し世界各地を訪問公演しており、足跡は五十数カ国・地域に及び、中国の「文化大使」として世界でよく知られている。主役を務め普及に努めていたオペラ『木蘭詩篇』は米国ニューヨークのリンカーンセンターとオーストリアのウィーン国立歌劇場という二つの芸術の殿堂に登場し、リンカーン芸術センター委員会から「最も傑出したアーティスト賞」を、オーストリア劇場委員会とウィーン国立歌劇場からは「芸術傑出貢献賞」を受賞した。

現在は舞台公演から芸術教育へ次第に身を転じ、若い優秀な人材の育成と優れた芸術作品の創作に力を入れている。

長い間、公益事業に力を注ぎ、世界保健機関（ＷＨＯ）の要請で結核とエイズ撲滅親善大使を務め、中国でも「エイズ予防宣伝員」「禁煙イメージキャラクター」、青少年犯罪予防の「明日のための思いやり大使」を務めている。このほど、北京で二〇一二年世界エイズデーのＰＲ活動に参加し、エイズ孤児たちから親しみを込めて「彭ママ」と呼ばれている。

習氏と彭夫人は一九八六年に一目ぼれで結婚した。結婚後、二人はそれぞれ自らの仕事で忙しく、いつもいっしょには暮らせなかったが、互いに理解し合い、共に助け合い、精一杯相手に気を配っている。彭夫人は軍の歌手として、地方での慰問公演によく出かけた。夫の習氏はいつも気を配り、条件が許せば、たとえどんなに遅くても、毎日には二、三カ月も家を留守にした。辺境の困難な任務に就いている部隊に赴く場合が多く、時少なくとも一回は電話をかけ、互いに無事であることを伝えてからはじめて安心して眠りに付いた。こうした生活を数十年来続けてきた。毎年大晦日には、彭夫人はいつも中央テレビ局の『春節（旧正月）の夕べ』に出演し、地方勤務中だった習氏は北京に戻って年越しをしたが、必ず番組を見ながらギョウザを包み、彭夫人が出演を終えて帰宅するのを待って、ギョウザをゆでていっしょに食べた。彭夫人は習氏が「よき夫」で「よき父」であるといい、いつも夫を思いやり気を遣っている。夫と団らんできる日に、必ず家事を切り盛りし、さまざまなおいしい料理を作っている。

彭夫人からみれば、夫は一般の人と異なる人でありながら、普通の人でもある。習氏は陝西省、山東省の家庭料理が好きで、友人と集まると酒を飲み、みんなの座を盛り上げる。水泳、登山が趣味で、バスケットボール、サッカー、ボクシング観戦も趣味であり、時には深夜までテレビのスポーツ中継番組を見ている。

夫婦は娘に「明沢」という名前を付けた。「清廉潔白な人となり、社会に役立つ人になる」ことが娘に対する期待であり、それも彼らの質素な家風そのものである。

（新華社　北京二〇一二年十二月二十三日）

〔注〕

〔一〕本書中の「中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて第十八回党大会の精神を学習・宣伝・貫徹しよう」の注〔一五〕を参照。

〔二〕「全国両会」とは、全国人民代表大会全体会議と中国人民政治協商会議全体会議の略称。

〔三〕本書中の「中華民族の偉大な復興という中国の夢を共に実現する」の注〔五〕を参照

〔四〕八八戦略とは、二〇〇三年七月、中国共産党浙江省委員会第十一期第四回全体（拡大）会議で提起された浙江省の発展の八つの優位性を生かし、未来に目を向ける発展措置八項目のことを指す。主な内容は以下の通りである。浙江省の体制メカニズムの優位性をさらに生かし、公有制を主体とする多種類の所有制経済の共同発展を大いに推進し、社会主義市場経済体制を絶えず整備する。浙江省の地域的な優位性をさらに生かし、すすんで上海とリンケージし、長江デルタ地域の交流と協力に積極的に参加し、国内外への開放レベルを絶えず高める。浙江省ならではの特色をもつ産業の優位性をさらに生かし、先進製造業基地建設を加速し、新型工業化の道を歩む。浙江省の都市・農村の調和の取れた発展の優位性をさらに生かし、都市・農村の一体化促進を加速する。浙江省の生態の優位性をさらに生かし、エコの省をつくり、「グリーン浙江」を建設する。浙江省の山、海の資源の優位性をさらに生かし、海洋経済の発展に大いに力をいれ、立ち遅れている地域の飛躍的な発展を促し、海洋経済と発展の遅れている地域の発展が浙江経済の新たな成長ポイントになるように努める。浙江省の環境の優位性をさらに生かし、インフラ建設を積極的に推し進め、法律による管理、信用、機関の効能建設を着実に強化する。浙江省の人的・文化的優位性をさらに生かし、科学・教育による立省、人材による強省を積極的に促進し、文化的大

省の建設を加速する。

〔五〕長江デルタ、すなわち長江デルタ地域で、中国で重要な経済地域の一つである。主に上海市、江蘇省、浙江省を含む。

〔六〕リー・クアンユー、一九二三年生まれ。原籍は中国広東省の大埔。シンガポールの政治家、共和国の創設者、首相（在任期間一九六五～一九九〇年）。

索　引

あ

アジア太平洋経済協力会議 381
アジア太平洋自由貿易圏 390
アジアインフラ投資銀行 323, 329, 352, 391, 399
アジア金融危機 324
アジア相互協力信頼醸成措置会議 393
アジア太平洋地域 256, 283, 303, 381, 382, 384, 385, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 399, 507
「アフリカ人材計画」340
アフリカ統一機構 339
アヘン戦争 35, 187, 294
アメリカン・ドリーム 308
アラブ連盟 347, 399
愛国主義 35, 40, 56, 61, 62, 63, 178, 180
愛国統一戦線 41, 153
新しいタイプの戦略的パートナーシップ 336
新たな安全観 398
安全協力 378, 379, 393, 394, 395, 397, 398, 400
安全保障問題 282, 395
安定の中で変化を求める 251, 252

い

イノベーション駆動 392
イブン・バットゥータ 348
インターネットのセキュリティー 310
家和して万事興る 339
衣冠を正す 417
「一ベルト一ロード」145, 351, 352, 353
一国主義 311
「一国二制度」247, 249, 250
「一票でも反対があれば否決する制度」217
「色の革命」466

う

運命共同体 224, 260, 289, 300, 322, 325, 330, 337, 351, 366, 373, 390, 394, 498

え

延安整風運動 416

お

オバマ 308, 309, 498
汚職・腐敗 5, 17

欧州の一体化プロセス 313
欧州学院 311
欧米同学会 62, 65, 66
己の欲せざる所は人に施すなかれ 294

か

カザフスタン 283, 317, 393, 395
カリブ諸国 61
カルシウム不足 16, 53, 466
寡を患えずして、均しからざるを患う 107
科学技術が第一の生産力 132
科学技術体制 137, 138, 139, 386
科学的な執政 101, 114
科学的な発展 13, 15
科学的社会主義 22, 23
科学的発展観 9, 16, 22, 44, 53, 75, 79, 157, 159, 170, 232, 239, 242, 245, 273, 406, 414, 429, 448, 454, 481
科学的立法 159
華僑・華人 68
華羅庚 493
改革・革新 15, 40, 61, 102, 180, 193, 354
改革・発展・安定 14, 45, 74, 75, 100, 121, 225, 226, 330, 408, 435, 440, 447, 451, 462
改革の全面的深化 71, 76, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 87, 90, 94, 95, 96, 97, 99, 108, 110, 114, 117, 126, 193, 252, 253, 269, 349, 376
「改革の全面的深化における若干の重要問題に関する中共中央の決定」 76, 110
改革の難関突破 14
改革開放 4, 7, 9, 10, 12, 13, 22, 23, 24, 35, 39, 40, 41, 46, 47, 54, 55, 64, 65, 66, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 81, 82, 85, 88, 95, 100, 102, 105, 107, 110, 115, 122, 123, 125, 128, 131, 133, 150, 151, 153, 174, 209, 225, 274, 292, 342, 369, 381, 385, 386, 387, 391, 406, 407, 429, 447, 450, 451, 464, 477, 487, 501
開放型経済 123, 124, 362, 382, 386
開放型経済システム 386
開放型世界経済 372, 374
開放戦略 43, 61, 362, 376, 386, 399, 498
開放的発展 14, 303, 390
核テロおよび核拡散 282, 284
核心的利益 32, 275, 304, 319, 338, 339, 345
核不拡散 282
学習型、サービス型、革新型のマルクス主義執政党 405, 453
勧善懲悪 164
官僚主義 5, 43, 50, 78, 409, 410, 415, 436, 466
干戈を玉帛にかえる 293
環境汚染対策 232
甘英 348
甘祖昌 175

き

キクウェテ 335, 336
基礎的役割 82, 83, 127, 376, 386
基本経済制度 85, 386
基本公共サービス体系 386
基本綱領 13, 24, 79, 170, 430
基本的経験 13, 79
基本理論 13, 170, 430
基本路線 11, 13, 24, 79, 169, 430
「気風の優れた」245
絹の道 287
龔全珍 175
享楽主義 43, 50, 78, 409, 410, 415, 416, 431, 436, 466
共産主義 11, 16, 24, 25, 56, 170, 457, 464, 465
共産主義青年団 56
共通安全保障 367
共同富裕 4, 9, 14, 41
協力・ウインウイン 31, 43, 308, 312, 318, 323, 340, 342, 350, 360, 371, 394, 498
協力安全保障 367
協力的発展 14, 303, 346
強権政治 31, 295, 300
強国富民 303
兄弟心を同じくすれば、その利きこと金を断つ 266, 482
強農、恵農、富農 122
鏡を見て、衣冠を正し、身を清め、病を治す 416
鏡を見る 417
業績づくりプロジェクト 449
行政体制改革 128, 386
行政長官普通選挙 252
極東地域 306
勤勉節約 144, 191, 246, 403, 431, 492

く

グリーン型、循環型 235
グリーン産業 235
グリーン消費 235
グリーン都市 235
グリーン発展 124, 233, 390
「クリクン」409
クリシェンコ 305
グローバルガバナンスのメカニズム 365, 367
グローバルガバナンス体系 360
グローバル経済ガバナンス 375
釘を打つ精神 425
「九二年コンセンサス」264
空理・空論 36, 45, 61, 66, 117, 192, 447, 456, 491
空理・空論は国を誤り、着実な実践こそ国を興す 36, 45, 61, 447, 456, 491
国が大きくても戦を好めば必ず亡ぶ 293
軍隊に対する党の絶対的な指導 240, 243, 245
軍隊の革命化・現代化・正規化建設 240, 245

け
形式主義 5, 43, 50, 78, 409, 415, 416, 436, 457, 466
形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢浪費 50, 409, 415, 436
形式主義・官僚主義・享楽主義・贅沢浪費の風潮 78, 466
経済のグローバル化 110, 219, 302, 308, 360
経済一体化 329, 391, 392
経済構造の調整 127, 366, 367
経済発展パターンの転換 14, 87, 88, 366, 367, 369
血は水よりも濃い 262
権力を制度のオリに閉じ込める 429, 437
厳格な法執行 159
玄奘 288

こ
古代シルクロード 317, 318, 378
故宮博物院 286
胡錦濤 8, 24, 38, 39, 327, 406, 429, 477
五・四運動 183, 184, 185
五・四青年デー 183
五位一体 11, 232, 479
互恵・ウインウイン 43, 61, 268, 269, 275, 281, 319, 320, 329, 348, 349, 351, 361, 362, 366, 373, 376, 386, 389, 399, 498
互恵協力 318, 328, 329, 340, 361, 378
呉伯雄 258
公なれば明を生じ、廉なれば威を生ず 164
公のための立党 43, 407
公共外交 330
公共賃貸住宅 213, 214
公正な司法 154, 155, 159, 162
公平と正義 14, 41, 80, 105, 106, 107, 128, 162, 163, 164, 166, 276, 350, 359
公有制経済 42, 85, 86, 87
孔子 200, 202, 306, 499
康熙帝 136
抗日戦争 277, 305
江沢民 8, 24, 38, 327, 406, 429, 477
国家のガバナンス体系 99, 100, 101, 111, 114, 115, 116, 163, 166, 179, 223
国家のガバナンス体系とガバナンス能力 99, 100, 101, 111, 114, 115, 116, 163, 166, 179, 223
国家のガバナンス体系とガバナンス能力の現代化 99, 101, 111, 114, 115, 116, 163, 166, 223
国家のガバナンス能力 100, 101, 115
「国家のすべての権力は人民に属する」 479
国家の富強 39, 46, 51, 60, 63, 265, 303, 308
国家安全委員会 92, 93, 223, 224
国家核安全保障条例 283
国家核安全保障法体系 283

国際ロボット連盟 132
国際金融危機 300, 365, 372, 377, 399, 482
国際金融機関 361, 375
国際原子力機関 283
国際児童デー 199, 200
国際通貨基金 375
国政運営 1, 3, 13, 28, 152, 156, 157, 339, 349
国務院弁公庁 485
国有企業 86, 87, 403, 493
国有経済 85
国連 211, 235, 276, 277, 278, 280, 285, 311, 322, 342, 348, 352, 361, 380, 391, 399
国連安全保障理事会 380
国連安保理 276, 280, 311
国連教育科学文化機関 285
国連事務総長 276, 277, 278
骨軟化症 466

さ

サービス型政府 41, 493
サイバーセキュリティー 219, 220, 221
蔡元培 191
崔世安 249, 250, 251, 253
作風建設 406, 415, 424, 425, 436, 440
作風問題 440
三位一体 8
三厳 424
「三厳三実」424
三実 424
三中全会 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 99, 110, 111, 114, 117, 127, 138, 150, 193, 223, 253, 406, 464
「三通」254
「三歩走」(三段階の発展戦略)の戦略的布石 12
産業革命 132, 187, 285, 385

し

ジュネーブ・コミュニケ 350
シラク 288
シルクロード 287, 312, 317, 318, 320, 322, 323, 324, 329, 347, 348, 349, 350, 351, 354, 378, 379, 399, 509, 510
シルクロード精神 347, 349, 350
司法体制改革 155, 166
思想理論建設 437
指導核心 462
資源配置における決定的役割を市場に果たさせる 84
持続可能な安全 397
持続可能な成長 122, 373
持続可能な発展 84, 235, 277, 340, 366, 397, 480, 496
従うべき法がある 159
自由・平等・公正・法治 186, 200
自由貿易協定 388, 389
自由貿易区 312, 387
疾風に勁草を知る、烈火に真金を見る 468

実事求是 24, 26, 27, 95, 260, 406, 415, 419, 493
実践が真理検証の唯一の基準である 22
社会の活力の解放・強化 102
社会建設 9, 11, 12, 41, 236, 362, 480
社会主義 1, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 18, 22, 23, 24, 26, 27, 28, 31, 35, 36, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 51, 53, 54, 55, 56, 58, 60, 62, 64, 65, 66, 73, 74, 77, 78, 80, 82, 83, 84, 85, 86, 88, 89, 95, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 107, 111, 114, 115, 116, 122, 124, 126, 127, 128, 139, 150, 151, 152, 153, 154, 156, 157, 159, 160, 161, 162, 166, 167, 169, 170, 172, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 185, 186, 187, 188, 190, 193, 199, 200, 201, 203, 204, 209, 220, 223, 225, 232, 240, 242, 245, 294, 303, 342, 362, 369, 405, 407, 414, 430, 435, 437, 447, 451, 453, 454, 462, 464, 465, 466, 467, 470, 478, 479, 480
社会主義こそが中国を救う 7, 77
社会主義の栄辱観 437
社会主義の中核的価値観 47, 55, 170, 175, 179, 180, 181, 182, 185, 186, 188, 190, 193, 199, 200, 201, 203, 204, 220
社会主義現代化 6, 7, 8, 9, 11, 15, 22, 36, 39, 44, 45, 51, 54, 58, 60, 62, 64, 66, 88, 150, 151, 162, 174, 187, 294, 303, 362, 369, 405, 407, 430, 447, 451, 478
社会主義市場経済体制 82, 83, 84, 104, 127, 128
社会主義市場経済体制の優位性 84, 128
社会主義初級段階 11, 12, 24, 27, 480
社会主義法治国家 152, 154
社会主義法治精神 156, 161
社会主義法制の基本的原則 154
社会的生産力の解放・発展 102
社会的生産力を絶えず解放し発展させる 9
社会保障体系 386
主権・独立・領土保全の尊重 395
主要二十カ国・地域 361
朱善璐 183
周恩来 336
周文王 139
周辺外交 327, 328, 329, 331
習仲勲 482, 501, 502
集団主義 56, 178
循環型発展 124, 233, 390
所得分配制度改革 386
蕭万長 254, 255, 256
徐悲鴻 288
小康社会 6, 7, 8, 12, 13, 14, 15, 18, 22, 36, 39, 44, 45, 46, 51, 60, 62, 76, 88, 102, 130, 157, 159, 162, 177, 194, 209, 223, 231, 250, 294, 303, 348, 362, 369, 405, 447, 462, 478, 495

小康社会を全面的に築き上げる 13, 14, 18, 36, 45, 51, 60, 162, 194, 294, 348, 362, 369
少先隊 203, 204
省エネ・汚染物質排出削減 145
上海協力機構 319, 320, 377, 380, 398
「上海精神」 377, 378
新型大国関係 297, 308, 309, 310
新型都市化 384
新中国成立百周年 36, 45, 77, 162, 362, 405, 478
新文化運動 184
新民主主義革命 150, 183
真実を求め実務に励む 406
親民党 268, 269
人材の選抜と登用 463
人道的災難 350
人民の軍隊 243, 245, 246
人民の主人公としての地位 10, 13, 151
人民の主体的な地位 41, 107

せ

世界の潮流はとうとうと広く、それに従えば栄え、逆らえば滅ぶ 274, 295
世界的金融危機 324
世界反ファシズム戦争 277
世界保健機関 504
世界貿易機関 124, 382
世情、国情、党情 15, 22, 409, 451
成長の連動 373, 382
政治協商制度 41, 90, 153
政治建設 9, 11, 12, 41, 236, 240, 242, 362, 479
政治体制改革 90, 154, 166, 479
生産要素 82, 89, 123, 124, 130, 131, 132, 220
生態環境保護 93, 232, 233, 235, 386
誠心誠意人民に奉仕する 5, 29
斉心 502
贅沢浪費 43, 50, 78, 409, 411, 412, 415, 431, 436, 466
贅沢浪費の風潮 50, 78, 409, 411, 415, 431, 436, 466
節約励行 403, 432
冼星海 317, 318
戦闘ができ、戦闘に勝利できる 242, 243, 246
戦略的パートナーシップ 319, 322, 336, 349, 351
戦略的相互信頼 322, 330, 396
銭学森 63
善意をもって隣国に接し、隣国をパートナーとし 399
善隣友好 282, 293, 304, 323, 328, 369, 377, 380
善隣友好関係 282, 328
善隣友好協力 304, 323, 377, 380
全局を謀らぬ者は、一域を謀るに足りず 96
全国人民代表大会常務委員会 252
全人代常務委員会 490
全民法遵守 159

全面的な戦略協力パートナーシップ 304

そ

宋楚瑜 268
相互アクセス 323, 329, 387, 391
相互信頼 256, 258, 259, 269, 310, 318, 319, 322, 330, 353, 361, 366, 378, 396, 397, 398
相互信頼、互恵、平等、協力 330, 398
総合安全保障 367
荘子 200
孫文 265, 295

た

タンザニア 335, 336, 337, 341
多国間協力 357, 375
多国間主義 277
多党合作 41, 153
対外言語体系 178
「台湾独立」勢力 268, 269
大衆の中から大衆の中へという大衆路線 28
大衆的観点 29, 459
大衆的基礎 408, 436
大衆路線 17, 26, 28, 29, 30, 89, 108, 405, 407, 408, 414, 421, 422
第三次産業革命 132
第十一期三中全会 77, 78, 110, 150, 406, 464
第十五回党大会 83, 85
第十四回党大会 82, 83
第十七回党大会 13, 83
第十二期全国人民代表大会第一回会議 38, 245
第十二期全国政治協商会議第一回会議 134
第十二次五カ年計画 213
第十八回全国代表大会 3, 23, 44, 51, 73, 76, 104, 130, 149, 159, 175, 184, 231, 232, 239, 242, 245, 249, 302, 327, 369, 429, 481
第十八回党大会 3, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 22, 51, 73, 75, 76, 77, 81, 83, 105, 122, 152, 157, 232, 239, 242, 243, 274, 405, 407, 414, 415, 429, 447, 451, 453, 462, 481
第十八期三中全会 76, 78, 79, 95, 99, 111, 114, 138, 193, 223, 253
第十六回党大会 13, 83

ち

地域安全協力 394, 397, 398
地域協力 319, 320, 321, 323, 329, 365, 368, 370, 388, 390, 391, 399, 490
地域経済一体化 329, 392
地域経済協力 255, 329, 394
地域貿易協定 389
中ロ青年友好交流年 306
中ロ善隣友好協力条約 304
中央アジア 145, 286, 317, 318, 319, 379
中央企業 217

中央規律検査委員会 91, 429, 432, 439
中央軍事委員会 239, 240, 241, 246, 479, 481, 485
中央軍事委員会主席 481
中央軍事委員会弁公庁 481, 485
中央指導グループ 6, 7, 8, 24, 38, 76, 249, 327, 406, 429, 460, 477, 481
中華人民共和国 4, 30, 38, 40, 149, 154, 175, 236, 393
中華人民共和国の主席 38
中華文明 39, 40, 69, 174, 188, 199, 285, 287, 289, 293
中華民族 3, 4, 7, 8, 11, 12, 15, 22, 30, 33, 35, 36, 39, 40, 43, 45, 47, 48, 50, 51, 52, 54, 55, 56, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 68, 69, 77, 102, 116, 117, 124, 130, 133, 134, 139, 140, 151, 162, 172, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 199, 200, 201, 204, 223, 225, 231, 232, 235, 243, 250, 251, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 269, 273, 274, 287, 293, 294, 303, 308, 310, 327, 328, 330, 343, 348, 354, 369, 400, 403, 405, 429, 431, 435, 452, 455, 462, 477, 478, 479
中華民族の偉大な復興 3, 4, 8, 11, 12, 15, 22, 33, 35, 36, 39, 45, 48, 50, 51, 52, 56, 60, 62, 66, 68, 69, 77, 102, 124, 130, 133, 140, 151, 162, 174, 175, 176, 177, 184, 187, 204, 223, 225, 231, 235, 243, 250, 251, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 261, 265, 269, 274, 294, 303, 308, 327, 328, 330, 343, 348, 369, 400, 405, 429, 435, 452, 462, 479
中華民族の偉大な復興という中国の夢 39, 45, 50, 51, 52, 56, 60, 66, 69, 130, 162, 174, 175, 176, 204, 223, 225, 231, 251, 253, 254, 261, 265, 308, 327, 343, 348, 369, 400, 429, 435, 452, 462
中華民族の偉大な復興の夢 36
中華民族の偉大な復興を実現する 8, 12, 15, 22, 36, 60, 62, 102, 140, 187, 243, 255, 294, 303, 479
中華民族伝統の美徳 174
中国・ＡＳＥＡＮ自由貿易圏 323
「中国・ＥＵ協力二〇二〇戦略計画」 313
中国・アフリカ協力フォーラム 336, 499
中国・アラブ諸国協力フォーラム 347, 353
中国・アラブ諸国協力フォーラム第六回閣僚級会議 347
中国・ラテンアメリカ協力フォーラム 346
中国の国家主席 112, 299
中国の特色ある軍事変革 241
中国の特色ある現代的軍事力体系 241

中国の特色ある社会主義の偉大な旗印 6, 7, 8, 157, 170, 242, 245, 414
中国の特色ある社会主義の偉大な実践 9
中国の特色ある社会主義の道 6, 8, 9, 24, 31, 39, 48, 60, 74, 95, 115, 150, 151, 177, 342, 466
中国の特色ある社会主義の法則 6, 13, 232
中国の特色ある社会主義の理論体系 8, 9, 10, 16, 31, 242, 470
中国の特色ある社会主義事業 5, 10, 12, 13, 14, 15, 39, 42, 65, 80, 157, 169, 232, 435, 447, 453, 479
中国の特色ある社会主義制度 8, 9, 10, 85, 95, 99, 103, 111, 114, 115, 116, 150
中国の特色ある社会主義政治の発展の道 153
中国の夢 33, 36, 39, 40, 41, 42, 45, 46, 50, 51, 52, 53, 56, 58, 60, 61, 62, 66, 69, 124, 130, 162, 174, 175, 176, 177, 189, 194, 204, 223, 225, 231, 235, 251, 253, 254, 261, 265, 266, 274, 294, 303, 308, 327, 330, 343, 348, 354, 369, 400, 405, 407, 429, 435, 452, 462, 477, 478, 480, 492
中国共産党 3, 7, 8, 14, 22, 23, 26, 30, 36, 41, 43, 44, 45, 48, 51, 52, 53, 68, 73, 76, 77, 80, 104, 110, 111, 112, 114, 126, 130, 138, 149, 150, 153, 159, 162, 169, 175, 184, 201, 204, 231, 232, 239, 242, 245, 249, 252, 258, 265, 302, 327, 342, 369, 404, 405, 407, 414, 429, 436, 448, 451, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 491, 501
中国共産党員 8, 26, 265
中国共産党創立百周年 7, 36, 45, 77, 162, 405, 478
中国共産党総書記 477, 491
中国共産党第七期中央委員会第二回全体会議 436
中国共産党第十一期中央委員会第三回全体会議 150, 169, 448
中国共産党第十八回全国代表大会 3, 23, 44, 51, 73, 76, 104, 130, 149, 159, 175, 184, 231, 232, 239, 242, 245, 249, 327, 429, 481
中国共産党第十八期中央委員会第一回全体会議 3, 477
中国共産党第十八期中央委員会第三回全体会議 110, 114, 126, 252
中国国民党 258, 261
中国人民解放軍 42
中国人民武装警察部隊 42
中国留学人員連誼会 65, 66
中米の新型大国関係 308, 309, 310
中米戦略安全保障対話 310
張騫 287, 317
長江デルター体化 491

つ

常に深淵に臨むが如く、薄氷を履むが如し 470

て

低家賃住宅 214
低炭素型発展 124, 233, 390
鄭和 288, 348
鉄を打つには自らが強くなければならない 5
天下の憂えに先んじて憂え、天下の楽しみに後れて楽しむ 63

と

トップダウン設計 74, 96, 111, 117, 122, 138, 213, 351, 440
都市・農村発展一体化 88, 89
党が党を管理し、厳格に党を治める 43
党と人民大衆との血肉のつながり 17, 29, 75, 406
党の幹部路線 463
「党の指揮に従う」245
党の指導レベル 435, 445
党の先進性と純潔性 15, 405, 407, 408, 414, 429
党の大衆路線教育 17, 405, 407, 408, 414
党の大衆路線教育実践活動 17, 405, 407, 408, 414
党の第一世代中央指導グループ 8, 38, 327
党の第三世代中央指導グループ 8, 24, 38, 327, 406, 429
党の第二世代中央指導グループ 8, 327
党員としての修養、モラル建設 437
党建設 14, 15, 16, 43, 97, 429, 447
党性 16, 170, 437, 442
党性教育 437
党中央 8, 24, 38, 44, 50, 68, 77, 78, 80, 83, 130, 157, 170, 183, 193, 239, 240, 241, 246, 258, 327, 404, 405, 406, 414, 429, 430, 439, 442, 443, 450, 451, 452, 472, 477, 480, 481, 487
党八股 416
党風建設 406, 415
党風刷新・廉潔政治 17, 91
党風刷新・廉潔政治確立 17, 91
鄧小平 8, 9, 10, 22, 23, 24, 38, 44, 53, 75, 77, 79, 99, 102, 150, 157, 159, 170, 232, 242, 245, 273, 327, 406, 414, 429, 448, 454, 477
鄧小平理論 9, 22, 44, 53, 75, 79, 157, 159, 170, 232, 242, 245, 273, 414, 429, 448, 454
東南アジア諸国連合 322, 391, 398
徳による国家統治 436
独立自主 26, 30, 31, 274, 295, 318, 363
独立自主の平和外交政策 31, 274, 295, 318, 363
「虎」も「ハエ」も一緒にたたく 437, 439

な

内政相互不干渉 395
内生的動力 384

南南協力 368
南北格差 361, 370
南北対話 368
難関攻略 136

に
人間本位 13, 107, 171, 180, 224, 362, 384
二十一世紀海上シルクロード 322, 324, 329, 399

ね
ネット世論誘導 220

は
ハードランディング 382
バリューチェーン 373, 389
バンドン会議 348
覇権主義 31, 295, 300
「八項規定」414, 431
発展・安定の大局 226, 451
発展・刷新 372, 373, 382
発展こそ絶対的道理 479
反テロ活動 226
反テロ闘争 226
反腐敗闘争 78, 429, 430, 433, 435, 436, 439, 440, 441
潘基文 276, 277, 278

ひ
批判と自己批判 406, 418, 419, 421
非公有制経済 42, 85, 86, 87
非政府組織 325
一つの中国 256, 259, 264, 265, 269
「百年の大計は、教育にあり」211
貧困脱却扶助や生活困窮者支援 56

ふ
プーチン 299, 304, 306, 359, 372, 499
ブリックス（ＢＲＩＣＳ）首脳会議 359
ブルージュ 311
富強・民主・文明・調和 7, 12, 36, 45, 58, 60, 162, 186, 187, 200, 294, 303, 362, 369, 405, 478
富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家 7, 36, 45, 58, 60, 162, 187, 294, 303, 362, 369, 405, 478
「二つの基本点」11
「二つの必ず」416, 436
「二つの百周年」の奮闘目標 51, 69, 110, 124, 162, 176, 184, 194, 225, 253, 274, 276, 328, 330, 429, 435, 452
二つの揺るがない 86
腐敗の懲罰・予防システム 432, 437, 440
腐敗拒否・変質防止 430, 437
腐敗反対 241, 427, 430, 432, 433, 435, 436, 437
腐敗反対・廉潔提唱 241, 427, 430, 432, 433, 435, 436, 437
文化建設 9, 11, 12, 41, 176, 236, 362, 480
文化体制改革 176

文化大革命 101, 150, 482, 501
文化的ソフトパワー 172, 176, 177, 178, 179
文明の衝突 287
汶川大地震 305, 324, 337, 348, 501, 503

へ

ベスラン人質事件 305
平和・発展・協力・ウインウイン 31, 43, 308, 370,394
平和共存五原則 31, 274, 398, 399
平和的発展の道 31, 43, 61, 187, 258, 260, 264, 271, 273, 274, 275, 292, 293, 294, 295, 303, 308, 318, 329, 498
北京オリンピック 337, 482

ほ

博鰲（ボアオ）・アジアフォーラム 123, 125, 364, 388
保護主義 82, 124, 160, 300, 363, 365, 375, 382, 390, 431
包括的協力パートナーシップ 345, 346
法があれば必ずそれに基づき、法の執行を必ず厳格にし、法に違反すれば必ず追及しなければならない 160
法によって国を治める 147, 152, 154, 156, 157, 159, 161
法による行政 155, 157, 159
法による執政 156, 157, 159
法治国家 152, 154, 157, 159
法治社会 157, 159
法治政府 41, 155, 157, 159
法門寺 290
法律に基づく国家管理 41
法律に基づく執政 101, 114
彭麗媛 502
香港 42, 249, 250, 251, 252, 481, 482
香港特別行政区行政長官 249, 250, 251, 252
貿易と投資の自由化・円滑化 360, 392

ま

マクロコントロール 82, 83, 84, 121, 128, 376, 386
マルクス主義の中国化 9
マルクス主義の基本原理 27, 28
マルコ・ポーロ 288
澳門 42, 249, 250, 251, 252, 253, 481, 482
澳門特別行政区行政長官 249, 251, 253
末端大衆自治制度 41,153

み

「見えざる手」126, 129
「見える手」126, 129
身を清める 418
道・理論・制度への自信 31, 102
「三つの自信」189

「三つの勢力」319, 377, 378, 396, 400
「三つの代表」重要思想 9, 22, 44, 53, 75, 79, 157, 159, 170, 232, 242, 245, 273, 414, 429, 448, 454
南アジア地域協力連合 399
民間外交 65, 330
民主集中制 153, 416, 433, 442
民主諸党派 41
民主的な執政 101, 114
民族の復興 46
民族区域自治制度 153

む
無党派の人々 41

め
メキシコ 345
明沢 505

も
モスクワ国際関係学院 299, 306
孟子 200
毛沢東 8, 9, 26, 28, 29, 38, 170, 189, 327, 336, 412, 414, 416, 436, 437, 454, 477, 501
毛沢東思想 9, 26, 170, 414, 437, 454

や
病を治す 416, 418

ゆ
ユーラシア経済共同体 319
ユーラシア大陸 311, 312
ユネスコ 285, 289
優勝劣敗 82

よ
四つの現代化 450
四つの風潮 409, 415, 416, 419, 439

ら
ラテンアメリカ 60, 61, 345, 346, 499, 515

り
利益の融合 329, 345, 369, 373, 382
李四光 135
両岸は家族のように親しみ合う 256, 261, 268
両岸関係 43, 254, 255, 256, 258, 259, 260, 261, 262, 264, 265, 266, 268, 269, 481
梁振英 249, 250, 251, 252
隣国と親しみ、隣国を安心させ、隣国を豊かにする 399

れ
歴史的特徴 18, 171, 462
廉潔と自律 417
廉潔政治文化 432
廉潔提唱 241, 427, 430, 432, 433, 435, 436, 437

連戦 261

ろ

「ロボット革命」132
呂玉蘭 493
魯迅 190, 193
労働者階級 45, 46, 47, 48, 50, 153
労働組合 48, 49
労農同盟 153
浪費反対 403, 432
老子 200, 306

わ

和して同ぜず 188, 289, 293, 312

ＡＰＥＣ 381, 388, 389, 391, 392
ＡＳＥＡＮ 322, 323, 324, 325, 391, 399
ＢＲＩＣＳ 359, 360, 361, 362, 363, 459
ＣＩＣＡ 393, 397, 398
ＥＡＥＣ 319
ＦＴＡ 387, 388, 390
Ｇ20 361, 372, 373, 374, 375, 376
ＧＤＰ 60, 104, 131, 292, 294, 302, 303, 312, 342, 362, 369, 373, 374, 383, 384, 393, 472, 495, 496
ＩＭＦ 375
ＯＡＵ 339
ＲＴＡ 389
ＳＡＡＲＣ 399
ＳＣＯ 319, 377, 378, 379, 380, 398
ＷＨＯ 504
ＷＴＯ 124, 382